岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第405集

新田（しんでん）遺跡発掘調査報告書

伊手川河川改良事業関連遺跡発掘調査

岩手県水沢地方振興局土木部
(財)岩手県文化振興事業団
埋蔵文化財センター

新田（しんでん）遺跡発掘調査報告書

伊手川河川改良事業関連遺跡発掘調査

序

本県には旧石器時代の遺跡を初めとする数多くの埋蔵文化財包蔵地が各地にあり、平成13年度の岩手県教育委員会のまとめでは12,000箇所を超えております。先人の残したこれらの埋蔵文化財を保護し、保存していくことは私たち県民に課せられた重大な責務であります。

一方、本調査の原因となりました河川改良事業を例にあげるまでもなく、現代社会を豊かにし、快適な生活をおくるための環境整備もまた県民の切実な願いであります。埋蔵文化財の保護・保存と地域開発という、相容れない要素を持つ事業の調和のとれた施策が今日的課題となっております。

財団法人岩手県文化振興事業団は、埋蔵文化財センターの創設以来、埋蔵文化財保護の立場に立って、県教育委員会の指導と調整のもと、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡について発掘調査を行い、その記録を残す措置をとってまいりました。

本報告書は、伊手川河川改良事業に関連して平成13年度に発掘調査を実施した新田遺跡の調査結果をまとめたものであります。

新田遺跡は、江刺市にあり、今回の調査により、縄文時代前期後半の集落跡が発見されました。県内ではこれまで発見されることが少なかった大木３～５式土器が比較的まとまっており、大形の土偶も出土しております。これまで調査のメスが入ることが少なかった地域でもあり、貴重な成果と思われます。

この報告書が広く活用され、斯学の研究のみならず、埋蔵文化財に対する理解の一助になれば幸いです。

最後になりましたが、これまで発掘調査及び報告書作成に御援助・御協力を賜りました水沢地方振興局土木部、江刺市教育委員会をはじめとする関係各位に衷心より感謝申し上げます。

平成14年９月

財団法人　岩手県文化振興事業団

理事長　合田　武

例　言

1．本報告書は、岩手県江刺市伊手字御堂33番地４ほかに所在する新田遺跡の発掘調査の結果を収録したものである。

2．今回の調査は、伊手川河川改良事業に伴う事前の発掘調査である。調査は、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課と水沢地方振興局土木部の協議を経て、(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが担当した。

3．岩手県遺跡台帳に登録される遺跡番号はＮＥ09－1252、遺跡略号はＳＤ－01である。

4．発掘調査面積は、1,660㎡である。

5．発掘調査期間は平成13年４月19日～９月３日、整理期間は平成13年11月１日～平成14年３月29日、平成14年５月１日～６月28日である。

6．野外調査および室内整理は、金子昭彦、坂部恵造が担当した。

7．本報告書の執筆は、第Ⅰ章を水沢地方振興局土木部、それ以外を金子が担当した。

8．遺物の分析・鑑定は次の方々に依頼した。
石質：花崗岩研究会（代表　矢内圭三）

9．報告書作成に当たり、次の方々に御協力・御指導いただいた（五十音順・敬称略）。
稲野裕介（北上市立埋蔵文化財センター)、熊谷常正（盛岡大学)、小林圭一((財) 山形県埋蔵文化財センター)、小林　克（秋田県埋蔵文化財センター)、齋藤邦雄（岩手県教育委員会)、酒井宗孝（花巻市教育委員会)、中村良幸（大迫町教育委員会）

10. 調査成果はこれまでに現地説明会資料や調査略報に発表してきたが、本書の内容が優先するものである。

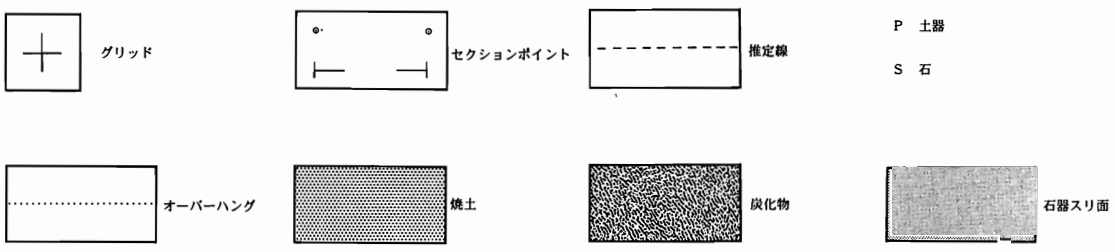
11. 本遺跡の調査で得られた一切の資料は、岩手県立埋蔵文化財センターが保管している。

12. 遺構等の平面位置は、平面直角座標第Ｘ系を利用している（座標値は第Ⅲ章参照)。

13. 土層の色調は、『新版標準土色帖』(農林水産省農林水産技術会議事務局監修　1990）を参考にした。

14. 凡例は、以下の通りである。また、脚注、参考文献はそれぞれの章、節の後に一括している。その他、第Ⅲ章を参照していただきたい。

凡　例



目　　次

序
例言

本文

Ⅰ．調査に至る経過……1
Ⅱ．立地と環境……1
　1．位置・地形・調査範囲……1
　2．基本層序と検出・出土状況……1
　3．これまでの調査と周辺の遺跡……4
Ⅲ．調査・整理の方法と経過……13
　1．調査の目的と結果の概要……13
　2．野外調査……13
　3．室内整理と報告書の作成……15
Ⅳ．遺構……17
　1．住居状遺構……18
　2．土坑・墓壙……18
　3．溝跡……40
　4．遺物包含層……40
Ⅴ．遺物……43
　1．縄文土器……43
　2．土師器……49
　3．土製品……49
　4．石器……50
　5．石製品……51
Ⅵ．考察……52

報告書抄録

図版

第1図　岩手県における遺跡位置図……2
第2図　遺跡位置図……3
第3図　周辺の地形……5・6
第4図　周辺の遺跡……11・12
第5図　遺構全体図……53・54
第6図　部分全体図……55
第7図　第1号住居状遺跡……56
第8図　第1号～第3号土坑……57
第9図　第4号～第7号土坑……58
第10図　第8号～第13号土坑……59
第11図　第14号～第16号土坑……60
第12図　第17号～第18号土坑……61
第13図　第19号～第20号土坑……62
第14図　第21号～第22号土坑……63
第15図　第23号～第24号土坑……64
第16図　第25号土坑……65
第17図　第26号～第27号土坑……66
第18図　第28号～第31号土坑……67
第19図　第32号～第34号土坑……68
第20図　第35号土坑……69
第21図　第36号～第37号土坑……70
第22図　第38号土坑……71
第23図　第39号～第40号土坑……72
第24図　第41号土坑、第42号～第45号土坑(1)…73
第25図　第42号～第45号土坑(2)、第46号土坑…74
第26図　第1号溝跡……75
第27図　西側遺物包含層断面……76
第28図　東側遺物包含層断面……77
第29図　第1号住居状遺構、
　　第1号土坑～第13号土坑出土遺物……78
第30図　第16号土坑～第23号土坑出土遺物……79
第31図　第24号土坑～第31号土坑(1)出土遺物…80

第32図　第31号土坑(2)～第38号土坑(1)出土遺物…81
第33図　第38号土坑(2)～第41号土坑出土遺物……82
第34図　第42号土坑～第46号土坑出土遺物……83
第35図～第111図　土器(1)～(77)……84～160
第112図～第115図　土製品(1)～(4)……161～164
第116図～第120図　石器(1)～(5)……165～169
第121図～第123図　石製品(1)～(3)……170～172

写真図版

写真図版１　遺跡遠景・調査区全景 ……175
写真図版２　調査前風景・調査区地形 ……176
写真図版３　第１号住居状遺構(1) ……177
写真図版４　第１号住居状遺構(2)・東端土坑集中区、
第１号土坑～第２、３号土坑(1) …178
写真図版５　第２、３号土坑(2)
～第４、５号土坑(1) ……179
写真図版６　第４、５号土坑(2)～第７号土坑 …180
写真図版７　第８号土坑～第９、10号土坑(1) …181
写真図版８　第９、10号土坑(2)～第11号土坑(1) 182
写真図版９　第11号土坑(2)～第12号土坑(1) ……183
写真図版10　第12号土坑(2)～第13号土坑(1) ……184
写真図版11　第13号土坑(2) ……185
写真図版12　第14号土坑～第17号土坑(1) ……186
写真図版13　第17号土坑(2)～第18号土坑 ……187
写真図版14　第19号土坑～第21号土坑(1) ……188
写真図版15　第21号土坑(2) ……189
写真図版16　第21号土坑(3)～第22号土坑 ……190
写真図版17　第23号土坑～第25号土坑(1) ……191
写真図版18　第25号土坑(2)～第26号土坑 ……192
写真図版19　第27号土坑～第30号土坑 ……193
写真図版20　第31号土坑～第32号土坑(1) ……194
写真図版21　第32号土坑(2)～第35号土坑(1) ……195
写真図版22　第35号土坑(2)～第36号土坑(1) ……196
写真図版23　第36号土坑(2)～第37号土坑(1) ……197
写真図版24　第37号土坑(2)～第38号土坑(1) ……198
写真図版25　第38号土坑(2)～第40号土坑 ……199
写真図版26　第41号土坑～第42号土坑(1) ……200
写真図版27　第42号土坑(2)・第43号土坑 ……201
写真図版28　第44号土坑～第45号土坑 ……202
写真図版29　第46号土坑・溝跡 ……203
写真図版30～32　遺物包含層(1)～(3)……204～206
写真図版33　遺物包含層(4)・近世の改変跡 ……207
写真図版34　柱穴状疑似現象・調査風景 ……208
写真図版35～81　土器(1)～(47)……209～255
写真図版82～98　石器(1)～(17)……256～272
写真図版99～100　土製品(1)～(2) ……273～274
写真図版101　土製品(3)・石製品(1)……275
写真図版102　石製品(2)……276

表

第１表　周辺の遺跡一覧表……8・9

Ⅰ．調査に至る経過

新田遺跡は、一級河川伊手川筋伊手地区河川局部改良事業の実施に伴い、その事業区域内に存することから、発掘調査を実施することになったものである。

本事業は、江刺市伊手地区において、高水時の田畑等への冠水を防ぐため、昭和63年度に着手されたものである。現在の工事区間では、伊手西部地区土地改良総合整備事業及び国道397号道路改良事業が同時に施工されており、三事業一体となって地区の社会基盤を整備し、より良い生活環境の確保を目指している。

Ⅱ．立地と環境

1．位置・地形・調査範囲（第１図～第３図）

新田遺跡は、岩手県内陸南部の江刺市に所在し、住田町に近い北上山中にある（第１図）。ＪＲ東北新幹線水沢江刺駅の西北西約９㎞、江刺市立江刺南中学校そばの国道397号沿いに位置し（第２図）、北緯39°10′25″、東経141°17′07″付近にある。

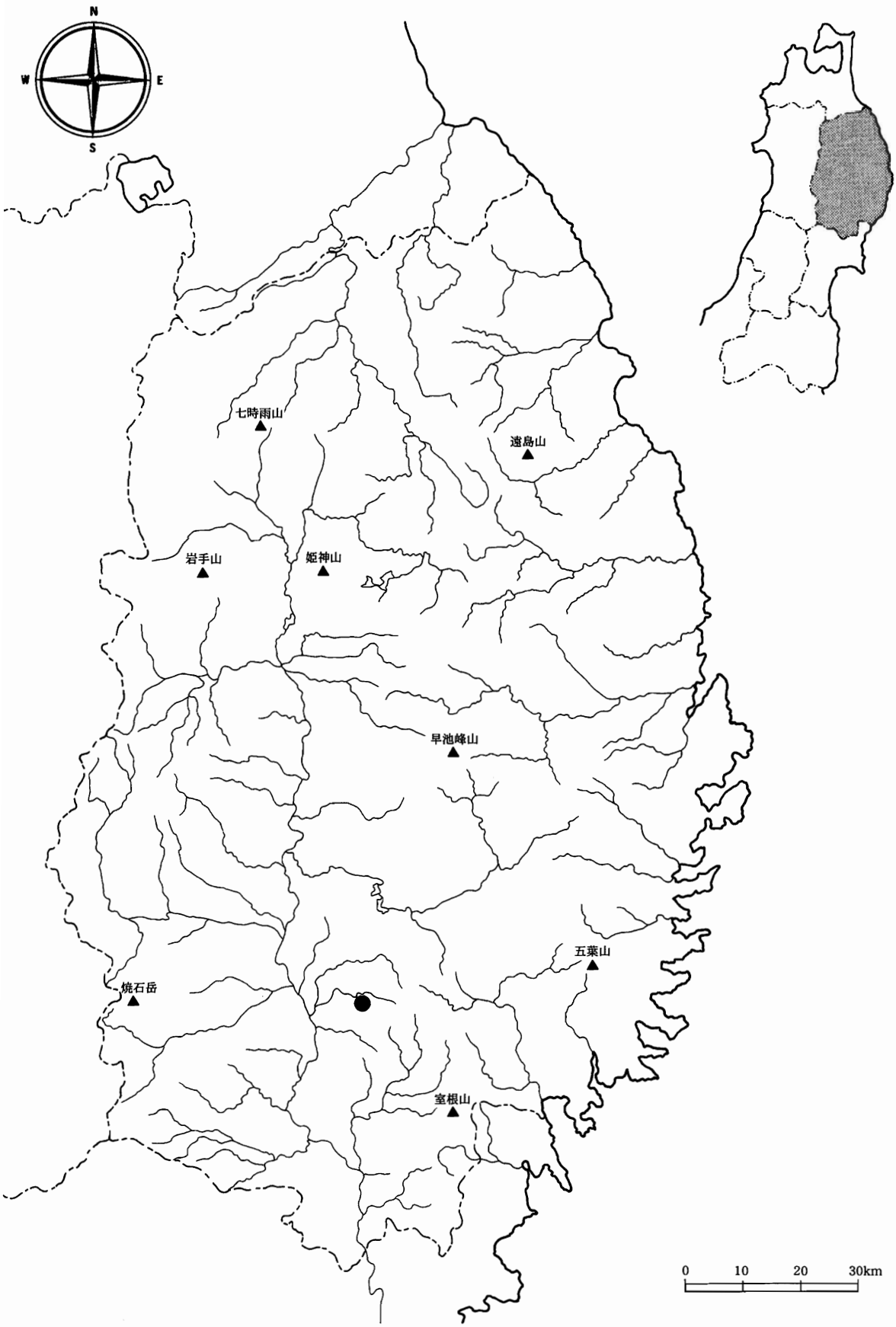
遺跡は、なだらかな丘陵状を呈する北上山地南部にある。北上山地から北上川に向かって伊手川が西に流れ、遺跡は、その伊手川に北面する河岸段丘上にあり、この段丘はそのまま南側の丘陵地に続くため、伊手川に向かって舌状に張り出す丘陵尾根状を呈している。地形の改変も受けているのだろうが極めて平坦で古くから宅地として利用されていたようである。遺跡の北側は比高差約10mの崖になっているが、東西は比較的なだらかに傾斜する。遺跡の東側は、川に向かって低平な傾斜地が続き比較的広い水田面として利用されている。ところが、遺跡の部分では南北の山が川に迫っているため、大雨の時にはこの水田に水があふれてしまう。そこで今回の河川改修ということになったようである。

今回の調査範囲は、遺跡北端で舌状尾根先端に当たる。河川改修後に川に沿って延びる道路部分に相当するようで、幅15m前後の細長い範囲である（第３図）。調査範囲の北側も工事範囲だが、急傾斜地であり遺跡の範囲から外れるとの判断からか、調査範囲からは除外され、調査開始時には既に河川改修工事により削られて断崖になっていた。調査範囲の北西隅も、試掘調査結果も併せての判断で同様に除外されていたが、遺物包含層が残っていたため調査開始後に追加になった（約200㎡）。現況は、中央が畑地、他は荒地である。

2．基本層序と検出・出土状況

（１）基本層序

基本層序は六層に分けられ、六層以下は確認していない。Ⅳ層以下は、本遺跡が河岸段丘に立地しているために地点によって地山が変異していることが大きく関係し、必ずしもこの順序に堆積しているわけではない。今回の調査区は、遺物包含層が残る北西部分を除き大きく地形の改変を受けており、特に東半部～南西部は表土下20㎝で地山という状態である。地形の改変は近世以降に行われたようで、詳細は第Ⅳ章冒頭参照。



第１図　岩手県における遺跡位置図（●印）

第２図　遺跡位置図（●印）（１:50,000　人首・陸中大原）

Ⅰ層　表土。層厚20～100cm。地形の改変を受けており地点によって大きく異なる。23Ｂ～Ｃグリッド付近(第５図)は削平された後、土が寄せられたため100cm前後の厚さがある。

Ⅱ層　黒褐色土(10YR3/1)シルト　層厚０～30cm。腐植土で脆い。元の表土と思われるが、遺物包含層部分にしか残っていない。

Ⅲ層　黒褐色土(10YR3/2)シルト　層厚０～80cm。遺物包含層で、詳細は第Ⅳ章参照（Ⅲａ～ｃ層、ＮＨⅡ～Ⅳ層に相当)。

Ⅳ層　黄褐色土(10YR4/6)シルト　層厚０～数cm。東部崖上の一部に見られる地山。

Ⅴ層　褐色土(10YR4/4)砂～砂質シルト　層厚約60cm。今回の調査範囲の基本的な地山で遺構検出面。砂礫層であるが、地点により大きく異なり、調査区東部の崖周辺では拳大の礫を多量に含み、崖下の東端ではほぼ砂層（グライ化している部分もある)。それ以外の地点では小礫を比較的多く含む。

Ⅵ層　にぶい黄褐色土(10YR4/3)砂　層厚不明。酸化した粗い砂を基本とし拳大の礫を多く含む。

（２）遺構の検出・遺物の出土状況

今回の調査区のほとんどは削平されていたため、遺構の検出は比較的容易であった。ただし、遺構の重複が著しく、溝跡以外はほぼ同じ覆土であったため検出面で新旧関係を捉えられたものはない。遺物包含層中で遺構の検出はできなかったが、少なくとも地山面まで掘りこんだ遺構はなく、包含層中にはもともと遺構がなかった可能性が高い。上述の地山のため、東崖上付近の土坑では**壁～底がわかりづらいもの**があった。

今回の出土土器は、平安時代の土師器片が２点出土した他は、縄文時代前期のみで、それも後葉に著しく集中し特異な出土状況と言える。前期後葉の土器は、遺構内、遺物包含層内から出土している。土坑に若干まとまりがあるものがあるが、時期が近いせいか地点差・層位差はあまり認められなかったようである。その他の出土遺物のうち時期推定が可能な土偶は、土器と同じと考えて良さそうである。

３．これまでの調査と周辺の遺跡（第１表、第４図）

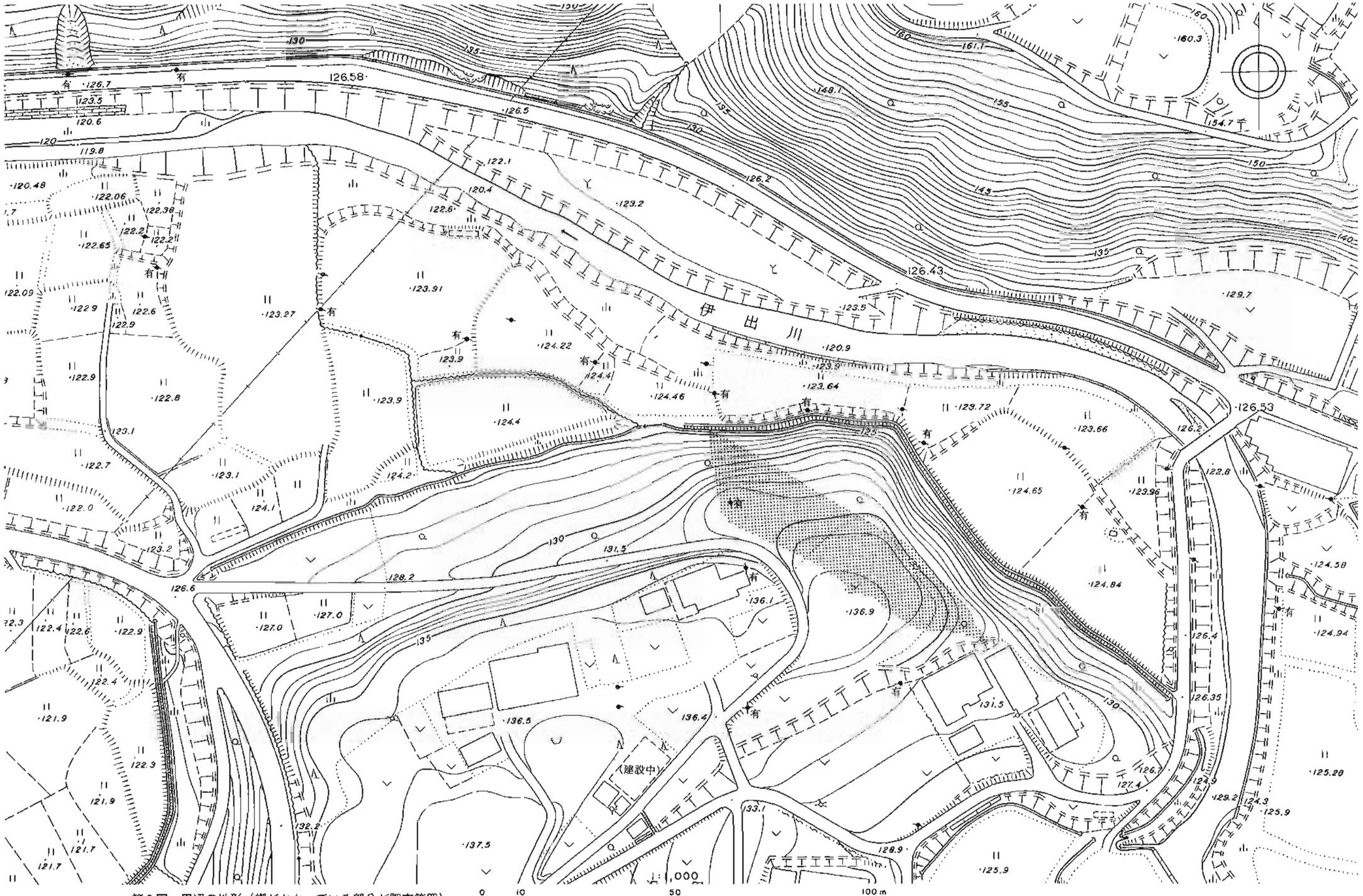
（１）これまでの調査

本遺跡は、これまで調査されたことがなく、今回の調査に先立って行われた岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課による試掘調査が始めてのようである。遺跡自体も、今回の調査原因となった事業に伴う事前の分布調査で新規に発見されたようである。分布調査は県教育委員会が行ったが、遺跡名は市の教育委員会が県の依頼で付けたものである。そこで、なぜ字名が「御堂」なのに新田遺跡なのか、県教育委員会を通じて照会してもらったが、不明とのことであった。

（２）周辺の遺跡（第１表、第４図）

岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課が作成している県の遺跡台帳・地図は、平成13（2001）年にＣＤロム化されたが、その際混乱があったのか江刺市内の遺跡は現在閲覧できる状態にない。また、本遺跡の周辺は北上山中ということで近年の開発が及ばなかったため発掘調査例がほとんどない。したがって、周辺の遺跡はよくわからない状態にある。

今回の調査で発見された遺構・遺物は、平安時代の土師器片が２片出土した以外は、いずれも縄文時代前期、それも後葉がほとんどを占める。岩手県南部の縄文時代前期後半には大木３～６式土器が分布するが、この時期の遺跡は県内では調査例が少なく、その実態はよくわかっていない。しかし、江刺市を含むいわゆ



第３図　周辺の地形（網がかかっている部分が調査範囲）

る胆江地区（金ヶ崎町、水沢市、胆沢町、前沢町、衣川村）の場合は、伊藤鉄夫、陽夫両氏の詳細な分布調査によって、ある程度知ることができ、その成果も公表されている（文献１、２）。特に、金ヶ崎町、胆沢町の場合は非常に多くの遺跡が押さえられている。さらに、金ヶ崎町の北に隣接する北上市は、開発が多く、また開発に伴う事前調査を古くから行っていたこともあって、該期の調査例も多い。そこで、この地域を中心に大木３～６式期の遺跡を見ていくことにする。極めて広い範囲で、周辺の遺跡という主旨からは外れるかも知れないが、実態が掴めていないこの時期の遺跡分布を把握することは十分意義あることと考える。

作成の元になったのは、当センターの図書室にあった文献である。古い市町村（特に胆沢町）の報告書は見ることができなかったので、落としがあるかも知れない。県内の該期の遺跡を概観すると、６式から顕著に増え画期になっていると思われるので、第４図では、３～５式を含む遺跡を●、６式以降のみの遺跡を▲と、分けて示した。土器片が５式か６式か迷った場合には６式と判断した。表に示した以外に、千厩町奥玉町下から完形に近い大木６式土器が出土している（文献81）。しかし、出土地点が特定できず県の遺跡台帳にも登録されていないので、今回は扱わなかった。

この結果を見ると、該期の遺跡は、地形の変化点、それも段丘縁に立地することが多く（文献82：p.13）、和賀川、胆沢川流域では特に顕著で線状に連続してみられる。これらの遺跡では礫石錘が顕著に出土する。比較的高い所に立地することが多いが、低位段丘にも見られる（78、79）。同時期の遺跡が近接して群をなし、それが点在分布することが多いようである。●と▲の遺跡に顕著な違いは見出せなかった。

参考文献（括弧内の数字は第１表の文献番号も示す）

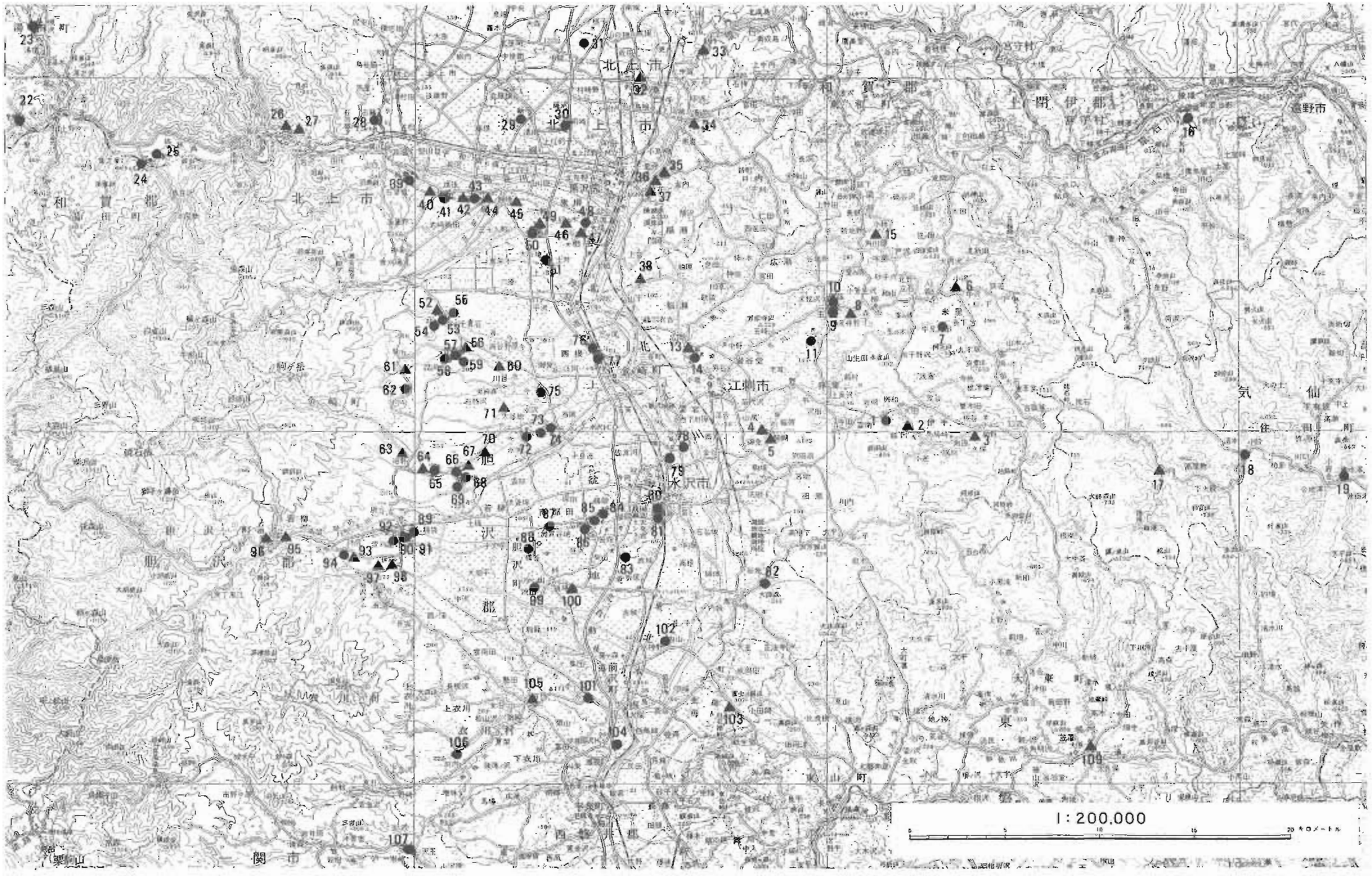
（１）法政大学文学部考古学研究室1990『法政大学所蔵　伊藤鉄夫・陽夫考古学資料目録Ⅰ－伊藤陽夫収集資料編－』
（２）法政大学文学部考古学研究室1996『法政大学所蔵　伊藤鉄夫・陽夫考古学資料目録Ⅱ－伊藤鉄夫収集資料編－』
（３）相原康二1981『江刺市史第五巻　資料編　考古資料』江刺市史編纂委員会
（４）(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2002『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報（平成13年度）』(第397集)
（５）佐藤浩彦1999「岩手県遠野市新田Ⅱ遺跡」『考古学ジャーナル』451ニューサイエンス社
（６）住田町史編纂委員会1997『住田町史第一巻　自然考古編』
（７）(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2002『小松Ⅱ遺跡発掘調査報告書』(第392集)
（８）(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1994『白木野Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡発掘調査報告書』(第200集)
（９）(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1993『塚野Ⅰ・塚野Ⅱ遺跡発掘調査報告書』(第199集)
（10）(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2001『清水ヶ野遺跡発掘調査報告書』(第351集)
（11）(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1996『耳取Ⅰ遺跡Ａ地区発掘調査報告書』(第232集)
（12）(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1996『耳取Ⅰ遺跡Ｂ地区発掘調査報告書』(第292集)
（13）(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1996『峠山牧場Ⅰ遺跡Ｂ地区範囲確認調査報告書』(第233集)
（14）(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1999『峠山牧場Ⅰ遺跡Ａ地区発掘調査報告書』(第291集)
（15）(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2000『峠山牧場Ⅰ遺跡Ｂ地区発掘調査報告書』(第320集)
（16）和賀町教育委員会1990『和賀町内遺跡分布調査報告書Ⅱ（山口・岩沢・仙人地区）』(第23集)
（17）(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1993『人当Ⅰ遺跡発掘調査報告書』(第193集)
（18）北上市教育委員会1993『蟹沢館遺跡発掘調査概報』(北上市埋蔵文化財調査報告第14集)
（19）(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1985『新平遺跡発掘調査報告書』(第91集)
（20）草間俊一1971「岩手県江釣子村新平遺跡」『日本考古学年報19（昭和41年度）』日本考古学協会編　誠文堂新光社
（21）岩手県教育委員会1982『東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書　ＸＶ』(第70集)
（22）江釣子村教育委員会1983『江釣子遺跡群－昭和57年度発掘調査報告－（鳩岡崎上の台遺跡・蔵屋敷遺跡）』
（23）(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1995『鳩岡崎上の台遺跡発掘調査報告書』(第240集)
（24）北上市史刊行会1968『北上市史第一巻　原始・古代（１）』
（25）(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1998『唐戸崎・唐戸崎Ⅱ遺跡発掘調査報告書』(第279集)
（26）北上市教育委員会1998『唐戸崎遺跡』(北上市埋蔵文化財調査報告第35集)
（27）(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1990『物見崎遺跡・監物館跡発掘調査報告書』(第157集)
（28）北上市教育委員会1985「高畑遺跡発掘調査報告」『北上市立博物館研究報告』５
（29）北上市教育委員会1995『横町遺跡発掘調査概報』(北上市埋蔵文化財調査報告第21集)
（30）(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1996『横町遺跡発掘調査報告書』(第236集)

第１表　周辺の遺跡一覧表　（（　）は出土地名で、遺跡名ではない）

No.	遺跡名	所在地	遺跡の性格・遺構・遺物	調査の有無	備　　考	文献
1	新田	江刺市	５ａ～6式期集落跡・土坑・前初～７ｂ式土器、土偶	報告遺跡		
2	大中田	江刺市	6～７ａ式土器？、玦状耳飾	セ今年度調査中		
3	(地の神)	江刺市	6～7式土器片？		地ノ神遺跡とは位置ずれる	1
4	(醍醐)	江刺市	6～７ａ式土器片	調査では出土せず	下醍醐遺跡に相当	2
5	(上醍醐)	江刺市	6～8ａ式土器片		醍醐寺跡に相当	1
6	野里	江刺市	6～７ｂ式土器片			1
7	(阿茶山Ⅰ)	江刺市	3式土器片？		県遺跡台帳相当遺跡なし	1
8	(元町)	江刺市	6～8ａ式土器片		県遺跡台帳相当遺跡なし	1
9	守林寺	江刺市	5～6式？土器片			1
10	(釜渕)	江刺市	「5、6式？」		県遺跡台帳相当遺跡なし	3
11	(大塚)	江刺市	「5、6式」		県遺跡台帳相当遺跡なし	3
12	(合ノ沢)	江刺市	５ａ式？土器片		県遺跡台帳相当遺跡なし	3
13	根岸	江刺市	6式土器片			2、3
14	宝性寺跡	江刺市	5～7式期集落跡・ロングハウス、墓壙、捨て場・玦状耳飾、ヒスイ装飾	セ今年度調査中		4
15	(落合)	江刺市	6式土器片		県遺跡台帳相当遺跡なし	1
16	新田Ⅱ	遠野市	2~4式集落、ロングハウス20環状・墓壙、貯蔵穴、道路跡？・玦状耳飾45点、カツオブシ形石製品	確認調査継続中		5
17	落合	住田町	6式土器片			6
18	館	住田町	3～5式期集落跡・ロングハウス	セ今年度調査中		4
19	赤畑	住田町	５ａ～５ｂ式土器片			6
20	小松Ⅱ	住田町	6～8ｂ式土器(6極少)	セH12年(2000㎡)	図幅外、東約4km	7
21	白木野Ⅰ	湯田町	土器埋設遺構(円筒下層ｄ式と6式との折衷)・6～７ａ式土器	セH4年(3,000㎡)	図幅外、西約2km	8
22	塚野Ⅰ	湯田町	1～3式土器片？	セH4年(7,755㎡)		9
23	清水ヶ野	湯田町	6式期集落跡・ロングハウス・5ａ～7ａ式土器、燕尾形石製品、玦状耳飾、礫石錘338点	セH11年(1,200㎡)		10
24	耳取Ⅰ	湯田町	5～6式期集落跡・住居4？・５ａ～6式土器	セH5,6年(34,300㎡)		11、12
25	峠山牧場Ⅰ	湯田町	円筒下層ｄ式埋設土器・礫石錘39(所属時期不明)	セH5,6年(43,000㎡)		14
	峠山牧場Ⅰ	湯田町	5~7ａ式？環状集落・ロングハウス、墓？・4土器、岩偶、燕尾、玦状耳飾、礫石錘566	セH8年(6,120㎡)	セH6年確認調査	13、15
26	人当Ⅲ	北上市	6式土器片			16
27	人当Ⅰ	北上市	6？式土器片	セH3年(400㎡)		17
28	蟹沢館	北上市	2ａ？~5式期環状集落跡・ロングハウス他住居、貯蔵穴、集石？・岩偶、燕尾形、カツオブシ形、玦状耳飾、礫石錘6、571点	市S63~H2年(？)	約3,000㎡？・調査時は町	18
29	新平	北上市	6～7ａ式集落跡？・フラスコ状土坑・4？～7ａ式土器、礫石錘7	セS59年(1,572㎡)	調査は他にS41年等3回	19、20
30	鳩岡崎	北上市	6~8ｂ？式期集落・ロングハウス、フラスコ状土坑多・5ｂ式土器、土偶、玦状耳飾	県S48~51年(？)	約5,000㎡？	21
	鳩岡崎上の台	北上市	6式土器片	村S57年(235㎡)	中期ほとんど・調査時は村	22
	鳩岡崎上の台	北上市	５ａ～8ｂ式期集落跡・ロングハウス、フラスコ状土坑多・礫石錘65点	セH5,6年(3,969㎡)	県調査より古い時期主	23
31	唐戸崎	北上市	5～8ａ式土器(前期極少)、礫石錘	セH9年(2,641㎡)	市の調査の際には前期出土なし	24～26
32	物見崎	北上市	6式？竪穴住居跡・6式土器、礫石錘	セH1年(1,945㎡)		27
33	高畑	北上市	6~7ａ式期集落跡・住居、フラスコ・5ｂ式土器、玦状耳飾、石剣、礫石錘	市S46年(トレンチ)		28
34	神行田	北上市	6～8ｂ式土器(6極少)			24
35	横町	北上市	5～７ａ？式集落跡・ロングハウス	市H4~6年(24,000㎡)		29
	横町	北上市	土坑3？・6～７ａ式器	セH6年(1,980㎡)		30
36	館Ⅳ	北上市	6式土器片	セH1~3年(8,952㎡)		31
37	館Ⅱ	北上市	6？式土器片	セH12年(400㎡)		32
38	樺山	北上市	6～8ｂ？式期集落・6式住居・土偶、玦状耳飾	市S42,43年他	市H1年(?)、H4,5年確認調査	33～38
39	石曽根	北上市	5～７ｂ式土器(前期少)、礫石錘50(所属時期不明)	セH1,2年(3,150㎡)		39
40	法量野Ⅰ	北上市	6～７ａ式土器片	セH2,3年(9,990㎡)		40
41	煤孫	北上市	6~7ａ式期集落跡・竪穴住居、フラスコ・遺物多、5式土器、土偶多、玦状耳飾、石剣、男根状石、礫石錘2,393点	セH2,3年(15,560㎡)		41
42	梅ノ木台地Ⅱ	北上市	6式土器	セH3年(3,890㎡)		42
43	梅ノ木台地Ⅰ	北上市	５ａ～７ｂ式土器	セH1,2年(9,000㎡)	県S50(2,000㎡)でも5式土器	43、44
44	岩崎城西	北上市	6式土器片	セH1年(5,550㎡)		45
45	岩崎台地	北上市	6式期住居、土坑？	セS63~H2年(15,047㎡)		46
	岩崎台地	北上市	6式土器片	S63~H3年(46,267㎡)	センター調査	47
46	鹿島館	北上市	6式土器？	市調査	今回報告書未見	48
47	丸子館	北上市	6式土器	市S47年(不詳)	滝ノ沢遺跡？	49、50
48	滝ノ沢	北上市	5~7ｂ式集落(5,7ｂ土器極少)？・遺物多、土偶、玦状耳飾、礫石錘2,600以上	市S52~H1,9年(？)	7,500㎡程度？・報告書Ⅳ未刊？	51～54
49	(成沢)	北上市	6式土器片		下成沢Ⅰと三十人町Ⅰ遺跡の間	2
50	成沢Ⅱ	北上市	5式？住居2？・土器小片	市H9年(2,000㎡)		55
51	(大谷地)	北上市	4？、５ａ～6式土器片		上大谷地遺跡の北西	2
52	千貫石Ⅰ	金ヶ崎町	6～8ａ式土器片			1

No.	遺跡名	所在地	遺跡の性格・遺構・遺物	調査の有無	備　考	文献
53	千貫石Ⅱ	金ヶ崎町	2b～3式土器片	町S48年(1,314㎡)		56
54	千貫石Ⅲ	金ヶ崎町	1、4、7a式土器・玦状耳飾	町S48年(1,908㎡)		56
55	(吉田沢西)	金ヶ崎町	5a～6式土器片、土偶		吉田沢遺跡の西	1
56	(和光北下)	金ヶ崎町	6式土器片		和光6区遺跡の北	1
57	和光6区	金ヶ崎町	6～7a式集落跡・住居2ほか・5a～b式土器、土偶、玦状耳飾、礫石錘5	セS59年(1,500㎡)		57、1
58	(光6区西)	金ヶ崎町	3?、6式土器片		和光6区遺跡の範囲内	1
59	(天ヶ森牧場)	金ヶ崎町	2a～3式土器片		天ヶ森遺跡に相当	1
60	(稲沢)	金ヶ崎町	6～7a式土器		少しずれるが稲沢遺跡?	1、2
61	(駒ヶ岳山麓D-1)	金ヶ崎町	6～7式土器片		潤沢奥遺跡に相当??	1
62	(駒ヶ岳山麓R3-2)	金ヶ崎町	1～3式土器片		県遺跡台帳に相当遺跡なし	1
63	(細野中の股)	金ヶ崎町	6式土器片		細野北遺跡のそば	1
64	(細野二ノ越戸橋西)	金ヶ崎町	6式土器片		県遺跡台帳に相当遺跡なし	1
65	(旧細野小学校西)	金ヶ崎町	5a～7式土器片		鳥ノ海西遺跡に相当?	1
66	鳥ノ海	金ヶ崎町	4～6式土器片			1
67	鳥ノ海東	金ヶ崎町	6～中期前半土器片			1
68	(女夫坂高橋宅付近)	金ヶ崎町	3?式土器片		県遺跡台帳に相当遺跡なし	1
69	(女夫坂松長根)	金ヶ崎町	3?式土器片		相当遺跡、古い遺跡台帳にある?	1
70	(野崎)	金ヶ崎町	6式土器片		少しずれるが野崎遺跡に相当?	2
71	上原	金ヶ崎町	6式土器片	町H5年(?)		58
72	平林後	金ヶ崎町	5b～6式土器片			1
73	(笹森東)	金ヶ崎町	1～3式土器片		笹森遺跡に相当	1
74	(不動沢)	金ヶ崎町	1～3式土器片		不動沢遺跡に相当	1
75	滑利	金ヶ崎町	5～7a式土器片			1、2
76	中荒巻	金ヶ崎町	6～7b式土器片	県S47、48、50年(3,000㎡)	文献1には5a式土器片掲載	59、1
77	(中荒巻東)	金ヶ崎町	4?、6～7a式土器		荒巻遺跡に相当	1
78	沢田	水沢市	5a、6?式土器片	セH5、6年(1,320㎡)		60
79	佐野原	水沢市	6式期竪穴住居跡・5a式土器?	セH9、10年(2,347㎡)		61
80	梨畑	水沢市	4?、5a～中期前半土器片			2
81	(大鐘)	水沢市	3?、4?、5a～6式土器片		県遺跡台帳に相当遺跡なし	2
82	(谷地)	水沢市	5～中期前半土器片		下長田遺跡に相当	1
83	中島	水沢市	2b～8a?式土器	市S38年(トレンチ)	土偶表採	62、1、2
84	浅野	胆沢町	6式期?住居2・5a?～7a式土器(5極少)	町S60年(約600㎡?)	土偶、玦状耳飾表採	1、2、64
85	片子沢	胆沢町	「4式前後土器片」			64
86	糀谷田	胆沢町	「4式前後土器」片			64
87	尼坂	胆沢町	4or5a式土器片	町H5年(793㎡)	前3次の調査では出土せず?	65
88	石行	胆沢町	4or5a式土器片	町H7年(550㎡)		66
89	宮沢原成沢	胆沢町	4式土器			1
90	(宮沢原D)	胆沢町	6式土器片		宮沢原遺跡の範囲内	64
91	(宮沢原E)	胆沢町	4?、6式土器片、5a式輪積土器		宮沢原遺跡の範囲内	1
92	萱刈窪	胆沢町	5～6式土器片、玦状耳飾、石剣			1、64
93	大清水	胆沢町	6式土器片	セH12年(9,120㎡)		67
94	大清水上	胆沢町	5a～6式期集落跡・ロングハウス、住居・土偶、玦状耳飾、礫石錘	町S58、59年(7,600㎡)	セの調査範囲に含まれる	68
	大清水上	胆沢町	5式期ロングハウスによる環状集落・墓壙?=土玉130点出土・6式土器、イチジク形土製品	セH12年～継続	対象24,000㎡のうち13,630済み	4、69、70
95	下尿前Ⅳ	胆沢町	6式土器片	セH8年(8,000㎡)		71
96	尿前Ⅱ	胆沢町	6式土器	セH11年(7,500㎡)		72
97	(上萩森北東下)	胆沢町	6～9式土器片		県遺跡台帳に相当遺跡なし	1
98	(萩森)	胆沢町	6～7?式土器片		萩森北遺跡に相当	1
99	恩俗長根	胆沢町	5b式土器片			64
100	(小山大畑)	胆沢町	6～7式土器片		大畑遺跡とは離れている	2
101	合ノ沢B	前沢町	5a、6式土器片			73
102	田高Ⅱ	前沢町	5b～7a式土器(6式主)、岩偶、玦状耳飾	町H8年(4,500㎡)		74
103	上木	前沢町	遺物包含層、フラスコ状土坑?・6式土器、土偶	町H11年(?)	報告書未刊?	75
104	照井館	前沢町	1～3式土器片			1
105	古戸	衣川村	6式土器片			76
106	本巻	衣川村	5a～6式土器片	セH10年(510㎡)		77
107	庄司合	一関市	6式期配石遺構?・5a～6式土器	市S34、46年	一次調査の結果未見	78
108	石蔵	一関市	「6式土器」		図幅外、南約1km	79
109	龍願寺	大東町	6～7a式土器片	町H10年(136㎡)		80

(31)(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1993『館Ⅳ遺跡発掘調査報告書』(第187集)
(32)(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2001『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報 (平成12年度)』(第370集)
(33) 岩手県教育委員会1952『江刺郡稲瀬村樺山遺跡調査予報』(第２集) ＜今回未見＞
(34) 岩手県教育委員会1954『江刺郡稲瀬村樺山遺跡調査報告』(第３集)
(35) 北上市教育委員会1968『北上市稲瀬町樺山遺跡緊急調査中間報告 (昭和42年度)』(北上市文化財調査報告第３集) ＜今回未見＞
(36) 北上市教育委員会1969『北上市稲瀬町樺山遺跡緊急調査報告 (昭和43年度)』(北上市文化財調査報告第７集)
(37) 北上市教育委員会1990『樺山遺跡 (1989年度)』(北上市文化財調査報告第59集)
(38) 北上市教育委員会1996『樺山遺跡 (1992・1993年度)』(北上市埋蔵文化財調査報告第25集)
(39)(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1992『石曽根遺跡発掘調査報告書』(第165集)
(40)(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1993『法量野Ⅰ遺跡・中屋敷遺跡発掘調査報告書』(第182集)
(41)(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1994『煤孫遺跡発掘調査報告書』(第196集)
(42)(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1993『兵庫館跡・梅ノ木台地Ⅱ遺跡発掘調査報告書』(第180集)
(43)(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1991『梅ノ木台地Ⅰ遺跡発掘調査報告書』(第162集)
(44) 岩手県教育委員会1981『東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書－Ⅸ－』(第58集)
(45)(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1990『岩崎城西遺跡発掘調査報告書』(第148集)
(46)(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1992『岩崎台地遺跡群発掘調査報告書』(第176集)
(47)(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1995『岩崎台地遺跡群発掘調査報告書』(第214集)
(48) 北上市教育委員会1975『鹿島館遺跡調査報告書Ⅰ』(北上市文化財調査報告第14集) ＜今回未見＞
(49) 北上市教育委員会1973『北上市丸子館調査報告書』(北上市文化財調査報告第12集)
(50) 岩手県立博物館1982『岩手の土器』
(51) 北上市教育委員会1983『滝ノ沢遺跡 (1977～1982年度調査)』(北上市文化財調査報告第33集)
(52) 北上市教育委員会1990『滝ノ沢遺跡Ⅱ (1989年度調査)』(北上市文化財調査報告第60集)
(53) 北上市教育委員会1991『滝ノ沢遺跡Ⅲ (1984・86・87・88・90年度調査)』(北上市文化財調査報告第63集)
(54) 北上市教育委員会1999『滝ノ沢遺跡Ⅴ (1997年度調査)』(北上市埋蔵文化財調査報告第40集)
(55) 北上市教育委員会1998『成沢Ⅱ遺跡』(北上市埋蔵文化財調査報告第32集)
(56) 金ヶ崎町教育委員会1973『千貫石・長根前遺跡』
(57)(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1987『和光６区遺跡発掘調査報告書』(第114集)
(58) 金ヶ崎町教育委員会1994『上原遺跡』(第31集)
(59) 岩手県教育委員会1981『東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書－Ⅹ－ (金ヶ崎地区)』(第59集)
(60)(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1996『沢田・仙人東遺跡発掘調査報告書』(第230集)
(61)(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1999『佐野原遺跡発掘調査報告書』(第327集)
(62) 草間俊一1971「第三編第三章　中島遺跡」『水沢の原始・古代遺跡』水沢市教育委員会
(63) 胆沢町教育委員会1988『浅野遺跡調査報告書』(第17集)
(64) 小原正治1981「第三章縄文文化時代」「第四章縄文文化時代の町内遺跡」『胆沢町史Ⅰ　原始古代編』胆沢町史刊行会
(65) 胆沢町教育委員会1994『尼坂遺跡－第四次緊急発掘調査報告書－』(第25集)
(66) 胆沢町教育委員会1996『石行遺跡』(第27集)
(67)(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2001『大清水遺跡発掘調査報告書』(第373集)
(68) 胆沢町教育委員会1985『大清水上遺跡調査報告書』(第15集)
(69) 佐藤淳一2002「大清水上遺跡－縄文時代前期後葉の環状集落－」『考古学ジャーナル』487ニューサイエンス社
(70)(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2001『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報 (平成12年度)』(第370集)
(71)(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1998『下尿前Ⅳ遺跡発掘調査報告書』(第269集)
(72)(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2000『尿前Ⅱ遺跡Ｂ地区発掘調査報告書』(第343集)
(73) 前沢町教育委員会1999『町内遺跡詳細分布調査報告書Ⅱ　前沢地区』(第８集)
(74) 前沢町教育委員会1997『田高Ⅱ遺跡発掘調査報告書』(第４集)
(75) 前沢町教育委員会2000『町内遺跡詳細分布調査報告書Ⅲ　生母地区』(第10集)
(76) 衣川村教育委員会1987『上衣川地区遺跡詳細分布調査報告書』(第２集)
(77)(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2000『上寺田遺跡・本巻遺跡発掘調査報告書』(第328集)
(78) 一関市教育委員会1977『庄司合遺跡発掘調査概要 (第二次調査)』(第10集)
(79) 遠藤輝夫1978「第二章　原始時代」『一関市史第１巻通史』一関市史編纂委員会
(80) 大東町教育委員会1999『龍願寺遺跡発掘調査報告書』(第22集)
(81)(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1986『考古遺物資料集』第６集
(82) 佐々木彰1983「遺跡にみる拡散化現象について」『法政考古学』８法政考古学会



第4図　周辺の遺跡

Ⅲ．調査・整理の方法と経過

１．調査の目的と結果の概要

県教育委員会の試掘調査では縄文時代中～後期の遺跡とのことであったが、試掘トレンチを入れた結果、縄文時代前期後葉の遺物包含層が検出され、大木５式土器も出土した。この時期の調査例は少なく土器型式の内容もはっきりしない部分がある。そこで、調査ではできるだけ層位的に遺物を取り上げて共伴関係を掴もうと考えた。遺構内では、この方針をほぼ実施できたが、重複している遺構が多かったため共伴関係は明確でない部分もある。遺物包含層では、既に調査予定期間を大幅に過ぎていて担当調査員が監督できなかったこと、さらに時期が比較的限られているためか包含層が単層に近く上下層は疎らに出土するに過ぎないという状態であったため、十分な成果を上げていない。

２．野外調査

初めに調査経過について、次に報告書を読む際心に留めておいていただきたい点について述べる。

（１）作業経過

調査面積は1,660㎡（当初予定1,460㎡）で、野外調査は平成13年４月19日(木)～９月３日(月)まで行われた（当初予定は６月30日まで)。

４月19日器材搬入。４月23～27日調査範囲に試掘トレンチを入れ、委託者に調査範囲西側の藪を取り除いてもらった。４月26日～５月１日に、試掘トレンチの結果に基づいてパワーショベルで表土を除去した。その間作業員は調査区東端の切株を除去している。

表土を剥いだ結果、遺物包含層が、当初の調査範囲を超えて西側に続き、さらに調査区中央では北端の崖際まで続いていることがわかった。県教育委員会の調整の結果、調査範囲が西側に拡張された（200㎡)。５月下旬のことである。また崖際も調査すべきということになり、その際の安全柵（足場）の設定を委託者にお願いした（足場は７月上旬に完成)。

５月７日から遺構の検出作業に東端から入り、18日までに調査区中央の平坦面まで終了した。以後、遺構の精査と並行して進め、６月下旬までに遺物包含層を除いて検出は終了した。その結果、西側斜面の上方やその周囲は思った以上に地形の改変があることがわかった（第Ⅳ章冒頭に詳述)。

７月上旬に西側包含層にトレンチを入れて概要を掴み、記録を取った後そのまま精査に入った。東側包含層は、足場の設定を待って７月下旬にトレンチを入れ、記録を取った後８月上旬に精査に入った。この間、調査区中央遺構の精査を先に終了し、排土置き場を拡張した。また、当初予定期間を過ぎ終了の目途も立たなかったため、担当課長補佐に７月中旬以降終了までほぼ毎日支援を受け、作業員の増加にも努めた。

８月上旬に西側包含層の精査を終了し、そのまま検出に入ったが遺構は検出されなかった。東側包含層も思ったより薄かったこともあって８月27日頃に精査を終了し、急斜面のせいか、こちらも遺構は検出されなかった。土坑の精査も８月29日には終了し、同日県教育委員会の終了確認を受けた。以後重機による埋め戻

し、器材の片づけ・水洗に入り、９月３日午前に器材を搬出して、調査の一切を終了した。

（２）特記事項

・グリッドについて

平面直角座標（第Ⅹ系）に合わせ、遺跡全体をカバーできるように、10×10mのメッシュをかけ、東西方向に西から１、２、３のアラビア数字、南北方向には北からＡ、Ｂ、Ｃのアルファベットを付し、１Ａ、１Ｂ等と呼称した（第５図)。これが大グリッドであり、24Ｃ、24Ｄの北西端の座標値は、24Ｃ（Ｘ＝－91,620.000、Ｙ＝39,030.000)、24Ｄ（Ｘ＝－91,630.000、Ｙ＝39,030.000）である。

各大グリッドを５ｍづつ四等分し、左上を①、右上を②、左下を③、右下を④とし、**１Ａ①グリッド**等と呼称した。これが中グリッドである。

遺物包含層等、さらに細かい区画が必要な場合は、大グリッドを２ｍづつ25等分し、大グリッド同様東西方向に西から１、２、３のアラビア数字、南北方向には北からａ、ｂ、ｃのアルファベットをつけ（第５図参照)、１Ａ１ａ等と呼称した。これが小グリッドである。

・調査条件について

調査環境のうち、気象以外の環境条件について。**土の硬さ**は、河岸段丘で地山が砂礫層のため硬く掘りづらく、大きな支障になっていると思われる。**遺構の重複**も著しく、調査の大きな支障になっていると思われる。排土置き場は、調査区中央南側の畑地を借地できていた。ところが、調査範囲が西側斜面まで拡張され、その排土の出し方が大きな課題となった。この場所には遺物包含層があるため排土の量が多く、またそれを斜面上まで上げなければならないからである。しかし、ベルト・コンベアーの導入が認められ、また狭い範囲ではあったが、西側斜面周囲の荒地を借地でき、ここにも排土を置くことができたため、それほど大きな支障にはなっていないと思われる。

・特に気象条件について

調査期間中は周期的に雨が降った。８月１日は集中豪雨で周辺地域では土砂崩れもあったが、調査区は土坑に水がたまっただけで大きな影響はなかった。８月23日も台風による大雨が降ったが、これも大きな影響はなかった。雨後の土坑内の排水に時間をとられたが、例年に比べ特に多かったわけでもなく、遺物洗浄用水の確保、土の軟化等のプラス面もあり、それほどの支障にはなっていないと思われる。

５月後半～６月上旬は、曇りの日が少なく、遺構断面の写真撮影の大きな支障になった。深い土坑が多かったからである。また分層の際も土がよく見えず、かなり余計な時間をとられてしまった。

７月前半は例年より暑い日が多く作業効率は落ちたが、７月下旬以降は「やませ」が吹き過ごしやすい日が続いた。そのため例年に比べ作業は大いにはかどり、この期間は丁度遺物包含層の精査にあたり体力勝負の時期だったので、天恵とも言える状況であった。調査期間中の気象は、５月後半～６月上旬以外は、調査に良い影響を与える方が多かったようである。

・調査員、作業員の構成について

調査員２名、作業員30名前後で野外作業を行った。調査員は１名が文化財調査員、他１名は期限付調査員である。作業員はほとんど全て初心者であったが、年齢層が若かったせいか飲み込みがとても早く、また熱心で、調査はかなりはかどった。それでも当初より調査面積が増加したことや予想より多くのものが出土したことで、予定期間では終了できなくなり、７月中旬以降担当調査課長補佐の援助をほぼ毎日受け、作業員も２～３名増員した。

・遺構の実測について

平面図は、時間が限られ、遺構も密で水糸メッシュを張りにくかったことから、簡易遣り方ではなく、大部分を光波トランシットによる測距を基に作成している（平板実測の測量の部分を光波トランシットで行ったのに相当)。そのためか断面図とうまく合わない部分があった。

・遺構の名称について

遺構名称については、野外では下記のように便宜的に作業順に名前を付け、報告時に全て付け直している。各遺構の種類ごと（土坑はさらに細分した類型ごと）に東から西に向かって番号を付けている。

住居状遺構→B○F、土坑→D○F、焼土→F○F、溝跡→G○F。○の中は番号が入る。

3．室内整理と報告書の作成

（1）作業経過

整理は、平成13年11月１日～平成14年３月29日、平成14年５月１日～６月28日、調査員１～２名（12月上旬までと５月以降は１名)、作業員約２～10名で行った（12月までは10名、１～３月２名、５～６月８名)。

出土遺物の水洗は、整理期間前にほぼ終了していた。11月１日～12月28日まで、遺物の接合・注記、報告書掲載遺物の選別を行った。１月～３月、実測、拓影作成、５月、実測の続き、拓本断面作成、６月前半、トレース、拓本合成、６月後半、図版、写真図版作成、収納。遺物の写真撮影は、この間、写真撮影専門の作業員によって、２月27日～３月29日まで行われた。

遺構については、調査員が行い、１月図面点検、土層注記の打ち込み、２月トレース。

原稿は、３月に遺構記載、５月に遺物観察表作成、６月にその他の執筆、割付を行なった。

（2）特記事項

・遺物の全体量と報告書掲載基準について

調査では、縄文土器(30×40×30cmのコンテナ)92箱、土師器２片、土製品30点、石器160点、石器製作時の剥片5,094.79ｇ、石製品は16点が出土した。掲載基準については、整理方針に後述（詳細は第Ⅴ章参照)。

・スタッフと整理方針について

３月までは、調査員１～２名と作業員２～10名で整理作業を行った。初心者が多かったが、若い方が多いせいか飲み込みが早く、またベテランの作業員がよく指導してくれたことから、作業ははかどったと思う。ただし、調査員の指示の悪さで、注記、復元、選別に細かなミスがあった。お詫び申し上げる次第である。５月以降は、調査員１名、作業員８名で行ったが、全員経験者であったため作業は大いにはかどった。

スタッフと整理期間を考慮して、次のような整理方針を立てた。第一に、遺物は土器以外は点数が少ないので、全点掲載する。土器についても、調査例が比較的少ない時期なのでできるだけ多く掲載する。

第二に、掲載方法は、ニーズとコストを考えて（金子　1998：pp.11～13)、石器は写真を基本とし、遺構内は基本的に実測するが、遺構外（遺物包含層含む）は余裕のある限りとする。土器は、資料が比較的少ない時期なので、図化が可能なものは拓本を使用せずできるだけ実測する。その他の遺物については原則として全て実測する（焼粘土塊は省略した)。

・遺構図面の点検・修整について

平面図と断面図の照合等の図面点検は、現地で全て行っている。合わない場合は計り直しているが、どうしても合わない場合やセクションポイントがないなどの不備は、そのままにし、本文中にその旨記している。ただし、1/20の縮尺で１㎜(原寸では２㎝、報告書では0.5㎜)の違いについては誤差範囲とし、とくにふれていない。以上は、報告書に嘘を書いてはいけないという方針(金子　1998:p.10、13)によるものである。御容赦願いたい。

・遺物の接合・復元・注記について

土器は基本的に報告書に掲載したものだけに注記した。土製品、石器・石製品については、１点、１点別の小袋にしまって、その袋に出土位置等を記載し、注記はしていない。また、石器素材剥片の注記、接合は、図化する余裕がないとの理由で一切行っていない。

土器の接合は、作業員約10名が約６週間行った。原則として同じ袋、同じ遺構、同じグリッドの中でのみ接合を試み、遺構間接合や異なるグリッドの間での接合は行っていない。

・遺物の実測、拓本・トレースについて

遺物の実測・トレースは作業員が行い、それを調査員が点検した。**特に石器**については、調査員がよくわかっていない部分があるので、点検は外形と不自然な点がないかに留めた。

・報告書について

報告書の体裁は、基本的に既存の報告書に倣ったが、一部違うところがあるので、以下にそれを記す。最も違うところは、遺構の記載と遺物（特に遺構内の遺物と遺構外の土器）の記載である。

〔遺構図版の凡例について〕

本書冒頭の例言の下にある。

〔遺構出土遺物の掲載・記載の位置について〕

遺構出土の遺物も第Ⅴ章で掲載・記載しているが、遺構図版の後に遺構内遺物集成図として縮尺を落としてまとめてもいる（第29図～第34図)。その代わり、遺物は次に述べるように出土位置に従って並べた。その理由は、金子（1998）の pp.15～16参照。

〔遺物の分類・掲載順序について〕

遺物は、基本的にそれぞれの種類ごとに（土製品、石製品はさらに細分した分類－円盤状土製品など－ごとに）出土位置の順（遺構内→遺構外、遺構外ははっきりしているもの→不明なもの）に並べている。

遺構外から出土した土器を、型式学的分類ではなく出土位置によって並べた理由については、金子(1998)の pp.15～16参照。

〔遺物の記載の仕方について〕

遺物の記載は基本的に観察表で行い、表に入りきらない場合や表の項目に当てはまらないことは本文中に記し、その頁を表の「本文記載」という欄に記した。

〔註・引用参考文献の掲載位置について〕

それぞれの節の最後にまとめている（例えば、第１節縄文土器)。

〔本文、表、図版のレイアウトについて〕

原則として本文は本文、図版は図版とまとめている。報告書は通して読まれるということはほとんどないと思われるので、“捜し易さ”を優先すべきと考えたためである。

参考文献

金子昭彦　1998「埋蔵文化財センターの考古学」『紀要』ⅩⅧ（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

Ⅳ. 遺構

検出された遺構は、住居状遺構１基、土坑・墓壙46基、溝跡１条、縄文時代の遺物包含層２カ所である。その他、焼土が、第24号、第25号、第32号、第35号、第37号、第38号土坑の主として検出面～上層から（第37号は中層からも）検出されているが、何れも土坑の覆土上面あるいはその周囲に認められたので土坑に含めて報告した。

溝跡１条を除き、いずれも縄文時代前期で、それも後葉を主体とするようである。溝跡は、近世の可能性が高い。遺構として報告したのはこれだけだが、今回の調査範囲では**近世と推測される地形の改変**が大きく認められるので、ここでその概要について述べておく（第５図、写真図版33～34）。

まず平場から（第５図、写真図版33）。調査区中央の尾根頂部の平場とその西側の調査範囲南側に続く平場と二段認められる。Ⅴ層まで平らに削っており、西側では平場上に礫は全く認められず砂層が広がり、所々Ⅳ層の土を貼って平らにしている様子が窺われた。平場上面と覆土（Ⅱ層の一部）の間には漸移層は認められず断絶がある。尾根頂部の平場の方が高く、その比高差は１ｍほどある。中央平場を覆っていたのは厚さ約20cmの現表土（Ⅰ層）である。その西側は、現状では尾根頂部から緩やかに傾斜していて、段になっておらず、そのため西側の平場は拳大の礫を多量に含む土（Ⅱ層の一部）が１ｍ程も堆積していた（写真図版33左下）。この大量の礫を含む土は、黒褐色土(10YR3/2)砂、所々Ⅳ～Ⅴ層のブロックを含み、再堆積土と考えられたのでⅡ２層として他と区別した。

西側の平場中央よりやや西寄りに、調査範囲外南側から伊手川に向かって延びる溝跡が認められ、平場上では痕跡的であるが、途中の段状の崖からははっきりと刻まれ、検出面の幅１ｍ程度、深さも１ｍ程度の二つの溝跡になり、一つは西側に曲がっていくようである。覆土は、途中縞状に砂を含む黒褐色土で、包含層の土とは異なる（ＮＨⅡ層より濃い焦げ茶）。覆土から水が流れていた様子が窺え、水路であったと考えられる（第５図、写真図版33）。遺構として報告した第１号溝跡も、この崖に向かっており、同じように水路であった可能性が高い。

さらに、西側の平場からこの段状の崖に降りていく道路状の痕跡が、調査範囲北端23～24グリッド付近に認められ、石組状のものが見られた（炭窯ではないかという指摘も受けている）。

以上の痕跡は、縄文時代以降（おそらく古代以降）であろうということは検出状況、覆土から窺えるが、出土遺物がないので、はっきりとは特定できない。ただ、付近の住人から、西側平場、水路跡の延長上、調査範囲の南側に、大きな屋敷があり、伊手川の対岸にある山は全てこの家のもので、やがて借金ができて山を売り引っ越していったという話を伺い、今回の調査状況に極めてよく符合したため、おそらく近世以降であろうと判断したものである。なお、中央平場の南西隅、24Ｄグリッドで直径20～30cmほどの柱穴状土坑が12基検出された（写真図版34）。ただし、その配置はランダムで、断ち割った結果整形となるものはなく周囲との境（輪郭）もはっきりせず、いずれも根穴と判断されたので報告しなかった。

遺構の検出状況については、第Ⅱ章第２節参照。今回の調査区は、屋敷跡であったためか、地形の改変を受けている場所が多く、西端以外はいずれも削平され、東端の低い場所も削平されていた。東端の崖～崖下には大きな切株が残っており検出に苦労した。その他の地点も礫が多く検出作業はやりづらかった。

本章を読む際に注意していただきたい点。**凡例**は、本書冒頭の例言の下にある。**遺物の記載、掲載場所**に

ついて。遺構内出土遺物は、遺構図版の後に遺構内遺物集成図としてまとめてはいるが（第29図～第34図）、詳しい記載（観察表）、実測図は、第Ⅴ章に掲載しているので、そちらを参照していただきたい（**遺物の掲載基準**も）。なお、重複のため、いずれの遺構に帰属するのか特定できなかった遺物は集成図には掲載していない。主に遺物の取り上げに関係する①～④は、中グリッドに準じたもので（第Ⅲ章参照）、遺構に十字ベルトを掛けた際に使っている。**遺構名称**は、報告書執筆の時点で全て付け直した。同じ種類の遺構の中での番号は、基本的に東から西に向かって付けている。その他、第Ⅲ章を参照していただきたい。

平面図と断面図の**照合等の図面点検**は、現地で全て行っている。合わない場合は計り直しているが、どうしても合わない場合は、そのままにし本文中にその旨記している。ただし、1/20の縮尺で１㎜（原寸では２cm、報告書では0.5mm）以内の違いについては誤差範囲とし、特にふれていない。

本文記載中の**深さ**は、言うまでもなく検出面からの深さである。今回の調査範囲は西側を除き全体的に大きく削平されているので、実際よりかなり浅くなっている可能性が高い。**調査範囲の地形**については、第Ⅱ章第１節、第２節を参照していただきたい。具体的な様子は、写真図版１～４、30～34で窺われる。

１．住居状遺構

竪穴住居跡に似るが、炉を持たない遺構である。調査区中央に１基検出した。縄文時代前期後葉である。

第１号住居状遺構（第７図、第29図、写真図版３～４、82）

〔**位置・検出状況**〕調査区中央平場。25Ｃ～Ｄグリッド。周囲は削平されており、表土直下のⅣ層～Ⅴ層上部で暗褐色の楕円形のシミを確認。県教育委員会の試掘調査で既に住居跡として確認されていた。

〔**図・精査状況**〕いずれの断面図とも、断面実測後崩れたため平面図と合わない。底面中央の柱穴は、壁がダラダラと立ち上がる形態で上場を明確に認識できず、断面図と合わない。

〔**覆土・堆積状況**〕上半部黒褐色～暗褐色土、下半部小石多く含む褐色土。下半部はⅣ～Ⅴ層の再堆積と思われる。人為堆積とする積極的な理由はない。

〔**壁・底・掘り方**〕壁～底Ⅴ層。底面は砂を主体とする（礫は比較的少ない）。掘り方は確認できなかった。

〔**柱穴・その他の付属施設**〕柱穴と確認できたわけではないが、底面に検出された小穴を柱穴として扱う。底面中央に比較的規模の大きなもの１つ、長軸上の両端壁際に小さなもの対角線上にそれぞれ１つずつ検出された。中央のものは、直径約40cm程度、底面から10cm程度と浅く、壁はダラダラと立ち上がる。覆土は５層に似ていたような記憶がある。両端のものは、直径約15cm、底面から30cm程度と比較的深いものである。覆土は、中央柱穴の２層に相当する。両方とも、壁を削るように設けられている。

〔**出土遺物**〕第29図１～10の土器、写真図版82（＝第29図）の１～３の石器が出土している。７＝９は大木５ｂ～６式、８は大木２ａ式？、５は時期不明、その他は大木６式。

〔**時期**〕出土土器から、縄文時代前期後葉と思われる。〔**所見**〕類例は多いが、土坑として扱っている場合が多い。湯田町清水ヶ野遺跡第７号土坑（第Ⅱ章－以下同じ－文献10）、同　峠山牧場Ⅰ遺跡ＲＤ03ほか（文献15）。北上市成沢Ⅱ遺跡では、類似の形状で地床炉が検出されている（文献55）。

２．土坑・墓壙

（人によって）地面に掘られた穴のうち、住居状遺構（第１節）を除いたものである。主として覆土の共

通性から、第１号～第43号、第44号～第45号、第46号の三つに分け、基本的に東から西に番号を振ったが、第42、43号は、第44、45号と重複しているため報告の都合で最後にした。

土坑の**分布に偏り**があり、調査区東半分に著しく集中する。地形の変化も考慮して、ここでは、東端の崖下を東端土坑集中区、崖上を東崖上土坑集中区と呼ぶ。その西側の調査区中央では土坑は疎らになり、さらにその西側には土坑は検出されなかった。

東端部崖下の土坑集中区は、検出面ではほとんど同じ土に見え新旧関係は掴めなかった。半裁時に一応の結論は出したが、途中で逆転したこともあり、曖昧な部分を残す。検出面でプランを掴めなかったので、便宜的にベルトを掛けて精査せざるを得ない場合が多く、帰属土坑が不明な遺物が多い。お詫び申し上げると共に、**重複のため出土土坑が特定できなかった遺物**は本章では遺構出土として報告していないので、第Ⅴ章の各遺物の観察表を参照していただきたい。なお、遺物出土位置の①～③については本章冒頭参照。

時期は、第16号土坑が縄文時代前期後葉以前の可能性が高い他は、何れも前期後葉の可能性がある。ただし確実なのは第21号だけである。第12号、第28号、第32号、第42号も、比較的確実性が高い。

特徴的な土坑。第24号、第25号、第32号、第35号、第37号、第38号土坑の覆土およびその周囲からは**焼土**が検出されている。**遺物が伴い**時期がはっきり特定されたのは第21号土坑だけである。本土坑は**覆土上面に礫**が集中しており、**墓壙**の可能性がある。今回検出された土坑は、形から判断すると貯蔵穴様のものが多いが、このような土坑もあるのではっきりしない。今回の調査区は削平されている場所が多く、特に東端部崖下は浅い土坑が多かったが第16号土坑は深い。

第１号土坑（第８図、第29図、写真図版４）

〔**位置・検出状況**〕調査区最東端土坑集中区。28Ｄグリッド。周囲の土坑と同じ褐色土で検出。大部分が南側の調査範囲外にあるため、はっきりしない部分がある。北東側には一抱え以上もの巨大な礫がある。〔**図・精査状況**〕平面図は検出面まで下げた状態で作図し、それに対し断面図は調査区境で作図しており、より高い位置まで記録されている。そのため、上場は作図位置が異なり合わない部分がある。〔**重複**〕西側で第２号土坑と重複し、本土坑が新しい。東側でも別の土坑と重複している可能性があるが、狭くはっきりしない。断面図参照。

〔**覆土・堆積状況**〕褐色～黄褐色土で、Ⅴ層の再堆積が主体である。７層は微妙で、本土坑に含まれるかも知れない。〔**深さ**〕調査した範囲で最大60㎝（断面図から計測）。〔**壁・底面**〕東壁は別の土坑と重複しているためかはっきりしない。土坑と重複していない地点では、壁は砂層（Ⅴ層の一部）で一部グライ化して白色粘土になっている（西壁）。底は中央部礫が集中するが周囲は（赤く酸化した）砂層。

〔**出土遺物**〕第29図11の土器片が出土している。小片で地文のみなので時期は不明である。

〔**時期**〕覆土と今回の調査結果全体から、縄文時代前期後葉の可能性がある。

第２号土坑（第８図、第29図、第36図13（大木６式？）？、写真図版４～５）

〔**位置・検出状況**〕調査区東端土坑集中区。28Ｄグリッド。周囲の土坑と同じ褐色土で検出。当初、一つの大きな楕円形の土坑と確認して精査していたが、完掘後東壁に不自然な部分が出てきた。この部分は丁度ベルトにかかっていたため作業員が掘り上げるまで全く気づかず、今となっては重複があったかどうか確認する術はない。お詫び申し上げる次第である。〔**図・精査状況**〕東側の上場、下場が平面図と断面図合わない。測り間違いか。また、底の溝は完掘後に確認されたので断面図にはない。〔**重複**〕北西側第３号土坑と重複

し、断面から３号の方が新しいと判断したが、覆土がよく似ているので確証はない。南西側第４号土坑と重複し、新旧は不明（記録では２号の方が新しいとされているが根拠は不明である)。南東側第１号土坑と重複し、断面から１号の方が新しいと判断（この部分の２号土坑の覆土が特徴的なので確実性は高い)。さらに、前述のように本土坑自体が２基の土坑の重複の可能性がある。

〔覆土・堆積状況〕６ｂ層に特徴的な地山（Ｖ層の一部）起源の白色粘土ブロックを含む他は、皆よく似た褐色土で、これもＶ層起源の土である。第３号土坑の覆土に似るが、より明るい。

〔深さ〕約40cm。**〔壁・底面〕**底面は平らに近い。南西壁の一部が砂層（Ｖ層の一部）である他は、粘土化したＶ層で、底はほとんどが白色粘土。**〔副穴等の付属施設〕**ほぼ中央に副穴、それに十字状に４つの溝が交わる。副穴は直径約50cm、底面からの深さ約20cm、溝は深さ平均３～４cmだが７cmを越えるところもある。北端と南端に小穴が見られるが、根穴の可能性が高い（作業員の完掘後に確認し、精査経過を見ていないため不明)。深さは両方とも15cm程度。

〔出土遺物〕第29図12の土器片他が出土している。小片で地文のみなので時期は不明である。

〔時期〕覆土と今回の調査結果全体から、縄文時代前期後葉の可能性がある。

第３号土坑（第８図、第36図13（大木６式？）？、写真図版４～５）

〔位置・検出状況〕調査区東端土坑集中区。28Ｄグリッド。周囲の土坑と同じ褐色土で検出。

〔重複〕第２号土坑と重複し、断面から３号の方が新しいと判断したが、覆土がよく似ているので確証はない。北東隅は疑似現象で壊されている。

〔覆土・堆積状況〕Ｖ層の再堆積の褐色土。第２号土坑の覆土より暗い。**〔深さ〕**約30cm。

〔壁・底面〕底面は凹凸があるが基本的には平らである。壁は南側が砂で他は粘土化したものである。底は白色粘土。**〔副穴等の付属施設〕**底面中央よりやや南西寄りに直径約20cm、検出面からの深さ約15cmの副穴。底面に副穴に向かう溝状の浅い痕跡が認められたが、木根跡と考えた。**〔出土遺物〕**なし？

〔時期〕覆土と今回の調査結果全体から、縄文時代前期後葉の可能性がある。

第４号土坑（第９図、第36図13（大木６式？）？、写真図版５～６）

〔位置・検出状況〕調査区東端土坑集中区。27～28Ｄグリッド。周囲の土坑と同じ褐色土で検出。南側が調査範囲外に続く。**〔図・精査状況〕**セクションポイント測り間違いにより合わない。**〔重複〕**西側第５号土坑と重複し、断面から５号の方が新しいと判断したが、覆土がよく似ていて境界も不整形なので確証はない。東側第２号土坑と重複し、新旧は不明（記録では２号の方が新しいとされているが根拠は不明である)。

〔覆土・堆積状況〕Ｖ層の再堆積然とした層（８、11層）との交互層。西から東に向かって堆積（現在の傾斜に符合)。**〔深さ〕**約20cm。**〔壁・底面〕**壁砂層。底は粘土化したＶ層で、西半分は白色、東半分は赤っぽい。副穴底は白色粘土化している。

〔副穴等の付属施設〕底面中央付近に直径約12cm、底面からの深さ約14cmの副穴が見られる。

〔出土遺物〕なし？**〔時期〕**覆土と今回の調査結果全体から、縄文時代前期後葉の可能性がある。

第５号土坑（第９図、第29図、写真図版５～６、82）

〔位置・検出状況〕調査区東端土坑集中区。27～28Ｄグリッド。周囲の土坑と同じ褐色土で検出。南側が調査範囲外に続く。**〔図・精査状況〕**セクションポイントＣ、Ｃ′測り間違いにより合わない。**〔重複〕**北西側

第６号、第７号土坑と重複し、断面（Ｃ－Ｃ′）により何れよりも古いと判断したが、覆土がよく似ているので確証は持てない。東側第４号土坑と重複し、断面から５号の方が新しいと判断したが、覆土がよく似ていて境界も不整形なので確証はない。

〔**覆土・堆積状況**〕基本的にはいずれも周囲の土坑と同じＶ層再堆積の砂礫多く含む褐色土だが、３～４層が特徴的である。〔**深さ**〕約65cm。〔**壁・底面**〕壁は元はオーバーハングしていたようである。底は平ら。壁～底は、一部白色粘土だがほとんどは砂層。底は、縞状を呈す。〔**副穴等の付属施設**〕確認できなかった。

〔**出土遺物**〕第29図14の土器片が出土。大木４～５ａ式である。写真図版82の４の石器も出土？

〔**時期**〕出土土器と重複関係と今回の調査結果全体から、縄文時代前期後葉の可能性がある。

第６号土坑（第９図、第29図、写真図版６）

〔**位置・検出状況**〕調査区東端土坑集中区。27～28Ｄグリッド。周囲の土坑と同じ褐色土で検出。ただし重複が著しいせいでプランはなかなか掴めず、完掘後に確定した。〔**図・精査状況**〕セクションポイントＣ、Ｃ′測り間違いにより合わない。半裁時、底面より深く掘りすぎた部分がある。〔**重複**〕西側第７号土坑と重複し、６号が古いと判断したが、覆土がよく似ているので確証は持てない。南東側第５号土坑と重複し、断面（Ｃ－Ｃ′）により６号が新しいと判断したが、覆土がよく似ているので確証はない。

〔**覆土・堆積状況**〕Ｖ層起源の砂礫混じりの褐色土で、上から下までほとんど同じ。

〔**平面形・規模**〕長軸約1.1m、短軸約0.7mの隅丸長方形。調査区東端の土坑は円形を基調とすると考えていたので、重複が著しいこともありプランを確定するまで時間がかかった。〔**深さ**〕約30cm。

〔**壁・底面**〕底は平ら。壁は砂層、底はＶ層がグライ化した粘土。〔**副穴等の付属施設**〕掘り過ぎや重複によるためか、確認できなかった。西壁にある副穴状のものは第７号土坑に帰属すると考える。

〔**出土遺物**〕第29図15の土器片が出土。小片で地文のみなので時期は特定できない。石器も出土？

〔**時期**〕重複関係と今回の調査結果全体から、縄文時代前期後葉の可能性がある。

第７号土坑（第９図、第12図、第29図、写真図版６、82）

〔**位置・検出状況**〕調査区東端土坑集中区。27Ｄグリッド。周囲の土坑と同じ褐色土で検出。重複が著しいせいでプランはなかなか掴めず、完掘後に確定した。〔**図・精査状況**〕セクションポイントＣ、Ｃ′測り間違いにより合わない。南北断面図は第12図にあり、後述のように南側の小穴は単なる掘りすぎなので断面図にはなく、北側の副穴は測り間違いのため南側の上場合わない。

〔**重複**〕北側は第17号、南西側は第８号土坑と重複し、断面から17号→７号→８号と最終的に判断したが（第12図）、他にも増してこの部分の土は似ており、はっきりしない（当初は７号→17号と考えていた）。第18号土坑とも重複しているかも知れないが不明である。東側は第６号、第５号土坑と重複しており、断面から５号→６号→７号と判断したが（Ｃ－Ｃ′）、覆土がよく似ているので確証は持てない。

〔**覆土・堆積状況**〕Ｖ層起源の砂礫を含む褐色土。〔**深さ**〕約30cm。〔**壁・底面**〕底はやや凹凸があるが基本的には平らで、白～赤色粘土。副穴底は砂。壁は記録がない。〔**副穴等の付属施設**〕第６号土坑との境に直径約30cm、深さ底面から約15cmの副穴。その北側にも副穴がある（直径約30cm、深さ底面から約20cm）。どちらも断面図からは本土坑に帰属すると考えられるが（第９図、第12図）、土坑の想定されるプランと両副穴が両立するとは考えにくいので、どちらかは本土坑と関係ないかも知れない（別の土坑が重複？）。南西側の直径約20cm、底面からの深さ10cmの小穴は単なる窪み（掘りすぎ）と考えた。

〔**出土遺物**〕第29図16の土器片（大木５ａ式）、写真図版82の５（＝第29図５）、６他の石器が出土。
〔**時期**〕出土土器と重複関係と今回の調査結果全体から、縄文時代前期後葉の可能性がある。

第８号土坑（第10図、写真図版７、82？）
〔**位置・検出状況**〕調査区東端土坑集中区。27Ｄグリッド。周囲の土坑と同じ褐色土で検出。南側調査範囲外に続く。〔**図・精査状況**〕断面図は傾斜が急な部分を連続して記録したせいか、誤差が大きく平面図と合わない（セクションポイントも）。平面図は、全土坑完掘後に作成したため、新旧関係は表れていない。南北断面図は第12図にある。〔**重複**〕北東側第７号土坑と重複し、断面から７号→８号と判断したが（第12図）、覆土は似ており確証はない。北西側第９号土坑と重複し、断面から８号土坑の方が新しいと判断した。
〔**覆土・堆積状況**〕Ｖ層起源の砂礫多く含む褐色土。〔**深さ**〕約40cm。
〔**壁・底面**〕底は平ら。壁～底は砂層で、北側の壁の上の方は粒子が粗く、底面には溝状に黒いシミが走る。
〔**出土遺物**〕第７号～８号土坑出土として取り上げた石器があるが（写真図版82）、帰属ははっきりしない。
〔**時期**〕重複関係と今回の調査結果全体から、縄文時代前期後葉の可能性がある。

第９号土坑（第10図、第29図、第53図162～163？、167？（いずれも６式？）、写真図版７～８、87）
〔**位置・検出状況**〕調査区東端土坑集中区。27Ｄグリッド。周囲の土坑と同じ褐色土で検出。南側調査範囲外に続く。〔**図・精査状況**〕東西断面図（Ａ－Ａ′）は傾斜が急な部分を連続して記録したせいか、誤差が大きく平面図と合わない（セクションポイントも）。南北断面（Ｃ－Ｃ′）のＣ側の上場、副穴は、半裁後掘り広がったため合わない。平面図は、全土坑完掘後に作成したため、新旧関係は表れていない。
〔**重複**〕東側第８号土坑と重複し、断面から９号の方が古いと判断したが、覆土は似ており確証はもてない。西側第10号土坑と重複し、三カ所の断面（Ａ－Ａ′～Ｃ－Ｃ′）から９号の方が新しいと判断した。
〔**覆土・堆積状況**〕単層に近い。Ｖ層起源の砂礫を多く含むにぶい黄褐色土。〔**深さ**〕約30cm。
〔**壁・底面**〕粗い砂（Ｖ）層。〔**副穴等の付属施設**〕底面ほぼ中央と想定される部分に、直径約30cm、底面からの深さ約15cmの副穴がある。この副穴から北西側に向かって底面からの深さ約２cmの浅い溝が続くが、南側にも溝があったかどうかは、第８号土坑と重複していたため確認していない。
〔**出土遺物**〕第29図17（大木６式？）他の土器が出土。写真図版87の79～83の石器も可能性がある。
〔**時期**〕出土土器と重複関係と今回の調査結果全体から、縄文時代前期後葉の可能性がある。

第10号土坑（第10図、第29図、第53図162～163？、167？（いずれも６式？）、写真図版７～８、87）
〔**位置・検出状況**〕調査区東端土坑集中区。27Ｄグリッド。周囲の土坑と同じ褐色土で検出。南側調査範囲外に続く。〔**図・精査状況**〕断面図は傾斜が急な部分を連続して記録したせいか、誤差が大きく平面図と合わない（セクションポイントも）。南北断面（Ｃ－Ｃ′）のＣ側の上場、副穴は、半裁後掘り広がったため合わない。平面図は、全土坑完掘後に作成したため、新旧関係は表れていない。
〔**重複**〕東側第９号土坑と重複し、三カ所の断面（Ａ－Ａ′～Ｃ－Ｃ′）から９号の方が新しいと判断した。西側第11号土坑と重複し、断面から11号の方が新しいと判断した。平面図では、北側が第19号土坑と重複するように見えるが、検出時には重複しておらず、完掘後調査員が確認した時点でこのようになっていたため、はっきりしない。間にある副穴状のものは、カクランの可能性がある（中に木根が入っていた）。
〔**覆土・堆積状況**〕基本的にＶ層起源の砂礫含む褐色土。〔**壁・底面**〕底は平ら。壁は粒子の粗い砂層、底

は細かい砂層。〔**副穴等の付属施設**〕底面南壁付近に直径約30cm、底面からの深さ約20cmの副穴があり、南側と東側に検出面からの深さ約３～５cmの溝が続く。この副穴は２層上面から確認でき、覆土は５ｂ層である。第19号土坑との境にある直径約30cm、底面からの深さ約15cmの副穴状のものは、精査状況で述べたように、よくわからない。

〔**出土遺物**〕第29図18（大木６式？）他の土器が出土。写真図版87の79～83の石器も可能性がある。

〔**時期**〕出土土器と重複関係と今回の調査結果全体から、縄文時代前期後葉の可能性がある。

第11号土坑（第10図、第29図、第53図162～163？、167？（いずれも６式？）、写真図版８～11）

〔**位置・検出状況**〕調査区東端土坑集中区。27Ｄグリッド。周囲の土坑と同じ褐色土で検出。南側調査範囲外に続く。〔**図・精査状況**〕断面図は傾斜が急な部分を連続して記録したせいか、誤差が大きく平面図と合わない（セクションポイントも）。〔**重複**〕東側第10号土坑と重複し、断面から11号の方が新しいと判断した。西側第13号土坑と重複し、断面から13号の方が新しいと判断した。北西側第12号土坑と重複し、12号の方が新しいと判断した。12号との関係は、11号と13号の境界付近、さらに12号の想定されるプラン上にも位置して、言わば三つの土坑の交差点に当たる部分に比較的大きな土器が出土し、これを土器柱として残していたため（写真図版10～11）、この堆積状態から土坑の新旧関係を判断した。ただし覆土は砂礫混じりの暗褐色土と極めて似ており、見る角度によって堆積状態が異なって見える有様であった。そのため、土器柱で作図しにくいこともあり断面図は作成しなかった。一応、12号は黄褐色に近くＶ層ブロックを多く含み、11号と13号は赤っぽい覆土として違いを認識し、新旧関係を判断した。この土器柱では11号と13号の覆土は極めて似ており、それぞれの覆土の色調も場所によって異なるため、ほとんど区別できなかった。

〔**覆土・堆積状況**〕Ｖ層起源の砂礫含む褐色土で、単層に近い。〔**深さ**〕約40cm。

〔**壁・底面**〕壁は直線的に外反し、底は平ら。壁は比較的粗い砂で、底は砂層。〔**副穴等の付属施設**〕底面中央付近に２つ確認されている。ほぼ同じ大きさで、直径約30cm、底面からの深さ約15cm。

〔**出土遺物**〕前述の土器柱下部から比較的大きな土器片が出土（写真図版８～９、接合せず一部を掲載＝第29図19＝大木６式か）。西方壁から土坑の中心に向かって滑り落ちるように傾斜。他の土器、石器も出土？

〔**時期**〕出土土器と重複関係と今回の調査結果全体から、縄文時代前期後葉の可能性がある。

第12号土坑（第10図、第29図、第53図164～166？、167？（いずれも６式？）、写真図版９～11）

〔**位置・検出状況**〕調査区東端土坑集中区。27Ｄグリッド。周囲の土坑と同じ褐色土で検出。〔**図・精査状況**〕測り間違いのせいか、断面図と平面図合わない部分がある。15層は、完掘時に木根による攪乱でなくオーバーハングしている部分の覆土であることが判明したが、元の形のままであるとは思えず、図のように処理した。北西側は木根が絡んでいるせいもあって掘りすぎ。北側の一部上場精査中に崩落。副穴掘りすぎ。

〔**重複**〕南東側第11号土坑と、南側第13号土坑と重複。詳細は第11号土坑のところで記したが、土器柱の断面から、13号→12号→11号の順に新しいと判断した。ただし覆土がよく似ているため確証はない。さらに、西側が木根による攪乱を受けているようである。北東隅第20号土坑と重複しているが、検出面では接しているように見え完掘後に重複とわかったため、新旧関係は不明である。

〔**覆土・堆積状況**〕上部黄褐色～褐色、中部黒褐色～暗褐色、下部黄褐色、最下部褐色～暗褐色土。厚いせいか本遺跡の土坑の中では比較的変化に富むが、いずれもＶ層の再堆積を基本とする砂礫混じり層である。15層は、根による攪乱ではなくオーバーハングしているところの覆土であることが判明した。〔**深さ**〕約90cm。

〔**壁・底面**〕壁は崩れているせいかはっきりしないが、北西側は明らかにオーバーハングしている。底は平ら。壁は、上30cmが黄褐色粘土（Ⅳ層？）、その下～底は粗い砂層が基本だが、底の一部西側は白色粘土である。〔**副穴等の付属施設**〕底面中央付近に直径約30cmの副穴が２つ検出されたが、手違いで一緒に掘られてしまって元の形は不明である。底面からの深さ約20cm。

〔**出土遺物**〕(**出土状況**) ７層下面～９層上面にまとまった土器が南側土坑中央に傾斜して出土した（写真図版９）。写真図版９の左列一番下の、左端のこちらを向いている土器をａ土器、その下の断面が見える土器をｅ、中央の文様が見える土器をｃ、ｃの下の内面が見える土器をｄ、ａとｃの間、ｃとｄの上（東側）の小片類をそれぞれ、ｂとｆ土器として取り上げた。

(**遺物**) 第29図20～27他の土器、写真図版82の11～14（一部第29図に掲載）他の石器が出土。23（大木３か６式）、26（木５ａ式）、27（大木５式？）以外、大木６式。

〔**時期**〕出土土器と重複関係と今回の調査結果全体から、縄文時代前期後葉の可能性が高い。

第13号土坑（第10図、第29図、第53図164～166？、167？（いずれも６式？）、写真図版10～11、87？）

〔**位置・検出状況**〕調査区東端土坑集中区。周囲の土坑と同じ褐色土で検出。〔**図・精査状況**〕断面図は傾斜が急な部分を連続して記録したせいか、誤差が大きく平面図と合わない（セクションポイントも）。

〔**重複**〕東側第11号土坑と重複し、断面から13号土坑が新しいと判断した。北側第12号土坑と重複し、詳細は第11号土坑のところで記したが、土器柱の断面から12号が新しいと判断した。ただし覆土がよく似ているため確証はない。西側にも土坑が重複している可能性があるが、調査した範囲ではよくわからない。下場が土坑らしくなく傾斜しているので遺構ではないようにも思われる。ただし、土坑であった場合にも断面図から判断する限り（覆土の色調が西側の方がより明るい）本土坑の方が新しいようである。

〔**覆土・堆積状況**〕Ⅴ層起源の砂礫混じりの暗褐色土。〔**深さ**〕約40cm。

〔**壁・底面**〕壁は、断面から判断するとオーバーハングしているようである。底は平ら。壁～底は粗い砂層。

〔**出土遺物**〕(**出土状況**) 前述の土器柱上面に比較的大きな土器片が出土している（写真図版11）。二個体あるようで、南西側の内面（黒色）を向けている方をａ土器、北東側の外面を向けている方をｂ土器とした。ａ土器は、南東側に向かって僅かに傾斜している。

(**遺物**) 第29図28、29他の土器が出土。地文のみで時期は特定できない。写真図版87の石器も出土？

〔**時期**〕重複関係と今回の調査結果全体から、縄文時代前期後葉の可能性がある。

第14号土坑（第11図～第12図、写真図版12～13）

〔**位置・検出状況**〕調査区東端土坑集中区。27Ｄグリッド。周囲の土坑と同じ褐色土で検出。第14号～第16号土坑は連続して重複していたので同時に半裁。〔**図・精査状況**〕南北断面図は第12図にあり、北側の上場完掘時に掘り広がったため合わない。

〔**重複**〕西側第15号土坑と重複。検出状況から２基の土坑が重複していると考え断面を詳細に観察したが、覆土が極めて似ており、また境付近が根による撹乱を受けているようで、判断は難しかった。一応14号が新しいと判断したが確証はない。南側第17号土坑と重複。当初は、両土坑の境にベルトが掛かっており括れが見えず、もっと南側まで14号が続くと考えていた。したがって、断面（第12図）では14号の方が新しいと判断したが、覆土がよく似ており、断面境界付近が木根による撹乱を受けていることを考えれば、定かではなく、完掘後の形態と断面を整合させようとすれば、新旧は逆転する可能性もある。

〔覆土・堆積状況〕浅いせいか単層。Ⅴ層起源の砂礫混じり暗褐色土が基本。〔深さ〕約20cm。
〔壁・底面〕底はやや凹凸があるが基本的には平ら。壁上部砂層（Ⅴ層）。壁下部～底粘土。
〔副穴等の付属施設〕底面中央と推測される部分に直径約20cm、底面からの深さ約18cmの副穴が確認された。覆土は、にぶい黄褐色（10ＹＲ5/3）シルトで、白色粘土混じり、根による撹乱多い。
〔出土遺物〕なし。〔時期〕重複関係と今回の調査結果全体から、縄文時代前期後葉の可能性がある。

第15号土坑（第11図、写真図版12）
〔位置・検出状況〕調査区東端土坑集中区。27Ｄグリッド。周囲の土坑と同じ褐色土で検出。第14号～第16号土坑は連続して重複していたので同時に半裁。〔重複〕東側第14号土坑と重複。検出状況から２基の土坑が重複していると考え断面を詳細に観察したが、覆土が極めて似ており、また境付近が根による撹乱を受けているようで、判断は難しかった。一応14号が新しいと判断したが確証はない。西側第16号土坑と重複し、15号が新しい。隣接する覆土の違いが顕著で（２、３層）、ほぼ間違いないと思う。
〔覆土・堆積状況〕浅いせいか単層。Ⅴ層再堆積土。〔深さ〕約20cm。〔壁・底面〕断面を見るとオーバーハングしている部分がある。底はほぼ平ら。壁～底は、底が一部粘土になっているが、砂層（Ⅴ層）。
〔出土遺物〕なし。〔時期〕重複関係と今回の調査結果全体から、縄文時代前期後葉の可能性がある。

第16号土坑（第11図、第30図、写真図版12）
〔位置・検出状況〕調査区東端土坑集中区。27Ｄグリッド。周囲の土坑とやや異なる黒褐色土で検出。第14号～第16号土坑は連続して重複していたので同時に半裁。〔図・精査状況〕副穴は断面実測後掘り広がったようで平面図と合わない。上場、測り間違いで合わない。〔重複〕東側第15号土坑と重複し、15号が新しい。隣接する覆土の違いが顕著で（２、３層）、ほぼ間違いないと思う。
〔覆土・堆積状況〕上部黒褐色土、中部褐色～にぶい黄褐色土、下部暗褐色～黒褐色と褐色土の交互層、最下部褐色～にぶい黄褐色土。下部に不自然な堆積状態（交互層、水平堆積）が窺われるが、基本土層がブロック状に入り混じるということもなく、10、11層以外はⅤ層の再堆積を基本としており、積極的に人為堆積とする根拠はない〔深さ〕123cm。〔壁・底面〕壁上部50cmは砂層（Ⅴ層）。壁中部粘土層。厚さ40cmで白色を基本とするが、上部10cmは赤っぽい。その下40cm～底はⅥ層（粗い砂礫層）だが、大きな礫はほとんど含まず小石だけ。
〔副穴等の付属施設〕半裁時から確認。直径約30cm、底面からの深さ約20cm。覆土は15層。
〔出土遺物〕第30図30～33の土器が出土している。33は大木１式？、32は５ａ式、30、31は６式。
〔時期〕出土土器から、縄文時代前期（後葉以前）の可能性が高い。

第17号土坑（第12図、第30図、写真図版12～13）
〔位置・検出状況〕調査区東端土坑集中区。27Ｄグリッド。周囲の土坑と同じ褐色土で検出。当初第14号土坑の一部と考えていたが、底が予想よりさらに南側に続き、完掘後14号が予想よりはるかに北側に周りそうだとわかったため、別土坑と認定。南東隅木根による撹乱。〔図・精査状況〕北（Ａ）側の上、下場完掘時掘り広がったため合わない。〔重複〕北側第14号土坑と重複。14号で詳述したように、断面では14号の方が新しいと判断したが、覆土が似ており逆転する可能性もある。西側第18号土坑と重複し、断面から17号の方が新しいと判断した。18号に比べ17号の覆土が黒っぽいとの識別によるが、両方ともⅤ層起源の土でよく似

ており確証はない。

〔覆土・堆積状況〕単層に近い。２層は、Ｖ層再堆積の砂礫混じる土、３層は白い粘土ブロック多く含む。**〔深さ〕**約30cm。**〔壁・底面〕**底は平ら。壁上部砂層、その他粘土。

〔副穴等の付属施設〕底面中央付近に副穴らしいものが検出されている。断面図（Ａ－Ａ′）を見てわかるように、ちょうど木根があるところに相当しており、定かでないが、２つの副穴が木根によって壊され連結したと判断した。底面からの深さ北側約18cm、南側約15cm。

〔出土遺物〕第30図34の土器が出土している。大木６式である。

〔時期〕出土土器と重複関係と今回の調査結果全体から、縄文時代前期後葉の可能性がある。

第18号土坑（第12図、第30図、写真図版13、82～83）

〔位置・検出状況〕調査区東端土坑集中区。27Ｄグリッド。周囲の土坑と同じ褐色土で検出。**〔図・精査状況〕**西（Ｂ）側の上場完掘時掘り広がったため合わない。

〔重複〕東側第17号土坑と重複。断面から17号の方が新しいと判断した。18号に比べ17号の覆土が黒っぽいとの識別によるものだが、両方ともＶ層起源の土でよく似ており確証はない。検出面では、西側も遺構が重複しているように見えたが、半裁の結果、調査で抜いた木根跡が埋まったものとわかった。

〔覆土・堆積状況〕最下部（７層）が暗褐色土である他は、Ｖ層の再堆積土。上部に礫集中。**〔深さ〕**約30cm。**〔壁・底面〕**底は平ら。底東半分は白色粘土、その他はＶ層。

〔副穴等の付属施設〕底面中央付近に約35×40cm、底面からの深さ約25cmの副穴検出。覆土は、褐色土（10ＹＲ4/4）シルト、ボソボソで白色粘土ブロック含み、根による撹乱を受けている。

〔出土遺物〕第30図35、36の土器、写真図版82～83の15（第30図に図示）、16の石器出土。35は大木６式か。36は地文のみではっきりしない。

〔時期〕出土土器と重複関係と今回の調査結果全体から、縄文時代前期後葉の可能性がある。

〔分類・所見〕覆土が第21号土坑と共通して上部に礫があり、墓の可能性があるかも知れない。

第19号土坑（第13図、第30図、第30図38（大木６式）？、写真図版14、83）

〔位置・検出状況〕調査区東端土坑集中区。27Ｄグリッド。周囲の土坑と同じ褐色土で検出。既に掘り上げてしまった後で確認できなかったが、北西壁に一部掘りすぎあるらしい。**〔図・精査状況〕**平面図では、第20号土坑の方が新しいように見えるが、これは両方を完掘した後作図したため、その時点で第19号の上場がなくなってしまったからであり、実際には調査時には19号が新しいと判断している（次項参照）。また、東（Ａ）側の上場、完掘時に掘り広がったため平面図と断面図合わない。**〔重複〕**西側第20号土坑と重複し、調査時には断面から19号が新しいと判断した。しかし、報告書執筆時に落ち着いて考えれば、覆土は比較的異なるが、その境界はどちらとも受け取れる形なので、20号がフラスコ状ならば20号の方が新しいとする判断も十分可能である。迂闊であり、お詫び申し上げる次第である。平面図では、南側が第10号土坑と重複するように見えるが、検出時には重複しておらず、完掘後調査員が確認した時点でこのようになっていたため、はっきりしない。間にある副穴状のものは、カクランの可能性がある（中に木根が入っていた）。

〔覆土・堆積状況〕Ｖ層起源の砂礫含む褐色土。**〔深さ〕**約30cm。

〔壁・底面〕底は平ら。壁は直線的に外反か。底の一部粘土の他、砂層。**〔副穴等の付属施設〕**底面中央付近に直径約35cm、底面からの深さ約20cmの副穴。半裁時から検出されていた（３層）。南北両端に直径約20～

25cmの副穴が見られるが、調査員が確認したときには既に掘られていたので本土坑に伴うか定かではない。木根による撹乱の可能性も十分ある。底面からの深さは、北側のものが約25cm、南側が約35cm。

〔出土遺物〕第30図37他の土器、写真図版83の17～19の石器が出土。37は時期不明。

〔時期〕出土土器（第30図38）と重複関係と今回の調査結果全体から、縄文時代前期後葉の可能性がある。

第20号土坑（第13図、第30図、第30図38（大木６式）？、写真図版14）

〔位置・検出状況〕調査区東端土坑集中区。27Dグリッド。周囲の土坑と同じ褐色土で検出。〔図・精査状況〕西（A′）側の上、下場が、平面実測時に認識が間違っていたため、全く合わない。報告書に掲載した図は、第21号土坑から作成した。〔重複〕東側第19号土坑と重複し、調査時には断面から19号が新しいと判断したが定かでない（第19号土坑記載参照）。西側第21号土坑と重複し、調査時には断面から21号が新しいと判断したが、報告書執筆時に落ち着いて考えれば、20号がフラスコ状ならば20号の方が新しいとする判断も十分可能である。迂闊でありお詫び申し上げる次第である。南西隅第12号土坑と重複しているが、検出面では接しているように見え完掘後に重複とわかったため、新旧関係は不明である。

〔覆土・堆積状況〕中部黒褐色～暗褐色土、他は褐色～にぶい黄褐色土でⅤ層の再堆積。５層はベルトの反対側にしかないので断面図には見えない。〔平面形〕平面図は、完掘後に地山面で作成したため、あまりあてにならない。〔深さ〕最も残りの良い西側では約80cm。〔壁・底面〕壁は、前述の重複関係のため不明だが、少なくとも北西隅はオーバーハングしているようである。底はほぼ平ら。壁～底は、基本的には砂層だが、北西壁の一部粘土。

〔副穴等の付属施設〕底面ほぼ中央に直径約30cm、底面からの深さ約20cmの副穴が検出されている。

〔出土遺物〕第30図38？、39の土器が出土している。38は大木６式、39も６式に似る。

〔時期〕出土土器と重複関係と今回の調査結果全体から、縄文時代前期後葉の可能性がある。

第21号土坑（第14図、第30図、第40図54（大木５ａ式？）？、写真図版14～16、83）

〔位置・検出状況〕調査区東崖上土坑集中区。27Dグリッド。周囲の土坑と同じ褐色土で検出した。当初規模が大きく楕円形に見えたので竪穴住居跡の類と考え、十字にベルトを設定して掘り下げたところ、底面が二段になり２つの土坑が重複しているとわかった。〔図・精査状況〕セクションポイント測り間違いのため断面図と平面図合わない。南側の上場、完掘時崩れたため合わない。〔重複〕北側第21号土坑と重複し、断面から21号の方が新しいと判断。ｄ層と８層が顕著に異なるからほぼ間違いないと思う。南東隅第20号土坑と重複し、調査時には断面から21号が新しいと判断したが、現時点で落ち着いて考えれば、20号がフラスコ状ならば20号の方が新しいとする判断も十分可能である。迂闊でありお詫び申し上げる次第である。

〔覆土・堆積状況〕上半部黄褐色土、下半部褐色～暗褐色土。いずれも基本的にはⅤ層起源の土を主体とする。ｂ層に著しく礫が多い。精査中にはあまり感じていなかったが、遺物の出土状況等から再検討すれば、各層（特にｃ、ｄ層）が比較的厚みを持って水平方向に均等に近い状態で堆積していること、ｂ層の著しい礫の集中などから、人為堆積を考えた方がよいかも知れない。〔深さ〕約80cm。

〔壁・底面〕断面図を見るとオーバーハングしている所がある。底は平ら。壁は、東側では上20～30cmⅣ層が変化したもの（赤っぽい粘土質の土≒ｅ層）、その下20cm砂利層、その下～底および反対側の壁砂層。

〔出土遺物〕〔出土状況〕比較的残りの良い４つの土器が、堆積土下部から出土した。ａ土器は、最初ｃ層から出土していると考えていたが、今から思えばｄ層の上面に近い位置に正位に安置したような状態で出土し

周囲をｃ層が覆っていたのでそのように考えてしまったものと思われ、実際にはいずれの土器もｃ層との境～ｄ層の上面に近い場所から出土していると考えて良さそうである。ｄ土器は半裁時に出土したが、その他は完掘時にベルト中から出土した。出土順は、ｄ→ａ→ｂ→ｃとなる。ａ土器は、ベルト中の南端から正位に安置したような状態で出土した。ベルト中で層ごとに掘り下げる最中に出土したため掘り方は確認していない。ｂ～ｄ土器は、北東側に傾斜して出土し、北東側に行くほど標高が低い。最も部品の多いｃ土器は横倒しでつぶれたような状態で出土。

この他、ｂ層下部～ｃ層上面でも小破片が比較的まとまって出土しているようである（写真図版14)。

（遺物）第30図40～53他の土器、写真図版83の20～23他の石器が出土している。47は時期不明、53は大木５ａ式、それ以外は大木６式。

〔時期〕出土土器から縄文時代前期後葉（大木６式期）と思われる。

〔分類・所見〕土器の出土状態、覆土（ｂ層の礫集中）から、墓の可能性が高い。

第22号土坑（第14図、第30図、第40図54（大木５ａ式？）？、写真図版16、83)

〔位置・検出状況〕調査区東崖上土坑集中区。27Ｄグリッド。周囲の土坑と同じ褐色土で検出した。当初規模が大きく楕円形に見えたので竪穴住居跡か住居状遺構と考え、十字にベルトを設定して掘り下げたところ、底面が二段になり２つの土坑が重複しているとわかった。**〔図・精査状況〕**東西断面は、サブトレンチ測り間違いのため平面図と合わない。西（Ａ）側上場は、完掘時掘り広がったため平面図と合わない。サブトレンチを入れ東西断面を図化したのは、10層を焼土と考えていたためで(後にⅣ層が変化したものとわかった)、その重複関係を記録しようとしたためである。南北断面のセクションポイント（Ｂ、Ｂ′）測り間違いのため断面図と平面図合わない。北側の上場、完掘時崩れたため合わない。**〔重複〕**南側第21号土坑と重複し、断面から21号の方が新しいと判断した。ｄ層と８層が顕著に異なり、ほぼ間違いないと思う。

〔覆土・堆積状況〕最上部（１層）暗褐色、上部褐色、中部暗褐色～黒褐色（４～５層)、下部黄褐色。北西から南東に向かって堆積し、傾斜に沿っている。**〔深さ〕**70～50cm。**〔壁・底面〕**壁は直線的に外反するようである。底面は比較的凹凸があり波打っている。斜面に立地しているためか壁は場所によってやや異なり、北壁は上30cm礫層、中央24cm赤く酸化した粗い砂層、下10cm砂利層、西壁は上40cm砂礫層、下40cm赤く酸化した粗い砂層、東壁は上部10cmⅣ層、その下10cm赤く酸化した？Ⅳ層（断面図参照)、下30cm赤く酸化した粗い砂層。底は、粗い砂層。副穴の底は砂層。**〔副穴等の付属施設〕**底面中央付近に、直径約40cm、底面からの深さ約20cmの副穴。調査員が確認したときには既に掘られていたので覆土等不明。

〔出土遺物〕(出土状況)南北ベルト中、土坑のほぼ中央付近の５層下面～８層上面で比較的大きな土器片が出土したが（写真図版16)、掲載基準を満たさなかったようである。北東から南西に傾斜している。

（遺物）第30図55他の土器、写真図版83の25、26他の石器が出土している。55は大木５～６式か。

〔時期〕出土土器と重複関係と今回の調査結果全体から、縄文時代前期後葉の可能性がある。

第23号土坑（第15図、第30図、写真図版17、83)

〔位置・検出状況〕調査区東崖上土坑集中区。27Ｄグリッド。崖際の砂礫面で、黒褐色～暗褐色の２つの連結したシミを検出。一緒に半裁したところ、平らな底と壁を確認し土坑と認定。本土坑は、極めて浅く覆土も疑似現象にありがちだった暗褐色土なので、疑似現象の可能性もあるかも知れないが、底面と切り合い関係からは考えにくい。**〔図・精査状況〕**セクションポイント合わない。おそらくＡが測り間違いだと思う。

西側の上場が合わないのは、平面図と断面図を作成している面が異なり平面図は両土坑を完掘してから一度に作成しているため。半裁時、東側の立ち上がりが不明確だったのでサブトレンチを入れた。〔**重複**〕北西側第24号土坑と重複し、断面から24号が新しいと判断。覆土がはっきりと異なるので間違いないと思う。
〔**覆土・堆積状況**〕浅いせいか単層。〔**深さ**〕南西側約40cm。〔**壁・底面**〕重複等のためはっきりしない。壁の一部赤い粘土、その他砂礫（V）層で底面は赤く酸化した砂層。
〔**出土遺物**〕第30図56、57の土器（縄文前期後葉か）、写真図版83の27の石器が出土している。
〔**時期**〕出土土器と重複関係と今回の調査結果全体から、縄文時代前期後葉の可能性がある。

第24号土坑（第15図、第31図、写真図版17、83～84）
〔**位置・検出状況**〕調査区東崖上土坑集中区。27Dグリッド。崖際の砂礫面で、黒褐色～暗褐色の２つの連結したシミを検出。一緒に半裁したところ、平らな床と壁を確認し、土坑と認定。〔**図・精査状況**〕セクションポイント合わない。おそらくAが測り間違いだと思う。焼土のセクションポイント平面図に記録漏れ。お詫び申し上げる次第である。〔**重複**〕南東側第23号土坑と重複し、断面から24号が新しいと判断。覆土がはっきりと異なるので間違いないと思う。
〔**覆土・堆積状況**〕上部黄褐色と暗褐色の交互層、中部黒褐色～暗褐色、下部一部褐色、下部その下黒褐色～暗褐色。包含層際にあるせいか、今回検出された土坑の中では全体的に黒さの目立つ覆土である。近接した層同士はよく似ており、遺物を層ごとに取り上げることはできなかった。２層中に焼土を検出。後述のように、焼土が本土坑に帰属するものとすれば、埋め戻している可能性がでてくる。〔**深さ**〕南西側約90cm。
〔**壁・底面**〕途中までほぼ垂直に立ち上がるが、その後大きく外反。底は平ら。壁は、斜面に立地するため地点によって異なり、北側は上20cmⅢｃ層、その下Ⅴ層、南側は砂（V）層で底面付近一部赤っぽい粘土。底は比較的粘土質で砂と粘土の中間的。〔**副穴等の付属施設**〕底面中央よりやや南東寄りに直径約30cm、底面からの深さ約20cmの副穴検出。半裁時には確認できなかった。覆土は、暗褐色（10ＹＲ3/4）シルト、もろく炭化物含む。南東寄り２層中に焼土を検出。今回の調査では、土坑の覆土上部から焼土が検出されることが多く、偶然とは思われないので、本土坑の場合も、積極的な証拠はないが一緒に報告することにした。黒土中にあるため形などははっきりしない。
〔**出土遺物**〕第31図58～65、66？、67の土器、写真図版83～84の28～29、30？、31の石器が出土している。58は前期初頭、61、62は不明、63は大木５ａ式、その他は大木６式であろう。
〔**時期**〕出土土器と重複関係と今回の調査結果全体から、縄文時代前期後葉の可能性がある。

第25号土坑（第16図、第31図、写真図版17～18、84）
〔**位置・検出状況**〕調査区東崖上土坑集中区。26～27Dグリッド。砂礫面で周囲の土坑と同じ褐色土で検出した。長楕円の規模が大きなものに見えたので竪穴住居跡の類かと思い、ベルトを設定して掘り下げたところ、底と立ち上がりが確認できたが、大きく見えたのは周囲の礫が崩れたり木根による攪乱を受けていたためで（掘りすぎと記録）予想したよりずっと小さく、土坑として認定した。上面に焼土が検出されており別に登録していたが、今回の調査では土坑の上面に焼土が見られることが比較的多いことがわかったので、一緒に報告する。〔**図・精査状況**〕西（A′）側上場は崩れていると判断したため、平面図は、断面図の最も大きな変化点を上場として記録。下場は測り間違いのため合わない。覆土中焼土平面図のセクションポイント（B′）は、測り間違い。〔**重複**〕第13号土坑のところで記したように、東側に別の土坑が重複している

可能性があるが、調査した範囲ではわからなかった。ただし、その場合でも立ち上がりの形状から、本土坑の方が新しい。南西隅の調査区境にも土坑が重複している可能性があるが、狭くて不明。

〔覆土・堆積状況〕互いによく似た褐色の砂礫混じりのⅣ～Ⅴ層の再堆積。４層はⅤ層の一部と最終的に判断した。覆土上部検出面で焼土検出。周囲には黄褐色土が広がり、その下や周りには砂礫層が広がっていたため、当初は貼床の上に焼土があるのかと考えていた。後に黄褐色土はあまり広がらずあくまで土坑の覆土の一部とわかった。後述のように、焼土が本土坑に帰属するものとすれば、埋め戻している可能性がでてくる。**〔深さ〕**約60cm。**〔壁・底面〕**崩れているためはっきりしないが、大きく外反するようである。壁上部礫ゴロゴロある砂礫層、下部～底粘土。**〔副穴等の付属施設〕**底面中央付近に直径約30cm、底面からの深さ約20cmの副穴検出。覆土は、にぶい黄褐色土（10ＹＲ5/4）シルト、ボソボソで根多く礫も落ちている。土坑中央付近覆土上部検出面で焼土検出。今回の調査では、土坑の覆土上部から焼土が検出されることが多く、偶然とは思われないので、本土坑の場合も、積極的な証拠はないが一緒に報告することにした。

〔出土遺物〕第31図68の土器（大木５ｂ～６式）、写真図版84の32、33（第31図に図示）の石器が出土。

〔時期〕出土土器と今回の調査結果全体から、縄文時代前期後葉の可能性がある。

第26号土坑（第17図、第31図、写真図版18）

〔位置・検出状況〕調査区東崖上土坑集中区。26Ｄグリッド。砂礫面で黒褐色～暗褐色土で検出。当初第27号土坑と連続したものに見え、第１号住居状遺構のような形の竪穴住居跡の類と考え、十字にベルトを設定して精査開始。重複部分が丁度ベルトの交差点付近にあり、底が広く平らであったり、地山が粘土と砂礫層が不連続で続いたり、壁が一部崩れていたり攪乱を受けていたりして、なかなか実態が掴めなかった。結局、同じように考えていた第21号、第22号土坑が２つの土坑の重複とわかり、本土坑も同様かと改めてベルト断面を詳細に検討して、２基の土坑の重複と判断した。**〔図・精査状況〕**南北（Ａ－Ａ′）断面の北側の上場測り間違いのため合わない。東側砂礫層が汚れていたため（根による攪乱？）掘りすぎた。底面の地山が、後述のとおりのため、北側は下げすぎの部分が多かった。**〔重複〕**南西側第27号土坑と重複。重複部分が十字ベルトの交差点付近にあり、底に段差がなく覆土も比較的似ていて、新旧関係がなかなか掴めなかったが、３層＝Ｂ－Ｂ′断面の７層と第27号土坑（Ａ－Ａ′断面）の３層の違いから、26号が新しいと判断した。

〔覆土・堆積状況〕上半黄褐色のⅤ層再堆積、下半黒褐色～灰黄褐色土。１層中に焼土粒多い所など細かい変化有り分層できそうだが、根による攪乱を受けているせいか線として分かれない。２層も中央から北と南で分かれそうだが、ベルトの裏面と対応しない。**〔深さ〕**西壁約１ｍ。

〔壁・底面〕壁が崩れておりはっきりしない。壁は大部分礫がゴロゴロする砂礫層だが（Ⅴ層）、西壁に一部粘土層がある。底は、北側1/3が壁と同じ砂礫層、南側2/3が白色粘土。

〔出土遺物〕(出土状況)南北ベルト南側１層下部付近から大きな土器片が２つ出土（写真図版18）。北側のａ土器は、東側に大きく傾斜し、南側のｂ土器は南側にやや傾斜している。

(遺物)第31図69～71の土器が出土している。いずれも大木６式か。

〔時期〕出土土器と重複関係と今回の調査結果全体から、縄文時代前期後葉の可能性がある。

第27号土坑（第17図、第31図、写真図版19）

〔位置・検出状況〕調査区東崖上土坑集中区。26Ｄグリッド。検出状況の詳細は、第26号土坑参照。南側の調査範囲外に続く。**〔図・精査状況〕**東西（Ｂ－Ｂ′）断面のＢ′（西）側の上場断面実測後崩れて平面図と

合わない。南北（Ａ－Ａ′）断面の上場も同様の理由で合わない。南東隅やや掘りすぎ。
〔**重複**〕北東側第26号土坑と重複。重複部分が十字ベルトの交差点付近にあり、底に段差がなく、覆土も比較的似ていて、新旧関係がなかなか掴めなかったが、３層＝Ｂ－Ｂ′断面の７層と第27号土坑（Ａ－Ａ′断面）の３層の違いから、26号が新しいと判断した。
〔**覆土・堆積状況**〕３層以外は比較的よく似た土で、砂礫多く含む汚れたＶ層の再堆積。３層は礫を非常に多く含む。〔**深さ**〕約60㎝。〔**壁・底面**〕崩れているためかはっきりしない。壁は礫がゴロゴロする砂礫層（Ｖ層）、底は白色粘土。〔**副穴等の付属施設**〕底面中央よりやや北西寄りに直径約40㎝、底面からの深さ約15㎝の副穴。覆土は、にぶい黄褐色土（10ＹＲ4/3）シルトで、ボソボソ。
〔**出土遺物**〕第31図72の土器が出土している。大木５ｂ～６式か。
〔**時期**〕出土土器と重複関係と今回の調査結果全体から、縄文時代前期後葉の可能性がある。

第28号土坑（第18図、第31図、写真図版19、84）
〔**位置・検出状況**〕調査区東崖上土坑集中区。26Ｄグリッド。砂礫面で明確な黒褐色のシミを検出。他の土坑に比べて黒く疑似現象に似ているが、副穴等も確認されており土坑として間違いないと思う。
〔**図・精査状況**〕地山が砂層のため崩れてセクションポイント紛失。壁が砂礫層のためはっきりせず掘りすぎた部分がある。〔**重複**〕ないと思われる。
〔**覆土・堆積状況**〕単層に近い黒褐色土。〔**深さ**〕約40㎝。〔**壁・底面**〕壁は直線的に外反するようである。壁～底礫ゴロゴロする砂礫層。〔**副穴等の付属施設**〕底面中央付近に直径約30㎝、底面からの深さ約20㎝の副穴を検出。当初は木根による攪乱と思っていた。覆土は５層。
〔**出土遺物**〕第31図73、74の土器（いずれも大木５ａ式か）、写真図版84の34の石器が出土。
〔**時期**〕出土土器から、縄文時代前期後葉（大木５ａ式期？）の可能性が高い。

第29号土坑（第18図、第31図、写真図版19）
〔**位置・検出状況**〕調査区東崖上土坑集中区。27Ｄグリッド。砂礫面で明確な黒褐色のシミを検出。他の土坑に比べて非常に浅く、覆土は黒く疑似現象に似ており、疑似現象の可能性もあるが、底面が明確に平らなことから土坑と認定。〔**図・精査状況**〕壁が砂礫層で崩れたため上場合わない。
〔**重複**〕ないと思われる。写真で第30号土坑と重複して見えるのは、間に根による攪乱があったため。
〔**覆土・堆積状況**〕浅いせいか暗褐色の単層。〔**深さ**〕西壁約30㎝。〔**壁・底面**〕壁は崩れているため不明。壁～底礫ゴロゴロする砂礫層。
〔**出土遺物**〕第31図75の土器が出土。大木５～６式か。
〔**時期**〕出土土器と今回の調査結果全体から、縄文時代前期後葉の可能性がある。

第30号土坑（第18図、第31図、写真図版19）
〔**位置・検出状況**〕調査区東崖上土坑集中区。27Ｄグリッド。砂礫面で明確な黒褐色のシミを検出。他の土坑に比べて非常に浅く、覆土は黒く疑似現象に似ており、疑似現象の可能性もあるが、底面が明確に平らなことから土坑と認定。〔**図・精査状況**〕壁が砂礫層で浅く認識しづらく、さらに崩れたため、上場全く合わない。〔**重複**〕ないと思う。写真で第29号土坑と重複して見えるのは、間に根による攪乱があったため。
〔**覆土・堆積状況**〕２層はＶ層の再堆積。〔**深さ**〕西壁約25㎝。

〔**壁・底面**〕壁は崩れているため不明。底は平ら。壁～底礫ゴロゴロする砂礫層。
〔**出土遺物**〕第31図76の土器出土。地文のみの小片のため時期不明。
〔**時期**〕今回の調査結果全体から、縄文時代前期後葉の可能性がある。

第31号土坑（第18図、第31～32図、写真図版20、84）
〔**位置・検出状況**〕調査区東崖上土坑集中区。26～27Dグリッド。検出面Ⅲ～Ⅴ層。東側遺物包含層の南端、東～南に砂礫（Ⅴ）層が広がる面で、周囲の包含層より黒く礫を多く含む覆土が円く広がっているように見えた（西側は包含層中なのではっきりしなかった）。西側、南西側にも掘り込んだ遺構らしきものが検出され、全体が一つの竪穴住居になる可能性もあると考え、十字にベルトを設定し、それに沿ってトレンチ状に掘り始めた。その結果それぞれ別の土坑と判明。〔**図・精査状況**〕セクションポイントのA′測り間違いのため合わない。西（A）側の上場、平面図と断面図測っている場所が異なるため合わない（断面ではより東側までたまたま残っていたため）。断面図は、上記トレンチで一部壊してしまっている。〔**重複**〕南西側の第45号土坑とは重複しているかどうか微妙で、間の包含層を掘ってしまっただけの可能性もある。
〔**覆土・堆積状況**〕４層はⅤ層の再堆積。その他は、濃淡や含まれるものの違いはあるが、基本的に同じ礫多く含む暗褐色～褐色土。断面中央に見える礫は人工的に配されたものかも知れない。調査時は周囲に礫が多く気が付かなかったが。そうした目で断面図を見直すと、２層がやけに水平なのが気になる。人為堆積の可能性もあるのかも知れない。〔**深さ**〕約50cm。〔**壁・底面**〕壁Ⅳ～Ⅴ層、底はⅥ層？で、一部粘土質のところがあり一様ではない。副穴底部分は赤くなっている。〔**副穴等の付属施設**〕底面中央より東寄りに約40×30cmの楕円形の副穴検出。底面からの深さ約10cmで、覆土は５層。
〔**出土遺物**〕第31図77～第32図83の土器、写真図版84の35～41の石器が出土している。77、81は大木５ａ～６式、83は６式、80は不明、その他は５ａ式か。
〔**時期**〕出土土器と今回の調査結果全体から、縄文時代前期後葉の可能性がある。

第32号土坑（第19図、第32図、写真図版20～21）
〔**位置・検出状況**〕調査区中央。25Cグリッド。東側包含層南端で、南端をⅤ層上面まで下げたところ、弧を描く褐色のシミを発見。調査で最後に登録された遺構。〔**図・精査状況**〕北側はⅢ層（Ⅲｂ～Ⅲｃ層）がまだ残っていて上場がはっきりしなかったため、サブトレンチを入れた。記録に残っていないので理由が定かでないが、なぜかその西側まで掘ってしまっている。〔**重複**〕東側遺物包含層の範囲内にあるが、検出時既にⅢｂ層以下まで下げてしまっていたので狭義の遺物包含層（Ⅲａ層）との新旧関係は不明である。
〔**覆土・堆積状況**〕上半黄褐色土、下半暗褐色土。〔**深さ**〕約50cm。〔**壁・底面**〕底面礫露頭。北東側壁上10cmⅢｂ層、その下12～20cmⅢｃ層、その下～底Ⅴ層、南西側は壁もⅤ層のみ。
〔**副穴等の付属施設**〕底面中央より南西寄りに直径約40cm、底面からの深さ約15cmの副穴検出。覆土は５層。土坑検出面で、北東側２カ所、土坑から約１m北西側に離れた場所に１カ所焼土が見られた。北東側２カ所のものは、土坑の覆土に形成されているのか、包含層に形成されているのか、はっきりせず、後述のように焼土の形成が弱いこともあり、他の土坑と違って本当に本土坑と関係するのか定かでない。おそらくは包含層中に形成（あるいは廃棄）されているものと思われるが、決め手もないので他と同様に掲載した。中央にある焼土は比較的残りが良く厚さ２cm程度にわたって焼土（褐色7.5ＹＲ4/6）が見られたが、他はちりぢりになってしまっていた。これは、黒土で焼土が形成されたため、下げすぎで削ってしまったため、現地性で

ないため、などの理由が考えられるが、不明である。北西側に離れた焼土は５㎜程度の炭化物が散っている。
〔**出土遺物**〕(**出土状況**) 底面から６㎝、４層中から比較的大きな土器片が南西方向に傾斜して出土（写真図版20～21＝第32図87)。(**遺物**) 第32図84～87の土器が出土。85は不明、他は大木（４～）５ａ式か。
〔**時期**〕出土土器から、縄文時代前期後葉（大木５ａ式？）の可能性が高い。

第33号土坑（第19図、写真図版21、84）
〔**位置・検出状況**〕調査区東崖上土坑集中区。26Ｄグリッド。Ｖ層検出面で暗褐色土の円いシミが二つ連結しているように見え、同時に半裁。〔**図・精査状況**〕平面図の測り間違いにより、底の副穴、礫断面図と合わない。東側の上場崩落したため断面図と合わない。第34号土坑との新旧関係をはっきりさせるため間にサブトレンチを入れた。〔**重複**〕前述のように、西側第34号土坑と重複する。断面では接しているように見え新旧関係ははっきりしないが、上面の検出状況では第33号が新しいように見えた。
〔**覆土・堆積状況**〕濃淡の差、含まれるものの違いはあるが、基本的には礫多く含むＶ層の再堆積土。ただし底付近は顕著に黒い。〔**深さ**〕約70㎝。〔**壁・底面**〕上場が砂礫層で崩れやすいためはっきりしないが、全周オーバーハングか。壁～底砂礫層（Ｖ層)。底面は特に大きな礫があり、副穴を囲んでいる（図示)。
〔**副穴等の付属施設**〕底面ほぼ中央に直径約30㎝、底面からの深さ約20㎝の副穴検出。
〔**出土遺物**〕４層の特に半裁した方から比較的多量の土器が出土。上記のような覆土のため、層ごとに遺物を取り上げるのは難しかった。掲載基準を満たす土器はなく、写真図版84の42、43他の石器出土。
〔**時期**〕今回の調査結果全体から、縄文時代前期後葉の可能性がある。

第34号土坑（第19図、第24～25図、第32図、第51図143（大木５ａ式？）？、写真図版21、84～85）
〔**位置・検出状況**〕調査区東崖上土坑集中区。26Ｄグリッド。Ｖ層検出面で暗褐色土の円いシミが二つ連結しているように見え、同時に半裁。〔**図・精査状況**〕西（Ａ）側の上場掘り広がったため合わない。後述のように土が難しく、重複部分にサブトレンチを入れた。〔**重複**〕前述のように、東側第33号土坑と重複する。断面では接しているように見え新旧関係ははっきりしないが、上面の検出状況では覆土の違いから第33号が新しいように見えた。北側は第42号土坑と重複する。新旧関係を把握するため間にサブトレンチを入れた(第24～25図)。この付近の地山は地点により異なり砂利が多く、それも根によるためか黒く汚れて見え、はっきりしない部分もあるが、境界土層の不連続性から第42号土坑が新しいと判断した。
〔**覆土・堆積状況**〕大部分が礫多く含むＶ層再堆積の黄褐色土だが、14層のみ暗褐色で顕著に違う。14層がないと疑似現象として処理するところである。なお、18層は注記漏れであり、お詫び申し上げる次第である。
〔**深さ**〕約60㎝。〔**壁・底面**〕覆土がＶ層再堆積の黄褐色土で地山もＶ層と区別がつき難く、また地山が地点によって異なっており、判断にかなり苦しんだ。壁は、南西側と北東側がⅣ層的で礫をほとんど含まず、それ以外はＶ層（砂礫層）で特に底は礫が多い。底は、根によるものか、砂利が黒く汚れて見える所もあり、掘り足らないのかと考えて、第42号土坑との重複部分は随分下まで掘り下げてみたが（第25図)、どこまでも続き、地山であることがわかった。
〔**出土遺物**〕第32図88、89の土器（時期不明だが88は６？)、写真図版84～85の44～46の石器が出土。
〔**時期**〕出土土器と重複関係と今回の調査結果全体から、縄文時代前期後葉の可能性がある。

第35号土坑（第20図、第32図、写真図版21～22）

〔位置・検出状況〕調査区中央西端。24Cグリッド。周囲は礫がゴツゴツ広がる面（Ⅴ層）で、褐色土が薄く広がる部分があり土坑の可能性を考えた。ただし、その部分には焼土も検出されたので、まずそれから精査した。断ち割ったところ下に礫層が続き周囲の礫層とは区別が付かなかった。その後晴天が続き乾燥して、褐色土の部分も周囲の礫層とほとんど区別が付かなくなった。すぐ南側に柱穴状の疑似現象がたくさん見られたこともあって（写真図版34)、これについても同様のものかと思い始めた。念のため半裁したが、はっきりせず、サブトレンチを入れて大幅に断ち割ってみても、周囲の礫層とほとんど区別が付かなかった。疑似現象に傾きかけたが、曇りの日断面に立ち上がりらしいものが確認できた。そこで雨の後に再度クリーニングしたところ、底と壁が確認でき上面でも褐色土が円を描いていることがわかり、土坑と認定した。**〔図・精査状況〕**西（A）側の下場、根による攪乱があり完掘時掘りすぎたため合わない。土坑上面に検出された焼土は、断面図西（B）側部分の上場認識違いで平面図と合わない。**〔重複〕**ないと思われるが、上面は柱穴状の疑似現象（根による攪乱と思われる）に攪乱されており、焼土も壊されている。

〔覆土・堆積状況〕ほとんど同じⅤ～Ⅵ層の再堆積で礫非常に多い。削平されているため当時の基本土層がわからず判断が難しいが、埋め戻されている可能性がある。**〔深さ〕**約70cm。

〔壁・底面〕壁～底Ⅴ～Ⅵ層。礫が非常に多く、むしろ底の方が少ない。**〔副穴等の付属施設〕**断面図を見ると、副穴らしい痕跡も窺われるが、礫層のためかはっきりと確認できなかった。上部検出面に焼土。Ⅴ層再堆積土が焼けているせいか、あまりはっきりしないが、現地性であることは間違いないと思われる。

〔出土遺物〕第32図90の土器が出土（大木５式？）。

〔時期〕出土土器と今回の調査結果全体から、縄文時代前期後葉の可能性がある。

〔分類・所見〕上面に焼土を検出、覆土も埋め戻されている可能性があることから、墓壙の可能性もある。

第36号土坑（第21図、第32図、第46図102～104（大木６式？）？、写真図版22～23、85）

〔位置・検出状況〕調査区東崖上土坑集中区。26Dグリッド。南側調査区境。Ⅴ層面で暗褐色土の二つの円が連結しているように見え、通して半裁。**〔図・精査状況〕**東（A′）側下場、掘り広がったのか掘りすぎたのか崩れたのか、合わない。覆土も壁も砂礫層のため区別が付き難く、特にわかりづらかった南東隅にサブトレンチを入れた。**〔重複〕**西側第37号土坑と重複し、断面および検出面から第36号の方が新しい。

〔覆土・堆積状況〕いずれもⅤ層再堆積の砂礫を多く含むが、比較的層によって内容が異なり、交互に近い状態で黄褐色土と暗褐色～黒褐色土が繰り返す。**〔断面形・深さ〕**北半分は、丸みを帯びた逆台形に近いが、上部は大きく広がるようである。ただし、南側はオーバーハングするようなので、これは崩れているためかも知れない。約80cm。**〔壁・底面〕**壁～底Ⅴ層で、大きな礫が露頭している。

〔副穴等の付属施設〕底の性状によるためか、確認できなかった。

〔出土遺物〕(出土状況)特に上半部から多くの土器が出土。２層下部から比較的まとまった土器が出土し、中央に向かって傾斜（写真図版22)。10層直上（７層）からも東側から中心に向かい滑り落ちたような状態で出土（写真図版23)。整理時のミスか土器に注記がなく特定できない。お詫び申し上げる次第である。

(遺物)第32図91～101他の土器、写真図版85の47の石器出土。98は大木６～７ａ式？、92（６式？)、93は不明で、他は大木６式と思われる。第46図102～104の土器も出土（102は微妙だが何れも大木６式？）？

〔時期〕出土土器と今回の調査結果全体から、縄文時代前期後葉の可能性がある。

第37号土坑（第21図、第32図、第46図102～104（大木６式？）？、写真図版23～24、85）

〔**位置・検出状況**〕調査区東崖上土坑集中区。26Ｄグリッド。南側調査区境。Ｖ層面で暗褐色土の二つの円が連結しているように見えたので通して半裁した。すぐ焼土が検出。〔**図・精査状況**〕上面の焼土を平面図に記録した後一気に底まで半裁。実は途中にも焼土があったのだが（22層）、調査員が確認した時には既に半裁されてしまっており、南側の広がりは捉えられなくなってしまった。お詫び申し上げる次第である。

〔**重複**〕東側第36号土坑と重複し、断面および検出面から第36号の方が新しい。検出面では、北西側にさらに暗褐色土が続き、別の土坑が重複しているものと考えていたが、精査の結果非常に浅く、また底もうねっていたので、たまたまⅢ層が残っていたものと考えた。根による柱穴状の攪乱も見られる。ただし比較的まとまった土器も出土している（写真図版24）。

〔**覆土・堆積状況**〕基本的には暗褐色～褐色土と黄褐色土の交互層で、最下部には黄褐色土。黄褐色土は基本的にＶ層の再堆積である。検出面直下と中位には現地性の焼土が見られる。積極的に埋め戻しが行われたとする根拠はない。25層と26、27層の堆積順序は当初振った番号と異なり、25→26、27のようである。

〔**深さ**〕約60cm。〔**壁・底面**〕壁は比較的直線的に外反するようである。壁～底Ｖ層。底は礫がゴロゴロしている砂層で、Ⅵ層か。北側の壁は礫が少なくⅣ層に近い。〔**副穴等の付属施設**〕底面の性状によるためか副穴は確認できなかった。検出面直下と覆土中位に焼土が検出されている。上位のものは比較的規模が大きく80×50cmの範囲で南西隅に不整形に広がり、最大厚10cm程度。その東側には炭化物が70×40cmの範囲で広がっている。厚さは１cm程度である。中位のものは南側を手違いで壊してしまったため規模等は不明。

〔**出土遺物**〕第32図105の土器（時期不明）他、写真図版85（一部第32図）の48～51の石器が出土。

〔**時期**〕重複関係と今回の調査結果全体から、縄文時代前期後葉の可能性がある。〔**分類・所見**〕検出面直下と中位に焼土が検出されているが、覆土は必ずしも埋め戻されているとも言えず、よくわからない。

第38号土坑（第22図、第32～33図、写真図版24～25、85～86）

〔**位置・検出状況**〕調査区東崖上土坑集中区、西端。25～26Ｄグリッド。南側調査範囲外。Ｖ層検出面暗褐色土で確認。規模が大きいので竪穴住居跡を想定して十字に土層観察用ベルトを設定し精査に取りかかった。底が予想以上に深く傾斜していたので土坑の重複を考えたが、覆土が上から下までＶ層の再堆積でよく似ていて判断が難しく、さらに５月のまぶしい晴天の日が続いて土が見えづらく迷い続けた。また地山が砂礫層のため、壁～底なのか覆土の続きで砂礫層の再堆積なのか判断が難しく、結局一つの大きな土坑と考えて良かろうと判断できたのは、曇りの日が続いた６月中旬頃のことである。なお、上面に検出された焼土は、当初別の遺構として登録精査していたが、調査で類例が多く確認されたので、報告時に一緒にした。

〔**図・精査状況**〕前述の地山のため、断面実測時には底が掘り足らなかったようで（土層注記でＶ層としたものは、Ｖ層ではなく再堆積らしい）、平面図と合わない。逆に完掘時には掘り過ぎや崩れなどもあり、形は確実ではない。特に北西部分は土がわからず大幅に掘りすぎてしまった。南西部分の掘りすぎは、焼土断ち割り時のトレンチによる部分が大きい。当初十字に残していたベルトは、一つの土坑と判断した時点で、南北側の部分を層ごとに掘り上げ、東西断面だけを実測撮影した。〔**重複**〕ないと思われる。

〔**覆土・堆積状況**〕濃淡の差、含まれるものの違いはあるが、基本的には礫多く含むＶ層の再堆積土。極めて似ており、十字ベルトの土層断面のつじつま合わせにかなり苦労した。〔**深さ**〕約１m。

〔**壁・底面**〕底面平ら。壁上60cmＶ層（砂主体）、その下～底Ⅵ層（礫ゴロゴロ）か。

〔**副穴等の付属施設**〕底面の性状によるためか副穴は確認できなかった。土坑検出面、南西隅～土坑外に直

径約60cmの焼土検出。ただし覆土の性状によるものかあまり焼けておらず、焼土が明確に形成されてはいなかったが、焼土断面図４層はカリカリと面的に火を受けており、これが焼土に相当すると思われる。

〔出土遺物〕(出土状況) 南東部分８層上面から比較的まとまった土器が出土しており（写真図版25、第33図122もここから出土)、中央に向かって傾斜し、そのまま断面中央の土器につながるものと思われる。

（遺物） 第32図106～第33図123他の土器、写真図版85～86の52～63が出土。107は大木５ａ式、113、115、117は不明、その他は大木６式と思われる。117は異系統の土器で「列孔浅鉢」系列か（第Ⅴ章参照)。

〔時期〕 出土土器と今回の調査結果全体から、縄文時代前期後葉の可能性がある。

〔分類・所見〕 焼土が検出されているが、覆土は礫が多く埋めもどしているかどうかよくわからない。

第39号土坑（第23図、第33図、写真図版25)

〔位置・検出状況〕 調査区東崖上土坑集中区、西端。26Ｄグリッド。Ⅴ層検出面褐色土で確認。

〔図・精査状況〕 覆土の性状と地山が砂礫層のため壁と底が見極めづらく、断面実測時に底だと考えていた礫層は再堆積土であったため完掘時大幅に掘り広がり、底は平面図と全く合わない。また上場も掘り広がったため合わない。**〔重複〕** ないと思われる。

〔覆土・堆積状況〕 濃淡の差、含まれるものの違いはあるが、基本的には礫多く含むⅤ層の再堆積土。第38号土坑よりさらに地山土に似ていたため大幅に掘り誤った。**〔深さ〕** 約80cm。

〔壁・底面〕 垂直に近い状態で直線的に外反するようである。壁上Ⅴ層、壁下20cm～底Ⅵ層（酸化して赤くなった砂層で大きな礫がゴロゴロ)。**〔副穴等の付属施設〕** 底面中央よりやや東側に直径約30cmの擂り鉢状の落ち込みが完掘時に確認されたが、単なる掘りすぎの可能性も高いため記録しなかった。

〔出土遺物〕 第33図124、125の土器が出土。124は大木５ａ式、125は大木５ｂ式か。

〔時期〕 出土土器と今回の調査結果全体から、縄文時代前期後半の可能性がある。

第40号土坑（第23図、第33図、写真図版25)

〔位置・検出状況〕 調査区中央。25Ｄグリッド。Ⅴ層検出面暗褐色土ではっきり確認。**〔図・精査状況〕** 後述のように第１号溝跡が重複していたので、溝跡の精査が終了してから土坑の精査に取りかかった。セクションポイントＡの側の上場突出部は、半裁時のサブトレンチによる掘りすぎである。北東側の上場の膨らみは、重機が側を歩いて崩れたものである。壁が砂礫層のため、それ以外にも雨水によって崩れているものと思われる。**〔重複〕** 西側第１号溝跡が北西から南東方向に重複。覆土が土坑に比べて濃く、検出面ではっきり溝跡の方が新しいと確認。土坑の平面図では、土坑が溝跡を切っているようにも見えるが、これは土坑精査後に作図したためであり、溝跡が土坑の覆土中まで広がっていたものが表現されていないからである。

〔覆土・堆積状況〕 濃淡の差、含まれるものの違いはあるが、基本的には礫多く含むⅣ～Ⅴ層の再堆積土。ただし上半部が暗く下半部が明るい。**〔深さ〕** 約80cm。**〔壁・底面〕** 壁が砂礫層で崩れているためはっきりしない。壁上60cmⅤ層、その下20cm～底Ⅵ層で、底は特に礫がゴロゴロしている。

〔副穴等の付属施設〕 底の性状によるためか確認できなかった。

〔出土遺物〕 第33図126、127の土器、64の石器が出土。126は不明、127は大木６式か５ｂ式。

〔時期〕 出土土器と今回の調査結果全体から、縄文時代前期後葉の可能性がある。

第41号土坑（第24図、第33図、写真図版26、86）

〔**位置・検出状況**〕調査区中央。24～25Dグリッド。Ⅴ層検出面暗褐色土ではっきり確認。南側調査範囲外。

〔**図・精査状況**〕覆土は比較的わかりやすい土であったが一部砂礫層の壁との違いに悩む場所があり、上場南西隅、底北東隅、南東隅は掘りすぎている。〔**重複**〕ないと思われる。

〔**覆土・堆積状況**〕基本的に暗褐色～褐色土と黄褐色土の交互層で、黄褐色土はⅤ層の再堆積。中央に黒くて炭化物を多く含む特徴的な８層がある。11層は南北で色調の濃淡が異なり三層に細分される可能性があるが、全体の性状が同じなので一層とした。８層を中心にして上下に大きく異なり、人為堆積の可能性も窺われる。〔**深さ**〕約80cm。〔**壁・底面**〕壁は垂直に近い。壁上50cmⅤ層、壁下20cm～底Ⅵ層。ただし第40号土坑と違って底の礫は壁際のみ。〔**副穴等の付属施設**〕底の性状によるためか確認できなかった。

〔**出土遺物**〕(**出土状況**) 半裁時、９層直上６層中南西隅40×20cmの長い礫が壁に沿って若干北東側に傾いて出土した。あまりに壁に沿っているので人為かと思ったが、検討の結果偶然の産物と判断。半裁で残した方の南隅、１層下部～３ａ層上面に比較的まとまった土器が出土。（**遺物**）第33図128～135の土器、写真図版86の65～67の石器が出土。133、134は不明、他は大木６式か。

〔**時期**〕出土遺物と今回の調査結果全体から、縄文時代前期後半の可能性がある。

第42号土坑（第24～25図、第34図、第51図143（大木５ａ式？）？、写真図版26～28、86～87）

〔**位置・検出状況**〕調査区東崖上土坑集中区。26Dグリッド。Ⅴ層検出面暗褐色土で検出。規模が大きいので検出時には住居状遺構かと考えていた。〔**図・精査状況**〕Ａ－Ａ′断面、後に掘り広がったり崩れたりしたところが多く、上、下場合わないところが多い。Ｃ－Ｃ′断面、Ｃ′（北側）の第44号土坑測り間違いか全く合わない。Ｄ－Ｄ′断面、西側（Ｄ）の上場は掘り広がったため、東（Ｄ′）側の上場は測り間違いのためか、合わない。断面図底に、副穴状のものが見えるが、完掘時底が下がったため平面図にはない。これが掘りすぎのためか、本来はないものを間違ってこう掘ってしまったものかはっきりしないが、７層は特徴的な土であることを考えれば、掘りすぎのためなくなった可能性が高い。お詫び申し上げる次第である。

住居状遺構かと考えていたので十字にベルトを設定し、さらに北東側に土坑が重複しているように見えたので（第43、44号土坑)、この部分にもベルトを残して精査を開始した。壁～底の土が地点によって大きく異なり、はっきりしなかったため、サブトレンチを南側第34号土坑との重複部分および北側底に入れている。サブトレンチ西側の壁は少し掘りすぎてしまった。南西隅の底も掘りすぎてしまった。

〔**重複**〕北西側第44号土坑と重複。その関係はＡ－Ａ′断面に示したように第42号土坑の方が新しい。ただし、基本的な覆土ははっきりと異なるが（さ層とし～す層)、境界付近は漸移的で（さ－し層)、また表土に近いためか根による撹乱を顕著に受けており、重複関係は明確には捉えられず、悩んだ結果である。南側第34号土坑と重複し、Ｃ－Ｃ′断面に示したように第42号土坑の方が新しい。第34号土坑の覆土は疑似現象と区別し難く、また周囲の地山が地点によって異なり、はっきりしない部分を残すが、第42号土坑の覆土との違いは明確なので新旧関係は間違いないと思う。

〔**覆土・堆積状況**〕最下部の７層を除いて、礫を大量に含むⅤ層の再堆積で黒褐色～暗褐色と黄褐色の交互層。７層は、黒褐色の粘土質シルトで特徴的な土である。〔**深さ**〕約80cm。

〔**壁・底面**〕壁の形は砂礫層のためはっきりしないが、オーバーハングはしないようである。直線的に垂直に近く外反する地点もある。地点により大きく異なり複雑で、壁はⅣ～Ⅴ層(北東隅はⅣ層、その他はⅤ層)、底は基本的にはⅤ層だが（砂礫層で礫大きい)、一部粘土のところがある（南東隅の第34号土坑近く)。北半分

の壁は礫が突き出ていてわかりやすく、掘りすぎはないと思っている。

〔副穴等の付属施設〕前述のように平面図には記録されていないが、あったと考えている。断面図から推測すると、直径約40cm、底面からの深さ約15cm。

〔出土遺物〕(出土状況)ベルトの交差点付近の土坑中央部１～３層、特に４層との境付近から多くの土器が出土し、いずれも中央に向かって傾斜。南東から撮影した写真図版26の右列一番下の、一番上（北）の内面を向けている大きな胴部破片がａ土器、その左のベルト角にあるのがｂ、同じくベルト隅に立っている底部円板がｄ、その上の底部がｆ、ｄとｆの右（東側）の比較的まとまっている破片類がｃ、ｃの上（北）のベルト端にかかっているものがｈ（磨製石斧)、ａとｆの間のベルト隅の土器小片がｅ、ｃの下から出てきたのがｇ。ａ～ｈは２層下面から出土。これらの下の同じく２層下面から、写真図版27（同じく南東から撮影）の左列の上から２番目の土器群が出土、中央やや右下の内面を向けている大きな破片がｋ土器、その左のベルト隅にある一群の土器がｊ、その上の破片のまとまりがｉである。これらも中央に向かって傾斜している。その下の３層からも比較的まとまって土器が出土しているが（写真図版27＝第34図145)、ａ～ｋ土器と異なり南北ベルト中のより南側から出土したが、やはり中央方向、北東に向かって傾斜している。

（遺物）第34図136～148他の土器、写真図版86～87の68～71他の石器が出土。ｈ遺物の磨製石斧の所在が不明で、お詫び申し上げる次第である。141～143、147は大木５ａ式、136、139、144、146、148は不明、他は大木６式か。

〔時期〕出土土器と重複関係と今回の調査結果全体から、縄文時代前期後葉の可能性が高い。

第43号土坑（第24～25図、第34図、第34図156（時期不明）？、写真図版27～28、87)

〔位置・検出状況〕調査区東崖上土坑集中区。26Ｄグリッド。Ⅴ層検出面褐色土で検出。第45号土坑と連続して見えたこともあって規模が大きく検出時には竪穴住居跡かと考えていた。また北側の遺物包含層と連続して境界ははっきりしなかった。**〔図・精査状況〕**Ａ－Ａ′断面、後に掘り広がったり崩れたりしたところが多く、上、下場、合わないところが多い。Ｂ－Ｂ′断面、セクションポイントＢ′、Ｂ（西）側の上場、副穴、測り間違いのため合わない。規模が大きかったので十字に土層観察用ベルト（以下、ベルト）を設定して掘り始めた。その際、北側の範囲がはっきりしなかったので、遺物包含層の途中まで延長して設定した。また南西隅が別の土坑（第44号）と重複しているとわかっていたので、ここにもベルトを設定した（Ａ－Ａ′)。Ａ－Ａ′は記録後すぐ除去し、その後、十字ベルトの南北ベルトも、本遺構が土坑であり南北方向には遺構が重複していないとわかったので、記録せず除去した。壁がわかりづらく、南西隅はサブトレンチを入れ、北東側は掘りすぎた。**〔重複〕**南西隅第44号土坑と重複し、第43号の方が新しい（Ａ－Ａ′断面参照)。第44号は基本的に暗褐色土を覆土としており本土坑とははっきり異なるので間違いないと思う。東側第45号土坑と重複し、第43号の方が新しい（Ｂ－Ｂ′断面参照)。第45号も第44号と同様暗褐色土を基本として区別は容易であったが、こちらの場合はすぐ近くによく似た６層があり、やや悩んだ。結局６層は第45号の覆土が再堆積したものではないかと判断した。

〔覆土・堆積状況〕上半部Ⅴ層の再堆積を基本とした黄褐色～褐色土で区別が付きがたい。下半部暗褐色土とⅤ層再堆積の黄褐色土の交互層、特に６層は特徴的な暗褐色土で粘土質、７層はⅤ層再堆積土に暗褐色土が混じったもの。全体的としてもともと似た土である上に地点による様子が異なり、ベルトの表裏、東西の連続性につじつまを合わせるのに苦労した（特に上半部)。**〔深さ〕**約１ｍ。

〔壁・底面〕壁がわかりづらくはっきりしないが、垂直に近く立ち上がるところが多いようである。壁は場

所によって異なり、北側は礫層、東側は礫なし砂層、その他は礫混じり砂層、底は第42号土坑と同様（底の標高がほぼ同じ）の粘土質土で（Ⅳ層に近い）、南側はオレンジ（明黄褐）色を呈している。副穴部分は酸化して赤い砂層である。〔**副穴等の付属施設**〕底面ほぼ中央に、直径約50cm、深さ約40cmの副穴がある。覆土は７ｂ～９層である。これに、南西側から幅約20～40cm、長さ約60cm、底面からの深さ約６cmの溝、南東側から幅約15cm、長さ約30cm、底面からの深さ約６cmの溝が続く。

〔**出土遺物**〕第34図150～155他の土器、写真図版87の73～76他の石器が出土。150、153は不明、他は大木４～５ａ式か。第34図156（時期不明）も出土？

〔**時期**〕出土土器と重複関係と今回の調査結果全体から、縄文時代前期後葉の可能性がある。

第44号土坑（第24～25図、第34図、第34図156（時期不明）？、写真図版28、87）

〔**位置・検出状況**〕調査区東崖上土坑集中区。26Ｄグリッド。Ｖ層検出面暗褐色土で検出。〔**図・精査状況**〕Ａ－Ａ′断面、後に掘り広がったり崩れたりしたところが多く、上、下場合わないところが多い。Ｃ－Ｃ′断面、第44号土坑測り間違いか全く合わない。重複している第42、43号土坑と一緒に精査し、新旧関係を見るために通してベルトを設定（Ａ－Ａ′）。〔**重複**〕北東隅第43号土坑、南西側第42号土坑と重複し、最も古い（Ａ－Ａ′断面参照）。第44号は基本的に暗褐色土を覆土としていて他の土坑とはっきり異なるが、第42号との境界付近は漸移的で（さーし層）、また表土に近いため根による撹乱を顕著に受けており、重複関係は明確には捉えられず、悩んだ結果である。第43号との関係は比較的とらえやすく間違いないと思う。

〔**覆土・堆積状況**〕第42、43号土坑と顕著に異なる暗褐色土で砂礫ほとんど含まない。〔**深さ**〕約20cm。

〔**壁・底面**〕壁は比較的直線的に外反するようである。壁～底礫少ない砂層（Ｖ層）。

〔**出土遺物**〕（**出土状況**）底ほぼ中央付近、第42号土坑への落ち際に半完形の土器が出土（写真図版28＝第34図159）。底面直上ではなく、底から10cm程度浮いていて下にはさ層が入る。第42号土坑に向かって緩やかに傾斜しているので、第42号土坑の掘削時に何らかの影響を受けているものと思われる。（**遺物**）第34図158、159他の土器、写真図版87の77他の石器が出土。158は大木６～７ａ式、159は５ａ式？

〔**時期**〕出土状況から159に近い時期と考えられ、縄文時代前期後葉の可能性がある。〔**分類・所見**〕覆土が周囲の土坑と顕著に異なるので古いのかと考えていたが、出土土器からは必ずしも言えないようである。

第45号土坑（第24～25図、第34図、写真図版28）

〔**位置・検出状況**〕調査区東崖上土坑集中区。26Ｄグリッド。Ｖ層検出面暗褐色土で検出。第43号土坑と連続して見えた。〔**図・精査状況**〕Ｂ－Ｂ′断面、セクションポイントＢ′、第43号土坑のＢ（西）側の上場、副穴、測り間違いのため合わない。北西側第43号土坑と重複していたため通して断面観察用ベルトを設定して精査開始。東壁および底中央掘りすぎ。〔**重複**〕西側第43号土坑と重複し、第43号の方が新しい（Ｂ－Ｂ′断面参照）。第44号と同様暗褐色土を基本として区別は容易だったが、本土坑の場合はすぐ近くによく似た６層があり悩んだ。結局６層は第45号の覆土が再堆積したものではないかと判断。北東側に第31号土坑があるが、重複しているかどうかは微妙で、間の包含層を掘ってしまっただけの可能性もある。

〔**覆土・堆積状況**〕暗褐色土（11層）を基本とし、上面にＶ層起源の土との混土層（10層）があるが、その間は漸移的ではっきり分かれない。暗褐色土は第44号土坑に似るが、より多く礫含む。〔**深さ**〕約30cm。

〔**壁・底面**〕壁は垂直に近い状態で外反するようである。壁はⅣ層を基本とし一部Ｖ層（砂利層）。底は所々礫露出するＶ層。〔**副穴等の付属施設**〕重複著しく不明だが、ないと思われる。

〔**出土遺物**〕第34図160の土器が出土している。地文のみで時期は特定できないが、大木５式に似る。
〔**時期**〕重複関係と今回の調査結果全体から、縄文時代前期後葉の可能性がある。〔**分類・所見**〕覆土が第44号土坑と似るので古いのかと考えていたが、出土土器からは必ずしも言えないようである。

第46号土坑（第25図、第34図、写真図版29、87）
〔**位置・検出状況**〕調査区中央。25Dグリッド。Ⅴ層検出面褐色土ではっきり確認。
〔**図・精査状況**〕壁と底はっきりせず今回の調査で検出された疑似現象に似るが、検出面での平面形は整形に見え、覆土は他の疑似現象と大きく異なってⅣ層の汚れた再堆積といった感じで、新しいものではないと思う。半裁時、底がはっきりしなかったため掘りすぎ。〔**重複**〕ないと思われる。〔**覆土・堆積状況**〕単層で、礫ほとんど含まないⅤ層再堆積。〔**深さ**〕約20cm。〔**壁・底面**〕壁は垂直に近く外反するところが多いようだが、南半分は崩れており、だらだらと立ち上がる。壁～底はⅤ層（砂層）で礫は少ない。
〔**出土遺物**〕第34図161（時期不明）、写真図版87の78の石器が出土。
〔**時期・所見**〕時期を特定するものがなく、精査状況からは古いと言い切れなかったので最後に報告した。

3．溝跡

調査区中央の平坦な場所に１基検出。出土遺物はなく、時期ははっきりしないが、近世の可能性が高い。

第１号溝跡（第26図、写真図版29）
〔**位置・検出状況**〕調査区中央。25Dグリッド。Ⅴ層検出面ではっきりと確認。南東側調査範囲外から北西方向に延び、途中で途切れているが、ここから北西方向に地山面の傾斜が急になり表土（拳大の礫を多量に含む）が厚く堆積していたことから、溝の底が地山に達していなかったため、この先を確認できなかったのだと思われる。検出した範囲は表土下10cmで地山が見られ、削平されているため溝跡はほぼ平坦な地形に立地する。〔**図・精査状況**〕Ｂ－Ｂ′断面測り間違いのため平面図と合わない。
〔**重複**〕第40号土坑と重複し溝跡の方が新しい。覆土が明らかに異なり（周囲の縄文の遺構より濃い土）検出面のプラン（平面形）ではっきりと確認できた。
〔**覆土**〕灰黄褐色土～にぶい黄褐色土。表土の土とほとんど同じ。礫は全くと言って良いほど入っていない。
〔**平面形・規模**〕南東側調査範囲外に続き、前述の理由で北西側途切れているため、規模は不明。検出した範囲では、長さ約７m、幅約30cmで、北西隅に北側に枝分かれしている可能性が窺われたが、同様の理由によるものか途切れているため、はっきりと確認できなかった。〔**深さ**〕約15cm。〔**壁・底**〕壁は崩れているためかはっきりしない。壁～底ほぼⅣ層、一部Ⅴ（砂）層。〔**出土遺物**〕なし。
〔**時期**〕前述のように、北西部分は表土に底があったものと推測される。このことから、現在の地形に沿って溝が掘られていると推測され、溝は調査区中央部が削平された後に掘られたと考えられる。近世以降の可能性が高いが、検出状況からはそれほど新しいように思われないので、近世の可能性がある。

4．遺物包含層（第５図、第27図～第28図、写真図版30～33）

調査区の西端と中央付近に離れて、縄文時代前期後半を主体とする遺物包含層が２箇所確認されたが、調査範囲北側が既に工事に入っていたため別々に確認されただけで本来は一連のものと思われる。

西側遺物含層（第５図、第27図、写真図版30～31、出土遺物は第Ⅴ章）

〔位置・概要〕調査区西端～中央付近。20～24グリッド列付近。北側に傾斜する斜面に形成。

調査開始時試掘トレンチで遺物が多く出土するのを確認していた。重機で表土を剥いだところ、遺物を多く含む黒土は大きく広がり、当初調査予定範囲外だった斜面下の北西隅まで広がることがわかった。今回の調査範囲の北側は既に河川改修工事に入っていたため不明だが、包含層の様子、出土土器の時期などから、やや離れて検出された東側遺物包含層と一連のものと思われる。

〔調査方法・経過〕調査範囲全体の検出作業は、重機による表土剥ぎの後、東端から順次西端に向かって押し進め、その結果、西側遺物包含層の東端付近は地形の改変が大きく行われていることがわかった。遺物を多く含んでいるが、改変後の二次堆積で（礫を非常に多く含む）、斜面上を削平した時に押し出したものと思われた。また、今回の調査では、まとまった排土置き場は調査区中央南側の尾根頂部にしか求められないので、斜面下にある包含層の排土をそこに運ぶにはベルトコンベアーが不可欠と思われ、その導入を希望し認められた。６月上旬のことである。この間に、委託者、県教育委員会との話し合いで調査範囲の（包含層が続くとわかった）北西隅拡張が決定していた。

６月はやはり雨の日が多くて作業が遅れ、遺物包含層の精査に入れたのは７月中旬のことであった。この時点で既に当初の予定期間（６月いっぱいまで）を過ぎており、いつまでかかるか五里霧中という状態だったので、この頃から８月下旬までほぼ毎日担当課長補佐の現地指導・援助を受け、遺物包含層の精査は基本的に補佐にお願いし、調査員は土坑類の精査に専念した。

まず、全体の概要を掴むため幅２ｍのトレンチを入れることとし、大グリッド21の列の小グリッド４の列を全て抜いた。その結果、地山まで四層に細分され、ＮＨⅡ、ＮＨⅢ層から基本的に遺物が出土することがわかった。遺物包含層自体の規模は、約45㎡（150㎡×厚さ0.3m）と推定された。

７月下旬から精査に入り、途中東側遺物包含層と平行して精査しながらも８月下旬にはほぼ終了し、続いて地山面で検出作業を試みたが、遺構は検出されなかった。風倒木痕が見られただけである。

遺物包含層は、出土量が多いので２×２ｍの小グリッドで遺物を取り上げることとし既に杭（プラスチック）も打っていたが、当初の調査予定期間を既に過ぎていたこともあり、補佐の指導によって５×５ｍの中グリッドで取り上げることになった。精査は、スコップ、ジョレンを基本とし、移植ゴテを併用したようである。排土は、ベルトコンベアーで調査区中央南側の範囲外に上げていたが、調査区中央の精査が終了してからは調査区内にも置いた。また調査区西側の範囲外の原野にも少し出している。

〔包含層の様子〕前述のように、ＮＨⅡ、ＮＨⅢ層が基本的な遺物包含層である。なお、「ＮＨ」は西側包含層の頭文字をとったもので、基本土層（Ⅰ～Ⅵ層、Ⅲ層が遺物包含層）は調査区中央から東側で確認し、調査時には東側遺物包含層（Ⅲ層）と同じものか確信が持てなかったので、新たに層名を与えたものである。調査後の今では、Ⅲａ層＝ＮＨⅡ～Ⅲ層と考えている。

礫を含む比較的均質な黒褐色土が広がり、投げ込み焼土や地山掘削土などはほとんど含まず、「捨て場」と言うよりは「遺物包含層」と呼ぶのがふさわしいと思われる。詳細は報告者が確認しておらず記録がないので不明である。お詫び申し上げる次第である。なお、基本的な遺物包含層の下に顕著な黒土（ＮＨⅣ層）が広がり、これは東側包含層でも見られるが（Ⅲｂ層）、遺物はほとんど含まず、その正体は不明である。

〔遺物の出土状況〕石器の出土は非常に少ない。包含層は礫を多く含んでおり、それと混同して捨ててしまっている可能性もなくはないが、現地で調査員も確認しているので、少なかったことだけは確かである。土器については、整理時に確認した限りでは、完形やそれがそのまま押しつぶされたような形で土器は出土し

ていないようであり、足りない部分が多い。詳細は報告者が確認しておらず不明で、お詫び申し上げる。
〔**出土遺物**〕第Ⅴ章相当グリッド部分参照。残念ながら取り上げ層位に混乱が見られる（第Ⅴ章冒頭参照）。
〔**時期**〕大木５～６式を基本として、他の時期の遺物が混じるといった状態である。
〔**所見**〕出土土器から推測すると短期間に形成された包含層のようである。そのため上下に厚さ（層位差）を持って遺物が出土しなかったのだと推測される。

東側遺物包含層（第５図、第28図、写真図版31～33、出土遺物は第Ⅴ章）
〔**位置・概要**〕調査区中央付近～東部北側。25～27グリッド。北側に傾斜する（急）斜面に形成。調査範囲の北側は既に河川改修工事に入っていたため不明だが、おそらくもっと北側まで続いていたと推定され、また、包含層の様子、出土土器の時期などから、離れて検出された西側遺物包含層と一連のものと思われる。
〔**調査方法・経過**〕重機で表土を剥いだ際に、黒褐色土（Ⅲ層）が北縁辺部に残っており遺物が多く出土することを確認したが、北側は既に工事に入っていて崖になっており、どのように精査したものか思いあぐねていた。結局、調査第一課長の指導で全部精査することになり、その際の安全対策として足場の設定を委託者にお願いし、設定は７月上旬に行われた。

設定後、精査は調査区北縁に防波堤状に残していた表土を取ることから開始した。７月下旬には、包含層の概要、遺構の検出状況を見るためにトレンチを入れ始めた。急斜面で包含層が厚いことから安全性を考慮して広く掘ることとし、大グリッド26の列の中央（中グリッドを東西に分ける軸線）から４ｍを抜いた。その結果、Ⅲａ層を基本的な遺物包含層とし、遺物包含層自体の規模は約45㎥（150㎡×厚さ0.3m）と推定された。傾斜が急なせいか風倒木痕等の疑似現象（第28図１～12層）のみで遺構は検出されなかった。

８月中旬近くから本格的な精査に入った。遺物の取り上げ方、精査の道具、排土の出し方などは、西側包含層と同様であり、こちらも調査課長補佐に監督をお願いした。

南端の平坦な部分で土坑（第32号土坑）１基、周囲に焼土が認められたが、包含層自体は比較的単純で西側包含層に比べ遺物の出土も少なかったことから、８月下旬には精査は終了した。27Ｃ～Ｄ付近に広がる黒土は、ほとんどⅠ層のみでⅢ層はないに等しかった。厚さも20cm程度である。

断面（１）をとった場所は幅１ｍのベルト状に残して、層ごとに遺物を取り上げた(「**東側包含層ベルト**」)。その際、ベルトの西面（図面をとっていない方）の北端近くから焼土が検出されたが、Ⅲａ層とⅡ層の間で（両層に接している）、ブロック状になっており上面には炭化物は検出されず現地性のものではない可能性があり、なおかつ検出面から新しい可能性が高い（少なくとも縄文時代以後）ので、記録は取らなかった。厚さは５～７cmであった。

包含層精査終了後地山面で検出を試みたが、傾斜が急なせいか、やはり遺構は検出されなかった。
〔**包含層の様子**〕前述のようにⅢａ層が基本的な遺物包含層である。西側包含層と対比すればⅢａ層＝ＮＨⅡ～Ⅲ層と思われる。具体的な様子は西側包含層参照。なお、基本的な遺物包含層の下に顕著な黒土が広がり（Ⅲｂ層）、これは西側包含層でも見られるが（ＮＨⅣ層）、遺物はほとんど含まず正体は不明である。
〔**遺物の出土状況**〕西側遺物包含層と同様であるが、「東側包含層ベルト」からは、大木５ａ式土器が特に出土している（第110図667～第111図676）。層位差はないが地点差はあったのかも知れない。
〔**出土遺物**〕第Ⅴ章相当グリッド部分参照。残念ながら取り上げ層位に混乱が見られる（第Ⅴ章冒頭参照）。
〔**時期**〕西側遺物包含層と同様である。〔**所見**〕西側遺物包含層と同様である。

V. 遺　物

今回出土した遺物は、縄文土器（30×40×30cmのコンテナ）92箱、土師器２片、土製品は30点（土器？２点、土偶16点、耳栓５点、不明２点＝イチジク形土製品？１、クマ形土製品？１、円盤状土製品４点、焼粘土塊１点）、石器は160点、石器製作時の剥片が5,094.79ｇ、石製品は16点（石剣類12点、その他４点）である。この他、近世以降の水路跡覆土付近から馬の骨が出土したが、近代以降と思われるので報告しない。

遺物の記載は図と表で行い、本文中にはその補足と概要のみ記したので、ここで、図版、写真図版、表を見る際の留意事項について述べておく。

本章では遺構出土の遺物も含めているが、それぞれ、その種類の遺物の中で最初に並べている。遺構出土の遺物は、第Ⅳ章の最後に遺構ごとの集成図を掲げているので参照していただきたい（第29図～第34図）。個々の遺物（遺構内）の出土状況は第Ⅳ章を参照していただきたい。

遺構外出土の遺物は、遺構出土遺物の後に出土位置の順（はっきりしているもの→はっきりしないもの、はっきりしているものはグリッド順としているが、若干混乱がある）に並べている。**出土位置の欄**の遺構の①、②等については第Ⅳ章の冒頭部分、グリッドの①、②については第Ⅲ章を参照していただきたい。**「東部包含層ベルト」**は、第Ⅳ章第４節参照。**「重機から～」**は重機で剥いだ面から下に○cmという意味であり、**「10～20cm」**も同様で重機で剥いだ面下10cmから下20cmまでに出土したという意味である。

なお、**遺物包含層での遺物の取り上げに混乱**が見られ、西側包含層（20、21Ｂ～Ｃグリッド等）にはⅢａ～ｂ層はないが、そうした記載がしばしば見られる。おそらく層かグリッドが間違っているものと思われるが、報告者の記載でないこともあり修正は不可能である。またⅡ層（Ⅲａ層）など、ⅡとⅢの書き間違いとも思われる記載もあるが、これについても報告者が関与していないこともあり修正は不可能である。出土地点が不明瞭なものが多くなってしまい、お詫び申し上げる次第である。

１．縄文土器（第35図～第111図、写真図版35～81）

〔概要〕大コンテナ（30×40×30cm）で92箱出土し、全て前期～中期前葉の土器のようで、前期前半の土器が十数点、それ以外は前期後半～中期前葉、中でも大木５～６式が85箱以上と大部分を占める。

〔掲載基準〕口縁部は５×５cm以上、胴部は10×10cm以上の破片、底部のみの場合は一周しているもの、小型土器は1/2以上のものを掲載しているが、遺構内はこの限りでなく、基準を満たさない土器でも必ず１点以上は掲載している。また、出土点数が少ない時期・型式、他と大きく異なる特徴を持つ土器も、この限りでなく積極的に掲載している。

〔記載要領・表の見方〕記載は基本的に図と表で行ったので、最初にその作成要領、表を見る際の留意事項について述べておく。外面、内面の観察事項の欄の「→」は施文順序を表す。備考の欄の付着物の「ス ス」「吹きこぼれ」「おこげ」は、厳密に区別しておらず、単に付着している量によって分けている（右に行くほど多い）。「焼けはじけ」とは、煮炊きによって土器の表面に直径0.5～１cm程度の円がたくさんできたように剥落した状態を示し、剥落がひどい場合を「ただれている」と表現している。上記以外の事項については本章の冒頭部分を参照していただきたい。

〔出土状況〕遺構内遺物の個々の出土状況は第Ⅳ章を参照していただきたい。出土量は、縄文時代前期後葉

（大木５～６式）が大半を占め（92箱中85箱以上）、土坑を中心にした遺構内、遺物包含層から出土している。遺物包含層では大木４式も比較的多く出土している。第21号、第42号土坑では、大木６式の共伴関係がある程度押さえられた。

〔型式学的特徴〕ミニチュアおよびやや変わった器形と思われるのは、55？、88、117（**列孔浅鉢？**→表の補足参照）、134？、177、189（輪積痕）、203（大形深鉢）、233、252、293（大形深鉢）、294（浅鉢）、332、339、342、343、355、380、388（輪積痕）、417（輪積痕）、480、499、507、513、517、543、584、585、627である。

この時期には「オオバコ回転文」という擬縄文が時々見られ（千葉　2001：p.200）、今回の調査でも、75？、535にそれらしいものが見られた。

その他、特に気のついた点として、隆帯は、縄文施文の後貼付し、その後特に器面にナデつけないものが多いので、剥落している場合が極めて多い。成形時も同様にナデつけていないせいか、輪積痕がはっきりしていたり、そこから剥離している土器が極めて多い。器壁が厚い土器は、粘土を貼り合わせているためか表面が剥落している場合が多い。縄文は、右撚りか左撚りかはっきりしないものが多い。半裁竹管状工具に似ながら先端が二股に分かれる刺又状工具といったもので施文している場合が見られた。色調は、大木３式はススが付着しているものが多いせいか黒いという印象が強く、４、５式は赤、黒両方あり、６式は赤っぽいものが多い。

〔時期・型式〕時期・型式を同定するに当たっては参考文献に掲げたものを参照したが、今回の調査では大木７ａ式然とした土器が少なく大木６式と区別し難いものが多かったこと、大木４式と大木５ａ式の間も同様で、さらに報告者が十分にその違いを理解し得なかったため、特にこれらの間は同定間違いがあるものと思われる。

縄文時代前期初頭～前葉（早稲田６類？）と思われるのは、58、191、601。

前期前～中葉と思われるのは、８（大木２ａ式？）、33（大木１式）、178（大木１式？）？、363（大木１式？）、448（大木１式？）、602（大木１式？）。

前期中～後葉と思われのは、23（大木３式？）、277（３式）、291（３式）？、292（３式）、317＝319（３式）、400（３式？）？、423（大木２ｂ式？？）、548（３式）、587？（３？、６式？）、626、657。

前期後葉（大木４式）と思われるのは、14？、151（＝154）？、152？、172、181？、186、200？、201（～大木５ａ式）、243、269、284、285、286、307、324（～５ａ式）、361、362、365、382、392（～５ａ式）、394？、395？、399（～５ａ式）、421（～５ａ式）、450？、457（～５ａ式）？、467？、470（～５ａ式）、494、514、586（～５ａ式）、600（～５ａ式）、603？、623？、637？、648、662？、667？、669？

中期初頭（大木７ａ式）の可能性もあるものは、130（大木６～７ａ式）、176？、231（６～７ａ式）、246（６～７ａ式）、249（６～７ａ式）、255（６～７ａ式）、268？、596？？

中期前葉（大木７ｂ式）の可能性のあるものは、171、591？。

異系統と思われるのは、117（列孔浅鉢。関東系？？）？、270（円筒下層ｄ２式系？）、357（円筒下層ｄ２式系？）、383（十三菩提式系？）？？、625（円筒下層ｄ２式系？）。

上記以外は、縄文時代前期後葉～末（大木５～６式）に相当する可能性が高い。前期後葉～末の相当型式名は、遺構内出土土器に関しては、個々の遺構の記載中に記しているので第Ⅳ章を参照していただきたい。遺構外については後述。

（１）遺構出土の土器（第35図１～第53図167、写真図版35～44）

（ａ）住居状遺構出土の土器（第35図１～第36図10、写真図版35）

基本的には大木５ｂ式～６式、中でも６式が主体を占めている。

以下、表の補足。**１**は、①・３層出土が6/7、③～④出土が1/7。**２**の施文順序は、口縁隆帯→縄文→文様、ナデ。頸～胴部はＲＬヨコ同時施文で、その後頸部に半裁竹管状工具で施文。頸部は、口縁と胴部の境を半裁竹管状工具による沈線で区画しているが、所々一本線になっている。口縁の鋸歯文は、太くやや深め。内面輪積み痕。**３**の突起内面肥厚。**４**の内面整形、工具痕残り、雑（ケズリに近い）。**５**の取り上げは、③～④が16/21、３層が２/21、４層が３/21。

（ｂ）土坑出土の土器（第36図11～第53図167、写真図版35～44）

異型式も混じるが、基本的には大木５ａ式～大木６式が出土している。

以下、表の補足。**21**の取り上げは、ｃ土器が3/8、ｄ土器が4/8、９層？が1/8。波状口縁？、施文順序は、縄文→文様、ボタン状貼付文→沈線文様。**31**の下の割口は、粘土接合面からの剥離。**32**の内面整形は、土師器のそれのようにはっきり見え、突起部分はナナメ、頸部はヨコ、胴部はタテにナデている。**42**の胴部施文は、LR（０段多条）＋末端タテ→ナデだが、一部０段多条でない別の原体ＬＲをタテに転がしている。外面口縁部剥落。**43**の上下の割れ口、粘土接合面からの剥離。**47**の内面のススは底には付着していない。上の割れ口（上段、中段とも）粘土接合面からの剥離。**48**の突起は三山で、胴部文様は突起に対応して４単位。口縁部の刺突列は半裁竹管状工具によるものだが、工具の先端は弧を描かず四角く箱状。刺突列の下は、太く浅めの小刻みな鋸歯状沈線。施文順序は、胴部→口縁、胴部は半裁竹管状工具による沈線文様→ボタン状貼付文の上ナデ。外面の胴部下半～底部の直線的な部分はナデ。内面は、胴部突出部から下はスス～おこげ付着。外面摩耗ひどい。**49**の突起右脇に凹み。文様は全て半裁竹管状工具による。**66**の口縁部、口縁に沿って山形と頸部に水平方向にＬＲの側面圧痕。**74**の口唇～口縁外側に鋸歯状隆帯貼付。**86**の突起上は、中央に１つとそれを取り囲む刺突列。**92**内面のススは胴下半のみ付着するが、底にはない。底面の割れ方から成形方法を推測すると、中央に円盤があり、その周囲に粘土紐を回して積み上げていくという手法が取られたようである。**93**の外面、下から８cmの屈曲部を境に、上はスス状付着物、下は二次焼成で赤い。内面も、ほぼそれに対応して、下部にはスス状付着物（ただし底面にはない）。**98**は**104**と同一個体？　**108**の出土位置は、②が1/2、③が1/2（やや多い）。**117**の「列孔浅鉢」は原田昌幸氏による（原田　1996：p.35）。小杉康氏の「木の葉文浅鉢」(小杉　1985）に含まれるようであり、奢侈品の一種と考えられている。ここではより限定的な原田氏の用語を用いた。**122**の出土位置は、８層上面1/9、その直下7/9、４層が1/9。口縁、太く深めの沈線、刺突列は半裁竹管状工具によるが、先端は円くなく四角い。**123**の下の割れ口粘土接合面からの剥離。**128**の出土位置は、７層中心黄褐色土1/5、１層最下部～３層4/5。内面下から約６cmおこげ付着。その境に対応するように外面も、下は二次焼成で赤く、上はススが付着するが、一部底までススが付着している。**137**の原体、結束１（LRとＲ？）。**138**の取り上げ位置は、ｃ土器が2/9、ｇ土器が1/9、ｋ土器（２層下面）が2/9、２層が2/9、④が2/9で、④で取り上げた部分は口縁から底まで点々と続く。施文順序は、胴部縄文→頸部、底部付近ナデ(胴部自体も所々ナデ)。底面ナデ。**139**の内面、底から３cm上おこげ付着。**140**の取り上げ位置は、ｊ土器（２層下面）38/60、３層１/60、④（第34号土坑）18/60、「クリーニング時」３/60。口縁1/3周、底部付近4/5周残存。内面、底から10cm以下ス付着するが、一部口縁まで幅10cmで帯状に続く。製作時に粘土を貼り合わせているせいか、外面剥落しているところが多い。文様は４単位で、口縁部は半裁竹管状刺突列を充填、頸部には同工具押し引きにより鋸歯文を描く。**153**は内面おこげ付着するが、幅７cm程度帯状

にないところがある。**165**内面のおこげは、胴部屈曲部から下に付着。**167**内面のおこげは底面にはなく、ただれている。外面摩耗。

（２）遺構外（遺物包含層含む）出土の土器（第54図168～第111図676、写真図版44～81）

縄文時代前期初頭～前葉（早稲田６類？）と思われるのは、191、601。前期前～中葉と思われるのは、178（大木１式？）？、363（大木１式？）、448（大木１式？）、602（大木１式？）。前期中～後葉と思われるものは、277（３式）、291（３式）？、292（３式）、317＝319（３式）、400（３式？）？、423（大 木２ｂ式？？）、548（３式）、587？、626？、657。

前期後葉（大木４式）と思われるのは、172、181？、186、200？、201（～大木５ａ式）、243、269、284、285、286、307、324（～５ａ式）、361、362、365、382、392（～５ａ式）、394？、395？、399（～５ａ式）、421（～５ａ式）、450？、457（～５ａ式）？、467？、470（～５ａ式）、494、514、586（～５ａ式）、600（～５ａ式）、603？、623？、637？、648、662？、667？、669？

中期初頭（大木７ａ式）の可能性もあるものは、176？、231（６～７ａ式）、246（６～７ａ式）、249（６～７ａ式）、255（６～７ａ式）、268？、596？？中期前葉（大木７ｂ式）の可能性のあるものは、171、591？。異系統と思われるのは、270（円筒下層ｄ２式系？）、357（円筒下層ｄ２式系？）、383（十三菩提式系？）？？、625（円筒下層ｄ２式系？）。

上記以外は、縄文時代前期後葉～末（大木５～６式）に相当する可能性が高い。

大木５ａ式と思われるのが、168、180？、187（４式～）？、189、190、206、207、216（４式～）？、217（～６式）、218≒219？、233（４式～）？、241（４式～）？、242（４式～）？、253？、257、259？、260、280～282、287、293、295？、297、298、301、305？、308（４式～）？、316、323、325、328、330？、334、335？、336（～５ｂ式）？、341、344（４式～）？、348、349？、353（～５ｂ式）？、364、367、373（４式～）？、374、388、390（～５ｂ式）？、391、393？、396、397？、398、401～404、407（～５ｂ式）？、408～410、411（～５ｂ式）？、412、413？、414？、417？、420（～５ｂ式）？、429？？、430～432、434？、435？、436、437（～５ｂ式）？、440、442、443、444（～５ｂ式）？、445、446？、447、449（～５ｂ式）？、451、452、453～454（～５ｂ式）？、456（～５ｂ式）？、458（～５ｂ式）？、459、460、468（～５ｂ式）？、469、473、475＝476、477、478、479？？、481、482、487？、488、489（～５ｂ式）？、497、501（～５ｂ式）？、503、505、506、507（～５ｂ式）？、515？、523、526、528？、530（～５ｂ式）？、531、537、542？、544？、545、547（～５ｂ式）？、559（～５ｂ式）？、562（４式～）、572、575（４式～）、576、577（～５ｂ式）？、580？、619（～５ｂ式）？、622？、635（４式～）？？、642？、643（４式～）、645？、650（～５ｂ式）？、651（～５ｂ式）？、653？、659～660（～５ｂ式）？、663？、669、670（～５ｂ式）？、671？、672（４式～）、673～675、676（～５ｂ式？）？

大木５ｂ式と思われるのが、170、188、195（～６式）、209？、215、221、226、227、240？、252？？、262？？、273、290（～６式）、296（５ａ式～）、299、304？？、310（５ａ式～）？、311？、345？、350？、359、381、384、385？？、386＝387、416？、418？、419？、422？、424、425＝426？、427（５ａ式～）？？、439（５ａ式～）？、441？、462、463、471、474（５ａ式～）、486？、495？、496？、498、500？、502（～６式）、508？、509？？、511？？、512？？、532？、533？、534？、552？？、554？、555（５ａ式～）？、556、565？、566？、570（～６式）、571？、574？、579？、610、616（～６式）？、634、661？、667～668？

大木６式と思われるのが、173＝193、174、175？、179、182、183、184？、192、194、196？、197、199

(～７ａ式)？、202(～７ａ式)、203、204(～７ａ式)、205(～７ａ式)、208(５ｂ式～)、210～212、213(５ｂ式～)、214、222(６式最古)、224、225？、228(５式～)、229、230、232、234、235、237、238、245、247？、248、250、251、254、256、258、271、274、276、278、283、300、302、312～314、321、322、326、329、332、351？、366、368、369、370(５ｂ式～)、371、372、375、376、377＝378(６式 新？)、379、389、405、428(６式最古)、433？、438、461、464(６式最新？)、465、472？？、483≒484(５ｂ式～)？、485、493、504？、516、520～522、525、537、539、541？、546、549、550？、551、557、561、563(～７ａ式)、564(５ｂ式～)、567、569？、578、582、588、589、592、594、595、597、598、599？？、604～608、609(～７ａ式)、611～613、614(～７ａ式)、615、617、618、620、621、629(～７ａ式)、630～633、636(～７ａ式)、638～641、644、646、647、649(５ｂ式に近い)、652、654、655、656、658、664、665(６式最新)、666。

以下、表の補足。**171**の口縁中央、LRとRLを縦位交互に押圧し、上の刻目列との境はＬの、下の刻目列との境はＲの側面圧痕で水平方向に区画。**172**の内面は、胴部最大径から下におこげ付着し、その境に対応するように外面は、上部にスス付着し下部は二次焼成で赤い。隆帯剥落しているため、文様意匠不明。**176**の内面、下から２cm以下黒い。**178**の口縁最上部、隆帯、隆帯上部、Ｃ字形爪形文列。**197**の出土位置は、21Ｂ①・Ⅱ(Ⅲａ)層56/63、21Ｂ①・Ⅲ(Ⅲｃ)層2/63、21Ｂ③・Ⅲ(Ⅱｂ)層2/63、21Ｂ④・Ⅲ(Ⅱｃ)層3/63。口縁1/5周残存。内面、底から頸に向かって三角形状に黒く、その周囲は赤い。外面は、胴部突出部以下はスス状付着物。**203**の出土位置は、21Ｂ①・Ⅲ(Ⅲｃ)層3/18、21Ｂ③・Ⅱ(Ⅲａ)層10/18、21Ｃ③・Ⅲ層(倒木痕)５/18。口縁が一番残り良く、ほぼ一周している。口縁部文様、下の刺突列は低いマウンド状の隆帯の上にある。**210**の出土位置は、21Ｂ②・Ⅱ(Ⅲｃ)層2/4、21Ｂ③・Ⅲ(Ⅲｂ)層1/4、21Ｂ④・Ⅱ層1/4。口縁部突起は丸みを帯び口唇またぐ。外面ススは、胴部突出部より下に付着。**222**の出土位置は、21Ｂ③・Ⅲ(Ⅲｂ)層3/21、21Ｂ③・Ⅱ(Ⅲａ)層2/21、21Ｂ③・Ⅱ(Ⅲｂ)層15/21、21Ｃ③・Ⅲ層(倒木痕)1/21。口唇の刻目列は、４単位のようだが場所によって数が異なり、残存部では４つと７つ以上がある。４つの方の口縁内面には半裁竹管状工具による波状文、７つ以上の方には縄文がある。口縁最上部の刻目列は、口唇の刻目列のない場所に施される。胴部は、LRヨコ→半裁竹管状工具による文様、底部ナデ(ケズリに近い)。胴部上部の大形鋸歯文は、口唇刻目列とは位置ずれる。**228**の出土位置は、21Ｂ③・Ⅱ(Ⅲａ)層1/11、21Ｂ③・Ⅲ(Ⅱｃ)層9/11、21Ｃ①・Ⅲ(Ⅱｃ)層1/11。**230**の出土位置は、Ⅱ(Ⅲｂ)層が1/2、Ⅲ(Ⅱｃ)層が1/2。口唇～口縁最上部の刻目は、太く深い物(図左端)、爪形状(中央)、半裁竹管状工具による物(右端)の三種があり、爪形状が最も多い。輪積み部分で顕著に割れている。**232**は、口縁1/4周、頸部1/2周(最良)残存。底部付近ナデ。残存状況は、外面頸部以下ただれ、内面胴部突出部以下ただれ。外面底部粘土接合面からの剥離。**233**の出土位置は、Ⅲ(Ⅲａ)層1/4、Ⅱ(Ⅲｂ)層1/4。口唇部の刺突は、三角形、円形、長方形の変化あり。**237**の外面の残存状況は、頸部より上黒、胴部突出部より下黒、その間オレンジ色。**239**の出土位置は、21Ｂ④が9/10、21Ｃ③が1/10。**244**の内面整形、底から３cmより上は幅２mmの篦状工具による縦位の連続した工具痕があり、その下は滑らかな(痕跡の残らない)ナデ。外面二次焼成で赤い。**248**の出土位置は、Ⅱ層2/8、Ⅱ(Ⅲａ)層3/8、Ⅲ層3/8。**265**の内面整形、底から７cmより上タテナデ、その下ヨコナデ。**267**の取り上げ位置は、21Ｃ４ａ・20～30cm(茶褐色土)が1/5、21Ｃ４ｂ・30～40cmが1/5、25Ｃ②・Ⅲ層が3/5。**269**の取り上げ位置は、21Ｃ４ａが1/7、21Ｃ②が6/7。**270**の内面のナデ、土師器のそれに似る。**278**の取り上げ位置は、21Ｃ４ｂ・重機５～10cm4/30、21Ｃ４ｂ・10～20cm3/30、21Ｃ①・Ⅱ層が21/30、21Ｃ②・Ⅱ(Ⅲａ)層2/30。**279**のスス付着、外面底から10cmより上に付着、内面はそれより下に付着するが一部口縁まで続く。**283**の取り上げ位置は、21Ｃ４ｂが9/14、21Ｃ②・Ⅱ(Ⅲａ)層4/

14、21C④・Ⅱ（Ⅲａ）層1/14。外面色調、胴部突出より下は赤く、口縁部は赤、黒両方、その間は黒い。**287**の口縁1/3周強、胴部1/2周残存。文様は６単位？、細部は異なっている。外面、口縁部はスス多く、胴部下半部の変化点より下は二次焼成を受けて赤く、その間はややススが付着。**293**の出土位置、22B③が14/15、22C①が1/15。**294**の出土位置、21C①が1/6、21C②が5/6。

307の出土位置、Ⅱ(Ⅲａ)層1/18、Ⅱ(Ⅲｂ)層17/18。**308**の出土位置、21C①が2/3、21C②が1/3。**310**の出土位置、Ⅱ(Ⅲｂ)層4/5、Ⅲ(Ⅲｃ)層1/5。胴部上部変化点から上スス付着、底から約４cmより下二次焼成で赤い。**314**の出土位置は、21C①・Ⅱ(Ⅲｂ)層2/5、21C②・Ⅱ(Ⅲａ)層が2/5、21C④・Ⅱ(Ⅲａ)層1/5。**353**の出土位置は、21B③・Ⅱ(Ⅲｃ)層2/8、21B③・Ⅲ(Ⅱｃ)層1/8、21C③が5/8。**371**と**372**、同一個体らしい。**373**の内面、貫通孔の横にもう一つ貫通していない孔あり。**383**の半裁竹管状工具の先端丸くなく四角い箱形。文様は他と異質で短沈線を充填しており、十三菩提式系か（むしろ五領ヶ台式系？）。**385**の外面、下から６cmより上はススが付着して黒く、その下は二次焼成で赤い。その境界線に対応して内面も上は赤く、下は黒っぽい。**390**の取り上げ位置は、②が3/16、④が12/16、排土1/16。口縁突起４単位？、胴部文様は口縁突起と対応しておらず６単位か。**391**の口縁部1/4周残存。突起は剥落しているが、口唇突起は蛇行隆帯？、口唇～外面は鋸歯状隆帯。内面のナデ、上の方は指なでのせいか凹凸ある。内面下1/2ス付着、剥落部分にも。底面接合面からの剥離（図では表現されていない）。**392**の口縁部4/5周残存。口縁部の隆帯小波状だが細かい単位（粘土紐）には分かれないようだ。胴部の原体附加条のようにも見えるが単なる条の高低らしい。内面整形雑でケズリに近い。底面接合面からの剥離。外面上部スス付着。**394**の貼付文、細部異なり剥落著しいため単位不明。外面、輪積み痕顕著に残り(高さ約1.5cm)、ほぼこれに対応して口縁最上部ほぼ一周帯状に剥落。外面、底から７cmより上は一部スス付着、下は二次焼成で赤い。内面もその境界に対応して上は黒、赤、下は一面黒いが底は赤。**395**は口縁が一番残りよく4/5周残存。口唇貼付文剥落ひどく全体の形不明。外面二次焼成ひどいせいか(全面赤)、一部幅10cm帯状に上から下まで摩耗(その横黒斑が)。内面は底から３cmより上、口に向かって広がる帯状に黒く(下方はスス付着)、その横は赤い。**396**は口縁一番残り良し。２波状で間は口唇～外面にドーナツ状貼付文２。これに対応して、胴部文様も２種２単位か。波頂部下に貫通孔。外面剥落。**407**の外面、胴部下部変化点より上はスス付着、下は赤く二次焼成。内面は全体黒いが、外面の境界線に対応して下はススが濃い。**412**の内面整形ケズリに近い。内面波頂部以外ススス付着。**413**の口縁1/3周残存。口縁弧状貼付(単位不明)。内面底以外は黒く、底は肌色でただれている。**415**の外面、幅７cmの帯状に底から上までただれ～摩耗。**422**の頸部の下の太い隆帯上ｃ字形刻目文で、その他の隆帯の上は竹管状刺突。**424**の内面上部指なで風に凹凸あるが、下部は普通のナデ。**425**＝**426**。**495**の出土位置、③18/19、④1/19。外面下部二次焼成で赤い。外面一部摩耗、隆帯剥落。内面下部剥落。**506**の出土位置、25B④が1/4、25C②が3/4。外面、胴部突出部より上スス付着、下二次焼成で赤い。内面は波頂部以外は全面スス付着。**508**の出土位置、25B④が5/9、25C②が1/9、25C④が3/9。外面、胴部突出部より上スス付着、下二次焼成で赤い。その境界に対応して、内面上赤く、下スス付着。**509**の外面下から５cm二次焼成で赤く、その上スス付着。内面は、下から12cmスス付着、その上二次焼成で赤い。**520**の出土位置、25C②が１/17、25C②付近が3/17、26C④付近が13/17。口縁一番残り良く3/4周以下、胴部は1/2周以下。**525**の口縁部突起は、剥落しているため形不明。内面頸部以下スス付着。外面二次焼成か。**558**の取り上げ位置、26C①・検出面、26C①～③・Ⅰ～Ⅲ層上部、26C①～③・Ⅰ～Ⅲ層上部、26C③・Ⅲ層（最も大きな破片で2/3占める）だが、注記の不備により割合不明。**587**の出土位置、26C②が1/10、26C③が9/10。口縁1/4周。外面下部二次焼成で赤く、上部スス付着、器面がもろもろで縄文よく見えないが、頸より上はそれほどでもない。繊維は含まない？

605の外面突出部より上黒く、下オレンジ色。607の下部割れ口、粘土接合面からの剥離。646の出土位置、27D①・表土2/9、27D①～②・表土3/9、27D③～④抜根時が4/9。667の口縁厚ぼったく重い。内面整形、上部ヨコナデ、下部タテナデ。外面二次焼成のよる摩耗。676の口唇部刻目二箇所部分的に集中するが、欠損しているため全体は不明。外面二次焼成で摩耗。内面、頸部の屈曲（口から５cm）から下ススが付着しているのか黒い。

参考文献

稲野彰子　1991「大木式土器にみられる球胴形深鉢について」『北上市立博物館研究報告』８
興野義一　1968～1970「大木式土器の理解のために（Ⅲ）」～「大木式土器の理解のために（Ⅵ）」『考古学ジャーナル』18、24、32、48ニューサイエンス社
1970「大木５ｂ式土器の提唱」『古代文化』22－４（財）古代学協会
1981「糠塚貝塚について」『迫町史』迫町史編纂委員会
1984「大木式土器について」『宮城の研究第１巻　考古学篇』清文堂
1996「山内清男先生供与の大木式土器写真セットについて」『画竜点睛』山内先生没後25年記念論集刊行会
工藤竹久　1989「縄文尖底系土器様式」『縄文土器大観１　草創期　早期　前期』小学館
小杉　康　1985「木の葉文浅鉢形土器の行方」『季刊考古学』12（特集縄文時代のものと文化の交流）雄山閣
小林達雄ほか　1989『縄文土器大観１　草創期　早期　前期』小学館
1988『縄文土器大観３　中期Ⅱ』小学館
髙橋亜貴子　1992「東北地方縄文時代前期前葉組縄縄文について」『東北文化論のための先史学歴史学論集』加藤稔先生還暦記念会編
千葉正彦　2001「Ⅵ．まとめと考察」『清水ヶ野遺跡発掘調査報告書』(財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター（第351集）
丹羽　茂　1989「中期大木式土器様式」『縄文土器大観１　草創期　早期　前期』小学館
芳賀栄一　1985「大木５式土器と東部関東との関係」『古代』80（西村正衛先生古希記念　石器時代論集）早稲田大学考古学会
原田昌幸　1996「押出遺跡出土品の意味するもの」『第３回特別展　縄文のタイムカプセル押出遺跡』山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館
三宅徹也　1982「円筒土器」『縄文文化の研究３　縄文土器Ⅰ』雄山閣
1989「円筒土器下層様式」『縄文土器大観１　草創期　早期　前期』小学館
山内清男　1979『日本先史土器の縄紋』先史考古学会

２．土師器（第54図169、第91図491、写真図版44、68）

ロクロ成形の坏が２片出土している。

３．土製品（第112図～第115図、写真図版99～101）

今回の調査で出土した土製品は30点で、土器？２点、土偶16点、耳栓５点、不明２点（イチジク形土製品？１点、クマ形土製品？１点）、円盤状土製品４点、焼粘土塊１点である。以下、それぞれについて概要と表の補足を述べていく。なお、表の見方などの注意事項は本章の冒頭に述べている。

（１）土器？（第112図１、２、写真図版99）

土器と思われるが確信が持てないもの。２点出土した。

（２）土偶（第112図３～第114図18、写真図版99～100）

16点出土。18は出土位置から大木５ａ式期の可能性がある。小笠原好彦氏の編年（小笠原　1984）と併せて考えれば、７はやや古く、大木４式期？、14、18は大木５ａ式期？、その他の多くは大木６式期と思われる。

以下、表の補足。**7**は胴部中央に粘土塊の接合に使った可能性のある痕跡が見られ、上部の窪みから下の割口まで3～4×6㎜の貫通孔が続いており、その横にも痕跡的な貫通孔？が途切れ途切れに続いている。**13**の右上の割口にも、粘土塊の接合に使った可能性のある直径約３㎜程度の棒状痕跡が見られる(写真図版99)。**14**は中央と腕部に貫通孔があり、中央はその周りに粘土紐が貼付されている。

（３）耳栓（第115図19～23、写真図版101）

５点出土。22、23は、耳栓でない可能性も高い。

（４）不明（第115図24、25、写真図版101）

類例を見つけられなかった土製品である。２点出土。24はイチジク形土製品の可能性もあると指摘されたが、先端部分がないので何とも言えない（佐藤　2002)。

（５）円盤状土製品（第115図26～29、写真図版101）

４点出土した。比較的はっきり研磨痕を残すものが多い。

（６）焼粘土塊（写真図版101の30）

１点出土した。2.3×3.2×0.6cm、6.19ｇである。肌色を基本とし一部オレンジ色を呈している。

参考文献

小笠原好彦　1984「縄文時代前・中期の土偶」『宮城の研究第１巻　考古学篇』清文堂出版

佐藤淳一　2002「大清水上遺跡」『考古学ジャーナル』487ニューサイエンス社

４．石器（第116図～第120図、写真図版82～98、観察表は写真図版の方にある）

〔**概要**〕石器は160点、石器製作時の剥片が5,094.79ｇ出土した。うち43は、タール状にススが付着するもので、単なる自然礫ではないと思われるが通常の石器とは異なり石製品とするのもなんなので、ここに含めた。**石製品の13**は、こちらに含めた方が良かったかも知れない。器種別の内訳（点数）は次々項参照。土器に比べ石器の量が非常に少ないのが今回の調査の特徴である。

〔**分類**〕石器の分類は、大工原豊氏の分類を参考にした（大工原　1998)。打製系列、使用痕系列（研磨痕・敲打痕により石器と認識できるもの)、複合技術系列（直接打撃・敲打・研磨を複合的に用いる）の三つに大別され、打製系列は、押圧剥離系列（調整に押圧剥離を多用)、直接打撃系列（調整に直接打撃を多用）からなる。各系列の主要な器種として、押圧剥離系列には石鏃、石錐等が、直接打撃系列には打製石斧等が、使用痕系列には凹石、敲石等が、複合技術系列には磨製石斧等が入る。押圧剥離系列の石器製作の過程で出る剥片を剥片Ａ類、打製系列のそれを剥片Ｂ類とした。

〔**出土点数**〕以上の分類に基づくと、石鏃13点、石匙22点、スクレイパーＡ類・Ｕフレイク・Ｒフレイク83点、打製石斧６点（Ａ類３点、Ｂ類３点。石製品の13も？)、磨敲器類24点（凹石３点、敲石13点、磨石10点)、石皿２点、砥石１点、磨製石斧７点、剥片Ａ類4,958.03ｇ、剥片Ｂ類136.76ｇが調査で出土した。

〔**掲載基準**〕トゥールは全て、石器製作時の剥片も遺構内は全て掲載した。ただし図化は最小限にとどめた。

〔**記載要領・表の見方**〕写真だけのものも多いので観察表は写真図版の方に掲載した。掲載順序は、遺構内については出土位置（遺構）に従って、遺構外については分類に従っている。その他、本章の冒頭部分参照。

（１）石鏃（５、14、55、64、84～92）

13点出土し、遺構内から４点出土した。全て基部が扇状に窪む凹基である。

（２）石匙（21、33、48、77、93～110）

22点出土し、遺構内から４点出土した。

（３）スクレイパーＡ類・Ｕフレイク・Ｒフレイク（2、3、12、15、17、18、19、23、24、28、34、35、36、39、45、51、53、60、69、74、78、111～172）

押圧剥離系列およびその製作の過程から派生すると考えられる、定型化していない剥片石器類で、欠損してわからなくなった定形石器（特に石匙）、Ｕフレイク、Ｒフレイクやピエス・エスキーユもここに含める。83点出土。

（４）打製石斧（173～178）

６点出土した。二種類に分け、Ａ類は通常のもの、Ｂ類は薄い板状で石剣の未製品とも考えられるものとした。それぞれ３点ずつ出土している。

（５）礫石錘（179）

１点出土した。

（６）磨敲器類（凹石、敲石、磨石）

これらは使用痕が複合することが多いので一緒に扱う。24点出土し、使用痕が複合する183、193を複数カウントすると凹石は３点、敲石13点、磨石10点、その内訳は以下の通りである。

・**凹石**（49、180、181）

・**敲石**（13、44？、61？、62？、76？、183、192～198）

・**磨石**（50？、182～189、193）

（７）石皿（190、191）

遺構外から２点出土。自然礫をそのまま使用したものである。

（８）砥石（199）

１点出土した。

（９）磨製石斧（６、200～205）

７点出土し、遺構内から１点出土。

参考文献

大工原豊　1998「縄文時代の石器研究の方法」『遺跡・遺物から何を読みとるか』（帝京大学山梨文化財研究所研究集会報告集１）岩田書院

５．石製品（第121図～第123図、写真図版101～102）

今回の調査で出土した石製品は16点で、石剣類12点、その他４点である。以下、それぞれについて概要と表の補足を述べていく。なお、表の見方などの注意事項は本章の冒頭に述べている。

（１）石剣類（第121図１～第123図12、写真図版101～102）

遺構外から12点出土した。10は出土地点から大木５ａ式期の可能性がある。

（２）その他（第123図13～16、写真図版102）

13は、石材、製作技術からは打製石斧のＢ類に含められるものであるが類例があまりないので石製品として扱った。14は自然礫に穴を穿ったものである。15と16は軽石で、15は周囲を研磨加工している。

Ⅵ. 考　察

報告書の見積もりが甘く紙数が足りなくなってしまったので、若干の私見を述べて考察としたい。

1．遺跡の性格

本遺跡の今回の調査区の様子を時期別に見ていく。

・縄文時代前期前半

土器片がごく僅かながらほぼ全期間を通じて出土している。

・縄文時代前期後葉（大木３～６式期）

大木３式から土器の量が次第に増加し、５ａ式からは急カーブを描き６式でピークに達する。大木５ａ～６式期には、調査区東の斜面に土坑が掘られ（墓壙として使用したと推測されるものがある）、調査区中央には大木６式期の住居状遺構がある。北側斜面の伊手川に向かってものを捨てていた。土偶や石剣類は出土しているが、なぜか玦状耳飾はない。集落の中心は、調査区の南側にあったものと推測される。

・縄文時代中期前葉（大木７ａ～７ｂ式期）

突然土器の量が激減し前期前半の状態に戻る。近くの大中田遺跡（第１表２）に移住したのかも知れない。

・平安時代

土師器坏の破片が２点出土しているので、近くに竪穴住居跡があったのかも知れない。

・近世以降

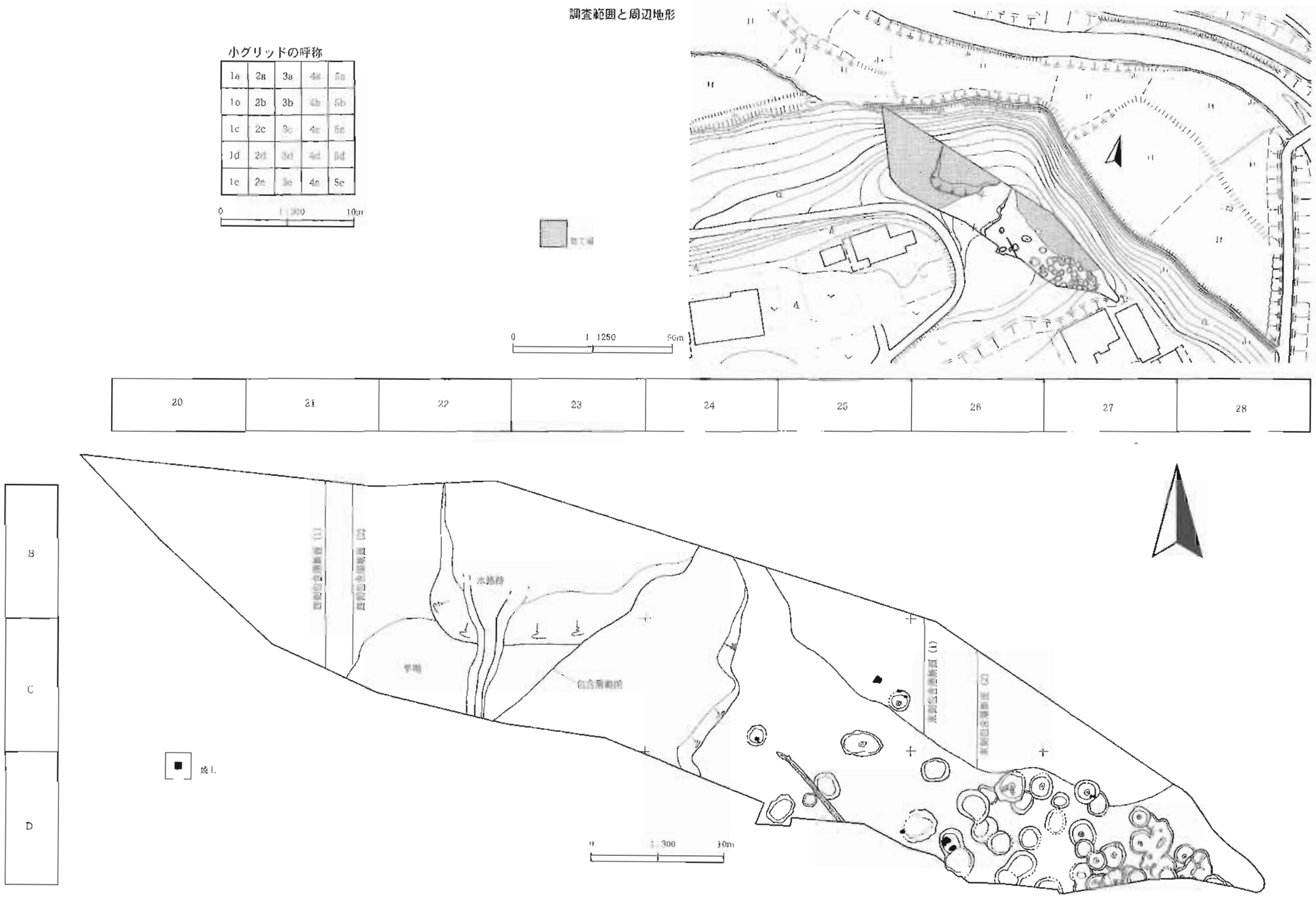
調査区南側に人が住み、調査区内でも水路を初め様々な地形の改変を行ったようである。

2．地域の中で

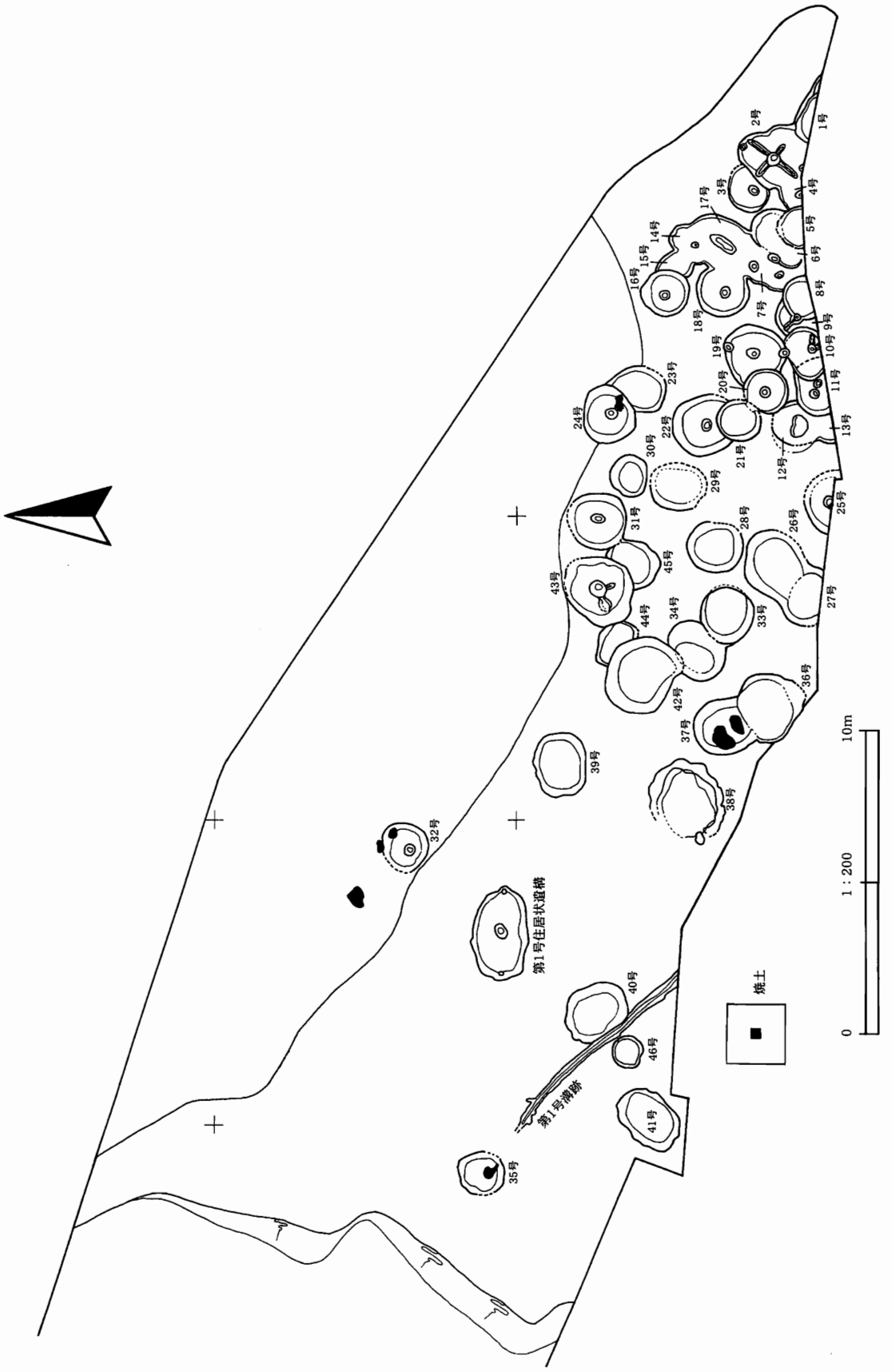
昨年岩手県における縄文時代の集落史を通観する中で（金子　2001ｂ）、前期後半から中期前葉までの出土土器量、遺跡数の変動が、関東地方と東北地方（大木式分布圏）で丁度ネガ・ポジの関係にあることを改めて思い知った。関東地方で激減する大木５式期から土器が急増し、壊滅的になる６、７ａ式と多く、復活する７ｂ式になると激減してしまうからである。この傾向は特に北関東で顕著なことから（今村　1992）、人の移動を考えたくなるが、今村啓爾氏は、土器型式の在り方から否定する（今村　1997：p.58）。確かに、該期の土器は、基本的には自律的で系統的に変遷し他地域の影響を考える必要はない。しかし、腑に落ちない点もある。今村氏は、関東地方のそれを自然環境の変化に伴う人口減少の結果ととらえているようだが（今村　1992：ｐ.86）、それが突発的な災害に伴うものでないなら（同上：p.113）、人は手をこまねいてただ死んでいくだろうか。より良い環境に移動するのが自然ではないだろうか。土器製作のメカニズムもはっきりと解明されているわけではない。土器の製作は土着民にしか許されていなかったという想定も今のところあり得ないことではないだろう。壊滅的な関東地方の十三菩提式が大木式に影響を与えている（稲野　1991：p.４）というのも考えてみれば不自然な話である。時代や社会の変化時における人の移動は、他の時期にも想定される（金子　2001ａ）。当該期の研究者の積極的なアプローチを期待したい。

参考文献

稲野彰子　1991「大木式土器にみられる球胴形深鉢について」『北上市立博物館研究報告』８
今村啓爾　1992「縄文前期末の関東における人口減少とそれに関連する諸現象」『武蔵野の考古学－吉田格先生古稀記念論文集－』吉田格先生記念論文集刊行会（協力　立正大学考古学研究室）
1997「縄文時代の住居址数と人口の変動」『住の考古学』同成社＜2000年２刷を引用＞
金子昭彦　2001ａ『遮光器土偶と縄文社会』（ものが語る歴史シリーズ④）同成社
2001ｂ「岩手県における縄文時代集落の諸様相」『第１回研究集会基礎資料集　列島における縄文時代集落の諸様相』縄文時代文化研究会

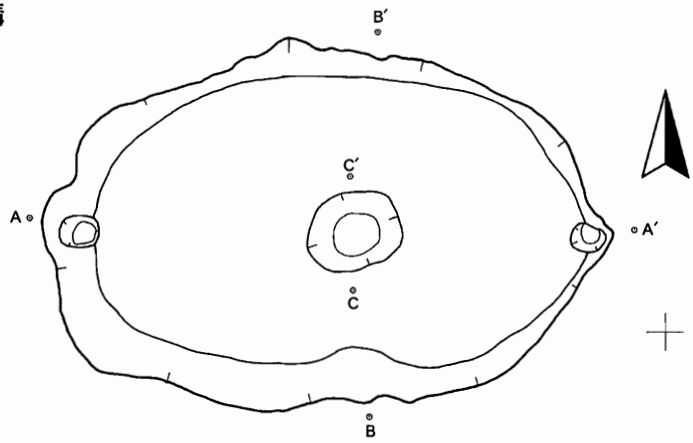

調査範囲と周辺地形
小グリッドの呼称
1a 2a 3a 4a 5a
1b 2b 3b 4b 5b
1c 2c 3c 4c 5c
1d 2d 3d 4d 5d
1e 2e 3e 4e 5e
0 1:300 10m
0 1:1250 50m
20 21 22 23 24 25 26 27 28
B
C
D
水路跡
包含層範囲
0 1:300 10m

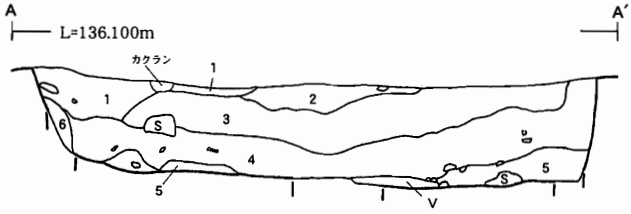
第５図　遺構全体図

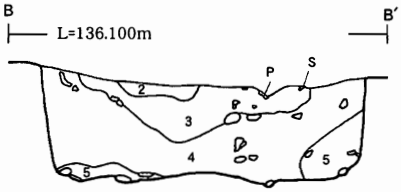


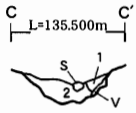
第6図　部分全体図（調査区東半部）

・第1号住居状遺構









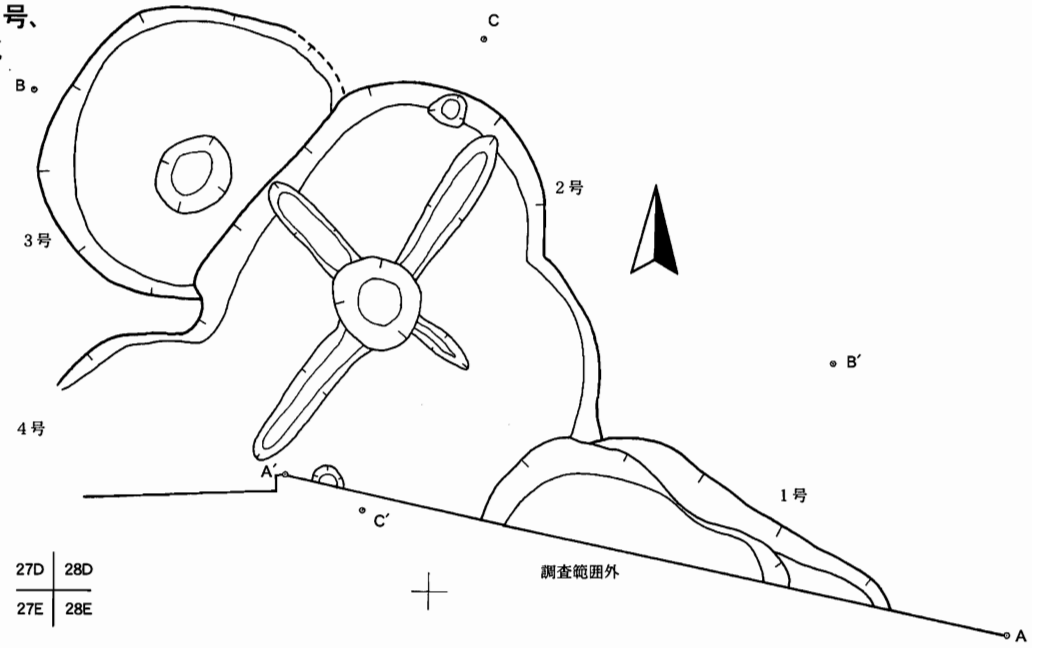
1．暗褐色(10YR3/3)シルト　焼土粒，こぶし大のレキ含む。
2．にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　Ⅳ～Ⅴ層の再堆積。小石含む。
3．黒褐色(10YR3/2)シルト　焼土粒比較的多く、炭化物、レキ～小石含む。
4．褐色(10YR4/4)シルト　Ⅳ層の再堆積。小石多い。
5．褐灰色(10YR4/1)粘土質シルト
6．にぶい黄褐色(10YR5/4)シルト

1．暗褐色(10YR3/3)シルト　ややもろい。
2．褐色(10YR4/4)シルト　ややもろい。２mm程度の炭化物わずに含む。

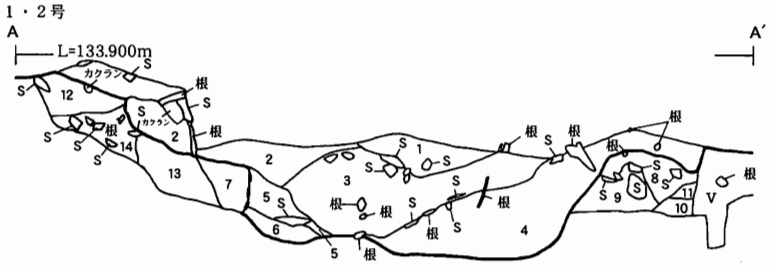
0　1:40　2m

第７図　第１号住居状遺構

・第１号、２号、
３号土坑

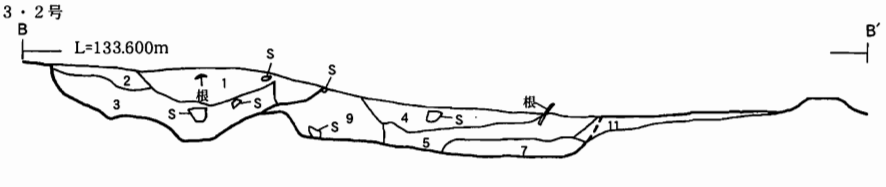


１・２号

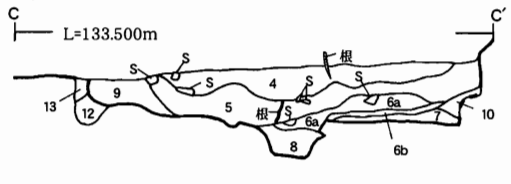


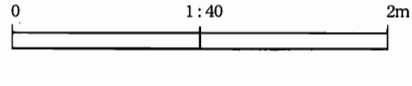
1. 灰黄褐色(10 YR4/2)シルト　２層より暗く、炭化物含む。第１号土坑。
2. 褐色(10YR4/4)シルト　汚れＶ層の再堆積。第１号土坑。
3. 褐色(10YR4/4)シルト　汚れＶ層の再堆積。２層より若干明るいか。第１号土坑。
4. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　固くしまる。汚れＶ層の再堆積。３層よりさらに明るいか。第１号土坑。
5. 明黄褐色(10YR6/6)粘土　Ｖ層粘土の再堆積。第１号土坑。
6. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト　第１号土坑。
7. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　炭化物含む。別の土坑の覆土か。
8. 第２号土坑の５層
9. 第２号土坑の６a層
10. 第２号土坑の７層
11. 第２号土坑の10層
12. 黒褐色 (10YR3/1) シルトＩ層と12層の漸移層。別の土坑の覆土？
13. 褐色 (10YR4/4) シルト　Ｖ層のブロック、炭化物含む。別の土坑の覆土？
14. 灰黄褐色 (10YR4/2) シルト　Ｖ層の再堆積。別の土坑の覆土？

３・２号



２号

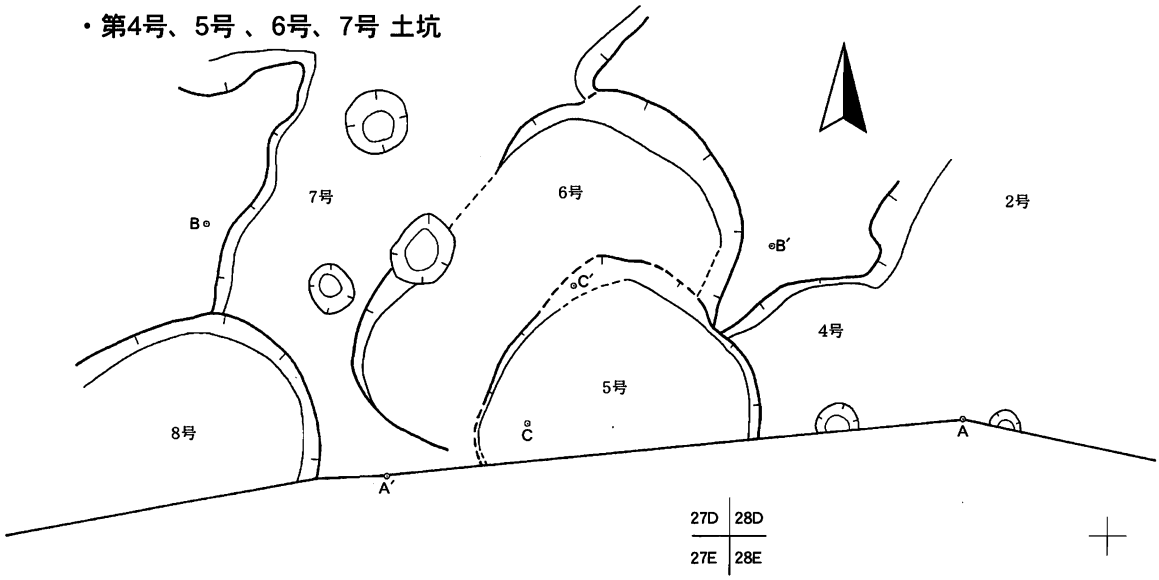




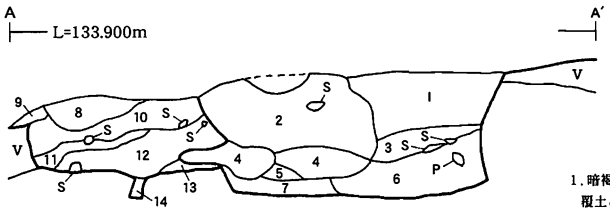
1. にぶい黄褐色(10YR5/3)砂質シルト　石多。
2. にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質シルト　Ｖ層のブロック含む。
3. 褐色(10YR4/4)砂質シルト　Ｖ層の小さなブロック、石、レキ含む。
4. にぶい黄褐色(10YR5/4)砂質シルト　Ｖ層起源の土多い。炭化物含む。
5. にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質シルト　Ｖ層ブロック多い。根によるカクランを受けていて、色調場所により異なる。
6 a. にぶい黄褐色(10YR5/4)砂質シルト　Ｖ層ブロック含む。
6 b. 黄褐色(10YR5/6)シルト　白色粘土のブロック顕著に含む。
7. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト
8. にぶい黄褐色(10YR5/3)シルト　根によるカクラン受けている。
9. 褐色(10YR4/4)砂質シルト　Ｖ層起源の土、炭化物、小石含む。
10. 灰白色(2. 5Y8/1)粘土　Ｖ層が粘土化したもの？
11. 明黄褐色(10YR6/6)砂質シルト　Ｖ層が根等によって汚れたもの。
12. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　粘性あり。根によるカクランと思われる。
13. 浅黄色(2. 5Y7/3)粘土　Ｖ層が粘土化したもの。

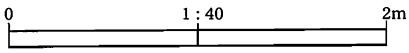
第８図　第１号～第３号土坑

・第4号、5号 、6号、7号 土坑



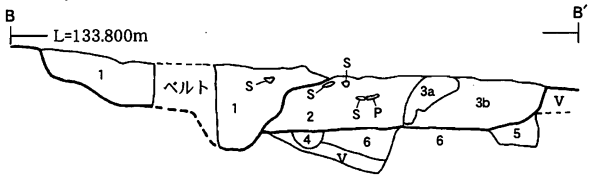
4・5号





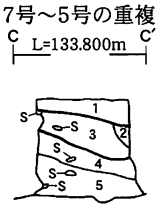
1. 暗褐色(10YR3/4)シルト　炭化物含み、灰白色(2.5Y8/1)のブロックわずかに含む。第7号土坑の覆土と思っていたが。
2. 褐色(10YR4/4)シルト　炭化物含む。第5号土坑の覆土。
3. 褐色(10YR4/4)地に霜降状に灰白色(2.5Y8/1)シルト　V層の再堆積。3～5層は、よく似ている。D42, 43F 土坑の断面実測時には気づかず、1層の一部と思っていた。
4. にぶい黄褐色(10YR5/4)地に霜降状に灰白色(2.5Y 8/1)シルト　第5号土坑の覆土。
5. 褐色(10YR4/4)地に霜降状に灰白色(2.5Y8/1)シルト　第5号土坑の覆土。
6. にぶい黄褐色(10YR5/3)シルト　灰白色(2.5Y8/1)のブロックわずかに含む。第5号土坑の覆土。
7. 明黄褐色(10YR6/6)砂質シルト　V層の再堆積。第5号土坑の覆土。
8. 褐色(10YR4/4)砂質シルト　V層の再堆積。第4号土坑の覆土。
9. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　第4号土坑の覆土。
10. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　第4号土坑の覆土。
11. 褐色(10YR4/4)砂質シルト　V層の再堆積。第4号土坑の覆土。
12. にぶい黄褐色(10YR4/4)シルト　炭化物含む。第4号土坑の覆土。
13. にぶい黄褐色(10YR5/3)シルト　第4号土坑の覆土。
14. にぶい黄褐色(10YR5/3)粘土質シルト　もろい。第4号土坑副穴の覆土。

7・6号



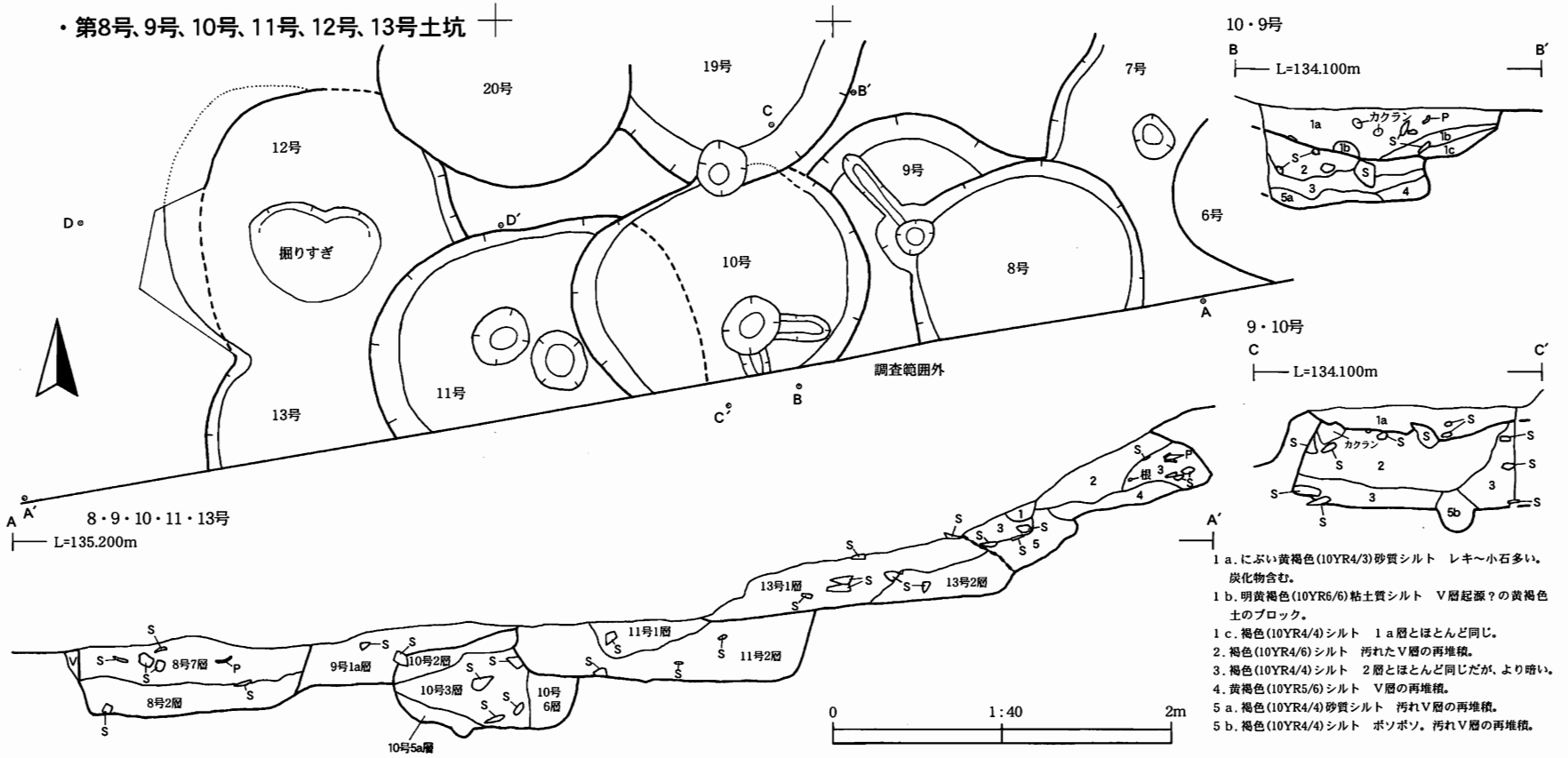
1. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　V層起源の砂、石多い。炭化物含む。
2. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　1層とほとんど同じだが、V層起源の黄色いブロック含み、やや明るい気がする。
3a. にぶい黄褐色(10YR4/3)粘土質シルト　ややもろい。V層起源の黄色い砂のブロック。
3b. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　2層とほとんど同じだが、やや暗い気がする。
4. にぶい黄褐色(10YR5/4)シルト　ポソポソ。根によるカクラン。
5. にぶい黄橙色(10YR6/4)粘土　V層の一部？
6. 灰白色(5Y7/2)粘土　V層の一部？

7号～5号の重複



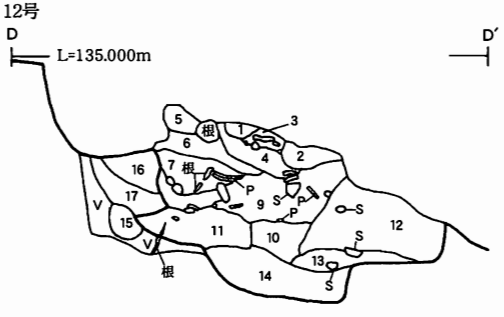
1. にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質シルト　第7号土坑の1層。
2. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　第6号土坑の2層。
3. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　第6号土坑の3b層。
4. 褐色(10YR4/4)シルト　粘性強い。第5号土坑の1層。
5. 褐色(10YR4/4)シルト　第5号土坑の6層。

第9図　第4号～第7号土坑



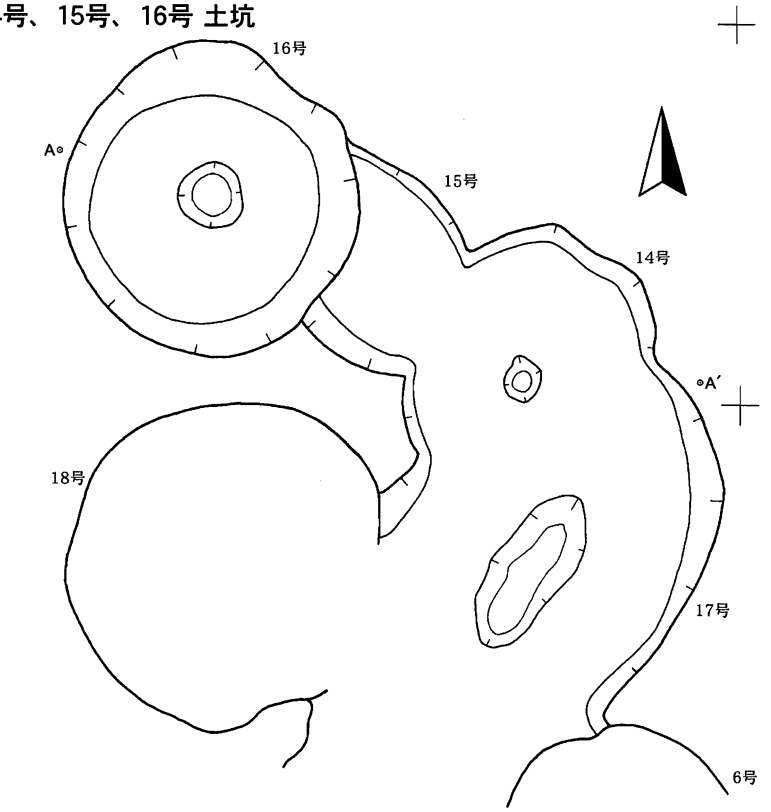
1a. にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質シルト　レキ～小石多い。炭化物含む。
1b. 明黄褐色(10YR6/6)粘土質シルト　Ⅴ層起源？の黄褐色土のブロック。
1c. 褐色(10YR4/4)シルト　1a層とほとんど同じ。
2. 褐色(10YR4/6)シルト　汚れたⅤ層の再堆積。
3. 褐色(10YR4/4)シルト　2層とほとんど同じだが、より暗い。
4. 黄褐色(10YR5/6)シルト　Ⅴ層の再堆積。
5a. 褐色(10YR4/4)砂質シルト　汚れⅤ層の再堆積。
5b. 褐色(10YR4/4)シルト　ポソポソ。汚れⅤ層の再堆積。

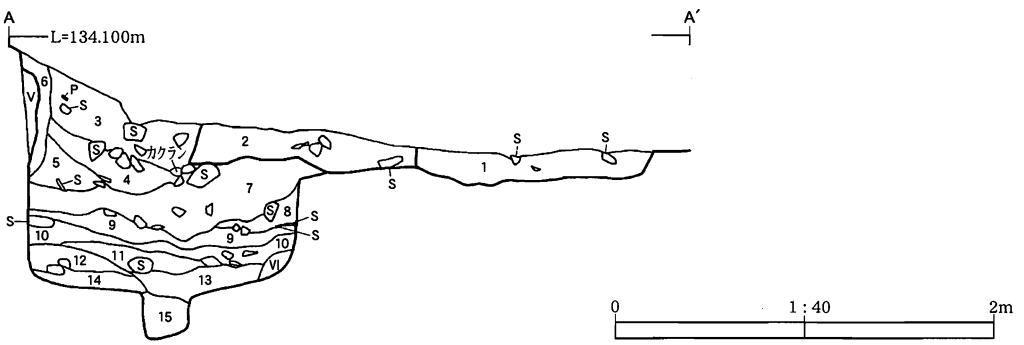
第10号土坑6層. 褐色(10YR4/4)砂質シルト　炭化物含む。第10号土坑3層に似るがより暗い。
第11号土坑1層. 褐色(10YR4/4)砂質シルト　小石多。Ⅴ層起源の土多い。
第11号土坑2層. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　1層に似るが、Ⅴ層起源の土少なく、より暗い。
第13号土坑1層. にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質シルト　汚れたⅤ層の再堆積。第11号土坑2層より明るい。
第13号土坑2層. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト　炭化物含む。第13号土坑1層に似るが、より暗い。
1. 灰黄褐色(10YR4/2)砂質シルト　もろい。カクラン。
2. 暗褐色(10YR3/3)シルト　もろい。別の土坑の覆土？
3. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト　固くしまる。小石～レキ多い。別の土坑の覆土？
4. にぶい黄橙色(10YR7/3)に灰黄褐色(10YR4/2)のブロック。シルト　Ⅴ層がカクランを受けたもの。
5. 褐色(10YR4/6)砂質シルト　炭化物含む。Ⅴ層の再堆積。



1. 明褐色(7.5YR5/6)粘土質シルト　17層の再堆積。
2. 暗褐色(10YR3/4)シルト　炭化物混じる。Ⅳ層のブロック多い。
3. にぶい黄褐色(10YR5/4)砂質シルト　レキ多い。
4. にぶい黄褐色(10YR5/4)シルト　汚れⅣ～Ⅴ層の再堆積。
5. にぶい黄褐色(10YR5/4)粘土質シルト　汚れた16層の再堆積。
6. にぶい黄褐色(10YR5/4)粘土質シルト　Ⅳ層の再堆積。
7. 暗褐色(10YR3/3)シルト　ややもろい。Ⅴ層のブロック混じる。土器多い。
8. 黄褐色(10YR5/6)粘土質シルト　Ⅳ層の再堆積。
9. 暗褐色(10YR3/3)砂質シルト　7層に似るが、より暗く、Ⅴ層のブロックほとんどない。
10. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　石多い。
11. 褐色(10YR4/4)シルト　汚れたⅤ層の再堆積。
12. 褐色(10YR4/4)シルト　かたくしまる。汚れたⅤ層の再堆積。
13. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　レキまじり。
14. 褐色(10YR4/6)シルト　汚れたⅤ層の再堆積。
15. 褐色(10YR4/4)シルト　もろい。根によるカクランと思われる。
16. 黄褐色(10YR5/6)粘土　Ⅳ層の一部。
17. にぶい褐色(7.5YR5/4)粘土　Ⅳ層の一部。

・第14号、15号、16号 土坑

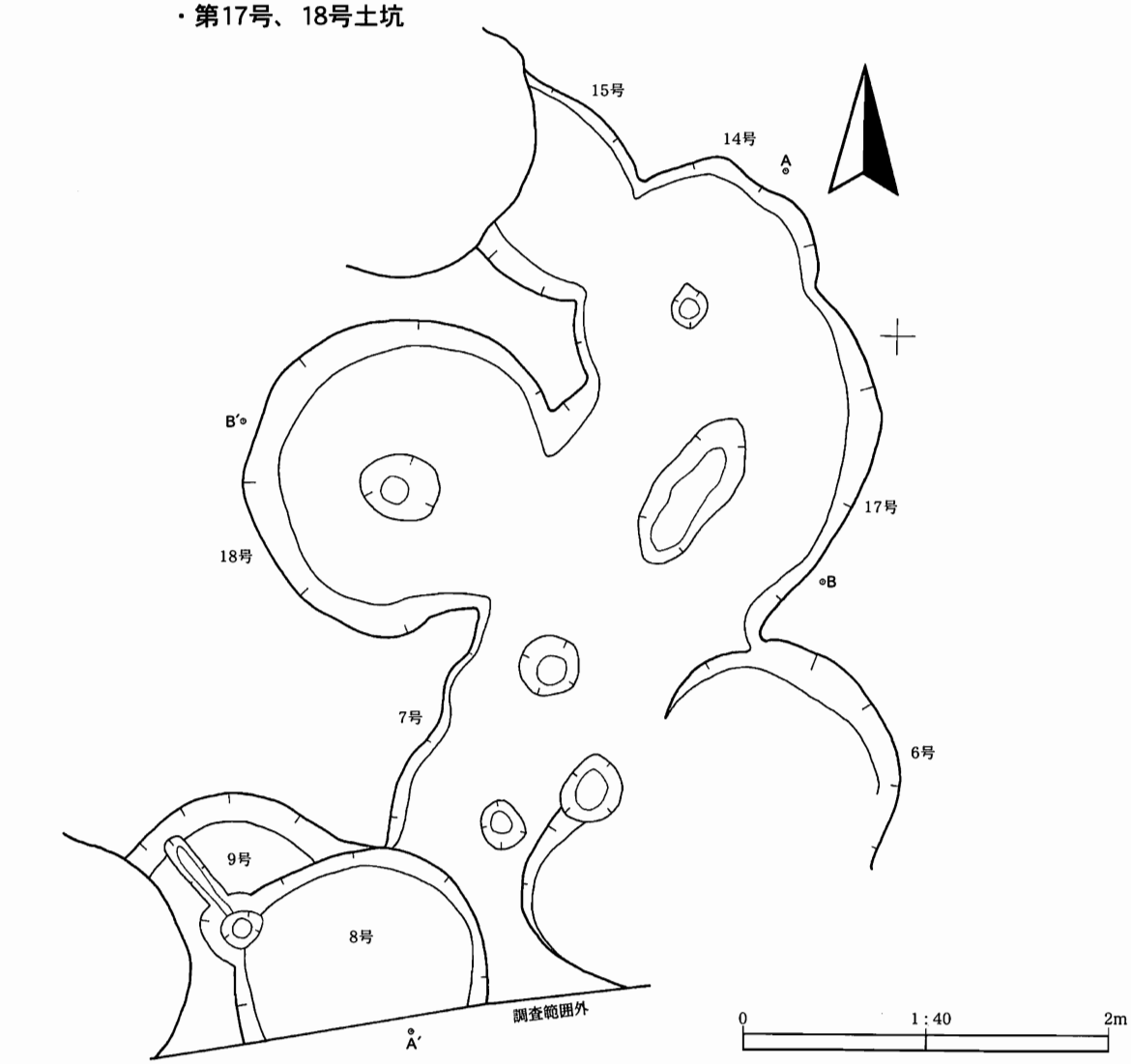


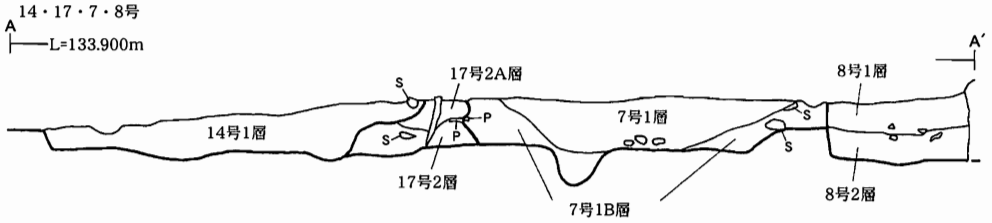


1. 暗褐色(10YR3/4)シルト　小石、土器小片多い。Ⅴ層のブロック、炭化物含む。第14号土坑の覆土。
2. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　小石～レキ多い。第15号土坑の覆土。
3. 黒褐色(10YR3/2)シルト　小石～レキ多い。Ⅴ層のブロック含む。
4. 黒褐色(10YR3/2)シルト　上面にレキ並ぶ。3層より暗く、Ⅴ層のブロック含まない。
5. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト　汚れたⅤ層の再堆積。
6. 褐色(10YR4/4)シルト　霜降り状にⅣ層のブロック含む。
7. 褐色(10YR4/6)シルト　小石～レキ多い。Ⅴ層のブロック含む。
8. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　もろい。レキ多い。
9. にぶい黄褐色(10YR5/4)シルト　Ⅴ層のブロック多い。
10. 暗褐色(10YR3/4)シルト　もろい。
11. 褐色(10YR4/4)シルト　Ⅴ層の再堆積。
12. 黒褐色(10YR3/2)シルト　ややもろい。
13. 褐色(10YR4/4)シルト　Ⅴ層のブロック非常に多く含む。
14. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　ややもろい。Ⅵ層の再堆積。
15. 褐色(10YR4/4)シルト　非常にもろい。Ⅵ層のブロック、炭化物含む。根によるカクランひどい。

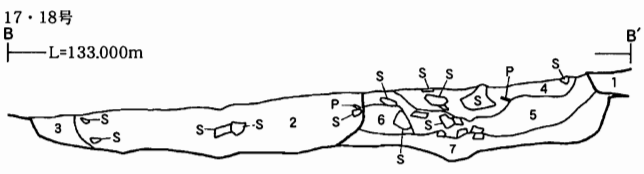
第11図　第14号～第16号土坑

・第17号、18号土坑





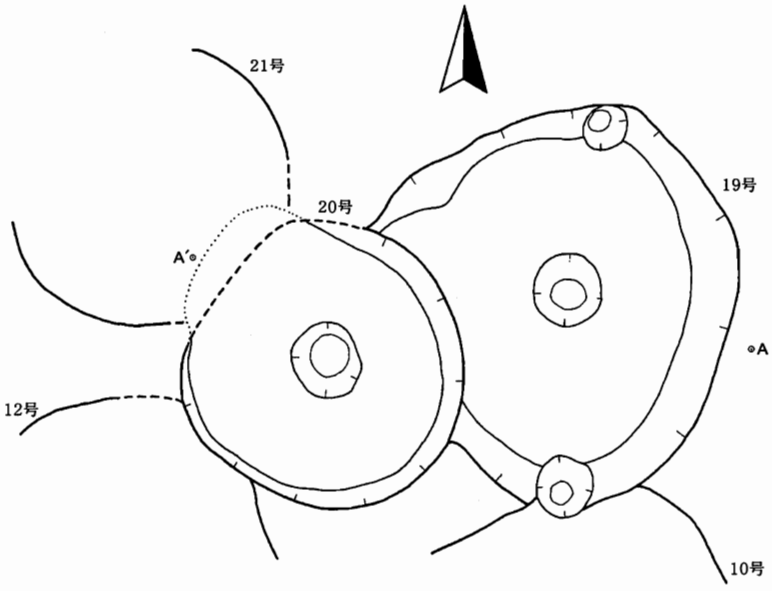
第14号土坑の１層，暗褐色(10YR3/4)シルト　小石、土器小片多い。Ｖ層のブロック、炭化物含む。
第17号土坑の２Ａ層，にぶい黄褐色(10YR5/4)砂質シルト　Ｖ層起源の粘土ブロック、砂多い。
第17号土坑の２層，灰黄褐色(10YR4/2)シルト　Ｖ層起源のブロック、レキ多い。第17号土坑の覆土。
第７号土坑の１Ｂ層，灰黄褐色(10YR4/2)砂質シルト　炭化物混じる。
第７号土坑の１層，にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　Ｖ層起源の砂、石多い。炭化物含む。
第８号土坑の１層，にぶい黄褐色(10YR5/4)砂質シルト　Ｖ層起源の砂多い。石～レキ多い。
第８号土坑の２層，にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　粘性あり。炭化物含む。

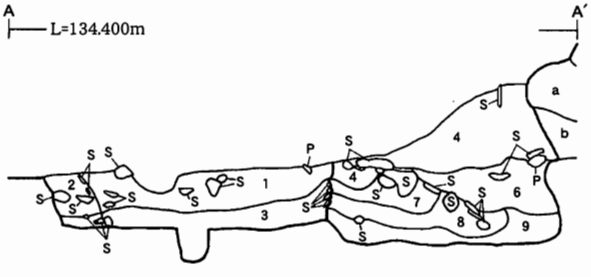


1．黒褐色(10YR3/2)シルト　木根によるカクラン。
2．灰黄褐色(10YR4/2)シルト　Ｖ層起源のブロック、レキ多い。第17号土坑の覆土。
3．にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　２層に似るが、Ｖ層起源らしい白い粘土ブロック？多く含む。第17号土坑の覆土。
4．暗褐色(10YR3/3)シルト　小石、レキ多い。
5．暗褐色(10YR3/4)シルト　４層に似るが、より明るい。
6．にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質シルト　５層に似るが、より明るく，Ｖ層起源の土最も多く含む。
7．暗褐色(10YR3/4)シルト　炭化物含む。

第12図　第17号～第18号土坑

・第19号、20号土坑



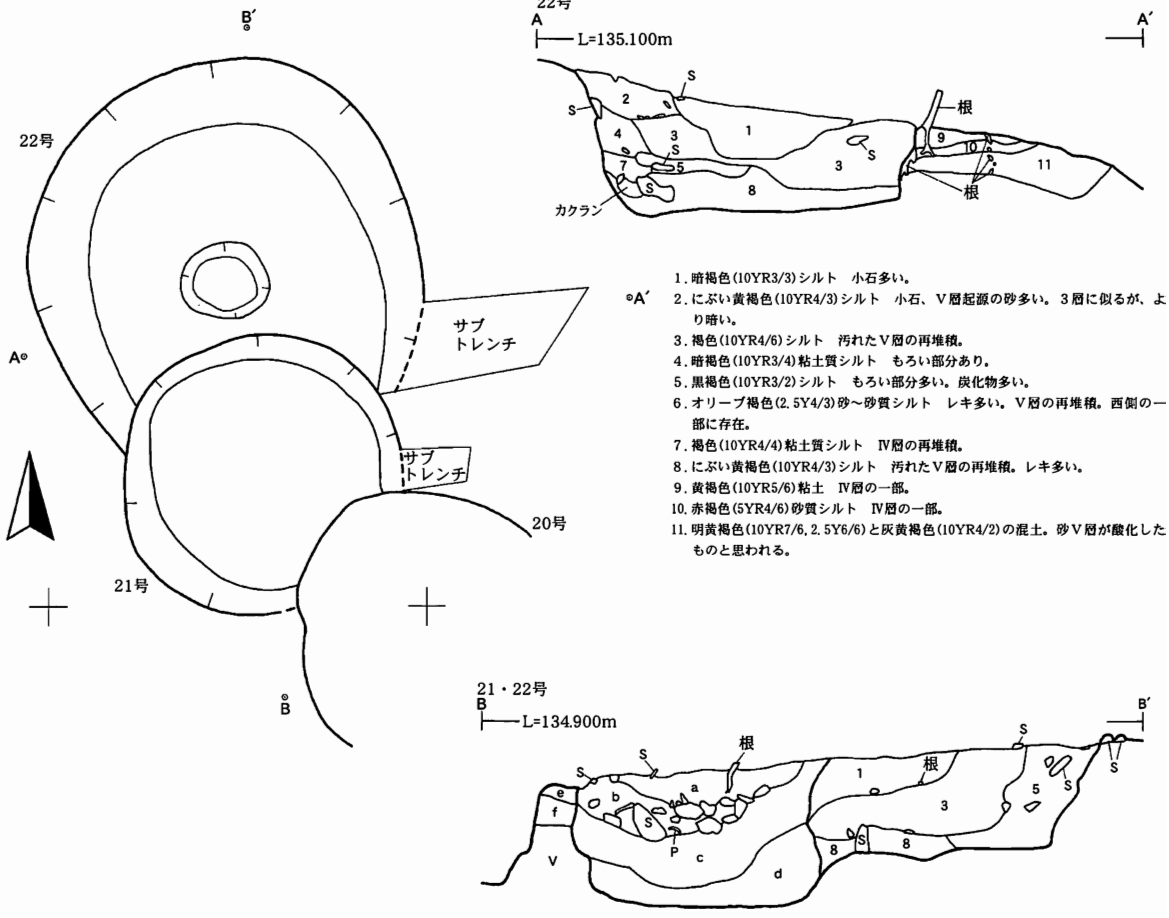


0　1：40　2m

1．褐色(10YR4/4)シルト　小石、炭化物多い。第19号土坑。
2．褐色(10YR4/4)シルト　1層によく似るがレキ、V層ブロック多い。第19号土坑。
3．暗褐色(10YR3/4)シルト　小石、炭化物含む。第19号土坑。
4．褐色(10YR4/4)砂質シルト　一部レキ多く含む。1層に非常によく似る。
5．にぶい黄褐色(10YR5/4)砂質シルト　4層とほとんど同じだが、V層起源の砂多い。ベルトの反対側の一部にある。
6．黒褐色(10YR3/2)シルト　レキ多い。
7．暗褐色(10YR3/3)シルト　ややもろい。V層起源の土、レキ多い。炭化物含む。
8．褐色(10YR4/4)シルト　7層とほとんど同じ。
9．褐色(10YR4/4)シルト　レキ、石ほとんど含まない。
a．第21号土坑のc層
b．第21号土坑のd層

第13図　第19号～第20号土坑

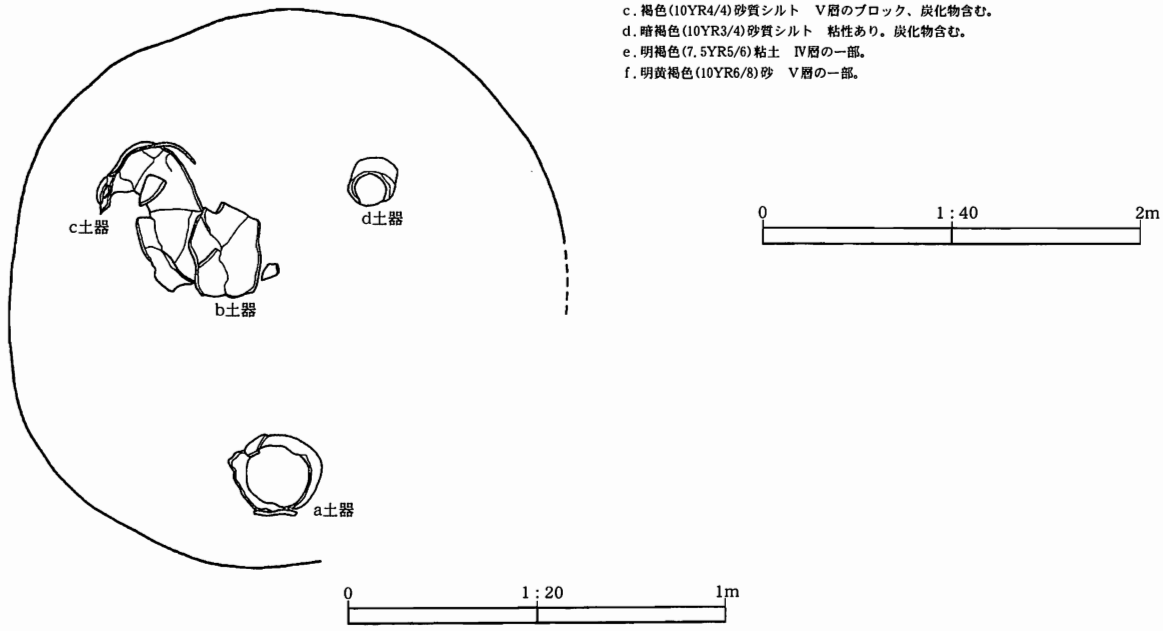
・第21号、22号土坑



1. 暗褐色(10YR3/3)シルト　小石多い。
2. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　小石、Ⅴ層起源の砂多い。3層に似るが、より暗い。
3. 褐色(10YR4/6)シルト　汚れたⅤ層の再堆積。
4. 暗褐色(10YR3/4)粘土質シルト　もろい部分あり。
5. 黒褐色(10YR3/2)シルト　もろい部分多い。炭化物多い。
6. オリーブ褐色(2.5Y4/3)砂～砂質シルト　レキ多い。Ⅴ層の再堆積。西側の一部に存在。
7. 褐色(10YR4/4)粘土質シルト　Ⅳ層の再堆積。
8. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　汚れたⅤ層の再堆積。レキ多い。
9. 黄褐色(10YR5/6)粘土　Ⅳ層の一部。
10. 赤褐色(5YR4/6)砂質シルト　Ⅳ層の一部。
11. 明黄褐色(10YR7/6, 2.5Y6/6)と灰黄褐色(10YR4/2)の混土。砂Ⅴ層が酸化したものと思われる。

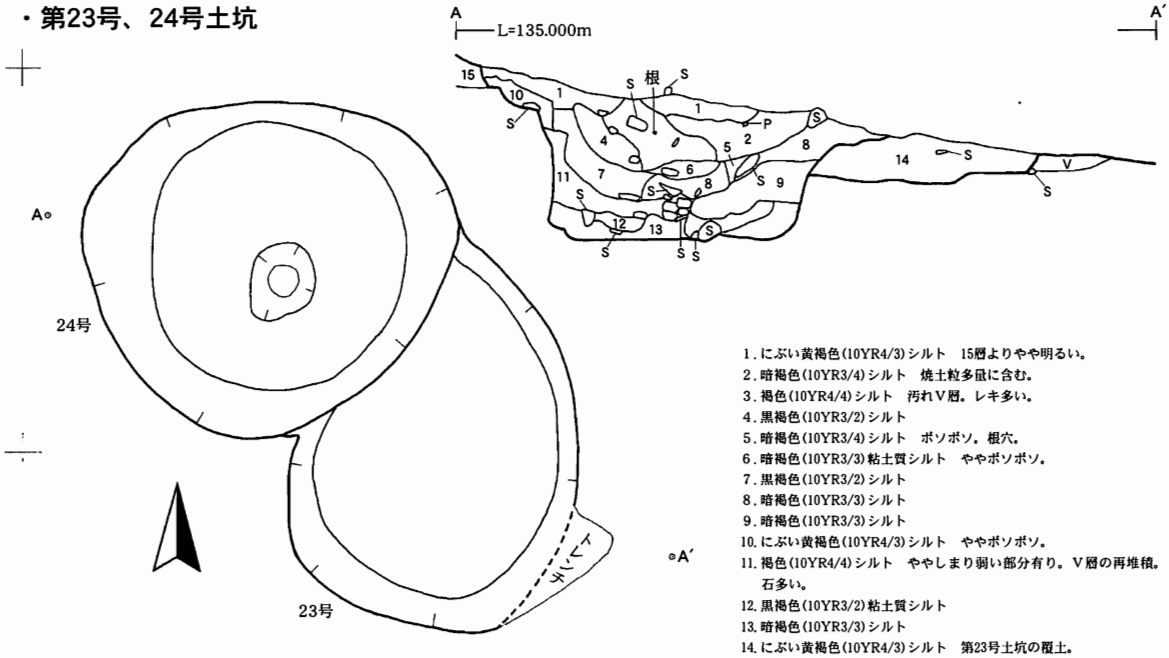
a. にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質シルト　炭化物含む。レキ多い。
b. にぶい黄褐色(10YR5/3)砂質シルト　Ⅴ層のブロック、大きなレキ多い。
c. 褐色(10YR4/4)砂質シルト　Ⅴ層のブロック、炭化物含む。
d. 暗褐色(10YR3/4)砂質シルト　粘性あり。炭化物含む。
e. 明褐色(7.5YR5/6)粘土　Ⅳ層の一部。
f. 明黄褐色(10YR6/8)砂　Ⅴ層の一部。

21号土坑土器出土状況



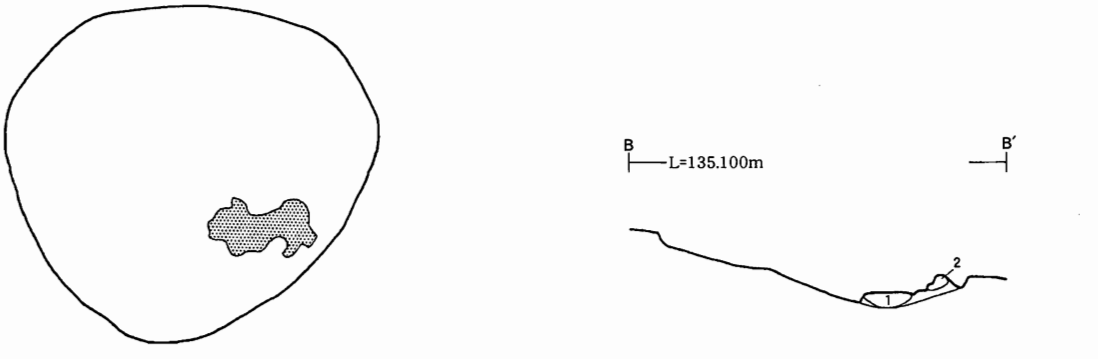
第14図　第21号～第22号土坑

・第23号、24号土坑



1. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　15層よりやや明るい。
2. 暗褐色(10YR3/4)シルト　焼土粒多量に含む。
3. 褐色(10YR4/4)シルト　汚れV層。レキ多い。
4. 黒褐色(10YR3/2)シルト
5. 暗褐色(10YR3/4)シルト　ポソポソ。根穴。
6. 暗褐色(10YR3/3)粘土質シルト　ややポソポソ。
7. 黒褐色(10YR3/2)シルト
8. 暗褐色(10YR3/3)シルト
9. 暗褐色(10YR3/3)シルト
10. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　ややポソポソ。
11. 褐色(10YR4/4)シルト　ややしまり弱い部分有り。V層の再堆積。石多い。
12. 黒褐色(10YR3/2)粘土質シルト
13. 暗褐色(10YR3/3)シルト
14. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　第23号土坑の覆土。
15. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　しまり弱い。1層より濃く見える。Ⅲ層か。

24号2層中焼土

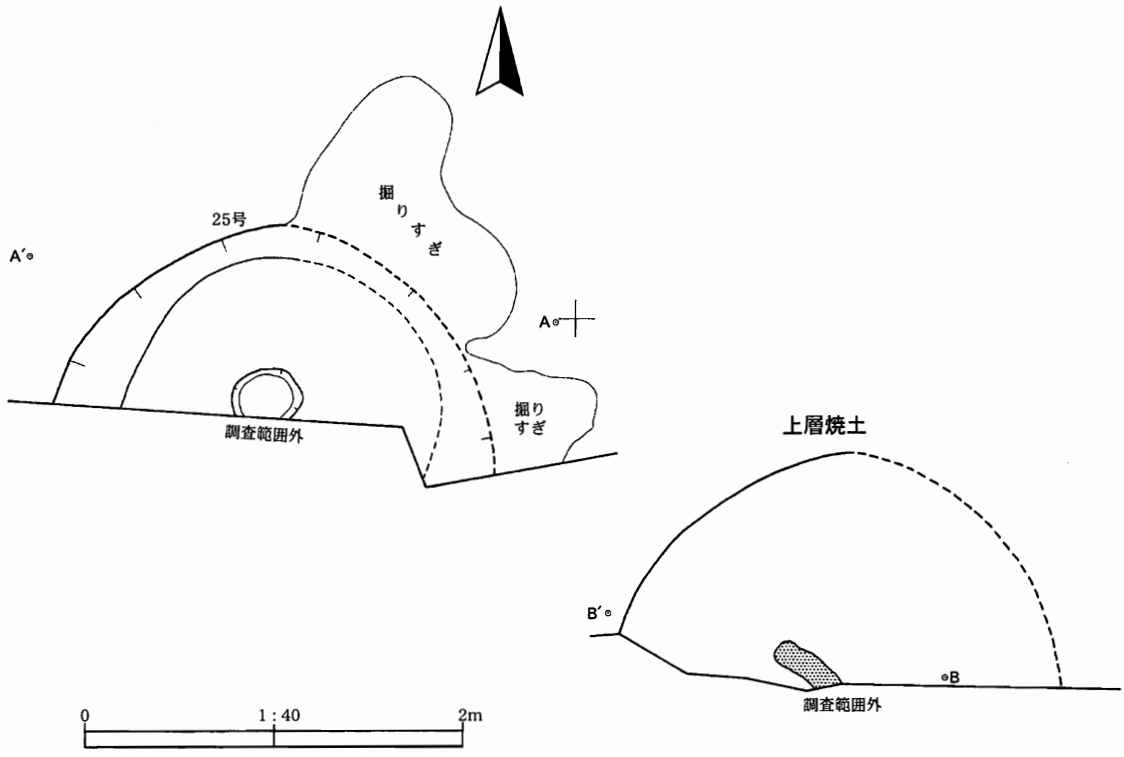


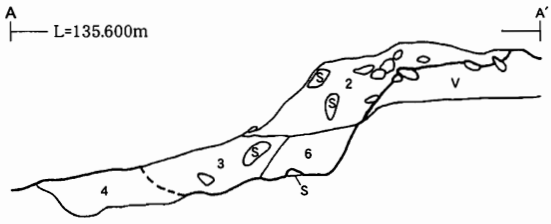
1. 明褐色(7.5YR5/6)砂質シルト　焼土。
2. 褐色(7.5YR4/4)シルト　焼土と思われるが、カクランを受け、汚れている。

0　1:40　2m

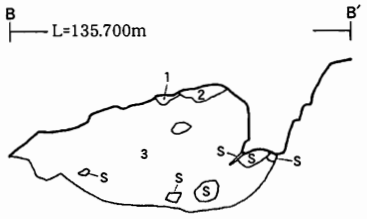
第15図　第23号～第24号土坑

・第25号土坑





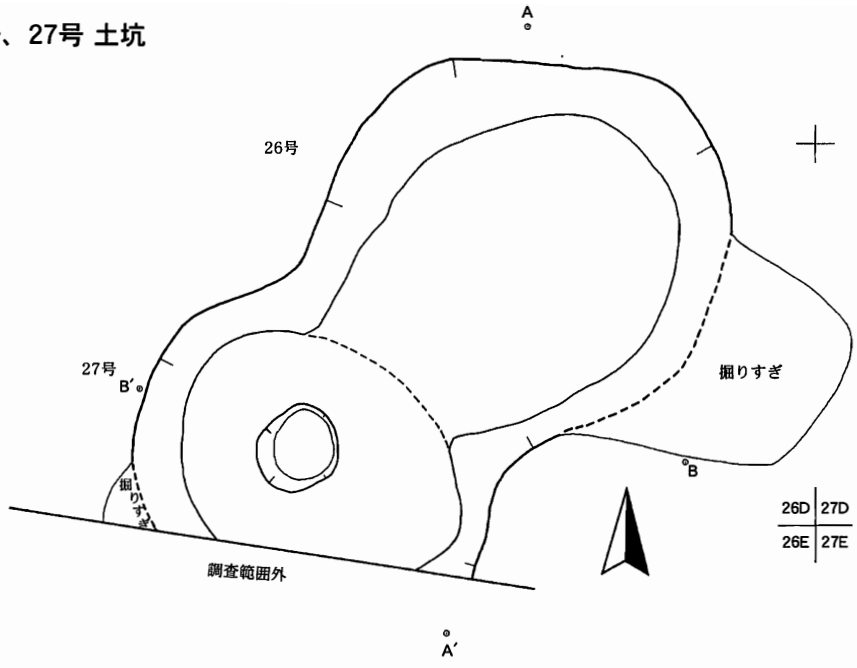
1．褐色(10YR4/4)砂質シルト　Ⅳ～Ⅴ層の再堆積。
2．にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質シルト　レキ多い。
3．灰黄褐色(10YR4/2)シルト　小石多い。Ⅴ層のブロック含む。
4．褐色(10YR4/4)砂質シルト
5．にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質シルト　汚れたⅣ～Ⅴ層の再堆積。
6．褐色(10YR4/4)シルト　3層に似るが、より暗い。

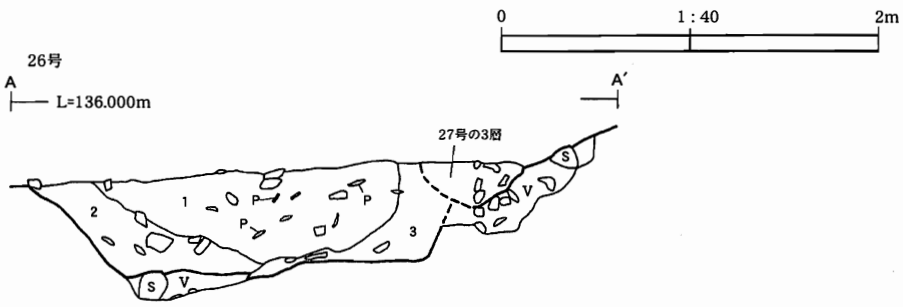


1．明赤褐色(5YR5/6)シルト　焼土。
2．にぶい黄橙色(10YR6/4)砂質シルト
3．下の遺構の覆土。

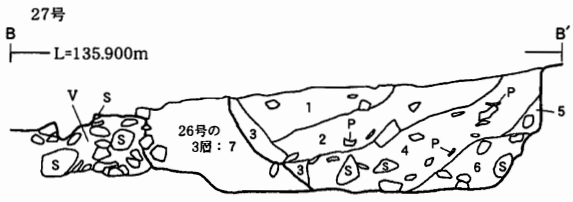
第16図　第25号土坑

・第26号、27号 土坑





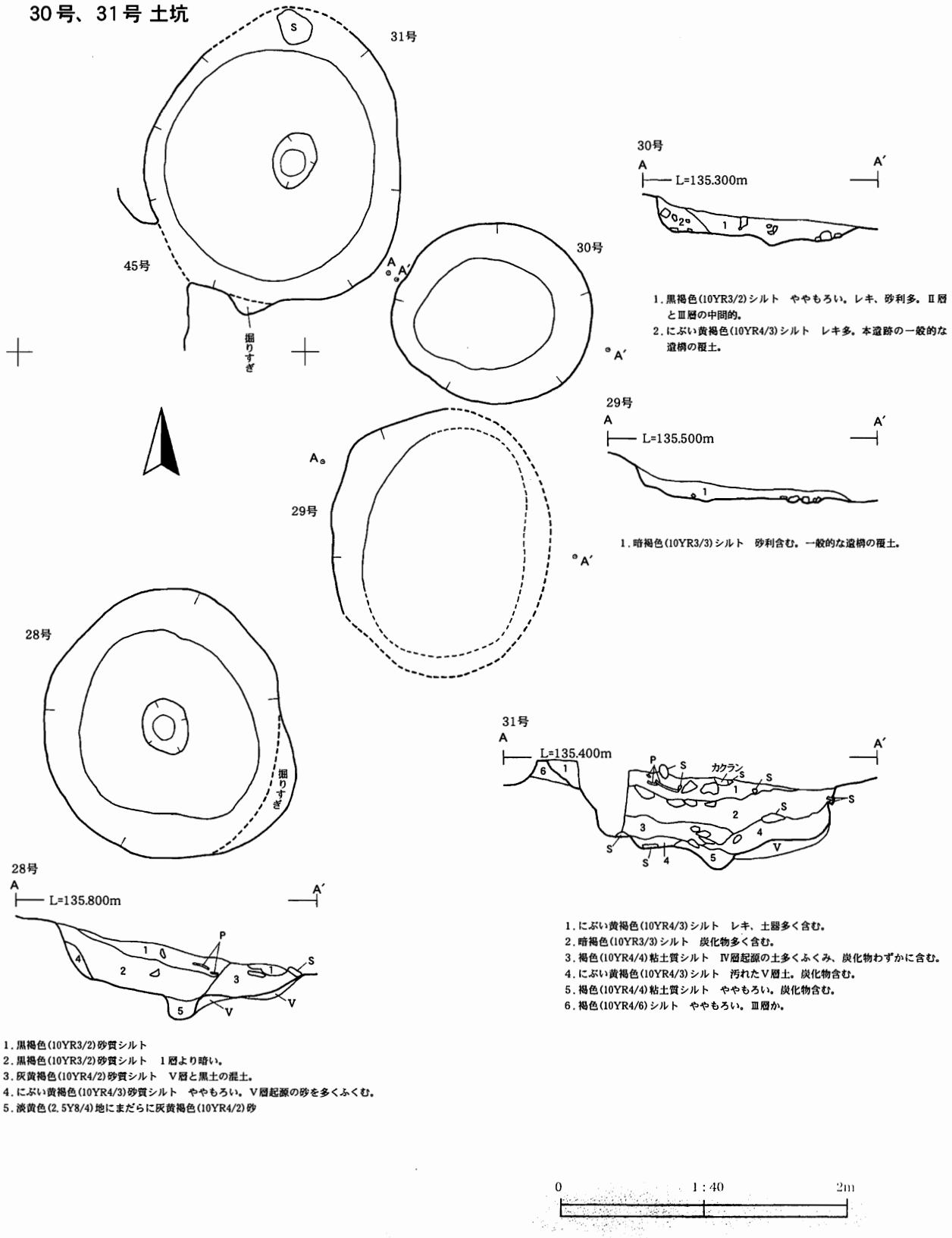
1. にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質シルト　小石～レキ多い。土器多い。焼土粒一部集中する所がある。
　炭化物含む。
2. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト　粘性強い。炭化物含む。
3. 黒褐色(10YR3/2)砂質シルト　V層のブロック含む。
4. にぶい黄橙色(10YR6/4)砂　炭化物含む。汚れたV層の再堆積。実測した面の裏にある。



1. 褐色(10YR4/4)シルト　汚れたIV層の再堆積。小石多い。
2. 暗褐色(10YR3/3)砂質シルト　炭化物多く含む。
3. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　汚れたV層の再堆積。レキ多い。
4. 暗褐色(10YR3/3)シルト　炭化物含む。小石～レキ多い。
5. にぶい黄褐色(10YR5/3)砂質シルト　炭化物含む。汚れたV層の再堆積。
6. 灰黄褐色(10YR5/2)砂　炭化物含む。V層の再堆積。
7. 黒褐色(10YR3/2)シルト　第26号土坑の3層。

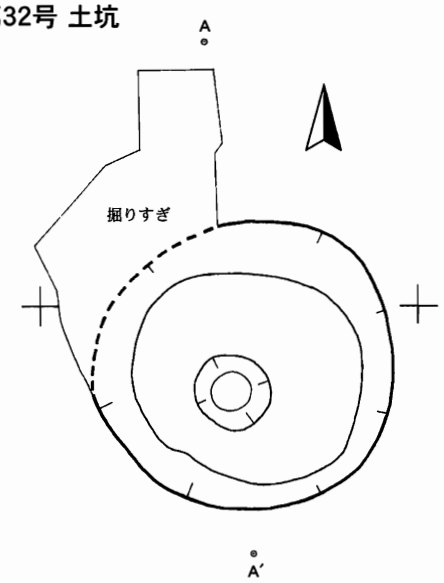
第17図　第26号～第27号土坑

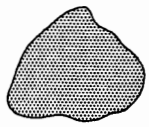
・第28号、29号、30号、31号 土坑



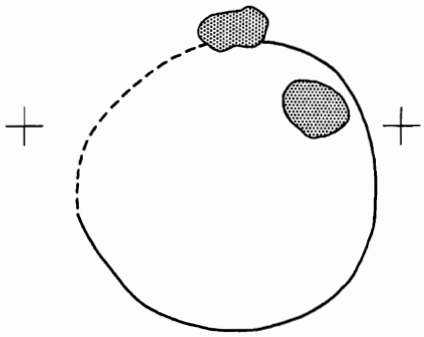
第18図　第28号～第31号土坑

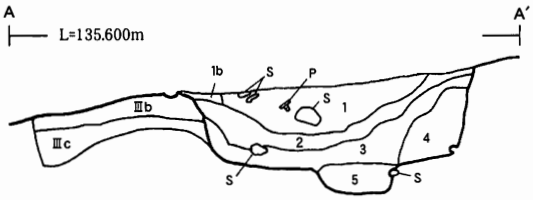
・第32号 土坑





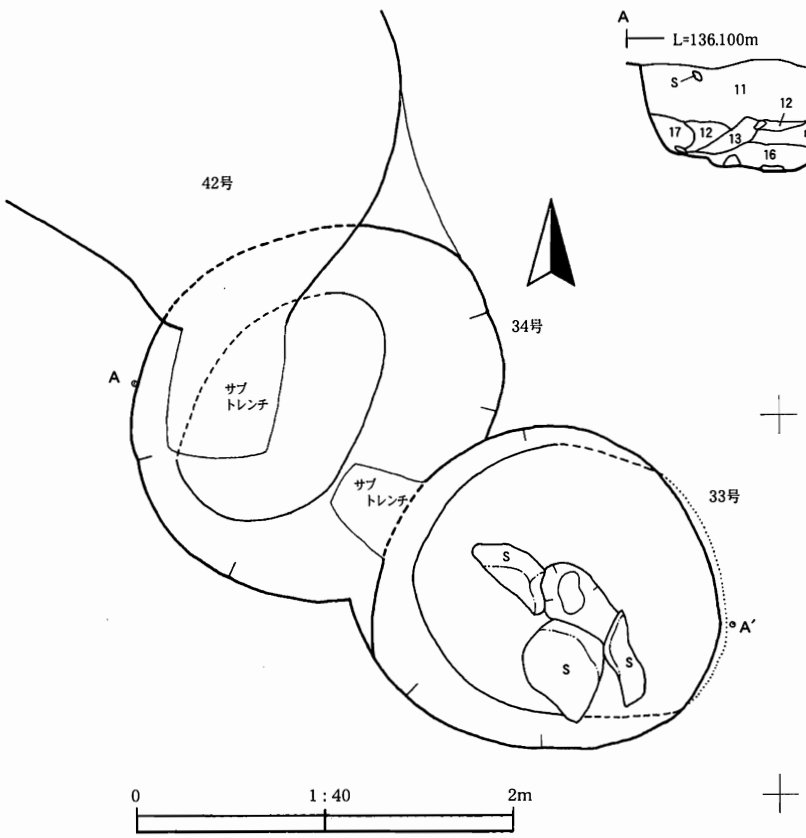
上面焼土

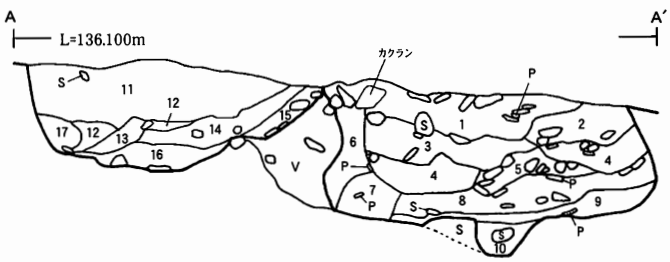




1. にぶい黄褐色(10YR5/4)砂質シルト　炭化物含む。レキ多い。
1 b. にぶい黄橙色(10YR6/4)砂質シルト　Ⅴ層のブロック。
2. 褐色(10YR4/4)砂質シルト　Ⅴ層の再堆積。
3. 暗褐色(10YR3/3)シルト　炭化物含む。Ⅲ b 層の再堆積。
4. 暗褐色(10YR3/4)シルト　Ⅴ層起源の土多い。
5. にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質シルト　3層よりうすい。

・第33号、34号 土坑

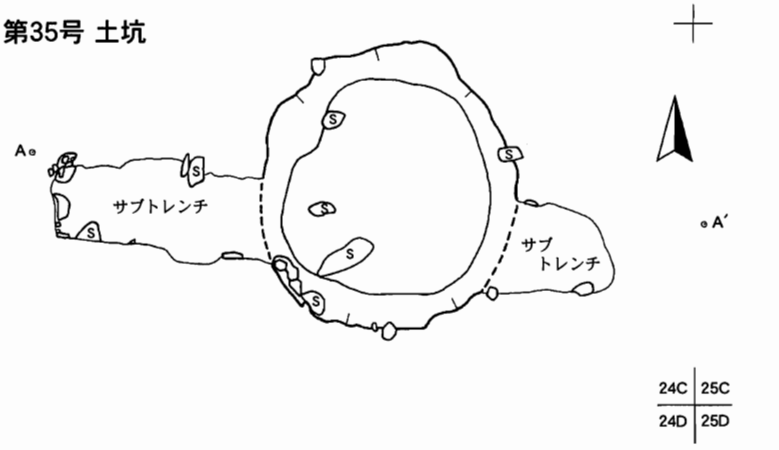


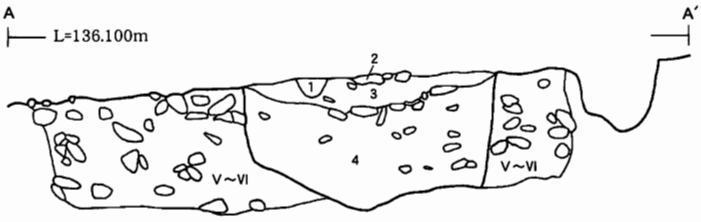


1. にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質シルト　もろい。Ⅰ層に似る。拳大のレキ多く含む。
2. 灰黄褐色(10YR4/2)砂質シルト　Ⅴ層起源の砂多く含む。
3. 灰黄褐色(10YR4/2)砂質シルト　小石～レキ多い。2層より暗い。炭化物含む。
4. 暗褐色(10YR3/3)砂質シルト　炭化物含む。土器多量に含む箇所がある。
5. にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質シルト　レキ最も多く含む。
6. にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質シルト　Ⅴ層起源の砂利含む。
7. 褐色(10YR4/4)砂質シルト　ややもろい。6層より砂多いと思われるが、同じかもしれない。
8. にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質シルト　2層に似る。
9. 黒褐色(10YR3/2)シルト　ややもろい。4層に似る。
10. 黒褐色(10YR3/2)シルト　非常にもろい。9層とほとんど同じ。
11. 明黄褐色(10YR6/6)粘土質シルト　固くしまる。炭化物わずかにふくむ。Ⅳ層の再堆積に小石が多く含まれたもの。
12. 黄褐色(10YR5/8)シルト　固くしまる。17層の再堆積と思う。
13. 明黄褐色(10YR6/6)とにぶい黄褐色(10YR5/3)の混土。砂質シルト部分的にもろい。Ⅳ層のブロック多く含む。
14. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　ややもろい。砂多い。
15. 浅黄色(2.5Y7/4)とにぶい黄褐色(10YR4/3)の混土。砂質シルト　ややもろい。14層とⅤ層の混土。
16. にぶい黄褐色(10YR5/4)シルト　Ⅳ～Ⅴ層の再堆積。
17. 明黄褐色(10YR6/6)粘土　非常に固い。Ⅳ層と思う。

第19図　第32号～第34号土坑

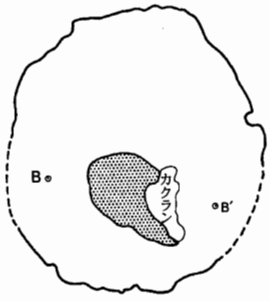
・第35号 土坑

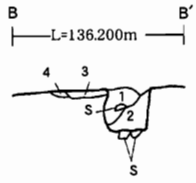




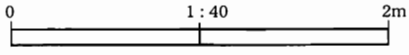
1. 黒褐色(10YR3/2)シルト　非常にもろい。根穴。
2. 褐色(7.5YR4/6)砂質シルト　第35号土坑焼土の残がい。
3. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　4層との違いは、よりシルト質の土であること。
4. 褐色(10YR4/4)砂質シルト　汚れV層の再堆積。

検出面焼土



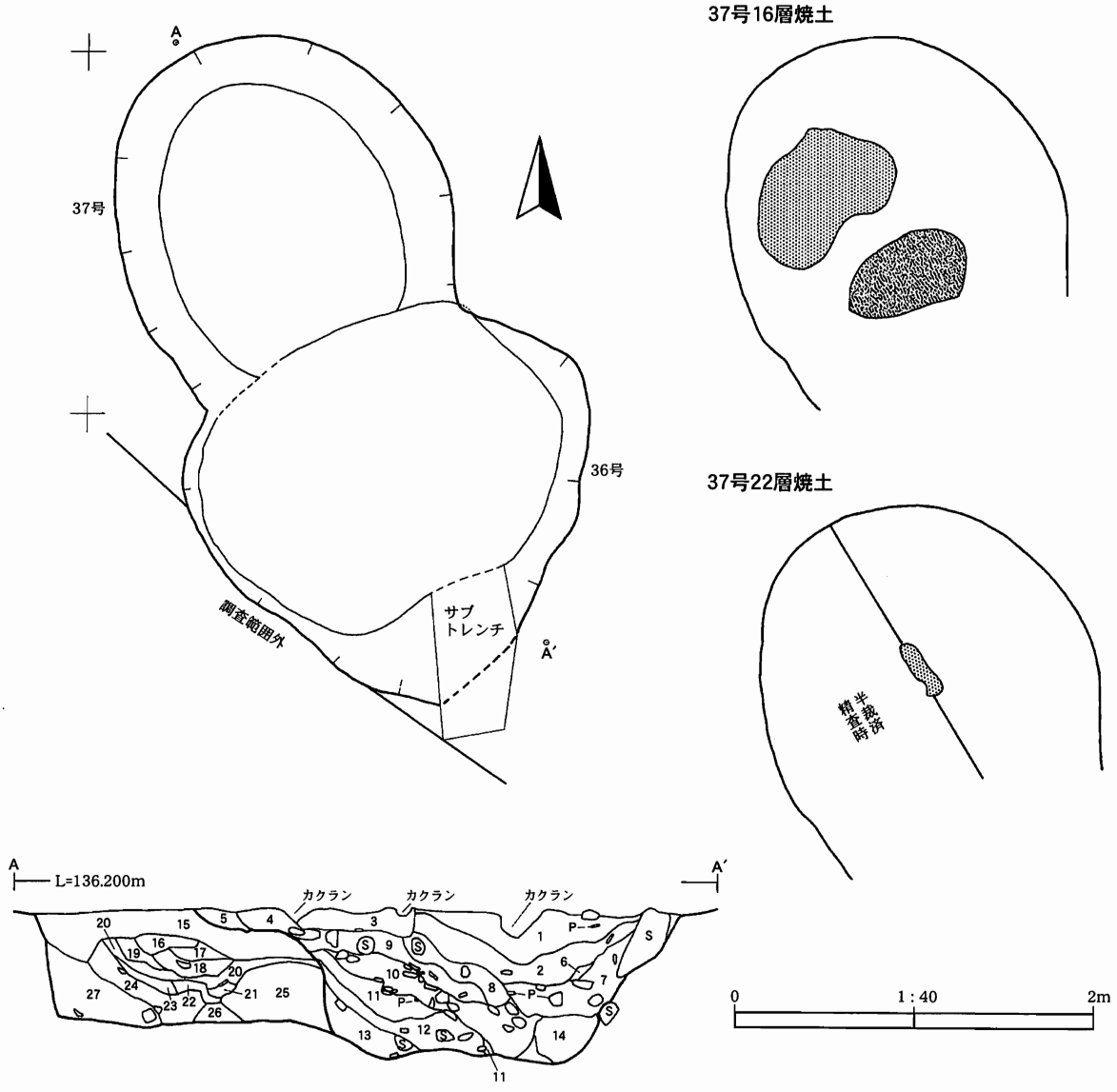


1. 黒褐色(10YR3/2)シルト
2. 褐色(10YR4/4)シルト　かたくしまる。小石含む。
3. にぶい赤褐色(5YR4/4)シルト　焼土。(V層が火を受けたもの)
4. 黒褐色(10YR3/2)シルト　もろい。根によるカクラン？



第20図　第35号土坑

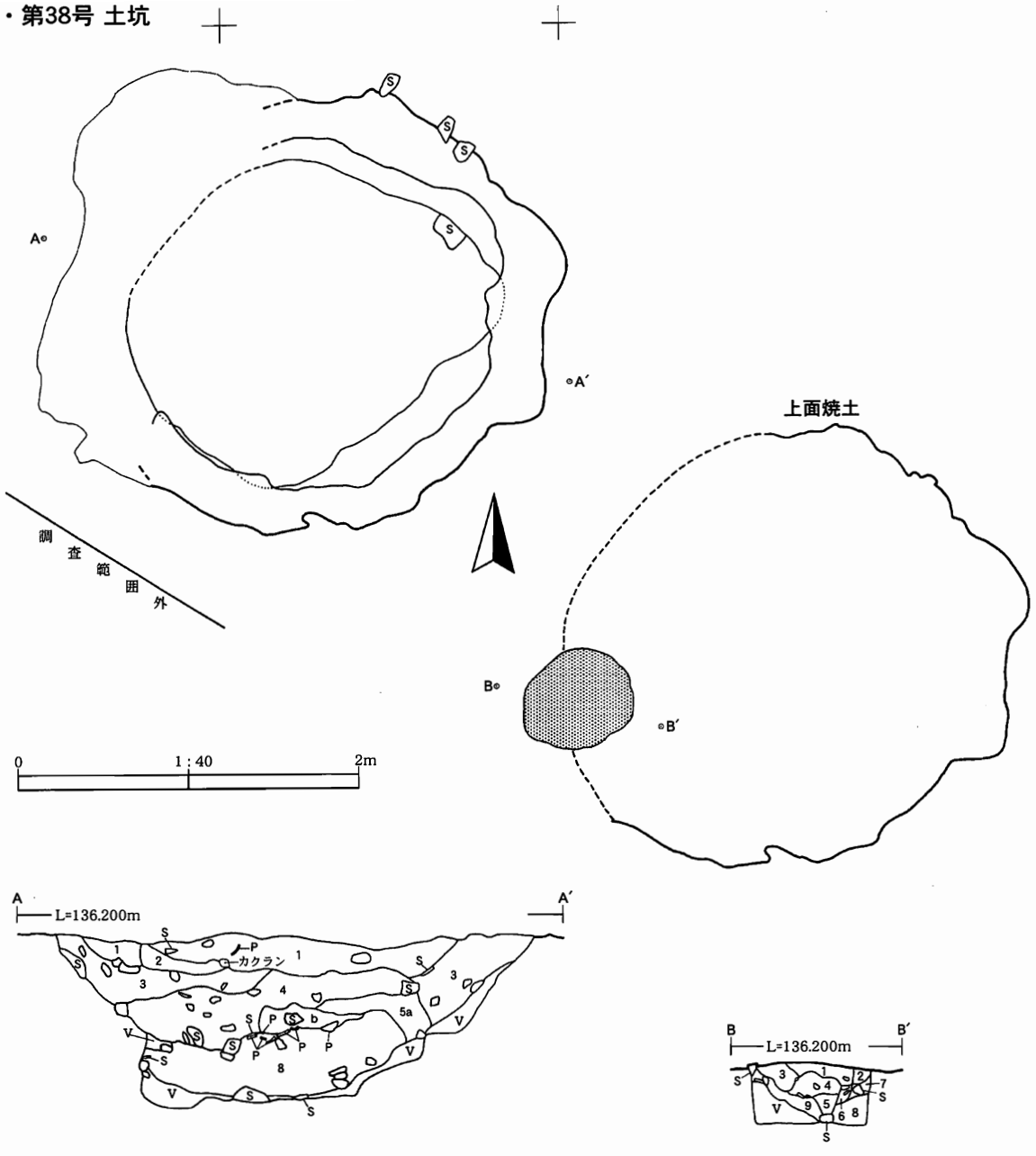
・第36号、37号 土坑



1. にぶい黄褐色(10YR5/3)砂質シルト　炭化物、小石含む。
2. にぶい黄褐色(10YR5/4)砂質シルト　汚れたⅤ層。炭化物含む。石少ない。
3. にぶい黄褐色(10YR5/4)砂質シルト
4. にぶい黄褐色(10YR5/4)シルト
5. 黄褐色(10YR5/6)シルト　Ⅳ層起源のブロック多く含む。
6. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　炭化物、灰？含む。
7. にぶい黄褐色(10YR5/3)砂質シルト　レキ～小石多い。炭化物含む。
8. 灰黄褐色(10YR4/2)砂質シルト　炭化物、灰？多く含む。
9. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　小石～レキ多い。
10. にぶい黄褐色(10YR5/4)砂質シルト　よごれたⅤ層。レキ～小石最も多い。
11. 黒褐色(10YR3/2)シルト　もろい。炭化物、灰？多く含む。
12. 黒褐色(10YR2/3)シルト　レキやや多い。炭化物含む。
13. にぶい黄橙色(10YR6/4)シルト　Ⅴ層の再堆積。炭化物含む。
14. にぶい黄色(2.5Y6/3)砂　Ⅴ層のくずれたもの。
15. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　第37号土坑の覆土。
16. 明褐色(7.5YR5/8)砂質シルト　焼土。
17. にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質シルト　ややもろい。小石、焼土粒ふくむ。
18. にぶい黄褐色(10YR5/3)シルト　Ⅴ層のブロック、石、レキ含む。
19. 褐色(10YR4/4)砂質シルト　焼土粒含む。
20. 灰黄褐色(10YR4/2)砂質シルト　もろい。炭化物多量に含む。一部焼土ブロック含む。
21. にぶい黄褐色(10YR5/3)砂質シルト　焼土粒、Ⅴ層起源の砂含む。カクラン受けたもの？
22. 褐色(7.5YR4/6)砂質シルト　焼土。東側はカクラン受けているか。
23. にぶい黄褐色(10YR5/3)砂質シルト　Ⅴ層の再堆積。25層に非常によく似る。
24. 暗褐色(10YR3/3)シルト　炭化物、焼土粒含む。
25. にぶい黄褐色(10YR5/4)砂　Ⅴ層の再堆積。23層に非常によく似る。
26. にぶい黄褐色(10YR4/3～5/4)砂質シルト　25層と24層の混土。
27. にぶい黄褐色(10YR5/4)シルト　汚れたⅤ層の再堆積。

第21図　第36号～第37号土坑

・第38号 土坑

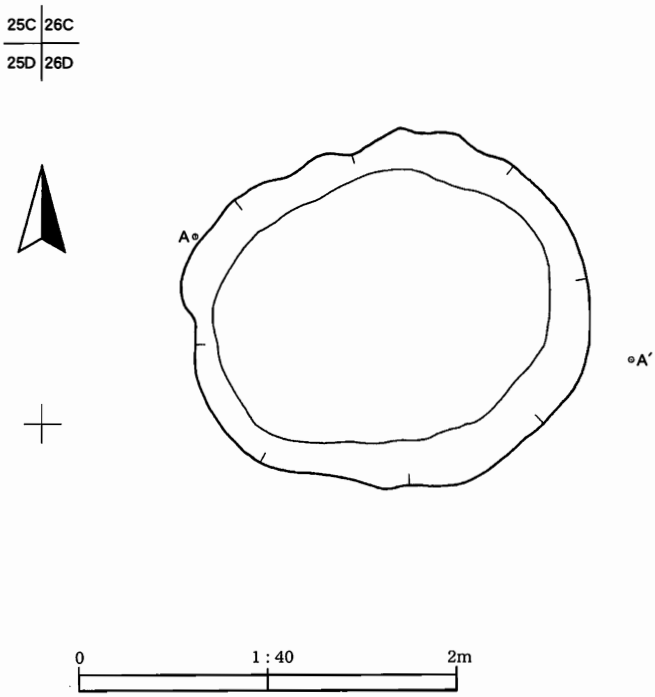


1. 暗褐色(10YR3/3)シルト　レキ多い。
2. にぶい黄褐色(10YR5/4)～黄褐色(10YR5/6)砂質シルト　V層のブロック多。
3. にぶい黄褐色(10YR5/4)シルト
4. にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質シルト　レキ多く含む。
5a. 褐色(10YR4/6)粘土質シルト　IV層のブロック多。
5b. 黄褐色の砂のブロック。南側にあった。
6. 暗褐色(10YR3/3)シルト　炭化物含む。
7. 暗褐色土。南側にあった。
8. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　下部に小石～レキ多い。

1. 褐色(7.5YR4/4)砂質シルト　焼土粒散る。
2. 褐色(10YR4/4)砂質シルト　ややもろい。1層によく似るが、焼土粒なし。重複する遺構の覆土。
3. 褐色(7.5YR4/4)砂質シルト　ややもろい。1層より焼土粒多い。
4. 赤褐色(5YR4/6)シルト　焼土粒最も多く含む。しまりもあるが、ここで火をたいたのかは確信が持てない。
5. 褐色(7.5YR4/6)シルト　焼土粒二番目に多く含む。
6. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト　7層によく似るが焼土粒含む。
7. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト　重複する遺構の覆土。
8. 褐色(10YR4/4)シルト　重複する遺構の覆土。
9. 褐色(10YR4/6)砂質シルト　V層に焼土粒が混じったもの。

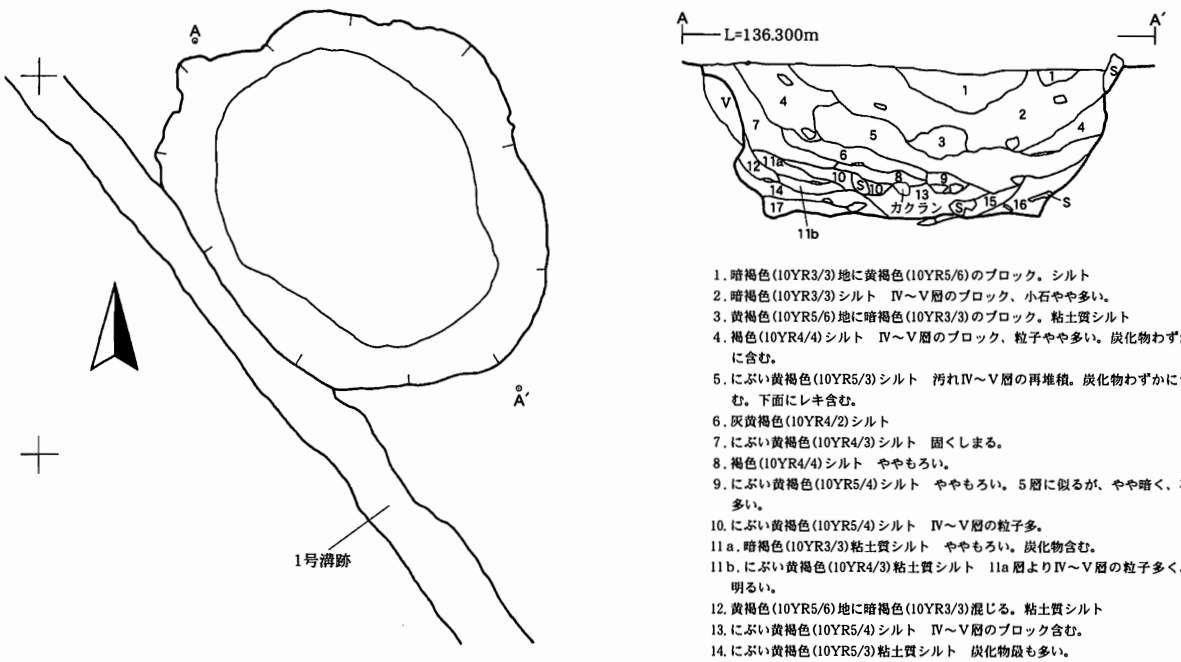
第22図　第38号土坑

・第39号 土坑



1. 褐色(10YR4/4)シルト　挙大のレキ多。
2. にぶい黄褐色(10YR5/4)シルト　Ⅳ～Ⅴ層起源の土多く含む。
3. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　砂多く含む。
4. 褐色(10YR4/6)粘土質シルト　Ⅳ～Ⅴ層の再堆積。
5. にぶい黄褐色(10YR4/3)粘土質シルト
6. にぶい黄褐色(10YR5/3)シルト
7. 明黄褐色(10YR6/6)シルト
8. にぶい黄褐色(10YR5/4)シルト　非常にもろい。砂多い。

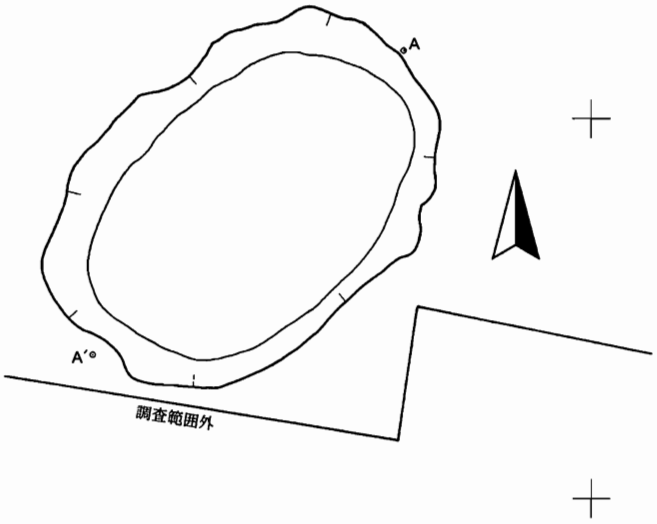
・第40号 土坑

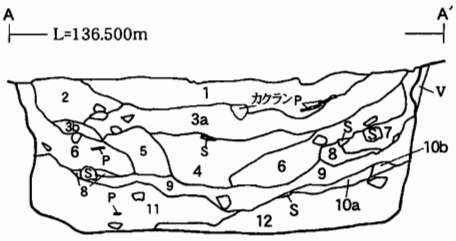


1. 暗褐色(10YR3/3)地に黄褐色(10YR5/6)のブロック。シルト
2. 暗褐色(10YR3/3)シルト　Ⅳ～Ⅴ層のブロック、小石やや多い。
3. 黄褐色(10YR5/6)地に暗褐色(10YR3/3)のブロック。粘土質シルト
4. 褐色(10YR4/4)シルト　Ⅳ～Ⅴ層のブロック、粒子やや多い。炭化物わずかに含む。
5. にぶい黄褐色(10YR5/3)シルト　汚れⅣ～Ⅴ層の再堆積。炭化物わずかに含む。下面にレキ含む。
6. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト
7. にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　固くしまる。
8. 褐色(10YR4/4)シルト　ややもろい。
9. にぶい黄褐色(10YR5/4)シルト　ややもろい。5層に似るが、やや暗く、石多い。
10. にぶい黄褐色(10YR5/4)シルト　Ⅳ～Ⅴ層の粒子多。
11a. 暗褐色(10YR3/3)粘土質シルト　ややもろい。炭化物含む。
11b. にぶい黄褐色(10YR4/3)粘土質シルト　11a層よりⅣ～Ⅴ層の粒子多く、明るい。
12. 黄褐色(10YR5/6)地に暗褐色(10YR3/3)混じる。粘土質シルト
13. にぶい黄褐色(10YR5/4)シルト　Ⅳ～Ⅴ層のブロック含む。
14. にぶい黄褐色(10YR5/3)粘土質シルト　炭化物微も多い。
15. 黄褐色(10YR5/6)シルト　もろい。Ⅳ～Ⅴ層の再堆積。
16. にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質シルト　炭化物わずかに含む。
17. にぶい黄褐色(10YR5/4)シルト

第23図　第39号～第40号土坑

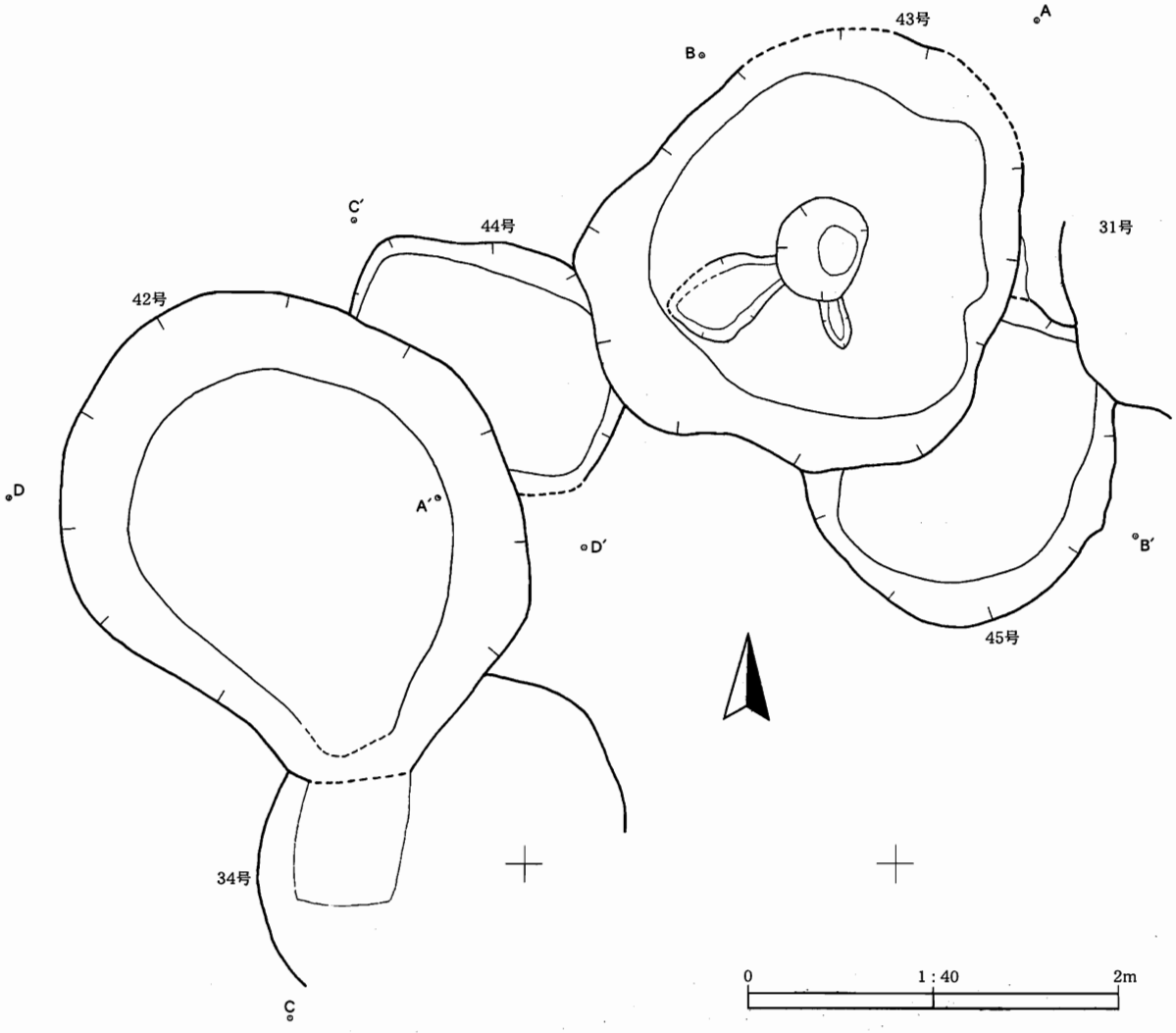
・第41号 土坑



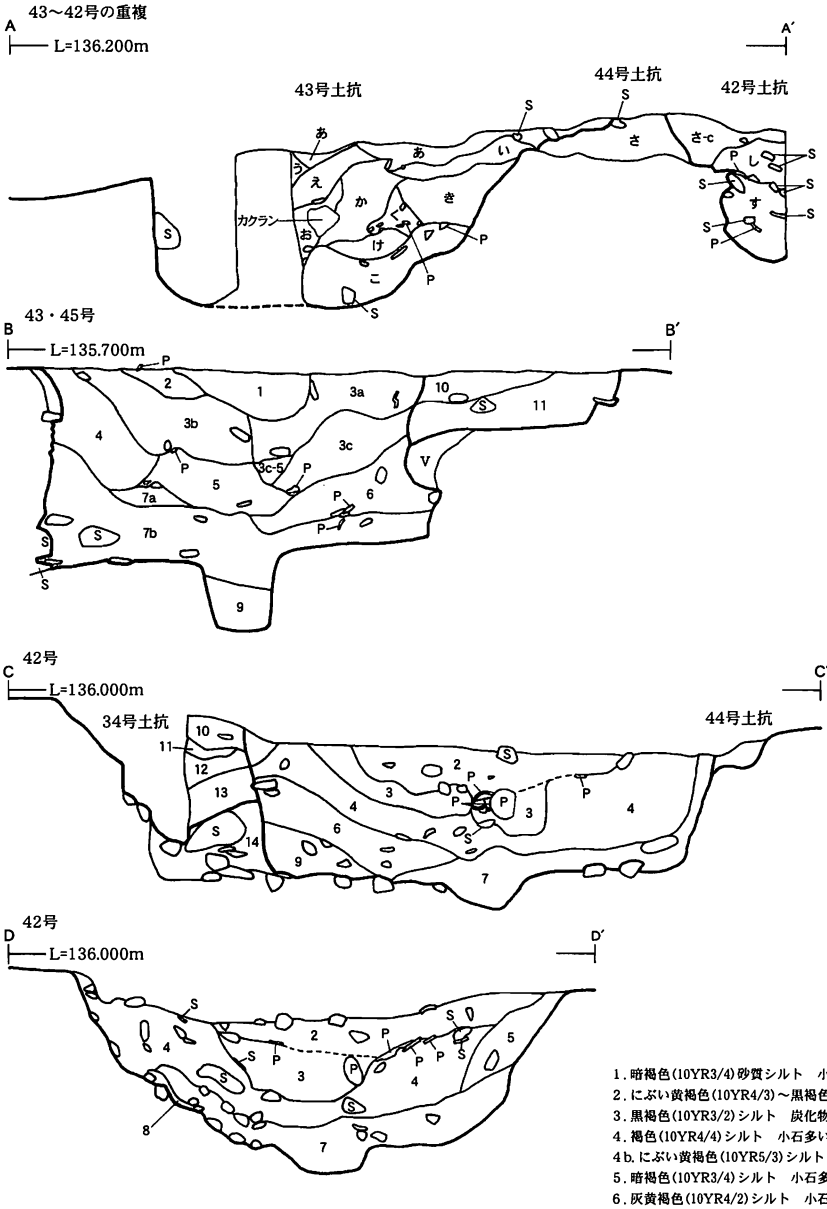


1. 暗褐色(10YR3/3)シルト　炭化物、焼土粒含む。
2. 黄褐色(10YR5/6)シルト　汚れたV層の再堆積。
3a. 暗褐色(10YR3/4)シルト　固くしまる。炭化物、V層起源のブロック含む。
3b. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト　炭化物含む。V層起源のブロックなし。3層のうち炭化物が多い部分。
4. にぶい黄褐色(10YR4/3)粘土質シルト　3a層に似るが、よりV層起源の土多し。
5. 褐色(10YR4/4)シルト　汚れたV層の再堆積。4層よりやや明るい。
6. 黄褐色(10YR5/6)砂質シルト　固くしまる。汚れたV層の再堆積。
7. 褐色(10YR4/4)シルト　固くしまる。
8. 灰黄褐色(10YR4/2)地に黒色(10YR1.7/1)のブロック。粘土質シルト　炭化物量も多く含む。
9. にぶい黄褐色(10YR4/3)粘土質シルト　炭化物含む。
10a. 褐灰色(10YR4/1)粘土質シルト　炭化物2番目に多く含む。
10b. 褐色(10YR4/4)粘土質シルト　10a層の続きと思われるが、炭化物ほとんどふくまない。9層に似るが、それだと不自然なので作った層。
11. 褐色(10YR4/4)砂質シルト　炭化物含む。汚れたV層の再堆積。
12. 黄褐色(10YR5/6)砂質シルト　V層の再堆積。

・第42号、43号、44号、45号 土坑



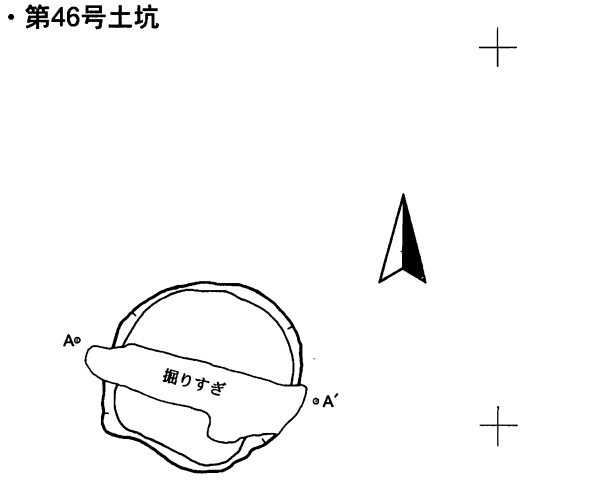
第24図　第41号土坑、第42号～第45号土坑(1)



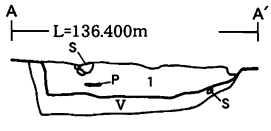
あ　にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　根多い。い層に似るが、より暗く見える。第43号土坑の覆土？
い　にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　第43号土坑の覆土？
う　にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　第43号土坑の２層？
え　褐色(10YR4/4)砂質シルト　Ⅴ層の再堆積。石多。第43号土坑の３b層？
お　黒褐色(10YR3/2)シルト　第43号土坑の５層。
か　にぶい黄褐色(10YR5/3)砂質シルト　石多。第43号土坑の覆土。
き　暗褐色(10YR3/4)シルト　第43号土坑の覆土。
く　暗褐色(10YR3/4)シルト　か層とほとんど同じ。き層の不自然さを解決するためにつくった。第43号土坑の覆土。
け　暗褐色(10YR3/3)シルト　第43号土坑の覆土。
こ　褐色(10YR4/4)シルト　Ⅴ層の再堆積に黒土が混じったものだが、地点によってその混じり方大きく異なる。第43号土坑の７b層。
さ　暗褐色(10YR3/4)シルト　Ⅴ層の再堆積？　石少ない。第44号土坑の１層。
さ－し　暗褐色(10YR3/3)シルト　炭化物わずかに含む。さ層とし層の中間的で色調はし層に近く、性状はさ層に近い。最初はさ層の一部で第44号土坑に含まれると考えていた。第42号土坑の覆土。
し　暗褐色(10YR3/4)シルト　かたくしまる。石多。第42号土坑の覆土。
す　暗褐色(10YR3/3)シルト　レキ多。第42号土坑の覆土。

1.褐色(10YR4/4)シルト
2.にぶい黄褐色(10YR5/4)シルト　１層に似るが、より明るい。３a層に非常によく似ている。
3a.褐色(10YR4/4)シルト　レキ多い。Ⅴ層起源の土多い。
3b.にぶい黄褐色(10YR5/4)砂質シルト　Ⅴ層の再堆積。
3c.にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　石非常に少ない。
4.暗褐色(10YR3/3)シルト　ややもろい。
3c－5.灰黄褐色(10YR4/2)シルト　根によるカクランのためか、3c層と５層の土が混じっており、3c層と５層の層順に疑問を感じたためにつくったが、やはり3c層の一部と考えて良いようである。
5.にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト　汚れたⅤ層の再堆積。
6.暗褐色(10YR3/3)シルト　ややもろい。炭化物含む。
7a.黄褐色(10YR5/6)砂質シルト　7b層のうちⅤ層起源の土が集中した部分。
7b.にぶい黄褐色(10YR5/4)シルト　Ⅴ層起源の土と暗褐色土の混土。
8.Ⅳ～Ⅴ層がくずれたもの。北側と南側の一部に存在。
9.暗褐色(10YR3/3)シルト　もろい。
10.にぶい黄褐色(10YR5/4)シルト　Ⅴ層起源の土含む。第45号土坑の覆土。
11.暗褐色(10YR3/4)シルト　10層によく似るが、より暗い。第45号土坑の覆土。

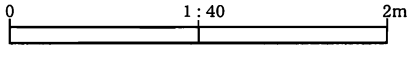
・第46号土坑



1.暗褐色(10YR3/4)砂質シルト　小石多い。当初第44号土坑の覆土と考えていた。北東隅の一部に存在。
2.にぶい黄褐色(10YR4/3)～黒褐色(10YR3/2)砂質シルト　レキ、土器多く含む。炭化物含む。
3.黒褐色(10YR3/2)シルト　炭化物含む。
4.褐色(10YR4/4)シルト　小石多い。
4b.にぶい黄褐色(10YR5/3)シルト　10層と４層の混土的。
5.暗褐色(10YR3/4)シルト　小石多い。
6.灰黄褐色(10YR4/2)シルト　小石多い。炭化物含む。
7.黒褐色(10YR3/2)粘土質シルト　最も黒い。
8.黄褐色(2.5Y5/4)砂　Ⅴ層の再堆積。
9.褐色(10YR4/4)シルト　レキ多い。Ⅳ～Ⅴ層のブロック含む。
10.明黄褐色(10YR6/6)シルト　Ⅳ～Ⅴ層の再堆積。第34号土坑の11層。
11.にぶい黄色(2.5Y6/4)砂　Ⅴ層の再堆積。
12.明黄褐色(10YR6/6)粘土　Ⅳ層の再堆積。第34号土坑の17層。
13.にぶい黄褐色(10YR5/4)シルト　Ⅳ層のブロック、小石含む。
14.明黄褐色(10YR6/6)砂質シルト　Ⅴ～Ⅵ層の再堆積か、そのもの。（後者の可能性が高い。）

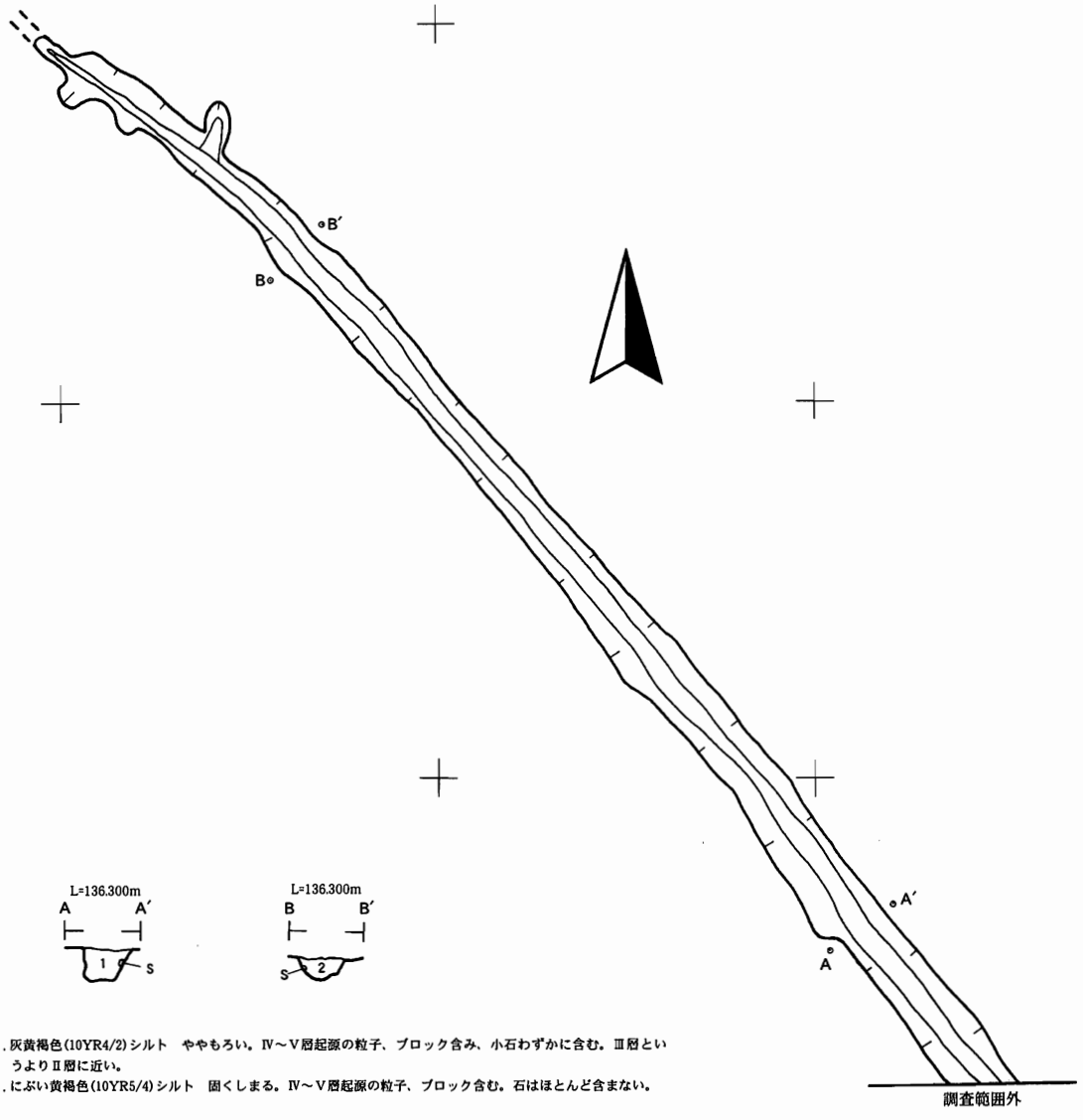


1.黄褐色(10YR5/6)砂質シルト　固くしまる。小石を多く含み、レキを含む。Ⅴ層の再堆積。

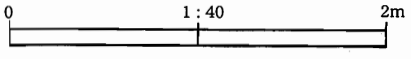


第25図　第42号～第45号土坑（２）、第46号土坑

・第1号溝跡

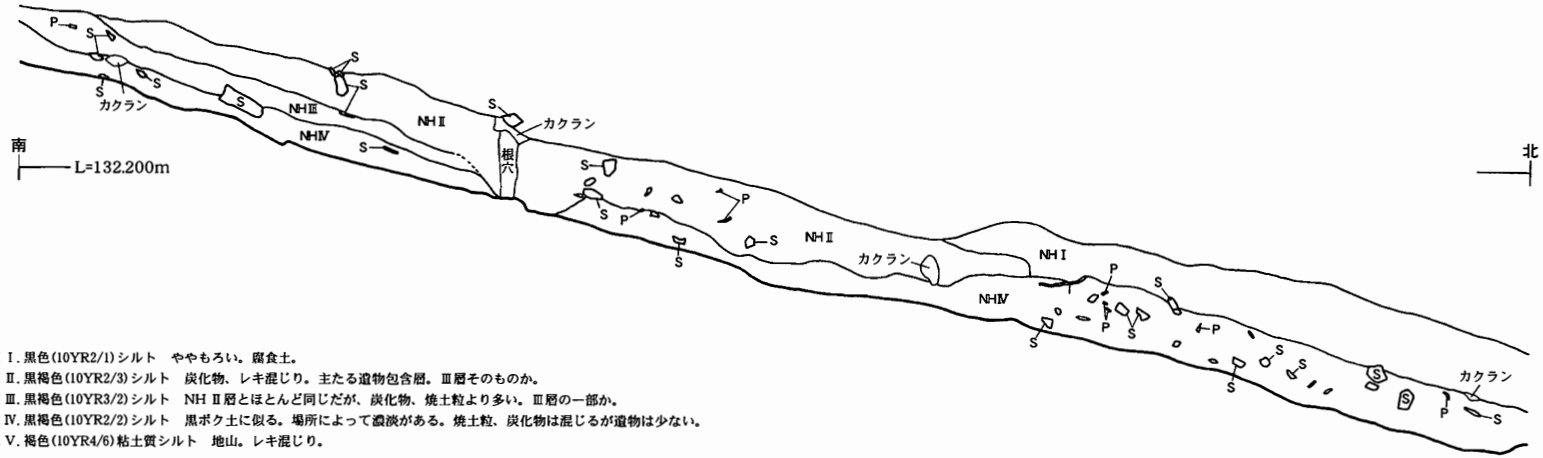


1. 灰黄褐色(10YR4/2)シルト　ややもろい。Ⅳ～Ⅴ層起源の粒子、ブロック含み、小石わずかに含む。Ⅲ層というよりⅡ層に近い。
2. にぶい黄褐色(10YR5/4)シルト　固くしまる。Ⅳ～Ⅴ層起源の粒子、ブロック含む。石はほとんど含まない。



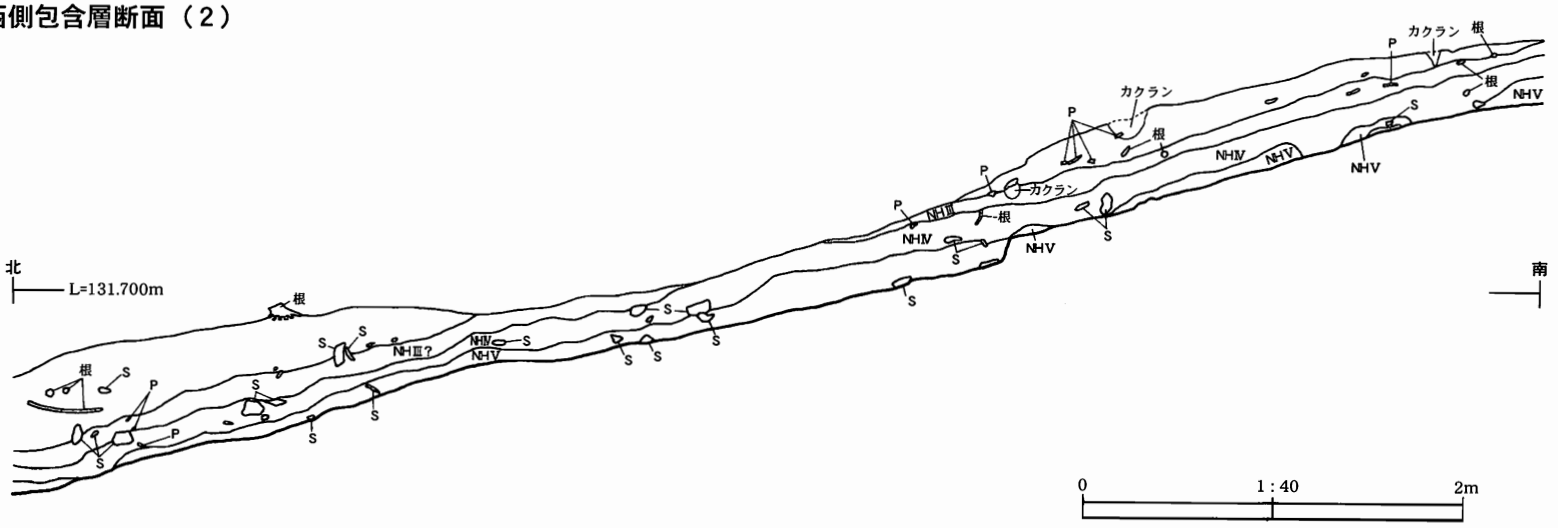
第26図　第1号溝跡

・西側包含層断面（１）



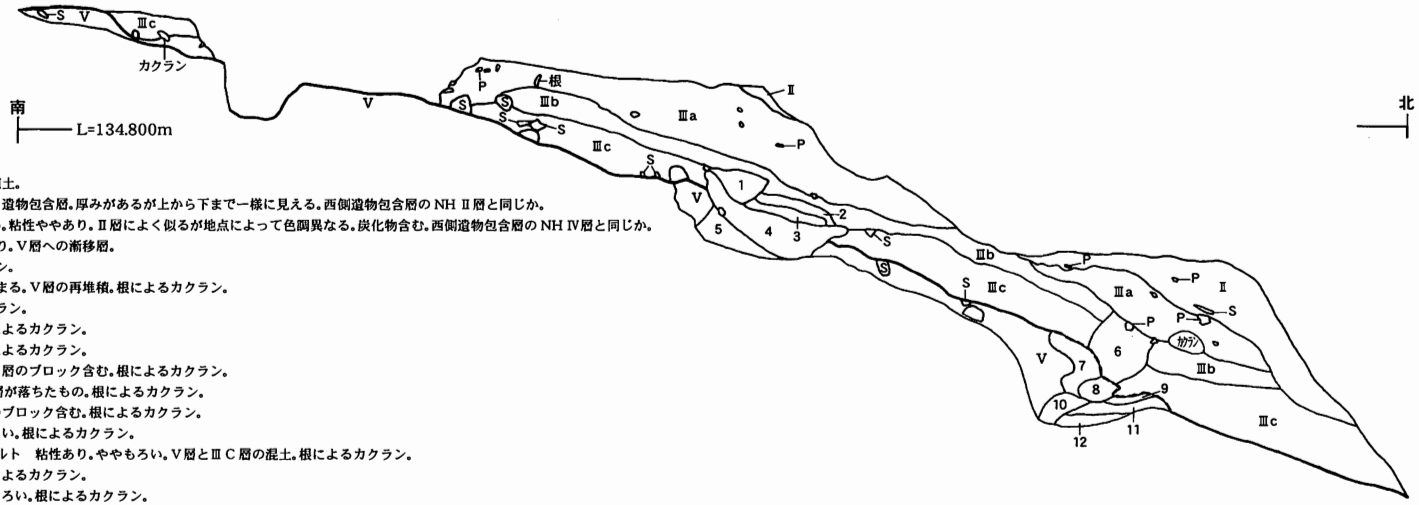
NH Ⅰ. 黒色(10YR2/1)シルト　ややもろい。腐食土。
NH Ⅱ. 黒褐色(10YR2/3)シルト　炭化物、レキ混じり。主たる遺物包含層。Ⅲ層そのものか。
NH Ⅲ. 黒褐色(10YR3/2)シルト　NH Ⅱ層とほとんど同じだが、炭化物、焼土粒より多い。Ⅲ層の一部か。
NH Ⅳ. 黒褐色(10YR2/2)シルト　黒ボク土に似る。場所によって濃淡がある。焼土粒、炭化物は混じるが遺物は少ない。
NH Ⅴ. 褐色(10YR4/6)粘土質シルト　地山。レキ混じり。

・西側包含層断面（２）



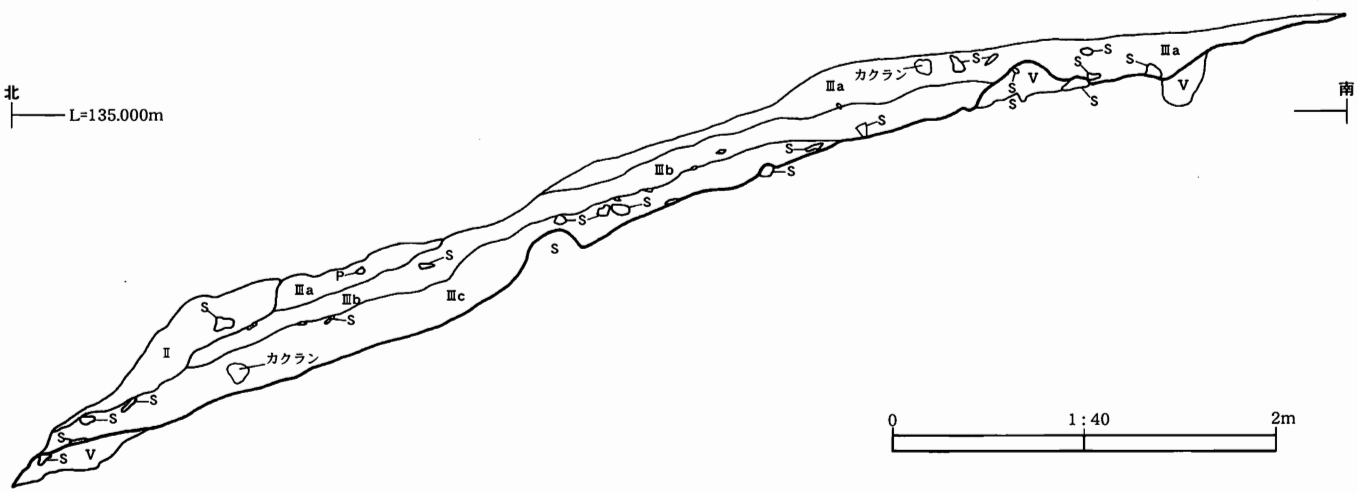
第27図　西側遺物包含層断面

・東側包含層断面（１）

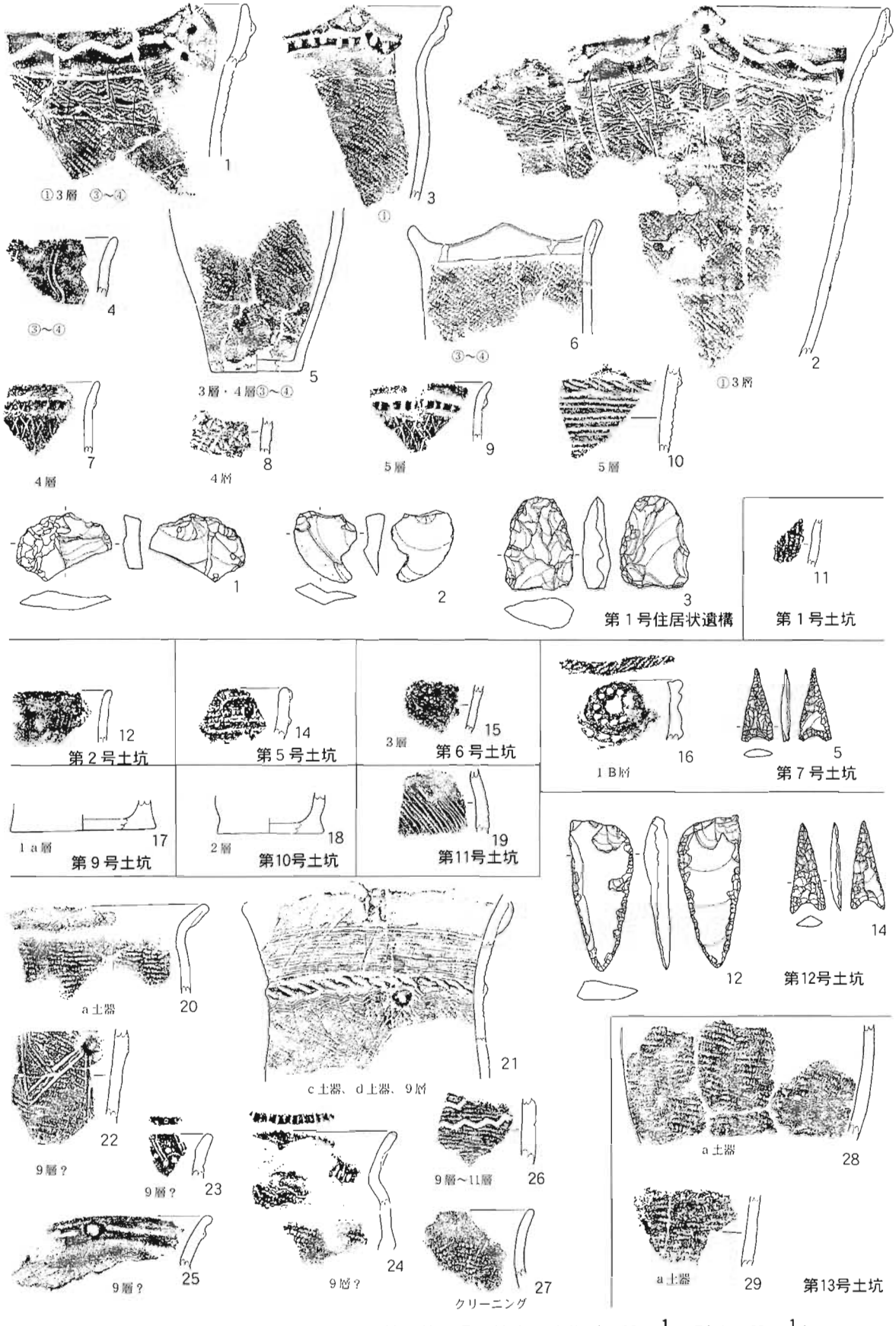


Ⅱ．黒褐色(10YR3/1)シルト　もろい。腐植土。
Ⅲa．黒褐色(10YR3/2)シルト　炭化物含む。遺物包含層。厚みがあるが上から下まで一様に見える。西側遺物包含層のNHⅡ層と同じか。
Ⅲb．黒褐色(10YR3/2～2/2)シルト　もろい。粘性ややあり。Ⅱ層によく似るが地点によって色調異なる。炭化物含む。西側遺物包含層のNHⅣ層と同じか。
Ⅲc．暗褐色(10YR3/3)シルト　粘性ややあり。Ⅴ層への漸移層。
1．黒色(10YR2/1)シルト　根によるカクラン。
2．明黄褐色(10YR6/6)砂質シルト　固くしまる。Ⅴ層の再堆積。根によるカクラン。
3．黒褐色(10YR3/2)シルト　根によるカクラン。
4．黒褐色(10YR2/2)シルト　粘性あり。根によるカクラン。
5．黒褐色(10YR2/2)シルト　粘性あり。根によるカクラン。
6．黒褐色(10YR2/2)シルト　ややもろい。Ⅴ層のブロック含む。根によるカクラン。
7．黒褐色(10YR3/2)シルト　粘性強。ⅢC層が落ちたもの。根によるカクラン。
8．黒色(10YR2/1)シルト　粘性あり。Ⅴ層のブロック含む。根によるカクラン。
9．黒色(10YR1.7/1)シルト　粘性あり。もろい。根によるカクラン。
10．黒褐色(10YR3/1)～暗褐色(10YR3/3)シルト　粘性あり。ややもろい。Ⅴ層とⅢC層の混土。根によるカクラン。
11．黒褐色(10YR2/2)シルト　粘性あり。根によるカクラン。
12．黒色(10YR2/1)シルト　粘性あり。ややもろい。根によるカクラン。

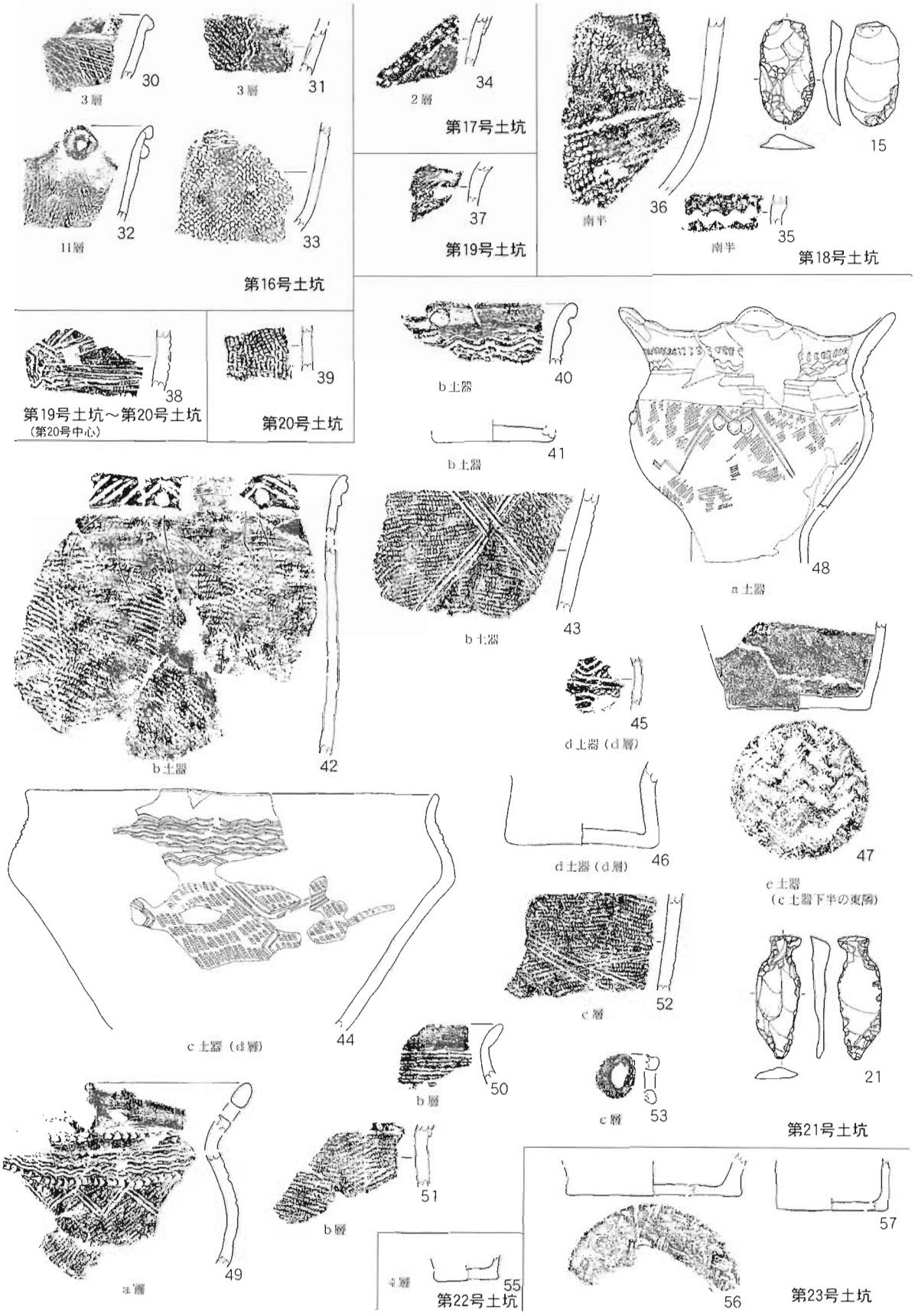
・東側包含層断面（２）



第28図　東側遺物包含層断面



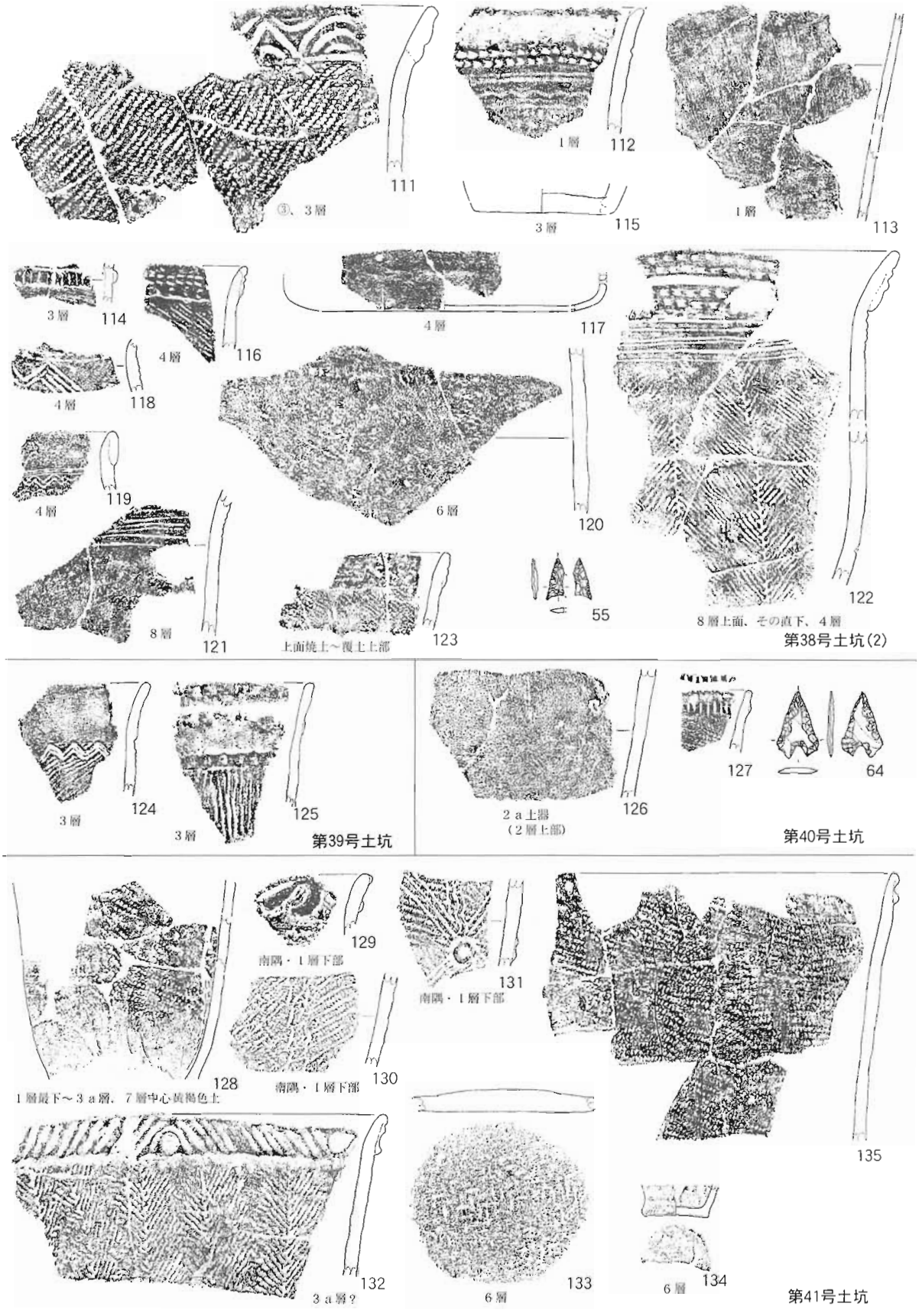
第29図　第1号住居状遺構、第1号土坑～第13号土坑出土遺物（土器は$\frac{1}{5}$、剥片石器は$\frac{1}{3}$）



第30図　第16号土坑～第23号土坑出土遺物（土器は$\frac{1}{5}$、剥片石器は$\frac{1}{3}$）

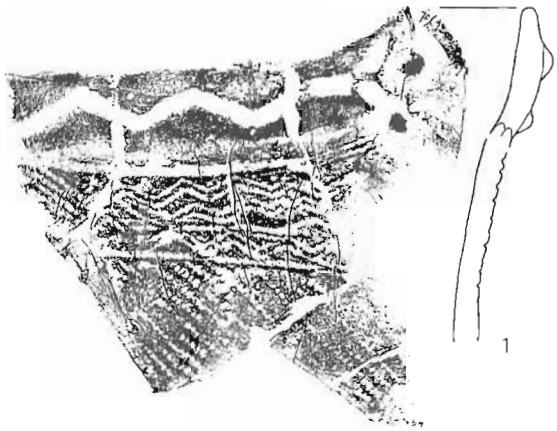
第31図　第24号土坑～第31号土坑（1）出土遺物（土器は$\frac{1}{5}$、剥片石器は$\frac{1}{3}$）

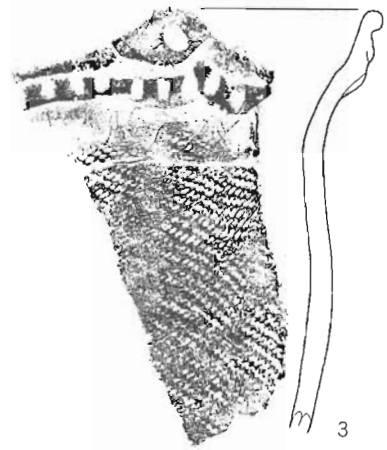
第32図　第31号土坑(２)～第38号土坑(１)出土遺物（土器・礫石器は$\frac{1}{5}$、剥片石器は$\frac{1}{3}$）

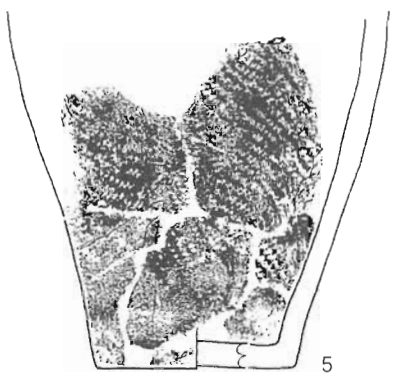


第33図　第38号土坑(２)～第41号土坑出土遺物（土器は$\frac{1}{5}$、剥片石器は$\frac{1}{3}$）

第34図　第42号土坑～第46号土坑出土遺物（土器は$\frac{1}{5}$、剥片石器は$\frac{1}{3}$）



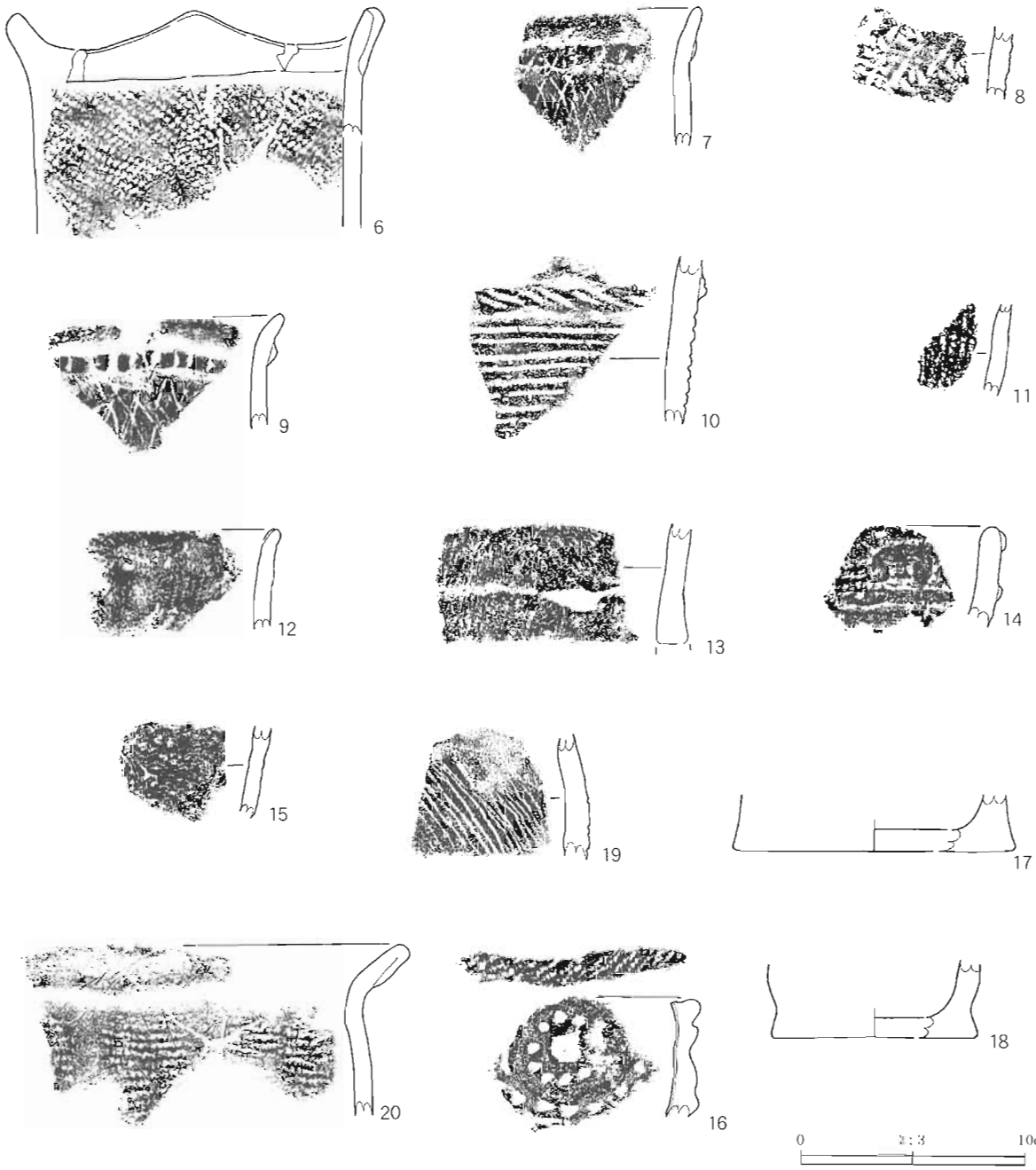




0　1：3　10cm

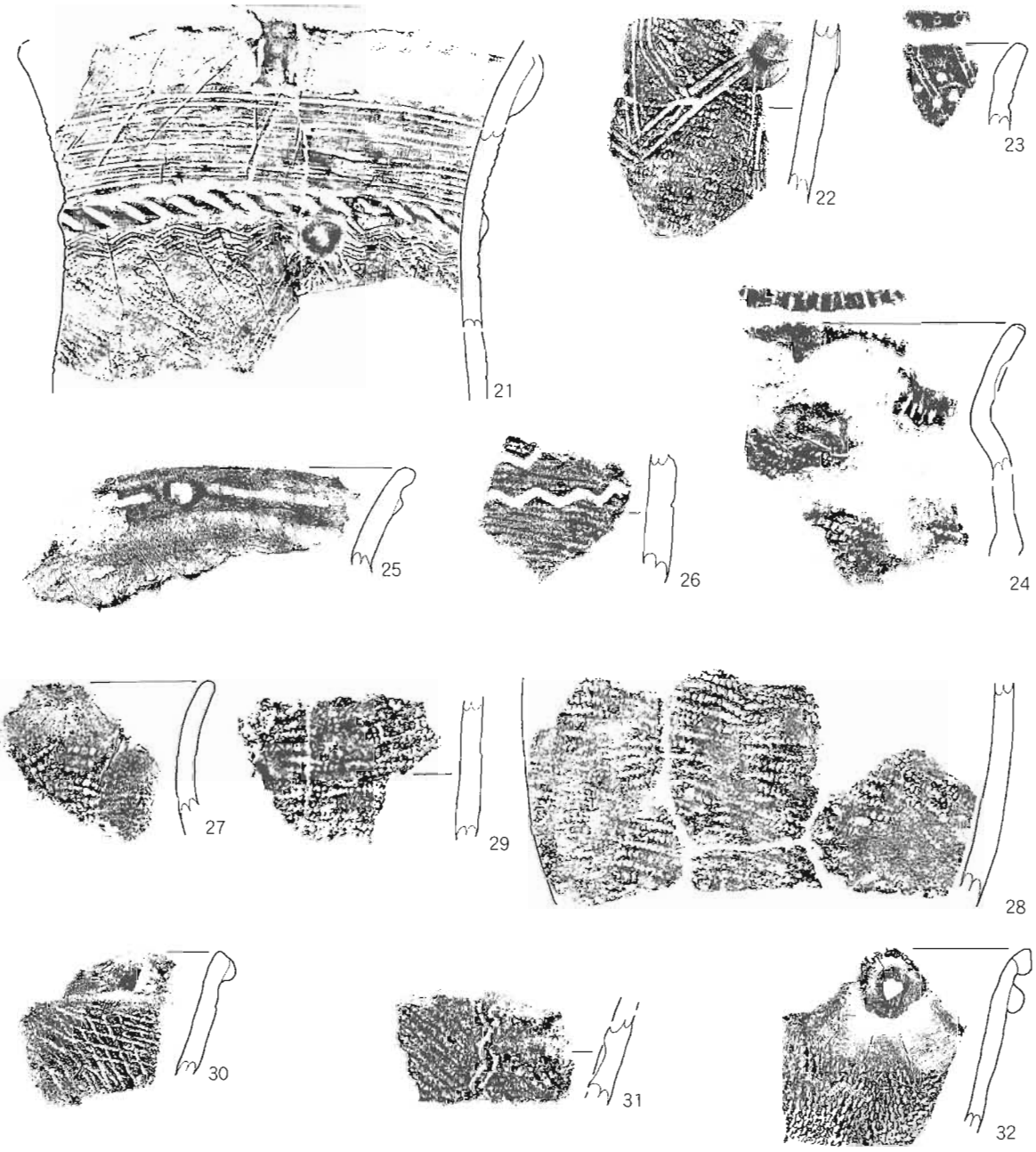
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾，地文・原体など）	内面（調整など）	備　考	本文記載
1	第1号住居状遺構①・3層，③～④	深鉢・口縁部	＊口縁1／4周弱		2と同一個体	p. 45
2	第1号住居状遺構①・3層	深鉢（胴1／4周弱）	山形突起4？／口：隆帯状（上に縄文）・ボタン状貼付文／頸：半裁竹管状工具による縄文／胴：RL ヨコ	ナデ	1と同一個体	p. 45
3	第1号住居状遺構①	深鉢（1.1／5周？）	山形突起（下に盲孔）／口：隆帯（上に爪形刻目）／頸：無文帯／胴：LR タテ？	ナデ	外面スス付着	p. 45
4	第1号住居状遺構③～④	深鉢・口縁部	突起・半裁竹管状工具による文様	ナデ？		p. 45
5	第1号住居状遺構・3層，4層，同③～④	底部（底ほぼ一周）	胴：LR タテ→底部付近中心にナデ／底面：ナデ	ナデ	内面スス付着	p. 45

第35図　土器（1）



No	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文、原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
6	第1号住居状遺構③～④	深鉢(1/3周)	突起4波状／口：隆帯状／胴：LR タテ？	ナデ(丁寧)		
7	第1号住居状遺構・4層	深鉢・口縁部	頭：隆帯上に爪形刻目（D類）／胴：単軸5（R）タテ	ナデ	摩耗・9と同一個体	
8	第1号住居状遺構・4層	胴部	結束1（LR、RL）ヨコ	ナデ	繊維混入・外面摩耗	
9	第1号住居状遺構・5層	深鉢・口縁部		ナデ	7と同一個体	
10	第1号住居状遺構・5層	深鉢・胴部	隆帯（上にナナメに刻目）・棒状工具による沈線	ナデ	白い砂混入	
11	第1号土坑	胴部	LR ヨコ？	ナデ	摩耗ひどい	
12	第2号土坑	口縁部	RL タテ？	ナデ	摩耗ひどい	
13	第3号～第4号土坑（第2号中心）	球胴深鉢？・底部？	縄文？（摩耗ひどくて不明）	ナデ	白い砂混入	
14	第5号土坑	深鉢・口縁部	RL タテ→太めの貼付文	ナデ？	白い砂混入・摩耗	
15	第6号土坑・3層	胴部？	縄文（？）？	ナデ		
16	第7号土坑・1B層	深鉢・突起	口唇：LR ヨコ／突起下半裁竹管状工具による刺突列	ナデ	白い砂混入	
17	第9号土坑・1a層	深鉢・底部	底部：ナデ／底面：ナデ	ナデ	白い砂混入：やや摩耗	
18	第10号土坑・2層	深鉢・底部(1/3程)	底部～底面：ナデ	ナデ	白い砂混入	
19	第12号土坑	深鉢・胴部	単軸絡1（L）ナナメ→ナデ　（＊上部接合面からの剥離）	ナデ	白い砂混入	
20	第12号土坑　a土器	深鉢？・口縁部	口：折り返し、口唇に刻目3／胴：LR ナナメ→口～頸部ナデ	ナデ		

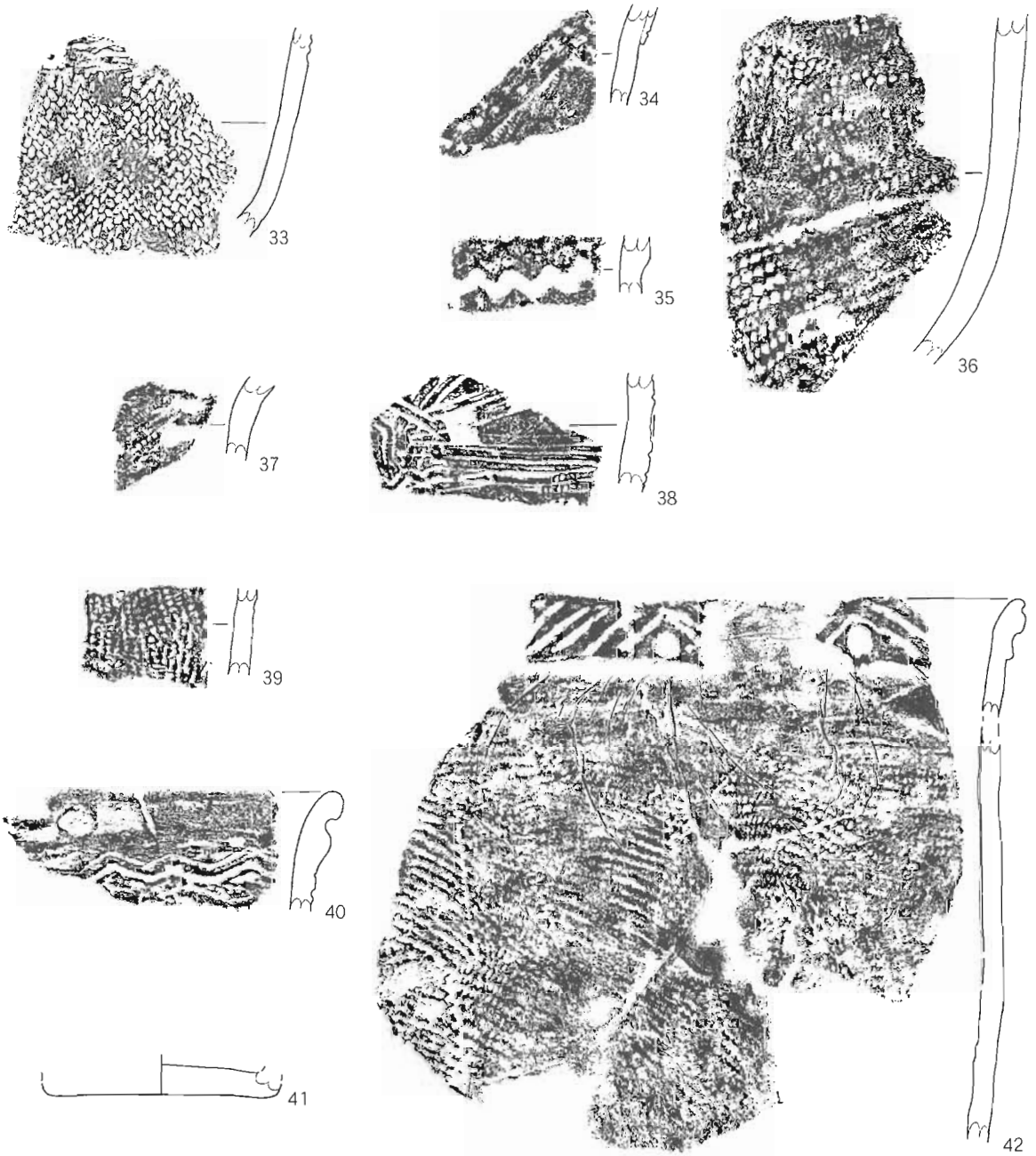
第36図　土器（2）



0　1：3　10cm

No.	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
21	第12号土坑　c土器、同 d 土器、同・9層？	深鉢(1/3周)	口縁刻苔（折り返し？）／頭部隆帯上ナナメ刻目／半裁竹管状工具による文様・ボタン状貼付文／LRナナメ	ミガキ	外面スス付着	p.45
22	第12号土坑・9層？	深鉢・胴部	LR タテ、ナナメ、ボタン状貼付文→半裁竹管状工具による文様	ナデ(丁寧)	外面スス付着	
23	第12号土坑・9層？	深鉢・口縁部	口唇：竹管状刺突列／口：竹管状刺突列・半裁竹管状工具による文様	ナデ	胎土石多い	
24	第12号土坑・9層？	深鉢	口唇：刻目列／口～胴：剥落ひどい・刻目列・LRナナメ？	ナデ	白い砂混入、外面スス	
25	第12号土坑・9層？	深鉢・口縁部	口唇部突起？、口縁部肥厚、盲孔	ナデ	白い砂混入	
26	第12号土坑・9層～11層	深鉢・胴部	LRナナメ→深く太い沈線	ナデ	白い砂混入	
27	第12号土坑　クリーニング	深鉢・口縁部	口～頭部：無文／胴：LR ヨコ、ナナメ	ナデ	白い砂混入	
29	第13号土坑　a 土器	深鉢・胴部(1/3周)	RL？ヨコ、ナナメ	ナデ	内面スス付着・28と同一	
29	第13号土坑　a 土器				28と同一個体	
30	第16号土坑・3層	深鉢・胴部	大きめの瘤状突起・単軸絡5（R？）ナナメ	ナデ？	白い砂混入・摩耗ひどい	
31	第16号土坑・3層	深鉢・胴部	RL ヨコ？→半裁竹管状工具による文様	ナデ	白い砂混入・内面剥落	p.45
32	第16号土坑・11層	深鉢・口縁部	波状口縁頂部外面に環状貼付文・単軸絡1（L）タテ	ナデ	内外面スス付着	p.45

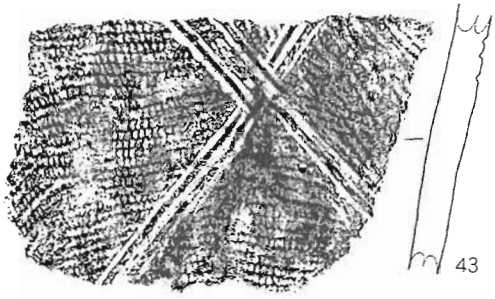
第37図　土器（3）

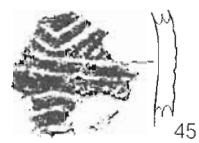


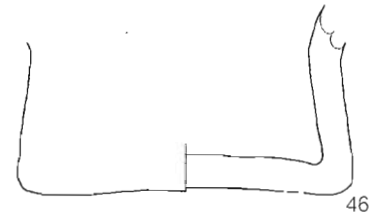
0　1：3　10cm

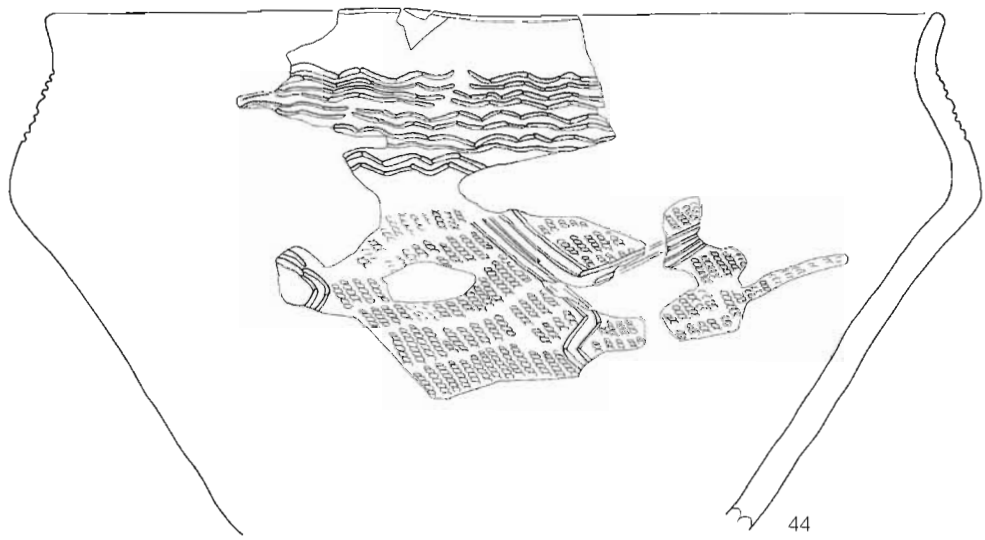
No.	遺土地点・層位	器種・部位	外観（文様・装飾、地文・器体など）	内面（調整など）	備　考	本文記載
33	第36号土坑	深鉢・頸～胴部	口：結節（R？）ヨコ／胴：縄紋（r・1番2本）ナナメ	ナデ	白い砂混入、繊維なし？	
34	第12号土坑・2層	深鉢？・口縁部	LR ヨコ→口唇帯貼付（上に竹管状刺突列）	ナデ	白い砂混入・やや摩耗	
35	第29号土坑　南半	深鉢・口縁部	太く深い沈線	ナデ	やや摩耗	
36	第18号土坑　南半	深鉢・胴部	LR ヨコ，ナナメ	ナデ？	内面磨滅・左地紋？	
37	第39号土坑	深鉢・胴部	LR ヨコ	ナデ	内面スス・外面剥落	
38	第39号～第30号土坑（第20号中心）	深鉢・胴部	LR ヨコ→半裁竹管状工具による文様	ナデ		
39	第20号土坑・8層	胴部	RL ナナメ	ナデ		
40	第21号土坑　b土器	深鉢・口縁部	突起下貫孔・半裁竹管状工具による文様	ナデ	外面スス付着	
41	第21号土坑　b土器	深鉢・底部	底面：ナデ（丁寧）	ナデ	内面スス付着	
42	第21号土坑　b土器	深鉢(1/4周弱)	II：縦帯状（上に太く深めの沈線，盲孔）／斜縄文→頸部ナデ	ナデ	内面下部ただれ	p. 45

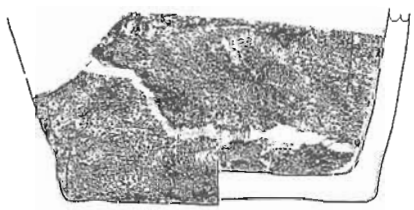
第38図　土器（4）

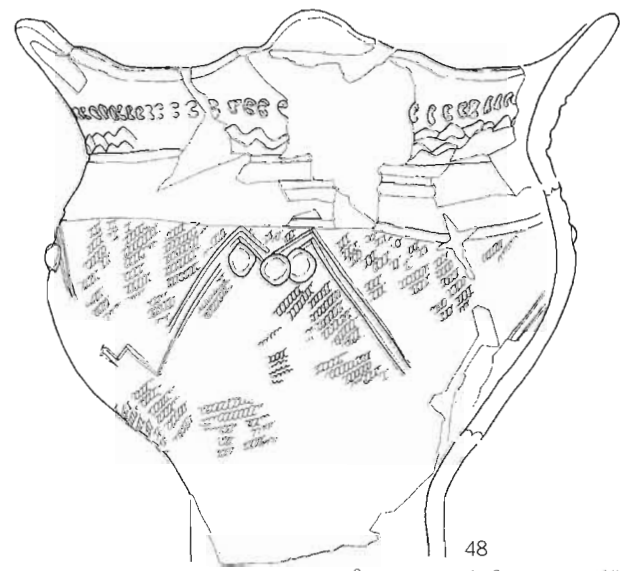








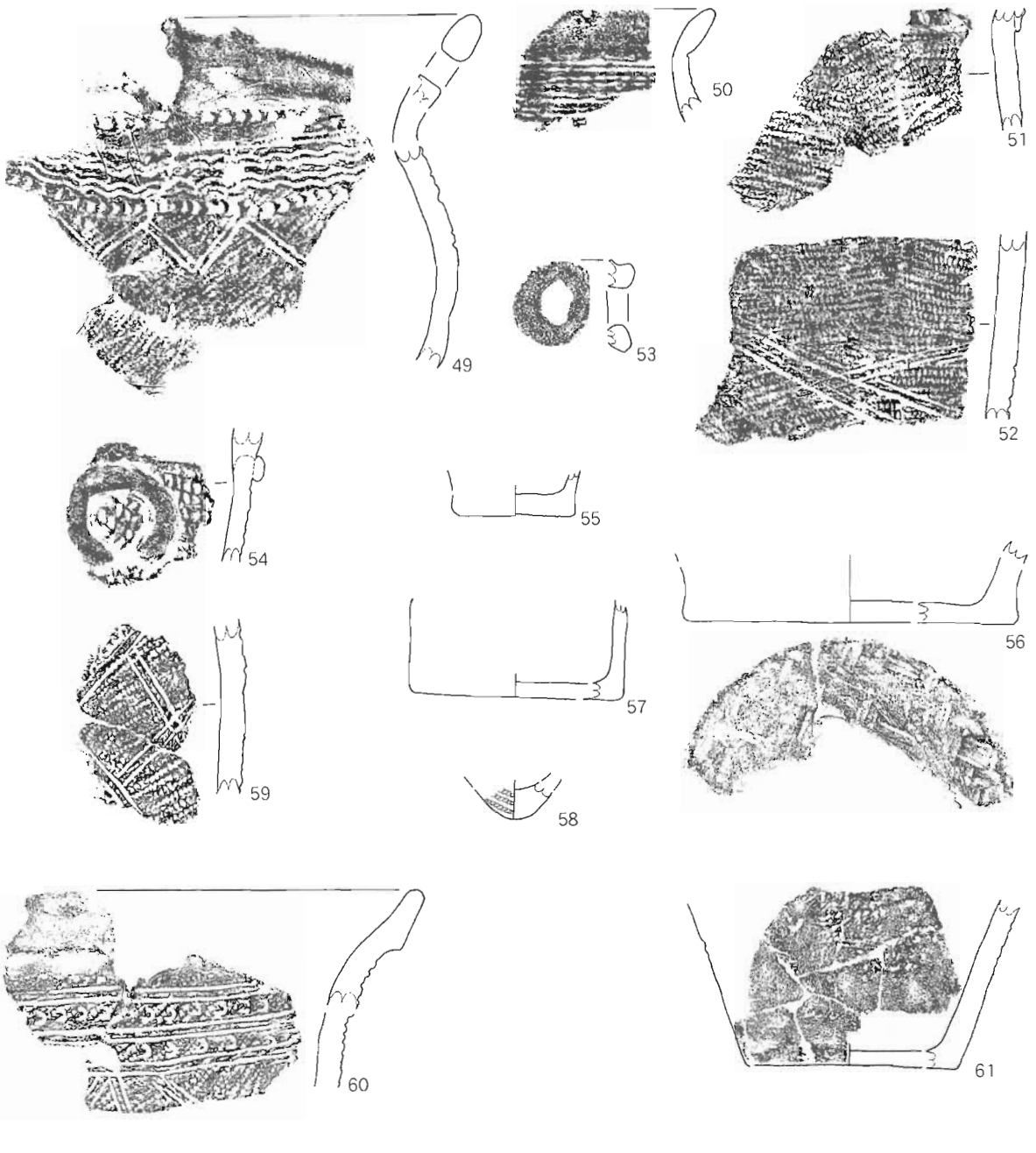




0 1:3 10cm

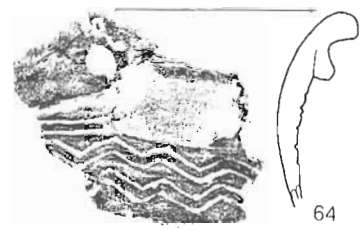
No	竪穴遺構・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
43	第21号土坑 b土器	深鉢・胴部	RLナナメ？→半裁竹管状工具による文様	ナデ	外面スス付着	p.45
44	第21号土坑 c土器（d層）	球胴深鉢系（L/4周）	口：無文（ナデ）／LR タテ→半裁竹管状工具による文様（頸部も）	ナデ	外面剥落ひどい	
45	第21号土坑 d土器（d層）	深鉢・胴部	RL タテ？→半裁竹管状工具？による文様	ナデ	外面剥落	
46	第21号土坑 d土器（d層）	深鉢・底部	底部～底面：ナデ	ナデ		
47	第21号土坑 e土器（c土器下半の東隣）	深鉢・底部	胴部下部：縄文？／底部付近：ナデ／底面：網代痕→ナデ	ナデ	白砂混入・内面スス付着	p.45
48	第21号土坑 a土器	球胴深鉢（胴一周）	山形突起4単位／胴：RL タテ→半裁竹管状工具による文様・ボタン状貼付文	ナデ	口～頸部剥落ひどい	p.45

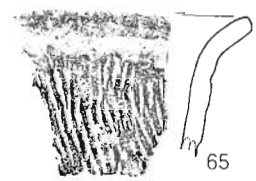
第39図　土器（５）

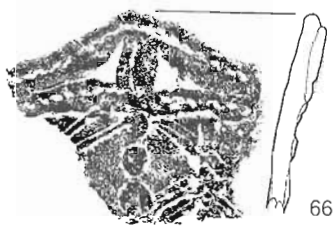


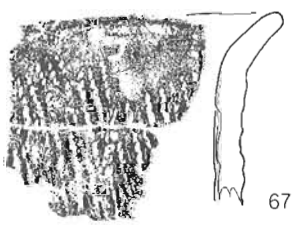
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
49	第21号土坑・a層	球胴深鉢(1/4周以下)	突起下貫通孔／口縁隆帯状／胴：LR ヨコ→半裁竹管状工具による文様	ナデ	内面剥落	p.45
50	第21号土坑・b層	深鉢・口縁部	口縁肥厚／細く深い沈線	ナデ	外面スス・外面摩耗	
51	第21号土坑・b層	深鉢・胴部上半	LR ヨコ、ナナメ→隆帯（上に刻目）	ナデ		
52	第21号土坑・c層	深鉢・胴部	LR ナナメ→半裁竹管状工具による文様	ナデ	白い砂混入	
53	第21号土坑・c層	深鉢	＊口縁部貼付文			
54	第21号土坑～第22号土坑①	深鉢・口縁部	台形突起？／RL ヨコ→C字状貼付文	ナデ	外面スス・内面突起接合痕	
55	第22号土坑・4層	底部（一周）	底部～底面：ナデ	ナデ		
56	第23号土坑	深鉢・底部(1/3周)	底部：ナデ／底面：網代痕→ナデ	ナデ		
57	第23号土坑	底部(1/4周弱)	（外面摩耗）	ナデ	内面スス付着	
58	第24号土坑・1～6層	深鉢・底部	LR タテ	ナデ	内面黒色	
59	第24号土坑・1～6層	深鉢・胴部	LR ヨコ→半裁竹管状工具による文様	ナデ		
60	第24号土坑・1～6層	深鉢・口縁部	山形突起／口縁隆帯状／LR ヨコ→半裁竹管状工具による文様→口縁ナデ	ナデ		
61	第24号土坑・3層	深鉢・底部	胴下部：RL？ナナメ／底部～底面：ナデ	ナデ(雑)	内面スス・外面二次被成？	

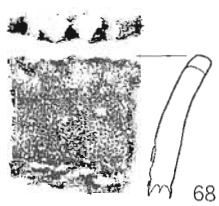
第40図　土器（6）











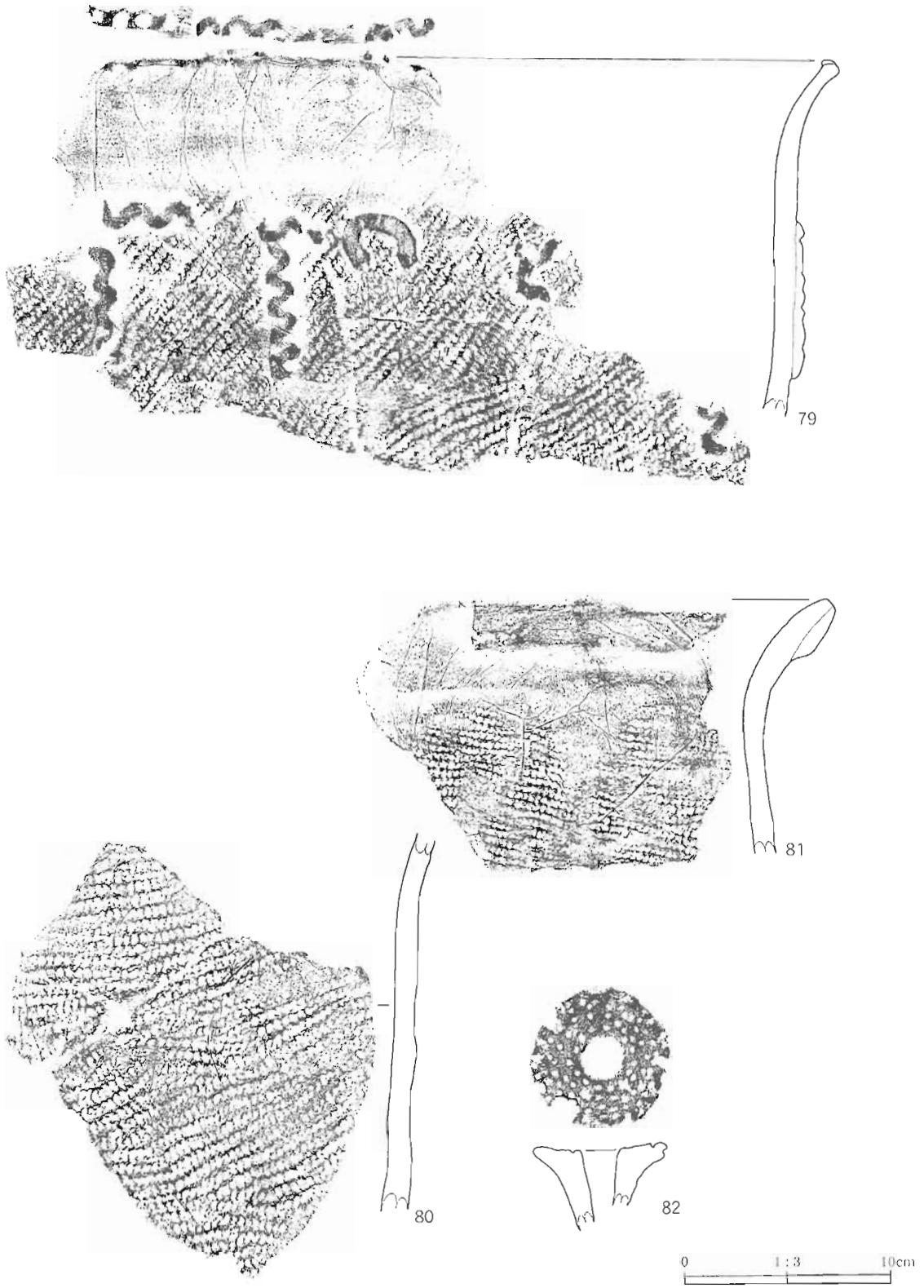
0　1：3　10cm

No.	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
62	第24号土坑・3層？	深鉢(1/4周弱)	LR ヨコ、ナナメ→口～頸部ナデ	ただれ	外面スス、下部赤く二次焼成？	
63	第24号土坑・3層？	深鉢・胴部	単軸絡L（R？）ナナメ→太く深い沈線	ナデ		
64	第24号土坑・7層	深鉢・口縁部	山形突起／口縁隆帯状・突起下に深い盲孔／半裁竹管状工具による文様	ナデ	外面スス付着	
65	第24号土坑・8～13層	深鉢・口縁部	口縁：無文／胴：単軸絡L（R）タテ～ナナメ	ナデ(雑)	内面黒、外面赤(二次焼成？)	
66	第24号？、第33号？土坑	深鉢・口縁部	山形突起／口：隆帯貼付（上に側面圧痕）／胴：ボタン状貼付→半裁竹管状工具による文様	ナデ	内外面スス付着	p.45
67	第24号土坑　カベ出し	深鉢・口縁部	口：無文／胴：単軸絡L（L）ナナメ	ナデ		
68	第25号土坑　北半	深鉢・口縁部	口唇：押圧列／口：無文／胴：結節回転？	ナデ？	白い砂・内外面摩耗	
69	第26号土坑　a土器（1層）	深鉢(1/4周弱)	胴：LR ナナメ／底面：網代痕？→ナデ	ナデ	外面上スス、下白い	

第41図　土器（7）

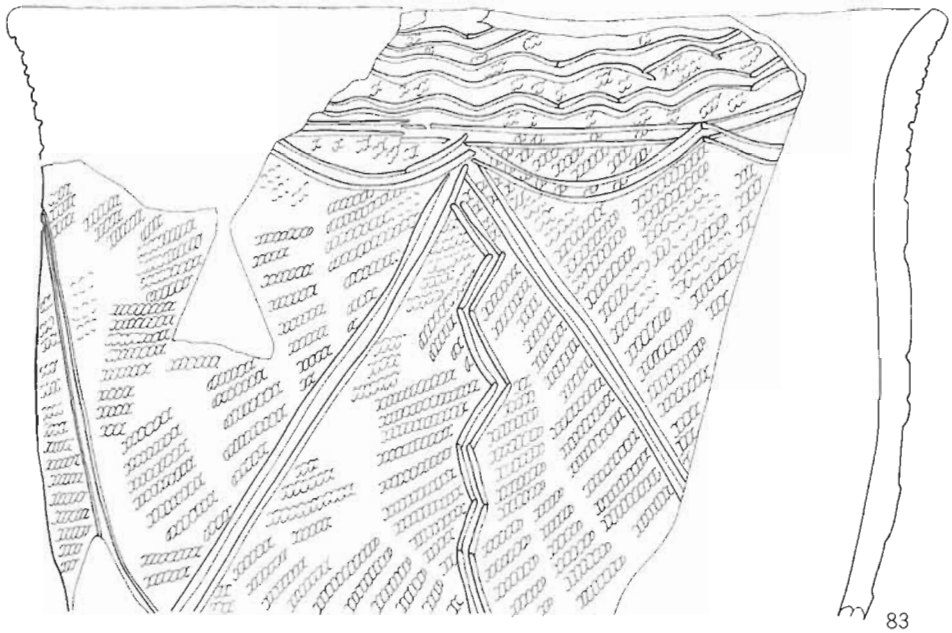
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
70	第26号土坑 b 土器（1層）	深鉢(1/8周)	胴：LR ナナメ／底部付近：無文／底面：網代痕？	ナデ	胎土石多い	
71	第26号土坑・上層	深鉢・胴部	RL ナナメ？→竹管状工具による文様	ナデ		
72	第27号土坑・1層	深鉢・口縁部	口唇：押圧列／口：無文／胴：単軸絡Ⅰ（R）ナナメ	ナデ		
73	第28号土坑・2層	深鉢・胴部	LL ナナメ？→細く短い貼付文	ナデ	内外面スス付着	
74	第28号土坑・2層	深鉢(1/3周弱)	口唇：押圧列／単軸絡Ⅰ（R）ナナメ→貼付文（上押圧）、口縁ナデ	ナデ		図版45
75	第28号土坑・1層	胴部	原体不明（オオバコ回転文？？）	ナデ	内面スス	
76	第30号土坑・1層	胴部	原体不明	ナデ		
77	第31号土坑・1層	深鉢・口縁部	口縁隆帯状／LR タテ？→上部（口縁～頸部）ナデ	ナデ	胎土石多い・繊維	
78	第31号土坑・2層	深鉢・口縁部	口：無文／胴：LR ナナメ	ナデ	整形雑・外面スス	

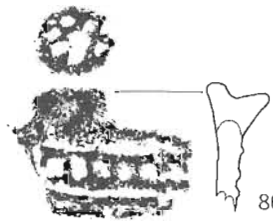
第42図　土器（8）

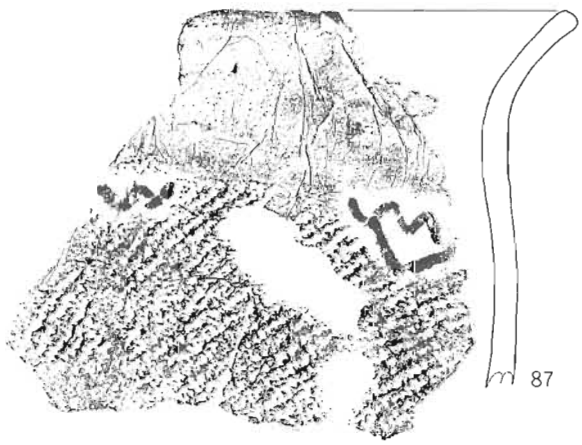


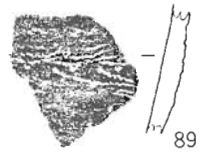
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
79	第31号土坑・1層	深鉢(胴1/4周)	口唇：押圧列と波状貼付文／口：無文／胴：LR ヨコ→貼付文（波状）	ナデ	下胴口接合面から剥離	
80	第31号土坑・1層	深鉢・胴部	LR ヨコ、ナナメ	ナデ	内面スス付着	
81	第31号土坑・2層	深鉢・口縁部	口縁降帯状／口縁～頸部：無文／LR ナナメ	ナデ	外面口縁剥落	
82	第31号土坑	深鉢・口縁突起	上面尖った棒状工具による細く深い刺突列	ナデ		

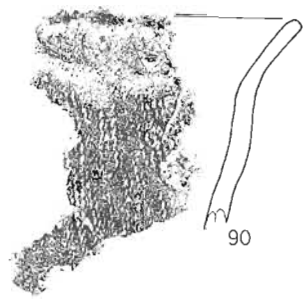
第43図　土器（9）

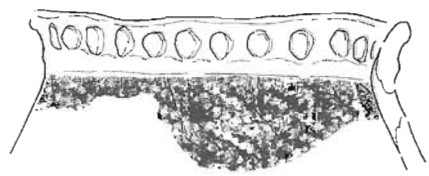








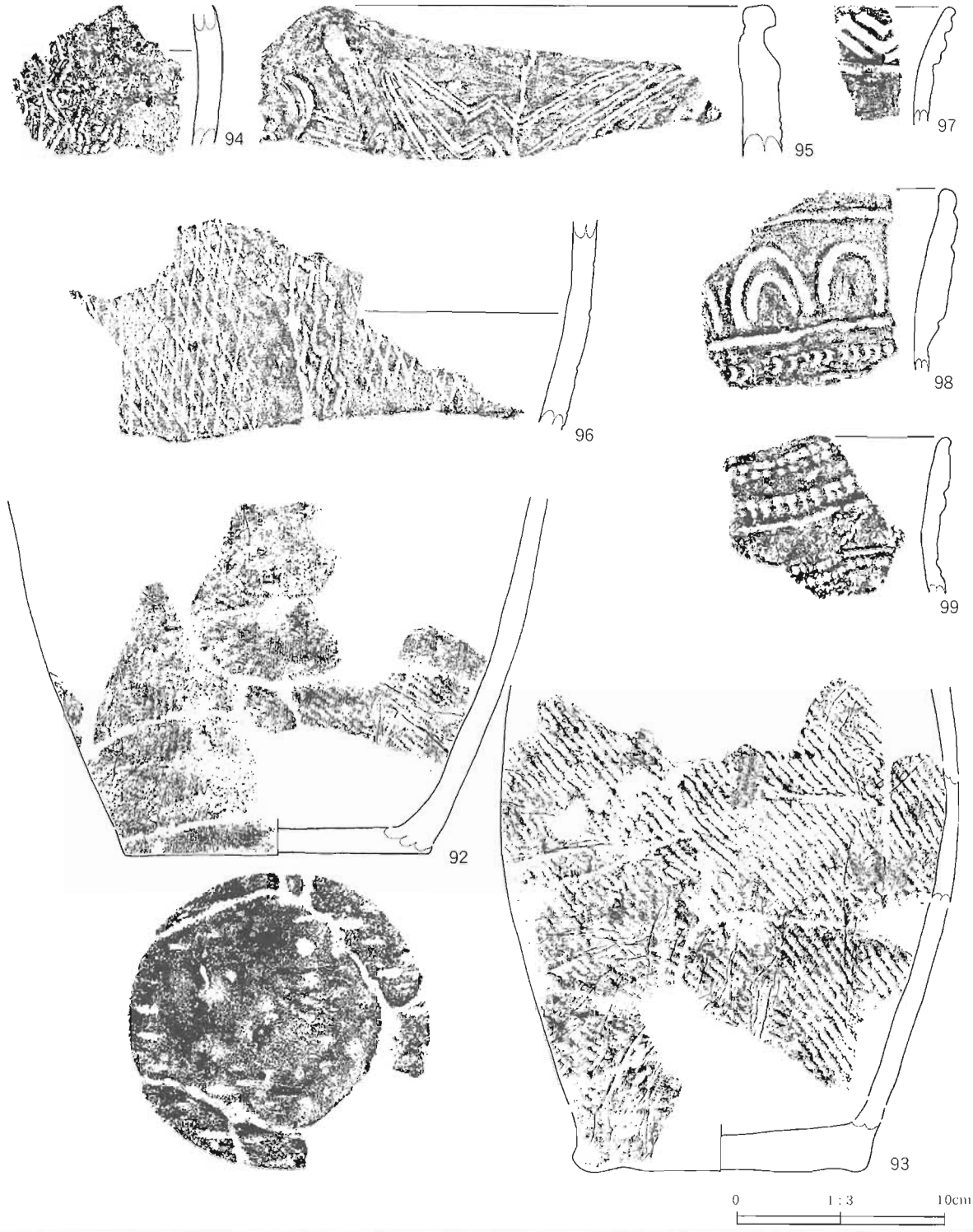




0　1：3　10cm

No	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
83	第31号土坑・4層上面？	深鉢(胴1/4周)	LR ヨコ、ナナメ→半裁竹管状工具による文様　（＊上部疑似口縁）	ナデ	歪みあり・外面スス	
84	第32号土坑・1～1b層	深鉢・口縁部	口唇：蛇行状貼付文／口縁：大きめの瘤状突起	摩耗	摩耗ひどい	
85	第32号土坑・1～1b層	深鉢・底部	LR ナナメ／底部～底面：ナデ	ナデ	内面黒・炭化物	
86	第32号土坑・1～1b層	深鉢・口縁部	上面横円形突起（上に太く浅めの円刺突、中央は深い）／格子状貼付文（下水平沈線）	摩耗	摩耗ひどい	D.45
87	第32号土坑・4層	深鉢	口～頸部ナデ→LR ヨコ→細く短い貼付文	ナデ	外面スス、剥落	
88	第34号土坑・1層	底部(1/2周強)	底部～底面：ナデ	ナデ	摩耗	
89	第34号土坑・1層	胴部	単軸絡条1（L）ヨコ	摩耗	摩耗	
90	第35号土坑	深鉢	口～頸部ナデ→単軸絡条1（L）タテ～ナナメ	ナデ	内面黒斑・外面スス、剥落	
91	第36号土坑・2層	深鉢(1/2周弱)	口縁波状（4）？／口縁：隆帯状（上に指頭状D字形押圧列）／胴：LR タテ	ナデ	外面スス	

第44図　土器(10)

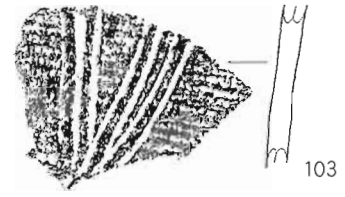


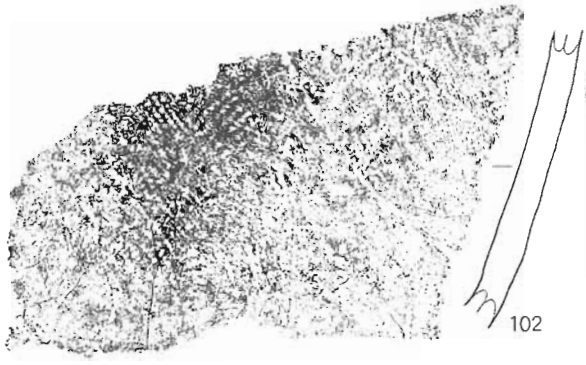
No	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
92	第36号土坑	深鉢(底5/6周)	胴：RL タテ（末端も）／底部：ナデ／底面：網代痕→ナデ	ナデ	内面スス・外面摩耗	p. 45
93	第36号土坑	深鉢(底2/3周)	胴：L タテ：底部：ナデ／底面：網代痕→ナデ	ナデ(雑)	内外面スス付着	p. 45
94	第36号土坑	深鉢・胴部	RL タテ→半裁竹管状工具による文様	ナデ		
95	第36号土坑	深鉢(1/4周弱)	山形突起下に太く深い（指頭による？）盲孔/半裁竹管状工具による文様→指頭による？太い沈線	ナデ(雑)		
96	第36号土坑	深鉢(1/5周)	単軸絡5（L）タテ→結節タテ　（＊下割口接合面からの剥離）	ナデ	内面摩耗	
97	第36号土坑	深鉢・口縁部	口縁下太く深い沈線／太く深い沈線（棒状工具）による文様	ナデ	外面スス付着	
98	第36号土坑	深鉢・口縁部	口縁隆帯状／口縁下半裁竹管状工具による刻目列／太く深い沈線（棒状工具？）による文様	ナデ	沈線→ナデによるつぶれ	p. 45
99	第36号土坑	深鉢・口縁部	口縁隆帯状／頸：LR ヨコ→文様／半裁竹管状工具による２条一組の刻目列	ナデ	波状口縁	

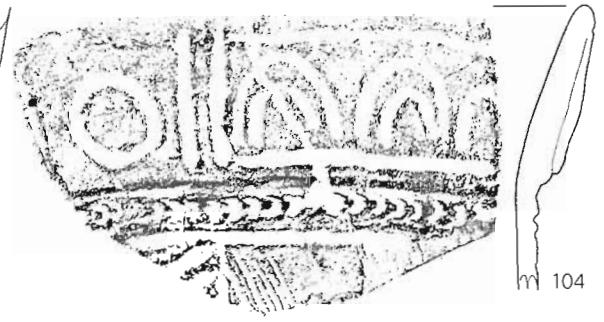
第45図　土器(11)

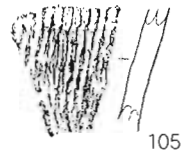
100

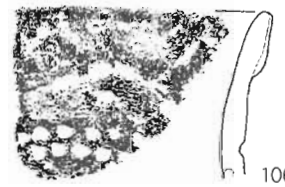
101

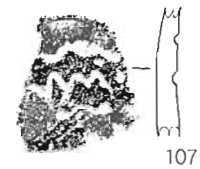

103

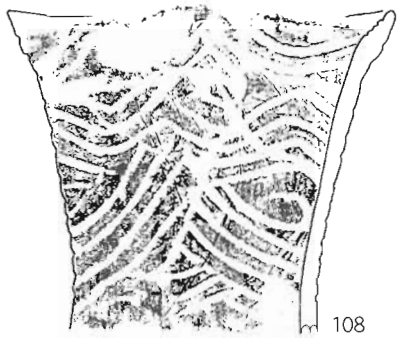

102

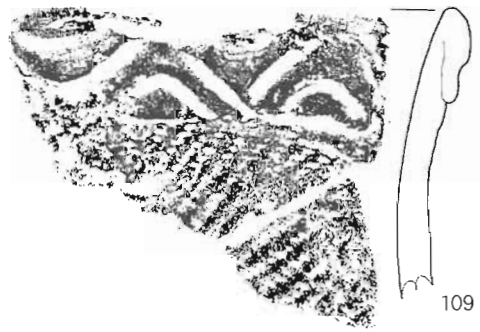

104


105


106


107


108

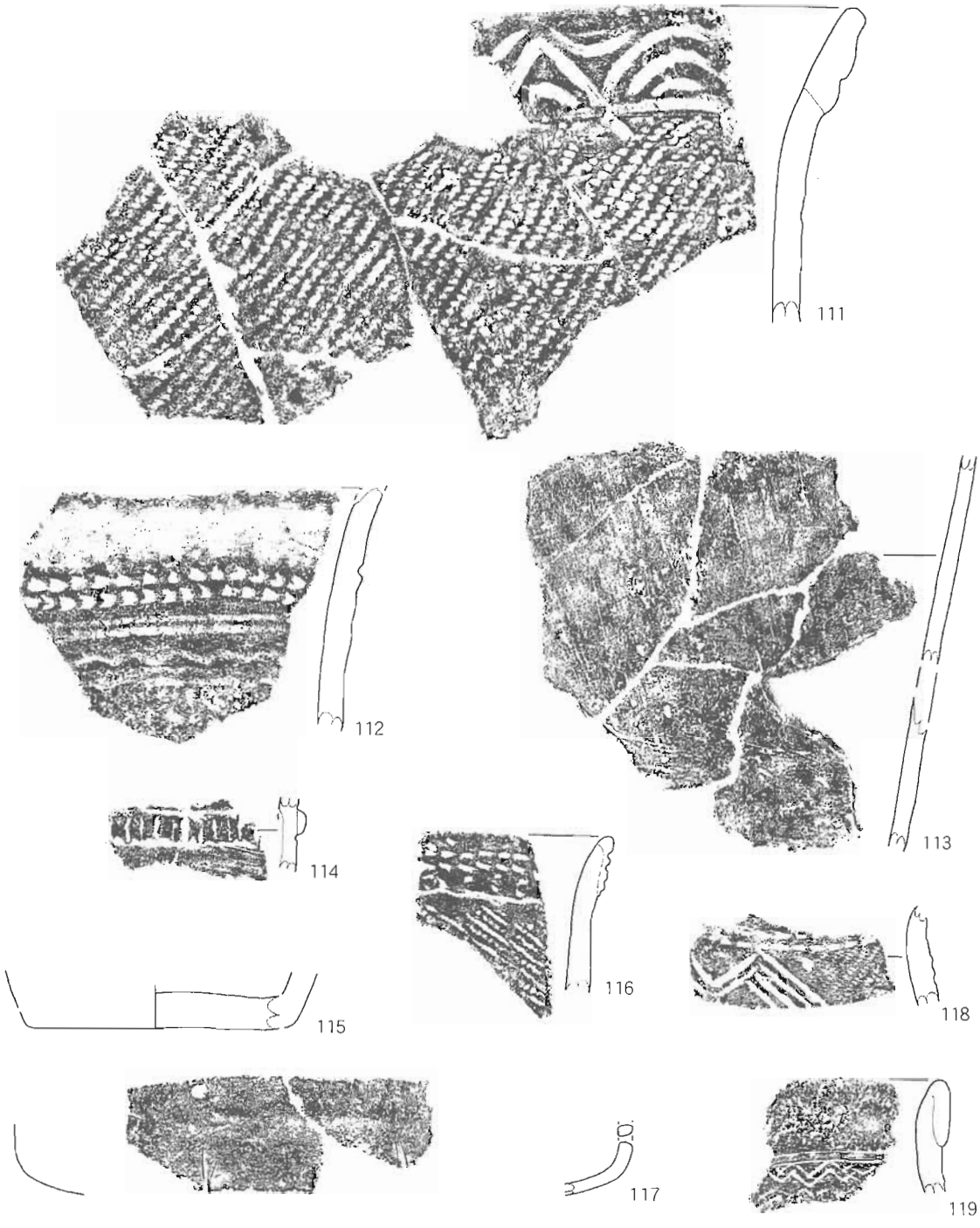

109

110

0 1:3 10cm

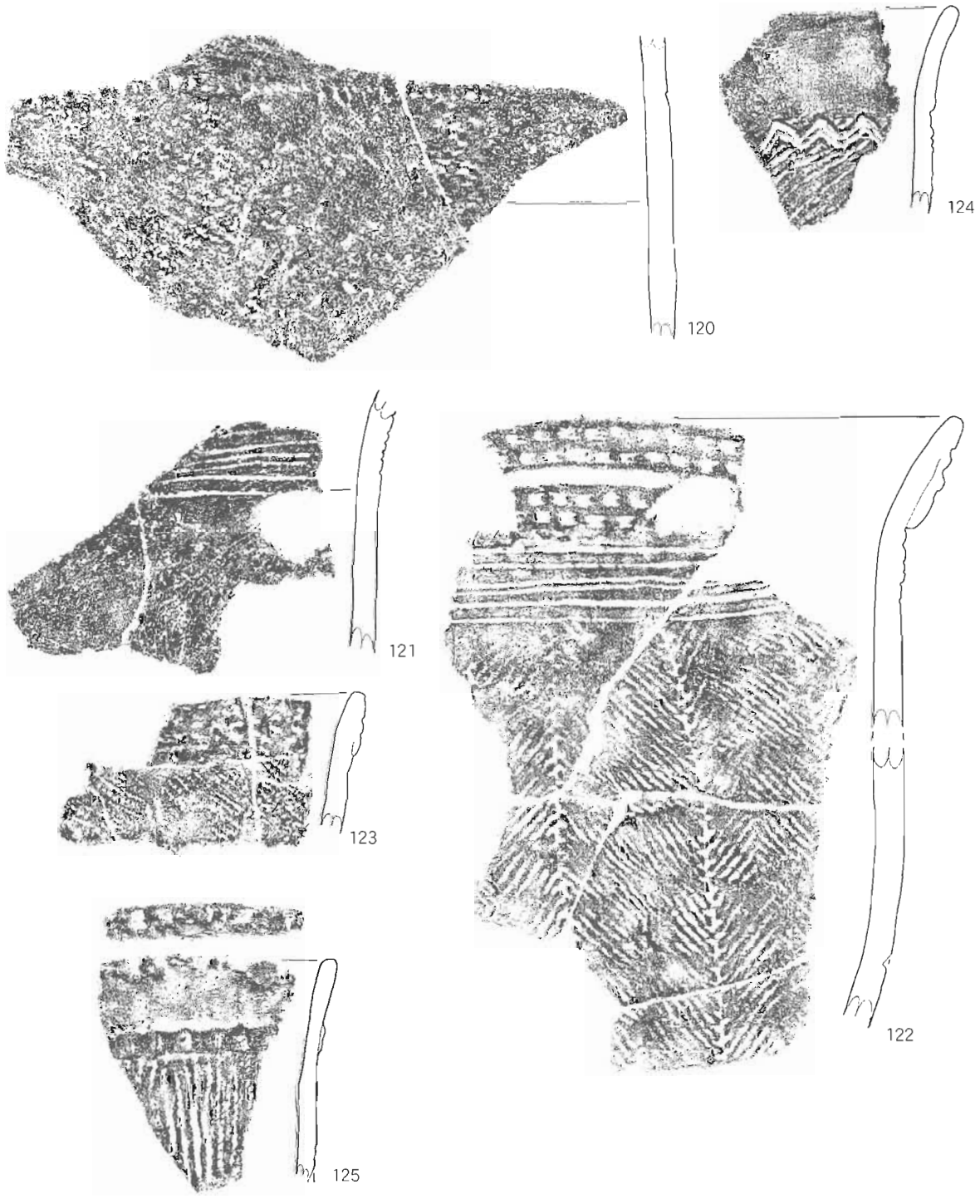
No	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
100	第36号土坑	深鉢・口縁部	口縁：隆帯状（上Rナナメ？）／頸：Rナナメ？→ナデ	ナデ(雑)		
101	第36号土坑	深鉢・口縁部	口縁：隆帯状（上LR ヨコ→ナデ）／頸：ナデ	ナデ	外面スス付着	
102	第36号土坑？第37号土坑？	深鉢(1/5周)	LR タテ，ヨコ（一部羽状）	ミガキ？？	外面摩耗・内面スス	
103	第36号土坑？第37号土坑？	深鉢・胴部	LR ナナメ→半裁竹管状工具による文様	ナデ		
104	第36号土坑？第37号土坑？	深鉢・口縁部	口縁隆帯状／口縁下半裁竹管状工具による刻目列／太く深い沈線(棒状工具？)による文様	ナデ	外面スス付着？	p.45
105	第37号土坑	深鉢・胴部	単軸絡1（R）ナナメ	ナデ		
106	第38号土坑①	深鉢・口縁部	口縁：隆帯状（上太く深い沈線による文様）／頸：太く深いD字形刻目列	ナデ	外面剥落	
107	第38号土坑②	深鉢・胴部上半	深めで乱れがちの蛇行沈線／LR ヨコ，結節ヨコ	ナデ		
108	第38号土坑②、③	深鉢(1/4周)	口内面：突起内？二重弧沈線，その他竹管状刺突列2条／口縁隆帯上／太く浅めの沈線による文様	ナデ	突起？剥落・外面スス	p.45
109	第38号土坑③	深鉢・口縁部	口縁隆帯上→頸部RL タテ→口縁ナデ／太く深めの沈線	ナデ	外面摩耗，剥落	
110	第38号土坑③	深鉢・口縁部	口縁：隆帯状（上に非常に太く深い沈線）／頸：LR ナナメ？	ナデ		

第46図　土器(12)



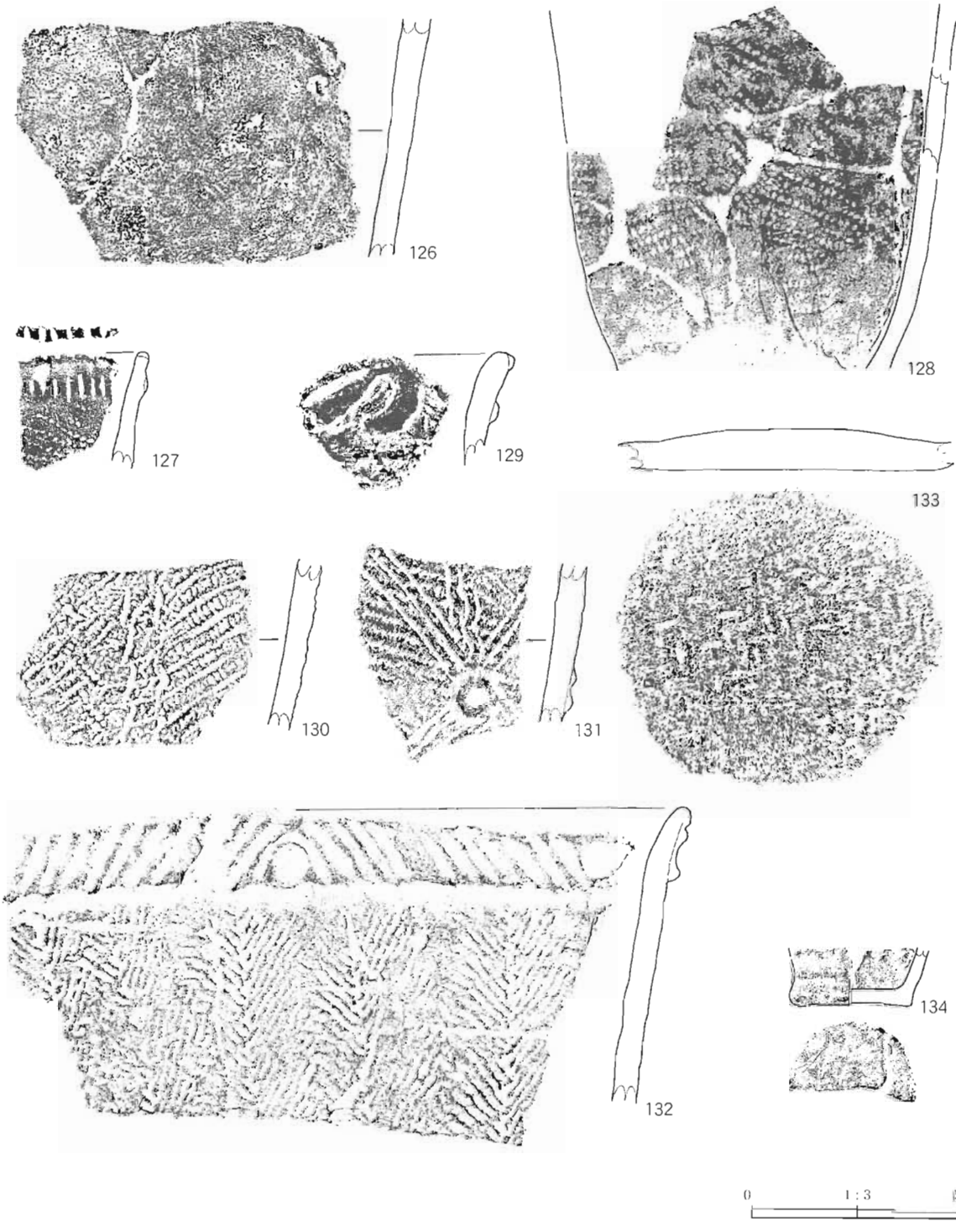
No	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
111	第38号土坑③、同・3層	深鉢(頭1/5周)	口縁：隆帯状（太く深めの沈線）／頭：LR ヨコ→口縁下ナデ	ナデ	3層5,7,③4/7で取り上げ	
112	第38号土坑・1層	深鉢・口縁部	口縁剥落／口縁下半裁竹管状工具による刻目列／半裁竹管状工具による文様	ナデ	外面摩耗ひどい	
113	第38号土坑・1層	深鉢・胴部	ナデ（下に土師器のケズリに近い工具痕見える）	ナデ	内面ややただれ	
114	第38号土坑・3層	深鉢・頭部	隆帯上に細く深い刻目列	ナデ	内面剥落	
115	第38号土坑・3層	底部(2/3周)	底面：ナデ	ナデ	外面摩耗	
116	第38号土坑・4層	深鉢・口縁部	口縁：隆帯状（上に二又状工具による刺突列）／頭：LR タテ	摩耗		
117	第38号土坑・4層	列孔浅鉢？	焼成後に貫通孔（両側からだが主として外から）→ミガキ？	ナデ	上部接合面からの剥離	p. 45
118	第38号土坑・4層	深鉢・胴部	LR ヨコ？→胴部直上二又状工具による刺突列、同じ工具による文様	ナデ(丁寧)	下部口縁台面から剥離	
119	第38号土坑・4層	深鉢・口縁部	口縁隆帯上、その下半裁竹管状工具による区画沈線／同工具による文様	ナデ	外面摩耗	

第47図　土器(13)



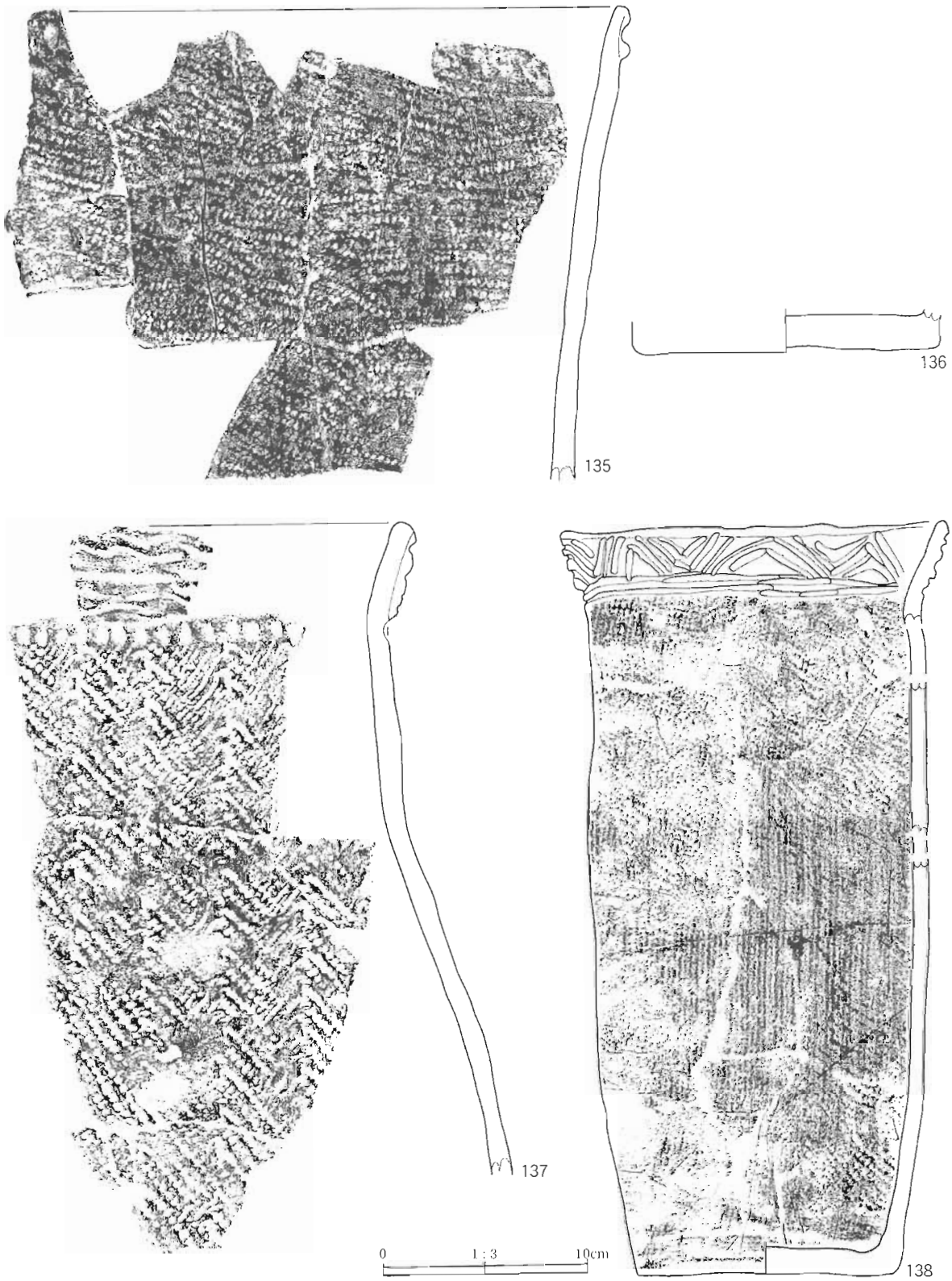
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	各文記載
120	第38号土坑・6層	深鉢(1/4周弱)	半裁竹管状工具による文様／LRタテ	ナデ	外面摩耗ひどい	
121	第38号土坑・8層	深鉢・胴部	半裁竹管状工具による文様／摩耗ひどく原体不明	ナデ	外面摩耗ひどい	
122	第38号土坑・8層上面、その直下、同・4層	深鉢	口～頸：隆帯状／胴：結束Ⅱ（L、R）タテ→半裁竹管状工具による沈線	ナデ		p.45
123	第38号土坑・上面焼土～覆土上部	深鉢・口縁部	口縁隆帯状（上、二又状工具による刺突列）／LRタテ→半裁竹管状工具による文様	ナデ	内面摩耗	p.45
124	第39号土坑・3層	深鉢・口縁部	口：無文／L、ヨコ→太く深めの細かい鋸歯状沈線	ナデ	内面摩耗	
125	第39号土坑・3層	深鉢・口縁部	上唇：押圧による？小楕状／単軸絡Ⅰ（L）タテ→隆帯（C字形押圧）、口縁ナデ	ナデ？(雑)	摩耗ひどい(特に内面)	

第48図　土器(14)



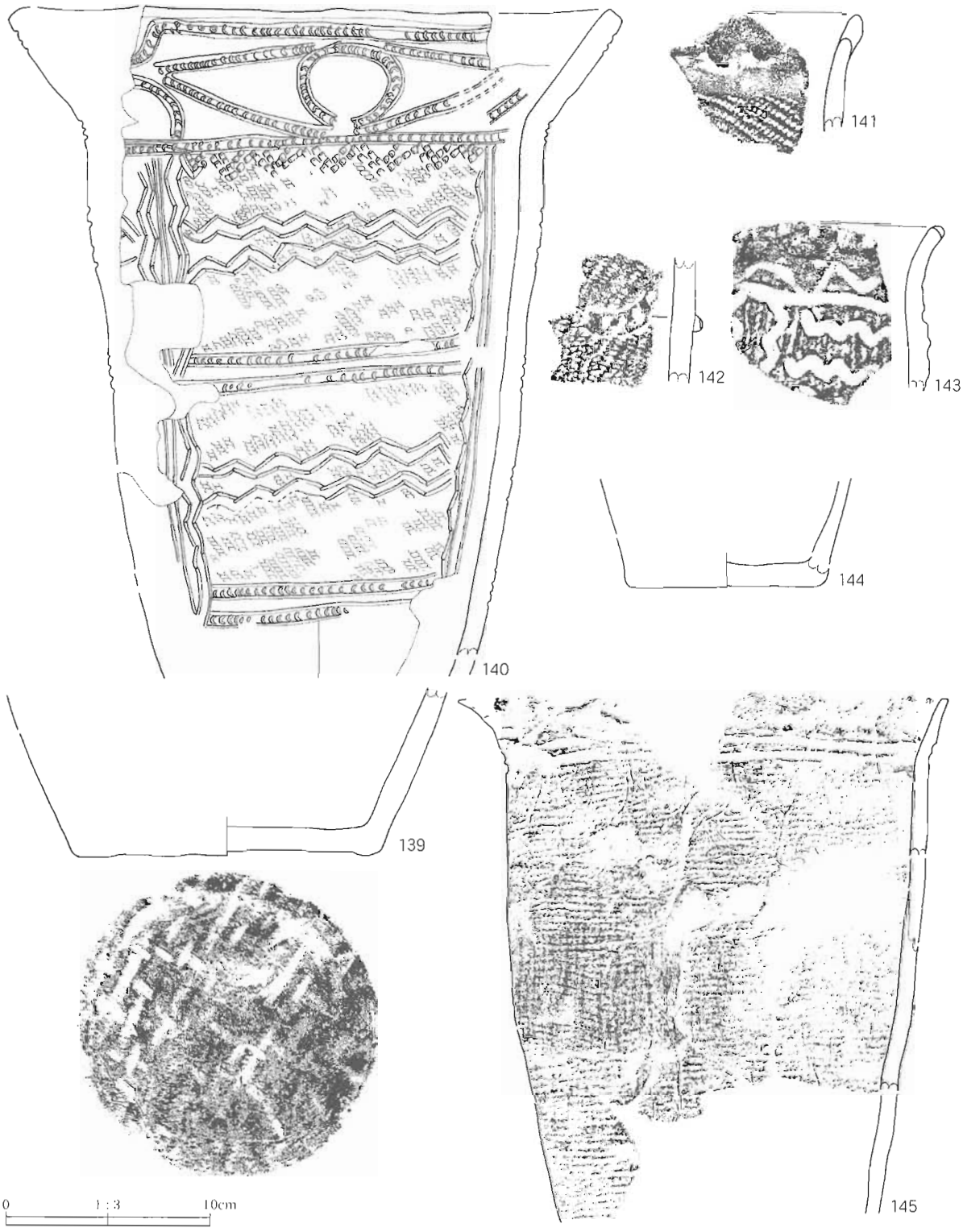
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地支・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
126	第40号土坑　2a土器（2層上部）	深鉢・胴部	LR タテ？（摩耗ひどい）	ナデ(輪積痕)	上下接合面からの剥離	
127	第40号土坑	深鉢・口縁部	口唇：刻目列／口：低いマウンド状の隆帯？に細長く深い刻目列／胴：LR タテ	ナデ？	外面スス・内面摩耗	
128	第41号土坑・1層最下～3a層上、7層中心黄褐色土	深鉢(1/2周)	LR タテ、ナナメ→底部付近ナデ　（下の割れ口底部板から剥離）	ナデ	内面おこげ、外面スス	p.45
129	第41号土坑　南隅・1層下部	深鉢・口縁部	山形突起／太く高い隆帯による文様、左上流線沿わず	ナデ		
130	第41号土坑　南隅・1層下部	深鉢・胴部	縦加条（R に R を左巻き）？？ヨコ→結節（R）タテ	ナデ	上下接合面からの剥離	
131	第41号土坑　南隅・1層下部	深鉢・胴部	LR（0段多条？）ナナメ→半裁竹弾状工具による文様→ボタン状貼付文（上押圧）	ナデ	内面粗土接合痕	
132	第41号土坑・3a層？	深鉢(1/4周弱)	口：隆帯状（太く深い沈線・深い面孔）／胴：結束1（R、L）タテ	ナデ		
133	第41号土坑・6層	深鉢・底部(一周)	底面：網代痕	ただれ	外面摩耗	
134	第41号土坑・6層	底部(1/2周弱)	底部～底面：ナデ	ナデ		

第49図　土器(15)



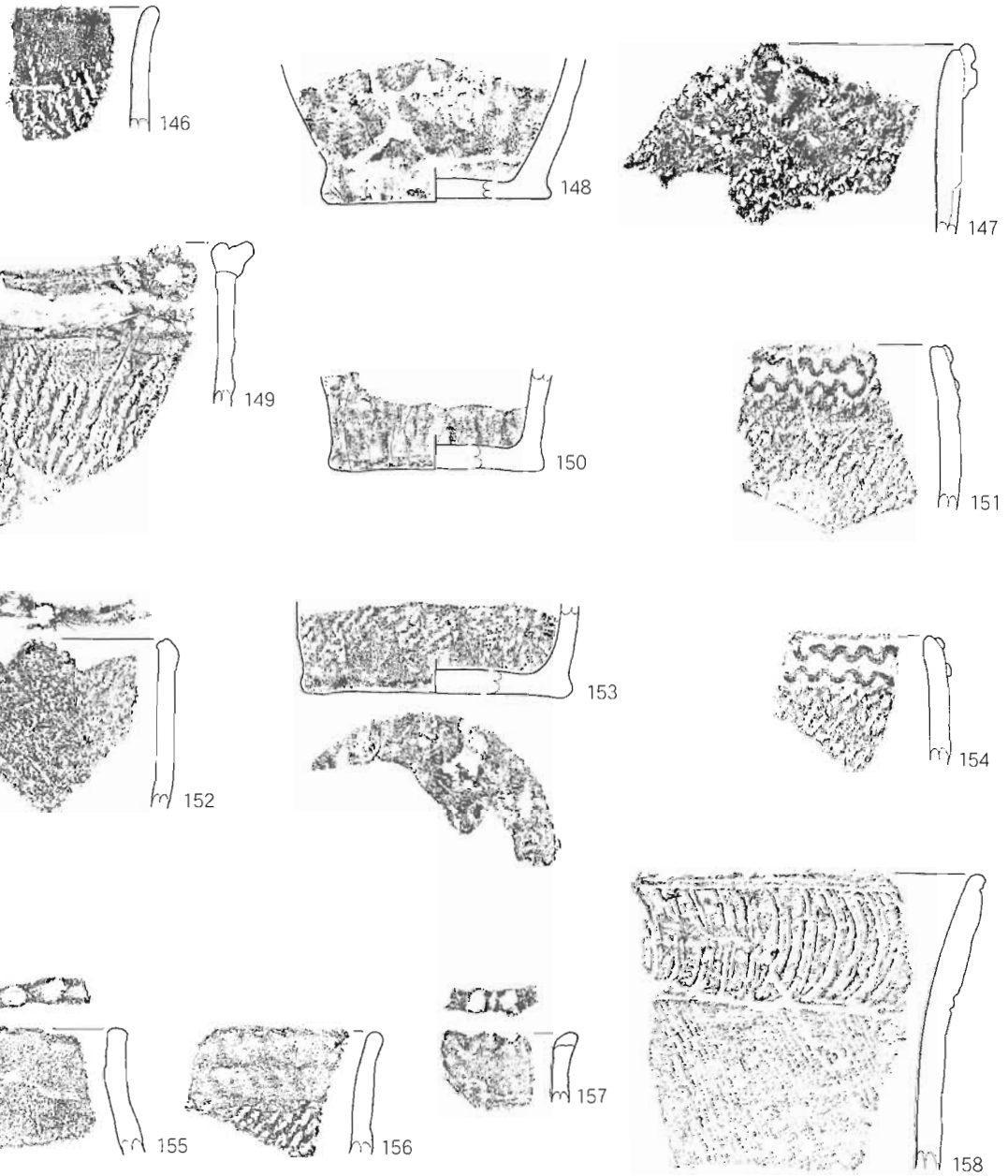
No	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
135	第41号土坑	深鉢(1/4周弱)	口：隆帯状（深い刺突）／胴：LR タテ、ナナメ→ナデ	ナデ	内面粘土接合痕	
136	第42号土坑　d 土器	底部(一周)	底部～底面：ナデ　　（＊底面剥落）	ナデ	外面、内面縁ススけ着	
137	第42号土坑　a、c 土器	深鉢(1/8周弱)	口：隆帯状（太い深めの沈線）／胴：結束 1 タテ→頭部刻目列	ナデ	外面胴下部ススけ着	p. 45
138	第42号土坑　c,g,k(2層下面)土器, 同④, 同・2層	深鉢(一部欠損)	口：隆帯状（太く深めの沈線）／頸：口と同じ沈線／胴：LR タテ→ナデ	ナデ		p. 45

第50図　土器(16)



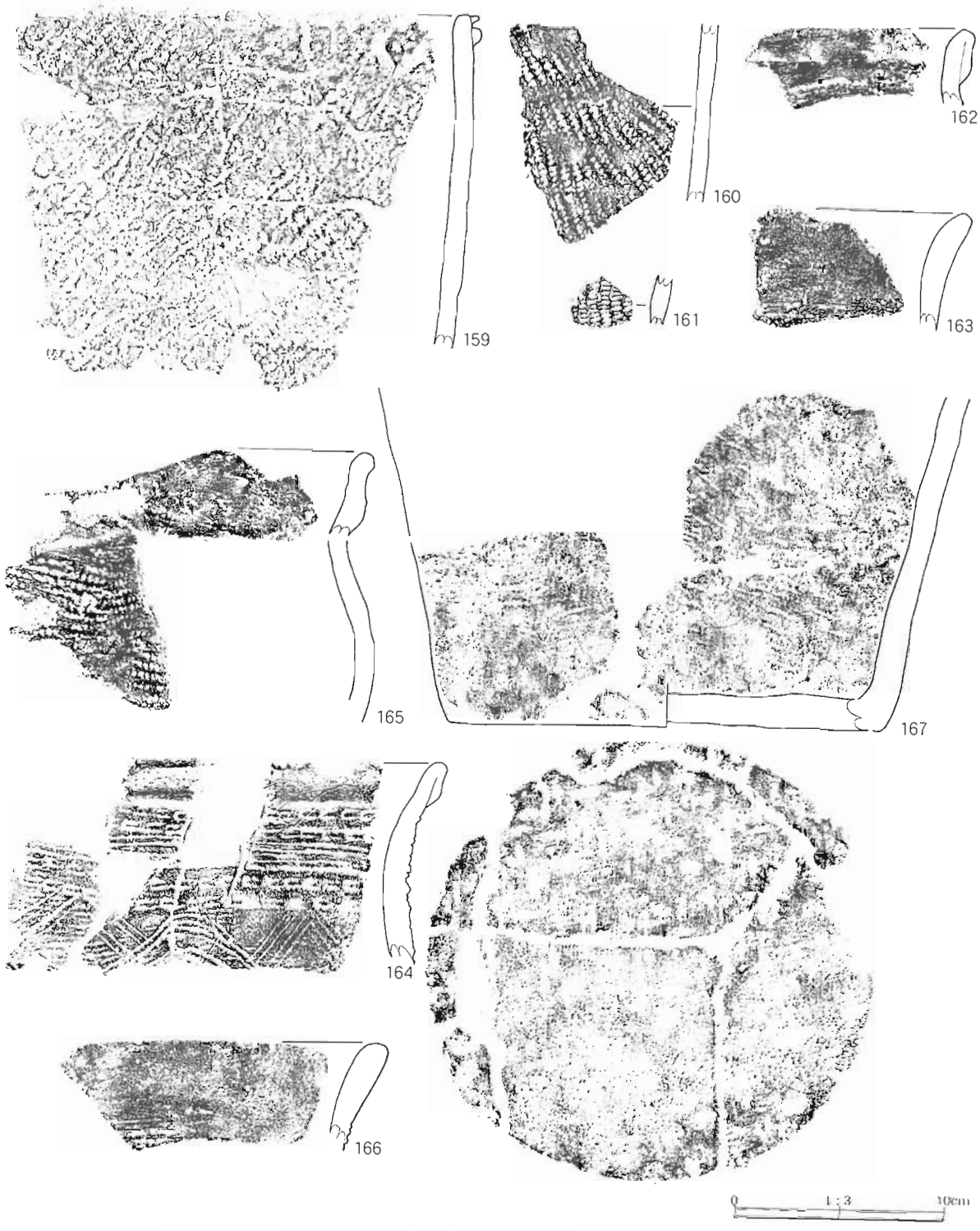
No	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
139	第42号土坑 f土器	深鉢・底部（一周）	底：ナデ／底面：網代痕→ナデ	ナデ	内面あこげ、外面スス	p. 45
140	第42号土坑 j土器（2層下面）、同④、同・2層、同クリーニング	深鉢（頸部/2周）	口：やや肥厚・半截竹管状工具による文様／胴：LR タテ→同文様→底部付近ナデ	ナデ	内面底付近スス	p. 45
141	第42号土坑①	深鉢・口縁部	外側からの貼付による山形突起／LR タテ→口縁部ナデ	ナデ	内面摩耗	
142	第42号土坑②	深鉢・胴上部	RL タテ→隆帯貼付（上に刺突列）	ナデ		
143	第42号土坑④（第24号土坑含む？）	深鉢・口縁部	口唇：押圧列（爪形圧痕も）／単軸絡1（L）タテ？→大く深い沈線→口縁ナデ	ナデ(凹凸)	外面やや摩耗	
144	第42号土坑・2層	底部（一周）	底部～底面：ナデ	ナデ		
145	第42号土坑・3層	深鉢（胴一周）	口：隆帯状？（剥落）／LR タテ、ナナメ→頸部大く浅めの沈線→ナデ	ナデ	外面スス、剥落	

第51図　土器(17)



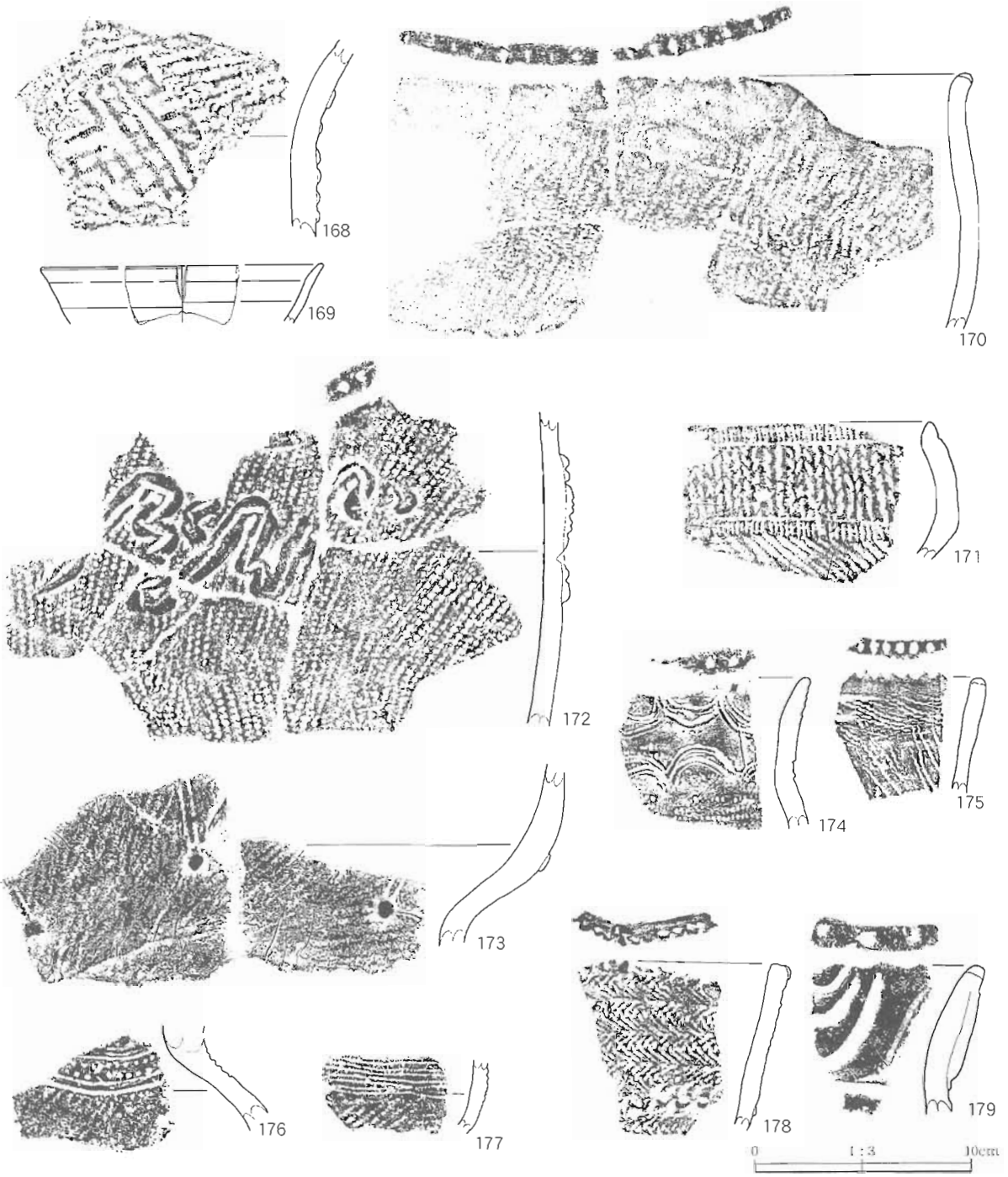
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
146	第42号土坑・4層	深鉢・口縁部	単軸絡？（L）タテ？→口縁ナデ	ナデ	内面スス付着	
147	第42号土坑・7層	深鉢・口縁部	LR ナナメ？→口縁波状隆帯（上に竹管状工具による深い刺突）	ナデ	外面剥落	
148	第42号土坑・7層	底部(1/2周)	胴：斜縄文（？）／底部～底面：ナデ	ナデ	内面スス付着	
149	第42号土坑～第44号土坑	深鉢・口縁部	突起（上円形で大きめ刺突）／L ナナメ→口縁ナデ	ナデ	外面スス付着	
150	第43号土坑① (Ⅱ層含む)	底部(1/3周)	底部～底面：ナデ	ナデ	内面おこげ(底面なし)	
151	第43号土坑① (Ⅱ層含む)	深鉢・口縁部	斜縄文（原体不明）→口縁に細い連続した隆帯	ナデ	154と同一個体？	
152	第43号土坑① (Ⅱ層含む)	深鉢・口縁部	鋸歯状突起／斜縄文？？	ナデ	外面摩耗	
153	第43号土坑・6層	底部(1/3周)	LR ヨコ→底部ナデ／底面：網代痕→ナデ	ナデ	内面おこげ	図45
154	第43号土坑・6層	深鉢・口縁部	LR ナナメ？→口縁に細い連続した隆帯	ナデ	151と同一個体？	
155	第43号土坑・6層	深鉢・口縁部	口唇：押圧による小波状／口縁：ナデ	ナデ		
156	第43号土坑～第44号土坑	深鉢・口縁部	LR ヨコ→口縁ナデ	ナデ		
157	第44号土坑・2層上部(にぶい黄褐色土)	深鉢・口縁部	口唇：押圧による小波状／口縁：ナデ／胴：縄文（結節？）	ナデ		
158	第44号土坑・1層上部(にぶい黄褐色土)	深鉢・口縁部	口：細く深い沈線→ナデ／胴：単軸絡1（L）ナナメ	ナデ		

第52図　土器(18)



No.	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
159	第44号土坑・2層上面？	深鉢・口縁部	LR＋結節（？）ナナメ→口縁隆帯（上竹管状深い刺突）→口唇ナデ	ナデ		
160	第45号土坑・11層	深鉢・胴部	口？：無文／胴：RL ナナメ	ナデ(丁寧)	外面スス付着	
161	第46号土坑・1層	深鉢・胴部	LR ヨコ	摩耗	外面スス付着	
162	第9号・第10号・第11号土坑及び周辺土坑	深鉢・口縁部	口縁隆帯状／ナデ	ナデ	外面スス付着	
163	第9号・第10号・第11号土坑及び周辺土坑	深鉢・口縁部	ナデ	ナデ	白い砂混入	
164	第12号～第13号土坑及び周辺土坑	深鉢（1/5周）	口縁隆帯状／LR ナナメ？→半裁竹管状工具による文様	ナデ	内面摩耗	
165	第12号～第13号土坑及び周辺土坑	深鉢・口縁部	口縁隆帯状／LR タテ、ナナメ→口縁ナデ	ナデ	内面おこげ付着	p. 46
166	第12号～第13号土坑及び周辺土坑	深鉢・口縁部	沈線？、ナデ	ナデ		
167	第9号～第13号土坑	底部（底面一周）	Lタテ、ナナメ→底部ナデ／底面：網代痕→ナデ	摩耗	内面おこげ付着	p. 46

第53図　土器(19)



No.	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
168	20B②～④・Ⅱ（Ⅲb）層	深鉢・胴部	LRヨコ、ナナメ→細く細かい単位？の隆帯	ナデ		
169	20B④・Ⅱ（Ⅱb）層	坏（小片）	ロクロナデ	ロクロナデ		
170	20B④・Ⅲ（Ⅱc）層	深鉢(1/4周弱)	口唇：刻目による小波状／RL タテ→口縁ナデ	ナデ		
171	20B④・Ⅲ（Ⅲc）層	深鉢・口縁部	口：上下端短沈線，中央LRとRL縦位交互圧痕，その間上R，下L圧痕で区画／頸：RLヨコ	ナデ(雑)	胎土繊維混入？	p. 47
172	20B④・Ⅲ（Ⅲb）層	深鉢・口縁部	口唇：竹管状刺突列／RL タテ，ナナメ→太め隆帯（上沈線）	ナデ	内面おこげ，外面スス	p. 47
173	21B4b・表土（黒色土）	球胴深鉢・胴部	LRヨコ？→半裁竹管状工具による文様→ボタン状貼付文	ナデ	193と同一個体	
174	21B4b・表土	深鉢・口縁部	口内面：刻目列／LRナナメ→口ナデ→半裁竹管状工具による文様	ナデ		
175	21B4b・表土	深鉢・口縁部	口唇：刺突列／口ナデ（無文）→頸～胴単軸絡1（R）タテ，ナナメ	ナデ		
176	21B4b・表土	球胴深鉢？・胴部	斜縄文（原体不明）→細く深めの沈線，尖った棒状工具による深めの刺突列	ナデ(丁寧)	内面スス付着？	p. 47
177	21B4b・表土	小型鉢？	LRヨコ→細く深めの沈線	ナデ		
178	21B4b・表土	深鉢・口縁部	波状縁／口唇強いナデ／結束1（RL，LR・0段多条）→低い隆帯→C字形爪形文列	ナデ	波頂部瘤状突起？・繊維混	p. 47
179	21B4c・表土	深鉢・口縁部	口唇：押圧による小波状／太く深めの沈線	ナデ	口縁折り返し？	

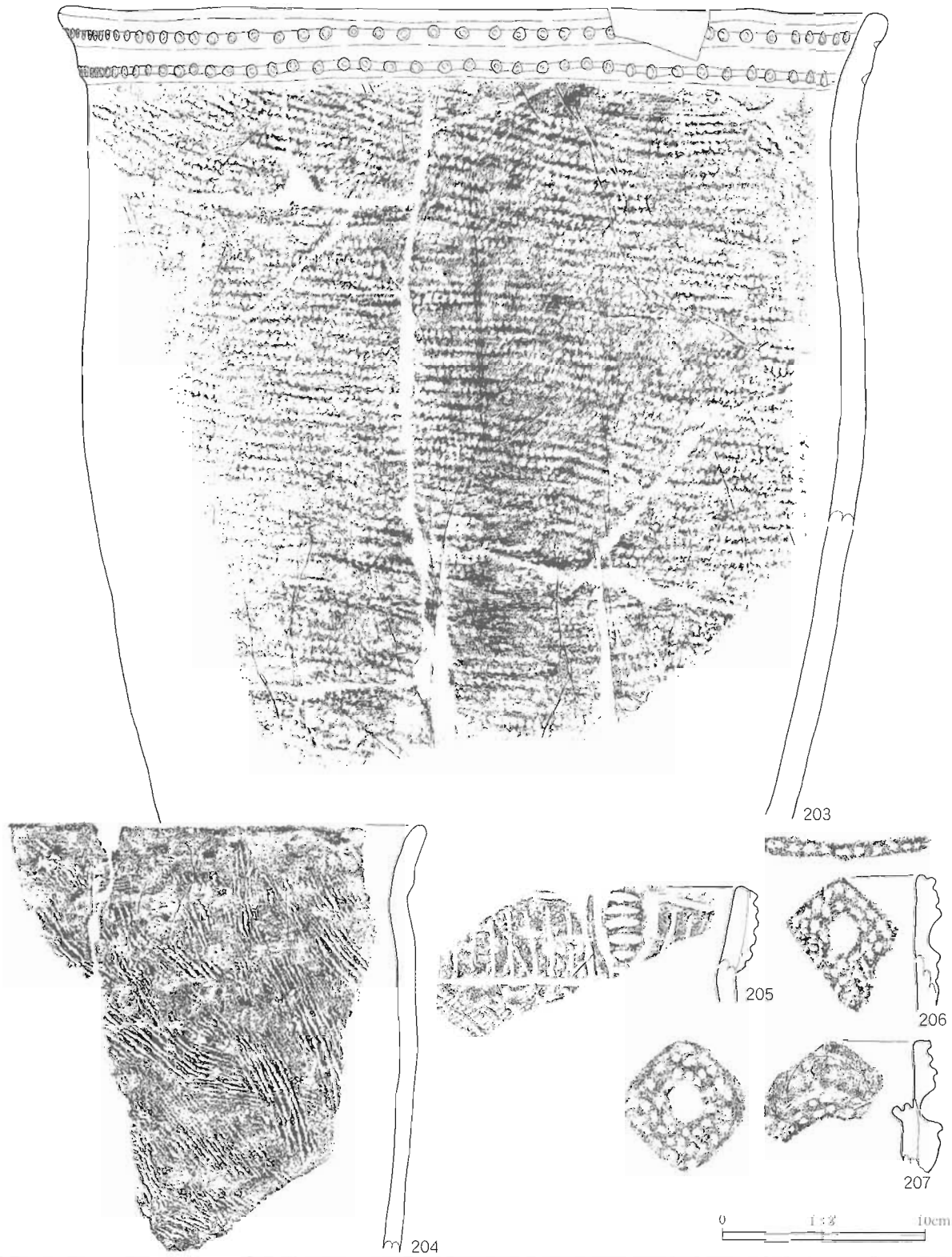
第54図　土器(20)

‰	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	文字記載
180	21B4c・表土	深鉢・突起	突起上：棒状工具による深い刺突列、沈線	剥落		
181	21B4c・表土	深鉢・突起	突起上から見ると楕円形（中央太く深い刺突）／口縁押圧により口唇上から見ると蛇行	ナデ		
182	21B4c・表土	深鉢・口縁部	口：隆帯状（太く深めの沈線）／頸：無文	ナデ		
183	21B4c・表土	深鉢・口縁部	口：隆帯状（剥落）／半裁竹管状工具による刺突列/太めで浅めの沈線	ナデ		
184	21B4c・表土	深鉢・口縁部	半裁竹管状工具による沈線／先端凹凸ある半裁竹管状工具による刺突列	ナデ		
185	21B4c・表土下10cm（茶褐色土）	深鉢・口縁部	LR＋結節（R）ヨコ→口縁ナデ（無文）	ナデ	外面スス付着	
186	21B4c・重キから10～20cm	深鉢・口縁部	口唇（～突起上面）細い組状隆帯／棚状突起／斜縄文（？）→隆帯	ナデ		
187	21B4c・重キから20～30cm	深鉢・口縁部	突起口唇押圧三山状／LR ヨコ→口縁ナデ	ナデ		
188	21B4c・重キから20～30cm	深鉢・口縁部	口縁外側細かい鋸歯状隆帯／LR タテ	ナデ	内面剥落	
189	21B4c・精査最後（褐色土）	鉢・胴部	外側粘土輪積痕顕著	ナデ		
190	21B4c・精査最後（褐色土）	深鉢・口縁部	口唇：強いナデ／口：無文/RL ヨコ、ナナメ→隆帯	ナデ		
191	21B4c・精査最後（褐色土）	深鉢・底部	LR ヨコ	ナデ	外面赤(二次焼成?)、内面黒	
192	21B4d・重キから20cm（10cmはなし）	深鉢・頸部	太く深い沈線→LR タテ→頸部ナデ	ナデ(摩耗)	内面工具圧痕？	
193	21B4d・精査最後（茶褐色土）	球胴深鉢・胴部			173と同一個体	
194	21B4e・重キから10cm	深鉢・口縁部	太く深い沈線・半裁竹管状工具による刺突列	ナデ(丁寧)		

第55図　土器(21)

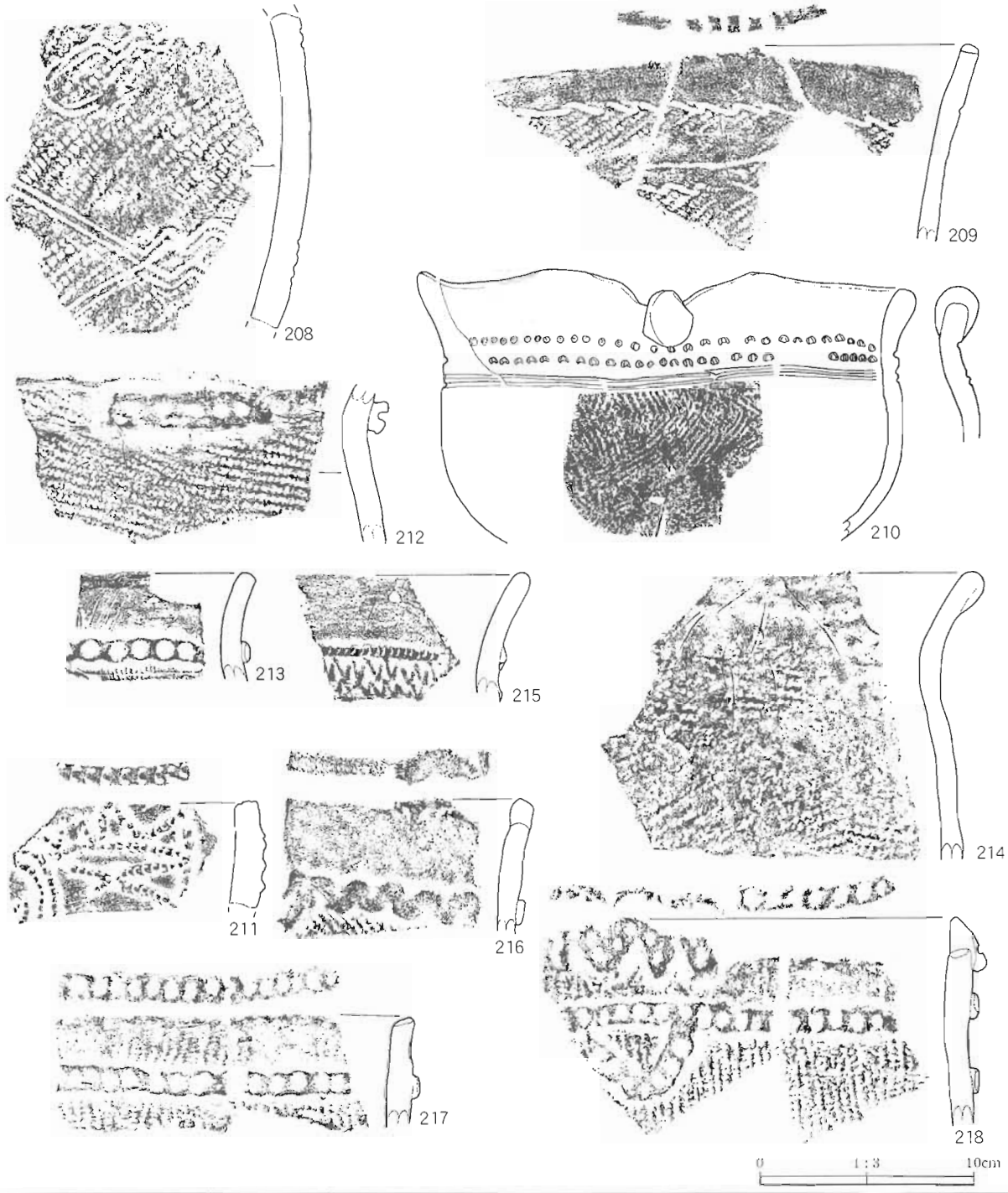
No	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
195	21B4e・重キから10cm	深鉢・口縁（1/4周）	口唇：刻目による小波状／口：無文・単軸絡1（R）圧痕／胴：単軸絡1（R）サナメ	ナデ	口径18cm	
196	21B4e・重キから10cm	深鉢・口縁部	口縁内外交互押圧により上から見ると蛇行/櫛歯状工具による文様	ナデ		
197	21B①-Ⅱ(Ⅲa),同Ⅲ(Ⅲc)層,21B③-Ⅲ(Ⅱb)層,同-Ⅲ(Ⅱc層)	深鉢(同2/3周)	口：隆帯状（半裁竹管状工具による刺突列）／頸:無地に浅い沈線→LR+結節（R）タテ	ナデ	外面スス付着	p.47
198	21B⑥・Ⅲ（Ⅱa）層	鉢	口縁無文→LL タテ？？			
199	21B①・Ⅲ（Ⅲb）層	深鉢	口無文→LR（+閉じた末端）？タテ	ナデ		
200	21B①・Ⅲ（Ⅲb）層	深鉢・口縁部	口唇太い隆帯／口：無文／RL サナメ→太い隆帯貼付	ナデ		
201	21B①・Ⅲ（Ⅲb）層	深鉢・胴部	LR Bコ→細い縦状貼付文（一部剥落）	ナデ(丁寧)	外面スス付着	
202	21B①・Ⅲ（Ⅲb）層	深鉢・口縁部	LR（+閉じた末端？）タテ→口縁ナデ	ナデ		

第56図　土器(22)



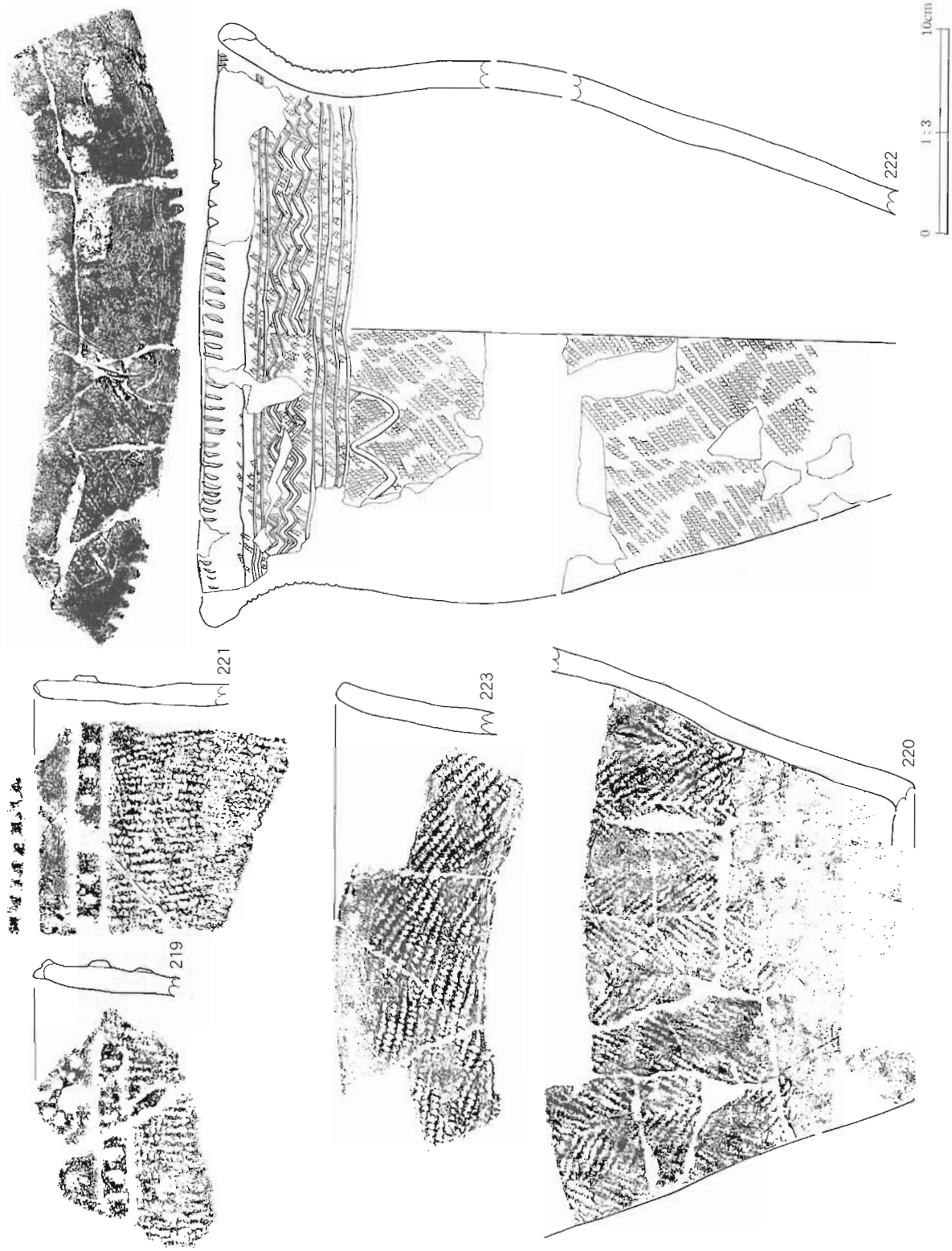
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
203	21B④・Ⅲ（Bｰc）層ほか	深鉢（口縁欠損）	口縁隆帯状（大きめ深い刺突列）／LR タテ→口縁付近ナデ	ナデ		p. 47
204	21B⑥・Ⅱ層、21B④・Ⅱ層（倒木痕）	深鉢（口1/4周弱）	口：無文／胴：単軸絡1（R）ナナメ	指なで？	①出土1/7、④出土6/7	
205	21B②・1層	深鉢・口縁部	口：楕円形貼付（太く深い短沈線）・浅い沈線／胴：RL ヨコ？	ナデ		
206	21B②・1層	深鉢・突起	突起中央深い盲孔、口唇含め深い刺突列／突起下 RL タテ	ナデ		
207	21B②・1層	突起・口縁	突起内面弧状底（上面深い刺突列）／中央深い盲孔、深い刺突列	ナデ		

第57図　土器(23)



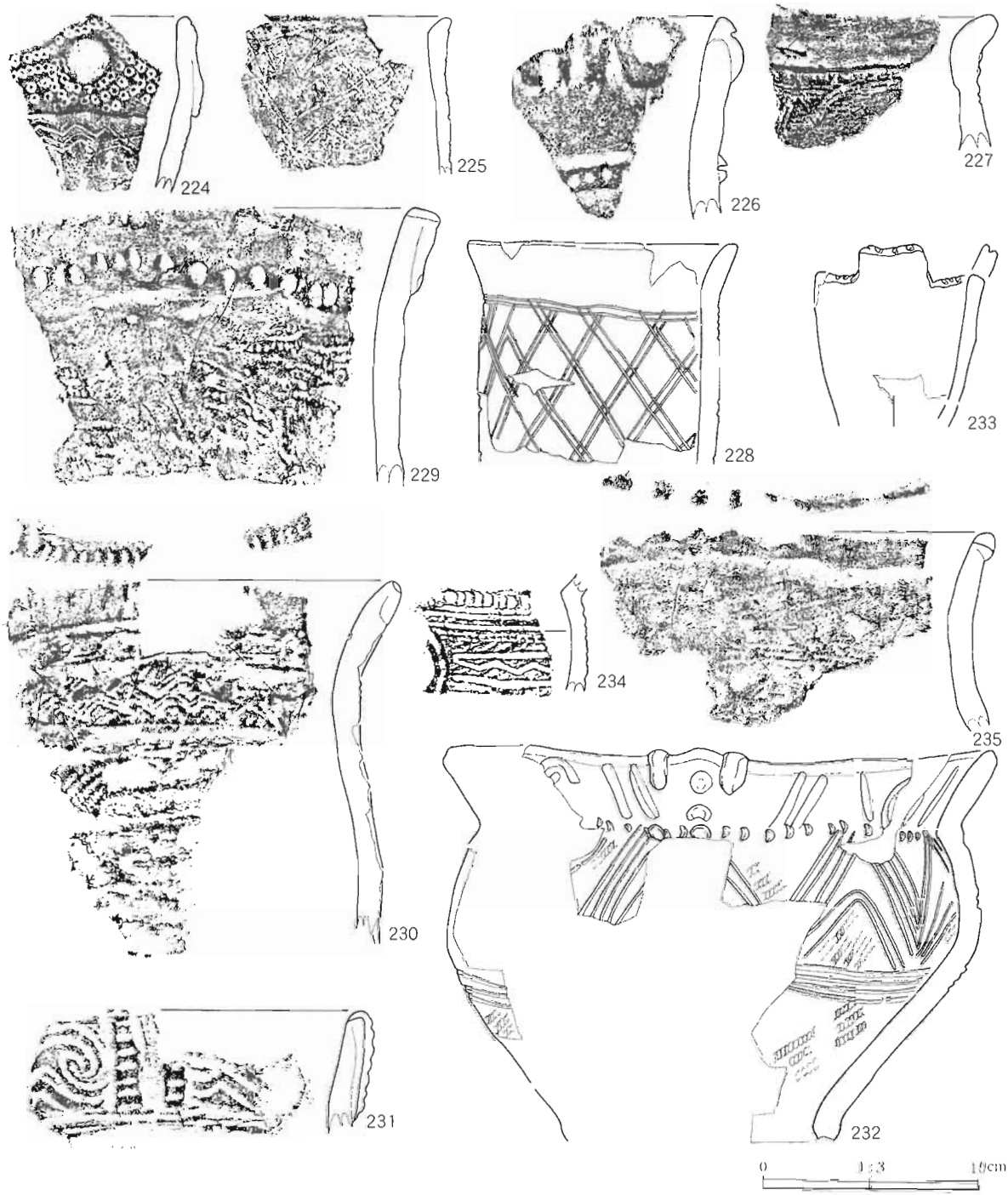
No	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
208	21B②・Ⅰ層	深鉢・胴部	LR ヨコ→半裁竹管状工具による文様	ナデ	繊維混り・上下貼土接合面	
209	21B②・Ⅰ層、21B・③・Ⅰ～Ⅱ層	深鉢・口縁部	突起上3刻目／口：無文／胴：LR＋結節（R）ヨコ	ナデ		
210	21B②・Ⅱ(Ⅲc)層,21B②・Ⅲ(Ⅲb)層,21B④・Ⅱ層	球胴深鉢(口1/3周)	突起4単位／RL タテ,ナナメ→半裁竹管状工具による沈線/同工具による下からの刺突列	ナデ	外面スス・内面スス全面	p. 47
211	21B②・Ⅲ（Ⅱc）層	深鉢・口縁部	口唇：半裁竹管状工具による刺突列／口：微隆起線上に同様刺突列（別工具）	ナデ(丁寧)	外面スス・下絵土接合面	
212	21B③・Ⅰ層	深鉢・胴部	LR タテ→高い隆帯（深い刺突列）→隆帯の上沈線，下ナデ	ナデ	隆帯剥落部に縄文残存	
213	21B③・Ⅰ層	深鉢・口縁部	口：無文（櫛歯状圧痕）／胴：単軸絡Ⅰ（R）タテ→隆帯（押圧列）、細い沈線	ナデ		
214	21B③・Ⅰ層	深鉢・口縁部	口縁やや隆帯状／LR タテ、ナナメ→口～頸ナデ	ナデ(雑)		
215	21B③・Ⅰ層	深鉢・口縁部	頸：隆帯上にD字形爪形文／胴：短い微隆帯による鮫歯文	ナデ	内面スス状付着物	
216	21B③・Ⅰ層	深鉢・口縁部	口唇：太いC字形隆帯／RL ヨコ→太い隆帯	ナデ		
217	21B③・Ⅰ層	深鉢・口縁部	口唇：刻目列／RL ナナメ→隆帯（刻目列）、口縁ナデ	ナデ	218と同一個体	
218	21B③・Ⅰ層、Ⅱ（Ⅲc層）	深鉢・口縁部	口唇～口縁外面：太い蛇行隆帯（太く深めの刺突列）／その他は217参照	ナデ	217と同一個体	

第58図　土器(24)



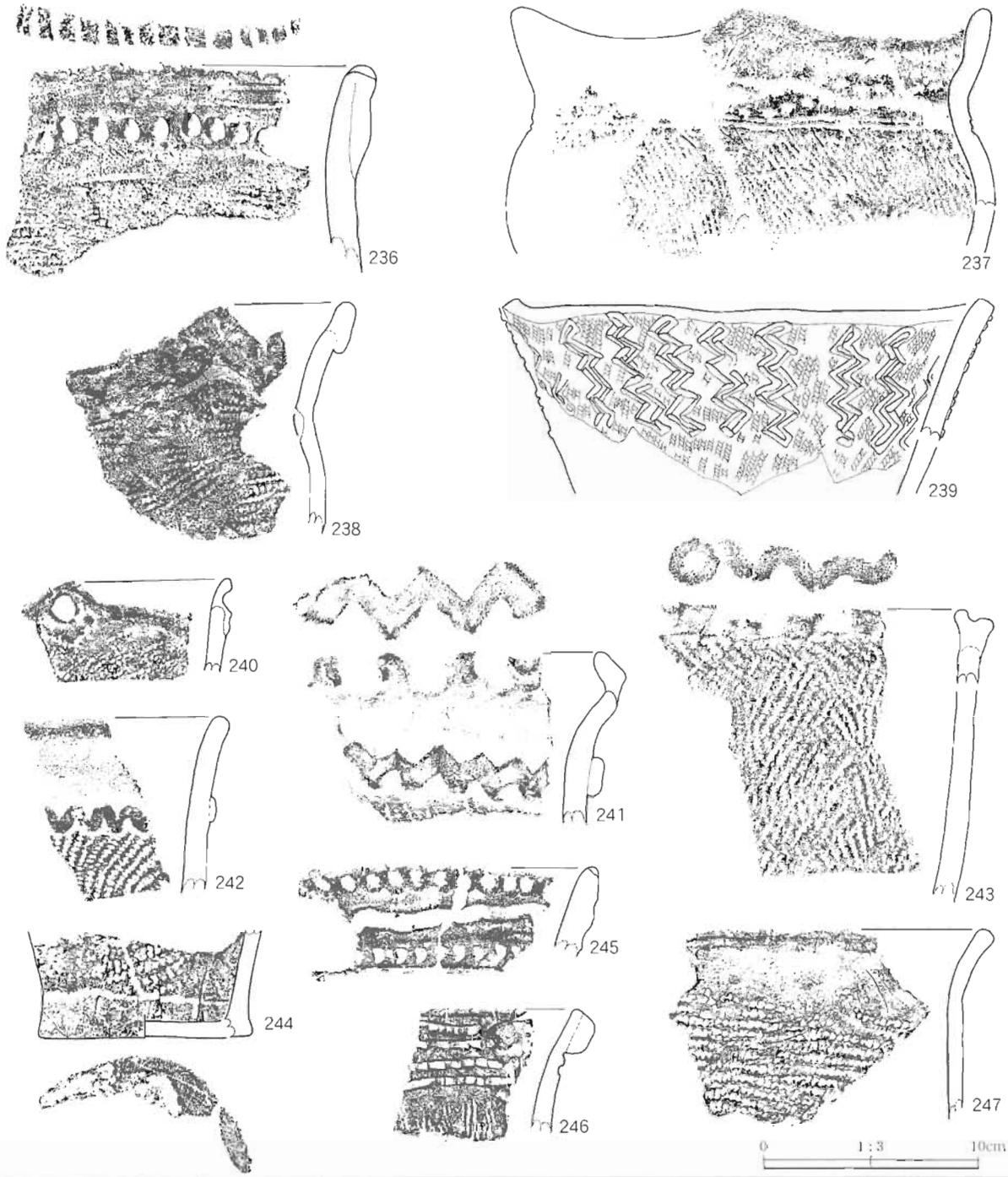
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文、原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
219	21B ③・Ⅱ（Ⅲa）層	深鉢・口縁部	蛇行隆帯状突起（浅めの刺突列）／RL ナナメ→隆帯（刻目列）、口縁ナデ	摩耗	摩耗ひどい。221と同一？	
220	21B ③・Ⅱ（Ⅲa）層	底部（最大1/2周）	結束1（RL、LR）タテ→底部ナデ／底面：網代痕	ナデ	外面スス・上粘土接合面	
221	21B ③・Ⅱ（Ⅲa）層、同・Ⅲ（Ⅱc）層	深鉢・口縁部	口唇：刻目／RL ナナメ→隆帯（刺突列）	ナデ	Ⅱ出土5/7、Ⅲ2/7	
222	21B ③・Ⅱ（Ⅲa）、Ⅱ（Ⅲb）、Ⅲ（Ⅲb）層、21C ③・Ⅲ層（倒木痕）	深鉢（口1/2周）	口内面：半裁竹管状工具による文様→ナデで痕跡的、LR ヨコ／口隆帯状／LR ヨコ	ナデ	内外面剥落	p. 47
223	21B ③・Ⅱ（Ⅲa）層	深鉢・口縁部	LR タテ→口縁ナデ	ナデ	歪み	

第59図　土器(25)



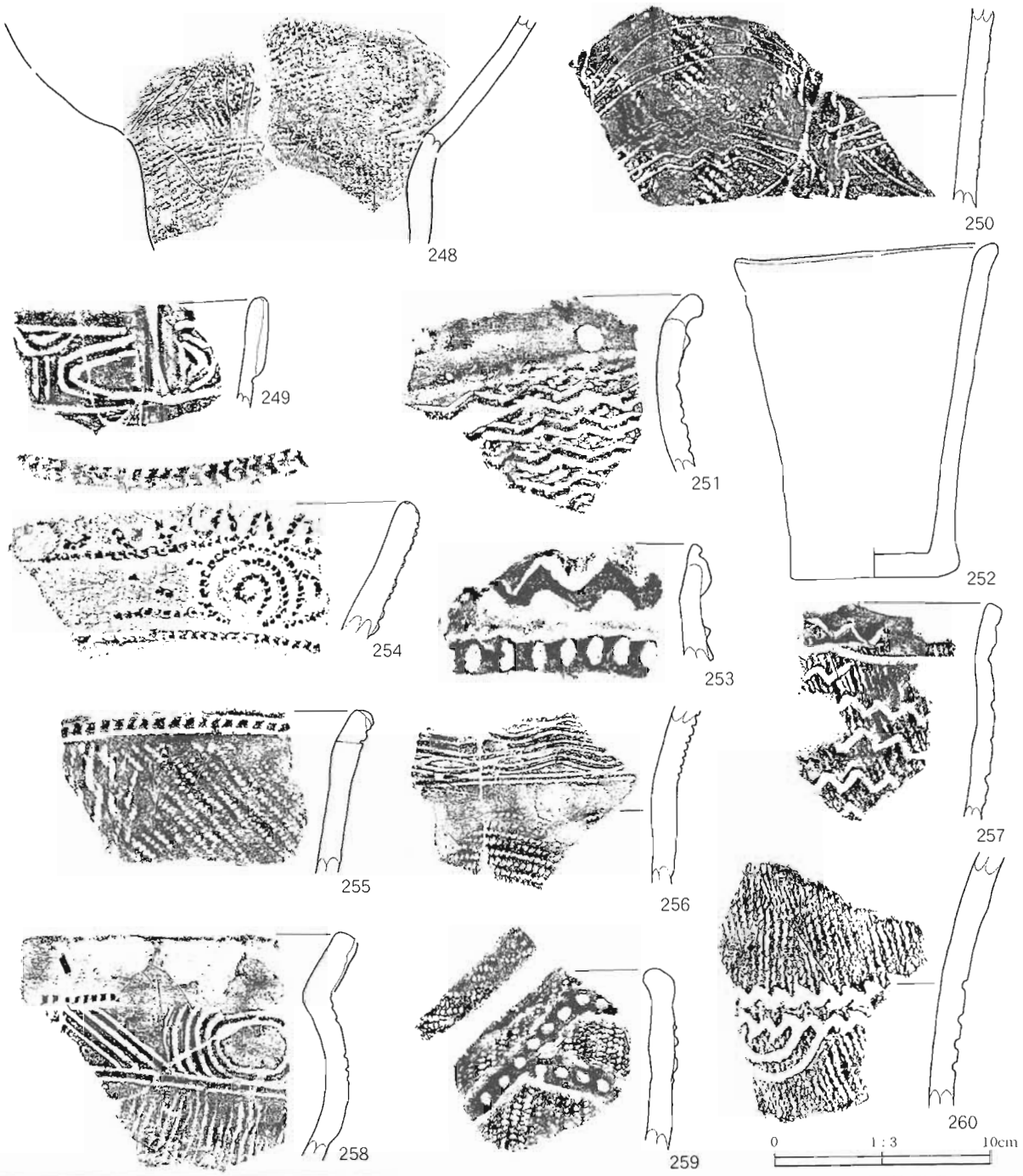
No	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
224	21B③・Ⅲ（Ⅲa）層	深鉢・口縁部	口縁隆帯状（浅い竹管状刺突→ナデで盲孔）／半裁竹管状工具による文様	ナデ		
225	21B③・Ⅲ（Ⅲa）層	深鉢・口縁部	細く浅い痕跡的な沈線（？）	ナデ		
226	21B③・Ⅲ（Ⅲa）層	深鉢・口縁部	口唇→外面隆帯状突起／突起親指による？深い盲孔／口縁突起、頸部隆帯竹管状工具による深い刺突	ナデ	突起刺突貫通せず	
227	21B③・Ⅱ（Ⅱa）層	深鉢・口縁部	頸部最上部微隆起線／半裁竹管状工具による沈線、c字形爪形文	摩耗	両面黒い	
228	21B③・Ⅱ（Ⅲa）層、Ⅲ（Ⅱc）層、21C①・Ⅲ（Ⅱc層）	深鉢（口2/3周）	竹管状工具による文様→口縁ナデ	ナデ	外1/2摩耗	p.47
229	21B③・Ⅱ（Ⅲb）層	深鉢・口縁部	口唇：刻目列／口縁隆帯状（D字形刻目列）／LRナナメ→ナデ	ナデ	繊維混？・外口以外もナデ	
230	21B③・Ⅱ（Ⅲb）層、Ⅲ（Ⅱc）層	深鉢・口縁部	口唇刻目／口縁隆帯状／LRヨコ→半裁竹管状工具による文様	ナデ	外面剥落ひどい	p.47
231	21B③・Ⅱ（Ⅱb）層	深鉢・口縁部	半裁竹管状工具による押し引き文様→縦位隆帯→横位沈線、突起上短沈線	ナデ	隆帯突起上に口唇に	
232	21B③・Ⅱ（Ⅲb）層	球胴深鉢	口：太く深い沈線／胴：LRヨコ→半裁竹管状工具による文様→ボタン状貼付文	ナデ		p.47
233	21B③・Ⅲ（Ⅲa）層、Ⅱ（Ⅲb）層	小形鉢（口3/4周）	口唇：刺突列　（※底の割れ口粘土接合痕からの剥離）	ナデ		p.47
234	21B③・Ⅱ（Ⅲc）層	球胴？・頸部	頸：半裁竹管状工具による押し引き沈線／胴：Lヨコ→沈線、横からの刺突列	ナデ	刺突は刺股状工具	
235	21B③・Ⅱ（Ⅲc）層	深鉢・口縁部	口唇：一部太く深い刻目により突起状／口縁隆帯状／胴：Lナナメ	ナデ	胎土大きな石含む	

第60図　土器(26)



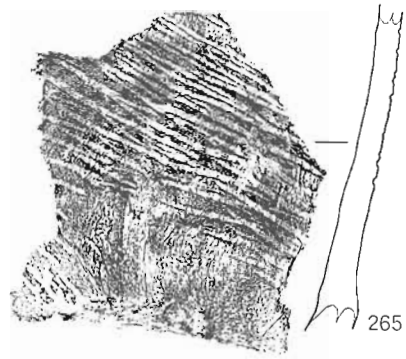
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
236	21B③・Ⅱ（Ⅲc）層	深鉢・口縁部	口唇：深い刻目列／口：なめらかなマウンド状隆帯（D字形刻目列）／胴：LR タテ	ナデ	内面剥落	
237	21B③・Ⅲ（Ⅲb）層	球胴深鉢（胴1/4周）	4波状？／半裁竹管状工具による文様（刺突は下から）、L タテ？→ナデ	ナデ	内面黒	p. 47
238	21B③～④　風倒木	深鉢・口縁部	山形突起／口縁隆帯状／LR ヨコ，ナナメ	ナデ	外面スス付着	
239	21B④・Ⅱ（Ⅲa）層、21C・Ⅱ層	深鉢（4/5周）	口唇：強いナデ／LR ヨコ→細く短い粘土紐による鎖状文	ナデ	外面スス付着	p. 47
240	21B⑤・Ⅱ（Ⅲα）層	深鉢・口縁部	山形突起／LR ヨコ→深い盲孔→ナデ（盲孔周囲溶岩状に粘土広がる）	ナデ	下割れ口接合痕	
241	21B④・Ⅱ（Ⅲa）層	深鉢・口縁部	口唇鋸歯状隆帯／RL ナナメ→太く高い隆帯→ナデ（隆帯上側に工具痕）	ナデ		
242	21B④・Ⅱ（Ⅲa）層	深鉢・口縁部	口唇：強いナデ／RL タテ→太めの隆帯	ナデ		
243	21B④・Ⅱ（Ⅲa）層	深鉢・口縁部	口唇：上から見ると楕円形の突起（太く深い刺突）・蛇行隆帯／口唇突起→RL タテ，ヨコ，ナナメ	摩耗	下割れ口接合痕	
244	21B④・Ⅱ（Ⅲa）層	底部（1/2周）	LR＋結節（R）ヨコ→底部ナデ／底面：木葉痕	ナデ	内面整形痕	p. 47
245	21B④・Ⅱ（Ⅲa）層	深鉢・口縁部	口唇：円い刺突列／口縁隆帯状／施文は歯半裁竹管状工具？	ナデ	外面剥落	
246	21B④・Ⅱ（Ⅲa）層	深鉢・口縁部	口：高いボタン状貼付文→半裁竹管状工具押し引き文／胴：単軸縄1（R）タテ？	ただれ		
247	21B⑤・Ⅱ（Ⅶα）層	深鉢・口縁部	LR ナナメ→口縁ナデ	ナデ(凹凸)	胎土石含む	

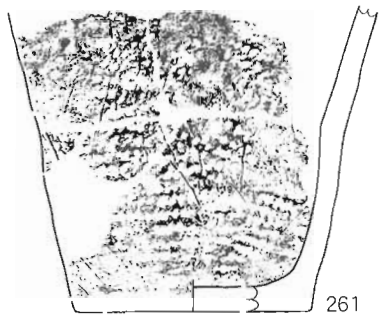
第61図　土器(27)

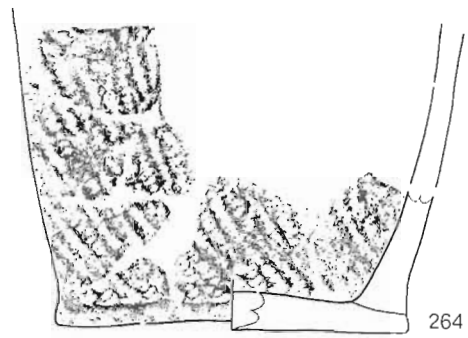


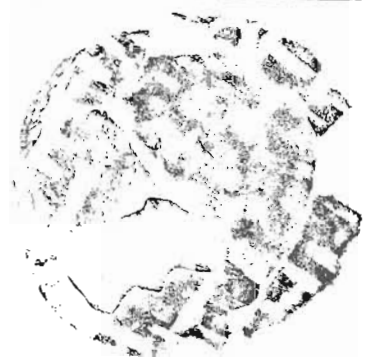
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
248	21B④・Ⅱ層、Ⅱ（Ⅲa）層、Ⅲ層	球胴深鉢(4/5周)	LR ヨコ、タテ、ナナメ　（＊屈曲部のみ4／5周残存・外面二次焼成）	ナデ	内面黒、外面赤く摩耗	p. 47
249	21B④・Ⅱ（Ⅲb）層	深鉢・口縁部	縦位隆帯→太く深めの沈線	ナデ		
250	21B④・Ⅱ（Ⅲb）層	深鉢・胴部	LR→半裁竹管状工具による文様→ナデ	ナデ		
251	21B④・Ⅲ（Ⅲb）層	深鉢・口縁部	口縁低い隆帯状／LR ヨコ？→半裁竹管状工具による文様（下端線のみ深い）→口縁ナデ	ナデ	突起下深い盲孔・外面摩耗	
252	21B④　（倒木痕）(21C～)	鉢（一部欠損）	底面含みナデ　（＊縦位ナナメ帯状に剥落）	ナデ		
253	21B④　抜根	深鉢・口縁部	口唇～外縁歯状隆帯（深い沈線）／LR ヨコ→厚い隆帯（C字形刻目列）	ナデ		
254	21C4a・重キから10cm（茶褐色土）	球胴深鉢・口縁部	口唇：半裁竹管状工具による刺突列／微隆起線上に細い同様工具による刺突列	ナデ	下端口端合痕・微隆起線剥落	
255	21C4a・重キから10cm（茶褐色土）	深鉢・胴部	LR＋結節（R）タテ→半裁竹管状工具による押し引き沈線→その深い下端線底に横から細く実った刺突列	ナデ	上端口接合痕・内面横	
256	21C4a・重キから10cm（茶褐色土）	深鉢・胴部	LR＋結節（R）タテ→上部ナデ→半裁竹管状工具による沈線	ナデ		
257	21C4a・重キから10cm（茶褐色土）	深鉢・口縁部	波状口縁？／単軸絡1（L）ナナメ？（斜縄文？）→太く深めの沈線	ナデ	内外面剥落	
258	21C4a・重キから10cm（茶褐色土）	球胴深鉢	口唇：強いナデ／口：肥厚／口～頸：微隆帯（刻目列）→半裁竹管状工具による沈線／胴：単軸絡1ナナメ？	ナデ	外面スス、剥落	
259	21C4a・10～20cm（茶褐色土）	深鉢・口縁部	大波状／口唇：内側底・RL ヨコ／RL タテ→低い隆帯（竹管状工具ナナメ刺突）	ナデ		
260	21C4a・10～20cm（茶褐色土）	深鉢・胴部	RL ナナメ→太く深い沈線	ナデ	天地逆？	

第62図　土器(28)









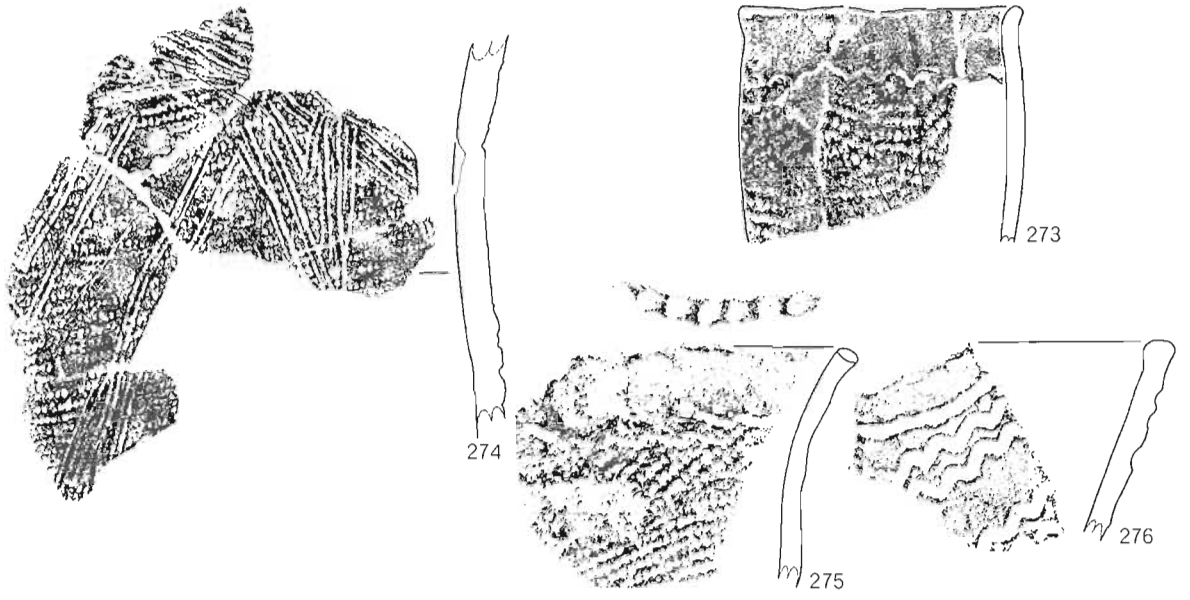
0　1：3　10cm

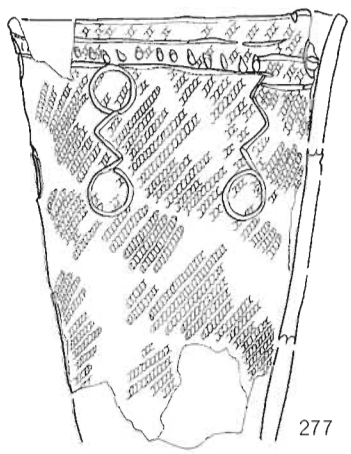
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
261	21C 4a・10～20cm（茶褐色土）	底部（ほぼ一周）	LR タテ→底部ナデ／底面：木葉痕→ナデ	ナデ		
262	21C 4a・10～20cm（茶褐色土）	深鉢（頸）/4周強）	頸：水平方向隆帯剥落/胴：LR ナナメ→上部ナデ	ナデ	外面スス付着	
263	21C 4a・20～30cm（茶褐色土下部）	底部（底一周）	胴部：RL ヨコ→底部ナデ／底面：：木葉痕→ナデ	ナデ	内面スス・外面二次焼成	
264	21C 4a・20～30cm（茶褐色土下部）	底部（底一周）	胴：RL（＋閉じた末端）ヨコ→底ナデ／底面：網代痕→ナデ	ナデ	内面剥落・外面二次焼成	
265	21C 4a・20～30cm（茶褐色土下部）	深鉢・底部	単軸絡1（R）？ナナメ→底部ナデ	ナデ	底面接合面から剥落	p. 47

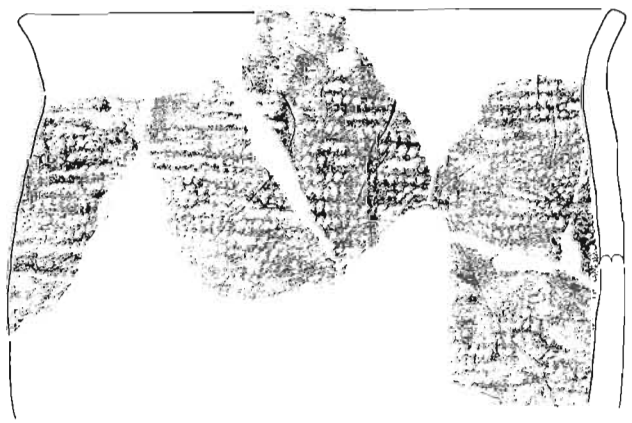
第63図　土器(29)

No	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
266	21C4a・20～30cm（茶褐色土下部）	胴部(1/4周弱)	LR ヨコ	ナデ	内面スス付着	
267	21C4a，21C4b，25C	深鉢(底1/2周弱)	単軸絡1（L）タテ、ナナメ→底部ナデ／底面：ナデ	ナデ	内面底部ただれ	p.47
268	21C4a 30～40cm（茶褐色～こげ茶）	深鉢・胴部	LR＋結節（R）ヨコ	指なで		
269	21C4a・30～40cm，21C②・Ⅱ(Ⅲa)層	鉢(1/2周)	口唇～外突起4単位／LRかLヨコ→耳状隆帯貼付(その下突起に対応してv～弧状隆帯)	ナデ	内面黒・外面摩耗	p.47
270	21C4b・重キから10cm，21C②・Ⅱ(Ⅲa)層	深鉢・口縁部	口：隆帯状・単軸絡1（L）ヨコ→高い縦突起（口唇まで）／胴：同原体タテ	ナデ	4bI/4，②3/4	p.47
271	21C4b・重キから10cm	深鉢・胴部	半裁竹管状工具による刺突列	ナデ		
272	21C4b・重キから10cm	底部(1/5周)	胴：LRタテ／底部～底面：ナデ	ナデ	外面スス，摩耗	

第64図　土器(30)







0 1:3 10cm

No	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・胎体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
273	21C4b・壁キから10cm	鉢(1/3周)	LR タテ、ヨコ→太く浅めの鋸歯状沈線	ナデ	内面煤下ただれ	
274	21C4b・壁キから10cm	深鉢・胴部	LR ナナメ→半裁竹管状工具による沈線	ナデ		
275	21C4b・壁キから20cm	深鉢・口縁部	口唇：刺突による小波状／胴：LR＋結節（R）ヨコ	ナデ	外面スス付着	
276	21C4b・10～20cm（茶褐色土）	深鉢・口縁部	口縁内側に肥厚／RL ナナメ→太く深い沈線	ナデ		
277	21C4b 10～20cm（茶褐色土）	鉢(胴3/4周)	口唇：一部刻目／LR ヨコ→細く深い沈線、細く深い下からの刺突列／文様6単位？(散妙に違う)	ナデ	内面煤・外面スス	
278	21C4b、21C③、21C②	深鉢(頸1/2周)	LR ナナメ→口縁ナデ	ナデ	外面黒斑	p.47

第65図　土器(31)

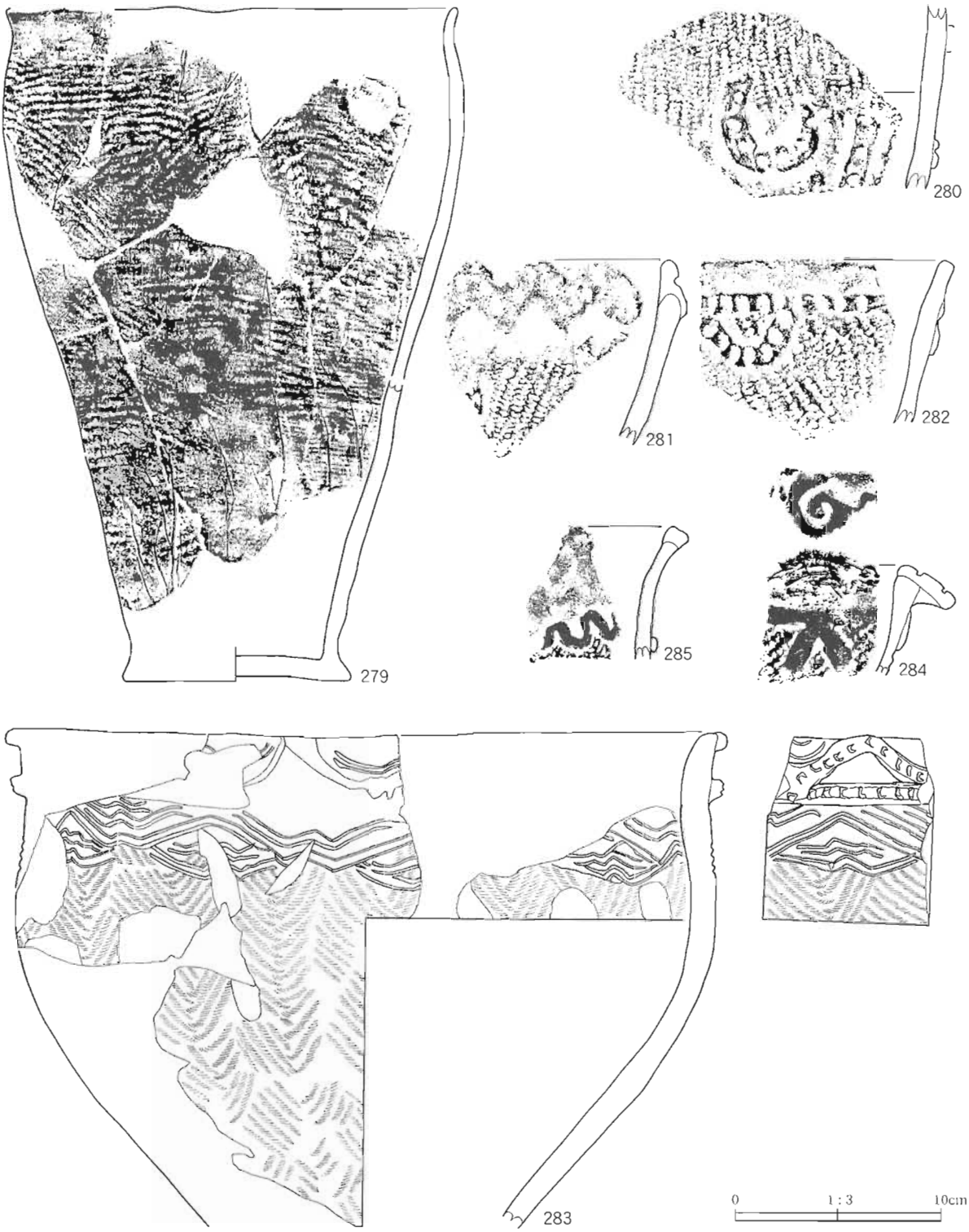
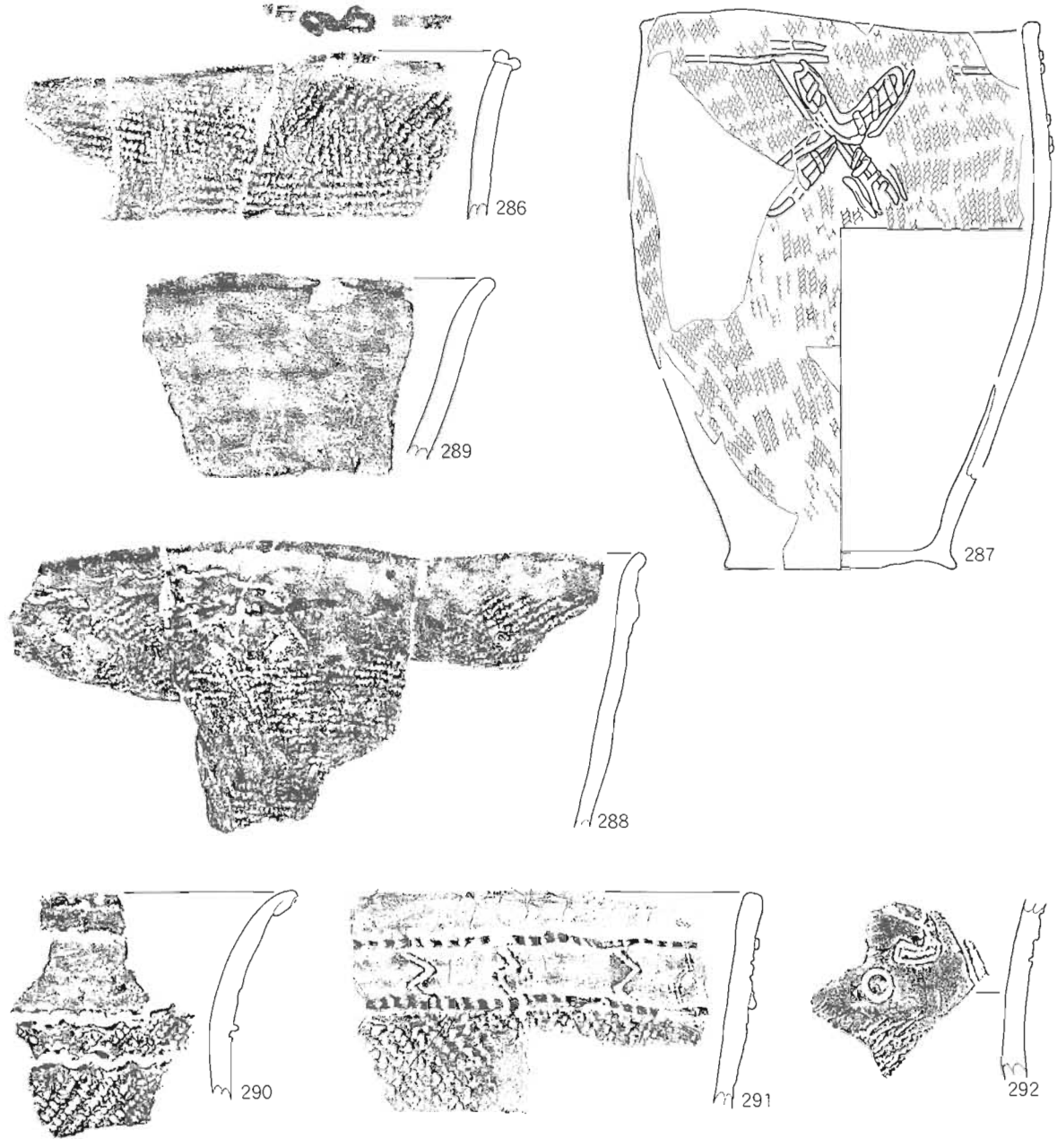


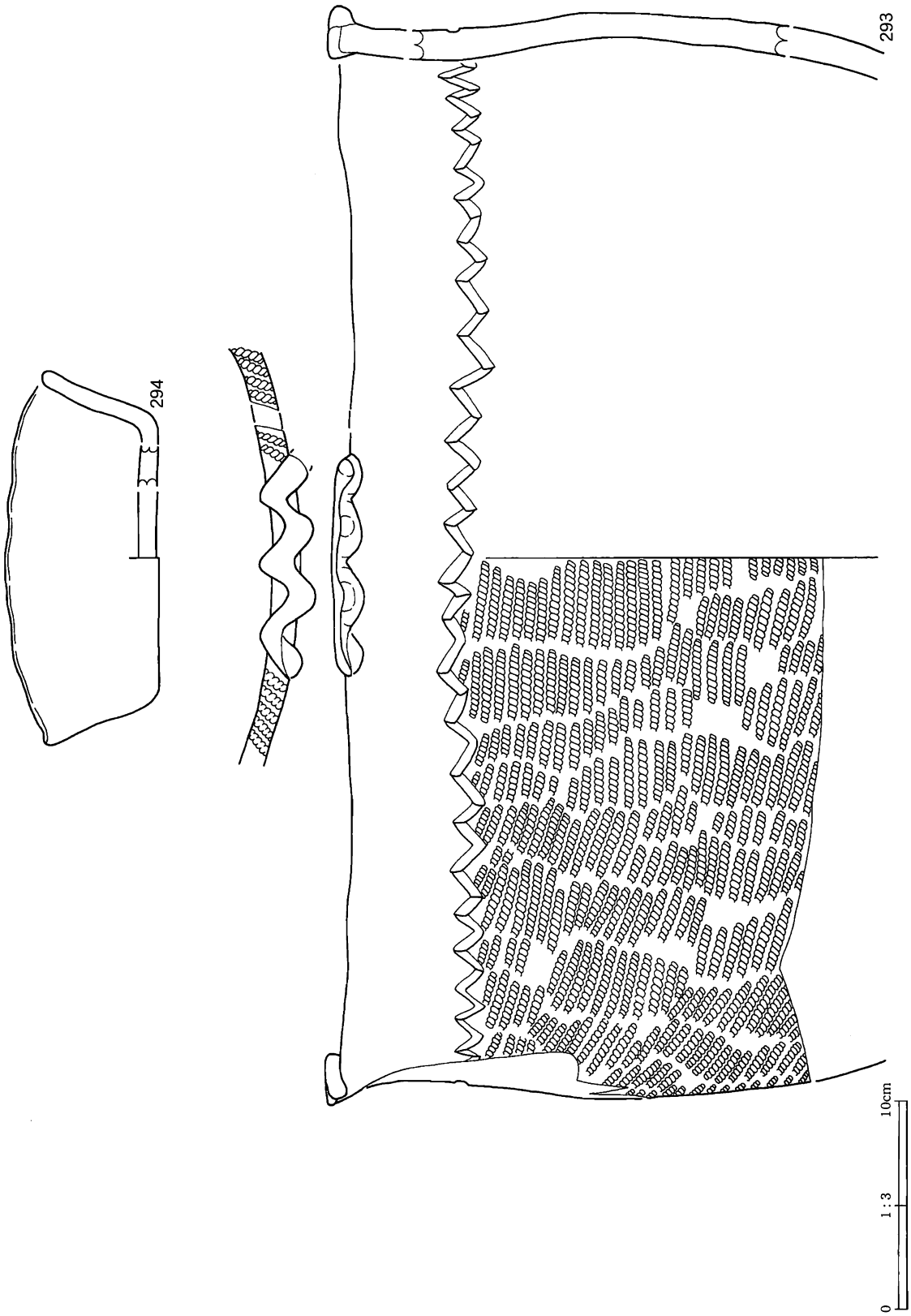
図	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
279	21C 4b・10～20cm（茶褐色土）	深鉢（底全周）	Lタテ、ナナメ→口縁、底部ナデ／底面：ナデ	ナデ(凹凸)	内面スス付着	p.47
280	21C 4b・10～20cm	深鉢・胴部	RL タテ、ナナメ→太い隆帯（太く深い刺突列）	ナデ	外面隆帯剥落	
281	21C 4b・10～20cm	深鉢・口縁部	口唇～外面鋸歯状突起（斜め下からの刺突列）／RL タテ→隆帯	ナデ		
282	21C 4b・10～20cm	深鉢・口縁部	RL ヨコ→隆帯（D字形刻目列）	ナデ		
283	21C 4b・10～20cm、21c ②、21C ④	球胴深鉢？	結束 f（LR、RL）タテ、口縁隆帯→半裁竹管状工具による文様（隆帯上は斜めからの刺突）	ナデ		p.47
284	21C 4b・20～30cm（赤褐色土）	深鉢・口縁部	口唇：太い渦巻き隆帯（底状にはみ出す）、細い蛇行隆帯／LR ヨコ→太い隆帯	ナデ	内面スス付着	
285	21C 4b・20～30cm（赤褐色土）	深鉢・口縁部	RL ヨコ→蛇行隆帯	ナデ	外面スス付着？	

第66図　土器(32)



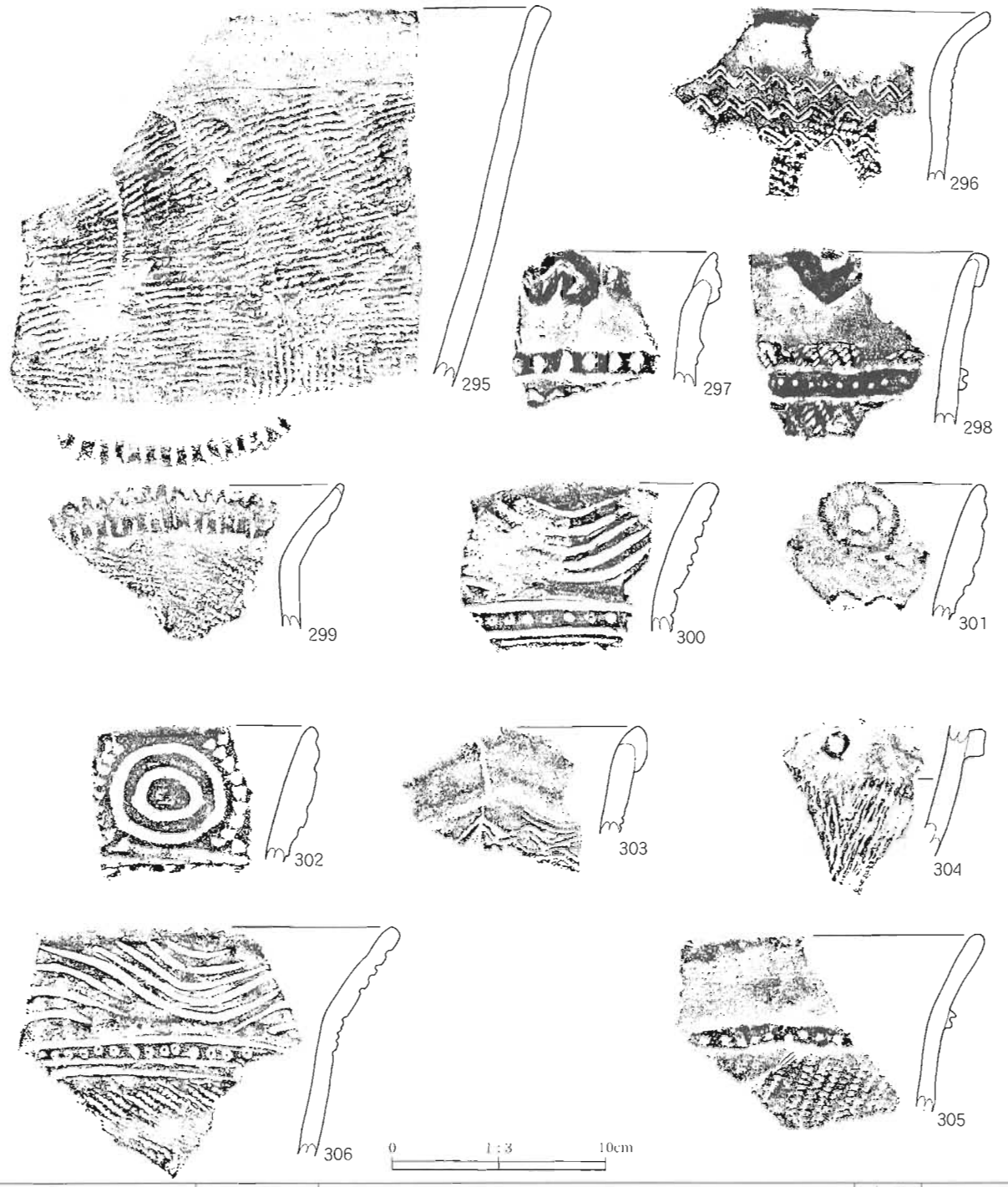
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
286	21C 4b・20～30cm（赤褐色土）	深鉢・口縁部(1/4周)	口唇：8字隆帯ｶ？／LR タテ、ヨコ、ナナメ→口縁ナデ	ナデ	下割れ口接合痕	
287	21C ①・Ⅰ～Ⅲ層	深鉢(底4/5周)	RL ヨコ、ナナメ→底部ナデ、細く短い粘土紐貼付	ナデ	外面スス、二次焼成	p.48
288	21C ①・Ⅰ～Ⅲ層	深鉢(1/4周)	LR＋結節（L）ヨコ、ナナメ→口縁ナデ	指なで	外面スス付着	
289	21C ①・Ⅰ～Ⅲ層	深鉢・口縁部	ナデ	ナデ		
290	21C ①・Ⅰ～Ⅲ層	深鉢・口縁部	口隆帯状／LR ヨコ→非常に深い綾繰文状沈線	ナデ		
291	21C ①・Ⅰ～Ⅲ層	深鉢・口縁部	RL ヨコ、ナナメ→細い隆帯（C字爪形文）→太めで深い沈線	ナデ		
292	21C ①・Ⅰ～Ⅲ層	深鉢・胴部	L ヨコ→上ナデ→深い沈線	ナデ		

第67図　土器(33)



No.	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
293	22B ③・Ⅰ～Ⅲ層、22C ①Ⅰ～Ⅲ層	深鉢(1/2周)	口唇：三山鋸歯状隆帯４単位・LR ヨコ/LR タテ、ナナメ→太く浅い鋸歯状沈線	ナデ	内面剥落	p. 48
294	21C ①・Ⅱ(Ⅲa)層、21C ②・Ⅲ(Ⅲb)層	浅鉢(1/3周)	ナデ（＊楕円形浅鉢・歪んでいる）	ナデ	①1/6、②5/6出土	p. 48

第68図　土器(34)

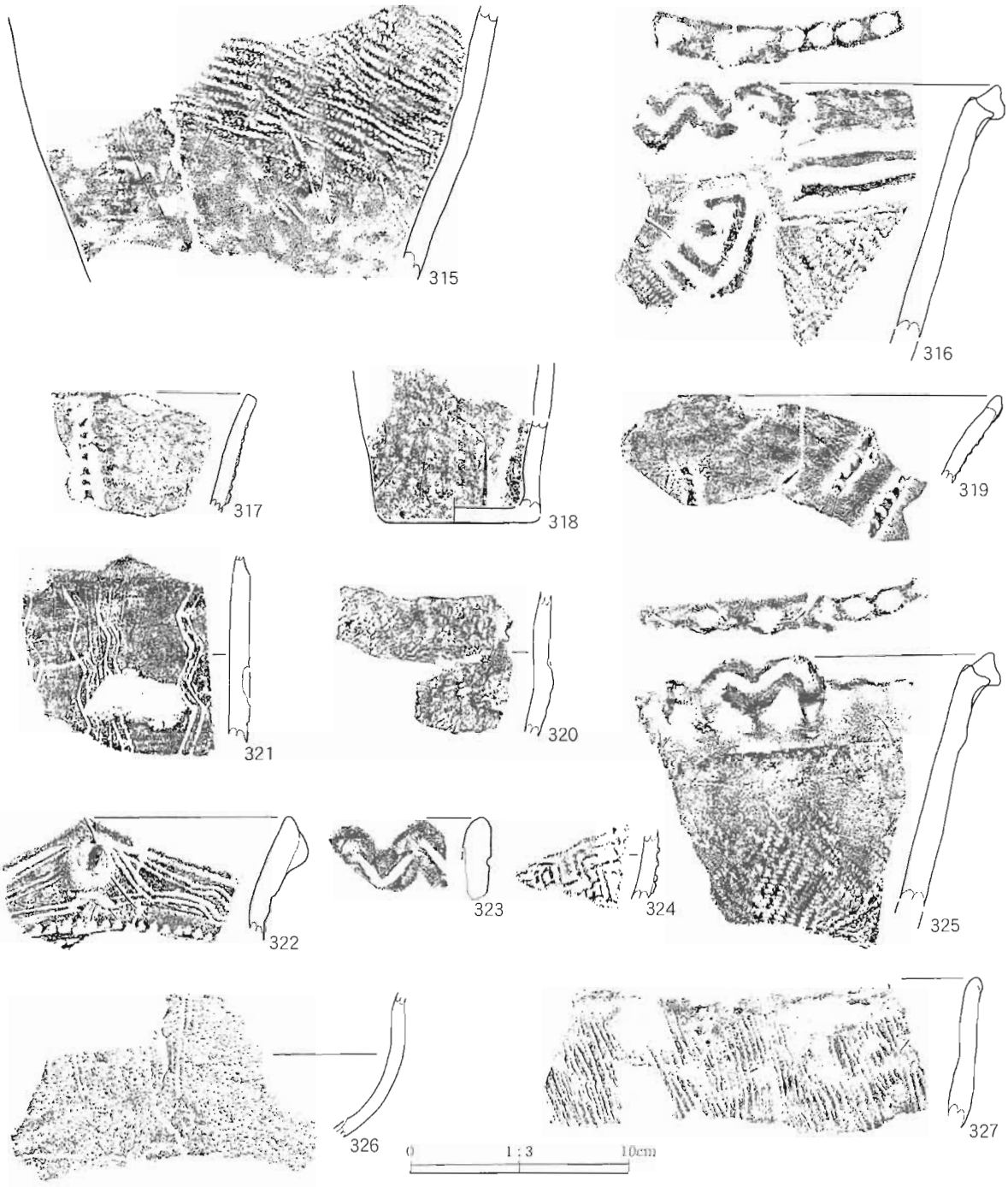


No.	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
295	21C ①・Ⅱ（Ⅲa）層	深鉢・口縁部	口唇：ナデ／L ヨコ、ナナメ→口縁ナデ	ナデ(凹凸)		
296	21C ①・Ⅱ（Ⅲa）層	深鉢・口縁部	LR タテ→半裁竹管状工具による鋸歯状沈線	ナデ	内外面剥落	
297	21C ①・Ⅱ（Ⅲa）層	深鉢・口縁部	口唇～外突起貼付（浅い沈線）／隆帯（太い刻目）・鋸歯状沈線	ナデ		
298	21C ①・Ⅱ（Ⅲa）層	深鉢・口縁部	口唇～外太い隆帯／RL ヨコ→高い隆帯（竹管状刺突）	ナデ		
299	21C ①・Ⅱ（Ⅲa）層	深鉢・口縁部	口縁隆帯状（上口唇、下刻目列）／RL ヨコ→ナデ	ナデ	外面スス付着	
300	21C ①・Ⅱ（Ⅲa）層	深鉢・口縁部	太く深い沈線・竹管状刺突列	ナデ	外面剥落	
301	21C ①・Ⅱ（Ⅲa）層	深鉢・口縁部	口唇～外楕円形貼付（深い刺突）・太く深い鋸歯状沈線	ナデ	外面スス付着	
302	21C ①・Ⅱ（Ⅲa）層	深鉢・口縁部	口縁隆帯状／太く深い沈線・半裁竹管状工具による刺突列	ナデ		
303	21C ①・Ⅱ（Ⅲa）層	深鉢・口縁部	口縁隆帯状／半裁竹管状工具による沈線	ナデ	内面摩耗	
304	21C ①・Ⅱ（Ⅲa）層	深鉢・胴部	高いボタン状貼付文／単軸絡条1（R）ナナメ？	ナデ		
305	21C ①・Ⅱ（Ⅲa）層	深鉢・口縁部	隆帯上に竹管状刺突列／LR ヨコ	摩耗	外面灰色摩耗	
306	21C ①・Ⅱ（Ⅲa）層	深鉢・口縁部	太く深い沈線・竹管状刺突列／RL ヨコ→ナデ	ナデ		

第69図　土器(35)

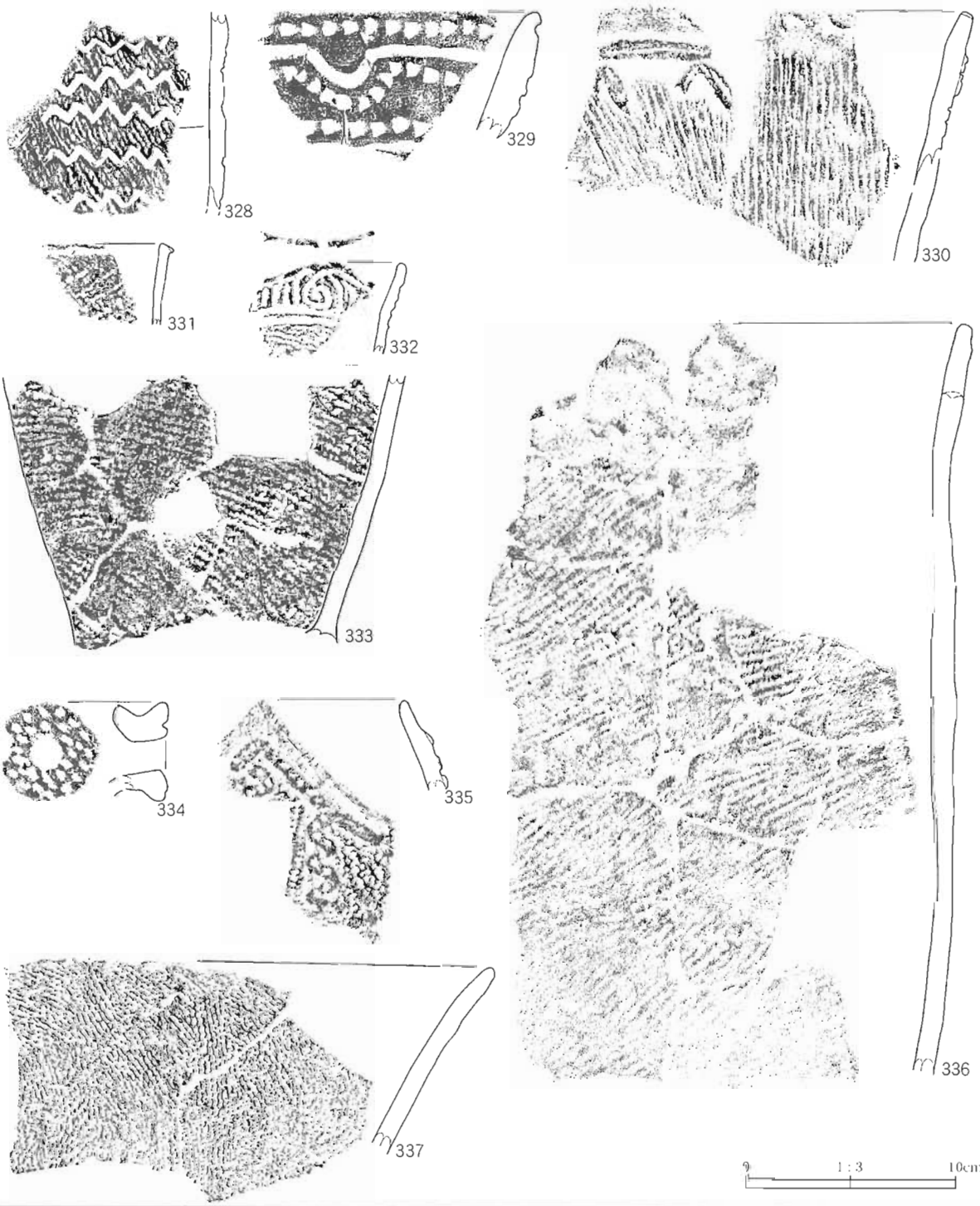
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
307	21C ①・Ⅱ（Ⅲa）層、Ⅱ（Ⅲb）層	深鉢(1/2周弱)	胴：LR ヨコ→細く短めの？粘土紐／底部：ナデ	ナデ	外面摩耗	p. 48
308	21C ①・Ⅱ（Ⅲb）層、21C ②・Ⅱ（Ⅲb）層	深鉢(1/4周)	4波状？／RL ヨコ、ナナメ	ナデ	内面スス・309と同一？	p. 48
309	21C ③・Ⅱ（Ⅲb）層	深鉢・口縁部	口縁外面円形粘土板貼付／RL ヨコ、ナナメ	ナデ	内面スス・308と同一？	
310	21C ①・Ⅱ（Ⅲb）層、21C・Ⅲ（Ⅲc）層	深鉢(底1/3周)	単軸絡条1（L）タテ、ナナメ→太く深い縦重文	ナデ	外面スス付着	p. 48
311	21C ③・Ⅱ（Ⅲb）層	深鉢・口縁部	口縁突起、隆帯剥落／RL ヨコ→隆帯（深い竹管状刺突列）	ナデ	下割れ口接合痕	
312	21C ①・Ⅱ（Ⅲb）層	深鉢・口縁部	口唇：ナナメ鎖状刻目列／太く深めの沈線	ナデ	下割れ口接合痕	
313	21C ①・Ⅱ（Ⅲb）層	深鉢・頸部	半裁竹管状工具による波状沈線	ナデ		
314	21C ①、21C ②、21C ④	球胴深鉢？(1/2周以下)	結束1（L、R）タテ→底部ナデ	ナデ	外屈曲部下二次焼成	p. 48

第70図　土器(36)



No.	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
315	21C ④・Ⅱ（Ⅲb）層	底部(1/4周)	LR+結節（R）ナナメ→底部ナデ　（＊下の割れ口接合痕）	ナデ	外面上スス、下二次焼成	
316	21C ④・Ⅱ（Ⅲb）層	深鉢・口縁部	口唇～外突起・その他口唇押圧列/RL ヨコ、ナナメ→高い隆帯／突起、隆帯上太く深い沈線	摩耗		
317	21C ①・Ⅲ（Ⅲb）層	深鉢・口縁部	微隆帯上C字形刻目列　（＊319と同一個体）	ナデ	内面下部スス付着	
318	21C ①・Ⅲ（Ⅲb）層	底部(底4/5周)	摩耗	摩耗	内面底付近スス	
319	21C ①・Ⅲ（Ⅲb）層	口縁部(1/4周)	L ヨコ？？→微隆帯上C字形刻目列（＊317と同一個体）	ナデ	繊維混？・外スス付着	
320	21C ①・Ⅲ（Ⅲb）層	胴部	LL ヨコ？？　（＊外面スス付着）	ナデ	繊維混？・内面おこげ	
321	21C ①・Ⅲ（Ⅲb）層	深鉢・胴部	半裁竹管状工具による文様　（＊右下粘土接合面からの剥離）	摩耗	外面スス付着	
322	21C ①・Ⅲ（Ⅲb）層	深鉢・口縁部	山形突起／突起下高く大きな瘤状突起→半裁竹管状工具による刺突、沈線	ナデ		
323	21C ①・Ⅲ（Ⅲb）層	鋸歯状突起	口縁外面に接続・上に太く深い短沈線	－		
324	21C ④・Ⅲ（Ⅲb）層	深鉢・胴部	LR ヨコ？→細く短めの粘土紐	ナデ	外面吹きこぼれ	
325	21C ③・Ⅲ（Ⅲb）層	深鉢・口縁部	口唇：突起外押圧列／突起上太く深い沈線／RL タテ、ヨコ→口～胴上部ナデ	ナデ	内面摩耗	
326	21C ④・Ⅲ層（倒木痕）	球胴深鉢・胴部	半裁竹管状工具による沈線	ナデ	外摩耗・内面黒	
327	21C ①・Ⅲ層（倒木痕）	鉢(1/4周)	口：無文／胴：単軸絡1（L）タテ、ナナメ　（＊口径14cm？）	ナデ	外面スス、剥落	

第71図　土器(37)

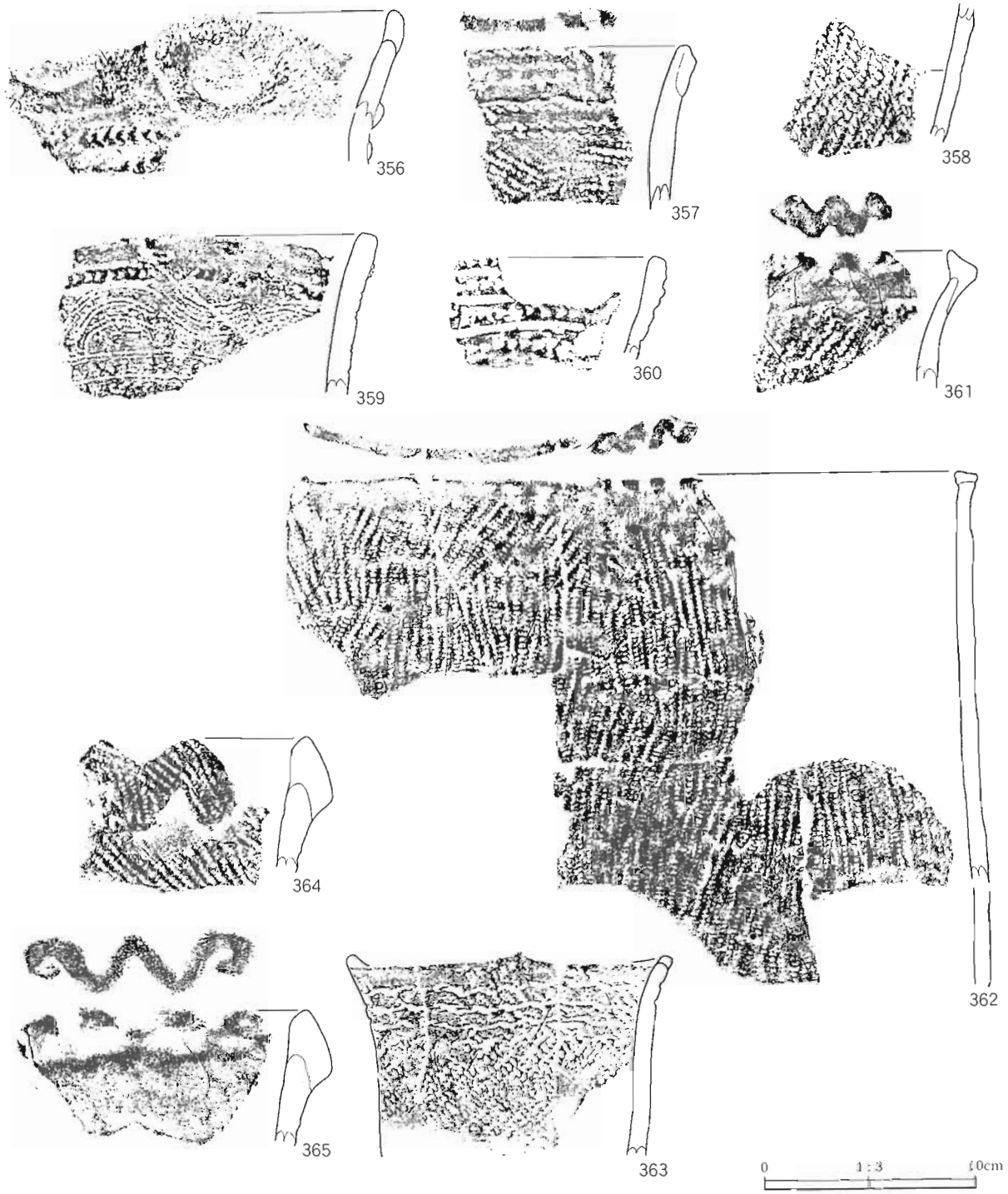


No	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	朱文記載
329	2IC ①・III層（倒木痕）	深鉢・胴部	RL ヨコ？→太く浅めの沈線	ナデ	外面スス付着	
329	2IC ①・III層（倒木痕）	深鉢・口縁部	口縁隆帯状／半裁竹管状工具による太く深い沈線，押し引き刺突列	ナデ		
330	2IC ①・III層（倒木痕）	深鉢・口縁部	口唇：C字形刻目列／単軸絡条1（R）タテ→隆帯（細く浅めの沈線）	ナデ	外隆帯，内面剥落	
331	2IC ②・II（IIIa）層	深鉢・口縁部	口縁底状に外面に突出／L ヨコ？	ナデ		
332	2IC ②・II（IIIa）層	小型球胴深鉢？	山形突起頂部に刻目／LR タテ→太く深い沈線	ナデ		
333	2IC ②・II（IIIa）層	深鉢（3/4周弱）	LR タテ （＊界面二次癒着・下側は口唇粘土接合面から剥離）	ナデ	内面下2cm除きスス	
358	2IC ②・II（IIIb）層	深鉢・口縁部	口唇あり／突起中央潰れ，周囲尖った棒状工具による深めの刺突列	ナデ		
335	2IC ②・II層	深鉢・口縁部	斜走波状？／RL ヨコ，ナデ→低く連続した粘土紐（深い刺突）→口縁ナデ	ナデ		
336	2IC ②・II層	深鉢（1/8周弱）	口唇～外山形突起・突起外口唇刺突列／口：無文／胴：LR ヨコ？	ナデ		
337	2IC ②・II層	深鉢・口縁部	RL ヨコ，ナデ→口唇ナデ	ナデ	左下側は口粘土接合面	

第72図　土器(38)

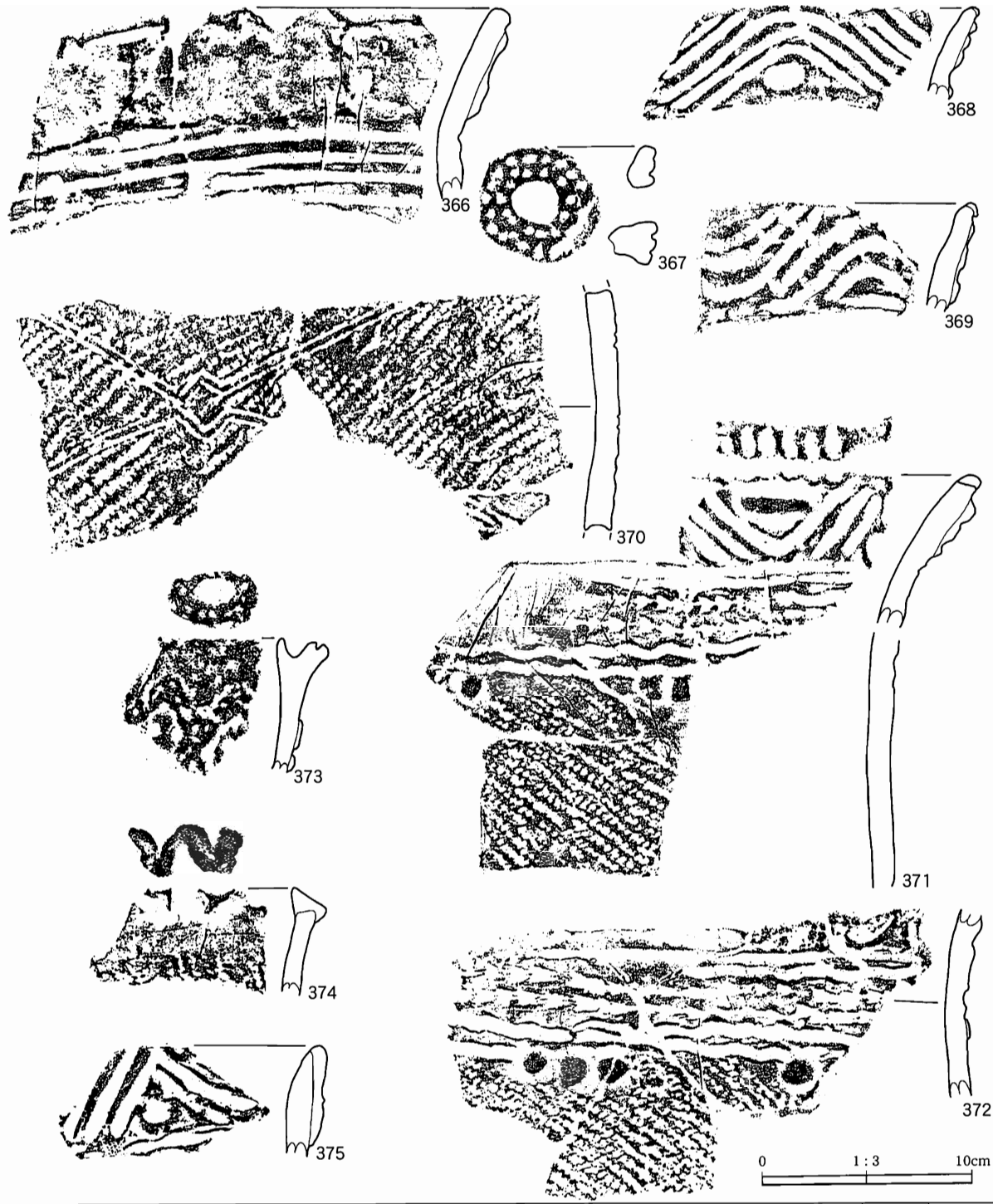
No	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
338	21C ②・Ⅱ層	底部（一周）	RL タテ、ナナメ→底部ナデ／底面：ナデ	ナデ	外面二次焼成・内面底部剥	
339	21C ②・Ⅱ層	小型台付鉢？	ナデ（台部はスカート状に中空洞）	ナデ		
340	21C ②・Ⅱ層	底部（一周）	LR タテ、ナナメ→底部ナデ／底面：ナデ（中央窪み）	ナデ		
341	21C ②・Ⅱ層	深鉢・胴部	RL ヨコ、ナナメ→低い貼付文（尖った棒状工具による深い刺突）	ナデ	繊維混？・外面スス	
342	21C ②・Ⅱ層	底部（1/3周）	底部～底面：ナデ	ナデ		
343	21C ②・Ⅱ層	不明（1/4周弱以下）	ナデ	ナデ		
344	21C ②・Ⅱ層	深鉢・口縁部	口唇～外縁鋸状貼付／R？ヨコ、ナナメ？→細い隆帯（形一様でないが一部短い単位）	ナデ		
345	21C ②・Ⅱ層	深鉢・口縁部	口唇：押圧列／口～頸：竹管状刺突列→ロナデ／胴：LR＋結節（？）ヨコ	ナデ	外面スス・内面剥落	
346	21C ②・Ⅲ（Ⅲb）層	深鉢？	口唇：LR ヨコ／口～胴：LR タテ→口縁に高めの瘤状突起	ナデ	口唇突起剥落？	
347	21C ②・Ⅲ（Ⅲb）層	深鉢・口縁部	口：無文／胴：LR タテ	ナデ	外面スス付着	
348	21C ②・Ⅲ（Ⅲb）層	深鉢・口縁部	口唇：鋸歯状貼付文／太く浅めの無節文	ナデ		
349	21C ②・Ⅲ（Ⅲb）層	深鉢・口縁部	口縁肥厚／LR ヨコ→比較的短い？紐状貼付文	ナデ		
350	21C ②・Ⅲ（Ⅲb）層	深鉢・口縁部	山形突起／口縁肥厚／LR ヨコ，ナナメ→ナデ	ナデ	外面スス・内面剥落	
351	21C ②・Ⅲ（Ⅲb）層	深鉢・口縁部	口縁肥厚	ナデ		
352	21C ②・Ⅲ（Ⅲb）層	深鉢・口縁部	LR ヨコ？？→口唇ナデ，細く浅めの沈線	ナデ		
353	21B ③Ⅱ（Ⅱc）層，Ⅲ（Ⅱc）層，21C ③・Ⅱ層	深鉢・口縁部	口唇～外蛇行隆帯（刺突列）・その他口唇刻目列／口：無文／胴：RL ナナメ→隆帯（刻目列）	ナデ		p. 48
354	21C ③・Ⅱ層	底部（1/2周）	RL ヨコ→底部ナデ／底面：ナデ	ナデ	二次焼成で赤い	
355	21C ③・Ⅱ層	浅鉢（1/5周）？	ナデ	ナデ		

第73図　土器(39)



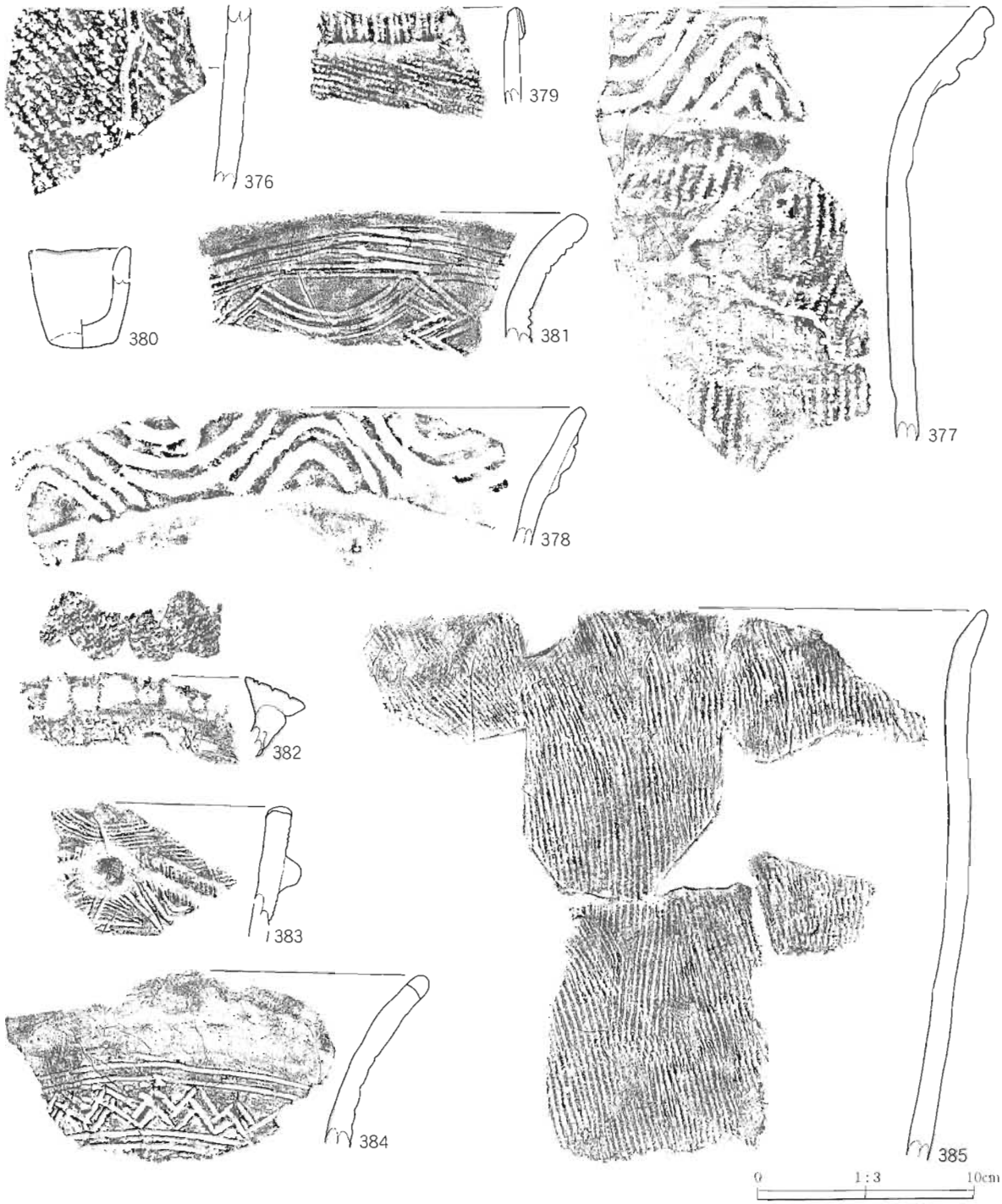
No	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、施文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
356	21C ③・Ⅲ（Ⅲb）層	深鉢・口縁部	太く高い隆帯・半裁竹管状工具による刺突列	摩耗	内面剥落（二次焼成による？）	
357	21C ③・Ⅲ（Ⅲb）層	深鉢・口縁部	口唇：一部刻目／口縁低い隆帯状／口～頸：LR 側圧／胴：LR タテ	ナデ（凹凸）	内外スス・下層口接合復	
358	21C ④・Ⅱ（Ⅲa）層	深鉢・胴部	LR ヨコ？	ナデ	オオバコ回転文？	
359	22B ①、②、 表土	深鉢・口縁部	細く低めの隆帯（剥落）／LR ヨコ？→半裁竹管状工具による刺突列、文様	摩耗	①2/5、②3/5出土	
360	22B ①・Ⅰ～Ⅱ層	深鉢・口縁部	半裁竹管状工具による刺突列、太く深い沈線	ナデ	外面摩耗、剥落	
361	22B ①・Ⅰ～Ⅱ層	深鉢・口縁部	口唇鋸歯状隆帯／LR ヨコ→口縁ナデ	ナデ		
362	22B ①・Ⅰ～Ⅲ層、22B ③・Ⅰ～Ⅱ層	深鉢・口縁部	口唇蛇行隆帯４？／口：無文／RL タテ、ナナメ	ナデ	①1/5、③4/5出土	
363	22B ①・Ⅰ～Ⅲ層、22B ⑥・Ⅰ～Ⅱ層	深鉢（口3/4周）	"突起4単位／口：RL＋結節（L）ヨコ／胴：組紐（rL 各2本？）ヨコ／施文胴→口"	ナデ	繊維混・内外面スス	
364	22B ①・Ⅰ～Ⅱ層	深鉢・口縁部	口唇～外鋸歯状突起／RL ヨコ	ナデ		
365	22B ①・Ⅰ～Ⅱ層	深鉢・口縁部	口唇：羊頭状隆帯	ナデ	内面摩耗	

第74図　土器(40)



No.	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
366	22B①・Ⅰ～Ⅱ層	深鉢・口縁部	口～頸部剥落／太く深い沈線	ナデ		
367	22B①・Ⅰ～Ⅱ層	深鉢・突起	深い竹管状刺突	ナデ		
368	22B①、22B②	深鉢・口縁部	太く深い沈線、盲孔　（＊下の割れ口粘土接合面からの剥離）	ナデ	①3/5、②2/5出土	
369	22B②	深鉢・口縁部	太く深い沈線	ナデ		
370	22B②（「表土」と明記6/13）	深鉢・胴部	LRヨコ、ナナメ→半裁竹管状工具による沈線	ナデ	上下割れ口粘土接合面	
371	22B②（「表土」と明記1/4）	深鉢・口縁部	口唇：口縁貼付上刻目／口縁隆帯状・高い突起／半裁竹管状工具による深い沈線、刺突列・ボタン状貼付文／／LRタテ	ナデ	下割れ口接合面・内面剥落	p. 48
372	22B②（「表土」と明記1/11）	深鉢・胴部	（＊371と同一個体・ボタン状貼付文3つ1単位？）	ナデ	下割れ口接合面	p. 48
373	22B②・表土	深鉢・口縁部	突起上から見ると楕円形（中央深い盲孔、周囲深く細い刺突列）／RLヨコ？→低い隆帯（深い刺突列）	ナデ？	内外面摩耗ひどい	p. 48
374	22B②・表土	深鉢・口縁部	口唇～外鋸歯状隆帯、その外口唇刺突列／LRタテ→口縁ナデ	ナデ		
375	22B②	深鉢・口縁部	口唇：一部刻目／口縁肥厚／太く深い沈線	ナデ	胎土石含む	

第75図　土器（41）

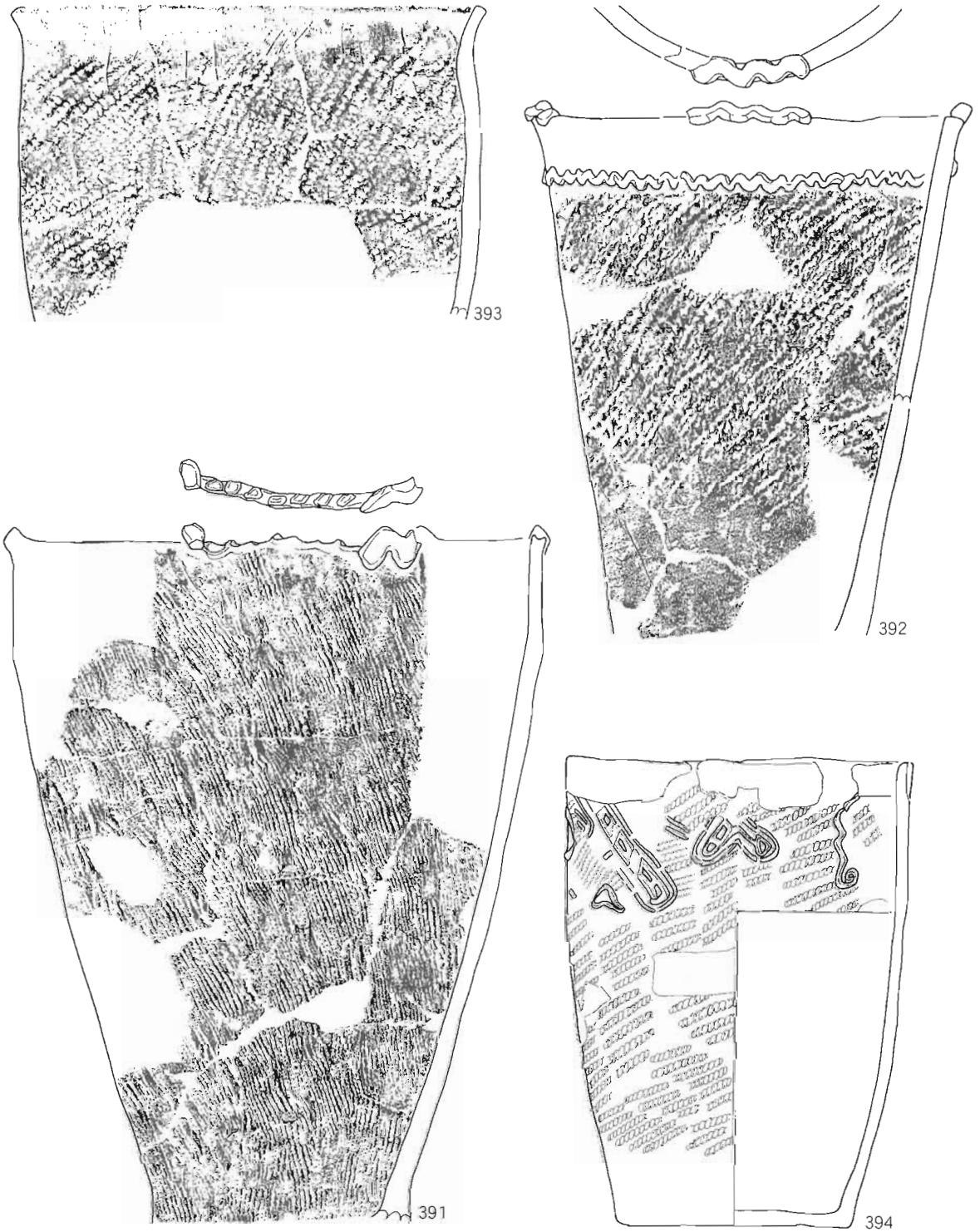


No	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
376	22B ②	深鉢・胴部	LR タテ→半裁竹管状工具による沈線	ナデ	胎土石含む	
377	22B ②	深鉢	口縁肥厚／太く深い沈線／RL タテ、ナナメ→ナデ	ナデ	内面整形板(ナデ)・378と同一	
378	22B ②	深鉢・口縁(1/4周)	口縁文様4単位？		377と同一個体	
379	22B ②	深鉢・口縁部	口縁隆帯状（箆状刻目列）／LR タテ	ナデ	下の割口接合面から剥離	
380	22B ②	小型鉢	ナデ　（＊口縁1／3周、底一周）	ナデ		
381	22B ②	深鉢・口縁部	竹管状工具による細く深い沈線（他とやや異質）　（＊右下割れ口粘土接合面から剥離）	ナデ	口唇摩耗	
382	22B ②	深鉢・口縁部	口唇：緩蛇行隆帯（刻目状刺突）／LR ヨコ→細い隆帯	ナデ	下粘土接合面から剥離	
383	22B ②	深鉢・口縁部	波状口縁頂部3つの押圧／高いボタン状貼付文→半裁竹管状工具による刺突、沈線	ナデ		p. 48
384	22B ②	深鉢・口縁部	口唇：弧状突起両脇に押圧／半裁竹管状工具による浅めの沈線→刺股状工具による斜めからの刺突列	ナデ		
385	22B ②	深鉢(口1/4周弱)	単軸絡1（R）タテ、ナナメ	ナデ	外面上部スス付着	p. 48

第76図　土器(42)

No	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、施文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
386	22B ②	深鉢(1/4周未満)	突起？／RL ヨコ？→半截竹管状工具による浅い沈線→いびつなボタン状貼付文	ナデ	387と同一個体	
387	22B ②	深鉢・口縁部	（＊386と同一個体・長方形状突起中央に押圧）		386と同一個体	
388	22B ②、②～③(②5/9で取り上げ)	深鉢	口唇：強いナデ／輪積み痕そのまま	ナデ		
389	22B ②	深鉢・口縁部	口内面・口・頸部：竹管状刺突列	ナデ		
390	22B ②、22B ④、攪土	深鉢(3/4周弱)	口唇～外蛇行隆帯(竹管状刺突)、その他口唇刺突/RL／RL タテ→隆帯(刺突～D字形刻目)	ナデ	外面スス、二次焼成	p.48

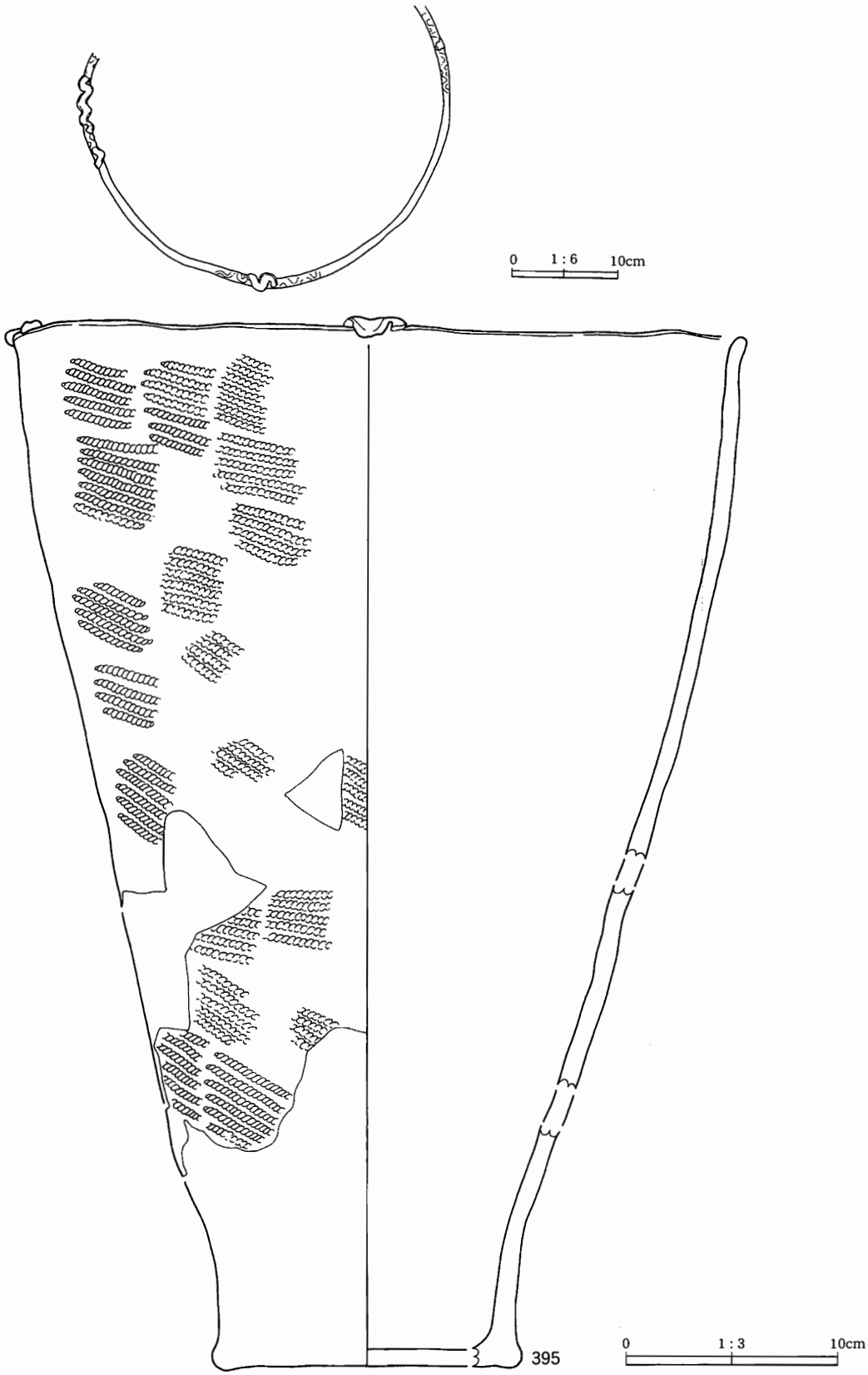
第77図　土器(43)



0　1：3　10cm

No	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
391	22B③・Ⅰ～Ⅱ層	深鉢(1/2周以下)	突起2種？（1口唇、Ⅱ口唇～外）、突起外口唇刺突列／単軸絡ﾄ（R）・タテ	ナデ	内外面スス付着	p.48
392	22B③・Ⅰ～Ⅱ層	深鉢(4/5周以下)	口唇：蛇行隆帯（4波）4単位、他強いナデ/LRヨコ→口ナデ→小波状隆帯	ナデ	外面下部二次焼成で赤	p.48
393	22B③	深鉢（1/3周）	口唇：LRヨコ／LRヨコ→口縁ナデ	ナデ	外面スス、剥落	
394	22B③・Ⅰ～Ⅱ層	深鉢（一部欠損）	口縁全周剥落／LRヨコ？→細い粘土紐貼付（文様単位不明）／底面：網代痕→ナデ	ナデ	外面スス、二次焼成	p.48

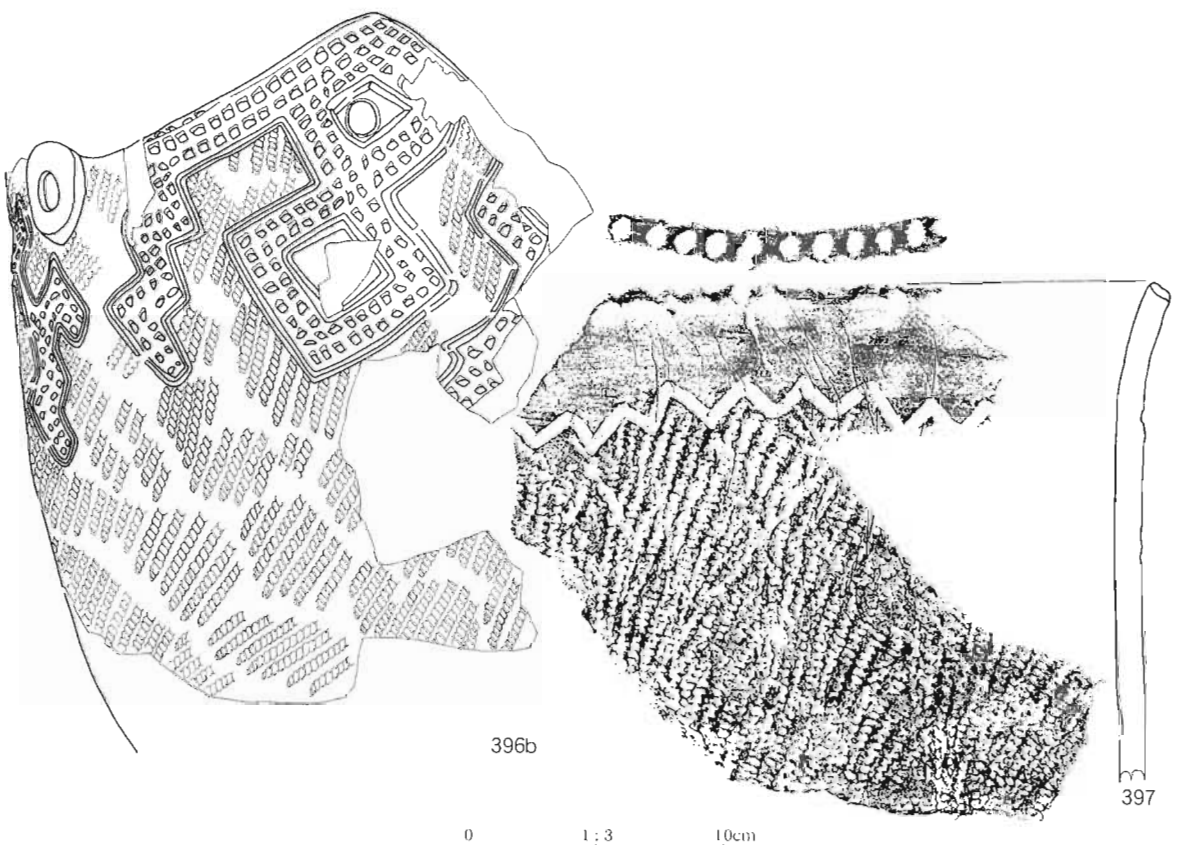
第78図　土器(44)



No.	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
395	22B ③・Ⅰ～Ⅱ層	深鉢(4/5周以下)	口唇小波状貼付文４単位／LR タテ→口縁、底部ナデ／底面：網代痕	ナデ	内面一部スス	p. 48

第79図　土器(45)

396a



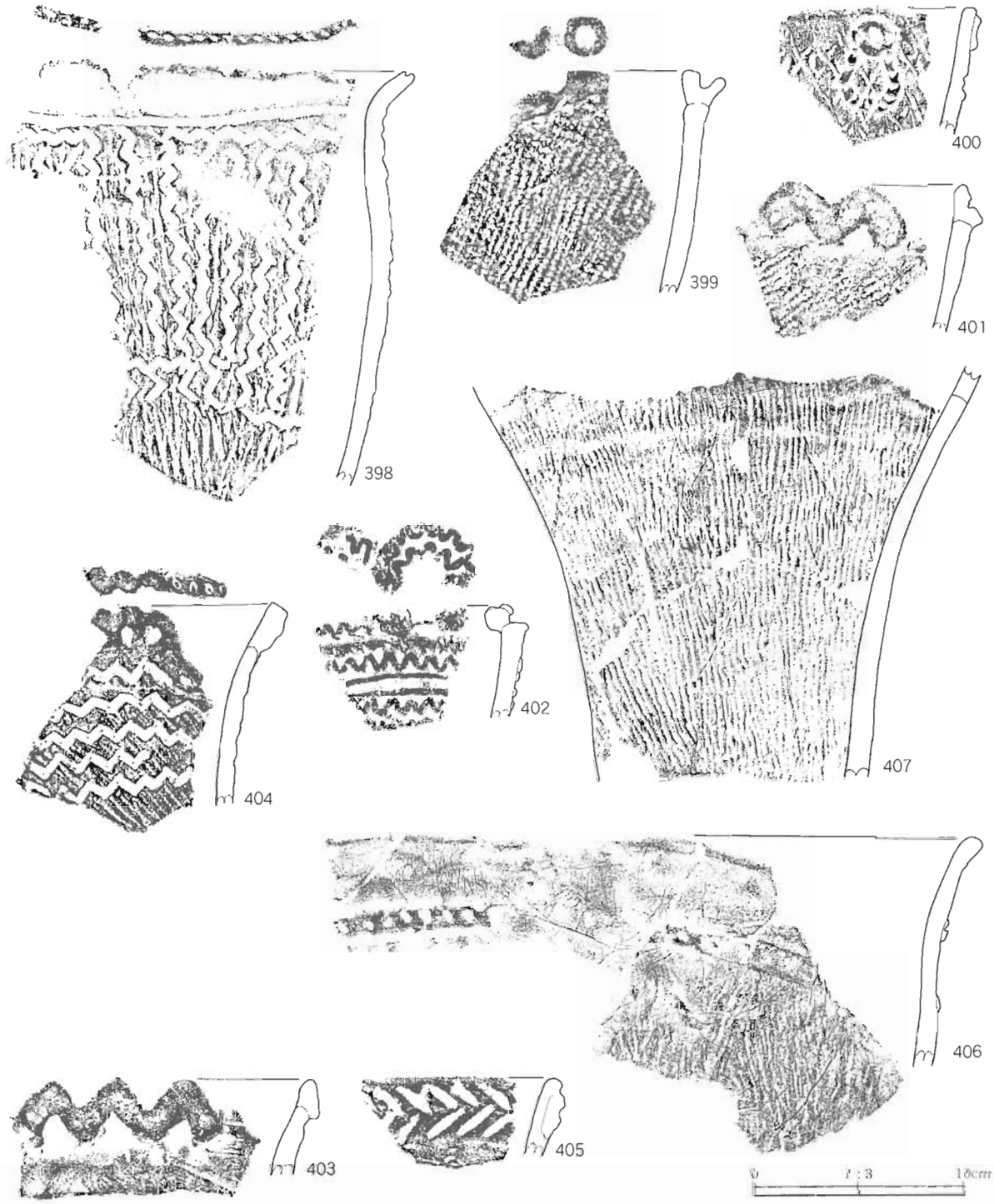
396b

397

0　1：3　10cm

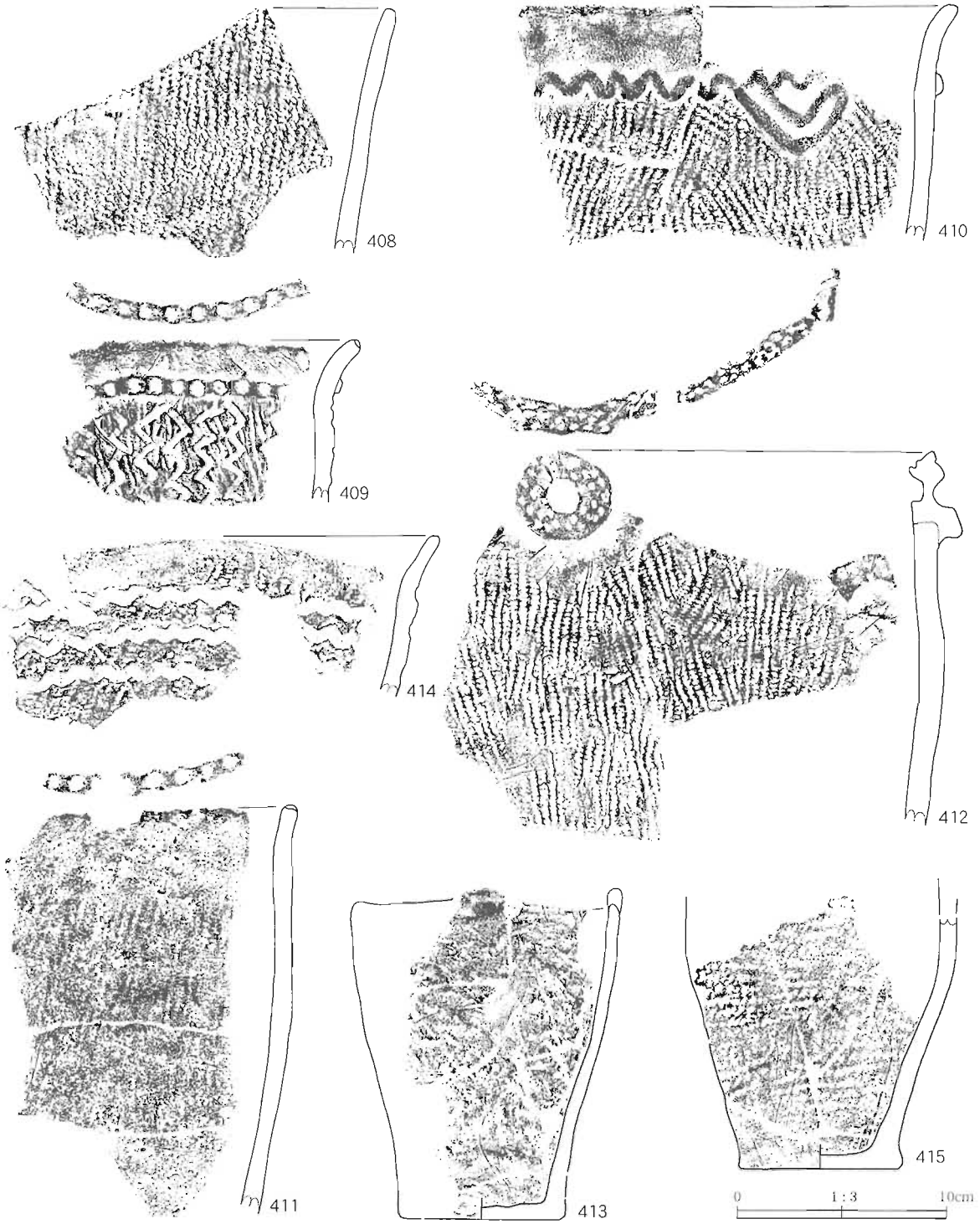
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
396	22B③・Ⅰ～Ⅲ層	深鉢(1/2周以下)	口縁2種2単位突起？（間に円形貼付文）／LR ヨコ・比較的短く細い縄付文	ナデ	内外面スス付着	p. 48
397	22B①・Ⅰ～Ⅲ層、22B③	深鉢・口縁部	口唇：刻目列／RL タテ、ナナメ→口縁ナデ→太く浅めの櫛歯文	ナデ	③5/6、③1/6出土	

第80図　土器(46)



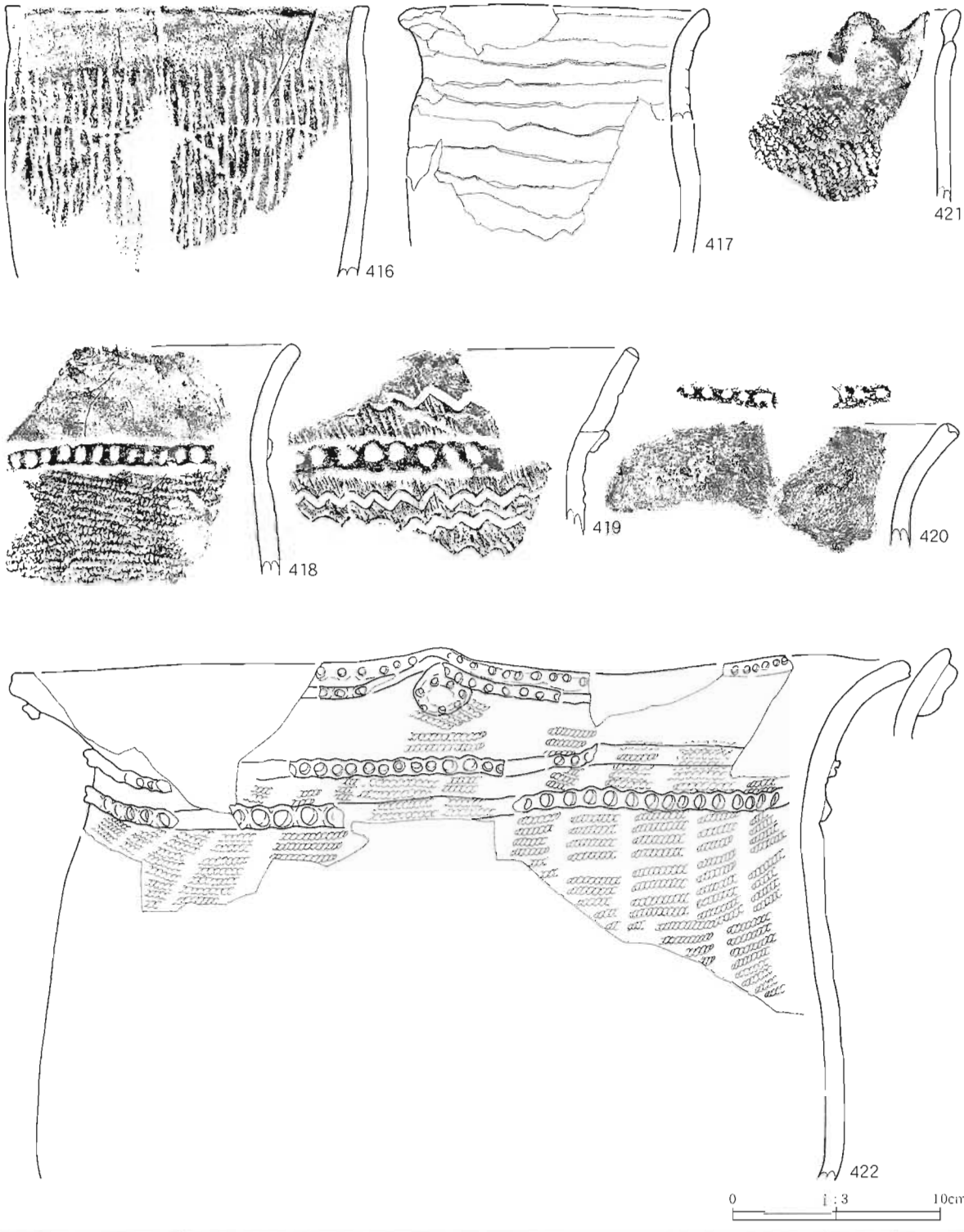
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
398	22B③	深鉢	口唇：斜めからの深い刺突列／口：ナデ／胴：LL？ナナメ→太く深めの細かい鋸歯文	ナデ	外面下部スス・内面剥落	
399	22B③	深鉢・口縁部	口唇：上から見ると円形突起（中央深く太い刺突）、蛇行隆帯／RL タテ	ナデ	下中央割口接合面から剥離	
400	22B③	深鉢・口縁部	附加条（RL にしを右巻き？）タテ？→ボタン状貼付、細い紐状貼付文（D字刻目列）			
401	22B③	深鉢・口縁部	口唇～外鋸歯状貼付（二山・竹管状刺突列）／LR ヨコ	ナデ		
402	22B③	深鉢・口縁部	口唇：太い弧状貼付→その上、外細い小波状貼付／LR ヨコ→細い貼付文	ナデ	外面吹きこぼれ	
403	22B③	深鉢・口縁部	口唇～外鋸歯状貼付文（三山）	ナデ	下割如口粘土接合面	
404	22B③	深鉢・口縁部	口唇：台形突起上内外交互刺突による（上から見て）小波状？、突起外竹管状刺突列／RL ヨコ→太く深めの沈線	ナデ	外面スス付着	
405	22B③	深鉢・口縁部	口縁隆帯状／太く深い沈線	ナデ		
406	22B③、④	深鉢・口縁部	口：ナデ／胴：RR ヨコ、ナナメ？→高い隆帯（竹管状刺突列）	ナデ	③10/13、④3/13出土	
407	22B③	深鉢（1/3周弱）	太波状口縁（4？）／口唇強いナデ／単軸絡 L（R？）タテ	ナデ	外面スス、内面黒	p. 48

第81図　土器(47)



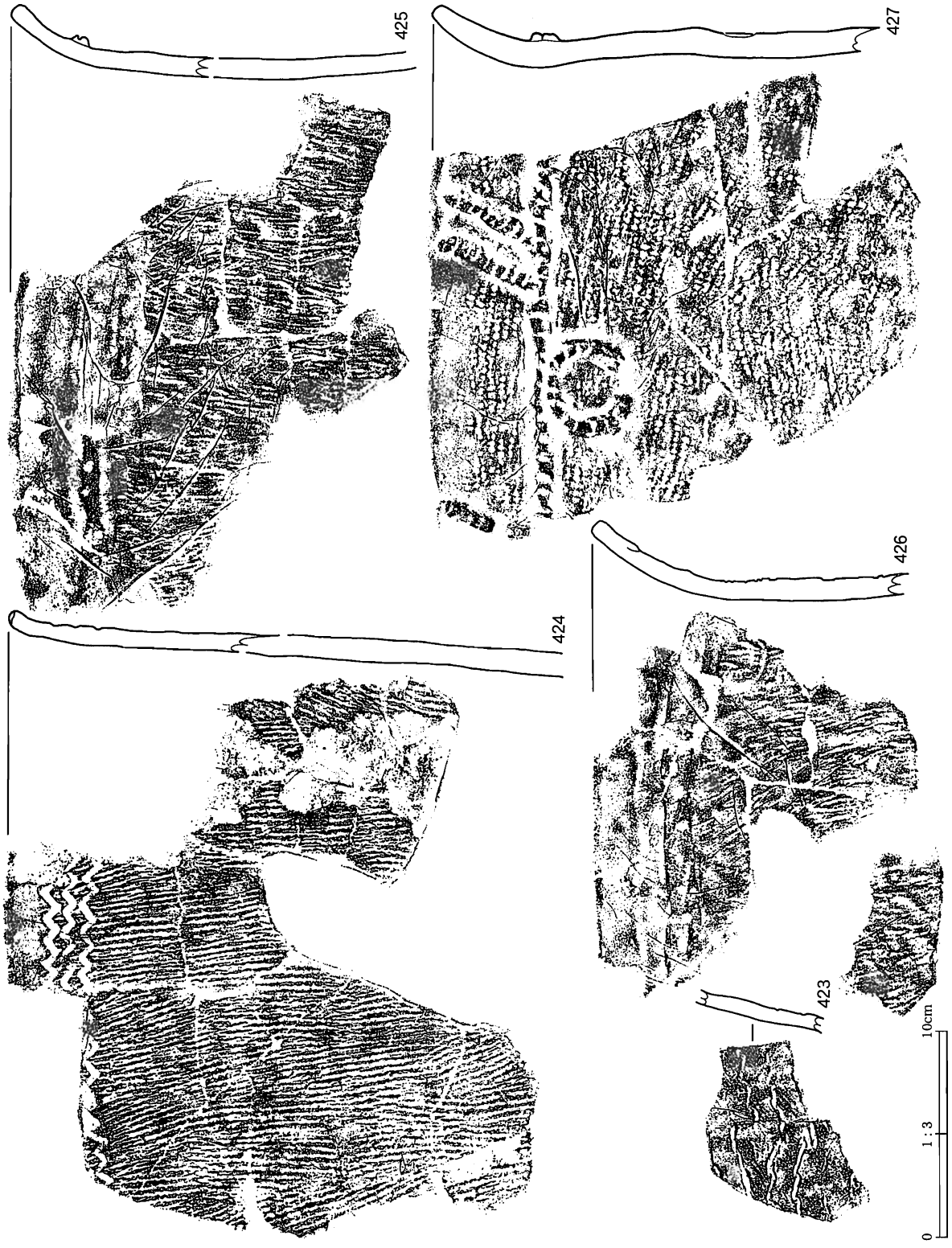
No	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
408	22B ③	深鉢・口縁部	大波状口縁（4？）／口唇強いナデ／LR ヨコ／口縁円形貼付文剥落	ナデ	外面スス付着	
409	22B ③	深鉢・口縁部	口唇：押圧列／単軸絡1（L）タテ？→隆帯（押圧列）、太く浅めの沈線	ナデ	外面摩耗・下部口接合面	
410	22B ③	深鉢・口縁部	RL タテ→貼付文	ナデ		
411	22B ③	深鉢	口唇：刺突列／胴：斜縄文（？）	ナデ(凹凸)	外面摩耗ひどい	
412	22B ③	深鉢	口唇～外縁歯状貼付・ドーナツ状貼付（内面も深い盲孔）／口唇～突起深い刺突列／RL 方向イロイロ	ナデ？	内外面スス付着	p. 48
413	22B ③	鉢（胴4/5周）	弧状突起（単位不明）／口～胴：ケズリ？／底面：ナデ	ナデ	外面スス付着	p. 48
414	22B ③	深鉢・口縁部	RL タテ？→口縁ナデ→太く浅めの鋸歯文	ナデ	内外面スス付着	
415	22B ③	胴1/3周、底完全	LR タテ、ナナメ→底部ナデ／底面：ナデ	ナデ	外面二次焼成で赤	p. 48

第82図　土器(48)



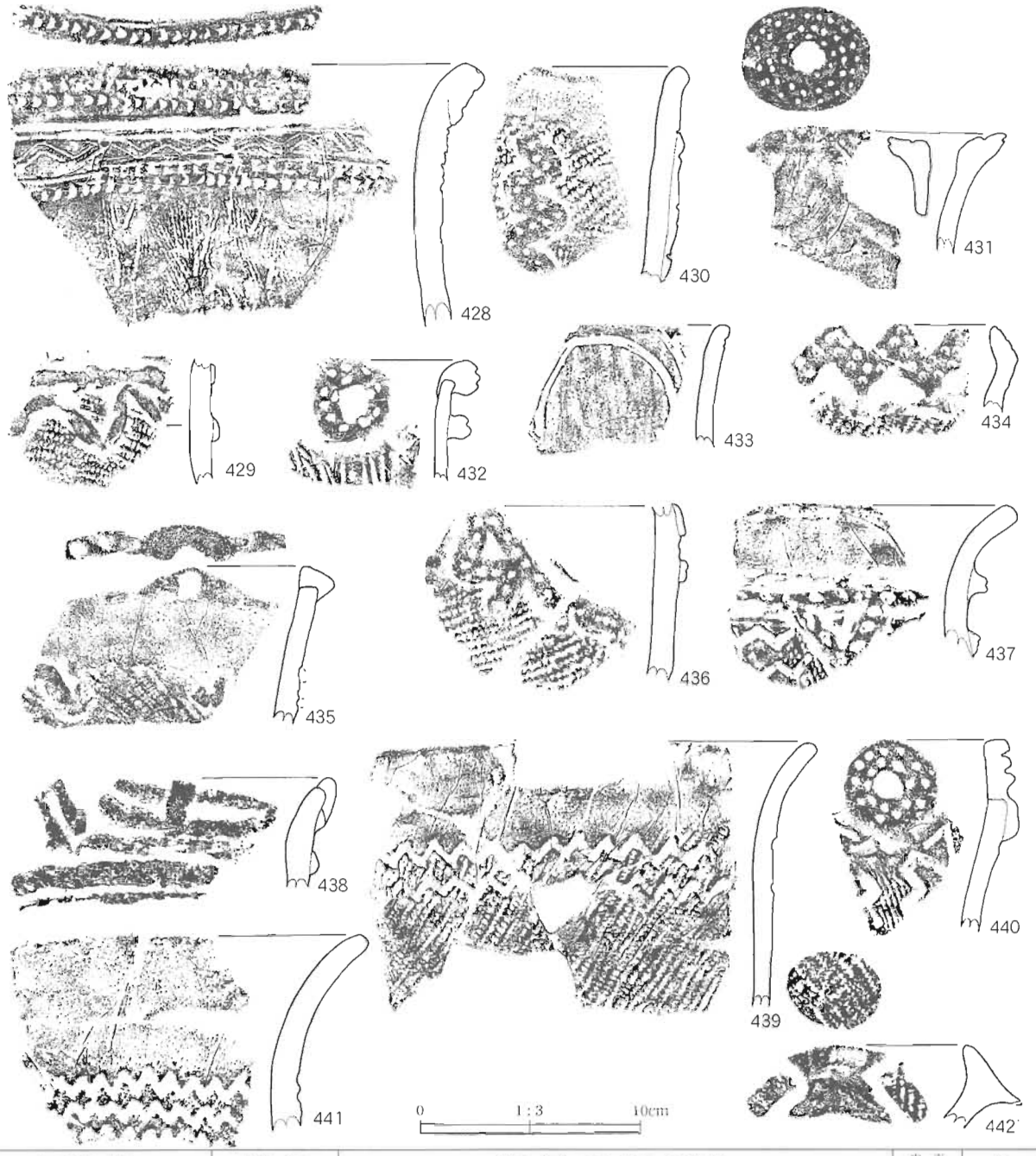
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備　考	本文記載
416	22B③	深鉢(1/3周)	口唇強いナデで口縁やや肥厚／単軸絡1（L）タテ→口縁ナデ	摩耗ひどい	外面スス付着	
417	22B③	深鉢(頸4/5周)	粘土輪積み痕　（＊口2／3周、胴1／2周以下）	ナデ	胎土白石多い	
418	22B④・Ⅰ～Ⅱ層	深鉢・口縁部	LRタテ、ナナメ→口ナデ、隆帯（D字形爪形文）	ナデ		
419	22B④・Ⅰ～Ⅱ層	深鉢・口縁部	口唇：押圧列／単軸絡1（R）タテ→高い隆帯（押圧列）、太く浅めの沈線	ナデ		
420	22B④・Ⅰ～Ⅱ層	深鉢・口縁部	口唇：深い円形刺突列	摩耗ひどい	内外面摩耗	
421	22B④・Ⅰ～Ⅱ層	深鉢・口縁部	口唇～一部外鋸歯状突起（鋸歯間、口縁高い瘤状突起）／RLヨコ→口縁ナデ	ナデ	外面スス付着	
422	22B④・Ⅰ～Ⅱ層	深鉢（頸一周）	口縁外から押厚で突起上、その下円形貼付／LRタテ、ナナメ→口縁ナデ→貼付	ナデ	内外面一部摩耗	p. 48

第83図　土器(49)



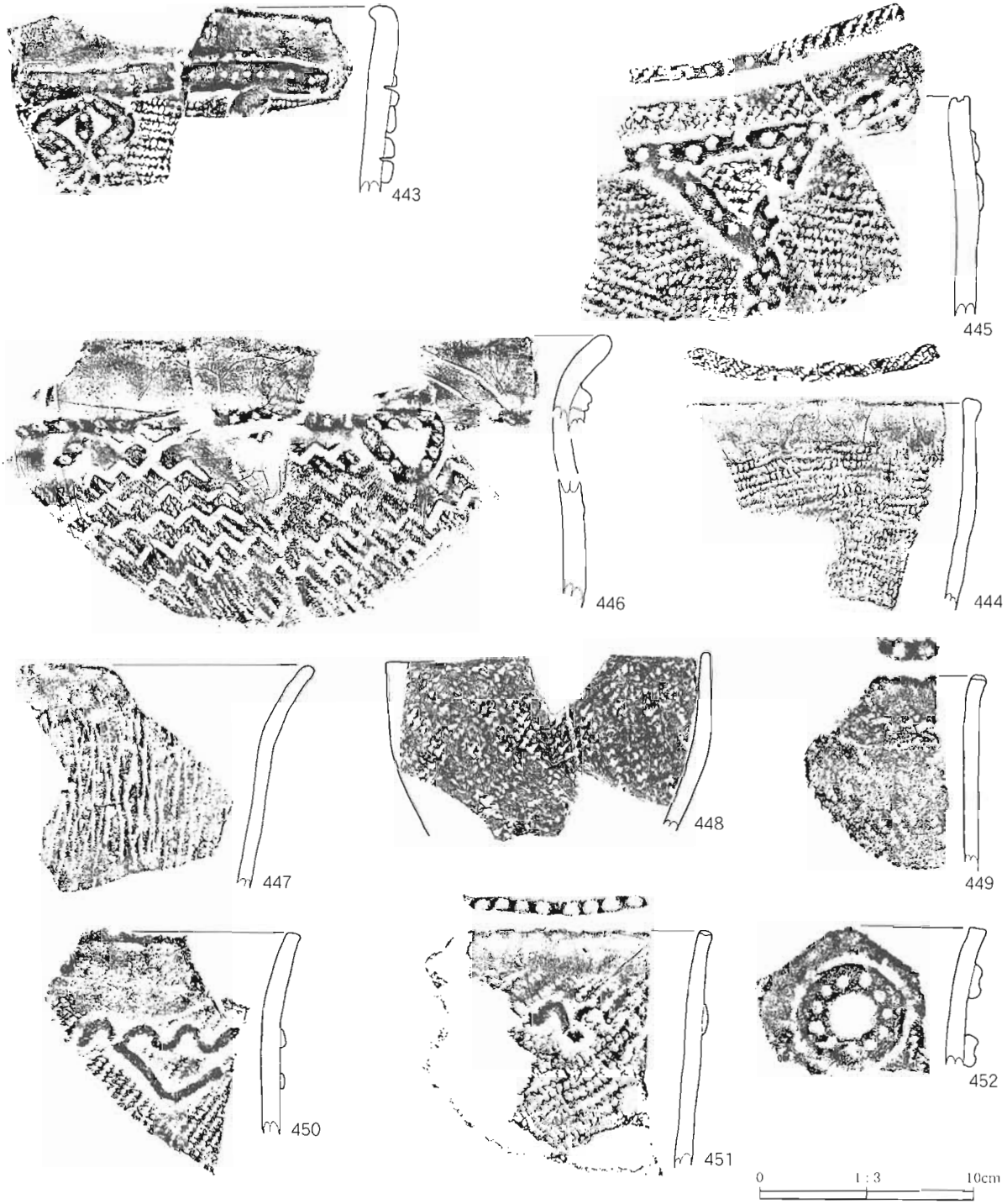
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
423	22B④・Ⅰ～Ⅲ層	深鉢・胴部	L＋結節（R？）ヨコ→ナデ	摩耗	繊維混？・外面スス	
424	22B④	深鉢(胴1/4周弱)	口唇：C字形刻目文／単軸絡1（L？）タテ→太く浅めの鋸歯文	ナデ(凹凸)	外スス・内外剥落	p. 48
425	22B④	深鉢・口縁部	口唇：強いナデ／RR？ヨコ、ナナメ→口縁ナデ→高い隆帯（竹管状刺突列）	ナデ	胴部接合面での割れ多い	p. 48
426	22B④		＊425と同一個体		外面剥落多い	p. 48
427	22B④	深鉢	LR タテ、ナナメ→口縁ナデ→貼付文（刻目列）	ナデ		

第84図　土器(50)



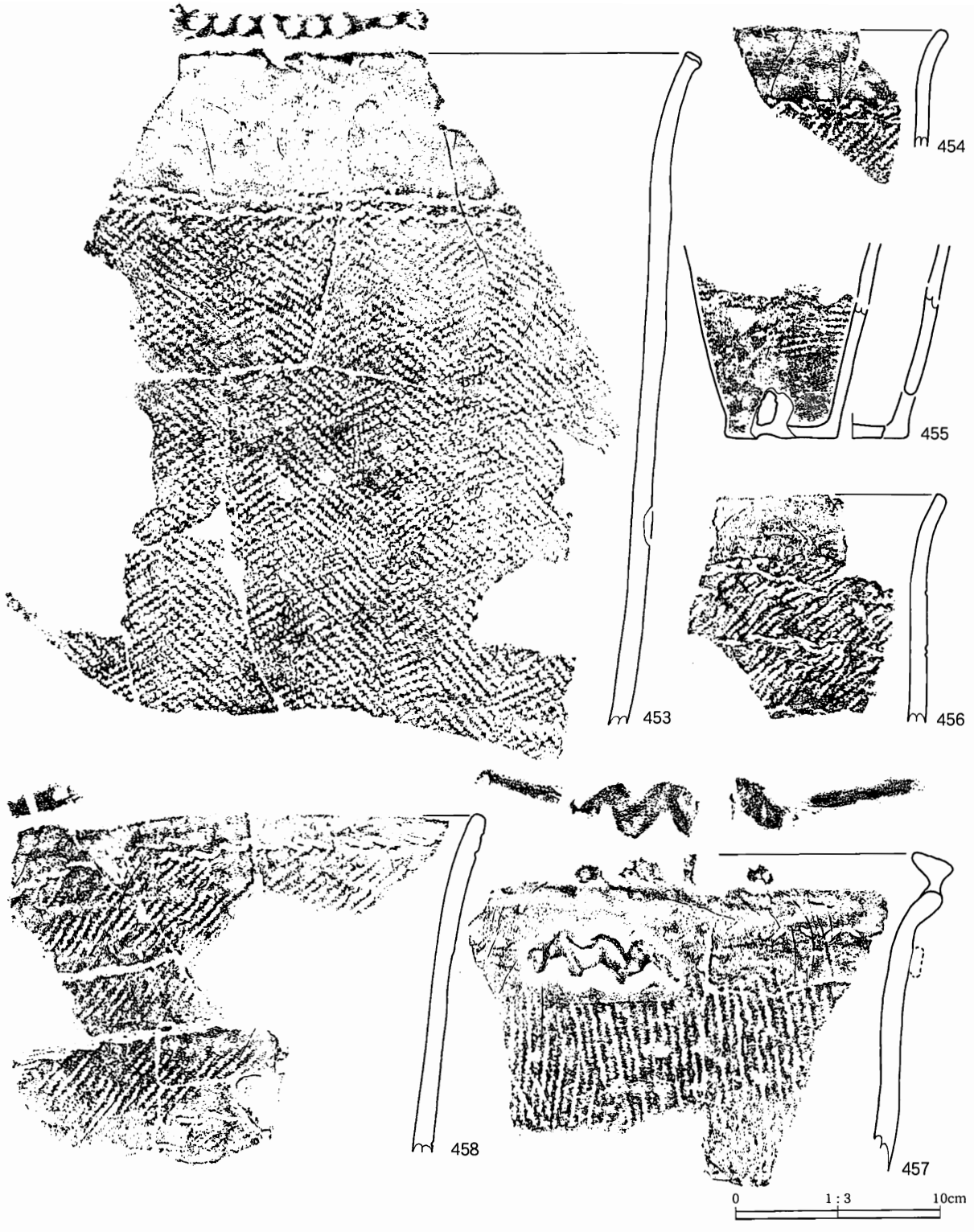
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
428	22B④	深鉢・口縁部	口縁隆帯状／単軸絡1A（R）タテ→ナデ→半裁竹管状工具による刺突、沈線	ナデ		
429	22B④	深鉢・胴部	LR タテ→隆帯貼付	ナデ	内面摩耗	
430	22B④	深鉢・口縁部	LR ヨコ→口縁ナデ→太い隆帯→細く深い刺突列	ナデ		
431	22B④	深鉢・口縁部	突起上面楕円形（中央貫通孔、周囲深い刺突群）、突起外口唇強いナデ	ナデ	貫通孔は口縁内面に出る	
432	22B④	深鉢・口縁部	単軸絡1（L）タテ？→ナデ→口唇～外ドーナツ状貼付文（深い刺突）	ナデ(凹凸)	外面スス付着	
433	22B④	深鉢・口縁部	半裁竹管状工具による文様	ナデ		
434	22B④	深鉢・口縁部	口唇～外鋸歯状貼付文（浅い竹管状刺突）／RL タテ？	ナデ	内外面スス付着？	
435	22B④	深鉢・口縁部	口唇：C字形貼付文の他は押圧列／RL ヨコ→口縁ナデ→貼付文	ナデ		
436	22B④	深鉢・胴部	LR タテ→太く高めの貼付文（細く深い刺突列）	ナデ	外面二次焼成で赤？	
437	22B④	深鉢・口縁部	RL ヨコ→口縁ナデ→高い貼付文（竹管状刺突）、太く浅めの沈線	ナデ		
438	22B④	深鉢・口縁部	口縁隆帯状／太く高めの隆帯（口縁縦は口唇またぐ）	摩耗ひどい		
439	22B④	深鉢・口縁部	RL タテ→口縁ナデ、太く深い鋸歯文	ナデ	外面スス付着	
440	22B④	深鉢・口縁部	口唇～外円形貼付（内面窪み・外中央深め押圧、竹管状刺突）／単軸絡1（R）タテ→太く浅めの鋸歯文	ナデ		
441	22B④	深鉢・口縁部	太く深い鋸歯文	摩耗	外面摩耗	
442	22B④	深鉢・口縁部	突起上面楕円形（RL ヨコ、タテ）／口唇：RL ヨコ	ナデ		

第85図　土器(51)



No.	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
443	22B ③	深鉢・口縁部	口唇強いナデ／口：無文／胴：LR タテ→太い隆帯（細く深い刺突列）	ナデ		
444	22B ④	深鉢・口縁部	口唇：LR ヨコ／LR ヨコ、ナナメ→口縁ナデ	ナデ(凹凸)		
445	22B ④	深鉢・口縁部	大波状／口唇：LR ヨコと竹管状刺突／LR ヨコ、タテ→隆帯（太く深い竹管状？刺突列）	ナデ	口唇それぞれ別々施文	
446	22B ③	深鉢・口縁部	RL ヨコ→高い隆帯（竹管状刺突）→太く浅めの鋸歯文	ナデ	内外面摩滅	
447	22C ②・Ⅰ～Ⅲ層	深鉢・口縁部	口縁：ナデ／胴：単軸絡Ⅰ（L）タテ	ナデ	内面上部ヨコ、下部タテナデ	
448	22C ②・Ⅰ～Ⅲ層	鉢・口縁部	組紐（r と12本？）ヨコ、ナナメ	ナデ	胎土繊維多い	
449	22C ③・Ⅰ～Ⅲ層	深鉢・口縁部	口唇：刻目列／RL＋結節（L）ヨコ→口縁ナデ	ナデ		
450	22C ③・Ⅰ～Ⅲ層	深鉢・口縁部	口唇：強いナデ／RL タテ→細く高い隆帯	磨滅		
451	22C ③・Ⅰ～Ⅲ層	深鉢・口縁部	口唇：押圧列／LR ヨコ→口縁ナデ、隆帯	ナデ	外面スス、剥落	
452	22C ③・Ⅰ～Ⅲ層	深鉢・口縁部	突起波頂部押圧／ドーナツ状貼付（竹管状刺突列）／RL タテ？	ナデ		

第86図　土器(52)

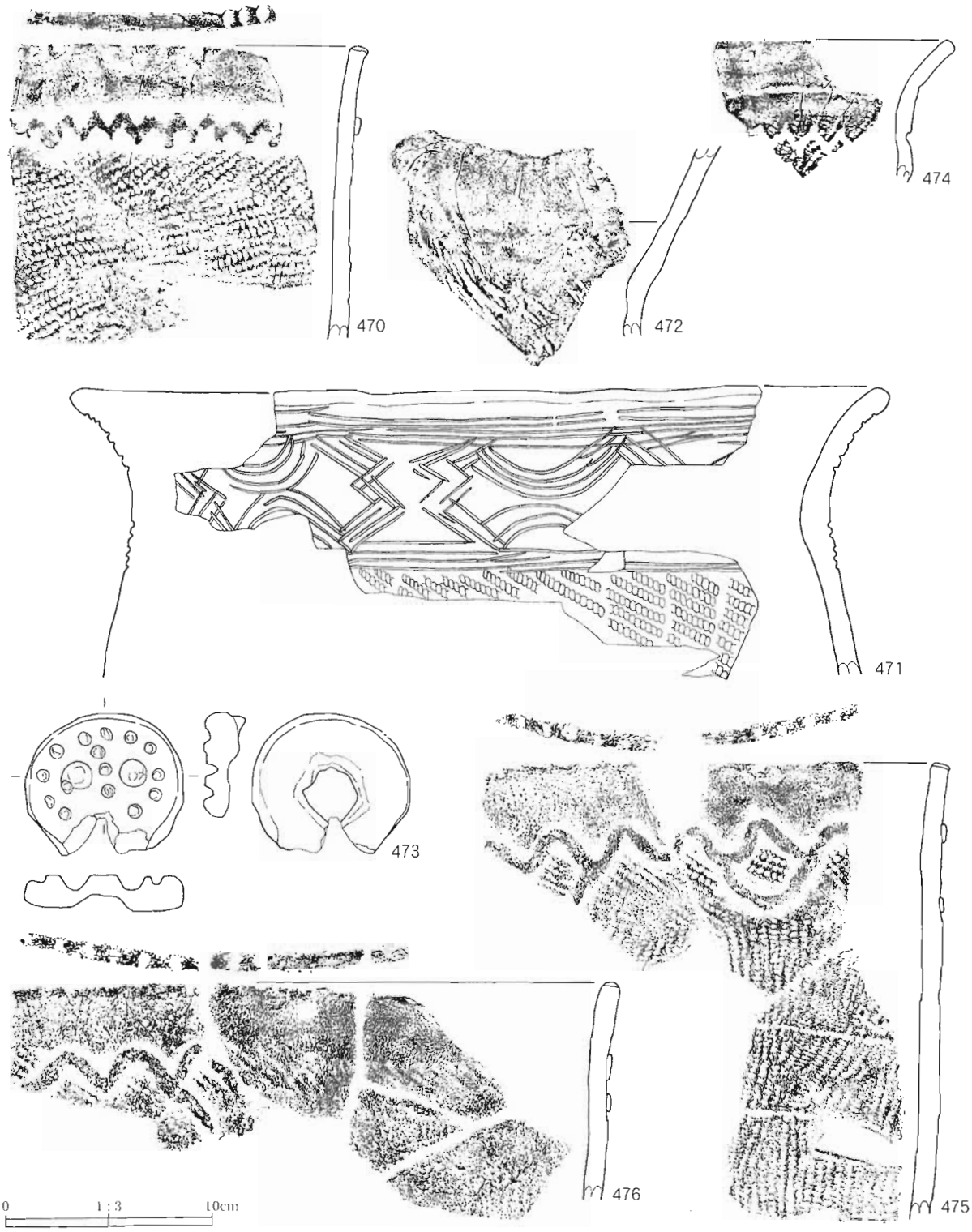


No.	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
453	22C ③・Ⅰ～Ⅲ層	深鉢	口唇：押圧列・貼付剥落？／胴 LR タテ、ヨコ→頸結節（R）ヨコ	ナデ	外面下部スス付着、剥落	
454	22C ③・Ⅰ～Ⅲ層	深鉢・口縁部	胴 LR ヨコ→頸結節（R）ヨコ→口縁ナデ	ナデ		
455	22C ③・Ⅰ～Ⅲ層	底部（一周）	LR タテ、ヨコ→底部ナデ／底面：ナデ	ナデ	内面スス・貫通孔はガジリ？	
456	22C ③・Ⅰ～Ⅲ層	深鉢・口縁部	胴 LR＋結節（R）ヨコ→口縁ナデ	ナデ		
457	22C ③・Ⅰ～Ⅲ層	深鉢・口縁部	口唇：波状隆帯（三山）／LR タテ？→口縁ナデ→太く高い鋸歯状隆帯	ナデ	外面スス？・内面一部摩耗	
458	22C ④・Ⅰ～Ⅲ層	深鉢・口縁部	口唇突起（刻目）／口：無文／LR ヨコ、結節（R）ヨコ	ナデ	460と同一個体？	

第87図　土器(53)

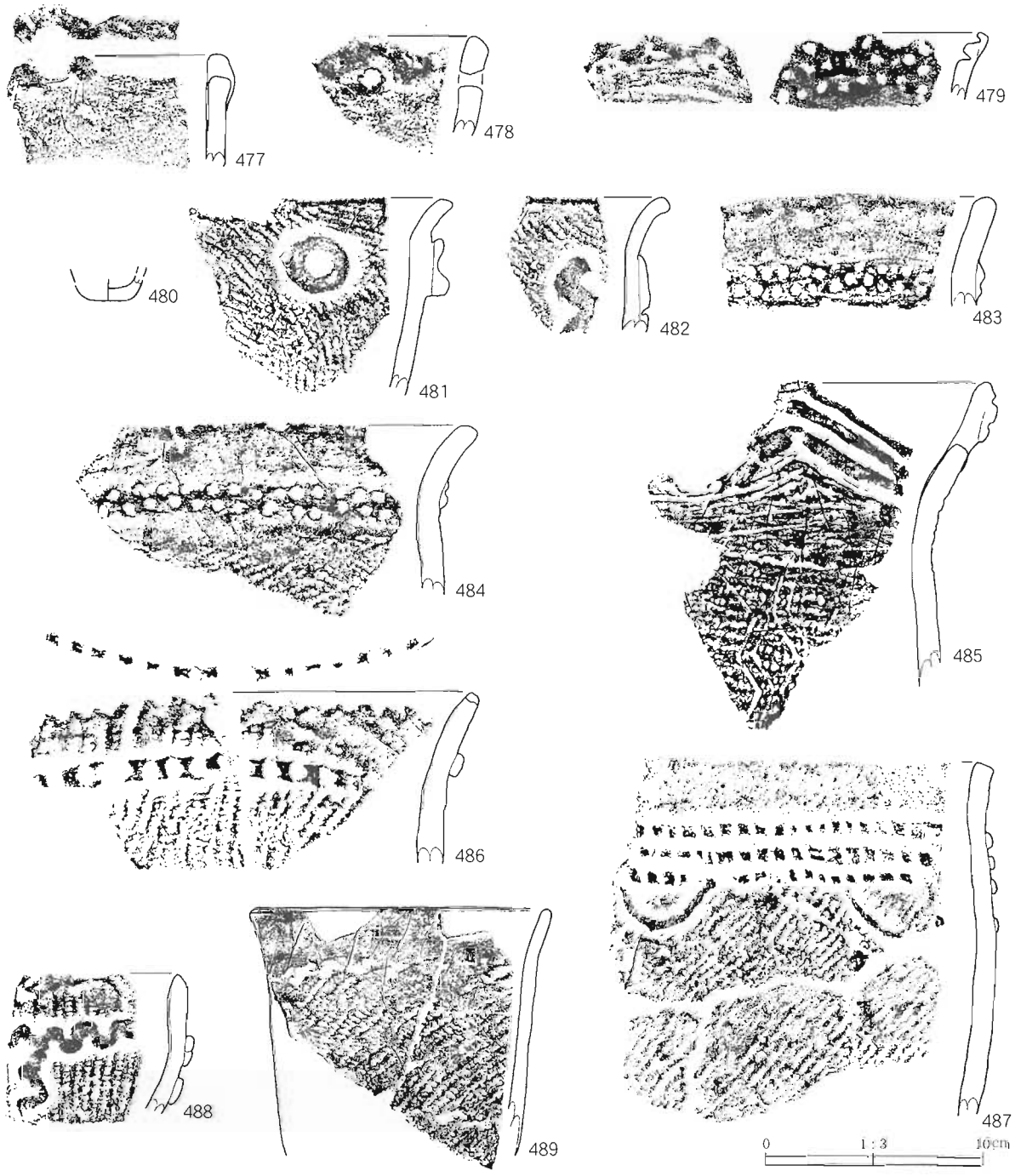
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
459	22C ④・Ⅰ～Ⅲ層	深鉢・口縁部	口唇～外鋸歯状隆帯（三山・RL イロイロ）／口唇：RL ヨコ／RL タテ、ナナメ→隆帯（刺突列）	ナデ	内外面剥落	
460	22C ④・Ⅰ～Ⅲ層	深鉢・口縁部	LR＋結節（R）ヨコ　（＊外面二次焼成で摩耗？）	ナデ	458と同一個体？	
461	22C ④・Ⅰ～Ⅲ層	深鉢・口縁部	口唇底状に外部に突出（三つの瘤状突起・太く深い沈線）／LR ヨコ？→半裁竹管状工具による文様	ナデ		
462	23B ①・Ⅰ層　（レキ多）	深鉢・口縁部	口縁隆帯状（上下刻目列）／LR タテ、ナナメ→口縁ナデ→半裁竹管状工具による文様	ナデ	上の刻目は口唇	
463	23B ①・表土	深鉢・胴部	LR タテ→口縁ナデ→隆帯（太く深い刺突列）、太く深い鋸歯文	ナデ	上の割口接合面剥離	
464	23B ①・表土	深鉢・口縁部	口：隆帯状／縦位二列隆帯（押圧）／半裁竹管状工具による刺突列、沈線	ナデ	隆帯1つ剥落	
465	23B ①・表土	深鉢・口縁部	口縁隆帯状／太めで深い沈線・半裁竹管状工具による押し引き沈線	ナデ		
466	23B ①・Ⅰ層　（レキ多）	深鉢	単軸絡条（L？）タテ	ナデ	外面スス付着	
467	23B ①・Ⅰ層　（レキ多）	深鉢・口縁部	台形突起（口唇蛇行隆帯）？／LR、結節（L？？）ヨコ	ナデ		
468	23B ①・Ⅰ層　（レキ多）	深鉢・口縁部	LR タテ、ナナメ→口縁ナデ→隆帯（斜めから太く深い竹管状刺突列）	ナデ		
469	23B ①・Ⅰ層　（レキ多）	深鉢・口縁部	LR ヨコ→細く比較的短い粘土紐による貼付文	ナデ	外面吹きこぼれ	

第88図　土器(54)



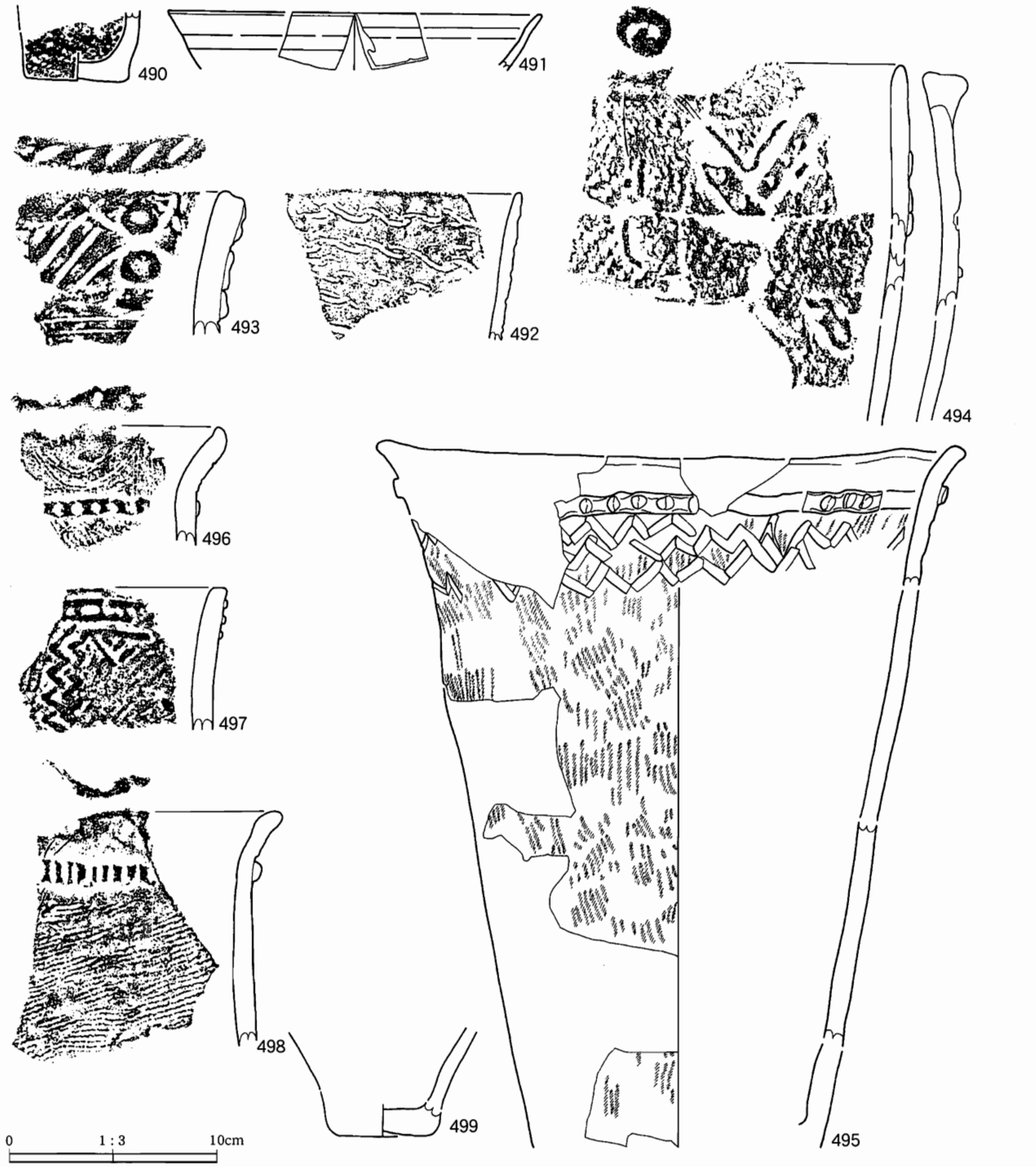
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	太文記載
470	23B①・Ⅰ層　(レキ多)	深鉢・口縁部	口唇蛇行隆帯刺落？・その他C字形刻目列／LR ヨコ、ナナメ→口縁ナデ→太く高い隆帯	ナデ		
471	23B①・Ⅰ層　(レキ多)	深鉢(1/4周弱)	RL ヨコ→半裁竹管状工具による文様	ナデ	外面スス付着	
472	23B①・Ⅰ層　(レキ多)	深鉢？・頸部	LL タテ？→ナデ	ナデ(凹凸)	内面スス付着	
473	23B①・Ⅰ層　(レキ多)	深鉢・突起	ドーナツ状粘土紐の中央孔に円形粘土詰めて整形→深い刺突	内面剥落		
474	23B②・Ⅰ層	深鉢・口縁部	LR ヨコ→口縁ナデ→深い鋸歯状沈線	ナデ	内面剥落	
475	23B②・Ⅰ～Ⅱ層	深鉢	口唇：刺突列／頭 RL ヨコ→口ナデ→隆帯／胴：RL タテ→一部 RL（0段多条）タテ	ナデ	内面剥落・476と同一？	
476	23B②・Ⅰ～Ⅱ層	深鉢・口縁部	口唇：刺突列、ない所は隆帯剥落？／RL ヨコ？→隆帯　（＊内外面摩耗ひどい）	ナデ？	475と同一個体？	

第89図　土器(55)



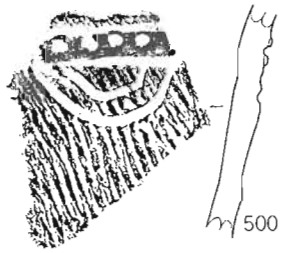
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾，地文・胴体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
477	23B ②・Ⅰ～Ⅱ層	深鉢・口縁部	口唇：C字形貼付文	ナデ	外面摩耗	
478	23B ②・Ⅰ～Ⅱ層	深鉢・口縁部	山形突起下、外側からの貫通孔／LR タテ？	ナデ	外面摩耗	
479	23B ②・Ⅰ～Ⅱ層	深鉢・口縁部	波状突起（内面凹く深い刺突群）	ナデ		
480	23B ②・Ⅰ～Ⅱ層	小型鉢（一周）	底部～底面：ナデ	ナデ		
481	23B ③・Ⅰ層	深鉢・口縁部	円形貼付文（押圧）／RL ヨコ、タテ→貼付文周囲ナデ	ナデ		
482	23B ③・Ⅰ層	深鉢・口縁部	太く高い鋸歯状貼付文／RL ヨコ→貼付文周囲ナデ	ナデ		
483	23B ③・Ⅱ層	深鉢・口縁部	頭マウンド状の低い隆帯→深い円形刺突群→口縁ナデ	ナデ	外面スス付着・484と同一？	
484	23B ④・Ⅱ層	深鉢・口縁部	頭マウンド状の低い隆帯（深い円形刺突）／LR ヨコ→上部ナデ	ナデ	外面スス付着・483と同一？	
485	24B ⑦・Ⅲ層，23C ①・Ⅰ～Ⅲ層	深鉢	口縁隆帯状（太く深い沈線）／LR ヨコ，タテ→半裁竹管状工具による沈線	ナデ	内面下部深い整形痕	
486	23B ③・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口唇：刺突列／RL タテ→口：ナデ，高い隆帯（D字形刻目列）	ナデ	内外面スス付着	
487	23B ③・Ⅲ層	深鉢	LR ヨコ→低めの隆帯（刻目列），細い弧状隆帯	ナデ	外面上部摩耗ひどい	
488	23B ③・Ⅲ層	深鉢・口縁部	RL タテ，ナナメ→口縁ナデ，高めの隆帯	ナデ		
489	23B ②・Ⅲ層	深鉢(1/4周弱)	胴LR ヨコ？＋結節（R） ヨコ→口縁ナデ	ナデ		

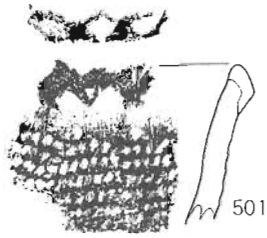
第90図　土器(56)

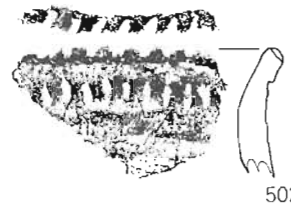


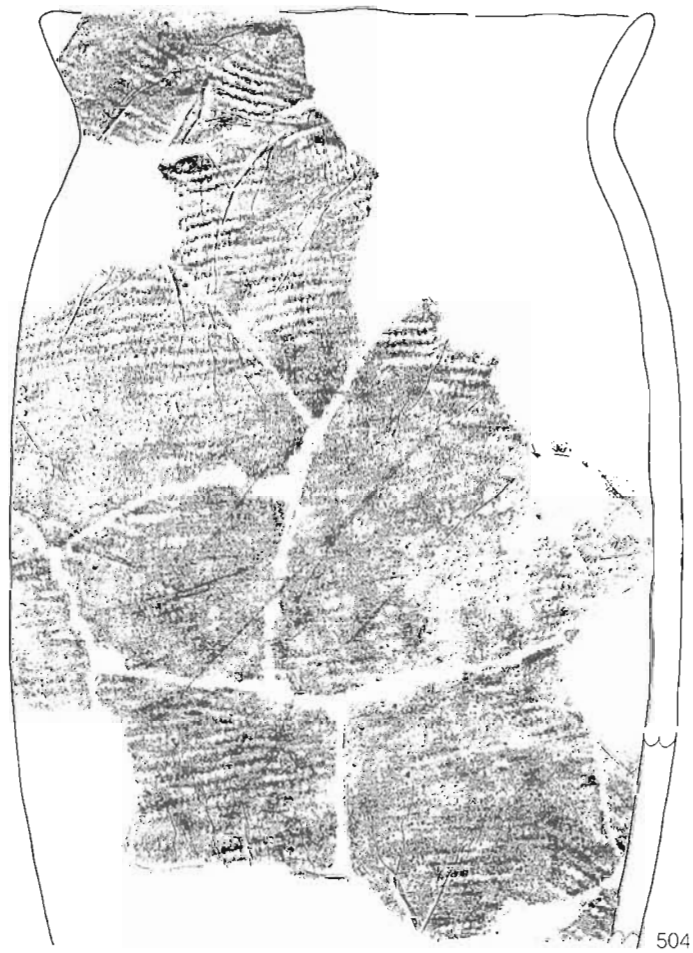
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
490	23B③・Ⅲ層	底部（一周）	LR タテ→底部ナデ／底面：ナデ	ナデ		
491	23B③・Ⅲ層	坏（小片）	ロクロナデ	ロクロナデ		
492	23B③・Ⅲ層	深鉢・口縁部	LR＋結節（R）ヨコ	ナデ	胎土繊維なし	
493	23B③・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口唇：鎖状刻目列／口：太く浅い沈線→ボタン状貼付文・隆帯剥落／頸：半裁竹管状工具による浅い沈線	ナデ		
494	23B③・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口唇：山形、渦状突起／LR ヨコ→太い隆帯（刺突列）、細い隆帯	ナデ	外面剥落	
495	23B③・Ⅲ層、23B④・Ⅰ層	深鉢(1/2周以下)	RL ヨコ、ナナメ→上部ナデ→太く浅い鋸歯文→隆帯（押圧列）	ナデ	内面底付近スス	p. 48
496	23B④・Ⅰ層	深鉢・口縁部	口唇内外交互押圧による小波状／単軸絡１(R)タテ？→半裁竹管状工具による沈線、隆帯(押圧列)	ナデ		
497	23B④・Ⅰ層	深鉢・口縁部	口唇：強いナデ／LR ヨコ？→細く短い粘土紐	ナデ	外面摩耗ひどい	
498	23B④・Ⅰ層	深鉢・口縁部	口縁内面から押圧／LR ヨコ→口縁ナデ→隆帯（深い刻目列）	ナデ(雑)		
499	23C①・Ⅰ～Ⅱ層	小型鉢（1/4周）	ナデ	ナデ		

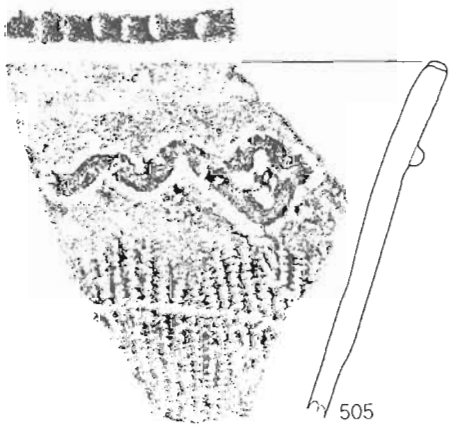
第91図　土器(57)







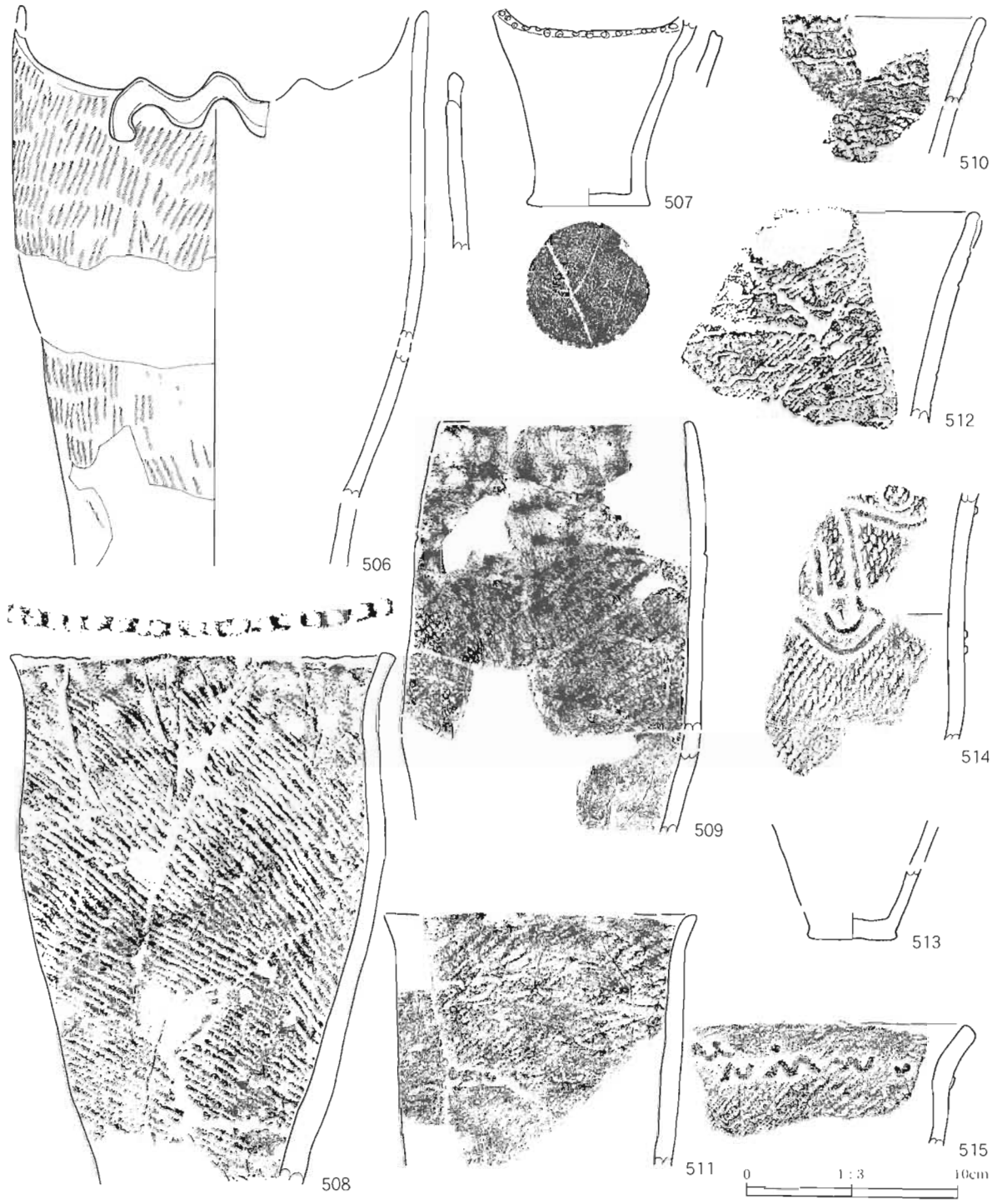




0　1：3　10cm

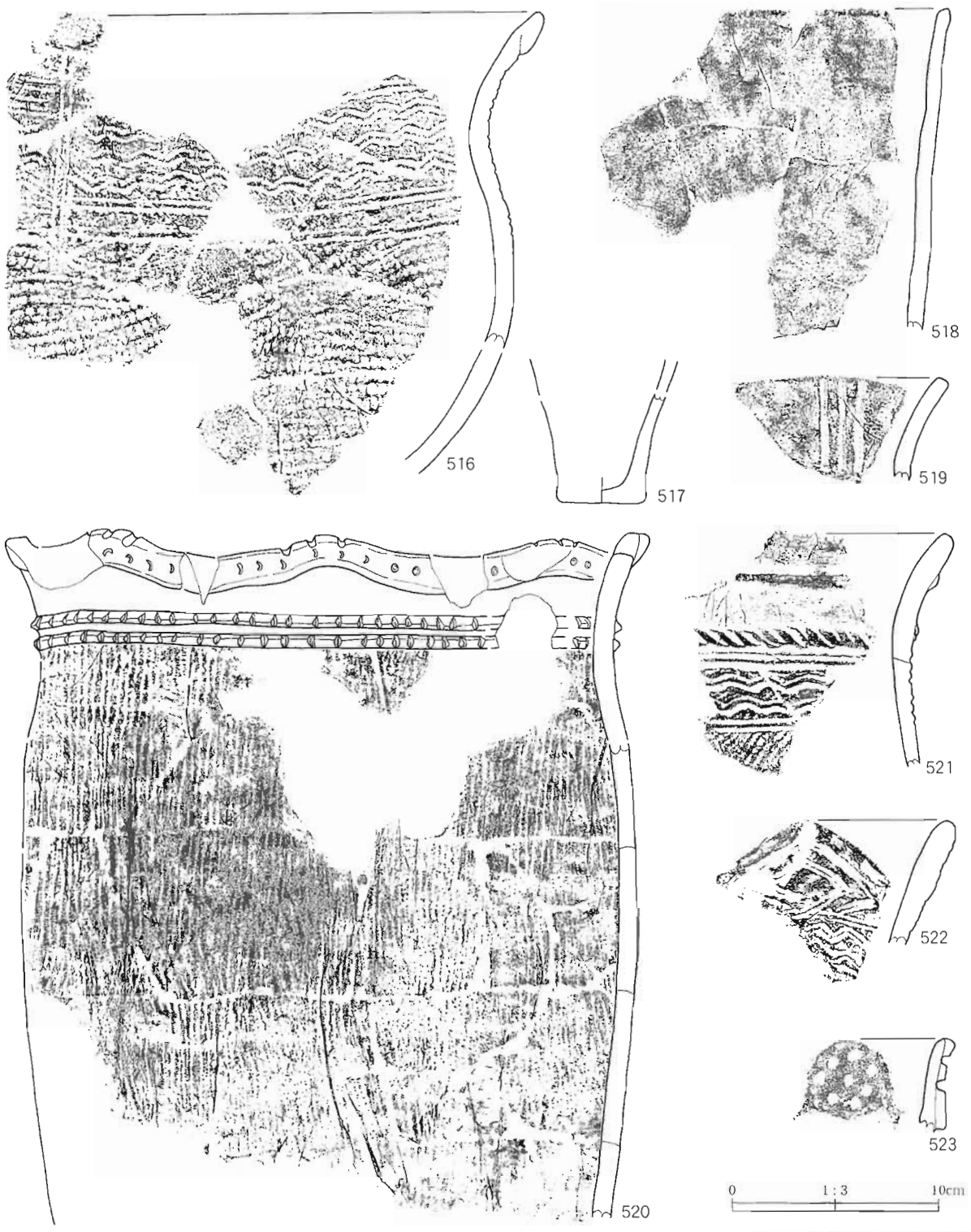
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
500	23C ⑤・Ⅰ～Ⅱ層	深鉢・胴部	単軸絡Ⅱ（L）タテ→隆帯（深い刺突）→太く深めの沈線	ナデ		
501	25C ①・Ⅰ～Ⅱ層	深鉢・口縁部	口唇～外鋸歯状隆帯／LR タテ、ナナメ	ナデ	外面スス付着	
502	24B ③・Ⅰ～Ⅱ層	深鉢・口縁部	口唇：斜めの刺突列／口：下からの刺突列／胴：LR タテ	ナデ		
503	24C ④～25C ②・Ⅲa 層	深鉢	LR ヨコ→細く短い粘土紐による鋸歯文　（＊上部スス、下部摩耗ひどい）	ナデ	内面おこげ	
504	24C ④付近・Ⅲ層上面	深鉢(1/3周以下)	口：LR タテ／胴：同原体ヨコ、ナナメ　（＊スス、剥落）	ナデ	内面下部スス、上部剥落	
505	25B ③～25C ⑦・Ⅲa 層	深鉢・口縁部	口唇：C字形爪形文／頸部：RL ヨコ→青い隆帯／胴：同原体ナナメ	ナデ	外面スス、摩耗	

第92図　土器(58)



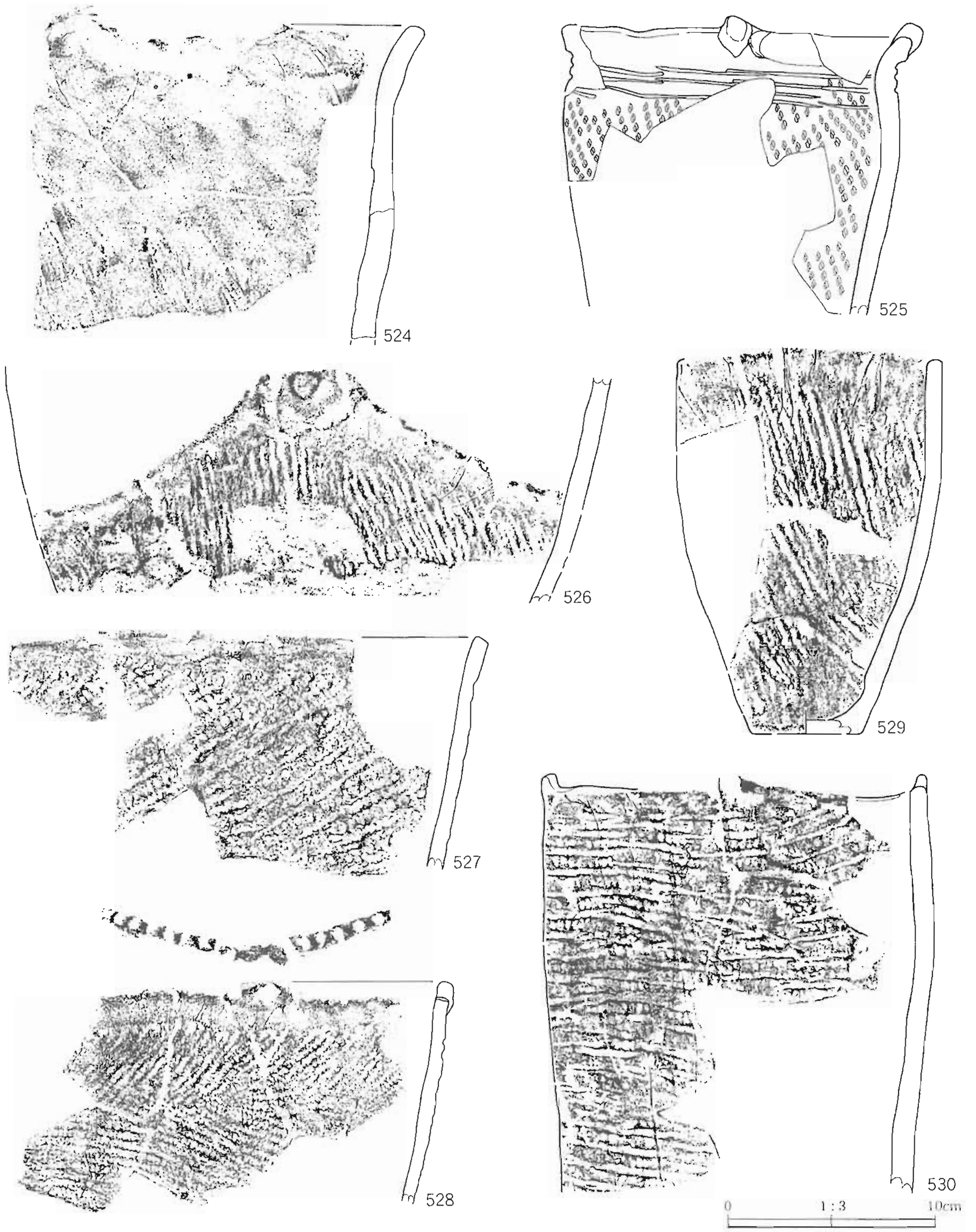
No	遺土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
506	25B④・Ⅲa層,25C②・検出面（Ⅱ～Ⅲ層上面）	深鉢（口縁部一胴）	突起2種2対／RLタテ→底部ナデ、羊頭状貼付文→口唇 RL.ヨコ	ナデ	内外面スス付着	p.49
507	25B④・Ⅲa層	鉢（突起体完形）	口唇：山形突起？2，他深めの円形刺突列／底面：木葉痕	ナデ		
508	25B④・Ⅲa層,25C②・Ⅲa層,25C④・Ⅲa層	深鉢（1/3周）	口唇：C字形刺目列／単軸絡1（L）ナナメ→口縁ナデ	摩耗	内外面スス付着	p.48
509	25B③～25C①・1層	深鉢（胴1/2周）	LR＋縄節（R）ヨコ→口縁、底部ナデ	ナデ	内外面スス・外面剥落	p.48
510	25B③～25C①・1層	深鉢・口縁部	結節（L）（＋RL）ヨコ	ナデ	繊維なし・外面スス付着	
511	25B③～25C①・Ⅲa層	深鉢（1/4周弱）	LR＋縄節（R）ヨコ→口唇ナデ	ナデ	外面スス、摩耗	
512	25C①・Ⅱa層	深鉢・口縁部	LR＋結節（R）ヨコ	ナデ	外面口縁剥落・外面スス	
513	25C④・Ⅱa層	小型鉢	胴：ナデ（凹凸）／底面：ナデ（丁寧）　（＊底のみ一周，他1／4周程度）	ナデ		
514	25C②・Ⅲa層	深鉢・胴部	LRヨコ？（節が整然と並ぶ）→細く比較的短い（）．3cm）粘土紐，円形刺線	ナデ	内面やや摩耗	
515	25C②・検出面Ⅱ～Ⅲ層	深鉢・口縁部	LRヨコ？→口縁ナデ→細い紐状貼付文	ナデ	外面スス，内面おこげ	

第93図　土器(59)



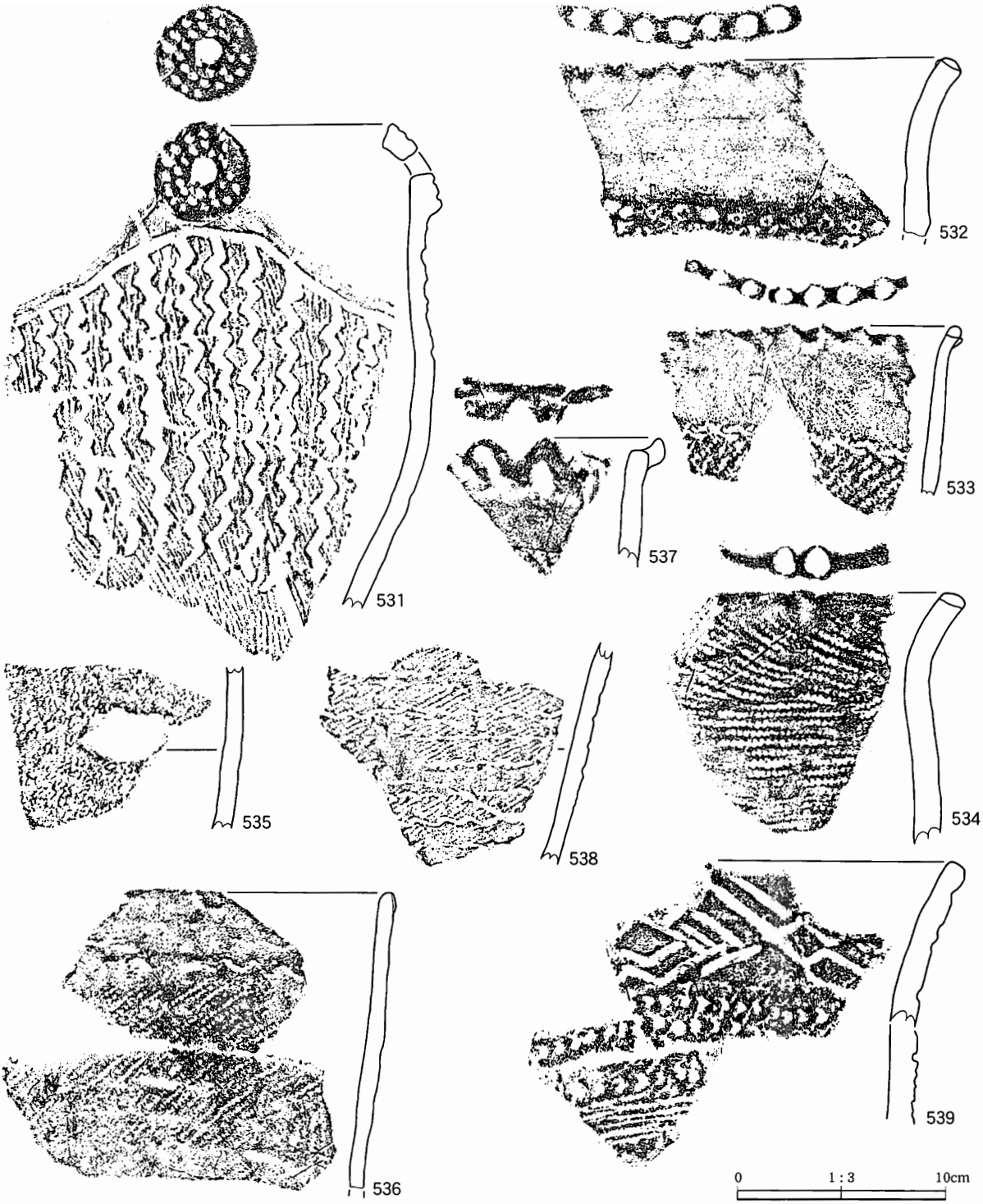
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
516	25C ②・検出面（Ⅱ～Ⅲ層上面）	球胴深鉢	口縁隆帯状／LR ヨコ、ナナメ→半裁竹管状工具による沈線	ナデ	内面下部スス状付着物	
517	25C ②・検出面（Ⅱ～Ⅲ層上面）	小型鉢	胴：ナデ（凹凸）／底面：ナデ（丁寧）　（＊下半一周、上部１／５周程度）	ナデ	内面一部縦位底までスス	
518	25C ②・Ⅱ層	鉢	ナデ	ナデ	内面下部黒い	
519	25C ②付近・Ⅲ層上面	深鉢・口縁部	太く浅めの線条痕ある沈線	ナデ	外面スス、内面摩耗	
520	25C ②・Ⅱa層、25C ②付近・Ⅱ層上面、25C 区付近・Ⅱ層上面	深鉢（口3/4周）	9波状？／口：隆帯（竹管状刺突列）／頸：断面三角形隆帯（刻目列）／胴：単軸絡１（L？）タテ→隆帯に沿ってナデ	ナデ	外面下部スス付着	p. 48
521	25C ②・Ⅲ層	深鉢・口縁部	口：高い隆帯／頸：低い隆帯（鎖状刻目列）／胴：LR ヨコ→半裁竹管状沈線	ナデ	外面スス付着	
522	25C ②・Ⅲ層	深鉢・口縁部	山形突起／半裁竹管状工具による沈線文様	ナデ		
523	25C ②・Ⅲ層	深鉢・突起	円形外面窪み・深い刺突群	ナデ		

第94図　土器(60)



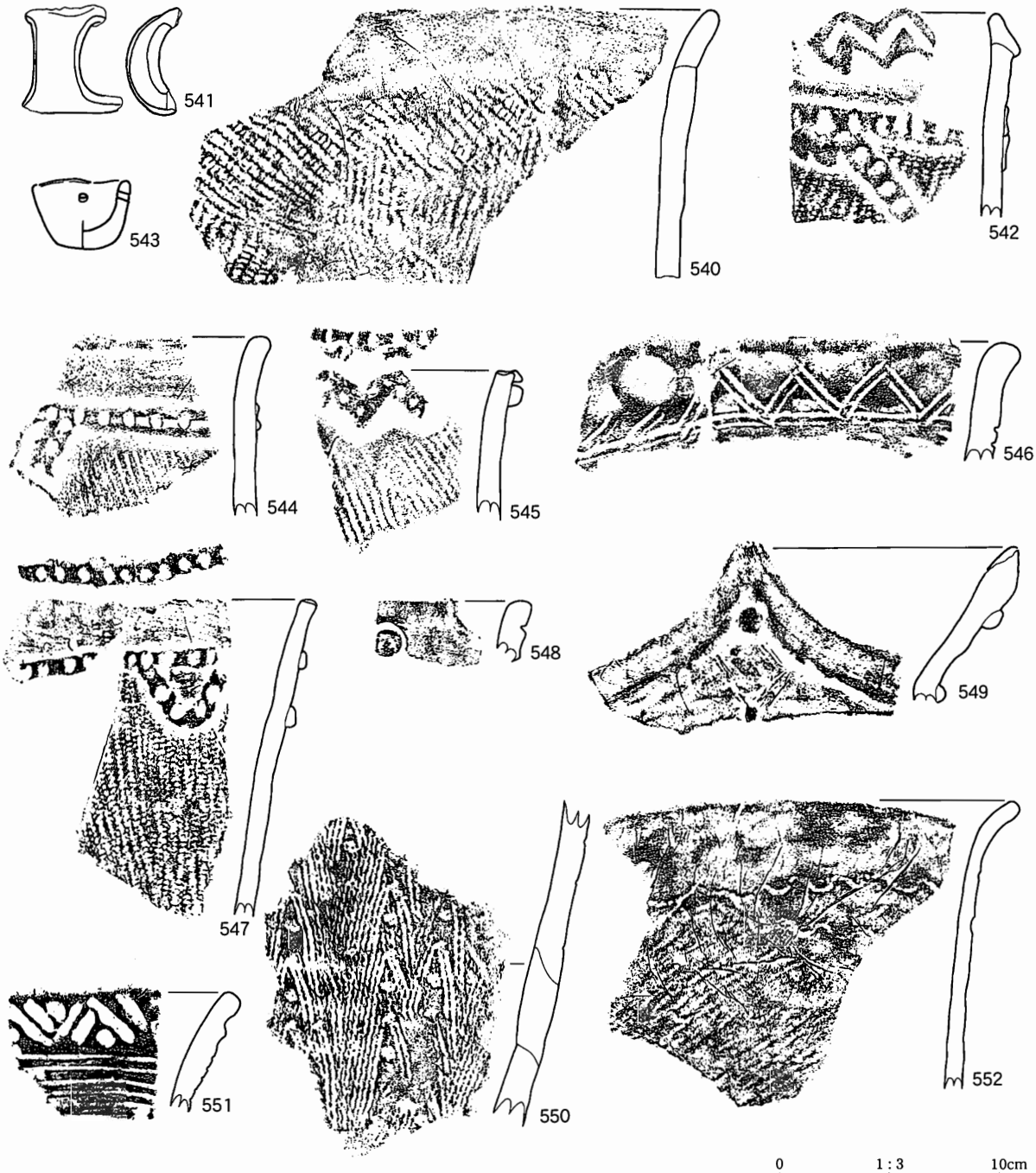
No	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
524	25C ②・Ⅲ層	深鉢・口縁部	ナデ（下部ケズリに近い）	ナデ(凹凸)	外面頸隆帯剥落？	
525	25C ②・Ⅲ a 層	深鉢（口1/3周）	突起４単位？／口隆帯状／RLR？ヨコ、ナナメ→半裁竹管状沈線	ナデ	内外面スス付着	p. 48
526	25C ②・Ⅲ a 層	深鉢（口1/4周）	大波状（波頂部円形？貼付剥落）／口唇：斜め刻目列／単軸絡１（L）タテ→口ナデ	ナデ	外面下部剥落(二次焼成？)	
527	25C ②・Ⅲ a 層	深鉢・口縁部	LR ヨコ？→口縁ナデ	ナデ	胎土石多い・外面全面スス	
528	25C ②・Ⅲ a 層	深鉢・口縁部	口唇：C 字形突起、他爪形文列／胴上 LR＋末端ヨコ→口ナデ／胴下：LR タテ	ナデ	爪形文突起挟んで逆転(CとD)	
529	25C ②・Ⅲ a 層	深鉢（口1/3周）	単軸絡１（L）タテ、ナナメ→口、底部ナデ　（＊口以外１／４周以下）	ナデ	外面上部、内面下部スス	
530	25C ②～④・Ⅲ a 層	深鉢（口1/4周）	突起２種(台形？、羊頭状？)／附加条(LR+R？)タテ→口唇ナデ　（＊口以外1／4以下）	ナデ(凹凸)	外面上部、内面下部スス	

第95図　土器(61)



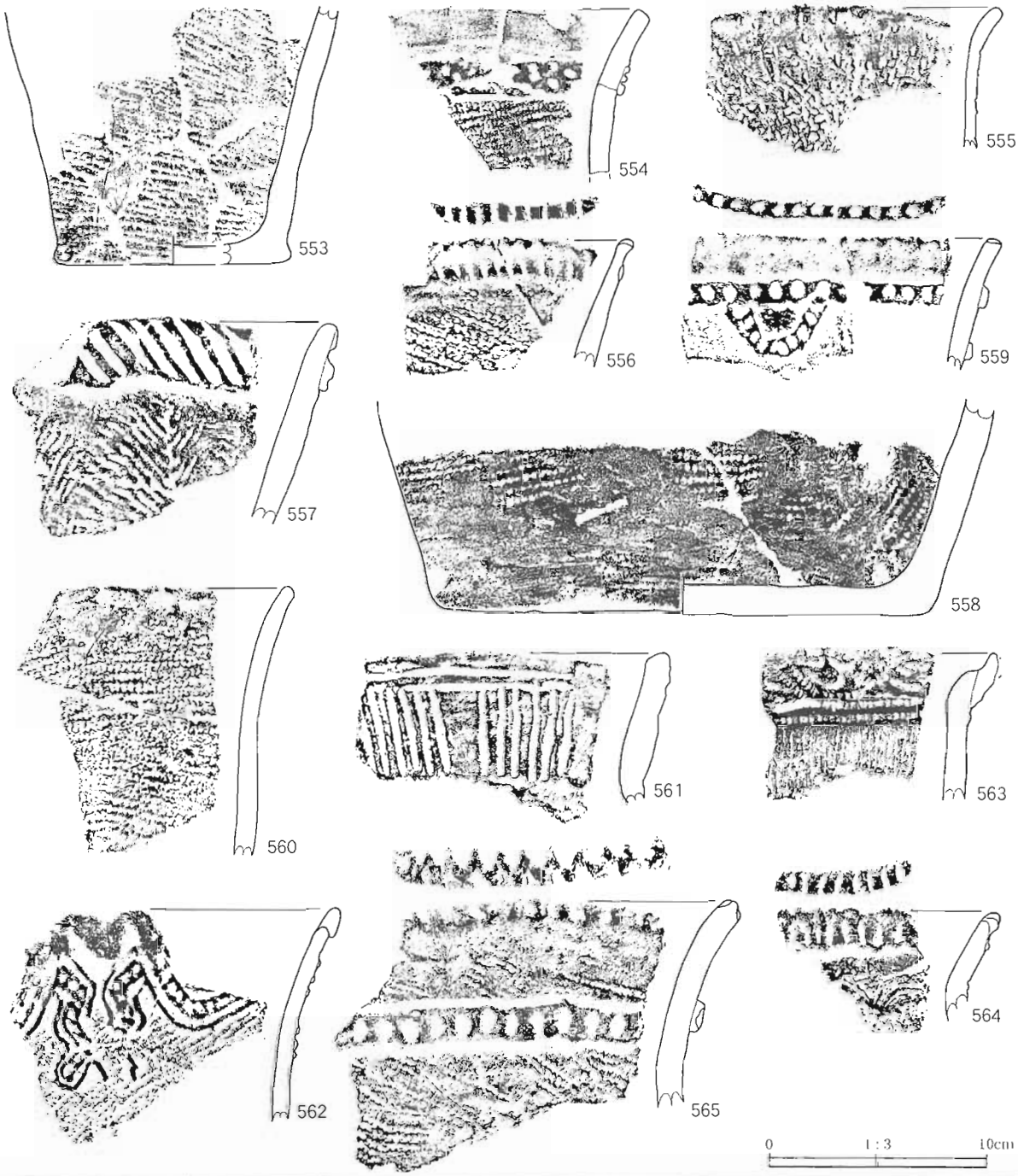
No	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
531	25C ②・Ⅲa層	深鉢	大波状／波頂部外面円形突起（貫通孔・深い竹管状刺突）／単軸絡1（L）タテ→太く深めの沈線	ナデ	突起部口唇内面突出	
532	25C ②・Ⅲa層	深鉢・口縁部	口唇：押圧列／胴 LR ヨコ？→頸竹管状刺突列→ロナデ	ナデ	下割れ口粘土接合面	
533	25C ②・Ⅲa層	深鉢・口縁部	口唇：強い刺突列／胴 LR＋結節（R？）ヨコ→ロナデ	摩耗	外面スス付着	
534	25C ②・Ⅲa層	深鉢・口縁部	口唇：押圧2／RL ヨコ、ナナメ	ナデ		
535	25C ②・Ⅲa層	深鉢・胴部	オオバコ回転文	ナデ	外面スス、剥落	
536	25C ②・Ⅲa層	深鉢・口縁部	LR＋結節（R）ヨコ→ロナデ	ナデ(輪積痕)	外面スス、二次焼成	
537	25C ②・Ⅲa層	深鉢・口縁部	口縁外面高い波状隆帯／胴：RL ヨコ？→波状隆帯？（剥落）	ナデ	外面スス付着	
538	25C ②・Ⅲa層	深鉢・胴部	LR＋結節（R）ヨコ	ナデ	外面剥落	
539	25C ②・Ⅲa層	深鉢・口縁部	半裁竹管状工具による刺突列、沈線（口縁は太く深い沈線）	ナデ	外面剥落	

第96図　土器(62)



No	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
540	25C②・Ⅲa層	深鉢・口縁部	胴上 RL ヨコ→ロナデ／胴下：RL タテ、ナナメ	ナデ	下割れ口粘土接合面	
541	25C②・Ⅲa層	深鉢・橋状把手	ナデ	－	接合面から剥離	
542	25C②・Ⅲa層	深鉢・口縁部	口唇～外鋸歯状隆帯（太く深い沈線）／RL タテ→低い隆帯（刺突列）	ナデ		
543	25C②・Ⅲa層	小型浅鉢	対角線上に一対の貫通孔（外から穿孔？）・ナデ	ナデ	口縁のみ欠損	
544	25C②・Ⅲa層	深鉢・口縁部	口唇外側肥厚／単軸絡1（L）ナナメ→低い隆帯（深い刺突列）	ナデ		
545	25C②・Ⅲa層	深鉢・口縁部	口唇：C字形爪形文／口：高い隆帯（細く深い刺突列）／胴：LR タテ	摩耗		
546	25C②・Ⅲa層	深鉢・口縁部	低い弧状突起（下楕円形押圧）、他口唇外側肥厚／半裁竹管状工具による沈線	ナデ	類二又状工具による刺突列	
547	25C②・Ⅲa層	深鉢・口縁部	口唇：刺突列／RL タテ、ナナメ→ロナデ、隆帯（押圧列）	ナデ		
548	25C②・Ⅲa層	深鉢・口縁部	円環状沈線・器面滑らか	ナデ		
549	25C④・Ⅲ層（検出面上面）	球胴深鉢・口縁	口縁隆帯状（交叉部ボタン状貼付文）／半裁竹管状工具による沈線→瘤状突起	ナデ		
550	25C④・検出面（Ⅴ層上面）	深鉢・胴部	単軸絡1A（R）タテ	ただれ		
551	25C④・検出面（Ⅴ層上面）	深鉢・口縁部	半裁竹管状工具による沈線（口縁は太く深い沈線）	ナデ		
552	25C④・Ⅲ層？	深鉢・口縁部	口：無文／胴：LR＋結節（R）ヨコ	ナデ	外面全面スス付着	

第97図　土器(63)



No.	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
553	25C④・Ⅲa層	深鉢・底部1/4弱残	単軸絡1（L）ナナメ→底部ナデ／底面：ナデ　（＊二次焼成で赤）	ナデ	内面全面スス付着	
554	25C④・Ⅲa層	深鉢・口縁部	LRヨコ→低い隆帯（斜め横からの竹管状刺突列）	ナデ		
555	25C④・Ⅲb層	深鉢（1/4残弱）	結節（L）ナナメ→上からの細く深めの刺突	ナデ	内面全面スス付着	
556	25D①・検出面（Ⅳ層上面）	深鉢・口縁部	口唇：刻目列／マウンド状の低い隆帯（刻目列）／LRタテ→上部ナデ	ナデ	外面スス・内面摩耗	
557	25D②～④　試掘トレンチ	深鉢・口縁部	口：隆帯状（太く深い沈線）／胴：結束1（LR、RL？）タテ→上部ナデ	ナデ		
558	26C①、26C①～③、26C③	深鉢・底部	LRヨコ、ナナメ→底部ナデ／底面：網代痕→ナデ　（＊底一異、胴1／3残）	ナデ	内面底スス付着	p.48
559	26C①～③　崖錐含層クリーニング	深鉢・口縁部	口唇：刺突列／LRタテ→口縁ナデ→隆帯（刻目列）	ナデ		
560	26C①、②・Ⅰ～Ⅲ層上部	深鉢・口縁部	LRタテ、ナナメ→口縁ナデ	ナデ	外面スス付着	
561	26C①、③・Ⅰ～Ⅲ層上部	深鉢・口縁部	口縁隆帯状（太く深い水平沈線，半裁竹管状工具による押し引きの縦位沈線）	ナデ	口縁縦位隆帯剥落	
562	26C①、③・Ⅰ～Ⅲ層上部	深鉢・口縁部	LRヨコ→口縁外面波状隆帯→細く比較的短い（1.4cm）粘土紐	ナデ		
563	26C①、②・Ⅰ～Ⅲ層上部	深鉢・口縁部	口縁内面：段／口縁隆帯状（内側突出）／半裁竹管状工具による押し引き沈線、浅い沈線	ナデ	口隆帯・外面スス	
564	26C①、③・Ⅰ～Ⅲ層上部	深鉢・口縁部	口唇：刻目列／口縁隆帯状（下刻目列）／半裁竹管状工具による沈線	ナデ		
565	26C①～③・Ⅰ～Ⅲ層、26C③・Ⅳ層	深鉢・口縁部	口唇：内から押圧，外からC字形爪形文交互／LRタテ→隆帯（D字形爪形文）→隆帯に沿って上部ナデ	ナデ	①～③1/3、③2/3	

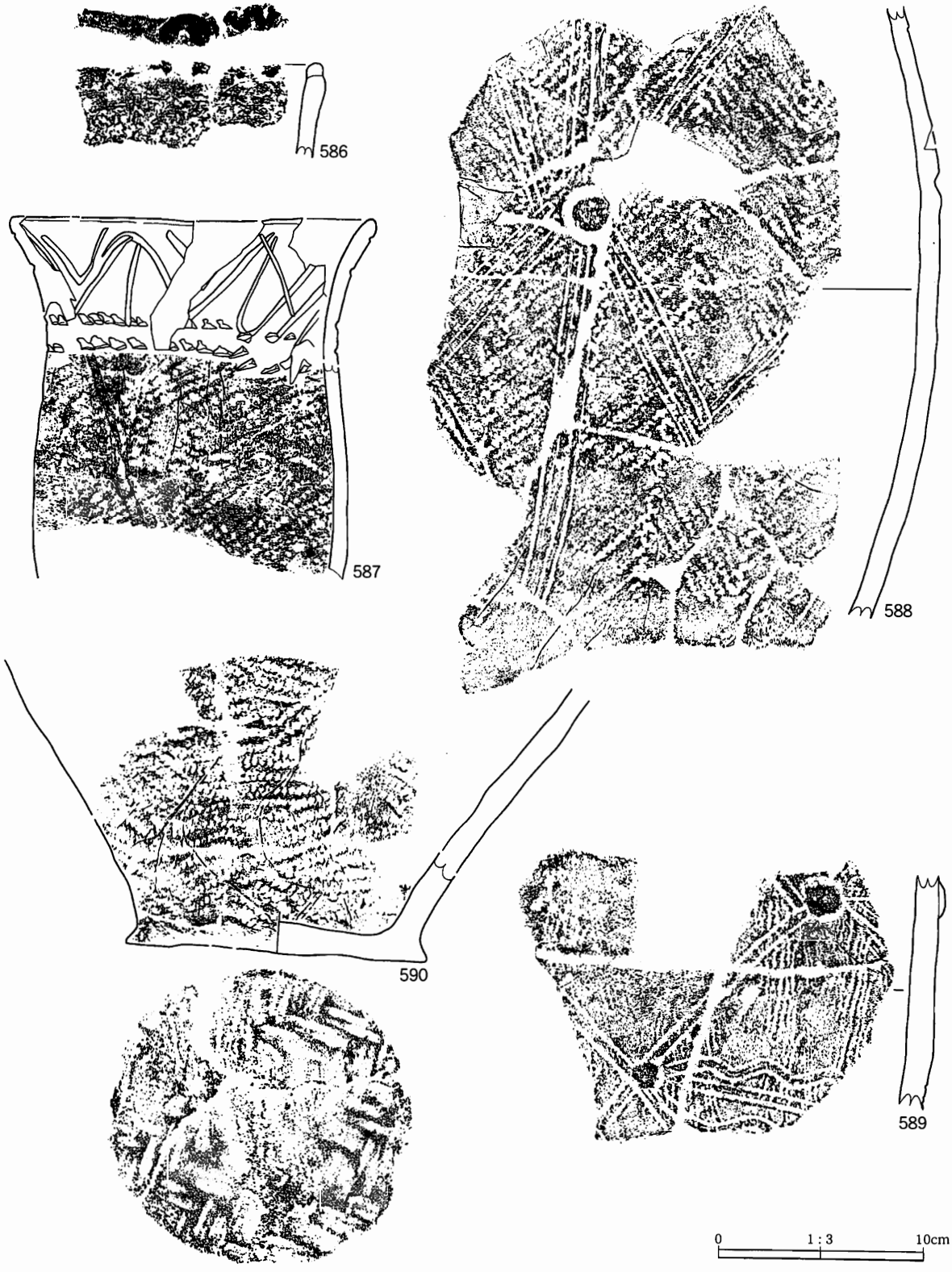
第98図　土器(64)

No	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
566	26C①・Ⅲa層、26C②～③・Ⅰ～Ⅲ層上部	深鉢・口縁部	口唇：刻目列／口縁隆帯状（刻目列）／LRイロイロ→隆帯（D字形刻目列）、高い瘤状突起	ナデ	①1/3、①～③2/3	
567	26C①・Ⅲ層、26C③付近・Ⅲ層上面	深鉢・口縁部	結束Ⅰ（RL、LR）？タテ→半裁竹管状工具による文様（太く深い円形文）	ナデ	内面剥落・①1/8	
568	26C①・Ⅲa層、26C④・Ⅲa層	鉢〈口?/3周弱〉	摩耗ひどい（二次焼成による？）	ナデ	②4/5、④1/5	
569	26C②・Ⅲa層、26C④・Ⅲa層	深鉢・口縁部	口唇：刻目列（一部なし？）／口：刻目列/胴：刺股状工具による沈線	ナデ	外スス・①1/2	
570	26C①・Ⅳ層	深鉢・口縁部	口唇：刻目列／口縁隆帯状→RLヨコ→刻目列	ナデ		
571	26C①・Ⅳ層	深鉢・口縁部	口唇：深い竹管状刺突列／LR＋末端ヨコ	ナデ		
572	26C①・Ⅳ層	深鉢・口縁部	大形台形突起両端に円形貼付文（深い刺突群、中心大きめ）、その間鋸歯状隆帯（深い刺突列）／RL、ヨコ、ナナメ→口ナデ	ナデ（乾き気味）		
573	26C①・Ⅳ層	深鉢・底部	LRタテ（縄文一部のみ、大部分無文）／底面：木葉痕	ナデ	底・周・底部底付近スス	

第99図　土器(65)

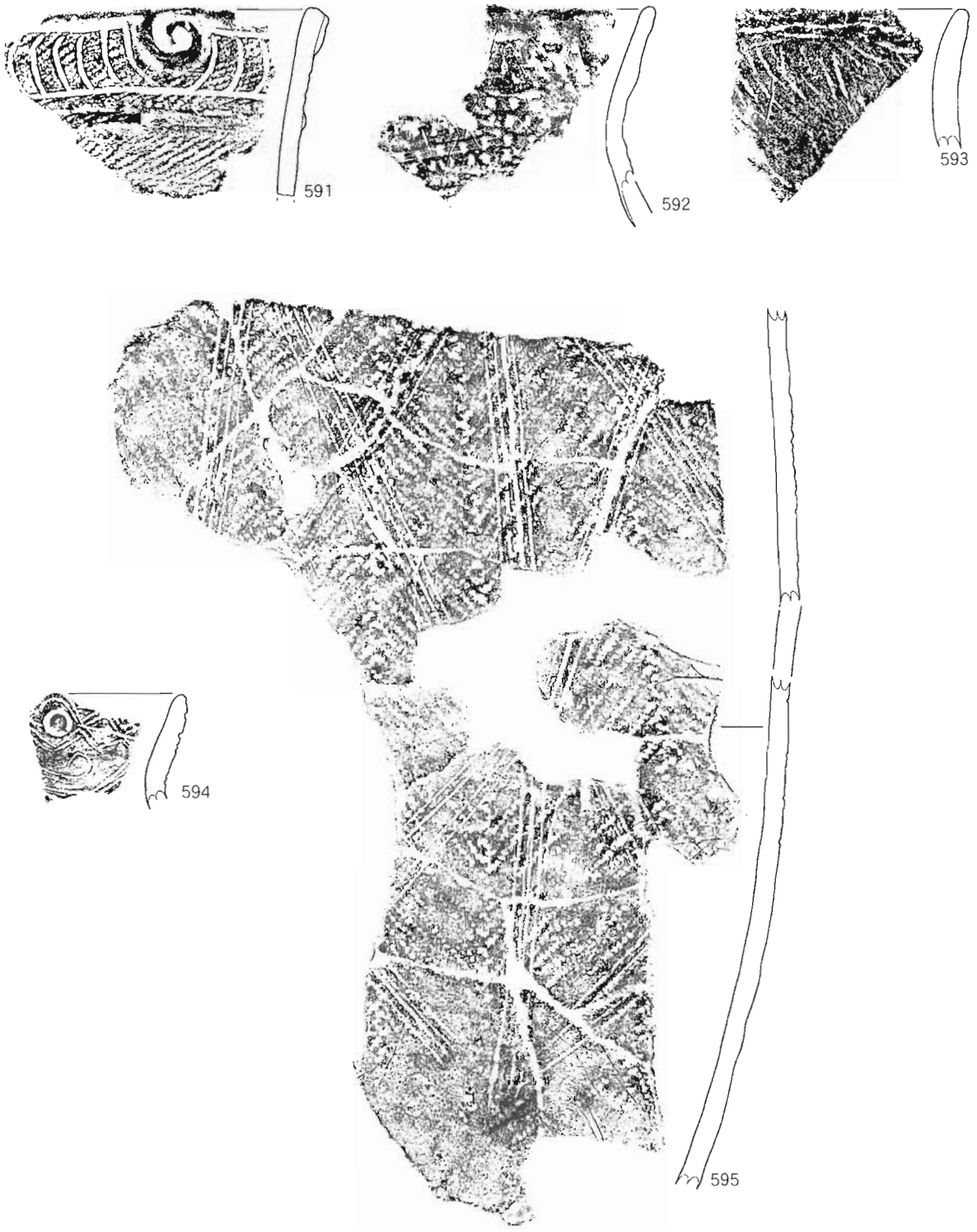
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、施文・順序など）	内面（調整など）	備考	本文記載
574	26C④・Ⅳ層	深鉢・口縁部	口唇：刻目列／口：無文／胴：隆帯（刺突列）／胴：単軸絡Ⅰ（R）ナナメ	ナデ		
575	26C④・Ⅳ層	深鉢・口縁部	口唇：台形突起（上円形）、外刺突列／LRタテ→口ナデ	ナデ（横磨痕）	外面スス、摩耗	
576	26C①・Ⅳ層	深鉢・口縁部	口唇～外蛇行隆帯（刺落）／LRヨコ→口ナデ	ナデ	内面黒	
577	26C①・Ⅳ層	深鉢・口縁部	LRタテ→太い隆帯（太く深い刺突列）	ナデ（横磨痕）	外面灰色	
578	26C①・Ⅳ層	深鉢	RL ヨコ→半裁竹管状工具による押し引き沈線、菱形文隆（その他は片側で描いている？）	ナデ	口唇摩耗	
579	26C④・Ⅳ層	深鉢・口縁部	口唇：D字形刻目列／単軸絡Ⅰ（L）ナナメ→太く低い隆帯（刺突列）	ナデ		
580	26C④・Ⅳ層	深鉢・口縁部	口唇：刻目列／LR？＋撚糸（R）ナナメ→蛇行隆帯	摩耗	内外面摩耗	
581	26C①・Ⅳ層	深鉢・底部	LR ヨコ、ナナメ→底部ナデ／底面：ナデ　（＊底→胴、胴2／3周）	ナデ	外面スス、二次焼成	
582	26C④・Ⅳ層、26C③付近・Ⅱ層上面	深鉢・口縁部	口縁隆帯状（太く深い沈線）／単軸絡ⅠA（L）タテ→頭半裁竹管状工具による押し引き沈線	ナデ	口唇摩耗・①2/5	
583	26C②　検出面	深鉢・口縁部	大波状？／口～頸刺落／RL タテ	ナデ	内面炭化以外スス	
584	26C②・Ⅱ層	小型浅鉢	ナデ／胴部一部～底：摩耗	ナデ	1/2周残存	
585	26C②・Ⅱa層	小型鉢	LR ヨコ→底部ナデ／底面：ナデ（窪み）	ナデ		

第100図　土器(66)



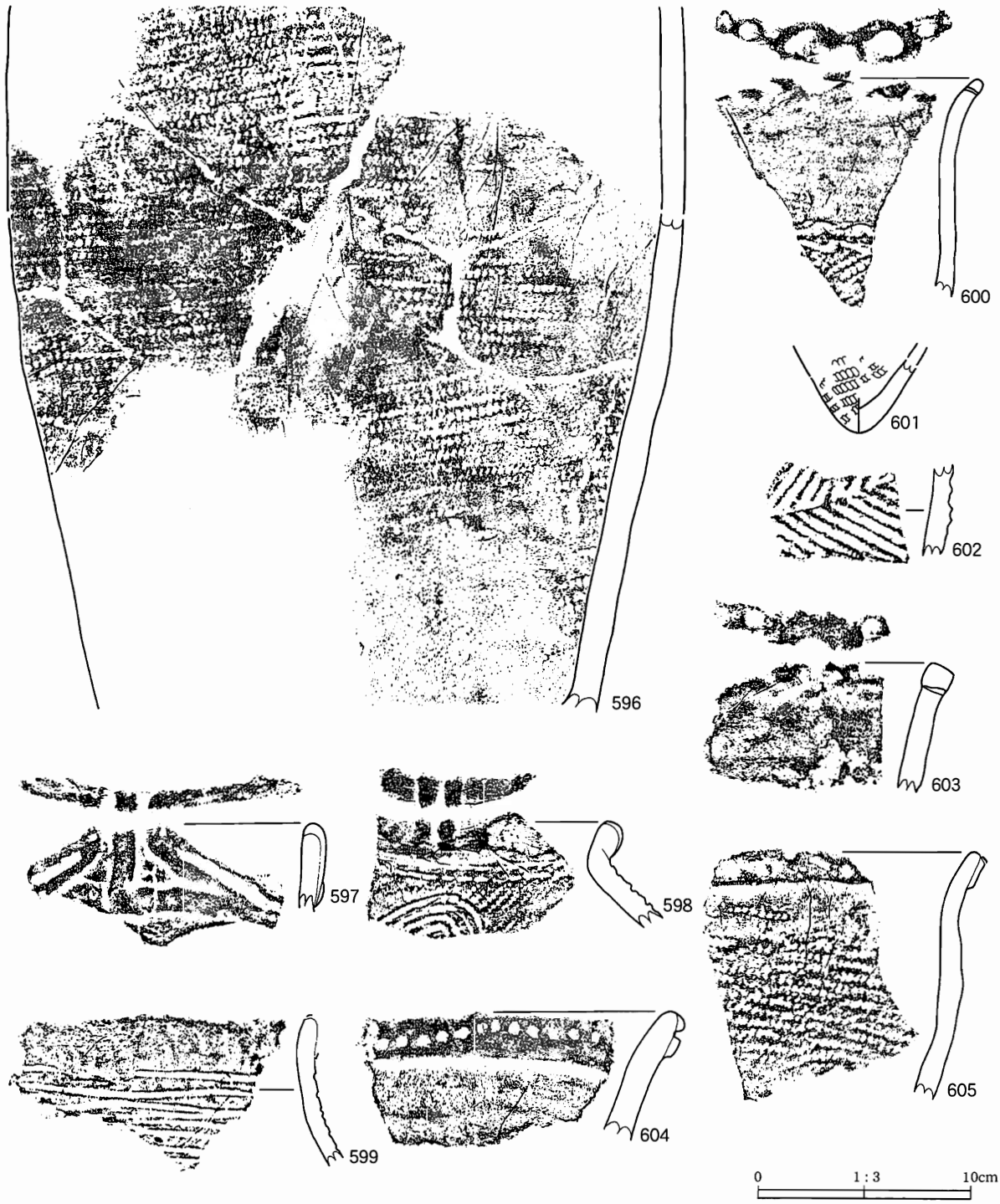
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
586	26C ②・Ⅲa層	深鉢・口縁部	口唇：C字形貼付文、波状隆帯／口：無文／胴：LR ヨコ？	ナデ	外面スス付着・隆帯剥落	
587	26C ②・Ⅲa層、26C ③・Ⅳ層	深鉢（2/3周弱）	RL タテ？→幅3㎜の篦状工具による横からの刺突列、沈線（篦の横も使用？）	ナデ	内外面スス付着	p. 48
588	26C ③付近・Ⅲ層上面	深鉢・胴部	結束1（RL、LR）タテ→半裁竹管状工具による沈線、太く深い円形文（ボタン状貼付文の代わり？）	ナデ	黒土石・外面赤、内面スス	
589	26C ③付近・Ⅲ層上面	深鉢・胴部	単軸絡1（R）タテ→半裁竹管状工具による沈線→ボタン状貼付文	ナデ	内面スス、外面摩耗	
590	26C ③、④ガケ際・Ⅰ層	深鉢・底部	LR イロイロ→底部一部ナデ／底面：網代痕→化粧粘土？（＊底一周、胴1／4周以下）	ナデ	外面一部摩耗	

第101図　土器(67)



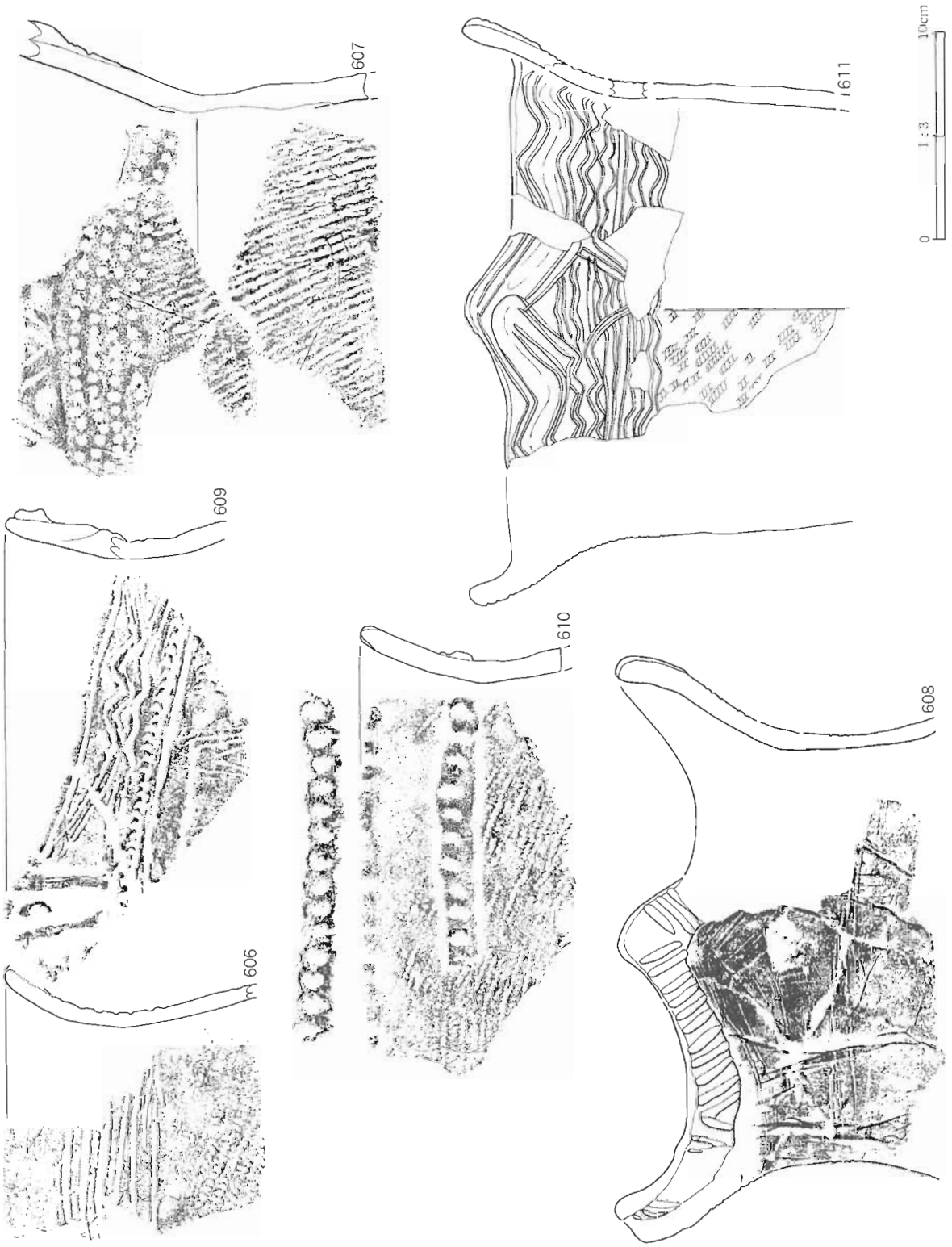
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
591	26C ③・Ⅲ層上面付近	浅鉢？・口縁部	口縁隆帯状、渦状隆帯、頭部隆帯（LR ヨコ）何れも高い／LR ヨコ→太く浅い沈線、隆帯に沿うナデ	ナデ	隆帯剥落（下地文なし）	
592	26C ③・Ⅲ層上面付近	深鉢・口縁部	口縁施刺落／半裁竹管状工具による押し引き沈線／LR ナナメ？	ナデ	外面摩耗	
593	26C ③・Ⅲ層上面付近	深鉢・口縁部	単軸絡１（R）口縁ナデ、胴タテ	ナデ	外面スス、摩耗、内面剥落	
594	26C ③・カクラン（電柱穴？）	球胴深鉢？・口縁	山形突起下太めで深い円形沈線（押圧？）／半裁竹管状工具による沈線	ナデ	外面スス付着	
595	26C ③付近・Ⅲ層上面	深鉢・胴部	胴：結束１（RL、LR）タテ→半裁竹管状工具による沈線／底部：無文	ナデ	外底部二次焼成、内面黒	

第102図　土器(68)



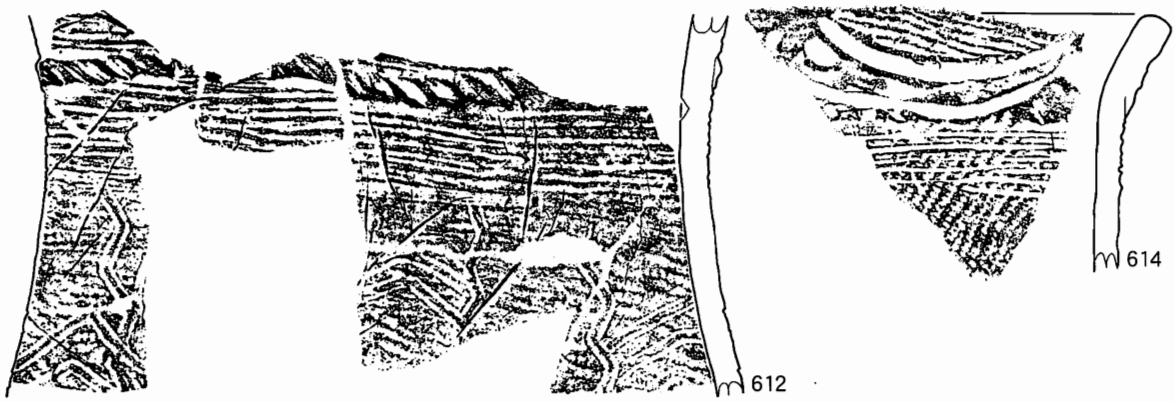
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
596	26C ③・Ⅳ層	深鉢（1/4周弱）	LR ヨコ、ナナメ→結節（R）タテ	ナデ	外下部摩耗・内面全面スス	
597	26C ③・Ⅳ層	深鉢・口縁部	口：太い隆帯（太く深めの沈線）、中央は口唇またぐ／胴：LR タテ	ナデ		
598	26C ③・Ⅳ層	球胴深鉢・口縁	口縁肥厚／隆帯口唇またぐ／LR ヨコ→角棒状工具？による押し引き沈線、深い沈線	ナデ		
599	26C ③・Ⅳ層	深鉢・胴部	口縁剥落	ナデ		
600	26C ③・Ⅳ層	深鉢・口縁部	口唇：羊頭状隆帯、押圧列／胴：LR＋結節（R）ヨコ	ナデ	外面スス、内面摩耗	
601	26C ③・Ⅳ層	深鉢・底部	RL タテ	ナデ	底部一周残存	
602	26C ③・Ⅳ層	深鉢・胴部	羽条縄文（LR、RL、0段多条）ヨコ　（＊胎土繊維多）	ナデ	外面二次焼成で赤？	
603	26C ③・Ⅳ層	深鉢・口縁部	口唇：C 字形貼付文、押圧列／頸：円い刺突列	ナデ		
604	26C ③・Ⅳ層	深鉢・口縁部	口縁隆帯状（深い竹管状刺突列）	ナデ		
605	26C ③・Ⅳ層	深鉢・口縁部	口縁隆帯状／胴 LR タテ→口縁ナデ	ただれ	上部スス、下部摩耗	p. 49

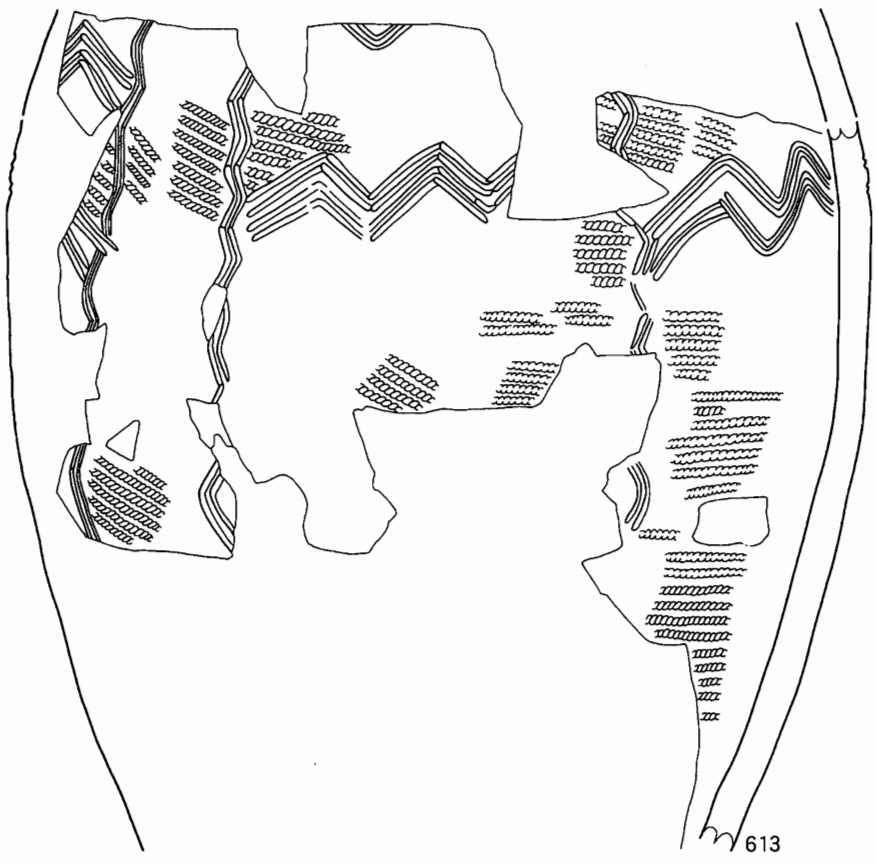
第103図　土器(69)



No	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、施文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
606	26C ③・IV層	深鉢・口縁部	口縁刺落／胴：RL ヨコ　（＊下割れ口粘土接合面からの剥離）	ナデ	内面上部スス付着	
607	26C ③・IV層	深鉢	口縁隆帯状（太く浅い沈線）／頸：竹管状刺突列／胴：単軸絡1（R？）ラフメ	ナデ	外面摩耗・内面下部剥落	図-49
608	26C ③・IV層	深鉢（1/4周以下）	4波状？／口縁隆帯状（太く深い沈線）／頸：細く浅い沈線／LR ヨコ→ナデ	ナデ	外面スス→頸部隆帯剥落？	
609	26C ③・IV層	深鉢・口縁部	波状／口縁内面肥厚／高い貼付文／単軸絡？A(R)タテ→半裁竹管状工具による刺突列、沈線	ナデ		
610	26C ③・IV層	深鉢・口縁部	口縁内外交互に爪形文／RL ヨコ→太い隆帯（D字形刻目列）	ナデ	口唇～内面摩耗	
611	26C ③・IV層	深鉢（1/1/2周）	山形突起4単位／口縁隆帯状（中央太く深めの沈線）／LR＋末端タテ→半裁竹管状沈線	ナデ	外下部スス・内外面剥落	

第104図　土器(70)





0　1：3　10cm

No.	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
612	26C ③・Ⅳ層	深鉢(1/4周以下)	LR タテ？→半裁竹管状工具による沈線→太い隆帯（鎖状刻目列）	ナデ	内面黒	
613	26C ③・Ⅳ層	深鉢(1/3周以下)	LR タテ？→半裁竹管状工具による沈線、底部ナデ	ナデ	内面黒・下割れ口接合面	
614	26C ④付近・Ⅲ層上面	深鉢・口縁部	口縁肥厚（LR タテ→太く深い沈線）／胴：LR ヨコ→半裁竹管状工具による沈線	ナデ		

第105図　土器(71)

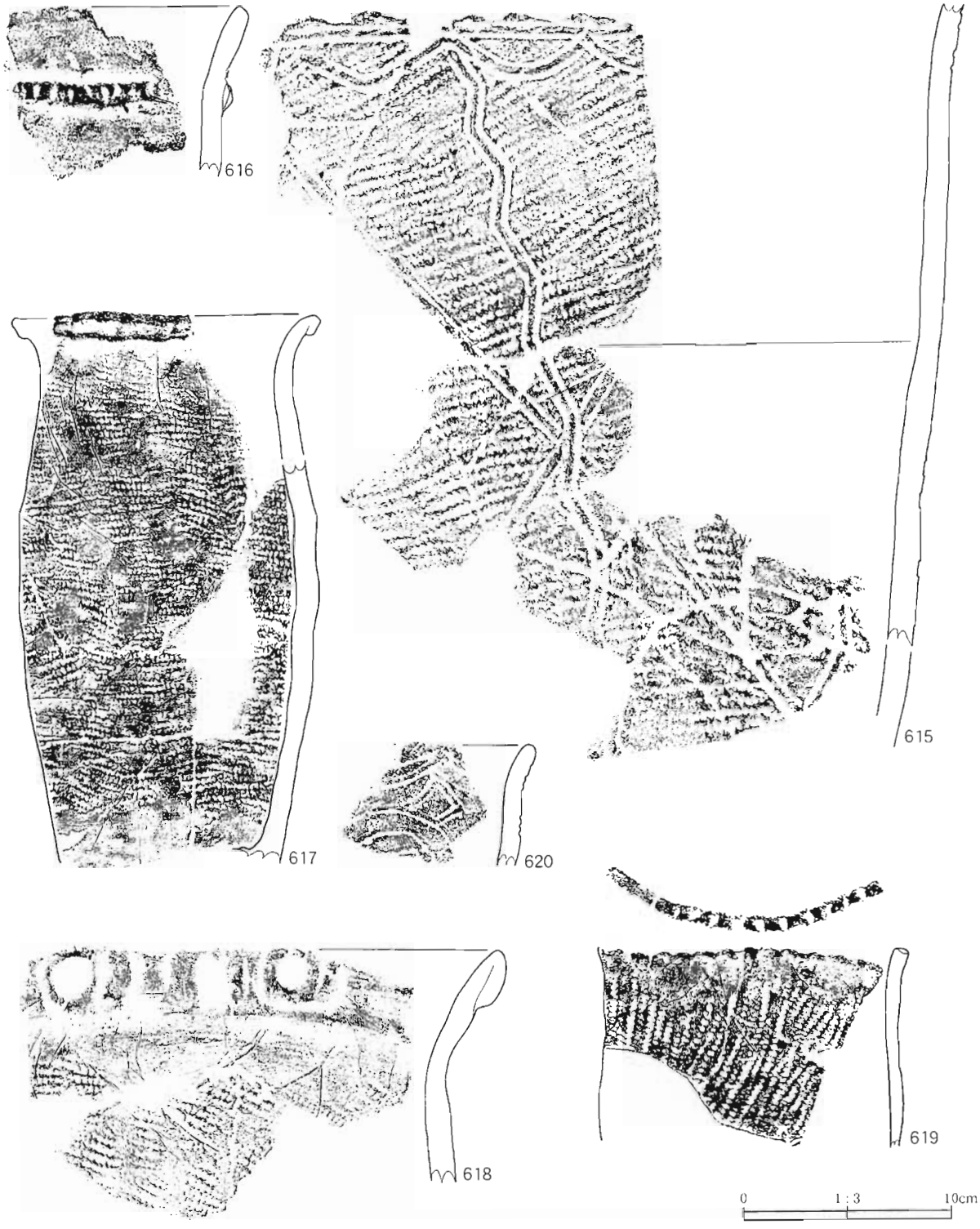
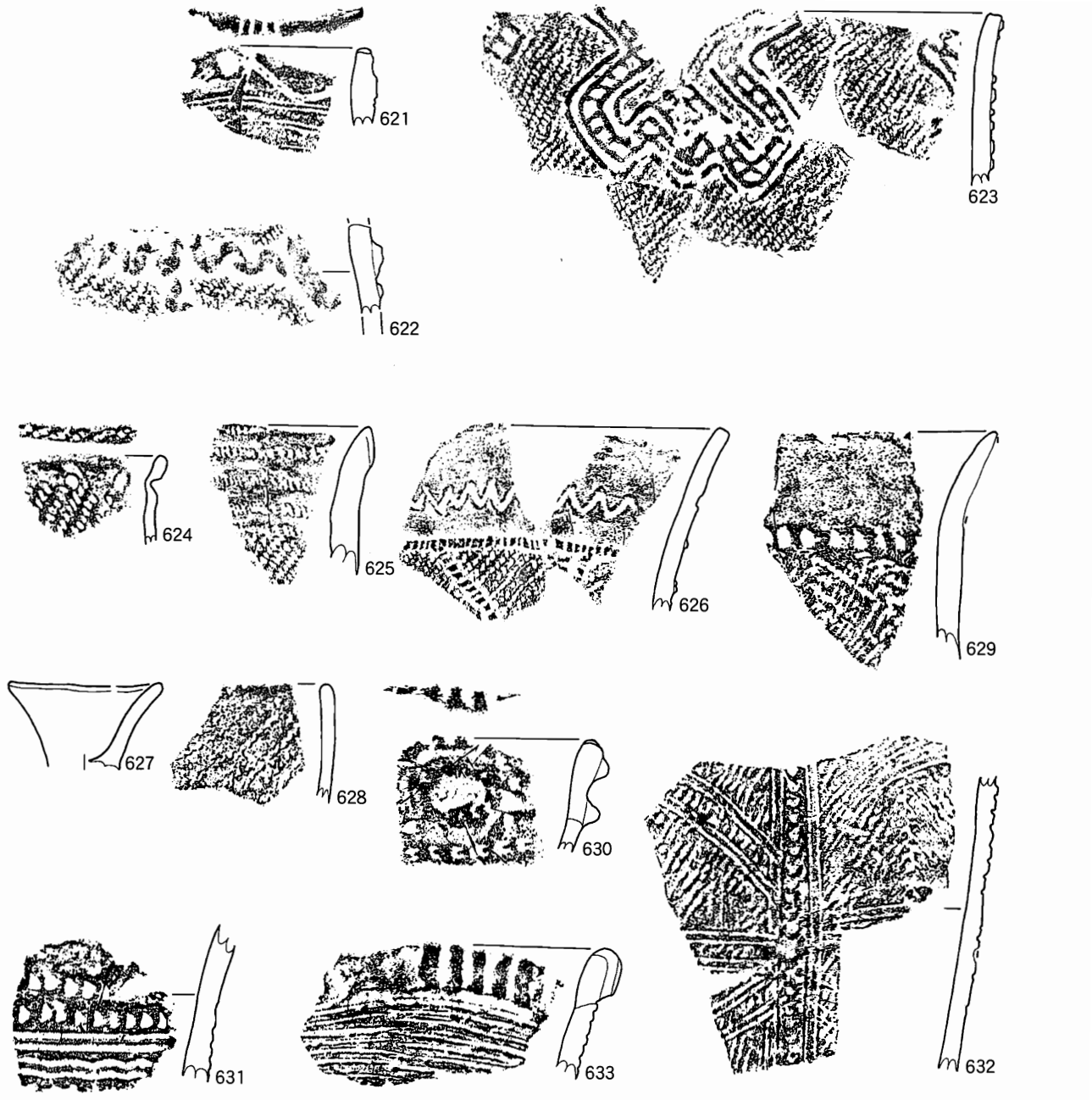


図	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
615	26C④付近・Ⅲ層上面	深鉢・胴部	LR イロイロ→半裁竹管状工具による沈線	ナデ		
616	26C④付近・Ⅲ層上面	深鉢・口縁部	頸：太く高い隆帯（刻目列）	ナデ	外面摩耗	
617	26C④付近・Ⅲ層上面	深鉢(1)/3周以下)	口縁隆帯状／胴 LR イロイロ→底部ナデ	ナデ	外面上半スス・内面下部黒	
618	26C④・Ⅲａ層	深鉢・口縁部	口縁隆帯状（太く高い貼付文）／胴 LR+結節（R）ヨコ→頸ナデ	ナデ	外面二次焼成で赤？	
619	26C④・Ⅲａ層	深鉢(1)/4周以下)	口唇：D字形刻目列／RL タテ、ナナメ	ただれ？		
520	26C④・Ⅲａ層	深鉢・口縁部	半裁竹管状工具による沈線	ナデ	内外面摩耗	

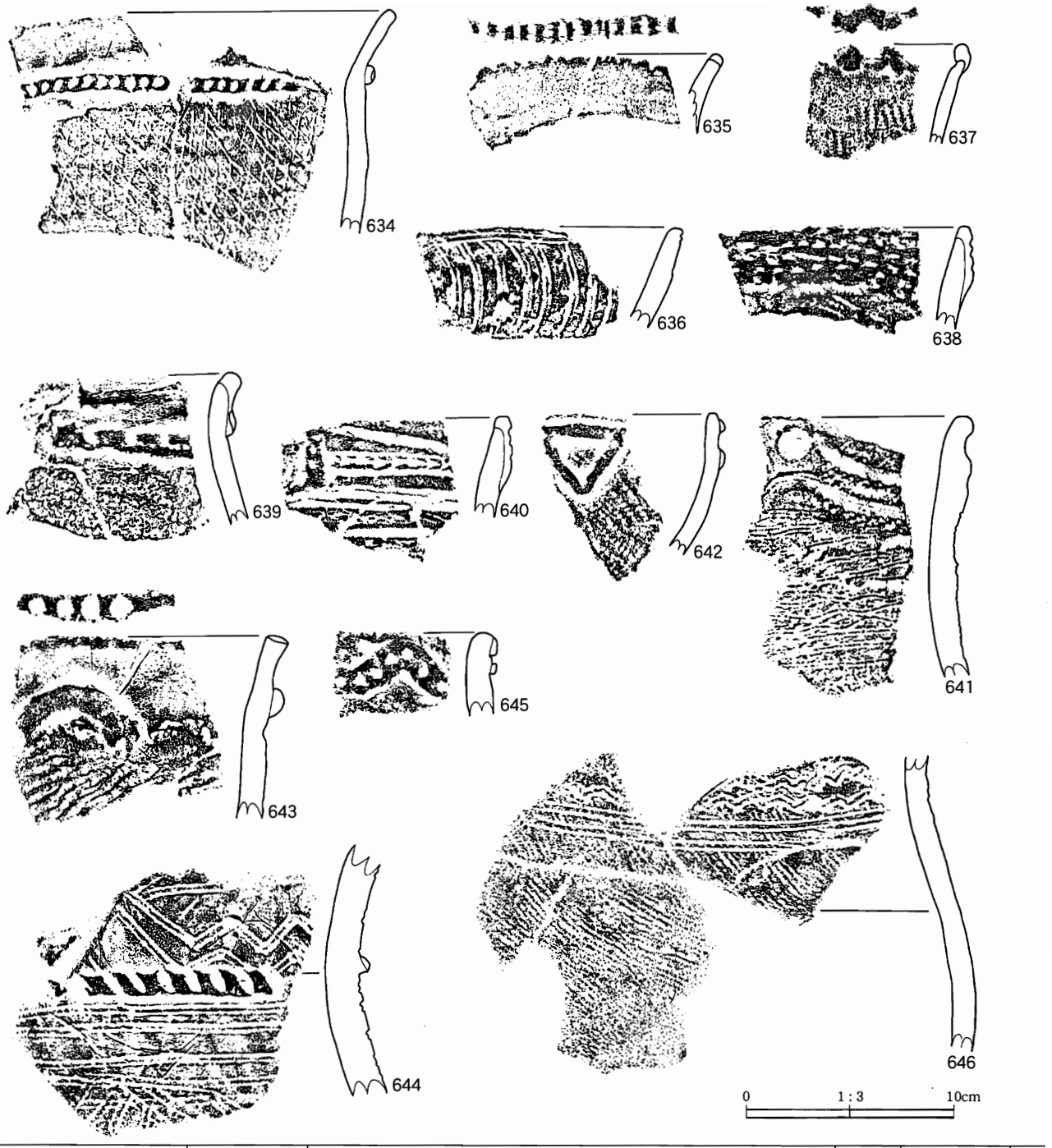
第106図　土器(72)



0　1：3　10cm

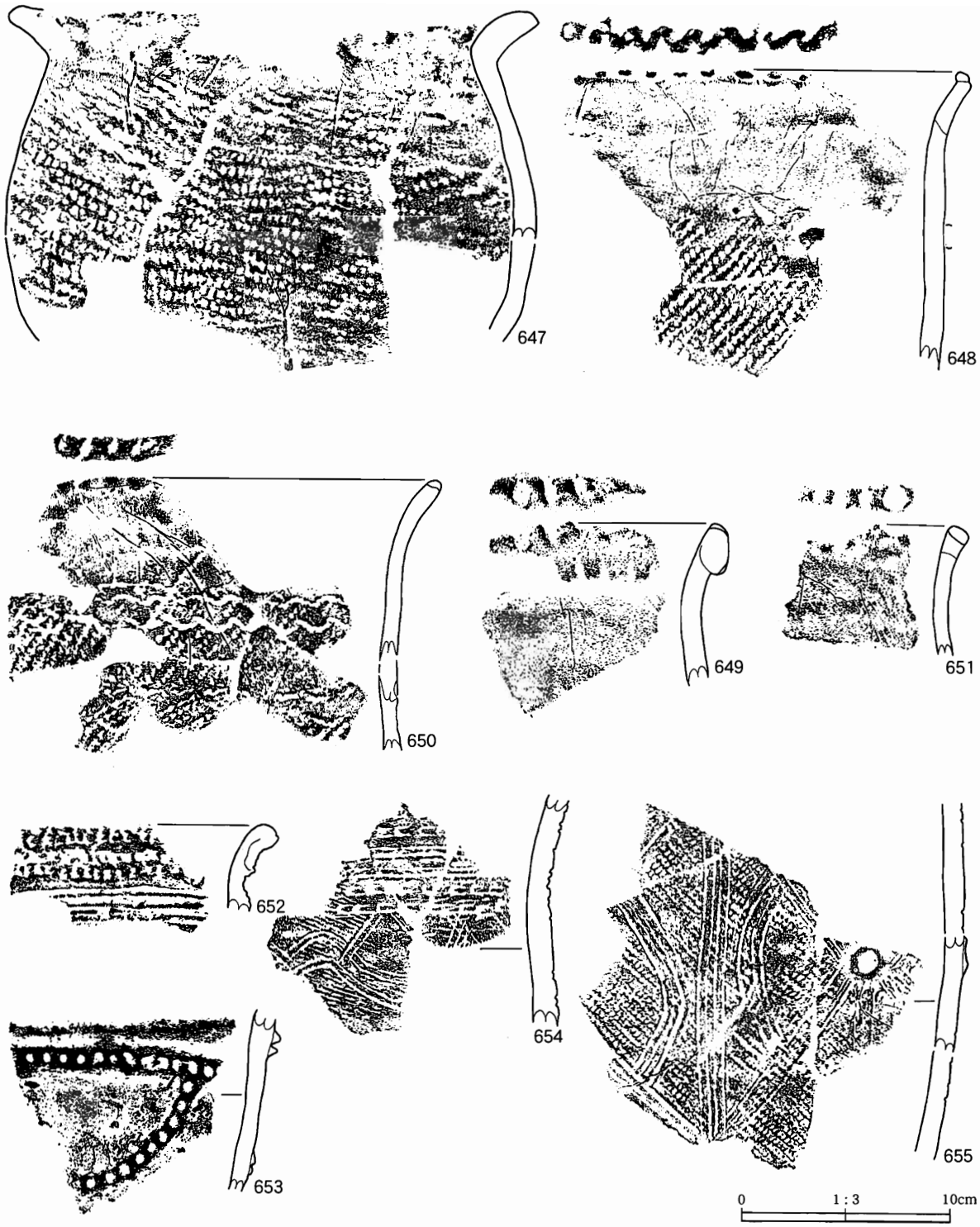
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
621	26C④・Ⅲa層	深鉢・口縁部	山形突起（頂部刻目、下盲孔）／LR タテ→半裁竹管状工具による沈線	ナデ		
622	26C④・Ⅲa層	深鉢・胴部	LR ヨコ→太く高めの隆帯	ナデ	上の割れ口粘土接合面	
623	26C④・Ⅲa層	深鉢(1/4周以下)	口唇：波状貼付４単位？、他強いナデ／LR ヨコ→細く比較的短い（1．3㎝）粘土紐	ナデ	外面スス・内面全面黒	
624	26C④・Ⅲb層	深鉢・口縁部	口唇：LR？ヨコ／LR ヨコ→大きめ深い刺突→口縁ナデ　（＊胎土繊維含まず？）	ナデ(凹凸)	外面スス・刺突部内面突出	
625	26C④・Ⅲb層	深鉢・口縁部	口縁隆帯状／LR ヨコ→口～頸部水平方向に単軸絡１（L）押圧	ナデ(雑)		
626	26C④・Ⅲb層	深鉢・口縁部	口唇：強いナデ／口：深い鋸歯文(粘土まくれ)／胴：LR ヨコ→細い隆帯(C字形爪形文)	ナデ	外面スス・内面摩耗	
627	26C④・Ⅲb層	小型鉢？	ナデ　（＊1／4周弱残存、底部欠損）	ナデ		
628	26C④・Ⅳa層	深鉢・口縁部	LR ヨコ？	ナデ		
629	26D①　試掘トレンチ	深鉢・口縁部	口縁剥落／結束１（RL、LR）？タテ→頸部Ｄ字形爪形文	ナデ		
630	26D①　試掘トレンチ	深鉢・口縁部	突起口唇：刻目／突起下高いドーナツ状隆帯→半裁竹管状工具による刺突	摩耗	内外面摩耗	
631	26D①　試掘トレンチ	深鉢・頸部	半裁竹管状工具による沈線、刺突列	ナデ	下割れ口接合面から剥離	
632	26D①～③　試掘トレンチ	深鉢・胴部	結束１（R、L）タテ→半裁竹管状工具による刺突列、沈線	ナデ		
633	26D①～③　試掘トレンチ	深鉢・口縁部	口縁隆帯状（太く高めの縦位貼付文）／頸：半裁竹管状工具による沈線	ナデ	口縁一部剥落	

第107図　土器(73)



No.	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
634	26D ①・包含層（Ⅲ層）	深鉢・胴部	単軸絡５（R）ナナメ→口～頸部ナデ→頸高い隆帯（D字形爪形文）	ナデ	外面スス付着	
635	26D ②・検出面（Ⅲ～Ⅴ層上面）	深鉢・口縁部	口唇：刻目列	ナデ		
636	26D ②・検出面（Ⅲ～Ⅴ層上面）	深鉢・口縁部	半裁竹管状工具による沈線（縦の弧は片側使用）→口唇ナデ	ナデ		
637	26D ②・検出面（Ⅲ～Ⅴ層上面）	深鉢・口縁部	口唇～外Ｃ字形貼付文／RL ナナメ	ナデ		
638	26D ③・検出面（Ⅴ層上面）	深鉢・口縁部	口縁隆帯状（刺股状工具による刺突列）／胴：RL ヨコ	摩耗	外面スス・下割口接合面	
639	26D ③・検出面（Ⅴ層上面）	深鉢・口縁部	口縁隆帯状（下部さらに隆帯貼付→太い刻目列）／胴：LR ヨコ？？→ナデ	摩耗		
640	26D ③・検出面（Ⅴ層上面）	深鉢・口縁部	口縁隆帯状（縦位隆帯）／半裁竹管状工具による刺突列・太く深い沈線は同具の弧側を下にしたのか	ナデ		
641	26D ④・表土	深鉢	山形突起／口縁隆帯状（太く深い沈線）／頸以下：半裁竹管状工具による沈線	ナデ		
642	26D ④・検出面（Ⅴ層上面）	浅鉢？？	口：LR ヨコ→高めの隆帯／胴：LR タテ	ナデ	外面スス付着	
643	27C ③・Ⅲｂ層	深鉢・口縁部	口唇：押圧列（ない部分も）／太い LL＋結節（L）→太く高い隆帯	ナデ	外面スス付着	
644	27D ①・表土（Ⅰ～Ⅲ層）	深鉢・口縁部	口縁剥落、摩耗／頸：高い隆帯（鎖状刺突列）／半裁竹管状工具による沈線	ナデ(凹凸)	胎土石含む	
645	27D ①・表土（Ⅰ～Ⅲ層）	深鉢・口縁部	太く低めの隆帯（深い円形刺突列）→口唇強いナデ	ナデ	胎土石・口唇摩耗	
646	27D ①、27D ①～②、27D ③～④	深鉢・胴部	LR タテ？→半裁竹管状工具による沈線	摩耗	外面下部摩耗ひどい	p. 49

第108図　土器(74)



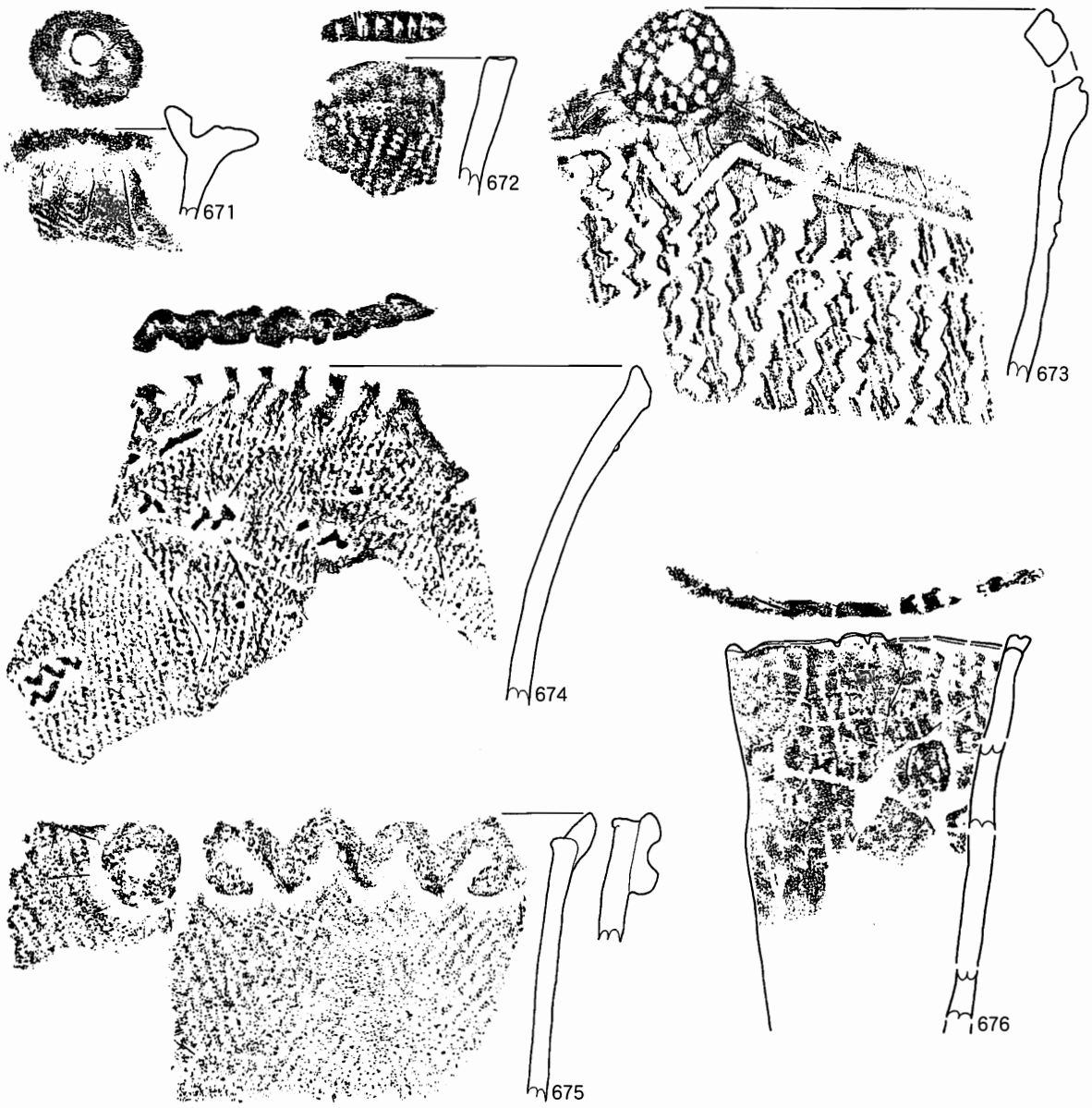
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
647	27D①～②・表土	深鉢(1/3周以下)	口縁剥落／LR タテ→口縁ナデ	ナデ(雑)	外面スス・内面下部おこげ一周	
648	27D①・検出面	深鉢・口縁部	口唇：波状隆帯／LR ヨコ→口縁ナデ→頸部波状隆帯（剥落）	ナデ		
649	27D①・Ⅲa～Ⅲb層	深鉢・口縁部	口唇：刻目列／口縁隆帯状（刻目列）	ナデ	外面摩耗	
650	27D①・Ⅲc層	深鉢・口縁部	口唇：刻目列／LR＋結節（R）ヨコ→口縁ナデ（輪積痕）	ナデ	外面スス付着	
651	27D①・Ⅲc層	深鉢・口縁部	口唇：台形突起（深い押圧）、刻目列	摩耗	外面スス付着	
652	27D②・表土（クリーニング）	深鉢・口縁部	口縁隆帯状／刺股状工具による刺突列、押し引き沈線、沈線	摩耗		
653	27D④・検出面（Ⅲ層、Ⅴ層上面）	深鉢・胴部	高い隆帯（深い刺突列）	摩耗	外面も摩耗	
654	27D③～④・抜根、27D②～27E①・表土	深鉢・胴部	胴Ｌタテ→半裁竹管状工具による刺突列、沈線	摩耗ひどい	27D③～④1/4	
655	27D③～④　抜根、27D③～27E①・表土	深鉢・胴部	LR タテ→半裁竹管状工具による沈線→ボタン状貼付文	ナデ(丁寧)	内外面スス・27D③～④6/7	

第109図　土器(75)

0　1：3　10cm

No.	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
656	27D ③～④ 抜根	深鉢・口縁部	口唇：強いナデ／口縁隆帯状（LR ヨコ→太く深い沈線）／胴：LR タテ→半裁竹管状沈線	ナデ		
657	27D ④ 抜根	深鉢・口縁部	口唇：竹管状刺突列／口：竹管状刺突列→半裁竹管状工具による沈線	ナデ	口縁剥落	
658	27D ④ 抜根	深鉢・口縁部	口縁隆帯状（太く深い沈線）／単軸絡１Ａ（L）タテ→頭半裁竹管状工具による押し引き沈線	摩耗		
659	27D ④ 抜根	深鉢・口縁部	口唇：浅い竹管状刺突列／太く低い隆帯（太く深めの円形刺突列）	ナデ		
660	川べり・表土	深鉢・胴部	LR ヨコ？？→高い隆帯（D 字形爪形文）、鋸歯状沈線	ナデ	外面やや摩耗	
661	川べり・表土	深鉢・口縁部	胴 LR ナナメ？→太く高い隆帯（C 字形爪形文）	ナデ	内面摩耗	
662	川べり・表土	深鉢・口縁部	口唇：蛇行隆帯／胴：単軸絡１（L）ナナメ	ナデ	内面剥落・外面摩耗	
663	川べり・表土	深鉢・胴部	LR タテ→高い隆帯（D 字形爪形文）、鋸歯状沈線	ナデ	外面やや摩耗	
664	排土	深鉢・口縁部	口縁隆帯状（剥落）？／口唇：鎖状刻目列／口：太く深い沈線	剥落	外面スス付着	
665	排土	深鉢・口縁部	太く高いＣ字形貼付文→太く深い沈線	ナデ		
666	排土	深鉢・胴部	斜縄文（？）→半裁竹管状工具による沈線→高い瘤状突起	摩耗		
667	東側包含層ベルト・Ⅱ層	深鉢・口縁部	RL タテ→太めの隆帯（刻目列）、口唇強いナデ	ナデ	外面摩耗・内面下部スス	p. 49
668	東側包含層ベルト・Ⅲａ層	深鉢・口縁部	口唇：刺突列／単軸絡１（L）タテ→太く高めの隆帯（D 字形爪形文）	摩耗ひどい	外面摩耗	
669	東側包含層ベルト・Ⅲａ層	深鉢・口縁部	口唇：強いナデ／斜縄文（？）→細く比較的短い（1.3cm）粘土紐	摩耗ひどい	外面摩耗	
670	東側包含層ベルト・Ⅲａ層	深鉢・口縁部	口唇：押圧列／頸：高い隆帯／斜縄文（？）→隆帯に沿ってナデ	摩耗ひどい	胎土石・外面摩耗	

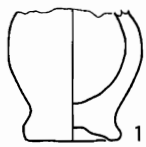
第110図　土器（76）

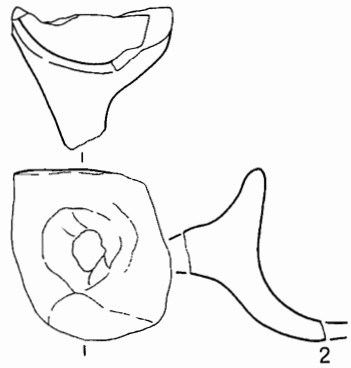


0　1：3　10cm

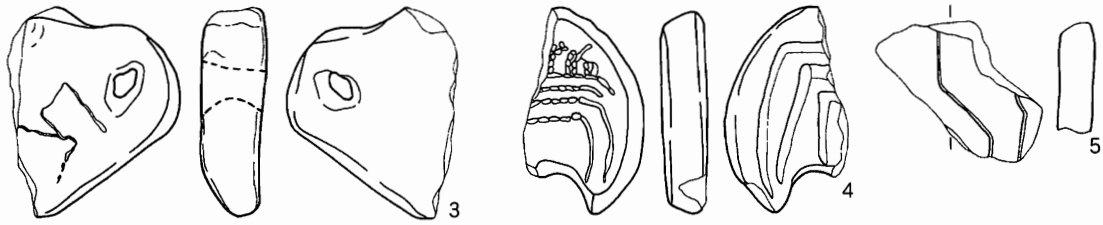
No.	出土地点・層位	器種・部位	外面（文様・装飾、地文・原体など）	内面（調整など）	備考	本文記載
671	東側包含層ベルト・Ⅲａ層	深鉢・口縁部	突起上面楕円形（中央に深い穴）／RL ヨコ	ナデ	内外面壊耗	
672	東側包含層ベルト・Ⅲａ層	深鉢・口縁部	台形？突起（口唇爪形文列）／RL タテ	ナデ	外面二次焼成で摩耗	
673	東側包含層ベルト・Ⅲａ層	深鉢・口縁部	波状口縁波頂部外面円形突起(中央貫通孔、周囲深い刺突列)／単軸絡１(L)タテ→太く深い沈線	ナデ		
674	東側包含層ベルト・Ⅲａ層	深鉢・口縁部	大形台形突起（内外交互押圧により口唇鋸歯状）／LR ヨコ→細い粘土紐（剥落多）	ナデ		
675	東側包含層ベルト・Ⅲａ層	深鉢（1/4周弱）	波状？／縦位羽状縄文（LR、RL？タテ）→口縁円形（中央深い盲孔）、羊頭状突起貼付	摩耗ひどい	内外二次焼成による摩耗ひどい	
676	東側包含層ベルト・Ⅲａ層	鉢（2/3周弱）	口唇：刻目列のある部分対角線上二対／単軸絡５（L？）ナナメ？？	ナデ	外面スス付着	p. 49

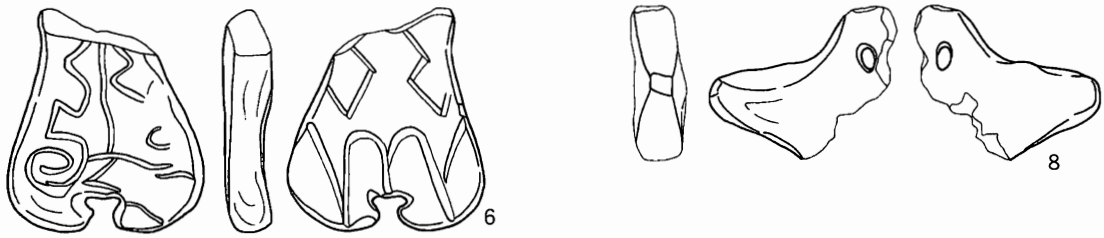
第111図　土器(77)

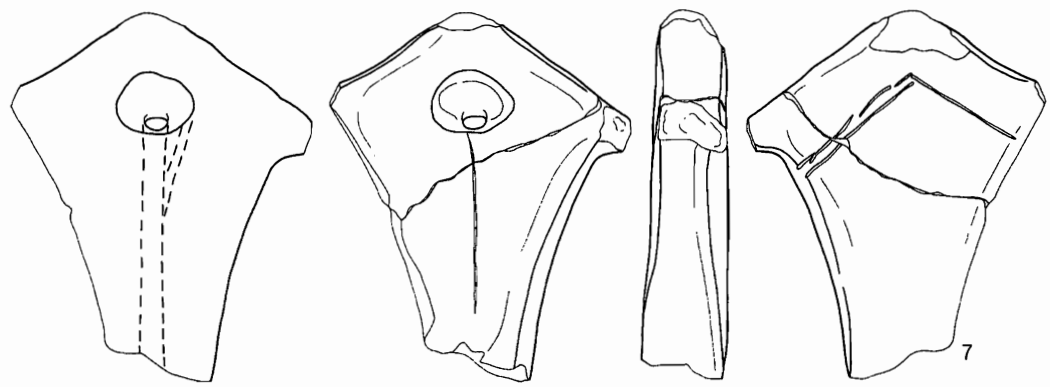




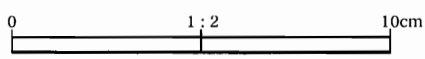
No.	種別	出土地点・層位	重量(g)	残存状況	外面 (文様・装飾)	内　面	備　　考	本文 記載
1	土器?	21B④・Ⅱ（Ⅲb）層	22.85	上部欠損	ナデ	ナデ	上げ底風・内面整形、壺のように指圧痕残らず、雑ではない	
2	土器?	23B①・Ⅰ層（レキ多）	28.48	一部口縁部？残存	ナデ	ナデ	小型鉢に把手（欠損）がついたよう	



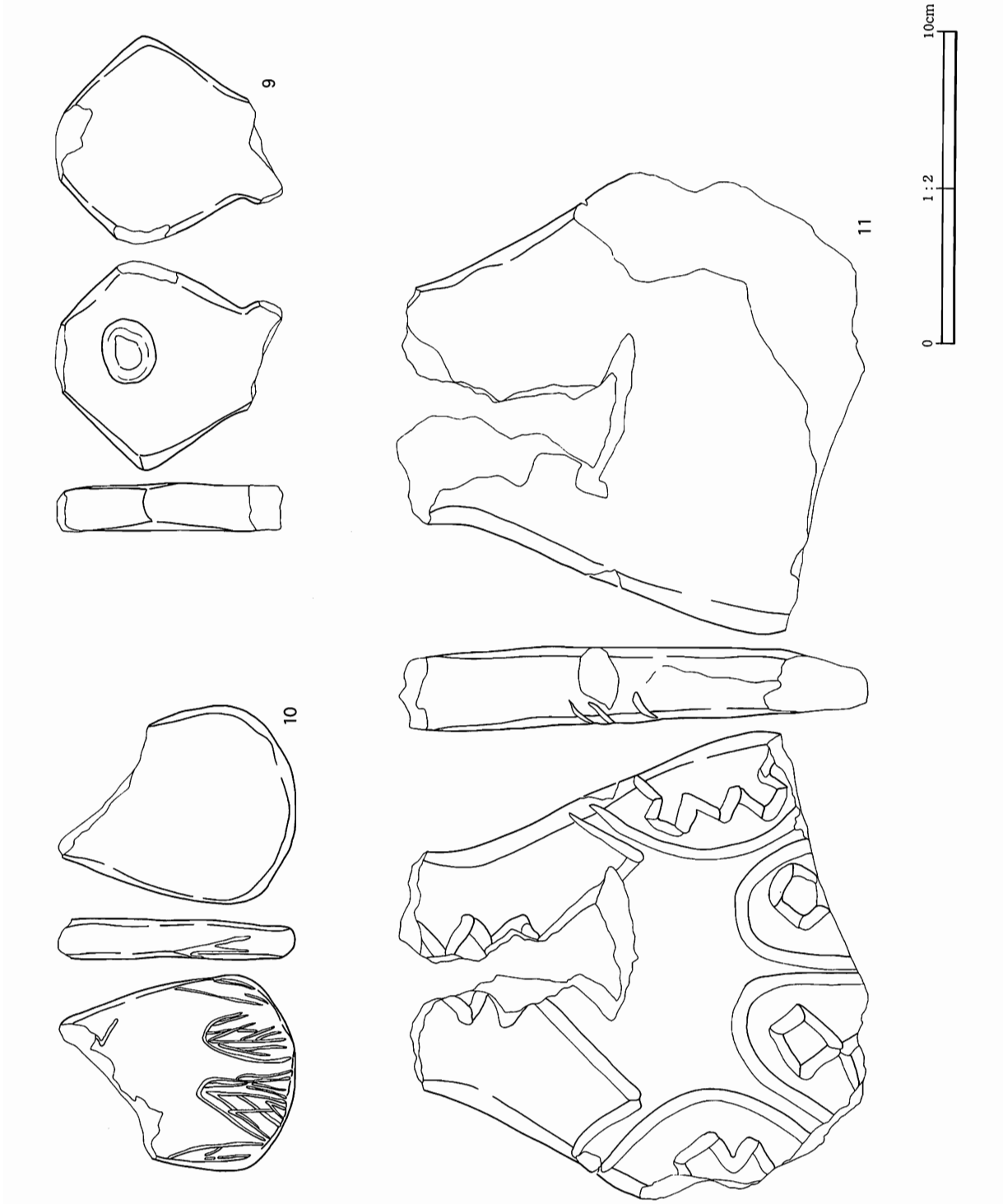




No.	種別	出土地点・層位	重量(g)	残存状況 (部位・割口ほか)	つくり	外　面 (文様・装飾)	付着物	備　　考	本文 記載
3	土偶	20B③・検出面(Ⅲ層、Ⅴ層上面)	37.36	腕・摩耗	板状	痕跡的な沈線文様		貫通孔・胎土石含む	
4	土偶	21B4b・表土	20.19	脚	板状(貼り合わせ)	押し引き沈線、太く浅い沈線		胎土石含む	
5	土偶?	21B4b　倒木	10.73	不明	板状（反る）	細く浅い沈線		土器の破片？	
6	土偶	21B①・Ⅱ（Ⅲa）層	36.11	下半身	板状	浅い沈線			
7	土偶	21B②・Ⅰ層（表土）	115.1	上半身・左側面剥落	板状(接合痕？)	背面半裁竹管状工具による浅い沈線		二片接合・深い盲孔・割口に接合痕？	p. 50
8	土偶	21B③・Ⅱ（Ⅲb）層	15.78	顔～腕部	板状			割れ口にも貫通孔？・胎土石	

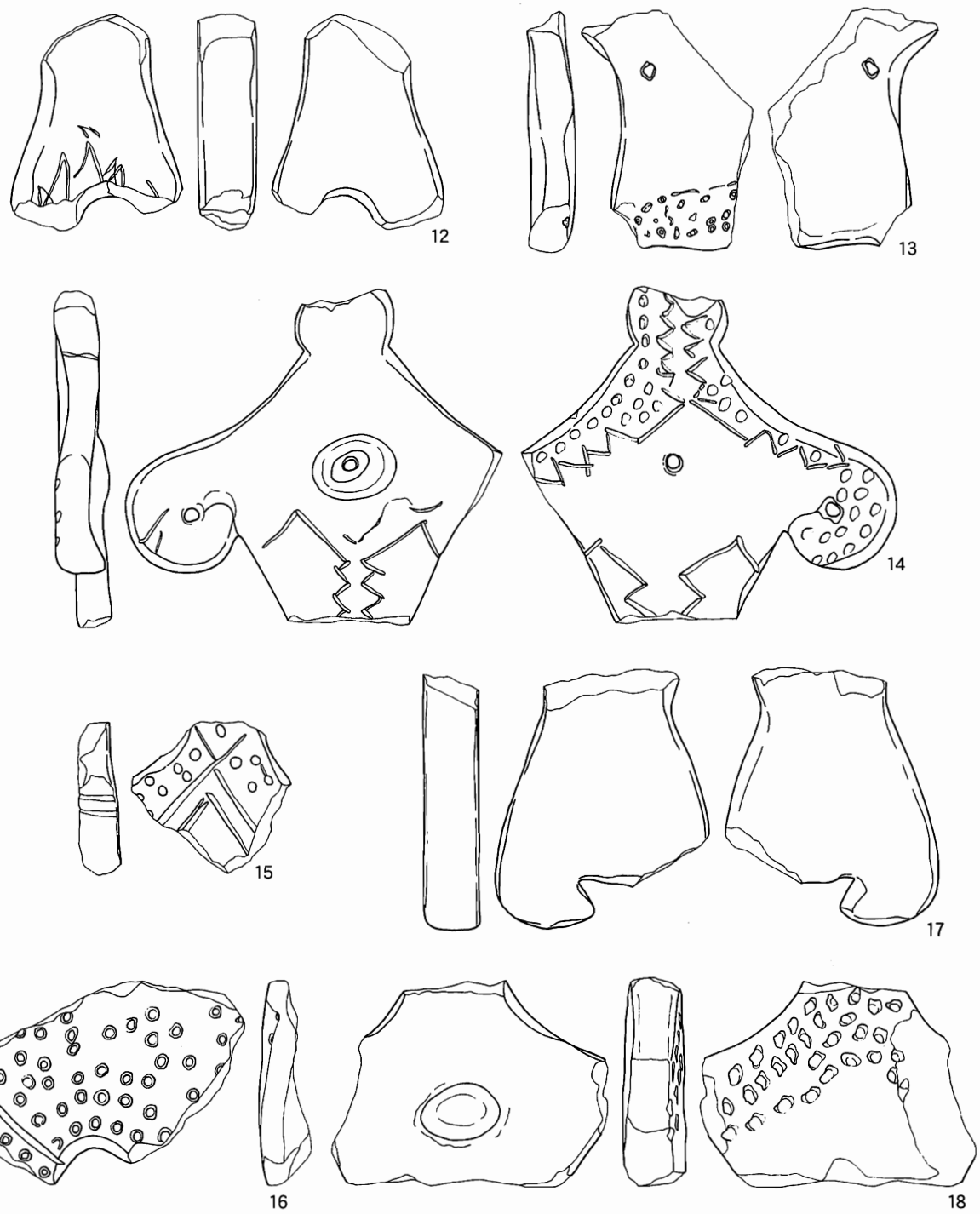


第112図　土製品（1）



No.	種別	出土地点・層位	重量(g)	残存状況 (部位・割口ほか)	つくり	外　面 (文様・装飾)	付着物	備　考	本文記載
9	土偶	22B①・Ⅰ～Ⅲ層	67.21	上半身？・剥落	板状			深い盲孔	
10	土偶	22B②・Ⅰ～Ⅱ層	58.28	下半身	板状	細く浅い沈線			
11	土偶	22B②・表土	439.04	上半身？	板状	太く深めの沈線		三片接合	

第113図　土製品(２)



No.	種別	出土地点・層位	重量(g)	残存状況 (部位・割口ほか)	つくり	外　面 (文様・装飾)	付着物	備　考	本文 記載
12	土偶	22B④・Ⅰ～Ⅱ層	61.59	下半身？	厚い板状	細く浅い痕跡的な沈線			
13	土偶	22B④・Ⅰ～Ⅱ層	47.03	下半身？	板状・製作痕？	深い刺突		貫通孔・割れ口に製作痕？	p. 50
14	土偶	22B④・Ⅰ～Ⅱ層	111.68	上半身	板状	細く深い沈線、深い刺突		三片接合・貫通孔２	p. 50
15	土偶	23B③・Ⅰ層	22.83	不明・裏面剥落	板状	深い沈線、刺突			
16	土偶	23B③・Ⅲ層	57.62	不明・裏面剥落	板状	深めの沈線、深い竹管状刺突			
17	土偶	25C②・Ⅲａ層	85.10	下半身・残りよい	厚めの板状			胎土良・整形滑らか	
18	土偶	東部包含層ベルト・Ⅱ層	94.07	上半身	板状	太く非常に深い刺突		深い盲孔・下の割れ口滑らか	

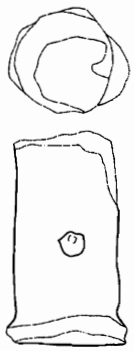
第114図　土製品(３)

19

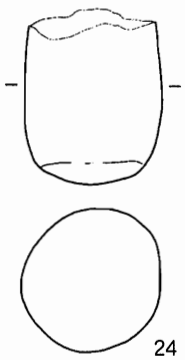
20

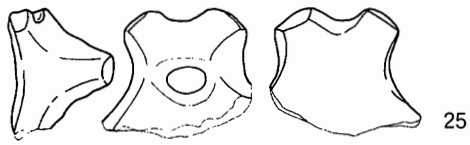
21

22

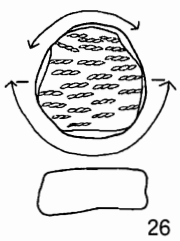

23

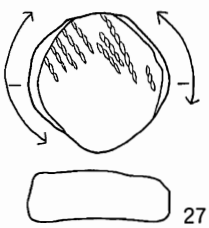
No.	種別	出土地点・層位	最大計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	残存状態	付着物	備考	本文記載
19	耳栓	20B②・Ⅲ(Ⅲc)層	(1.7)	(2.5)	(2.2)	5.77	1/3?		胎土石含む	
20	耳栓	21B④・Ⅱ層	2.3	1.8	1.6	5.76	ほぼ完形			
21	耳栓	23B④・Ⅱ層	4.2	(2.1)	(1.9)	12.41	両端欠損			
22	耳栓?	川べり表土	2.2	2.4	(2.2)	6.26	1/2強		ひび	
23	耳栓??	21B④・Ⅲ(Ⅲb)層	(5.65)	(3.20)	(3.20)	45.73	両端欠損			

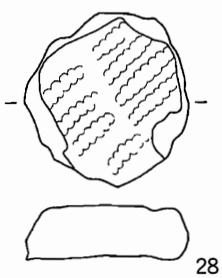

24

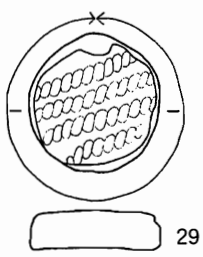

25

No.	種別	出土地点・層位	最大計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	残存状態	付着物	備考	本文記載
24	不明	22B④・Ⅰ～Ⅱ層	(4.60)	3.7	3.7	64.85	片端欠損		オレンジ～肌色・イチジク形土製品?	
25	不明	21B4e・重機から10cm	3.4	4	2.8	19.79	下端欠損		クマ形土製品?	

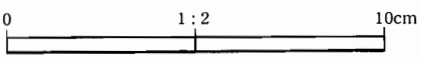

26


27

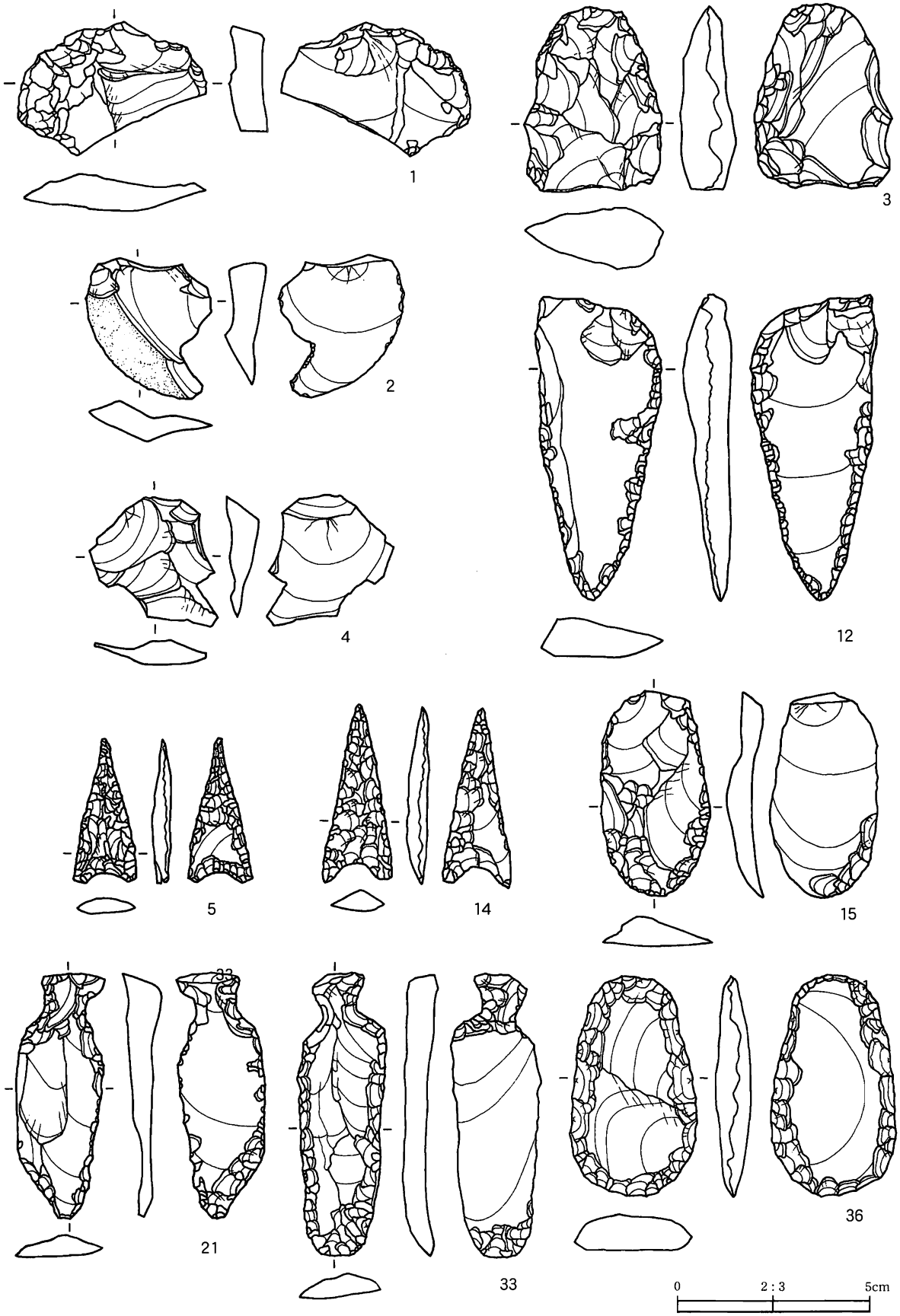

28


29

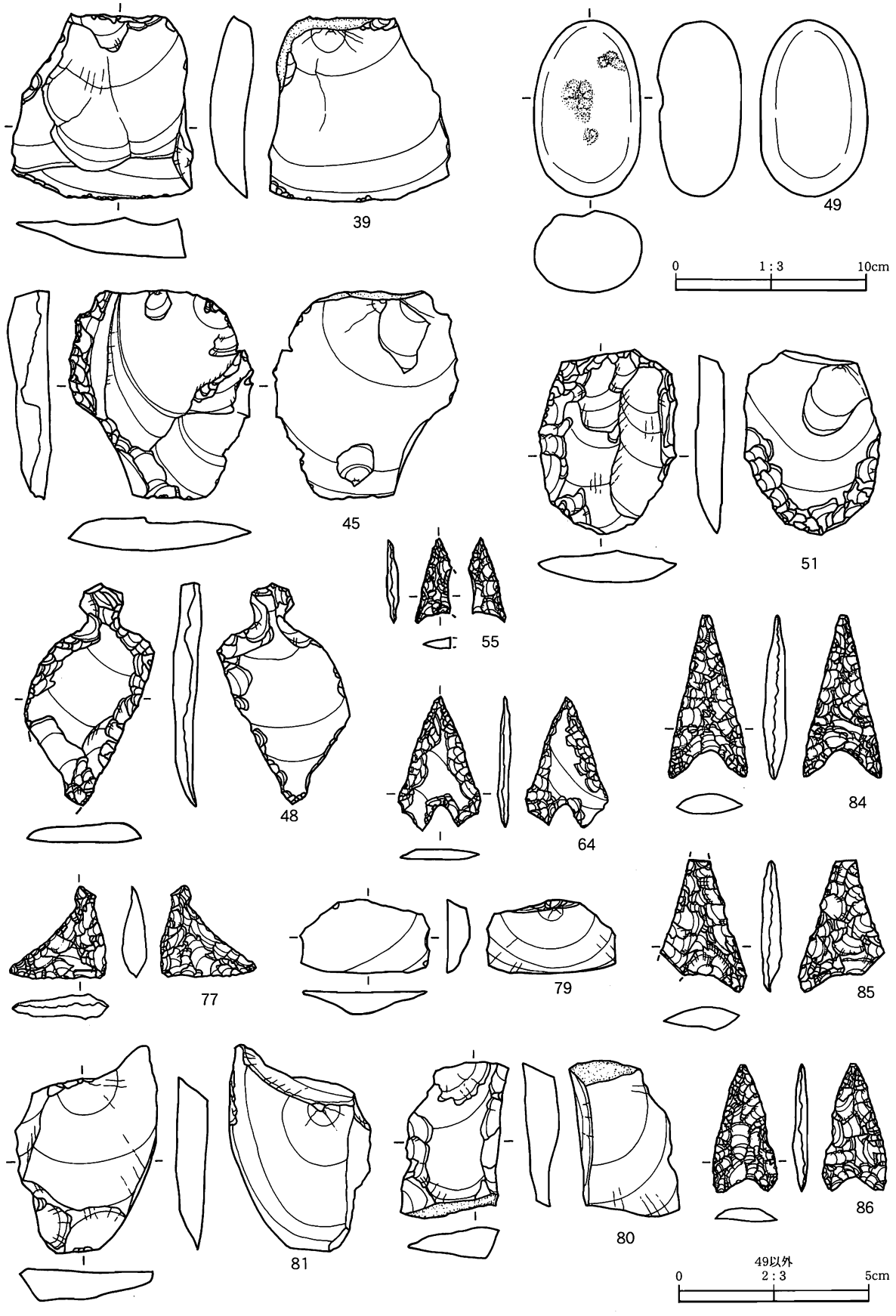
No.	種別	出土地点・層位	最大計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	残存状態	周辺の加工	利用土器の様子	備考	本文記載
26	円盤状土製品	21B①・表土	3	2.9	1.2	10.36	ほぼ完形	全周研磨?	多軸絡(軸数不明・L)回転		
27	円盤状土製品	21B③・Ⅱ(Ⅲa)層	3.7	3.75	1.35	18.22	ほぼ完形	半周研磨?	単軸絡1(L)回転		
28	円盤状土製品	21B③・Ⅱ(Ⅲa)層	4.55	4.35	1.45	28.83	ほぼ完形		RL回転		
29	円盤状土製品	22B②・表土	3	2.9	1.2	14.69	完形	全周研磨	LR回転		



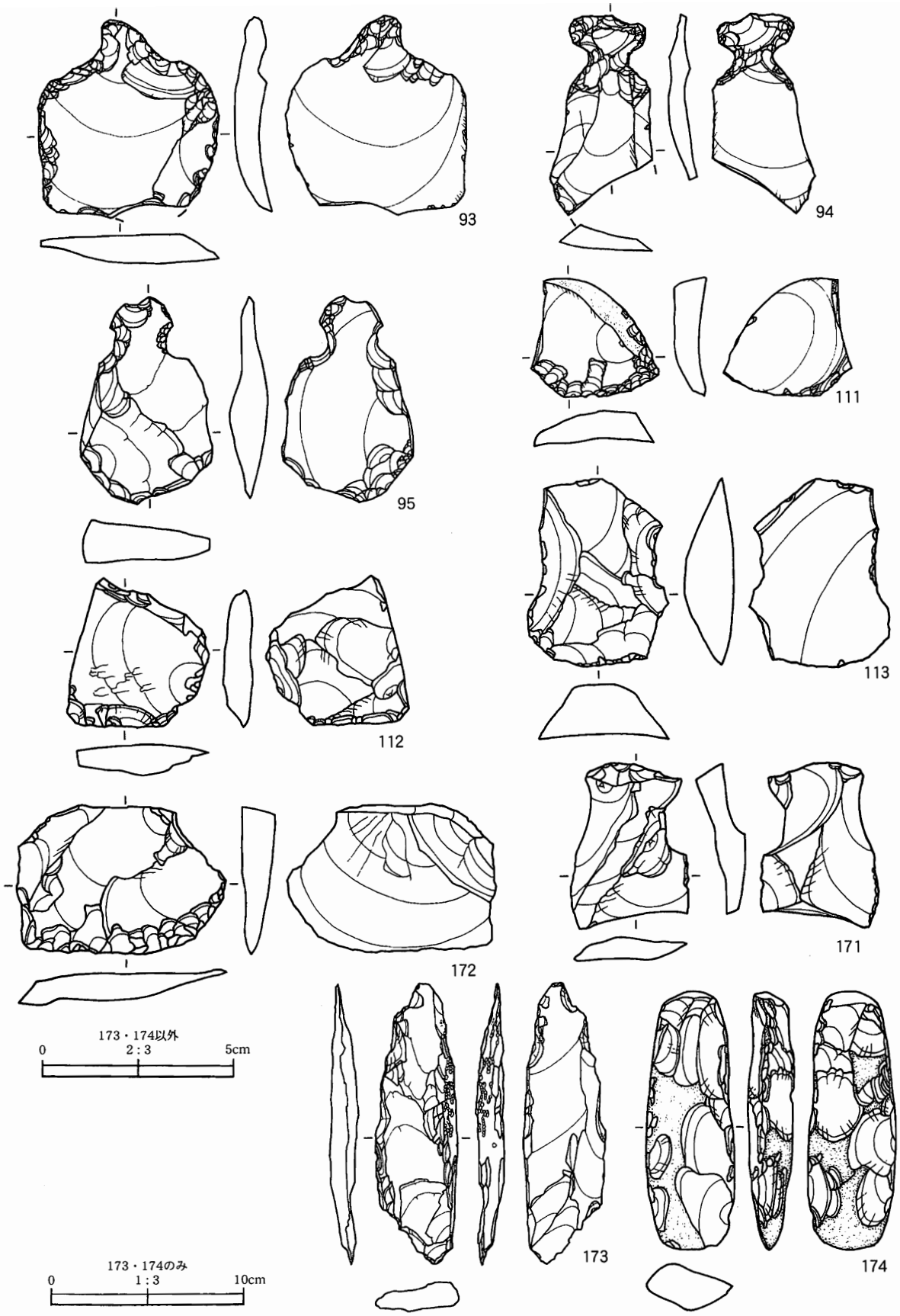
第115図　土製品(4)



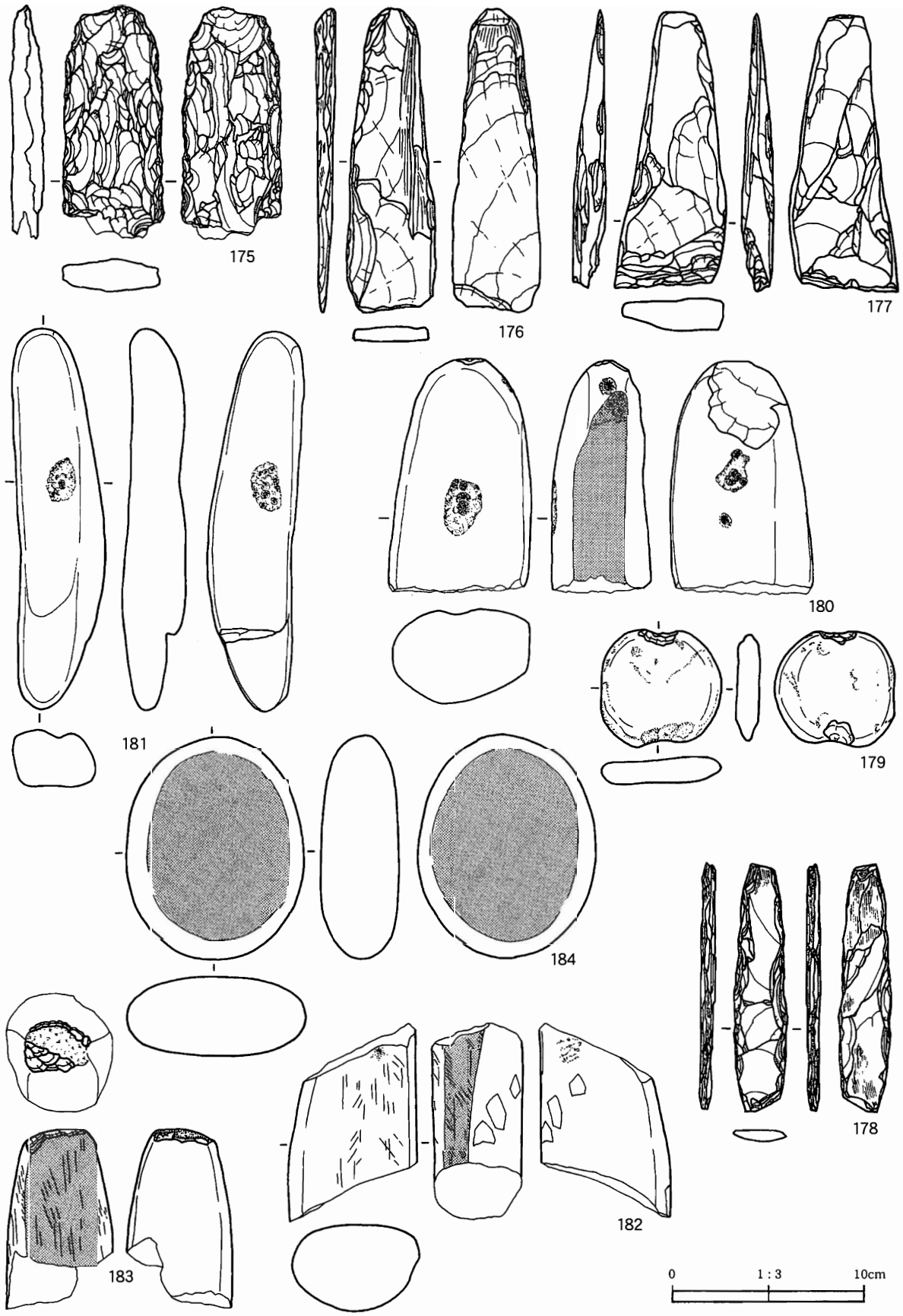
第116図　石器（１）



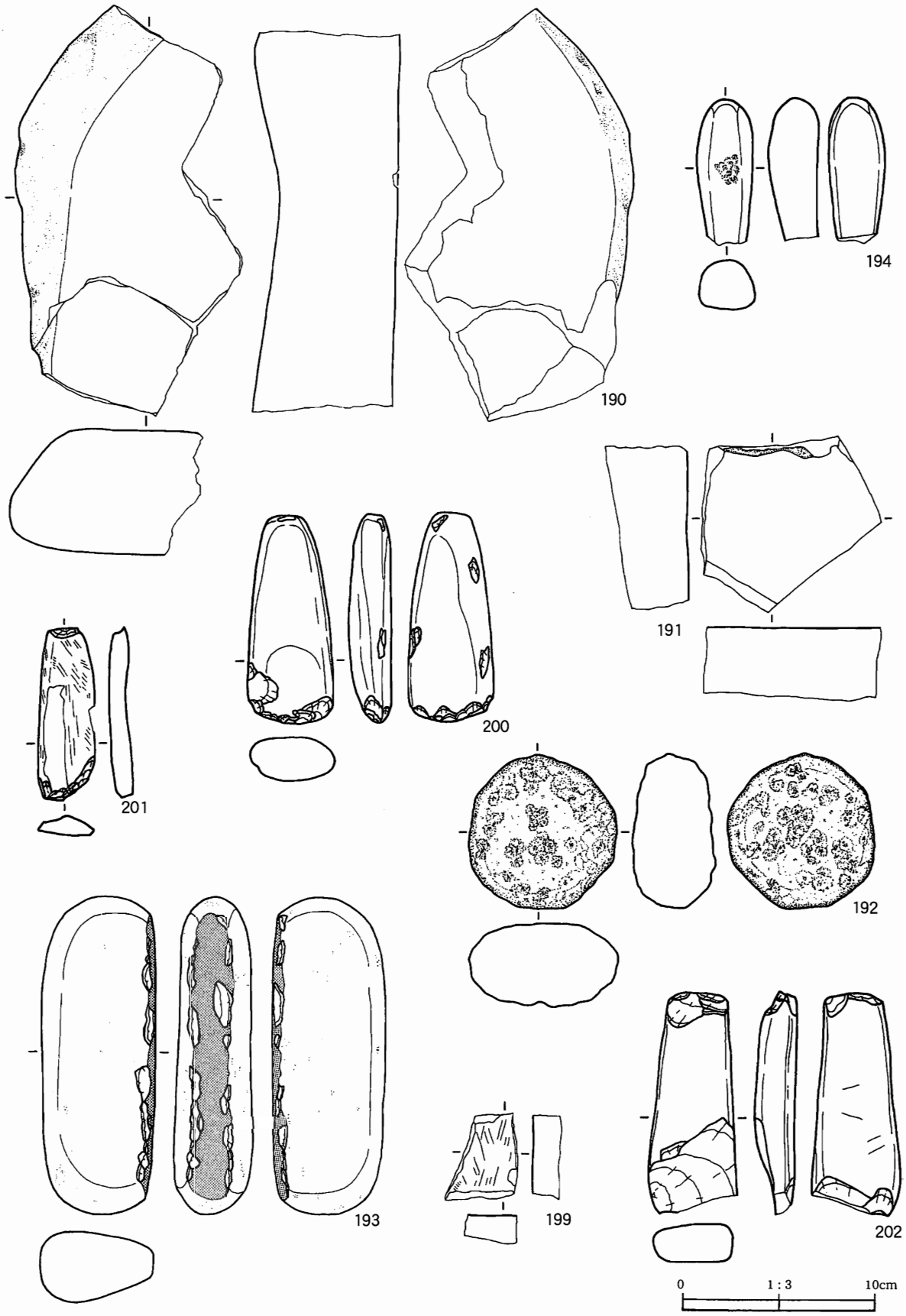
第117図　石器（２）


93
94
95
111
112
113
171
172
173
174
173・174以外
0
2:3
5cm
173・174のみ
0
1:3
10cm

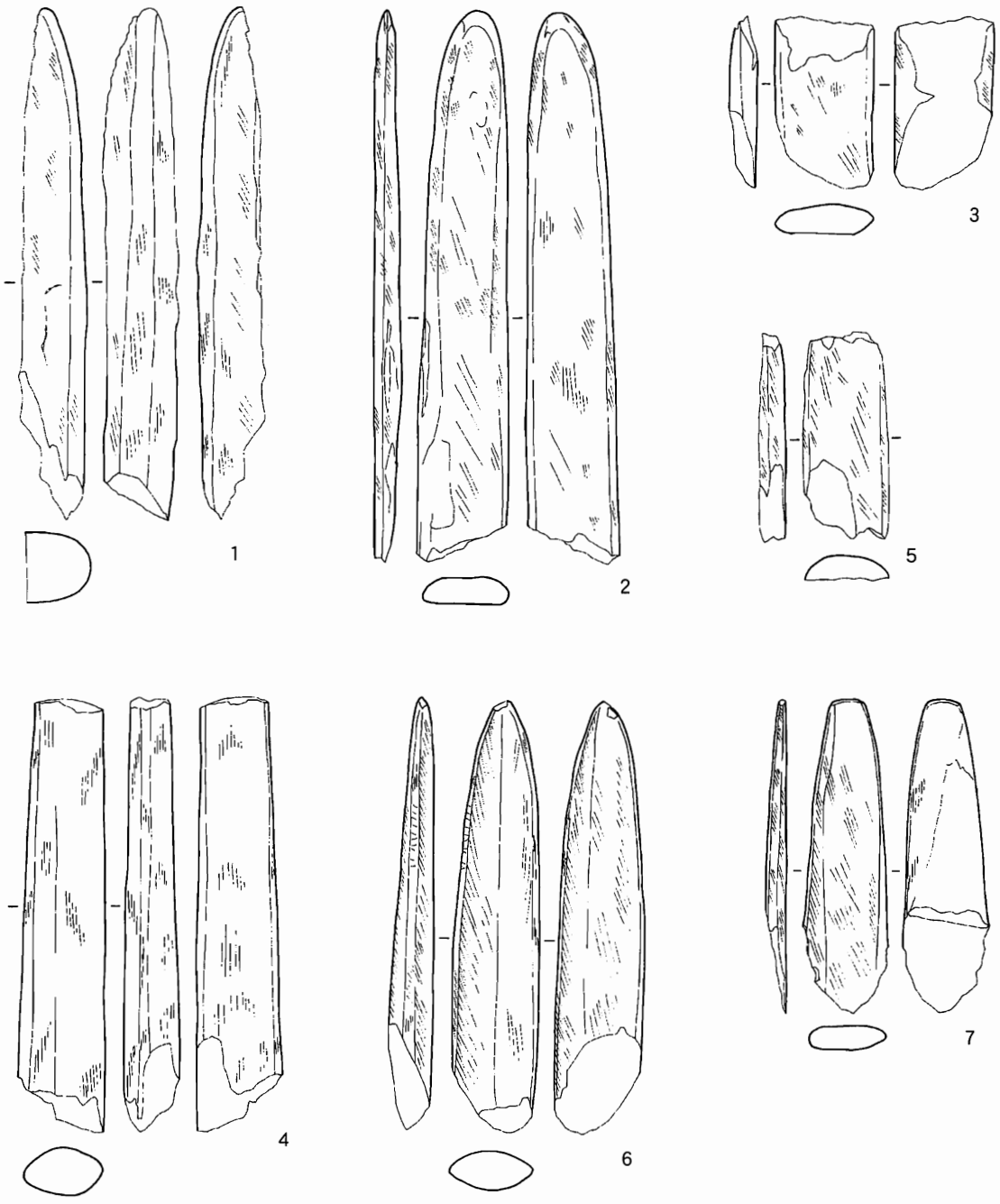
第118図　石器（3）



第119図　石器（4）

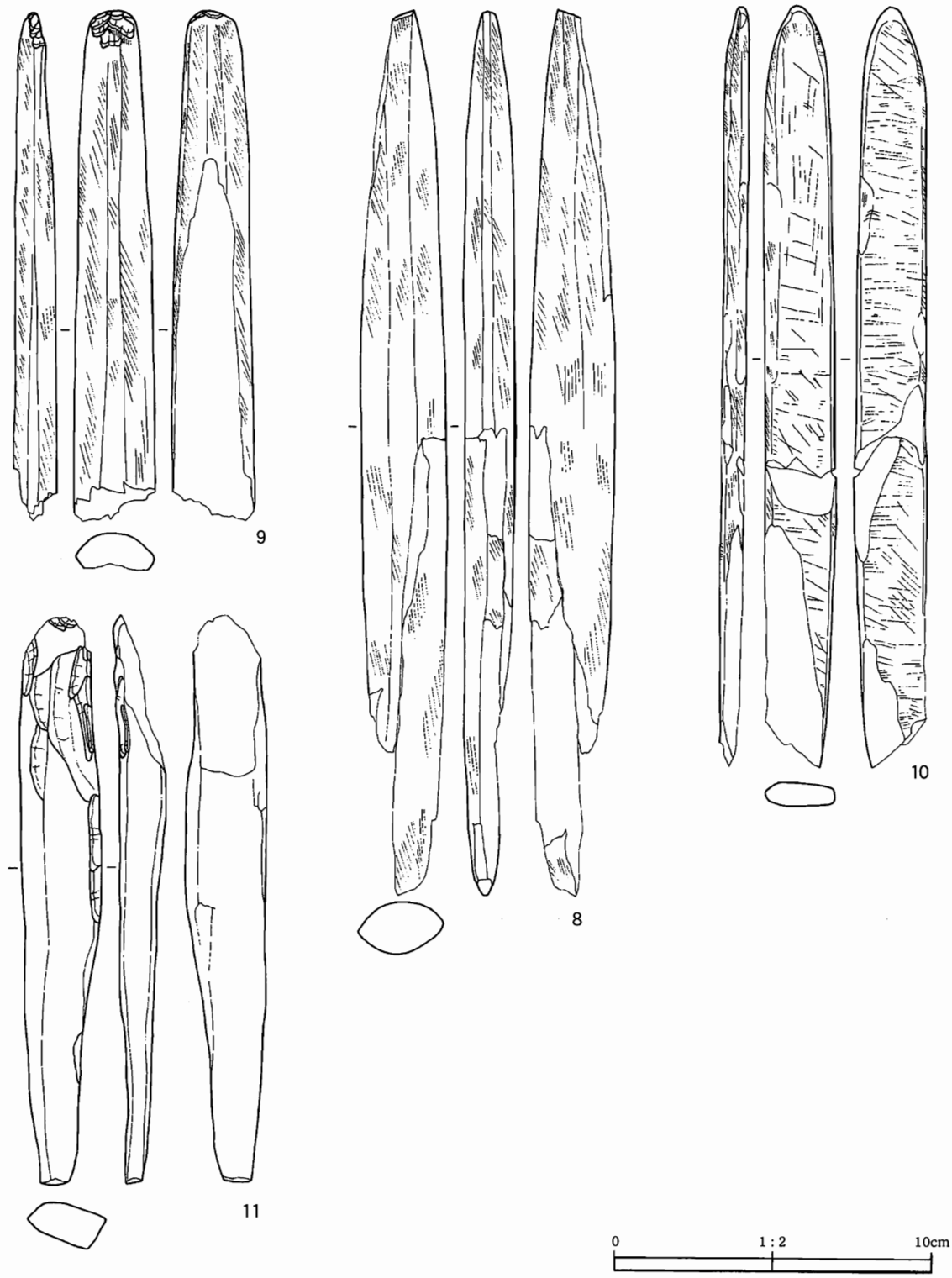


第120図　石器(5)



No.	種別	出土地点・層位	最大計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	石質	残存状況	備考	本文記載
1	石剣類（厚い）	21B③・Ⅱ（Ⅲa）層	(15.00)	(2.00)	2.00	89.18	粘板岩(北上)	縦割れ欠損	表面擦痕	
2	石剣類	21C②・Ⅱ層	16.15	2.70	0.75	51.80	粘板岩(北上)	欠損		
3	石剣類	22B①・Ⅰ～Ⅲ層	(5.05)	2.90	(0.85)	15.97	砂岩(北上)	破片		
4	石剣類(やや厚)	22B②・Ⅰ～Ⅱ層	12.60	2.50	1.60	74.99	粘板岩(北上)	両端欠損	表面スス？付着・上の割れ口切断？	
5	石剣類	22B③・Ⅰ～Ⅲ層	5.10	2.50	(0.70)	16.82	粘板岩(北上)	縦割れ破片	表面擦痕	
6	石剣類	22B③・Ⅰ～Ⅲ層	12.60	2.50	1.30	55.50	粘板岩(北上)	欠損	表面擦痕多い	
7	石剣類	23B②・Ⅰ～Ⅱ層	9.15	2.50	0.65	19.99	粘板岩(北上)	欠損・剥落	表面擦痕多い	

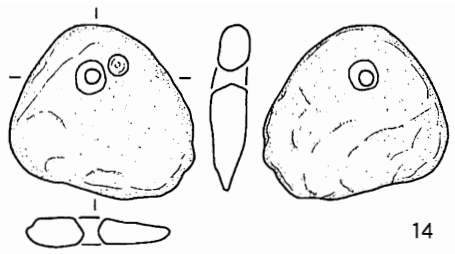
第121図　石製品（1）



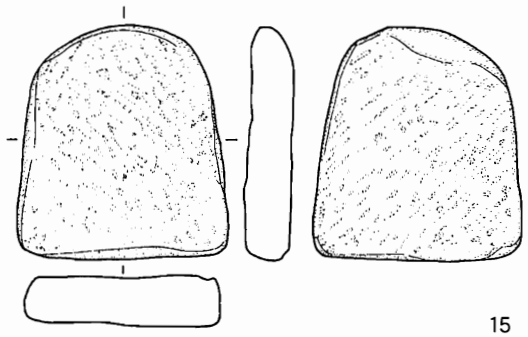
No	種別	出土地点・層位	最大計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	石質	残存状況	備考	本文記載
8	石剣類	23B③・Ⅲa層？	27.75	2.70	1.60	156.22	粘板岩(北上)	縦割れ欠損	縦割れ二片接合・表面擦痕	
9	石剣類	23B③・Ⅲa層？	16.00	2.60	(0.90)	74.38	粘板岩(北上)	縦割れ欠損	先端切断痕？・表面擦痕	
10	石剣類	東部包含層ベルト・Ⅲa層、25C②・Ⅲa層	23.75	2.25	0.70	65.26	粘板岩(北上)	やや縦割れ欠損	二片接合・表面擦痕多い・角張る	
11	石剣類？	21C4b・10～20cm（茶褐色土）	17.80	2.70	1.50	66.54	粘板岩(北上)	欠損	未製品？・下端切断？	

第122図　石製品(2)

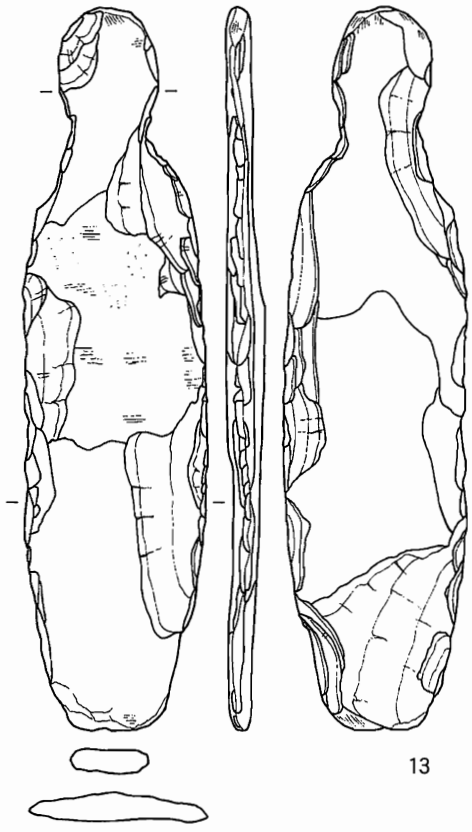
12



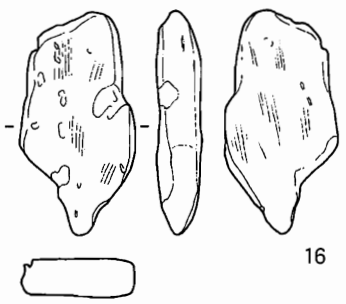
14



15



13



16

0 1:2 10cm

No.	種別	出土地点・層位	最大計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	石質	残存状況	備考	本文記載
12	石剣類？	25C②・Ⅲa層	13.70	1.20	0.80	22.75	粘板岩(北上)	欠損	未製品？？	
13	不明	23B③・Ⅲa層？	19.00	4.95	1.10	105.30	粘板岩(北上)		打製石斧の一種？	
14	垂飾品？	21B4e・10～20cm	4.50	5.00	1.00	22.42	玢岩(北上)		貫通孔の隣に未貫通孔・表面加工なし	
15	未製品？	23B①？・Ⅰ～Ⅲ層	6.15	5.60	1.35	11.24	軽石(奥羽)	完形品	表面研磨加工	
16	軽石	21B③・Ⅲ(Ⅲb)層	4.80	3.10	1.10	4.33	軽石(奥羽)		未加工	

第123図　石製品(3)

写　真　図　版

遺跡遠景（北東上空から）

調査区全景（北側上空から）

写真図版１　遺跡遠景・調査区全景

調査前風景（南西から）

調査前風景（東から）

遺跡遠景（東から）

遺跡遠景（北西から）

調査区西部

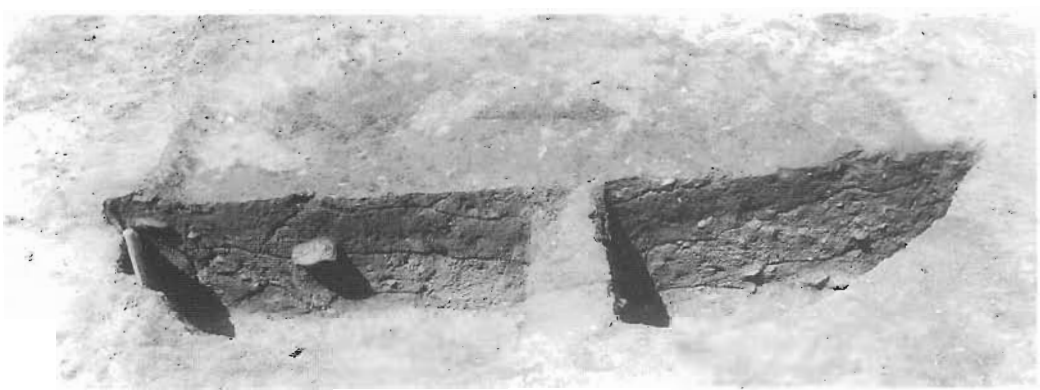
調査区中央部

調査区東部崖斜面

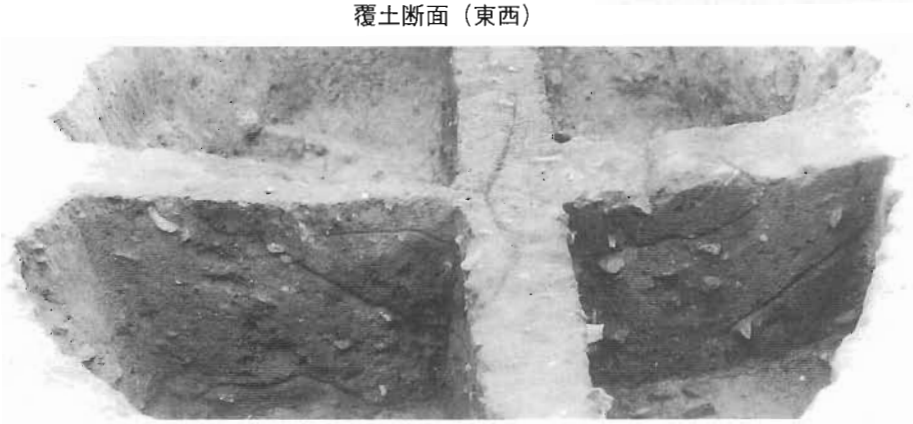
調査区東部

写真図版２　調査前風景・調査区地形

第１号住居状遺構全景



覆土断面（東西）



覆土断面（南北）

写真図版３　第１号住居状遺構（１）

中央柱穴断面

周辺の地形

東端土坑集中区検出状況

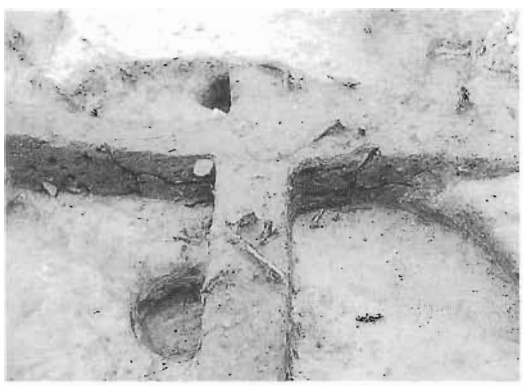
東端土坑集中区堀り上がり

第１号土坑

第２、３号土坑重複状況

写真図版４　第１号住居状遺構（２）・東端土坑集中区、第１号土坑～第２、３号土坑（１）

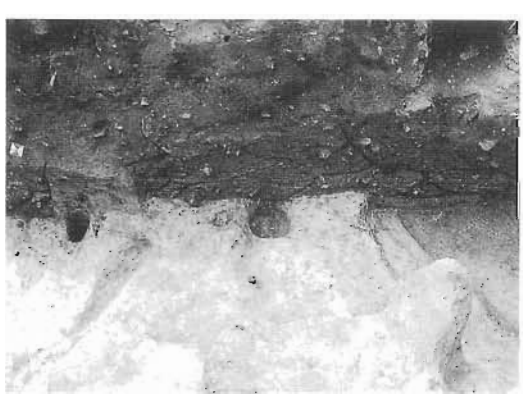
第２号土坑平面（左は北から、右は南から）



東西断面

南北断面

第３号土坑



第４号土坑平面

第５号土坑平面

写真図版５　第２、３号土坑（２）～第４、５土坑（１）

第４、５号土坑断面

第５～７号土坑断面

第６号土坑

第７号土坑

東西断面

南北断面

周辺の地形

写真図版６　第４、５号土坑(2)～第７号土坑

第８～10、11、13号土坑全景

第８号土坑平面

東西断面

南北断面

第９号土坑平面

写真図版７　第８号土坑～第９、10号土坑（１）

第10号土坑平面

第９、10号土坑東西断面

第９、10号土坑南北断面

左の裏側断面

第10号土坑副穴

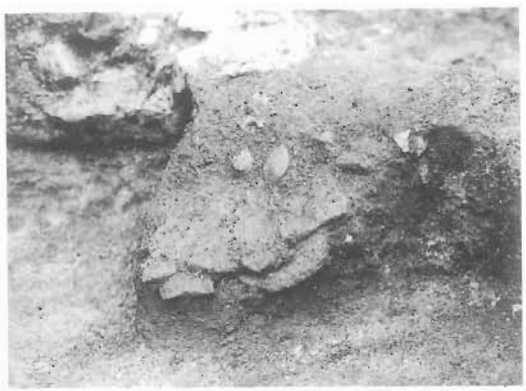
第11号土坑平面

断面

土器出土状況（遠景）

写真図版８　第９、10号土坑（２）～第11号土坑（１）

同（近景）



同（横から）

第12号土坑平面

断面

土器出土状況（遠景）

同（近景）

同（近景）

同（横から）

写真図版９　第11号土坑（２）～第12号土坑（１）

第11、12、25号土坑重複状況

第11、12号土坑断面

第12、25号土坑（断面）

第13号土坑平面

第11～13号土坑重複状況（１）

写真図版10　第12号土坑（２）～第13号土坑（１）

第11～13号土坑重複状況（２）

第13号土器出土状況（１）(遠景)

同（横から）

同（左がａ、右がｂ土器）

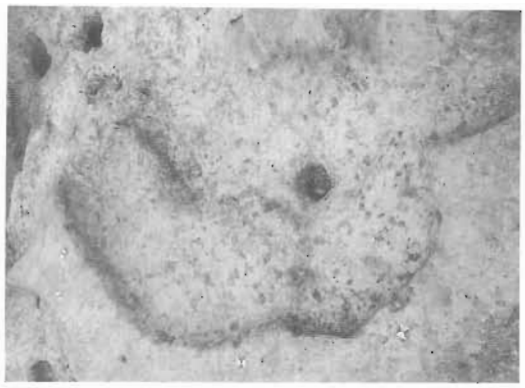
同（横から）

第13号土器出土状況（２）(遠景)

同（横から）

同（近景）

写真図版11　第13号土坑（２）



第14号土坑

第15号土坑

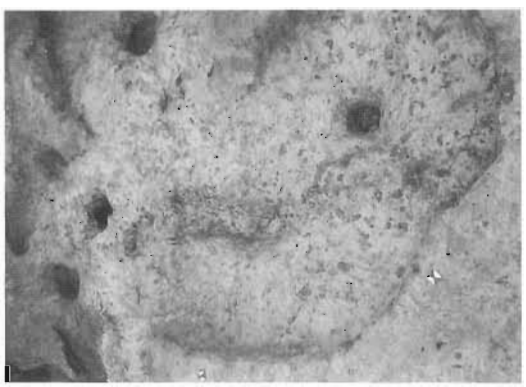
第16号土坑

第14、17、７、８号土坑断面（西から）

写真図版12　第14号土坑～第17号土坑（１）

第14号土坑断面

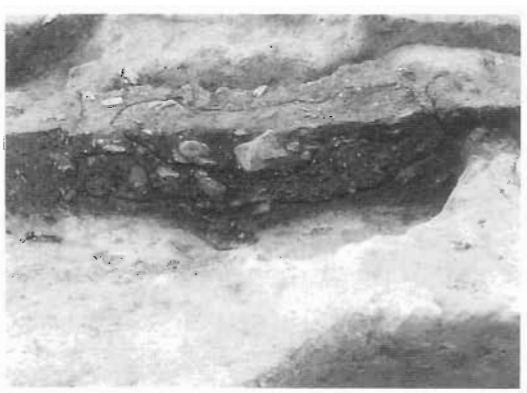
第17号土坑断面



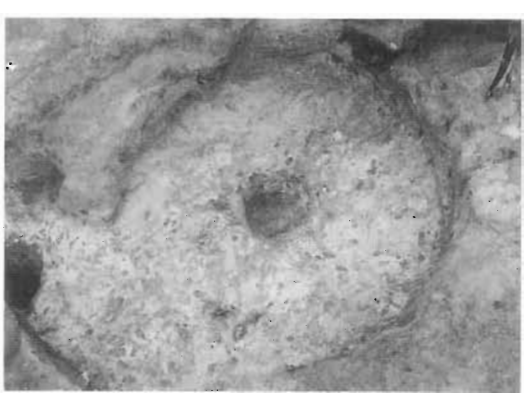
第17号土坑平面

南北断面

東西断面



第18号土坑断面



第18号土坑平面

東端崖下土坑集中区

写真図版13　第17号土坑(２)～第18号土坑

第19号土坑

第20号土坑

第21号土坑平面　　断面

土器出土状況（遠景）　　同（近景）

写真図版14　第19号土坑～第21号土坑（１）

第21号土坑ａ土器

同（横から）

同（近景）

第21号土坑ｂ、ｃ、ｄ土器（遠景西から）

同（近景）

同（横から）

第21号土坑ｃ土器（遠景）

同（近景）

写真図版15　第21号土坑（２）

同（横から）

第22号土坑周辺の地形

第22号土坑平面

南北断面

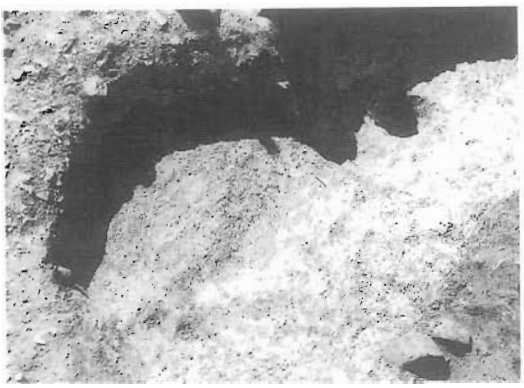
東西断面

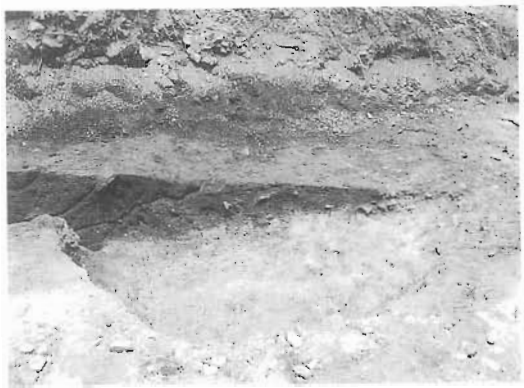
土器出土状況（遠景）

同（近景）

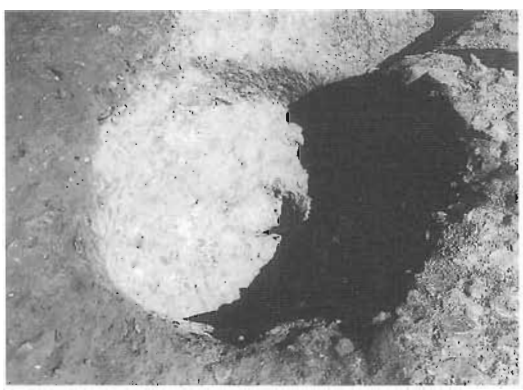
同（横から）

写真図版16　第21号土坑（３）～第22号土坑





第23号土坑



第24号土坑平面

断面

焼土検出状況（遠景）

同（近景）

同断面

第25号土坑平面

写真図版17　第23号土坑～第25号土坑（１）

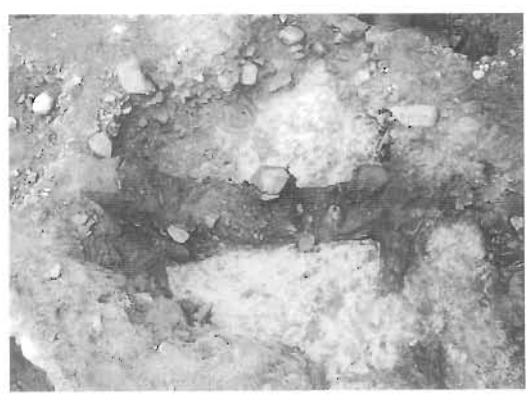
断面

焼土検出状況

焼土断面

第26号土坑平面

断面



土器出土状況（遠景）

同（近景、左がａ、右がｂ土器）

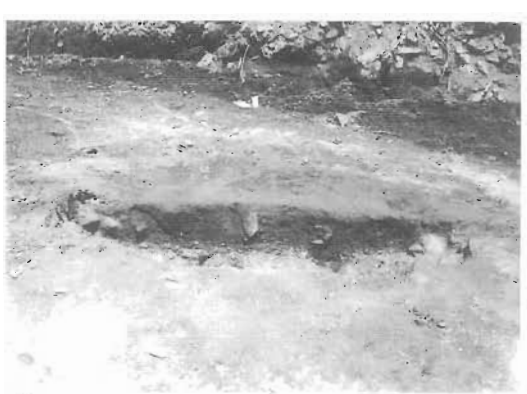
同（横から）

写真図版18　第25号土坑（２）～第26号土坑

第27号土坑

第28号土坑

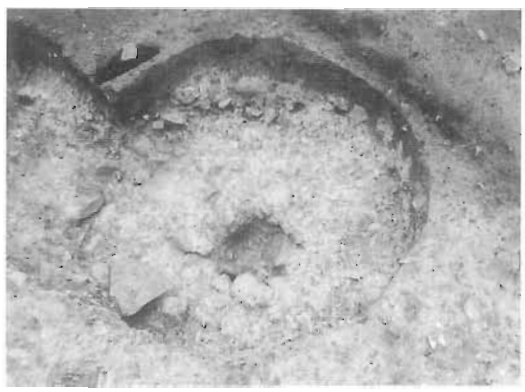
第29号土坑



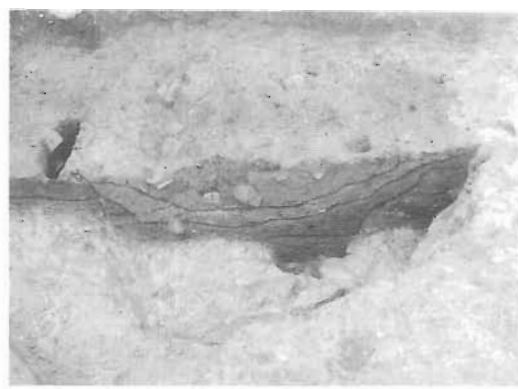
第30号土坑

写真図版19　第27号土坑～第30号土坑

第31号土坑

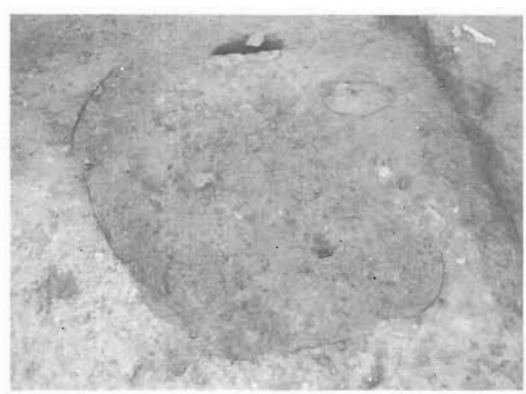


第32号土坑平面



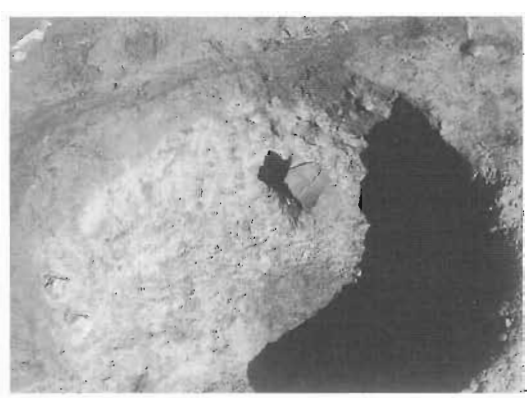
断面

焼土検出状況（１）



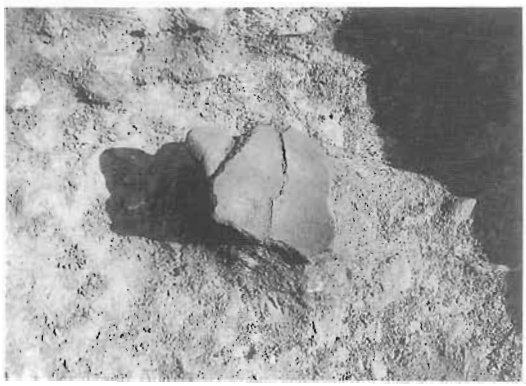
焼土検出状況（２）

焼土断面

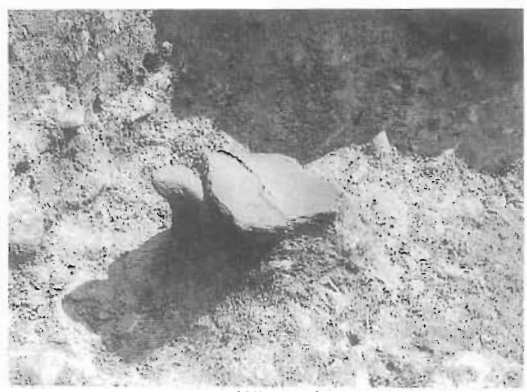


土器出土状況（遠景）

写真図版20　第31号土坑～第32号土坑（１）



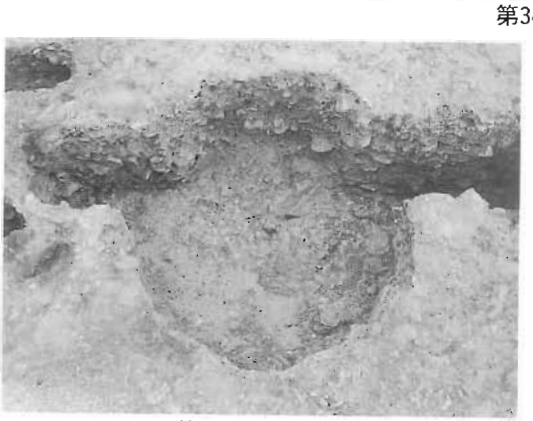
同（近景）



同（横から）

第33号土坑

第34号土坑



第35号土坑平面

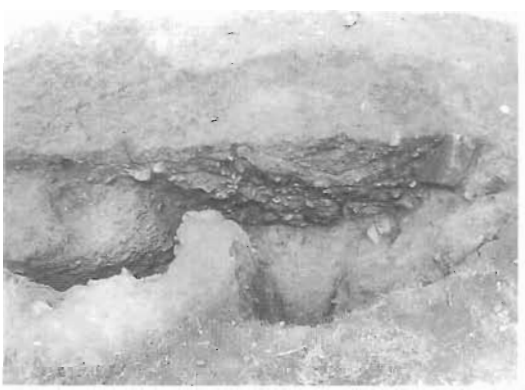
断面

写真図版21　第32号土坑（２）～第35号土坑（１）

焼土検出状況

焼土断面

第36号土坑平面

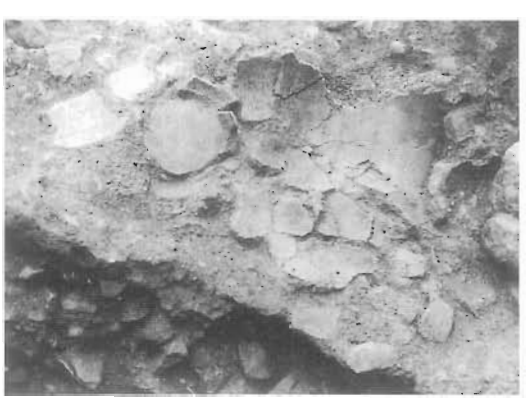


断面

土器出土状況（１）

同（横から）

土器出土状況（２）



同（近景）

写真図版22　第35号土坑（２）～第36号土坑（１）

同（横から）

第36号土坑２～７層土器出土状況

同（横から）

同（近景）

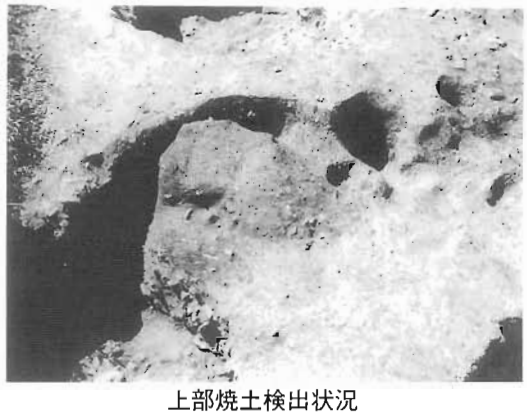
第36号土坑10層土器出土状況

同（近景）

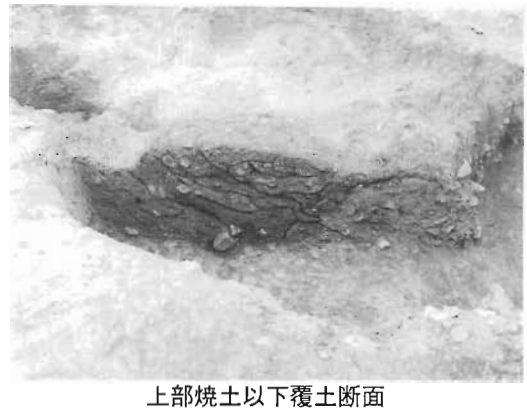
第37号土坑平面

上部焼土より上覆土断面

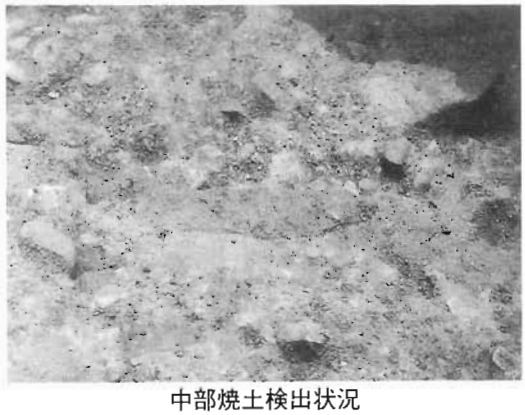
写真図版23　第36号土坑（２）～第37号土坑（１）



上部焼土検出状況



上部焼土以下覆土断面



中部焼土検出状況

周辺から出土した土器

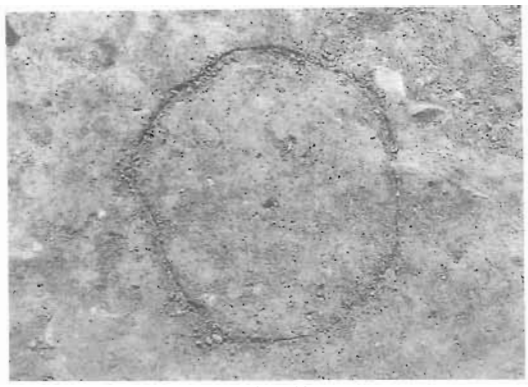
同（近景）

同（横から）

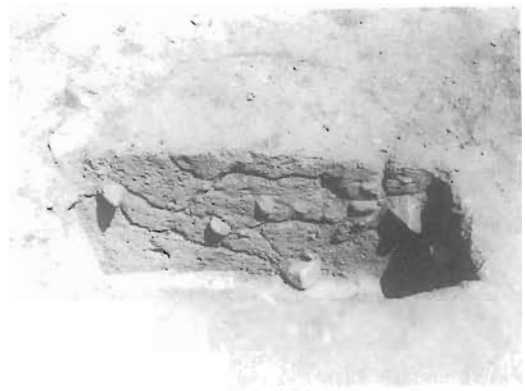
第38号土坑平面

断面

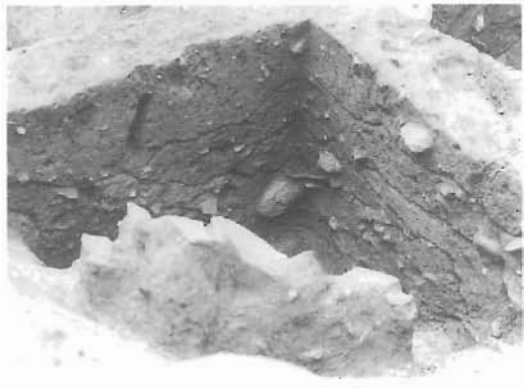
写真図版24　第37号土坑（２）～第38号土坑（１）



焼土検出状況

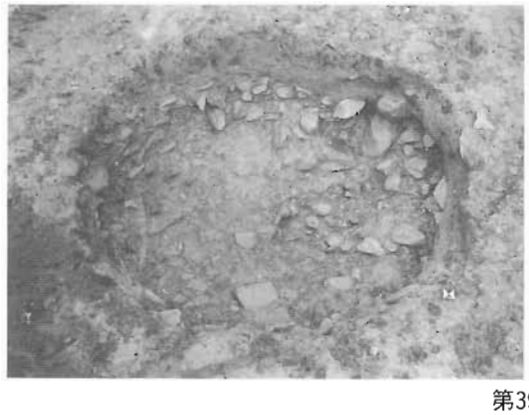


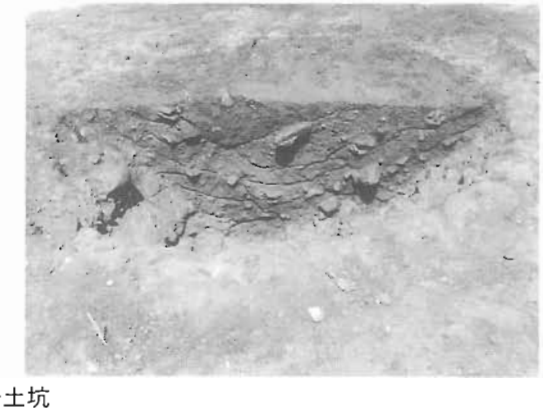
焼土断面



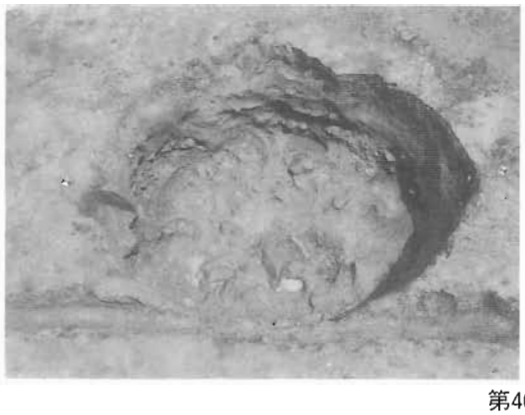
土器出土状況

同（近景）



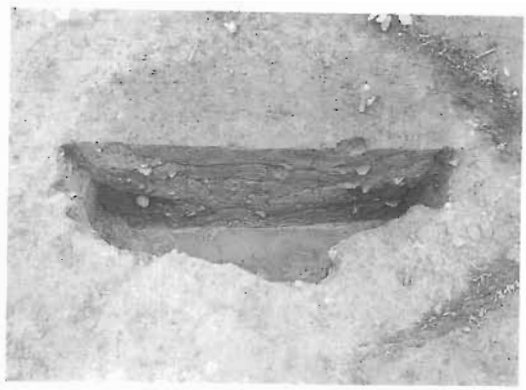


第39号土坑



第40号土坑

写真図版25　第38号土坑（２）～第40号土坑



第41号土坑

第42号土坑平面

東西断面

南北断面

第34号土坑との重複関係

第42号土坑 a～g 土器、石斧出土状況

写真図版26　第41号土坑～第42号土坑（１）

同（南から）

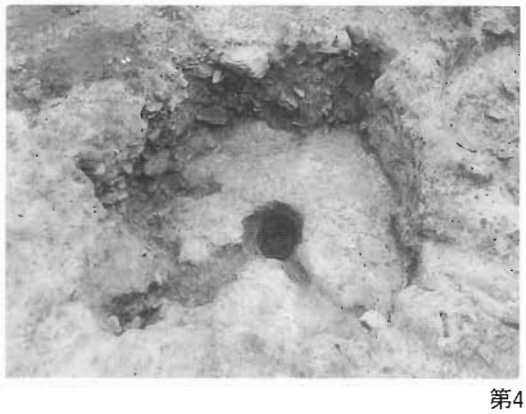
同（北から）

第42号土坑 i～k 土器出土状況

同（南から）

第42号土坑 3 層土器出土状況

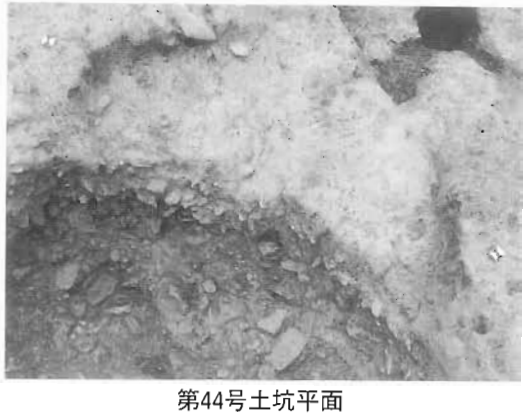
同（近景）



第43号土坑

写真図版27　第42号土坑（２）・第43号土坑

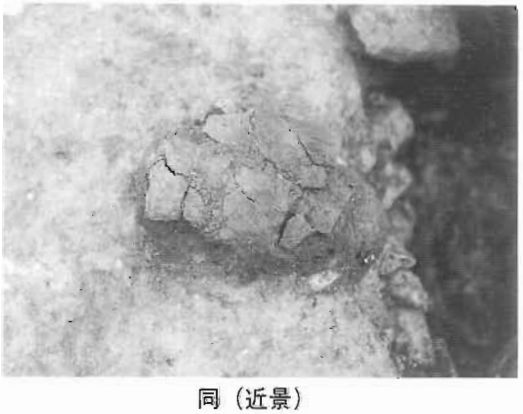
第43、44、42号土坑重複状況（西から）



第44号土坑平面

断面

土器出土状況



同（近景）

第45号土坑

写真図版28　第44号土坑～第45号土坑

第46号土坑

第1号溝跡平面

断面（1）

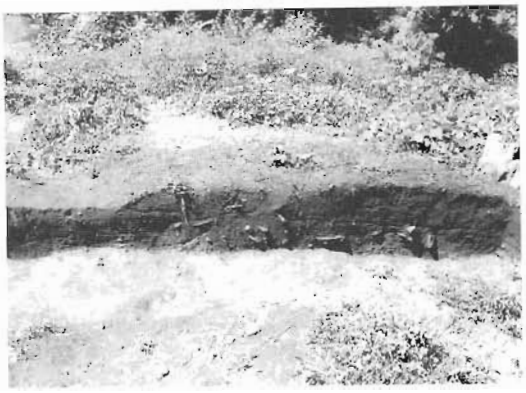
断面（2）

写真図版29　第46号土坑・溝跡

西側包含層断面（１）(上半)

西側包含層断面（１）(下半)

写真図版30　遺物包含層（１）



西側包含層断面（２）

西側包含層精査前

同掘り上がり

東側包含層断面（１）

写真図版31　遺物包含層（２）

東側包含層断面（２）

断面（２）の先端部分

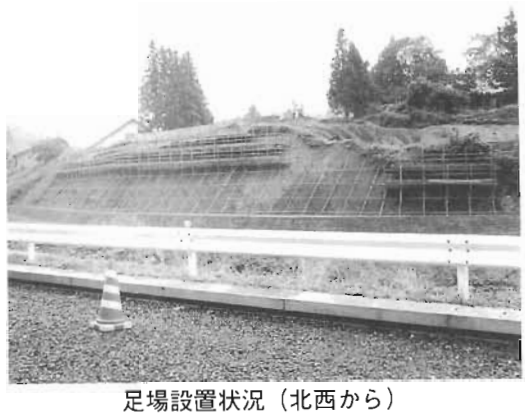
（１）の裏側断面（焼土検出部分）

焼土検出状況

精査風景（東から）

写真図版32　遺物包含層（３）

精査風景（東から）



足場設置状況（北西から）

同（東から）

同（近景）

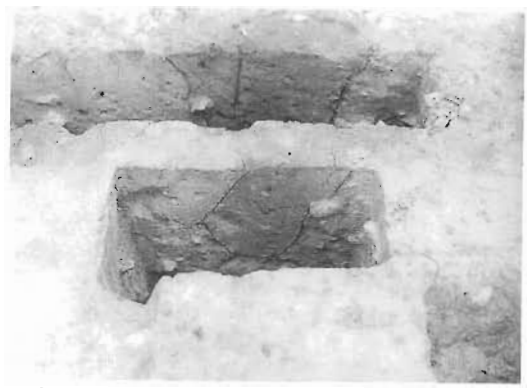
調査区中央平坦面

同覆土（北から）

同覆土（東から）

水路跡

写真図版33　遺物包含層（４）・近世の改変跡



柱穴状疑似現象

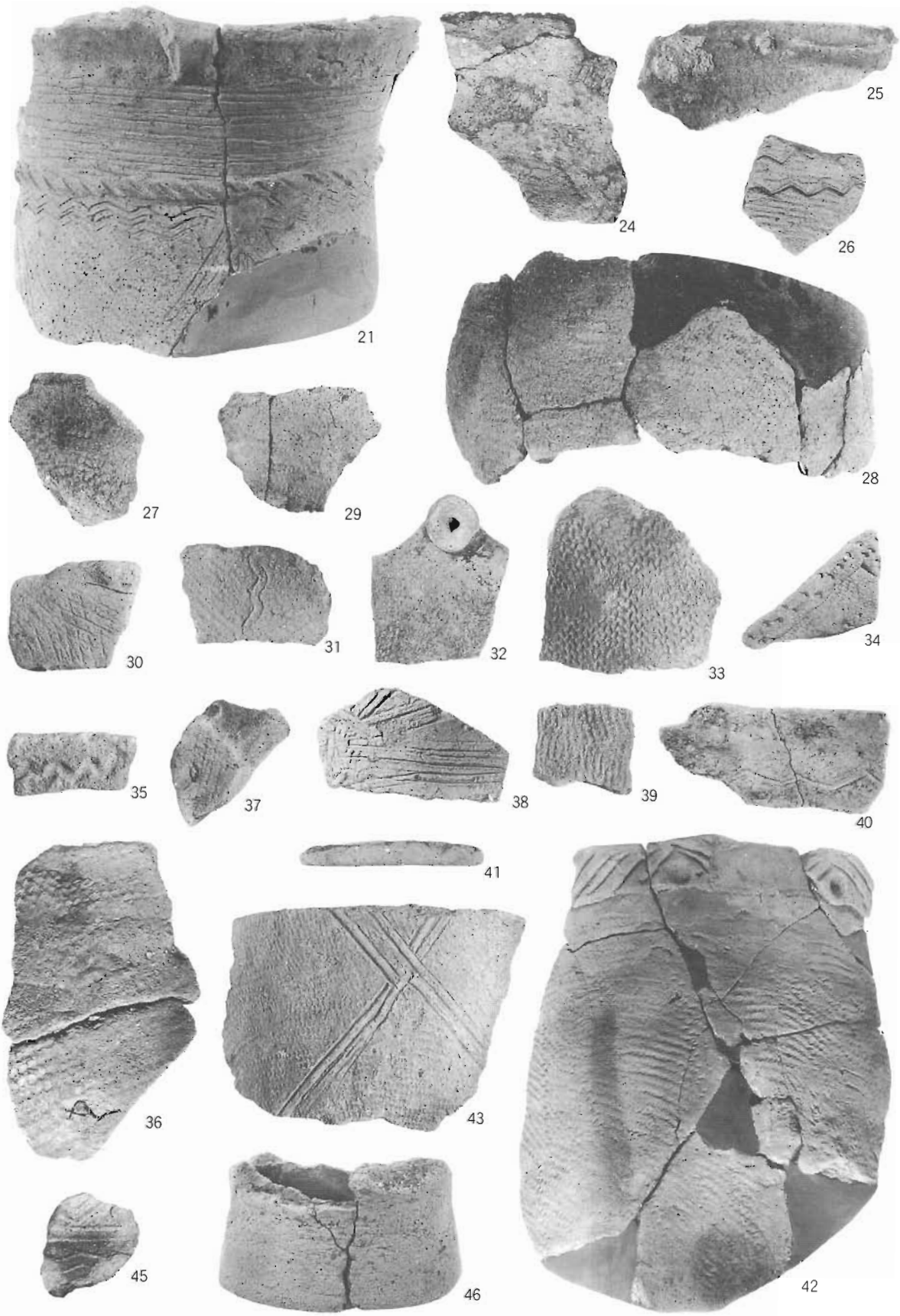
調査風景（東端）

調査風景（東～中央部）

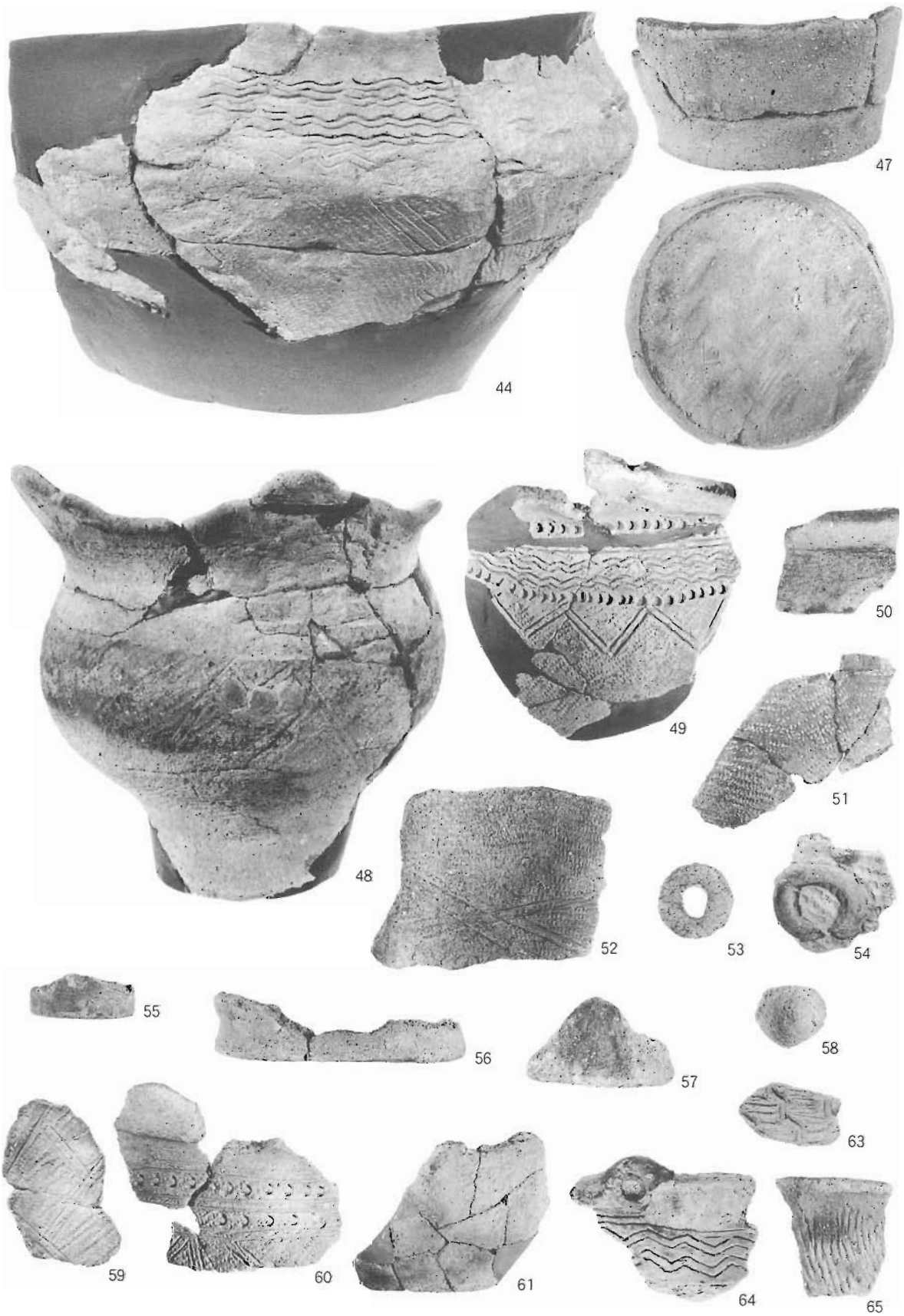
調査風景（中央部）

写真図版34　柱穴状疑似現象・調査風景

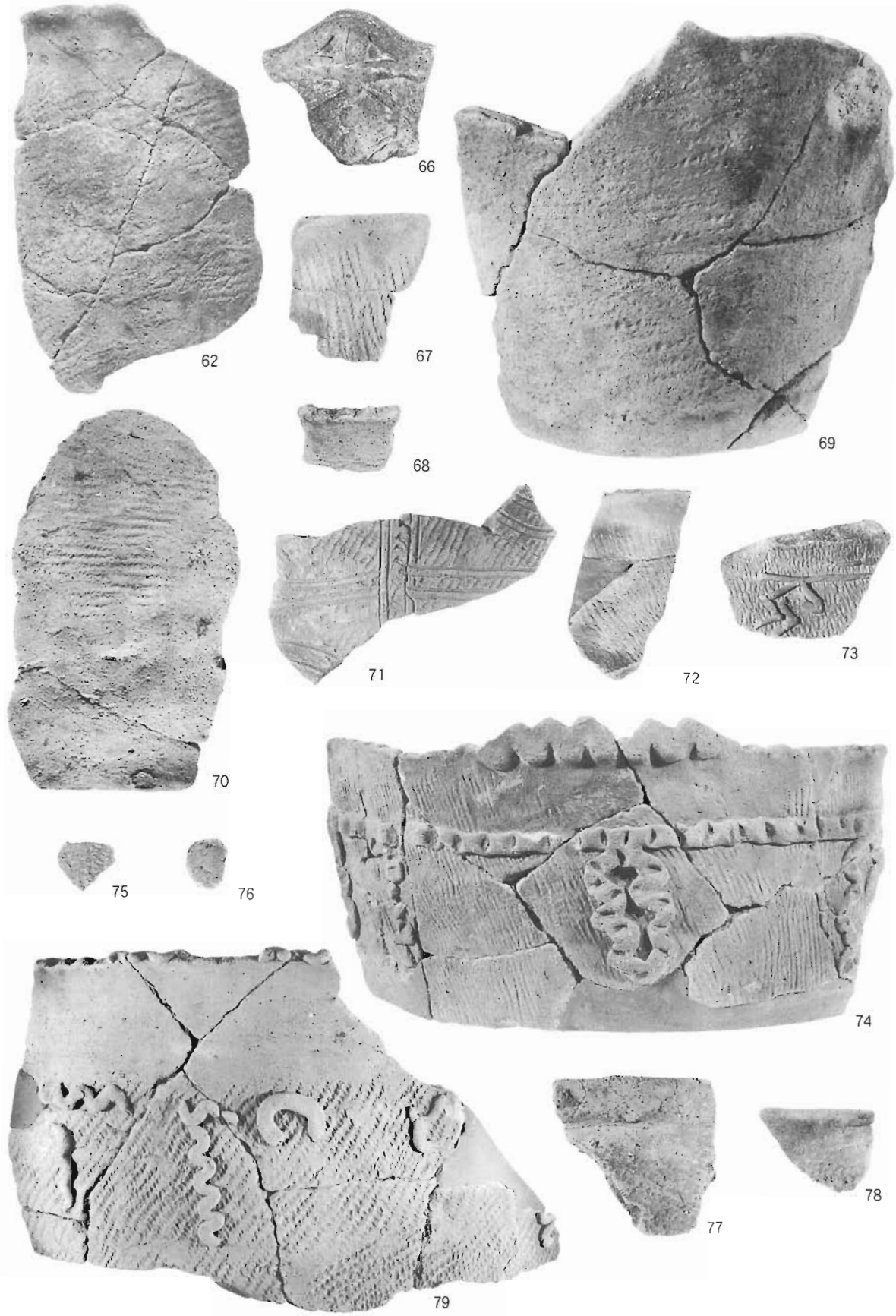
写真図版35　土器(1)(S＝$\frac{1}{3}$)



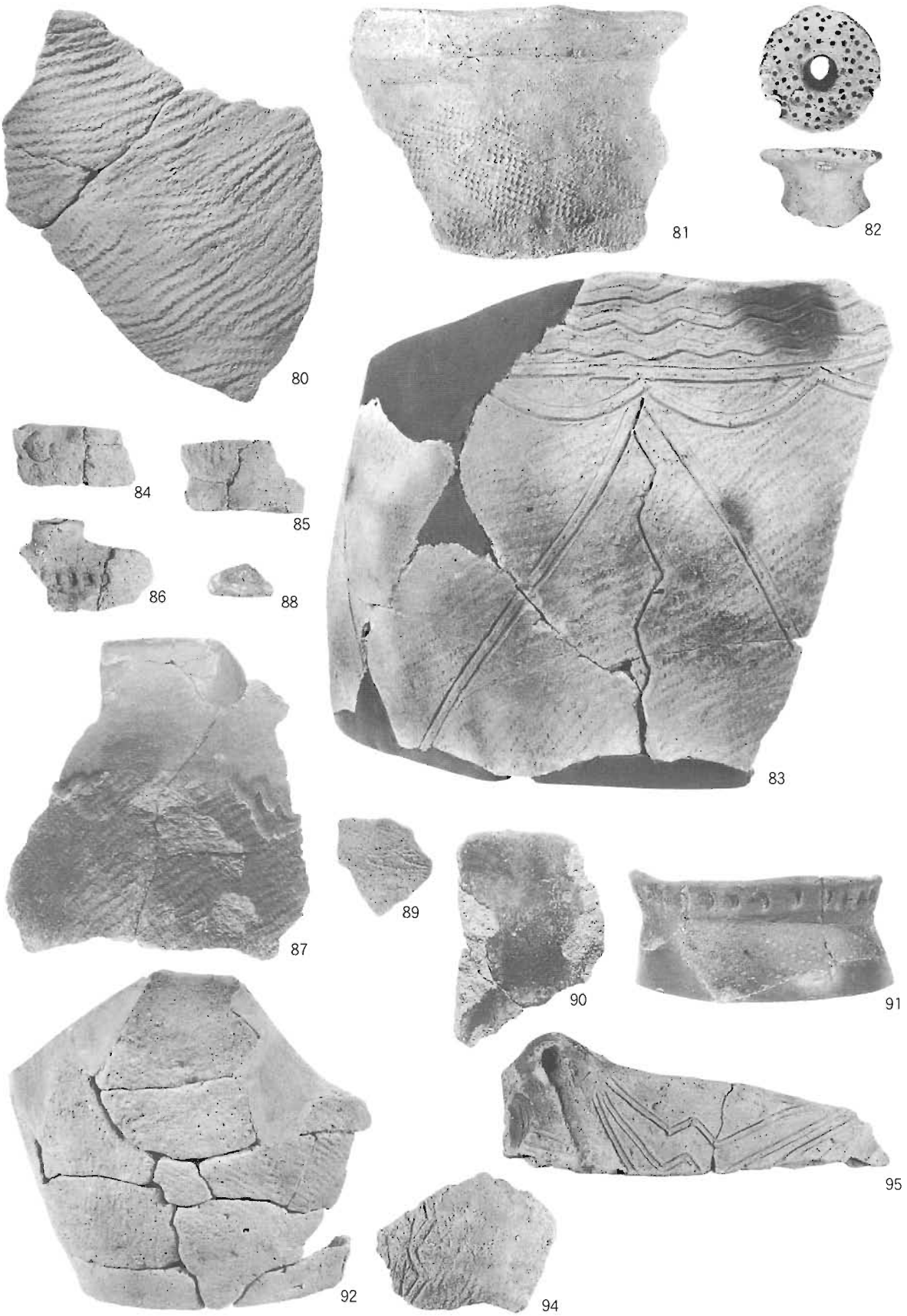
写真図版36　土器(２)(S＝$\frac{1}{3}$)



写真図版37　土器(3)(S＝$\frac{1}{3}$)

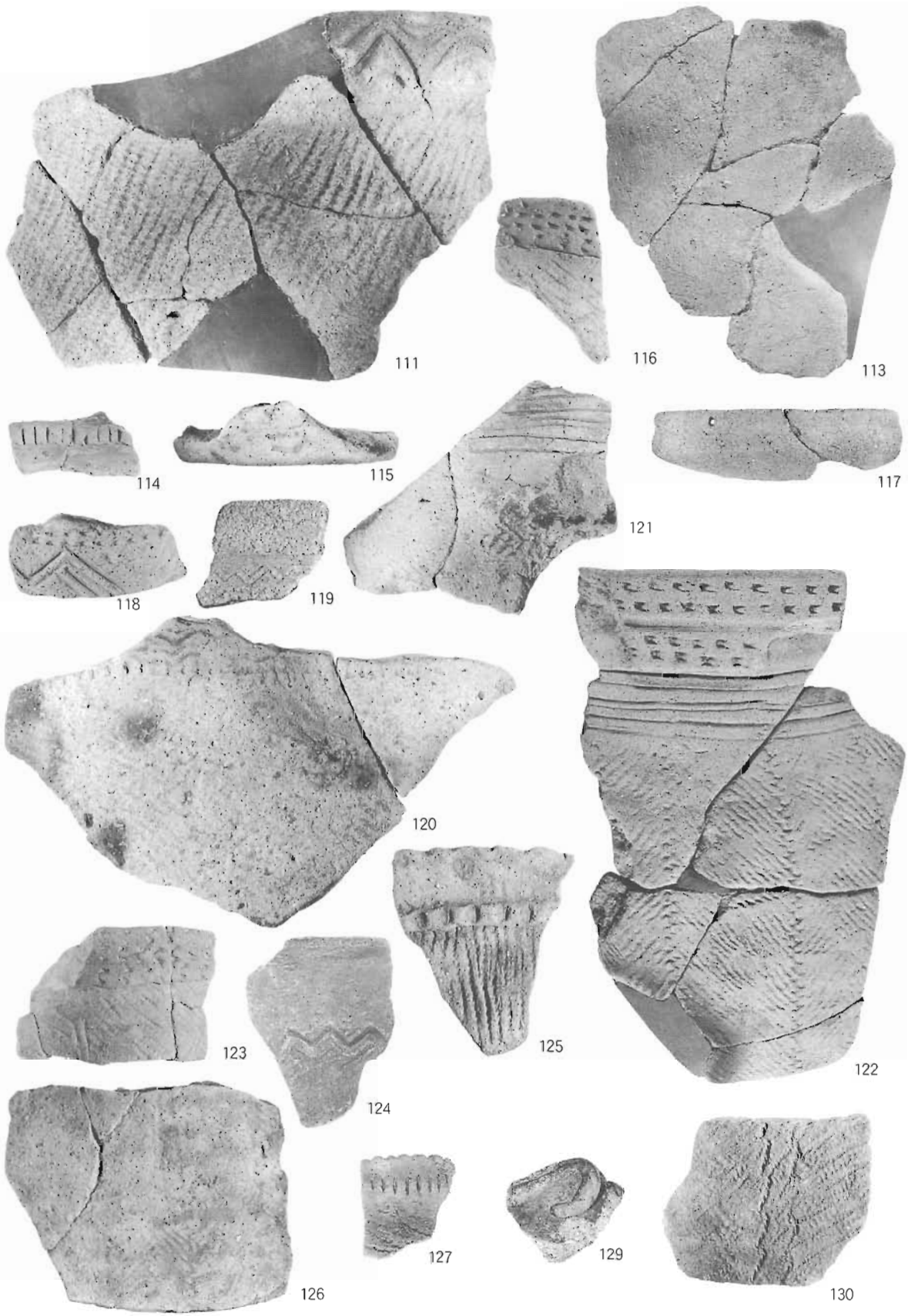


写真図版38　土器(4)(S＝$\frac{1}{3}$)



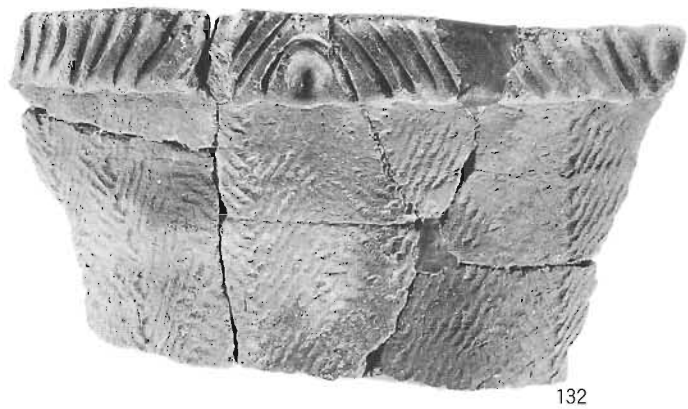
写真図版39　土器(5)(S＝$\frac{1}{3}$)

写真図版40　土器(6)(S＝$\frac{1}{3}$)



写真図版41　土器(7)(S＝$\frac{1}{3}$)

128


132

136

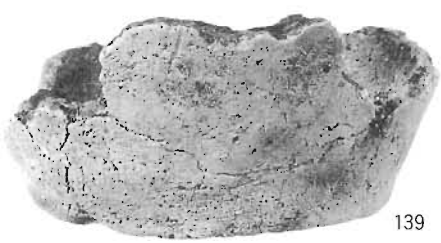
131

133

137

135

134

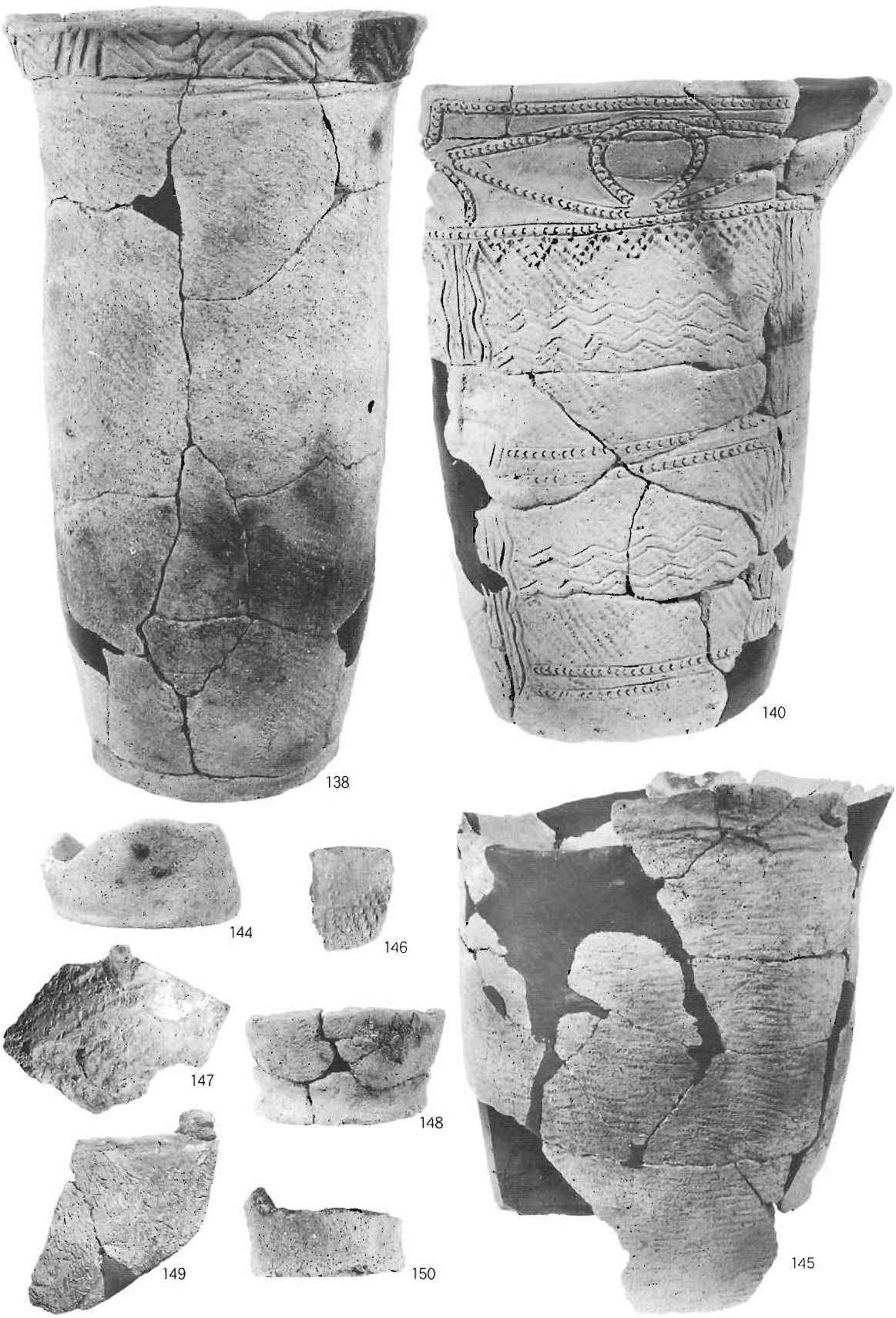

139

141

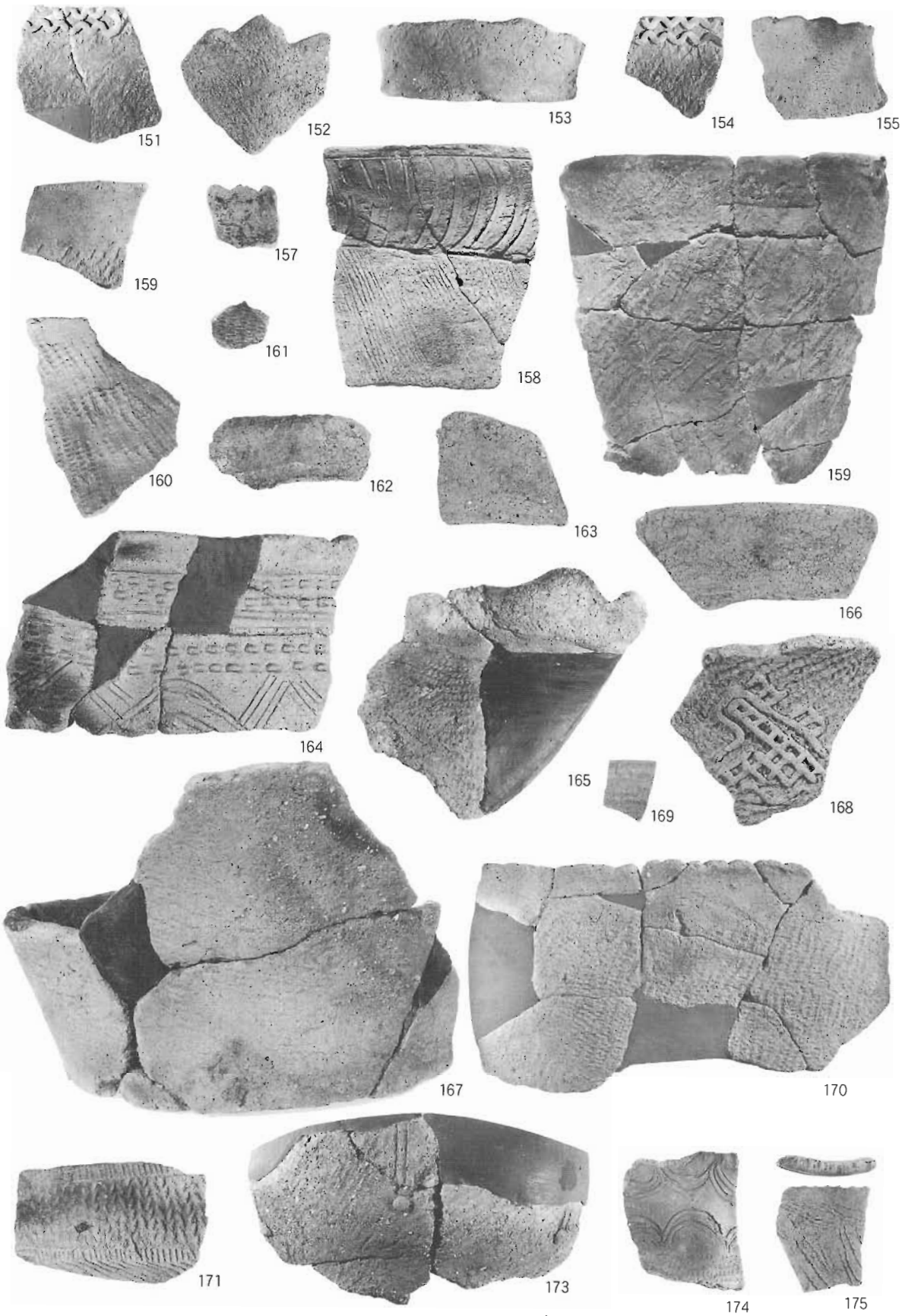
142

143

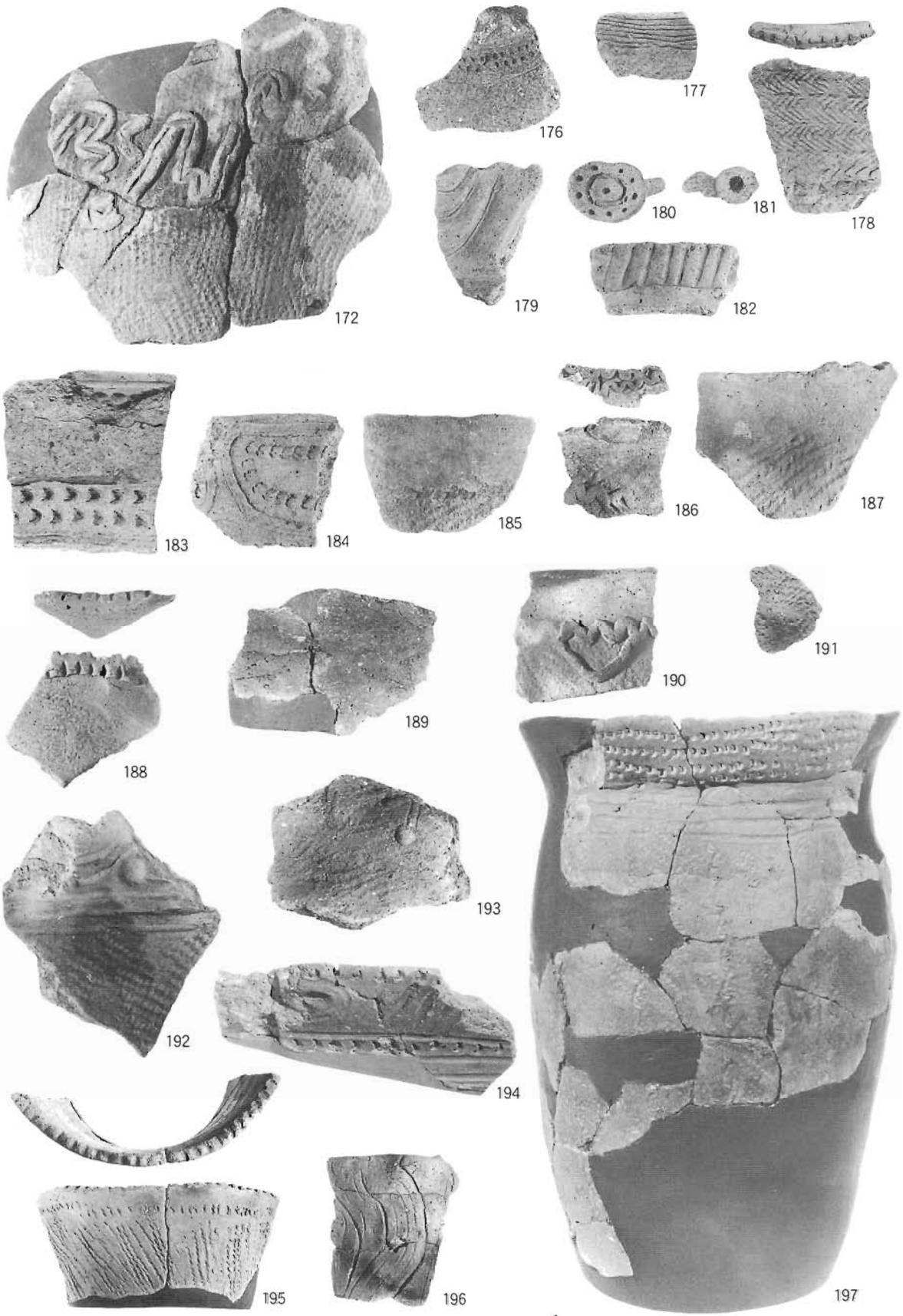
写真図版42　土器(８)(S＝$\frac{1}{3}$)



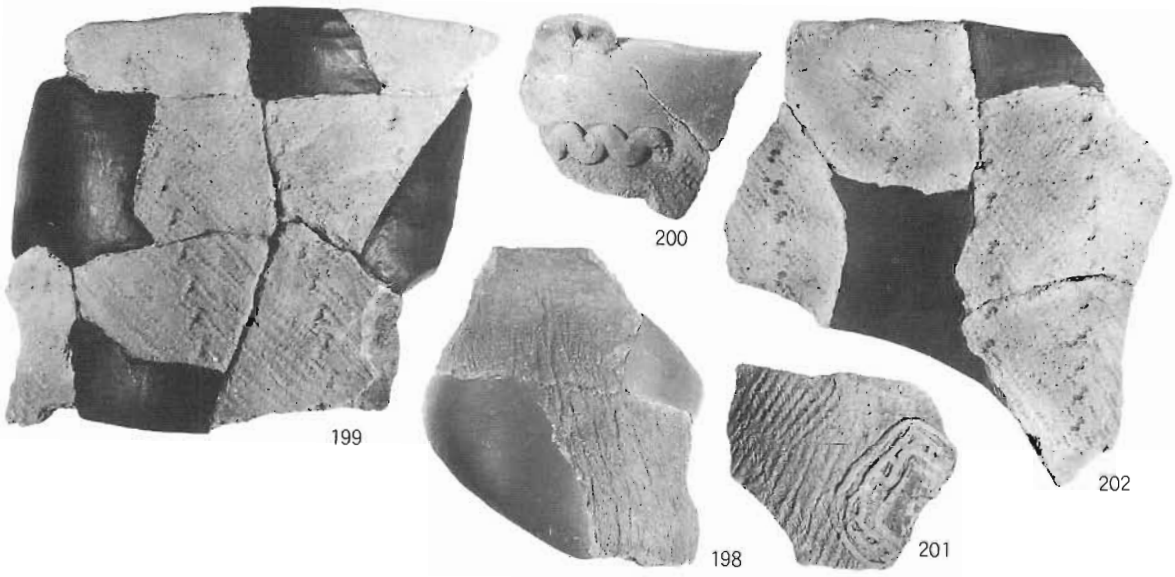
写真図版43　土器(9)(S＝$\frac{1}{3}$)



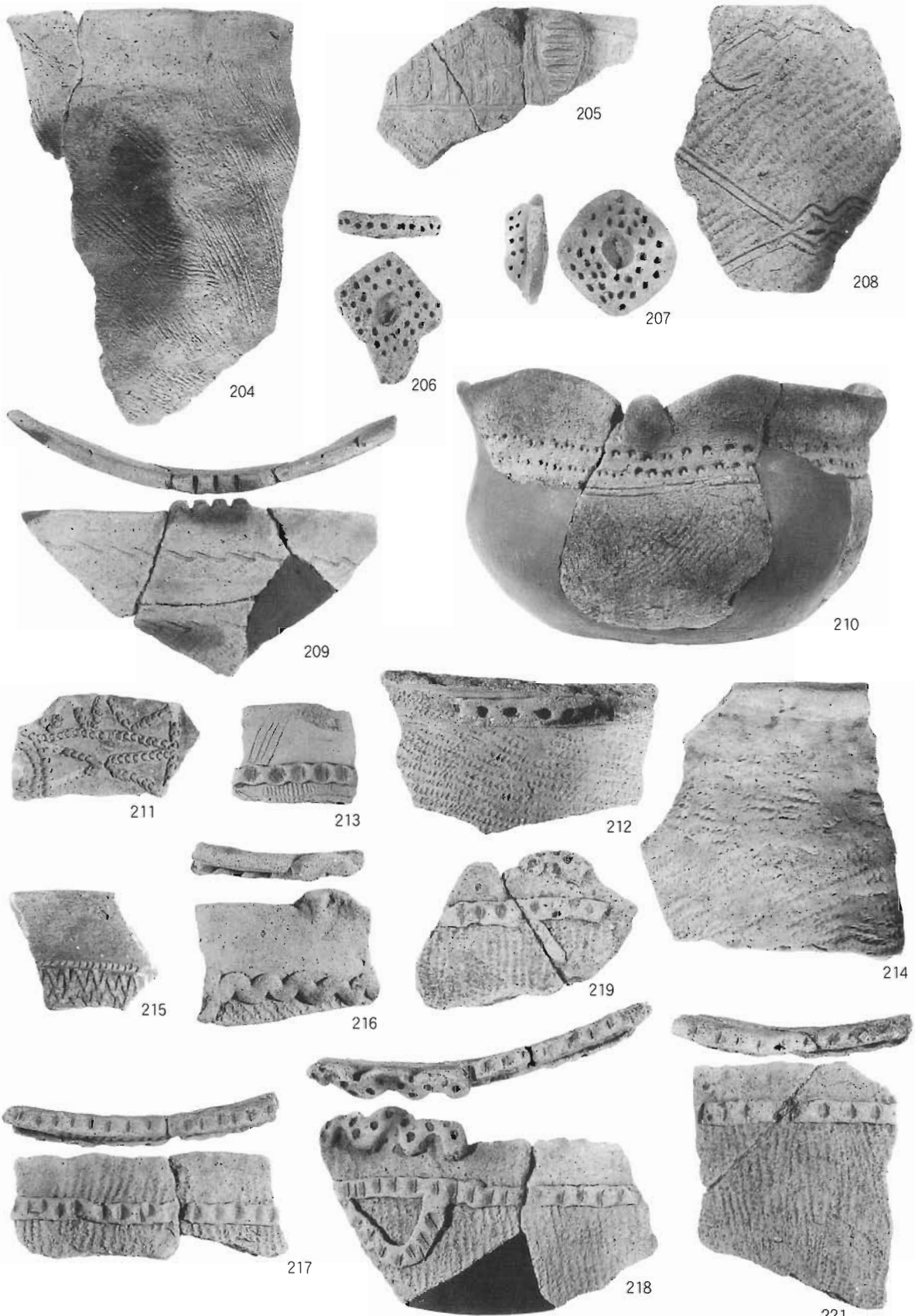
写真図版44　土器(10)(S＝$\frac{1}{3}$)



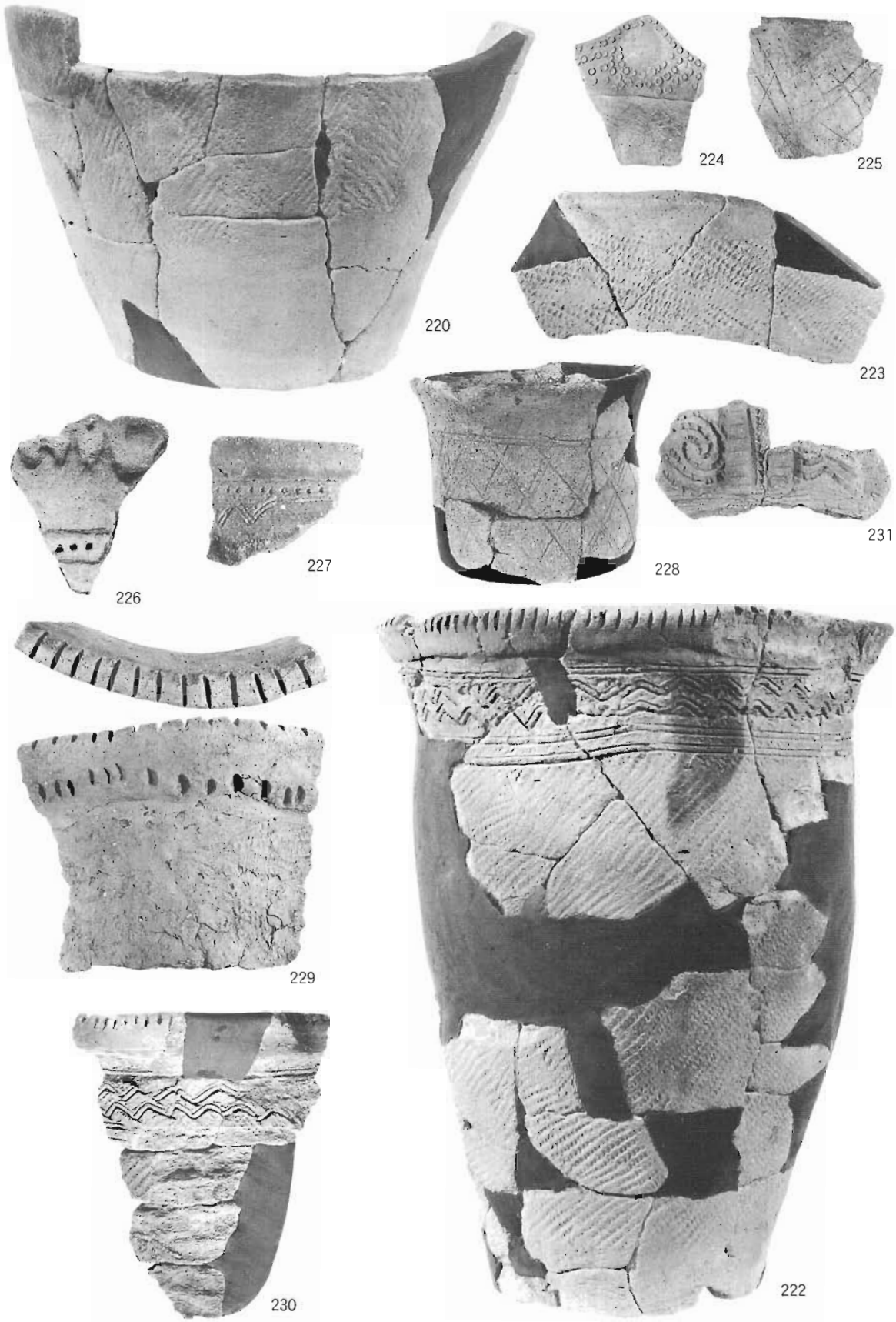
写真図版45　土器(11)(S＝$\frac{1}{3}$)



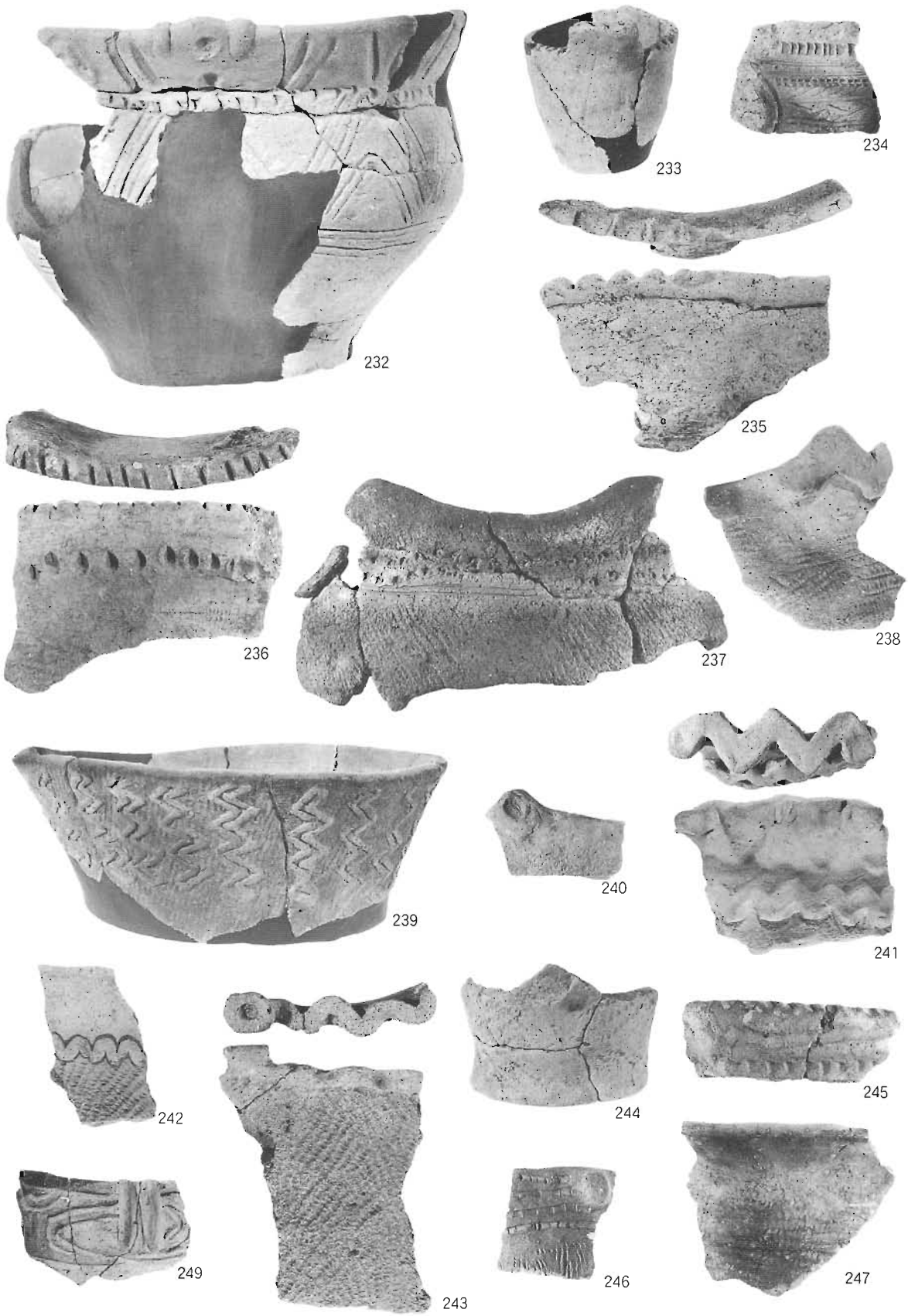
写真図版46　土器(12)(S＝$\frac{1}{3}$)



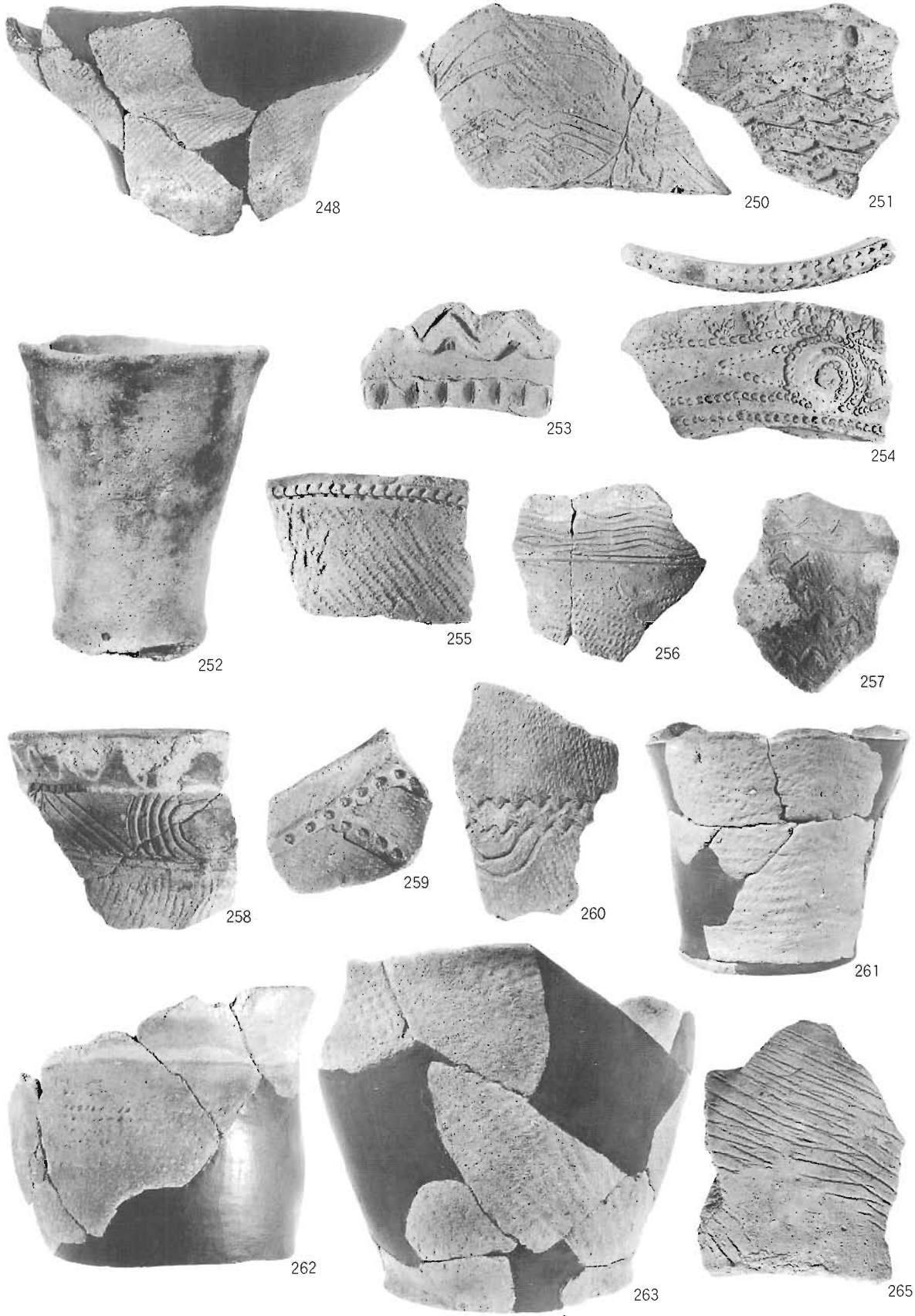
写真図版47　土器(13)(S＝$\frac{1}{3}$)



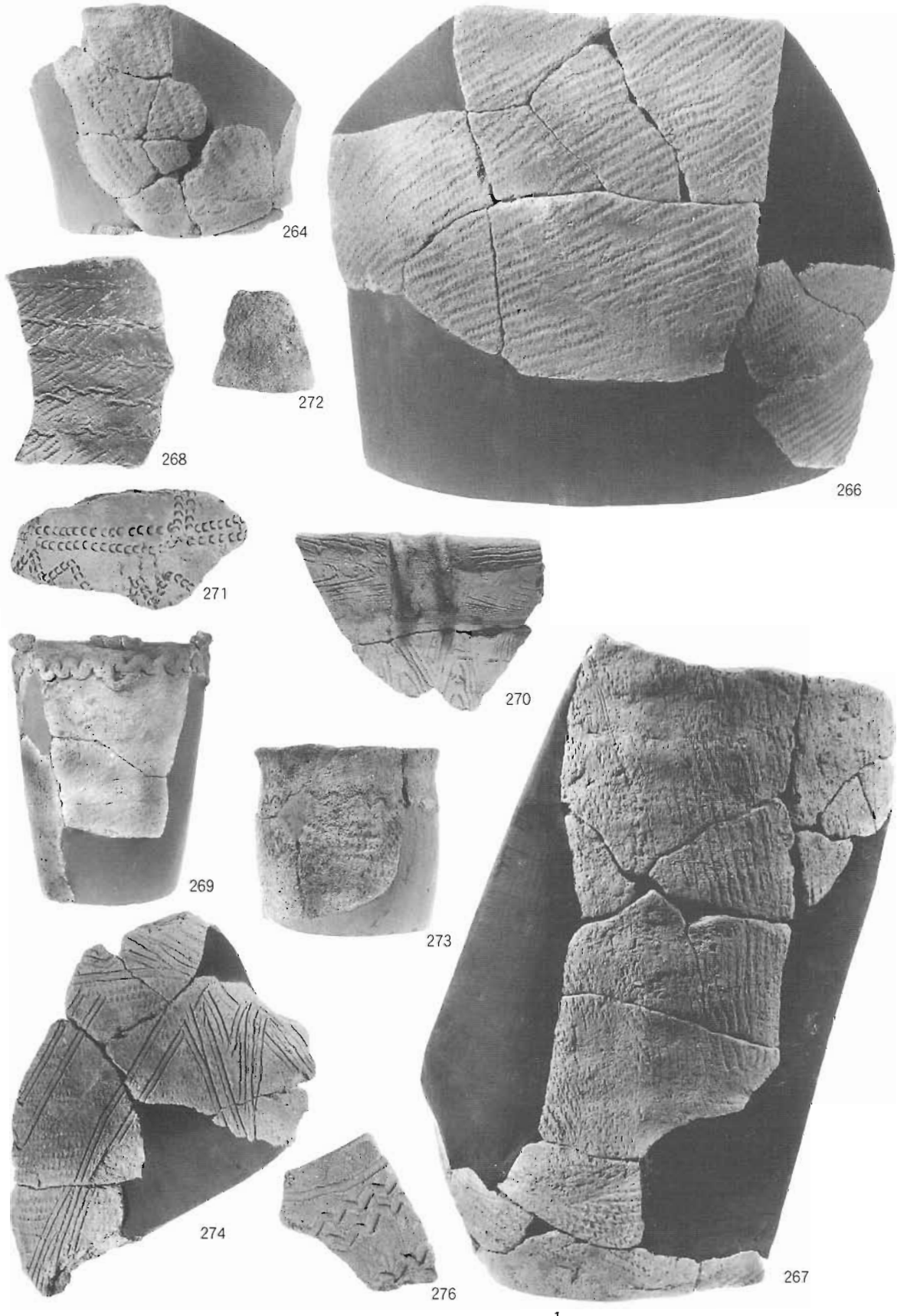
写真図版48　土器(14)(S＝$\frac{1}{3}$)



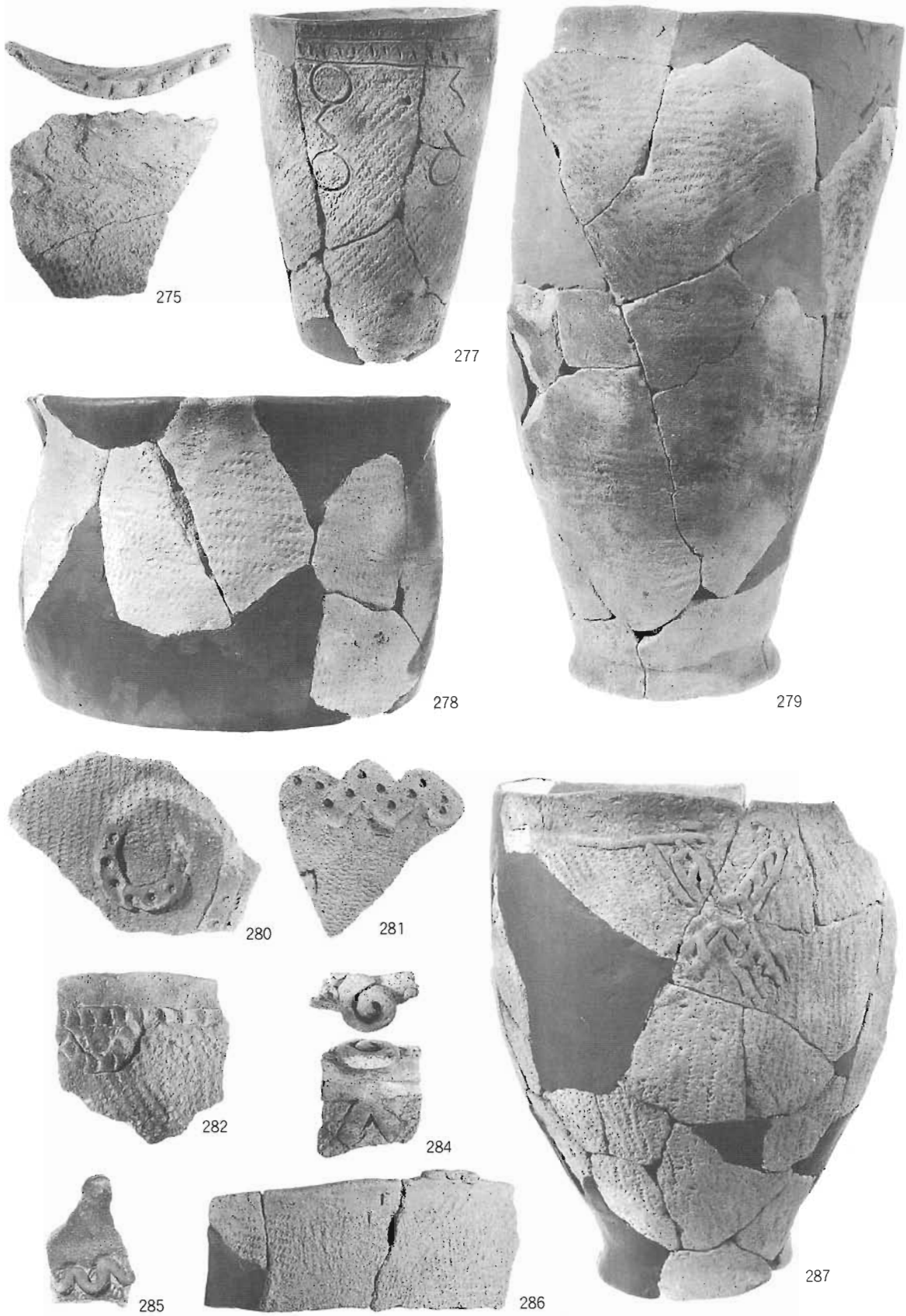
写真図版49　土器(15)(S＝$\frac{1}{3}$)



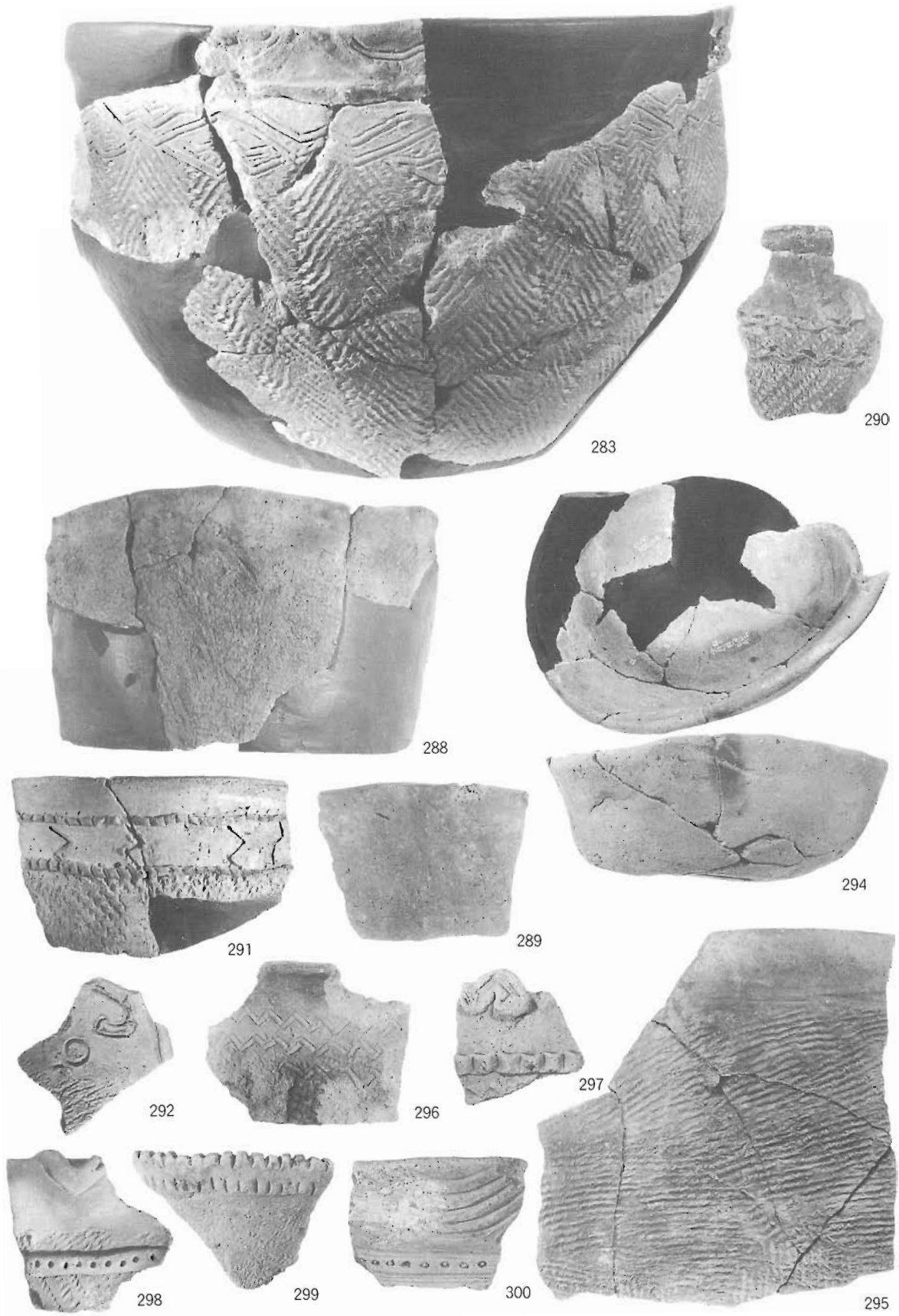
写真図版50　土器(16)(S＝$\frac{1}{3}$)



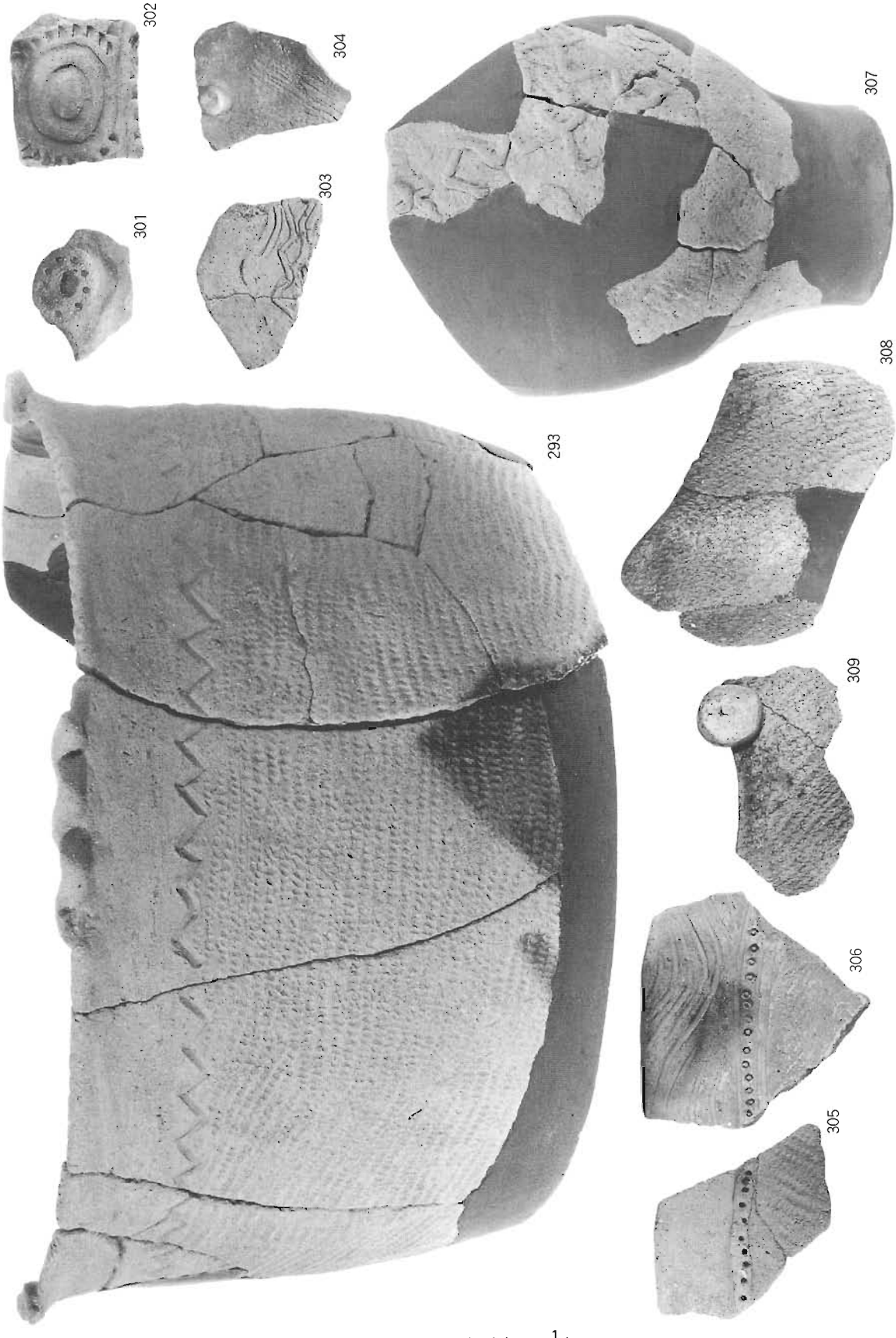
写真図版51　土器(17)(S＝$\frac{1}{3}$)



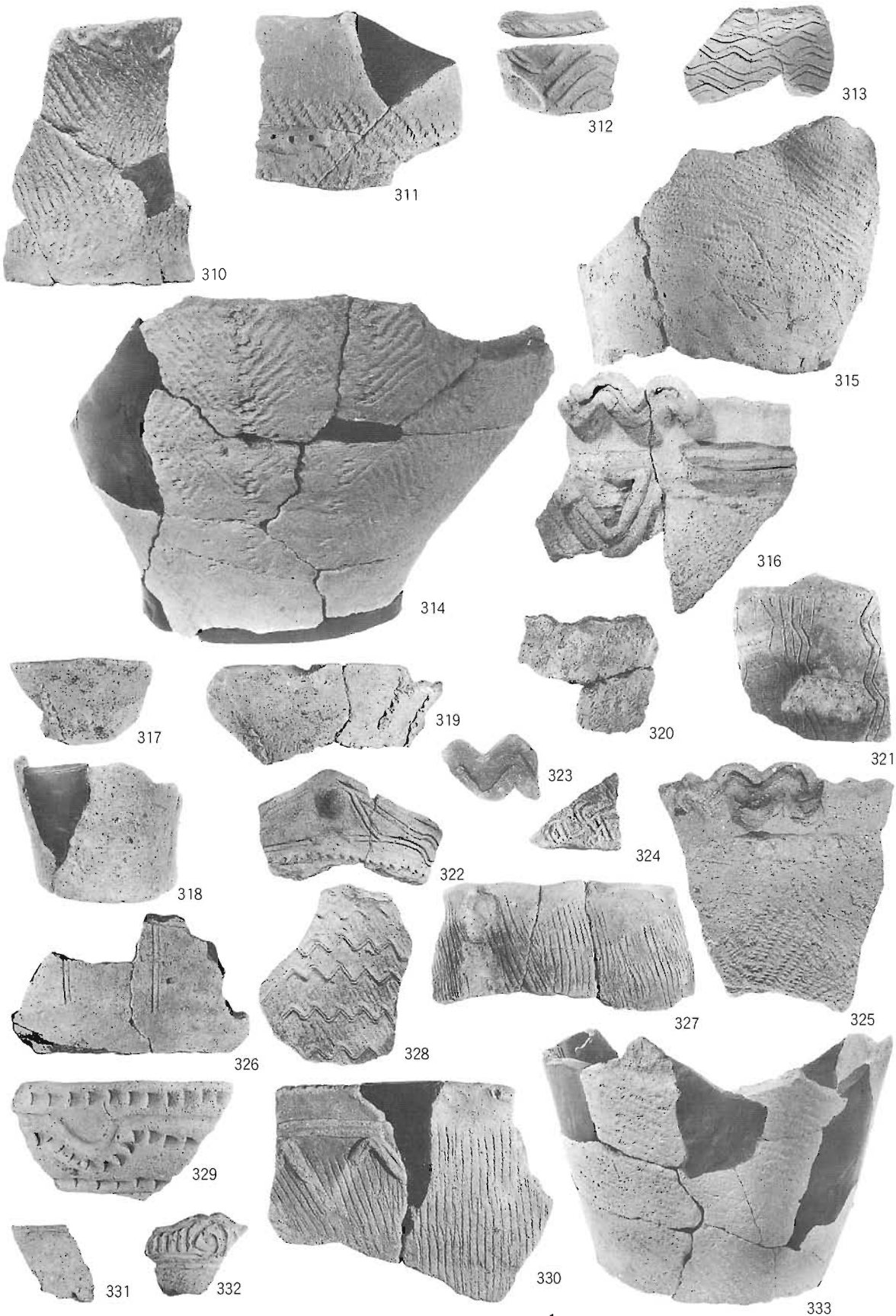
写真図版52　土器(18)(S＝$\frac{1}{3}$)



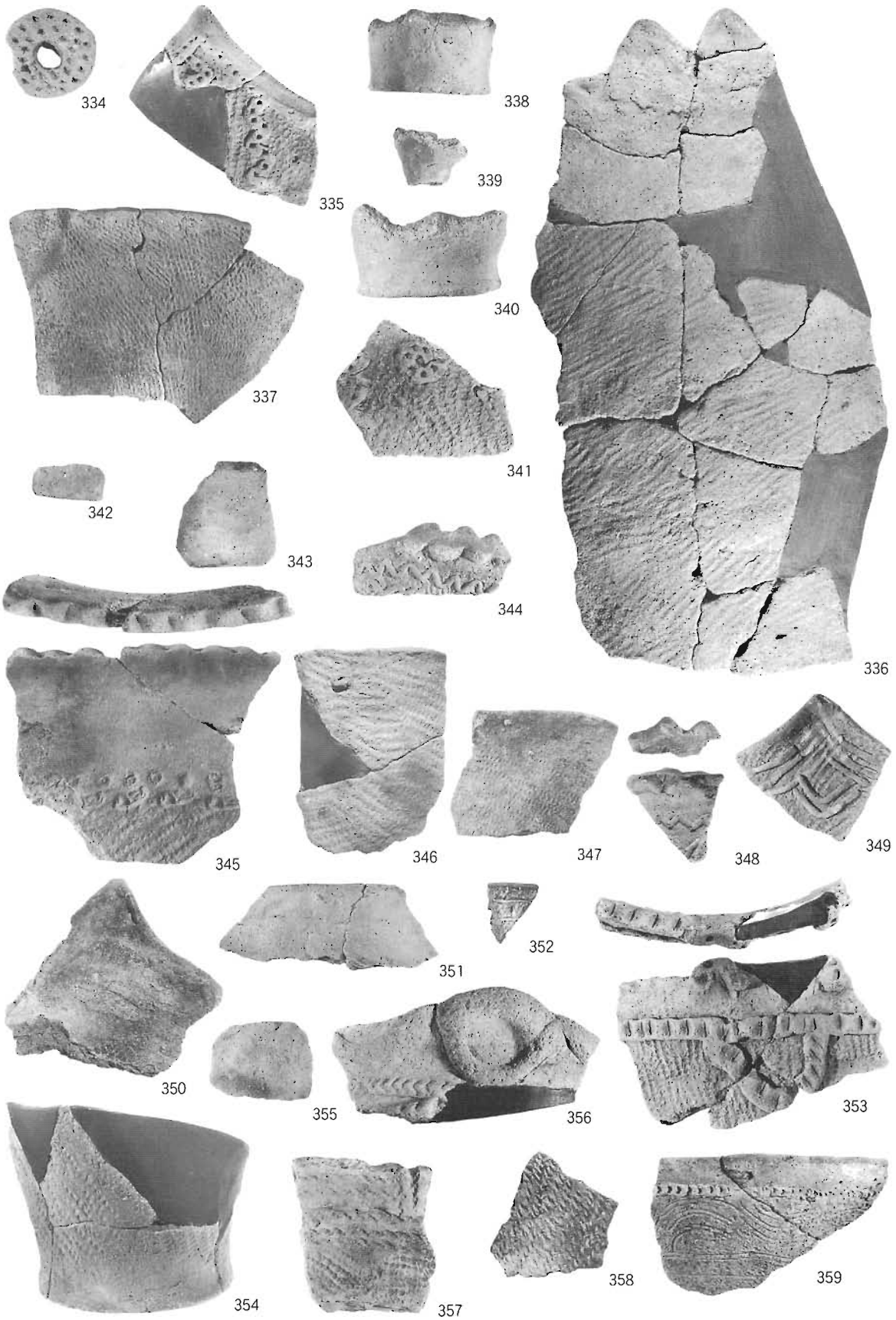
写真図版53　土器(19)(S＝$\frac{1}{3}$)



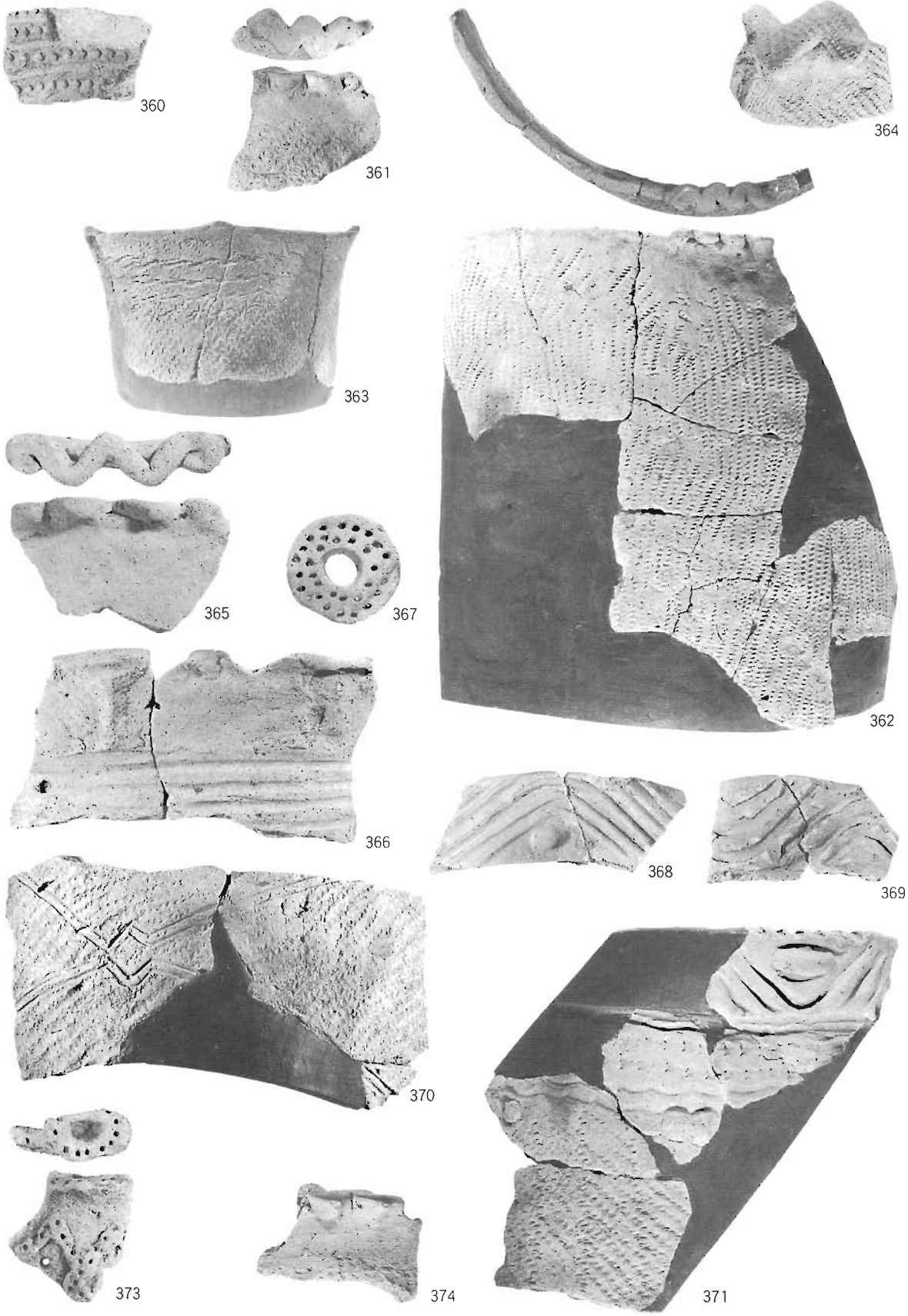
写真図版54　土器(20)(S＝$\frac{1}{3}$)



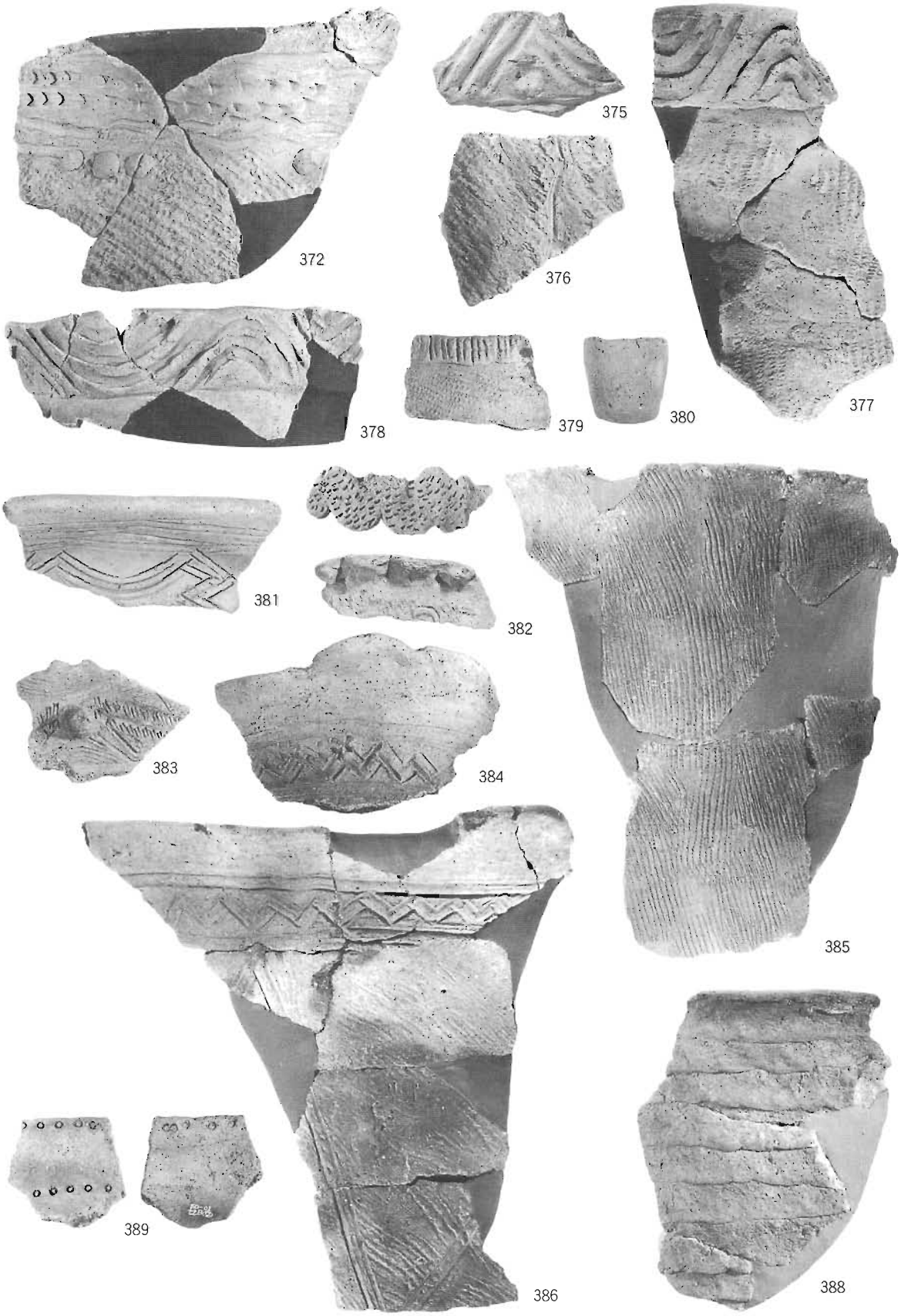
写真図版55　土器(21)(S＝$\frac{1}{3}$)



写真図版56　土器(22)(S＝$\frac{1}{3}$)



写真図版57　土器(23)(S＝$\frac{1}{3}$)

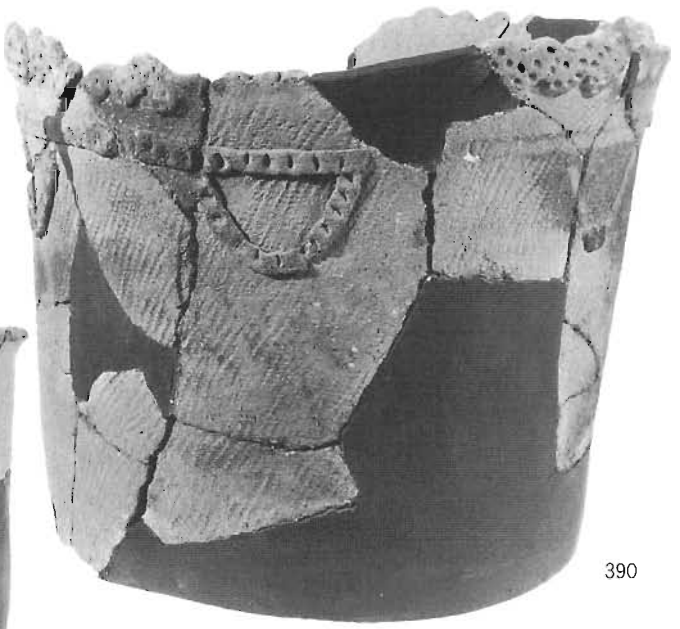


写真図版58　土器(24)(S＝$\frac{1}{3}$)

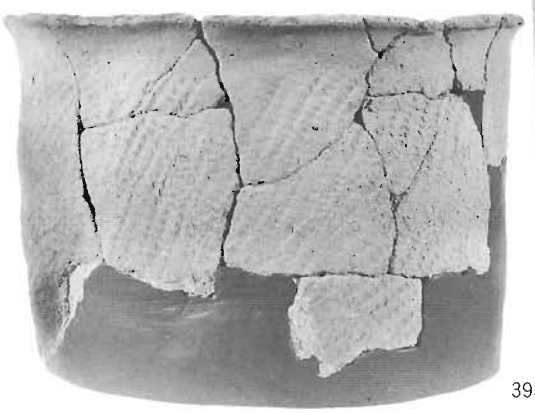
387

391

392

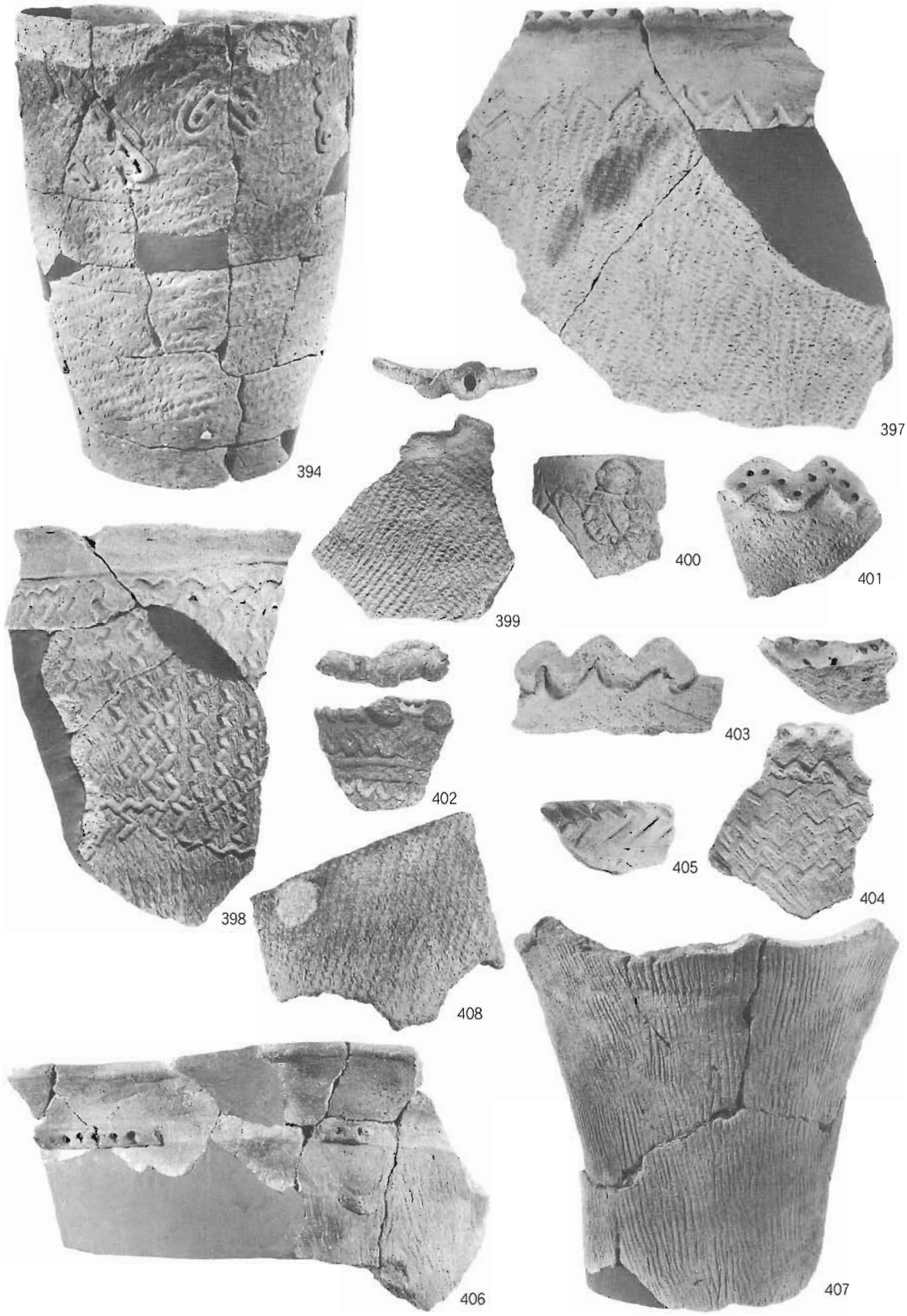


390

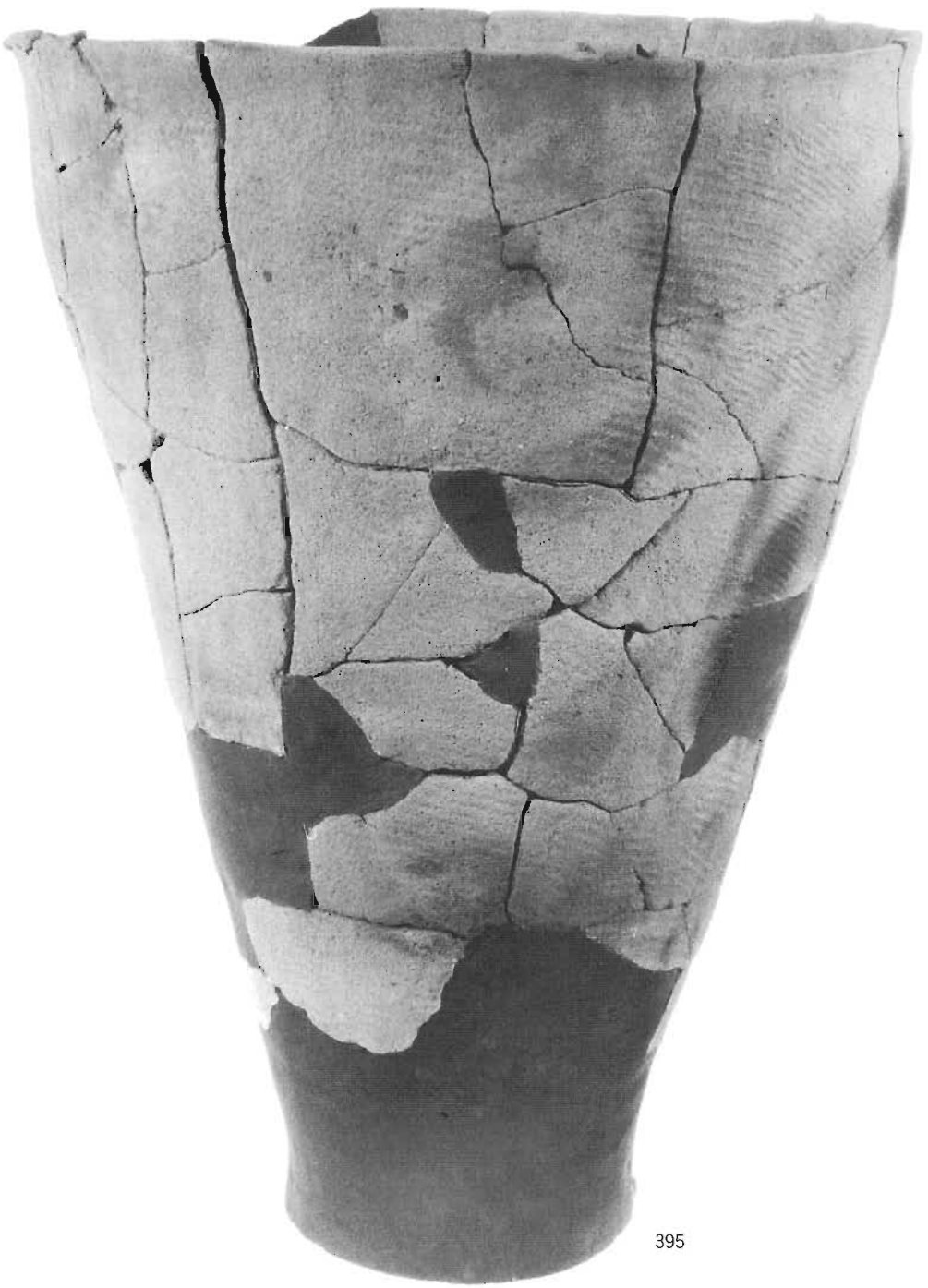


393

写真図版59　土器(25)(S＝$\frac{1}{3}$)

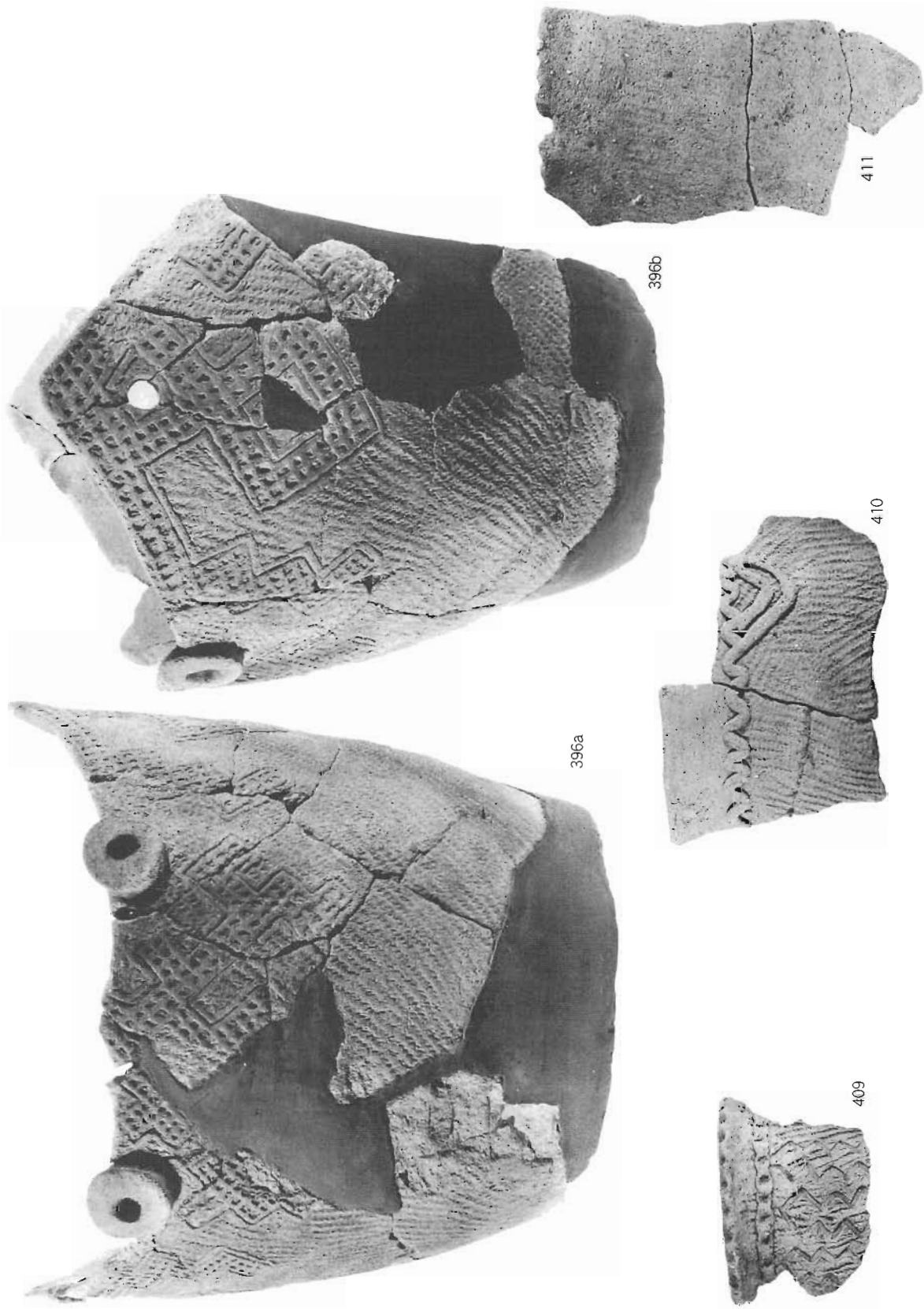


写真図版60　土器(26)(S＝$\frac{1}{3}$)

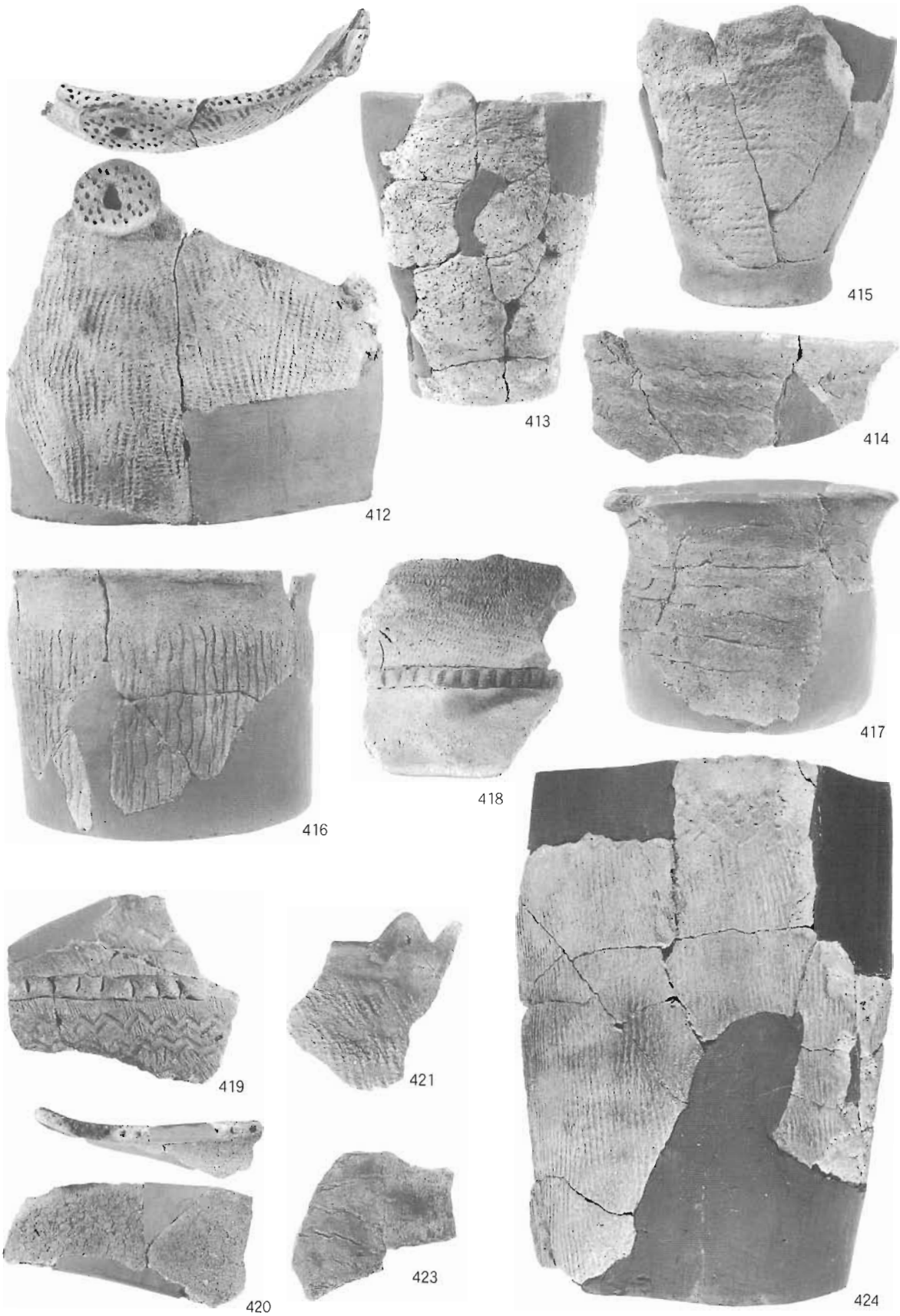


395

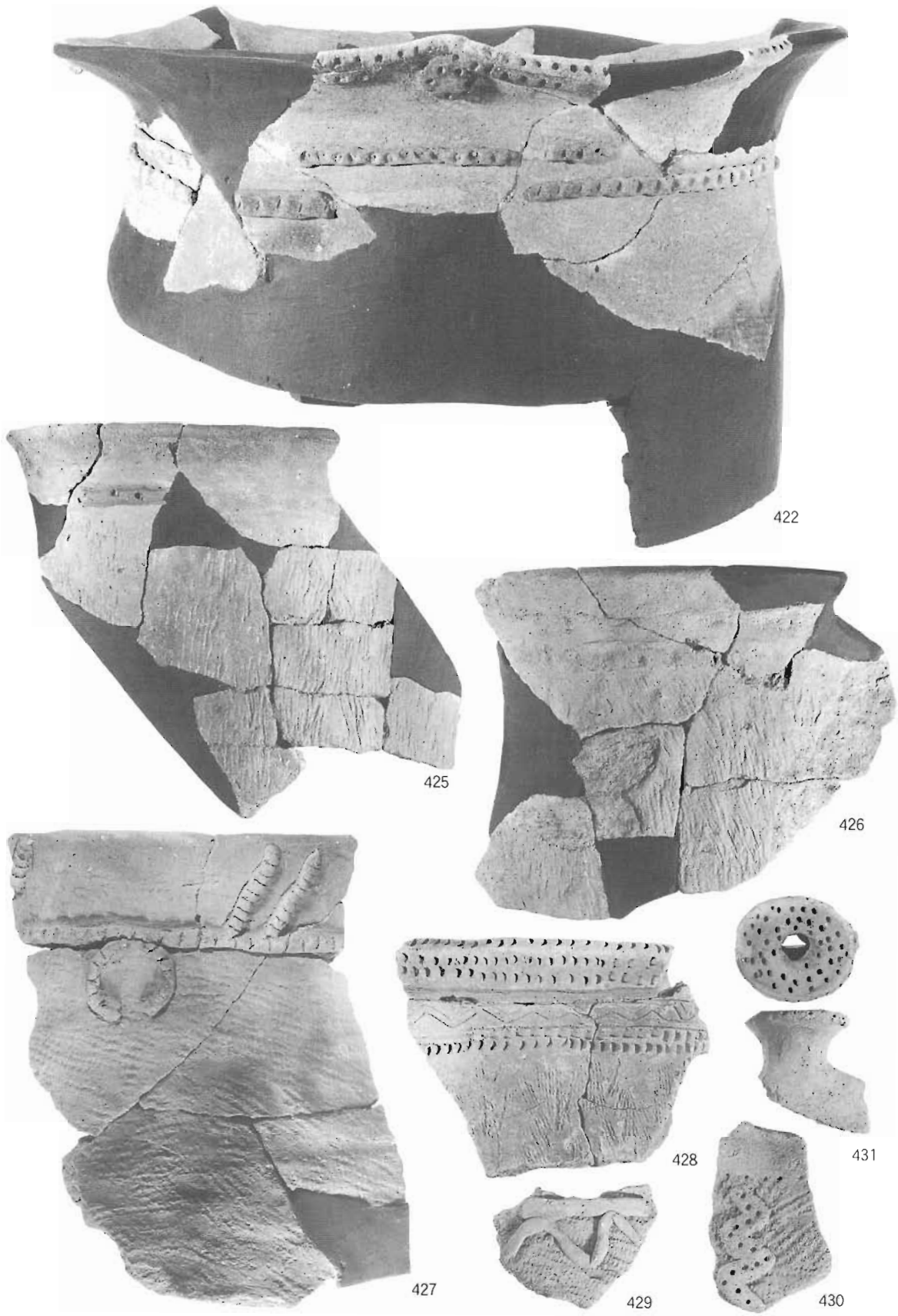
写真図版61　土器(27)(S＝$\frac{1}{3}$)



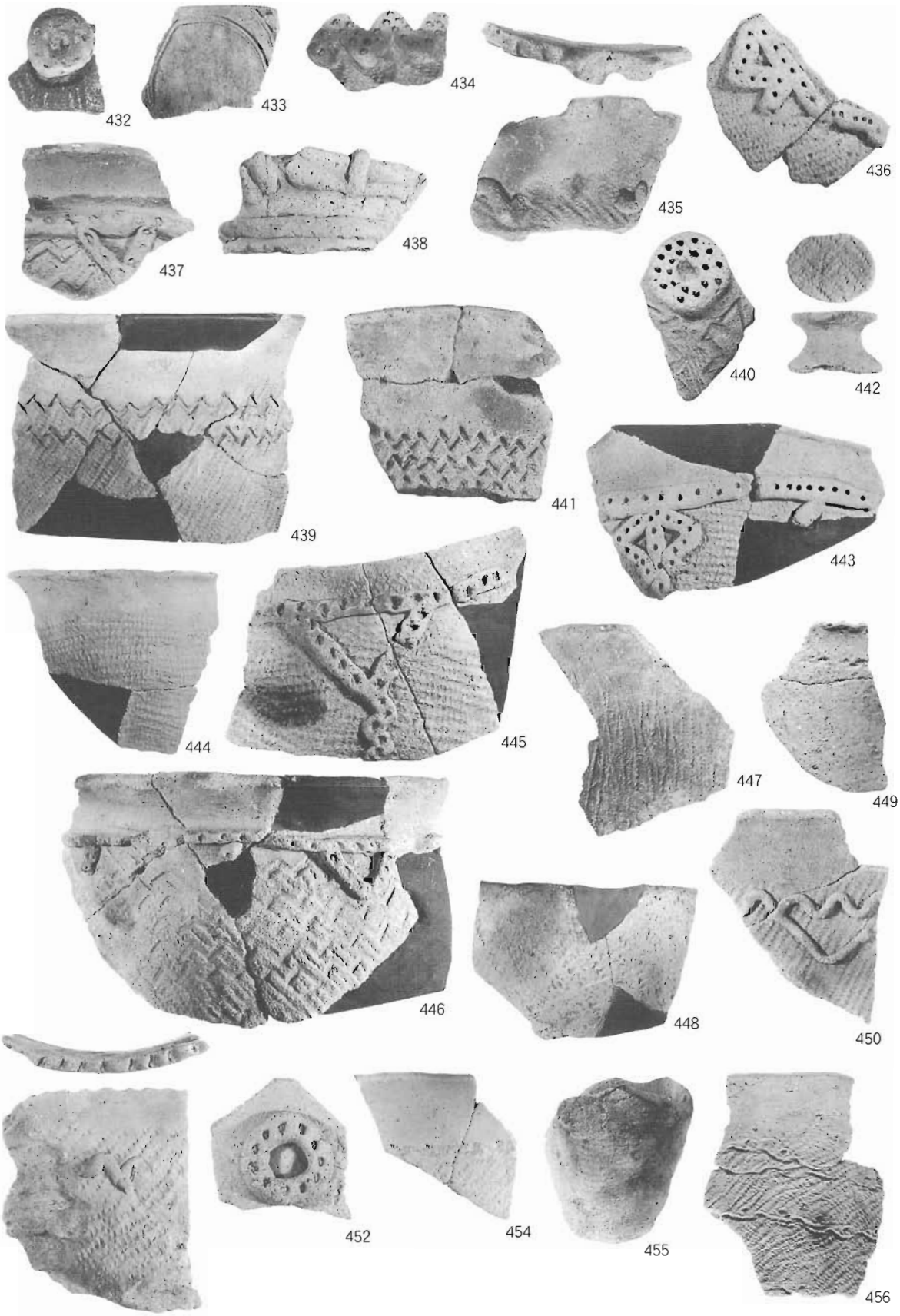
写真図版62　土器(28)(S＝$\frac{1}{3}$)



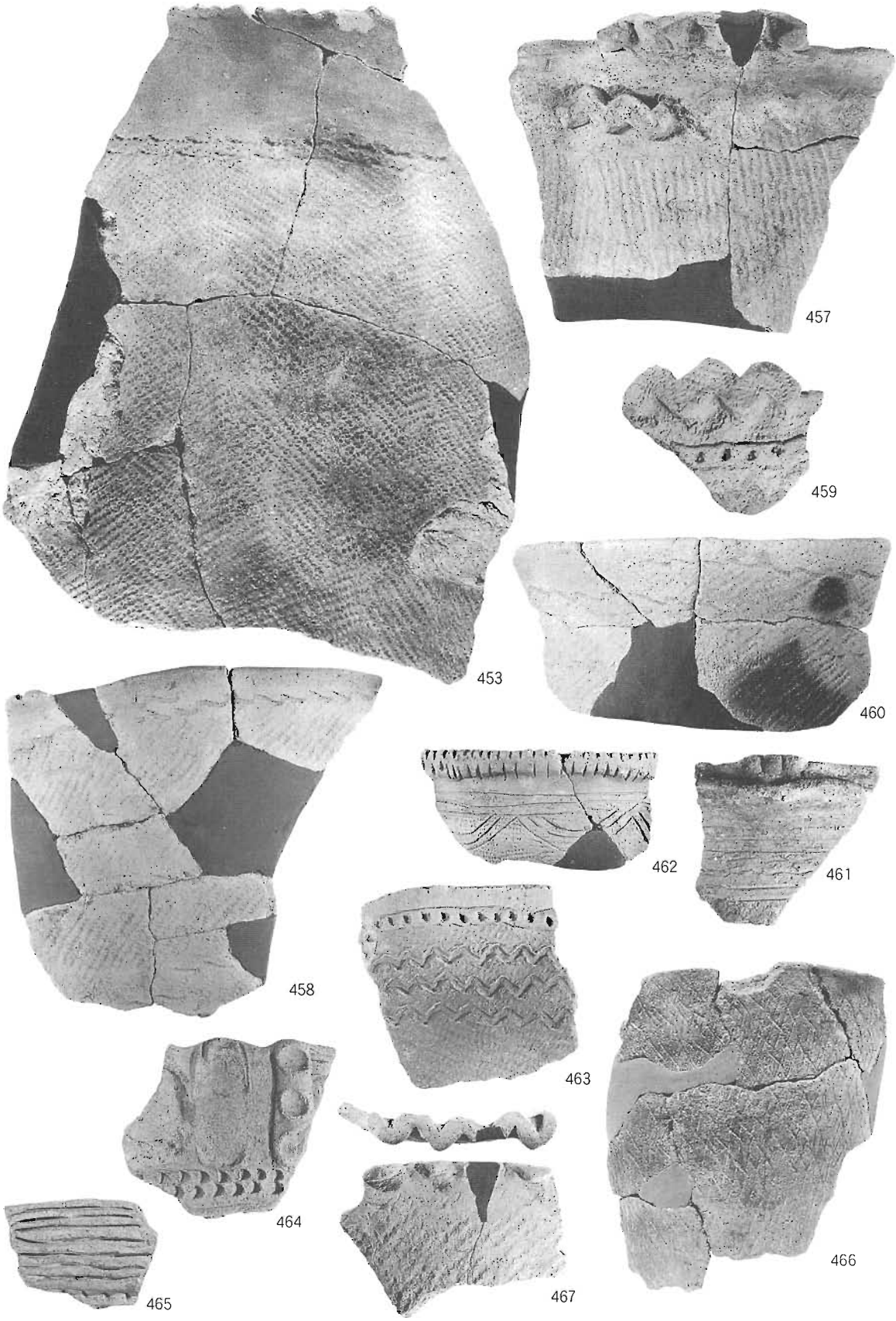
写真図版63　土器(29)(S＝$\frac{1}{3}$)



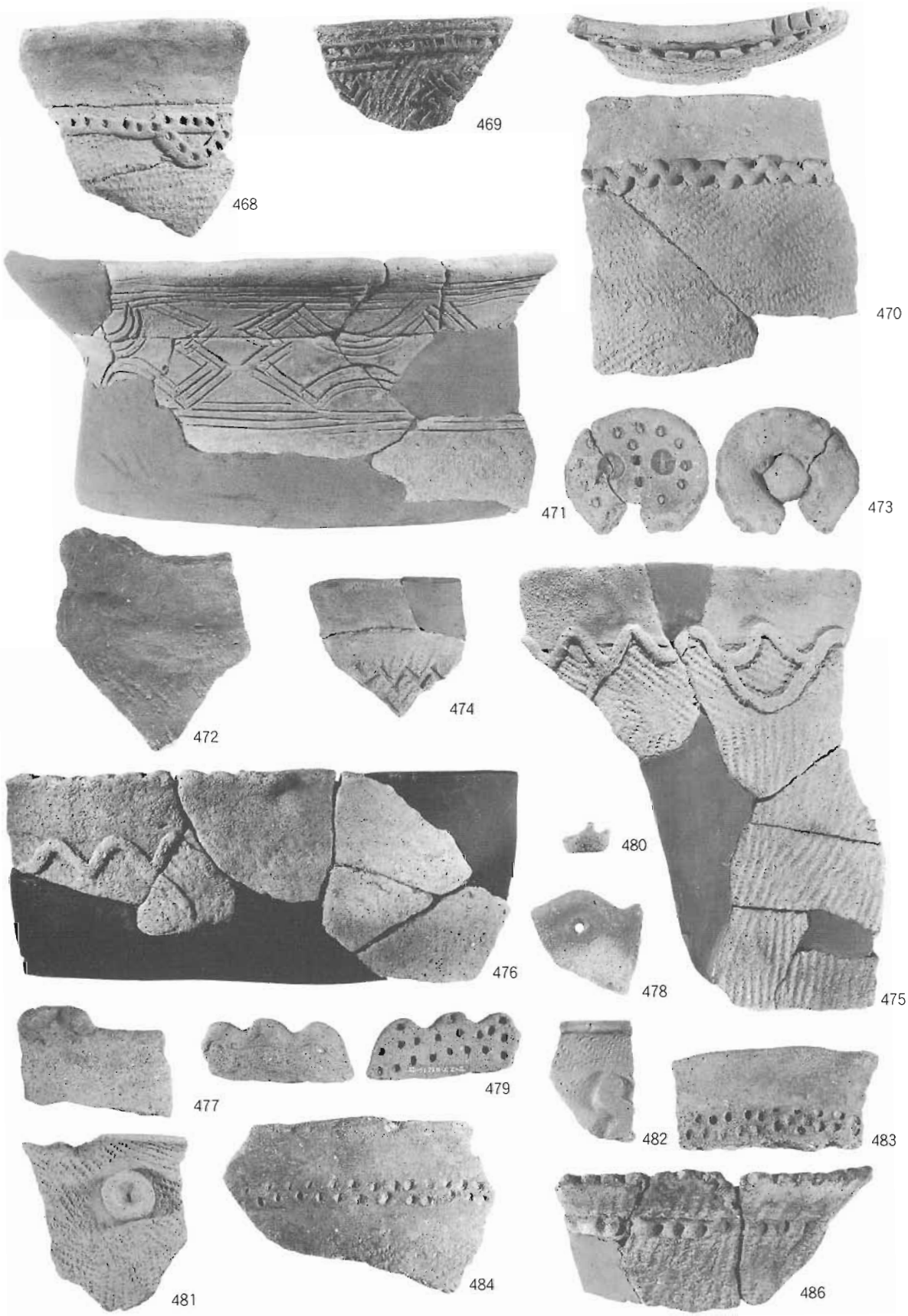
写真図版64　土器(30)(S＝$\frac{1}{3}$)



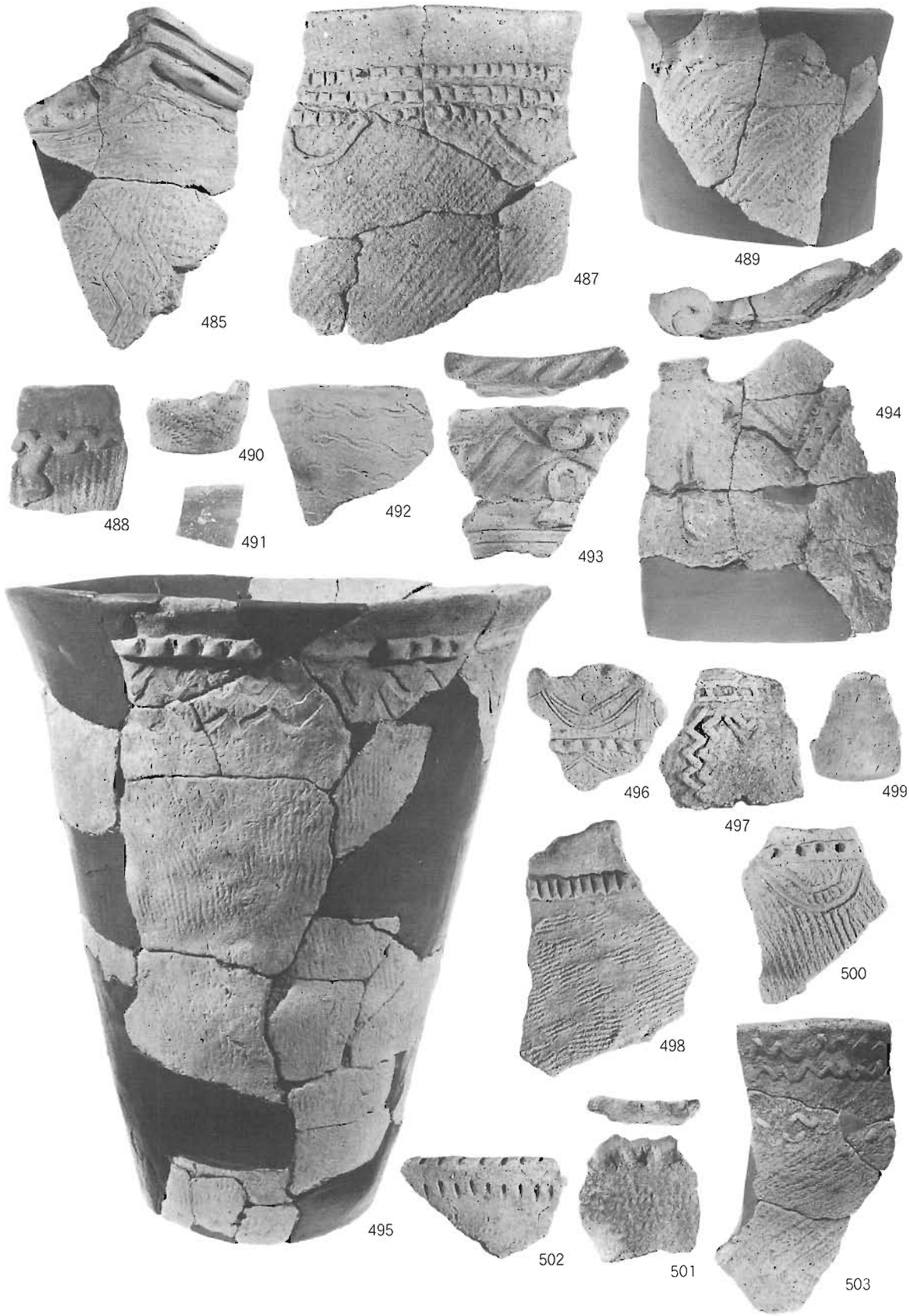
写真図版65　土器(31)(S＝$\frac{1}{3}$)



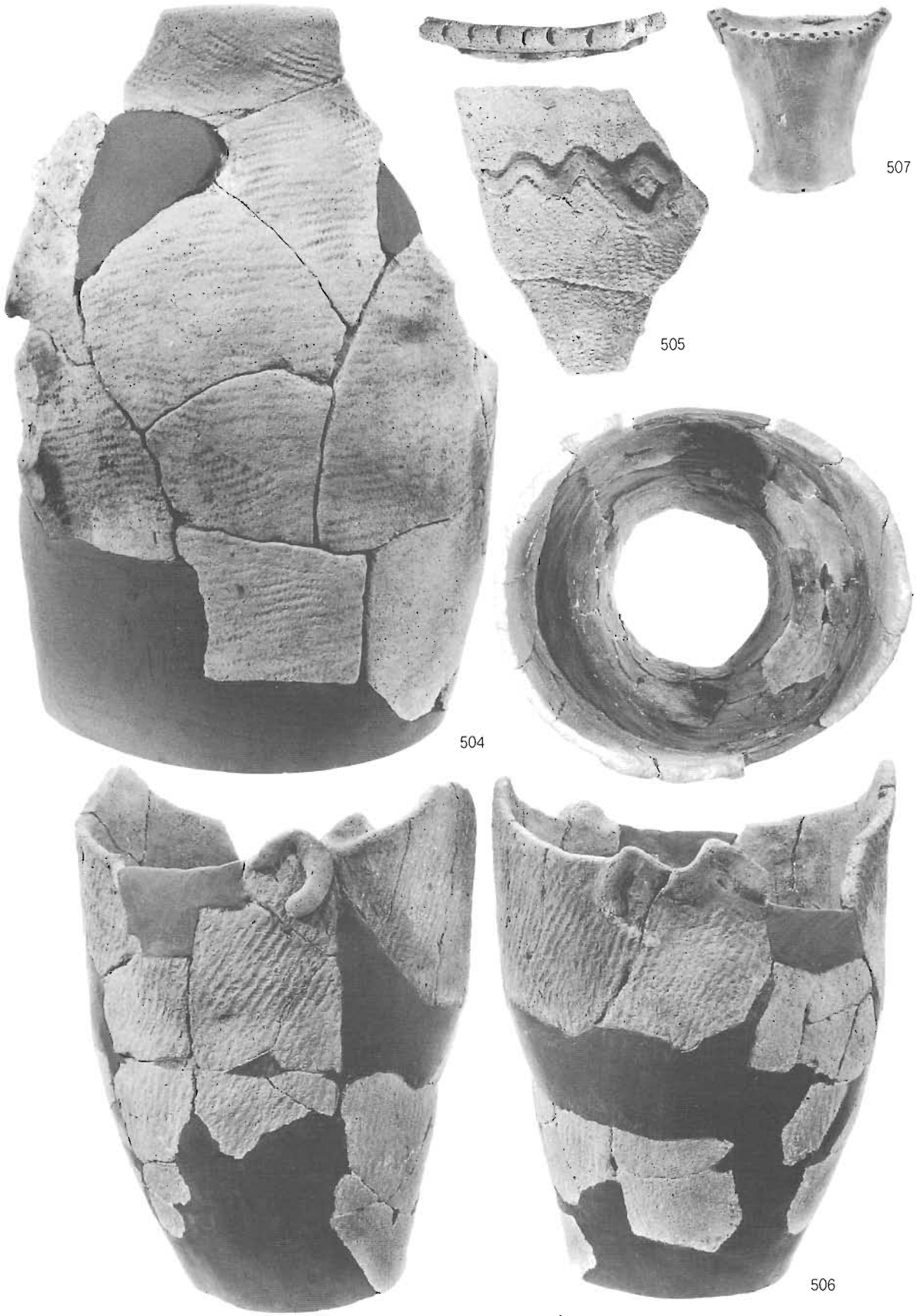
写真図版66　土器(32)(S＝$\frac{1}{3}$)



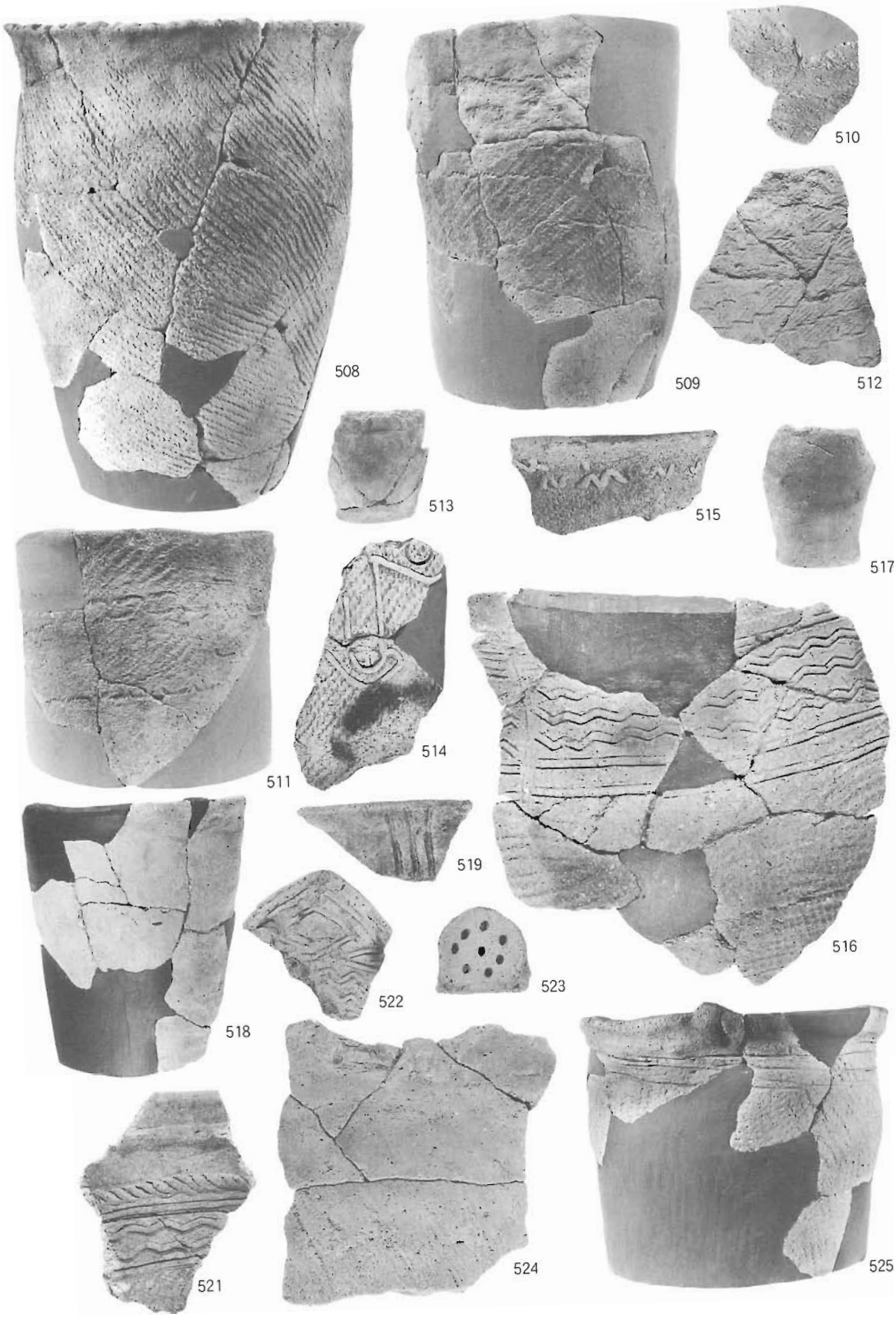
写真図版67　土器(33)(S＝$\frac{1}{3}$)



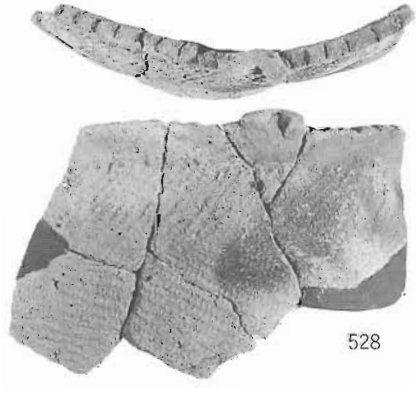
写真図版68　土器(34)(S＝$\frac{1}{3}$)

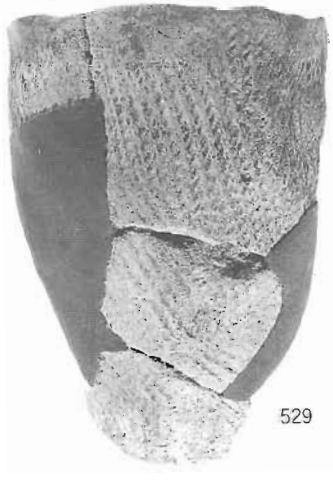


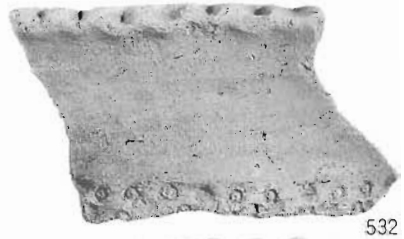
写真図版69　土器(35)(S＝$\frac{1}{3}$)

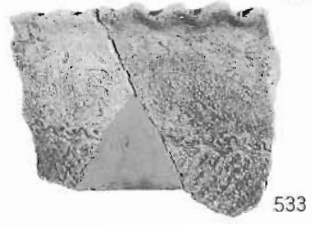


写真図版70　土器(36)(S＝$\frac{1}{3}$)

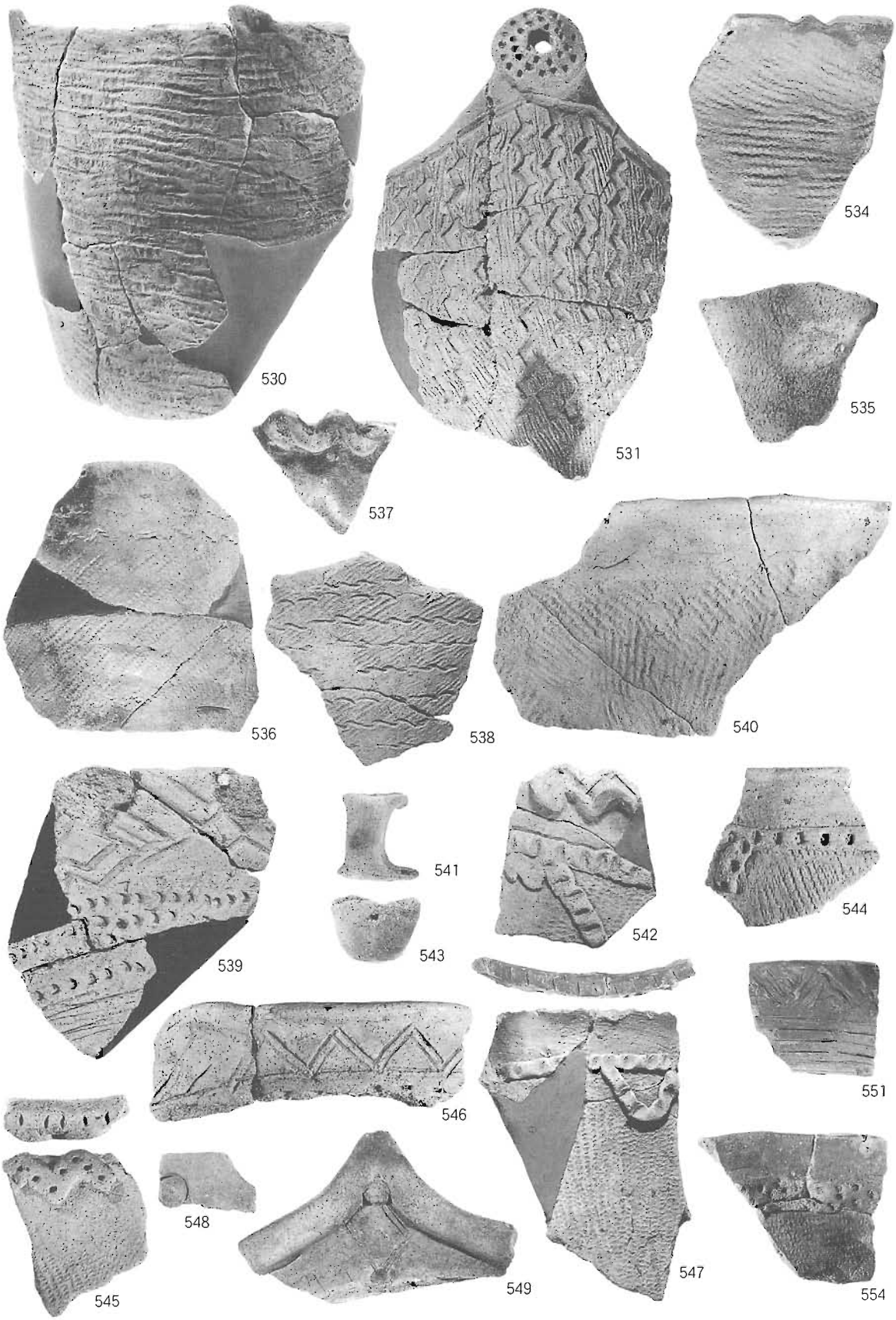




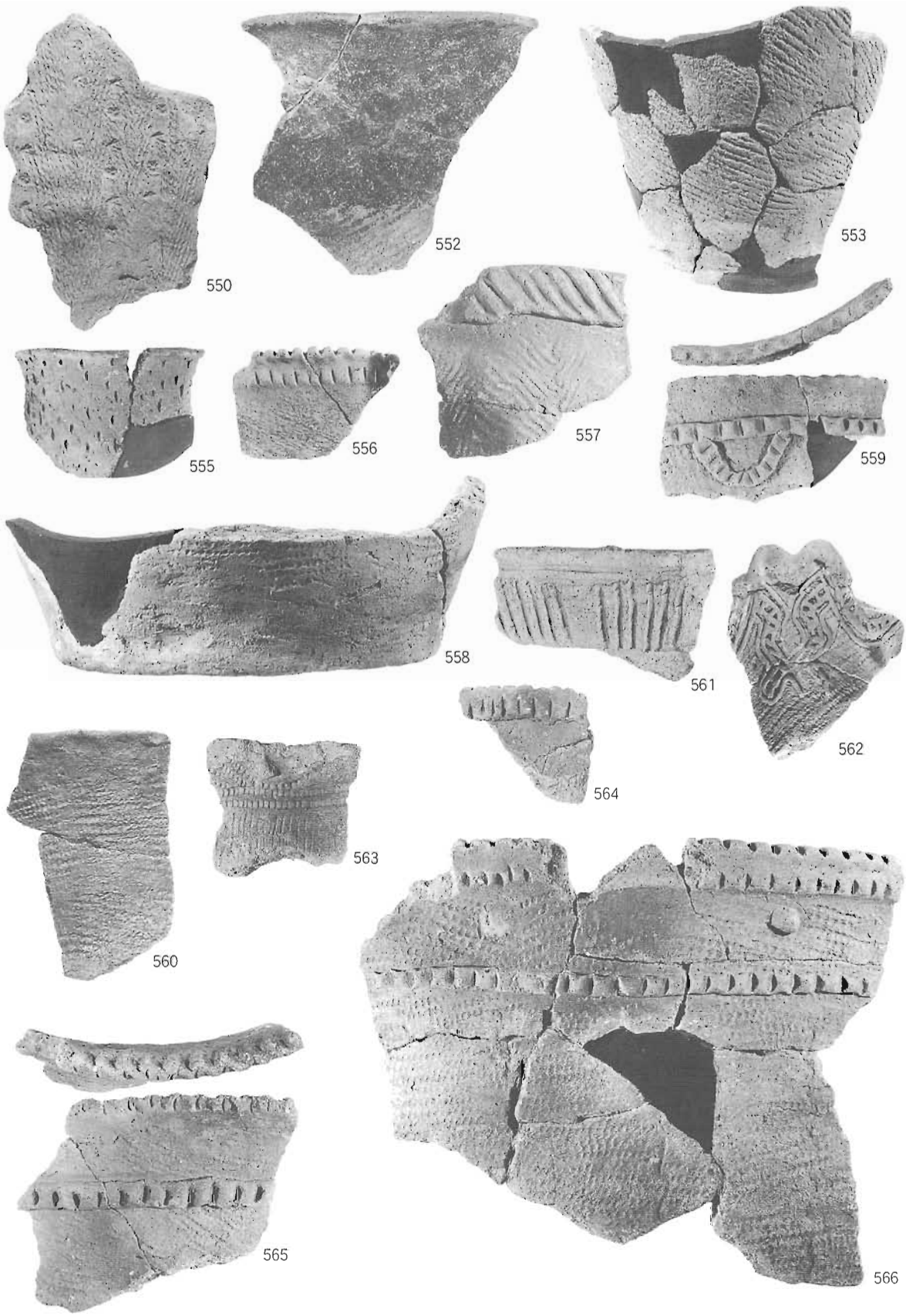




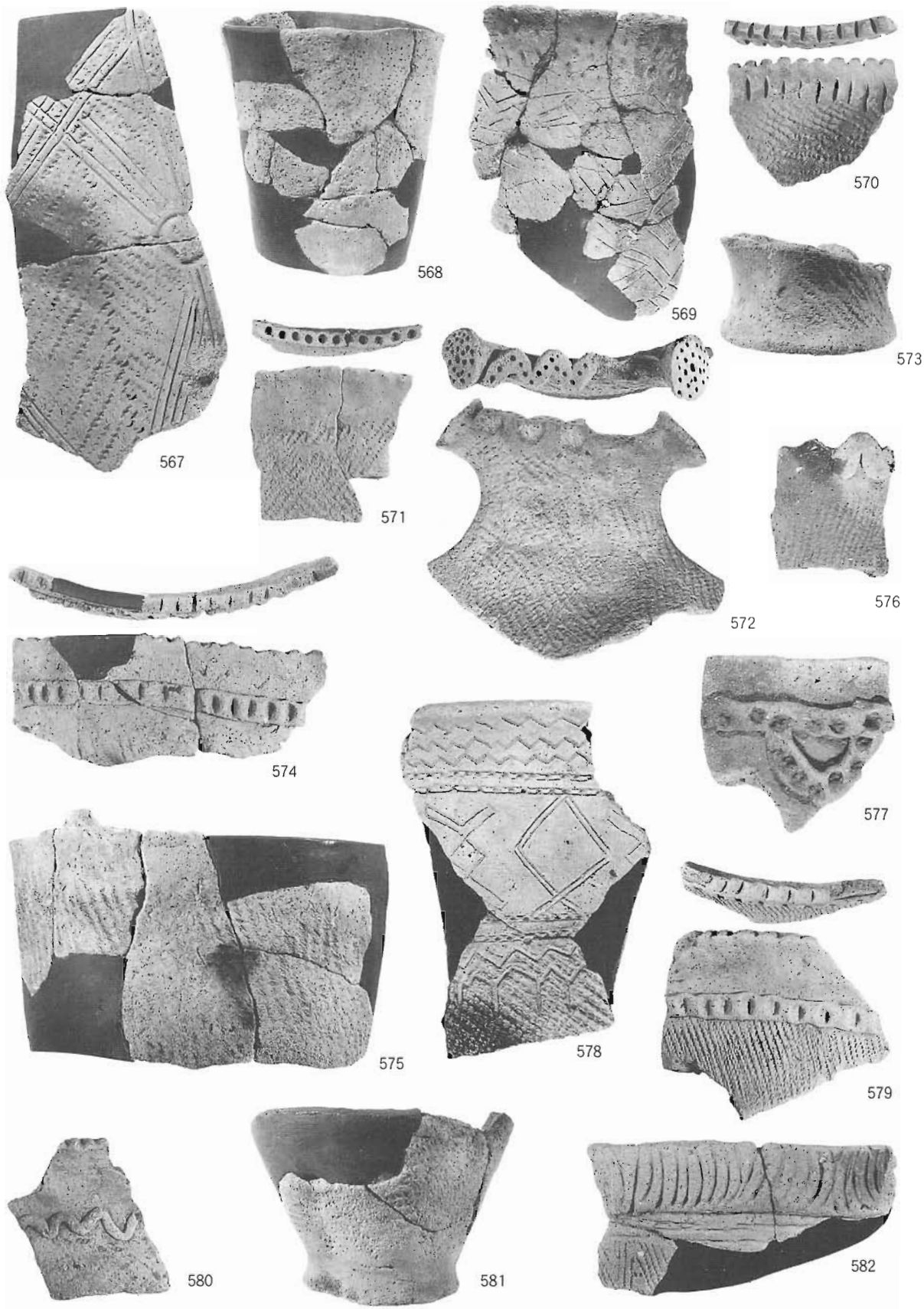
写真図版71　土器(37)(S＝$\frac{1}{3}$)



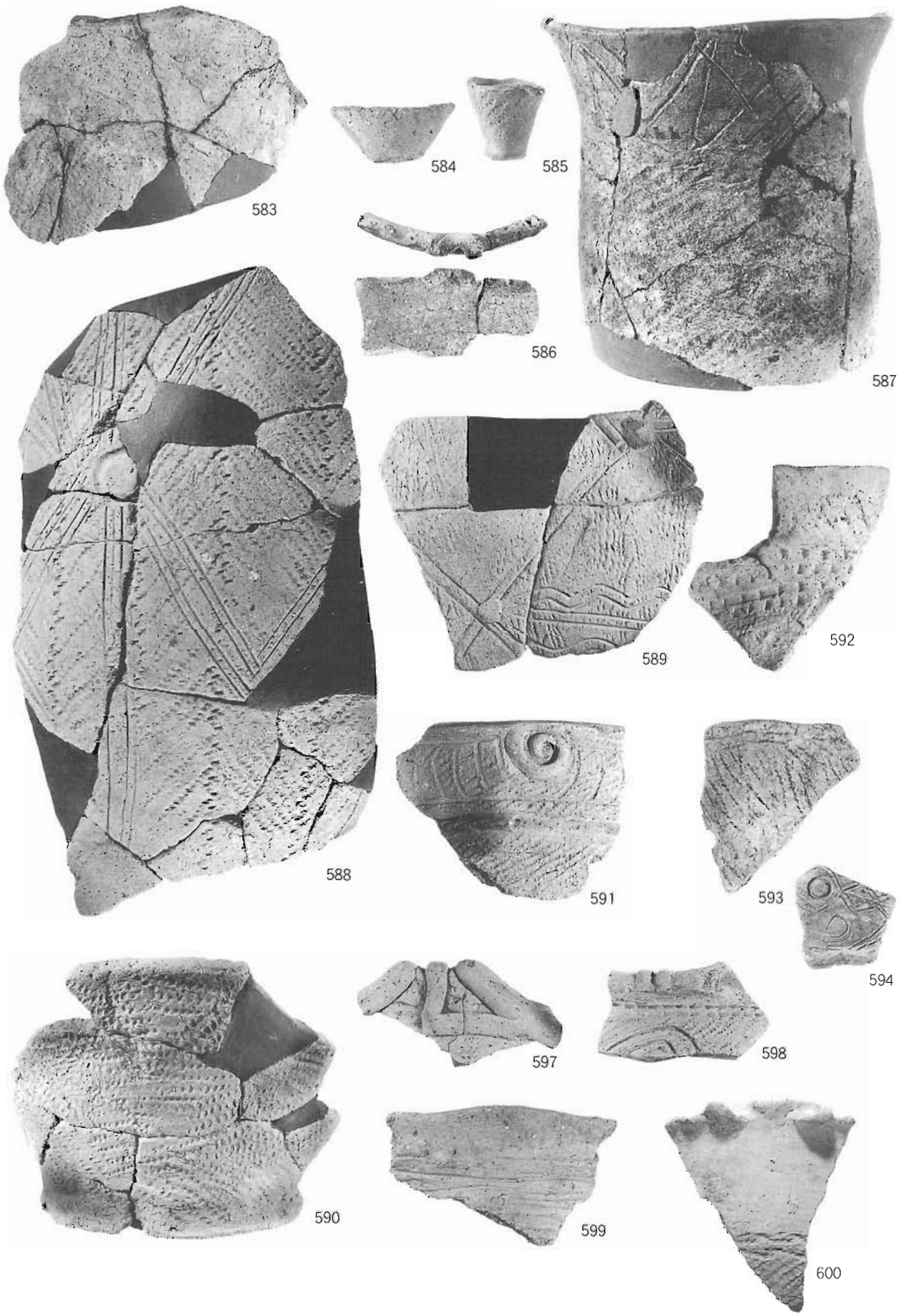
写真図版72　土器(38)(S＝$\frac{1}{3}$)



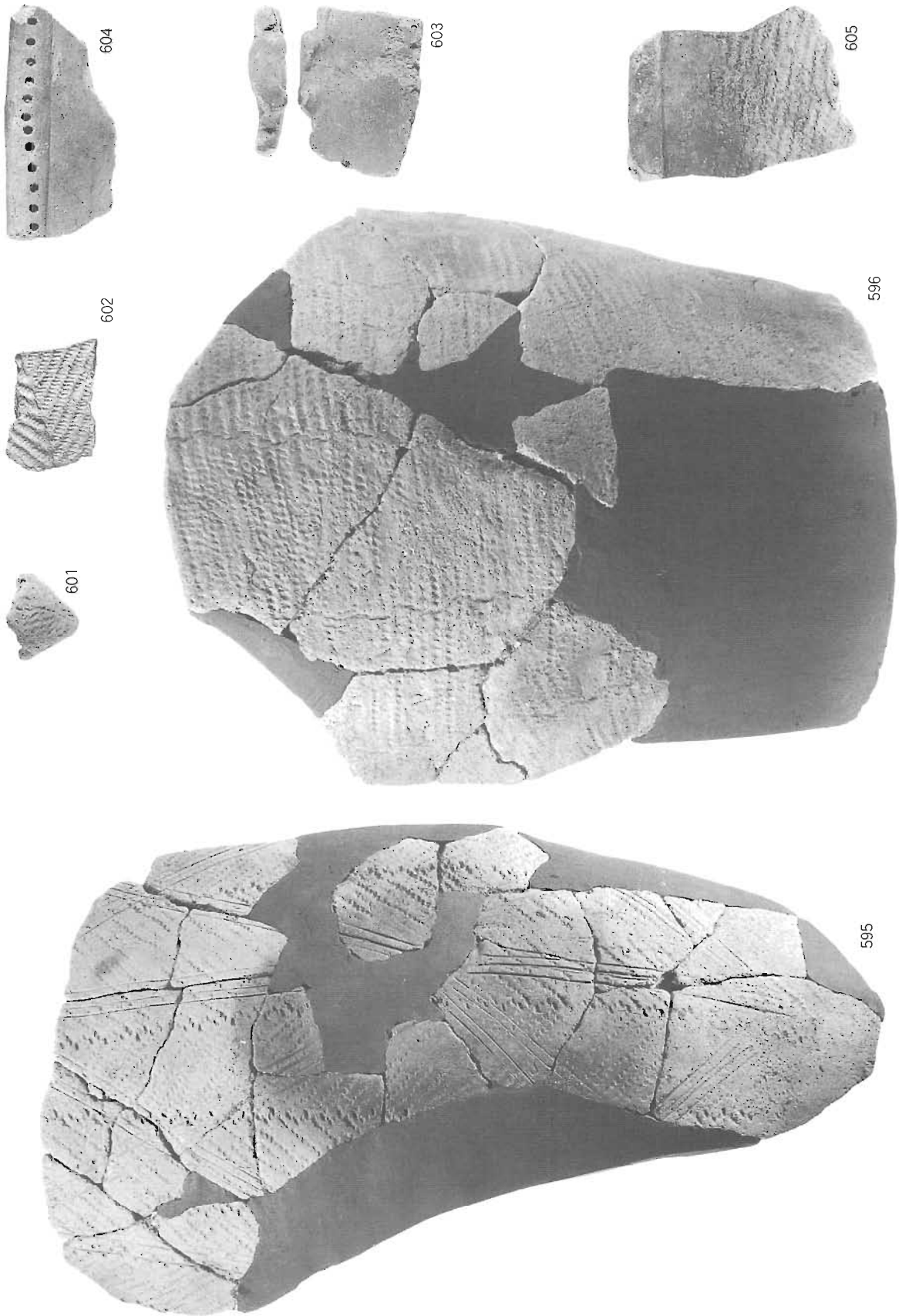
写真図版73　土器(39)(S＝$\frac{1}{3}$)



写真図版74　土器(40)(S＝$\frac{1}{3}$)

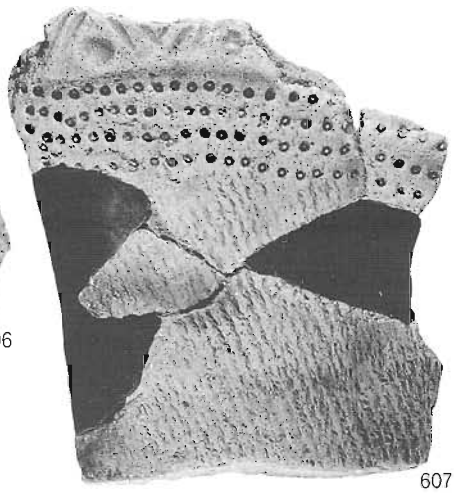


写真図版75　土器(41)(S＝$\frac{1}{3}$)

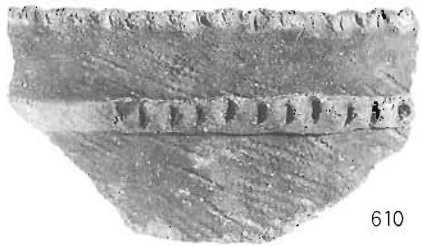


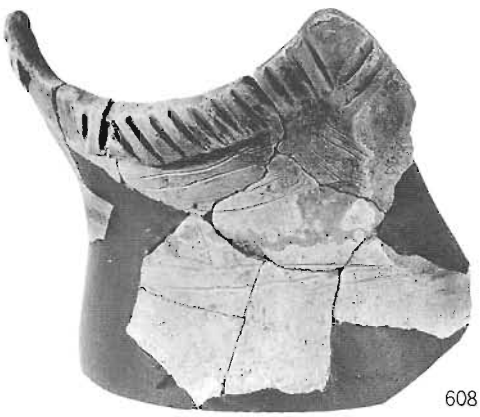
写真図版76　土器(42)(S＝$\frac{1}{3}$)

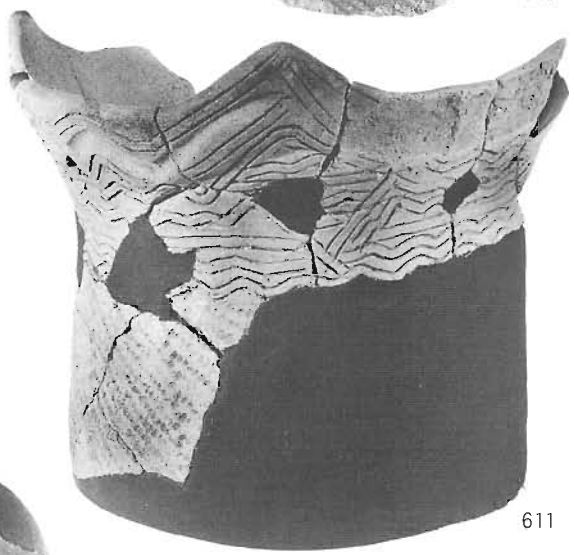
606


607

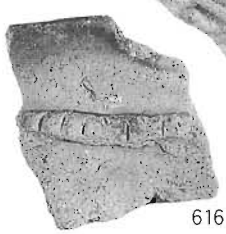
609

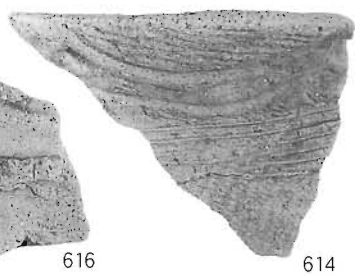

610

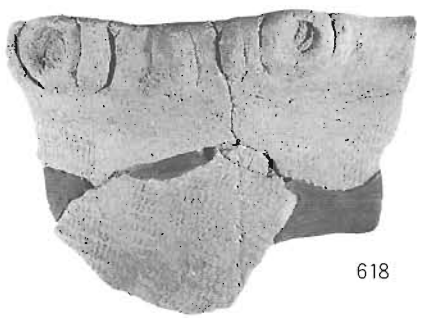

608


611

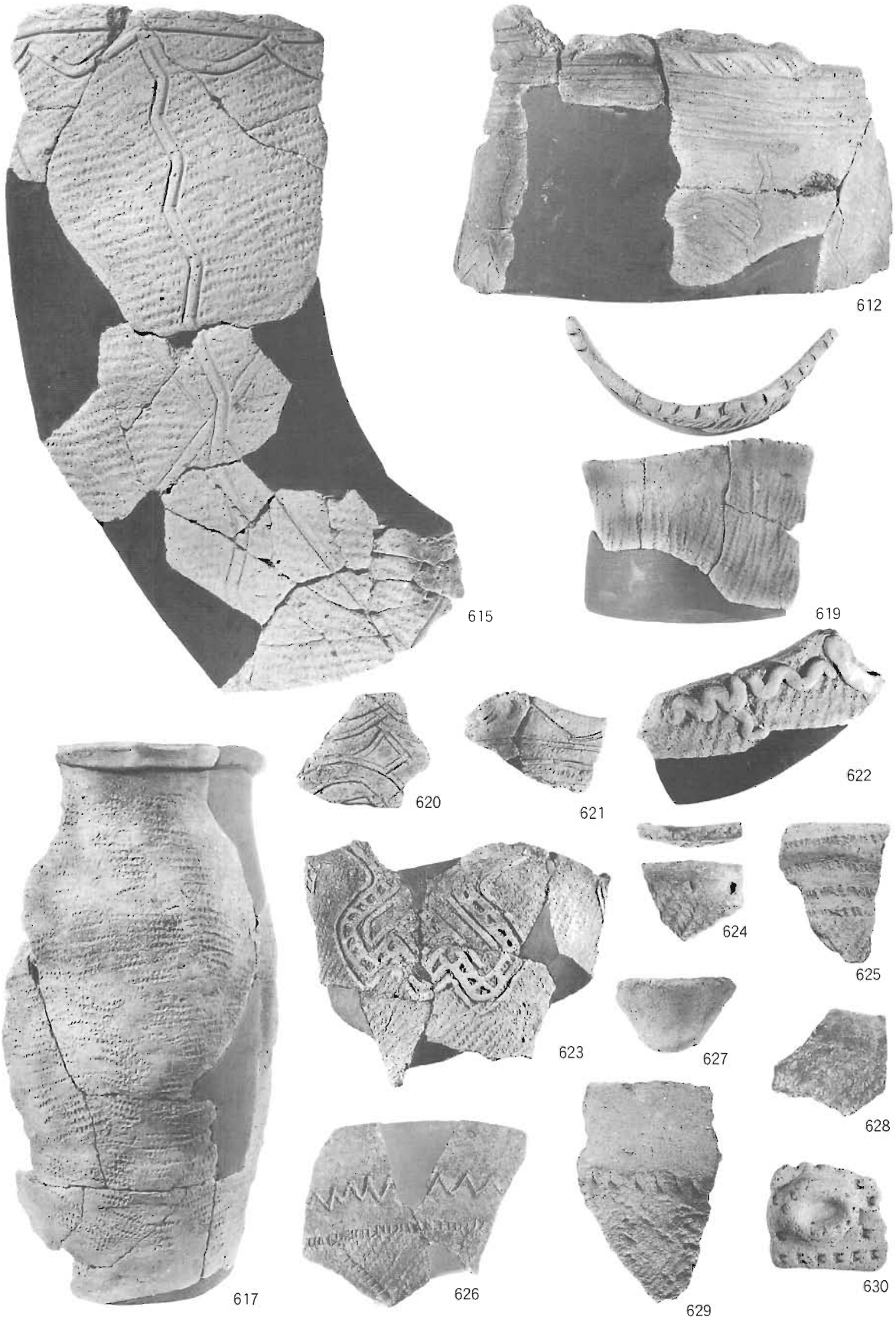
613


616

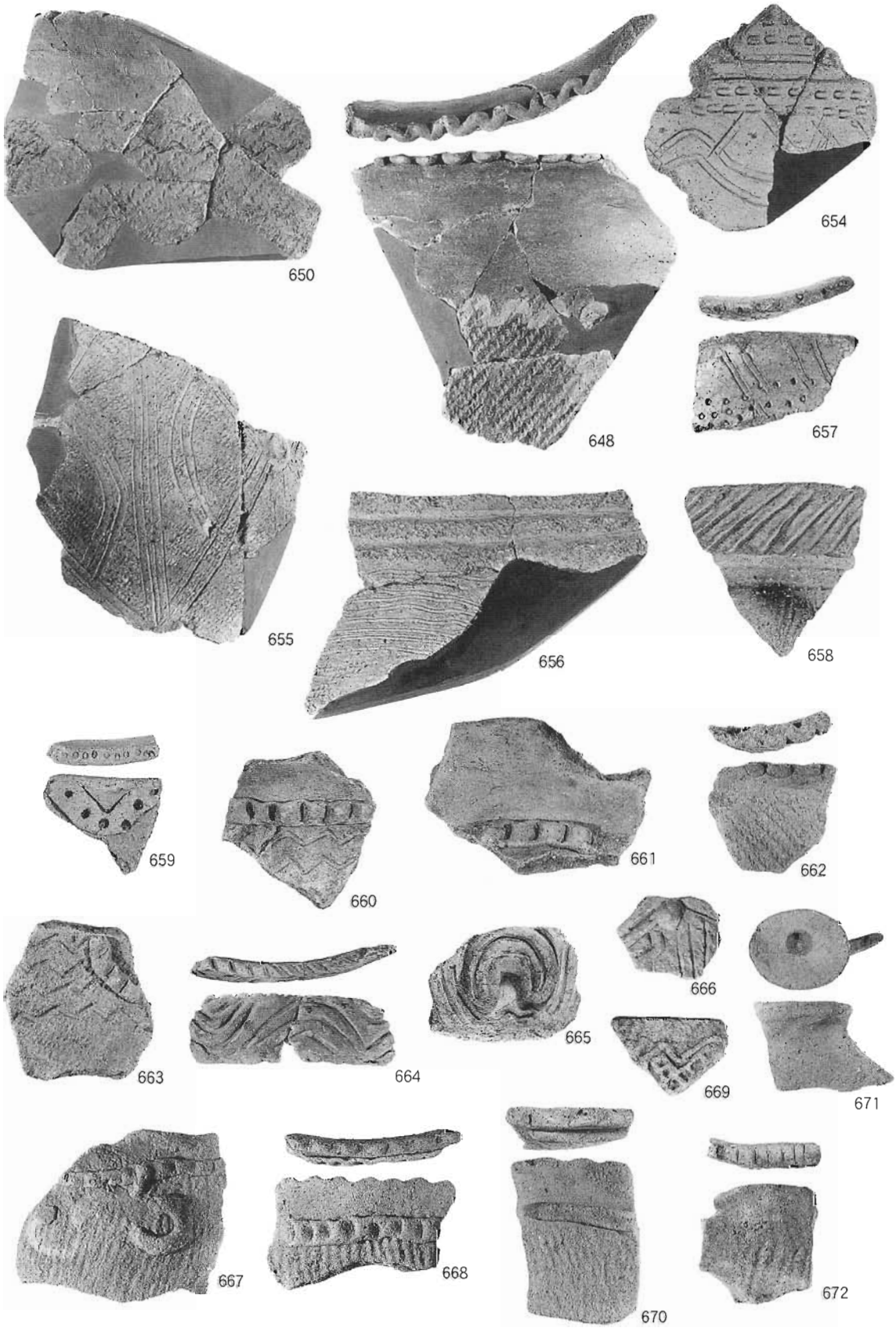

614


618

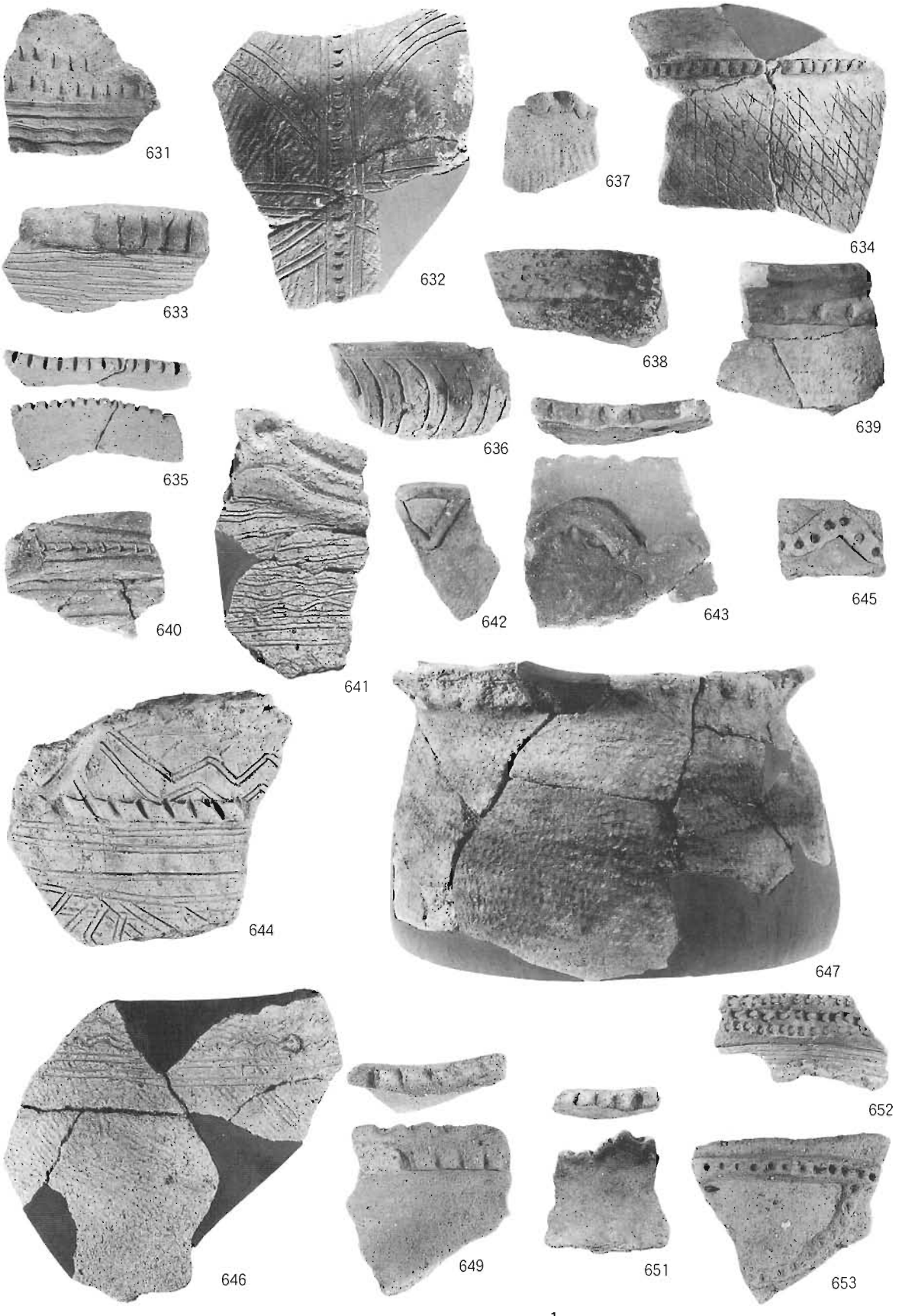
写真図版77　土器(43)(S＝$\frac{1}{3}$)



写真図版78　土器(44)(S＝$\frac{1}{3}$)



写真図版80　土器(46)(S＝$\frac{1}{3}$)

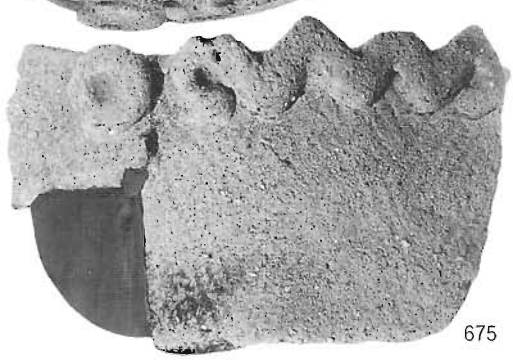


写真図版79　土器(45)(S＝$\frac{1}{3}$)

673

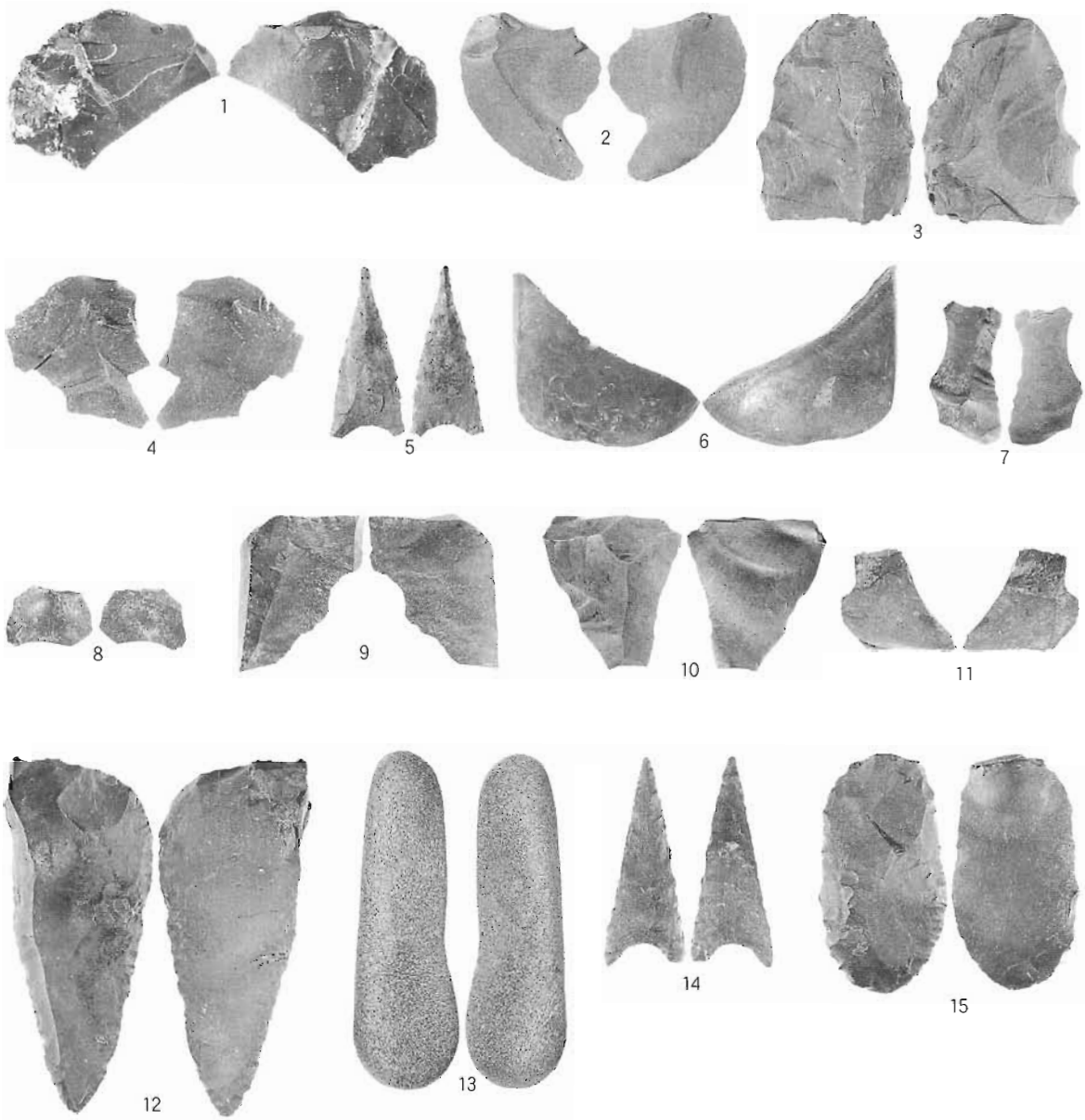
674

676



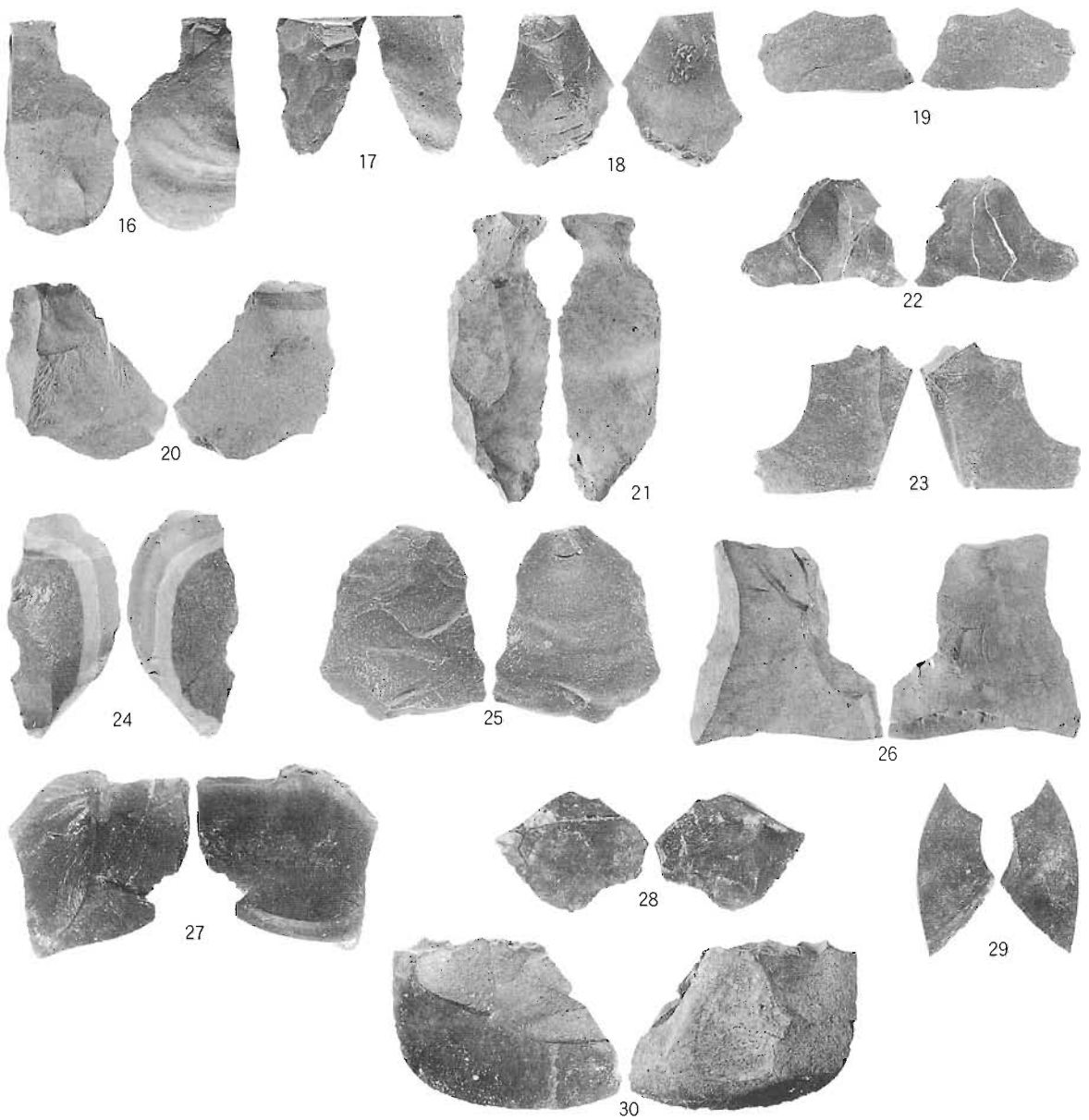
675

写真図版81　土器(47)(S＝$\frac{1}{3}$)



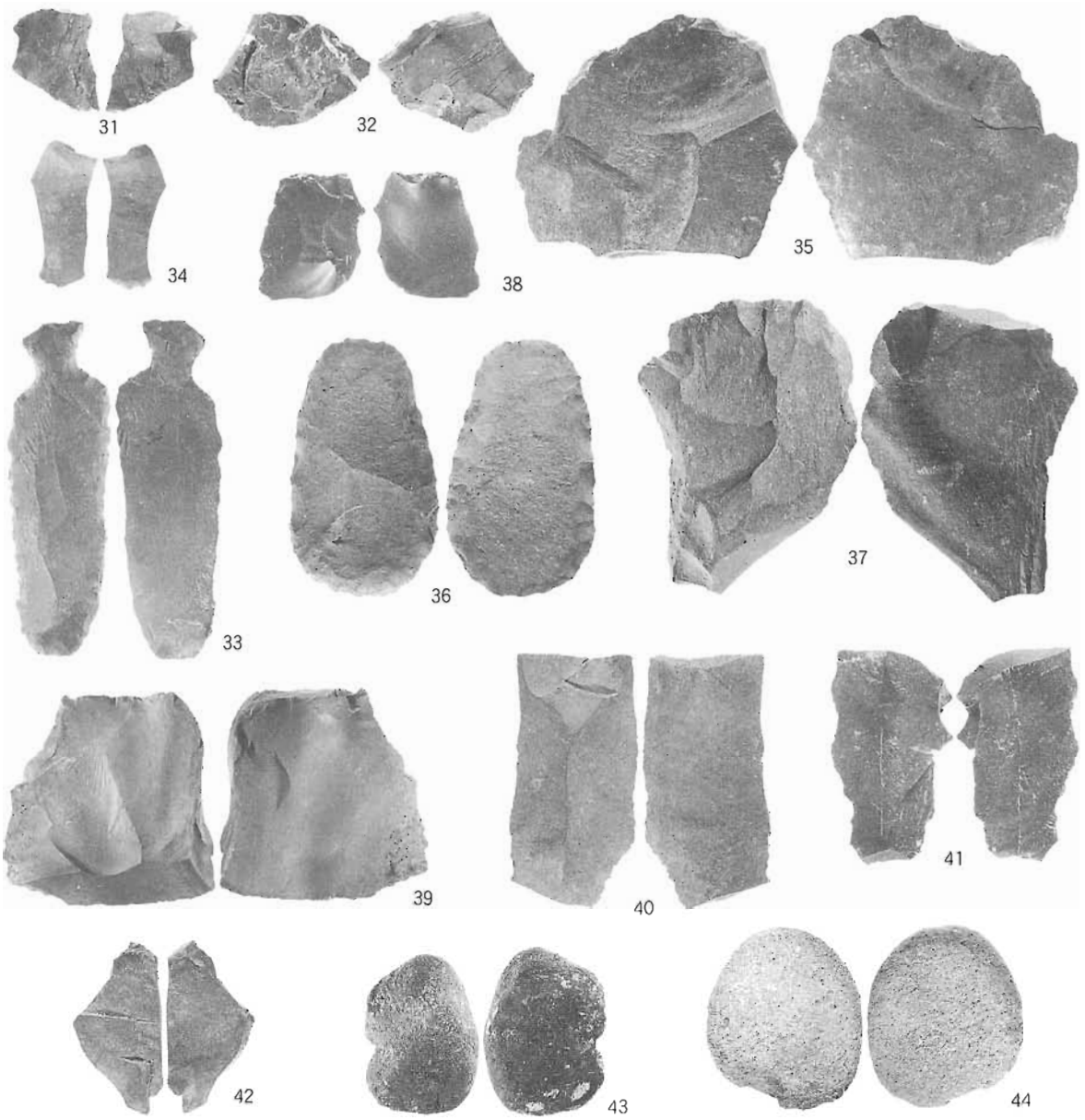
No	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
1	第1号住居状・4層	剥片A類?	3.40	4.95	0.90	14.72	頁岩（北上?）	欠損		116図	
2	第1号住居状・4層	Uフレイク	3.70	3.30	0.95	8.06	頁岩（北上?）			116図	
3	第1号住居状・4層	スクレイパーA類	4.75	4.60	1.55	25.64	頁岩（北上?）	欠損		116図	
4	第5号～7号土坑	剥片A類?	3.40	3.25	0.80	4.94	頁岩（北上?）			116図	
5	第7号土坑・1層	石鏃（凹基）	3.75	1.65	0.40	1.92	頁岩（北上?）	基部先端欠損	タール状付着物?	116図	
6	第7号土坑・1層	磨製石斧	3.50	4.40	1.90	23.82	頁岩（北上?）	先端部破片			
7	第7号～8号土坑	剥片A類	3.05	1.75	0.30	1.22	頁岩（北上?）				
8	第7号～8号土坑	剥片A類	1.40	1.90	0.30	0.82	頁岩（北上?）				
9	第7号～8号土坑	剥片A類	2.65	3.40	0.90	6.17	頁岩（北上?）				
10	第7号～8号土坑	剥片A類?	3.35	3.05	0.75	5.33	頁岩（奥羽?）		Uフレイク?・左面左辺刃部?		
11	第12号土坑・9層?	剥片A類	2.30	2.75	0.50	2.21	頁岩（北上?）				
12	第12号土坑・9～11層	スクレイパーA類	7.85	3.30	1.00	24.56	頁岩（奥羽?）			116図	
13	第12号土坑・9～11層	敲石	14.20	4.40	3.10	258.52	砂岩（北上）		両端敲打痕（少）		
14	第12号土坑・15層	石鏃（凹基）	4.60	1.85	0.40	3.02	頁岩（北上?）	基部先端欠損		116図	
15	第18号土坑・4層	スクレイパーA類	5.30	2.95	0.75	10.81	頁岩（北上?）			116図	

写真図版82　石器(1)(13は S＝$\frac{1}{3}$　他は S＝$\frac{2}{3}$)



No.	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
16	第18号土坑・4層	剥片A類	4.50	2.55	0.70	5.51	頁岩（北上？）				
17	第19号土坑・2層	スクレイパーA類	3.10	2.00	0.60	3.31	頁岩（北上？）	欠損？	左右両辺刃部		
18	第19号土坑	スクレイパーA類	3.20	2.70	0.70	6.60	頁岩（北上？）	欠損？	左面左下辺刃部		
19	第19号土坑	Rフレイク？	3.55	1.85	0.45	2.54	頁岩（北上？）		左右両辺刃部		
20	第21号土坑　c上層（d層）	剥片A類	4.10	3.40	0.80	8.56	頁岩（北上？）				
21	第21号土坑・c層	石匙	6.35	2.25	0.85	9.13	頁岩（北上？）			116図	
22	第21号土坑・c層	剥片A類	2.45	3.70	0.65	3.52	頁岩（北上？）				
23	第21号土坑・c層	スクレイパーA類	3.85	2.80	0.90	6.11	頁岩（北上？）	欠損	左面左突出部刃部		
24	第21号～22号土坑④	Rフレイク	4.85	2.50	1.10	9.63	頁岩（北上？）		左面左辺下半刃部		
25	第22号土坑・4層	剥片A類	4.40	3.75	0.45	5.01	頁岩（北上？）				
26	第22号土坑・4層	剥片A類	4.45	4.20	0.85	12.63	頁岩（北上？）				
27	第23号土坑	剥片A類	4.10	4.10	0.65	8.82	頁岩（北上？）		Rフレイク？・左面右辺刃部？		
28	第24号土坑・7層	Rフレイク	2.60	3.35	0.40	2.65	頁岩（北上？）		左面左突出部下刃部		
29	第24号土坑	剥片A類	3.40	2.15	0.40	2.42	頁岩（北上？）		Uフレイク？・左面右下辺刃部？		
30	第24号？、第33号？土坑	剥片A類？	3.70	5.20	1.30	16.99	頁岩（北上？）		下部火を受けている		

写真図版83　石器（2）（S＝$\frac{2}{3}$）



No.	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
31	第24号土坑	剥片A類	2.30	1.85	0.75	2.63	赤色頁岩（北上？）				
32	第25号土坑　南半	剥片A類	2.60	2.70	1.25	11.42	赤色頁岩（北上？）				
33	第25号　南西隅（別土坑？）	石匙	7.40	2.40	0.80	14.30	頁岩（北上？）			116図	
34	第28号土坑	Rフレイク	3.25	1.50	0.50	1.71	頁岩（北上？）		下辺刃部		
35	第31号土坑・2層	Uフレイク？	5.45	6.15	1.45	32.82	頁岩（北上？）		右面左下辺刃部		
36	第31号土坑・2層	スクレイパーA類	5.75	3.30	0.95	20.65	頁岩（北上？）			116図	
37	第31号土坑・2層	剥片A類	6.55	4.80	1.45	35.02	頁岩（北上？）				
38	第31号土坑・5層	剥片A類？	2.80	2.30	0.50	3.31	頁岩（北上？）				
39	第31号土坑	Rフレイク	4.80	4.80	1.00	26.49	頁岩（北上？）			116図	
40	第32号土坑	剥片A類	5.60	2.90	1.00	10.21	頁岩（北上？）				
41	第31号土坑	剥片A類	4.90	2.85	0.90	7.92	頁岩（北上？）				
42	第33号土坑・4～8層	剥片A類	3.86	1.90	0.45	2.77	頁岩（北上？）				
43	第33号土坑	不明	7.45	5.40	4.50	112.95	凝灰岩（奥羽）		全面スス付着？		
44	第34号土坑・1層	敲石？	7.90	6.95	2.60	191.39	砂岩（北上）		左面左半周敲打痕？		

写真図版84　石器（3）（43、44はS＝$\frac{1}{3}$　他はS＝$\frac{2}{3}$）

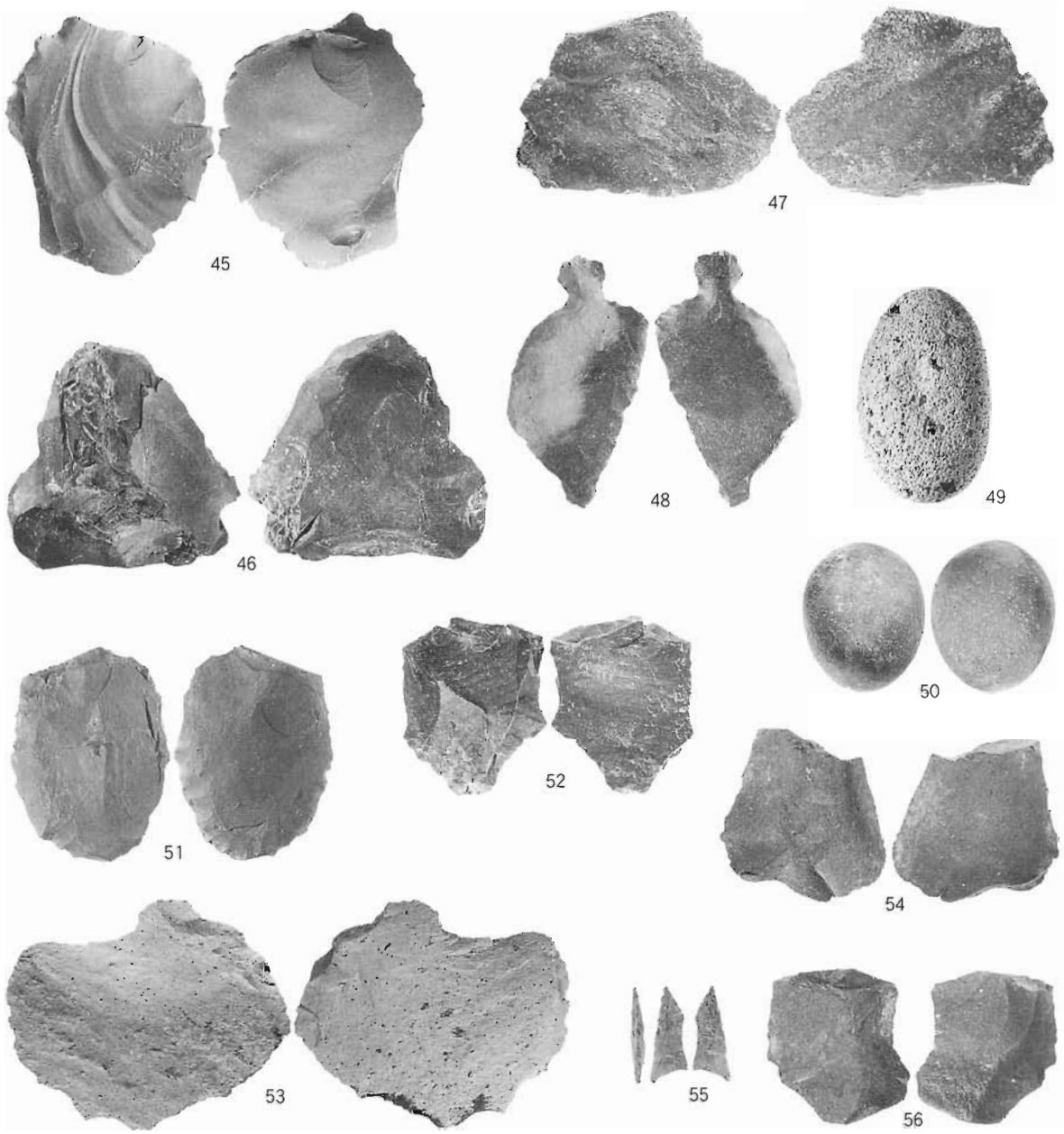
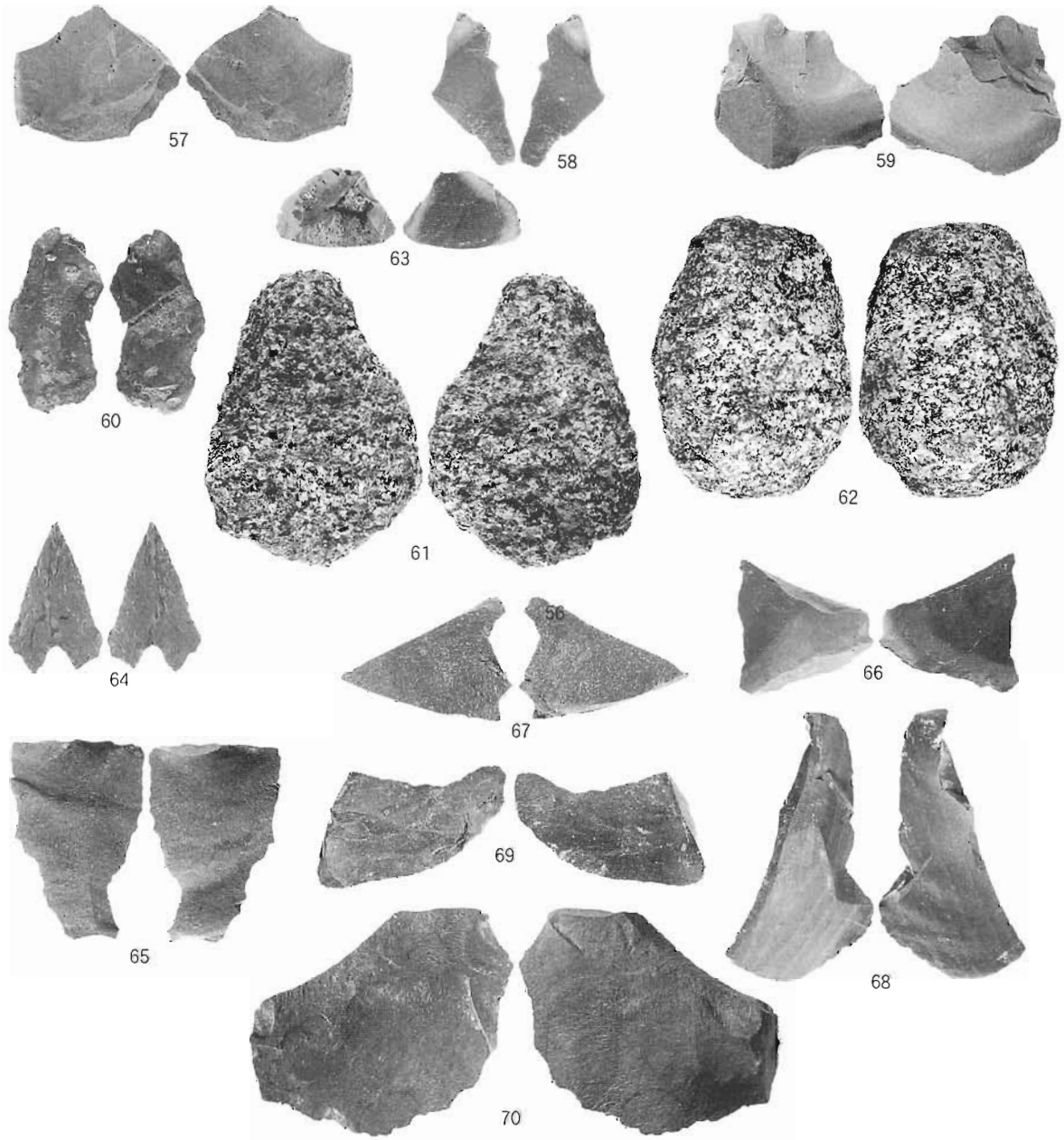


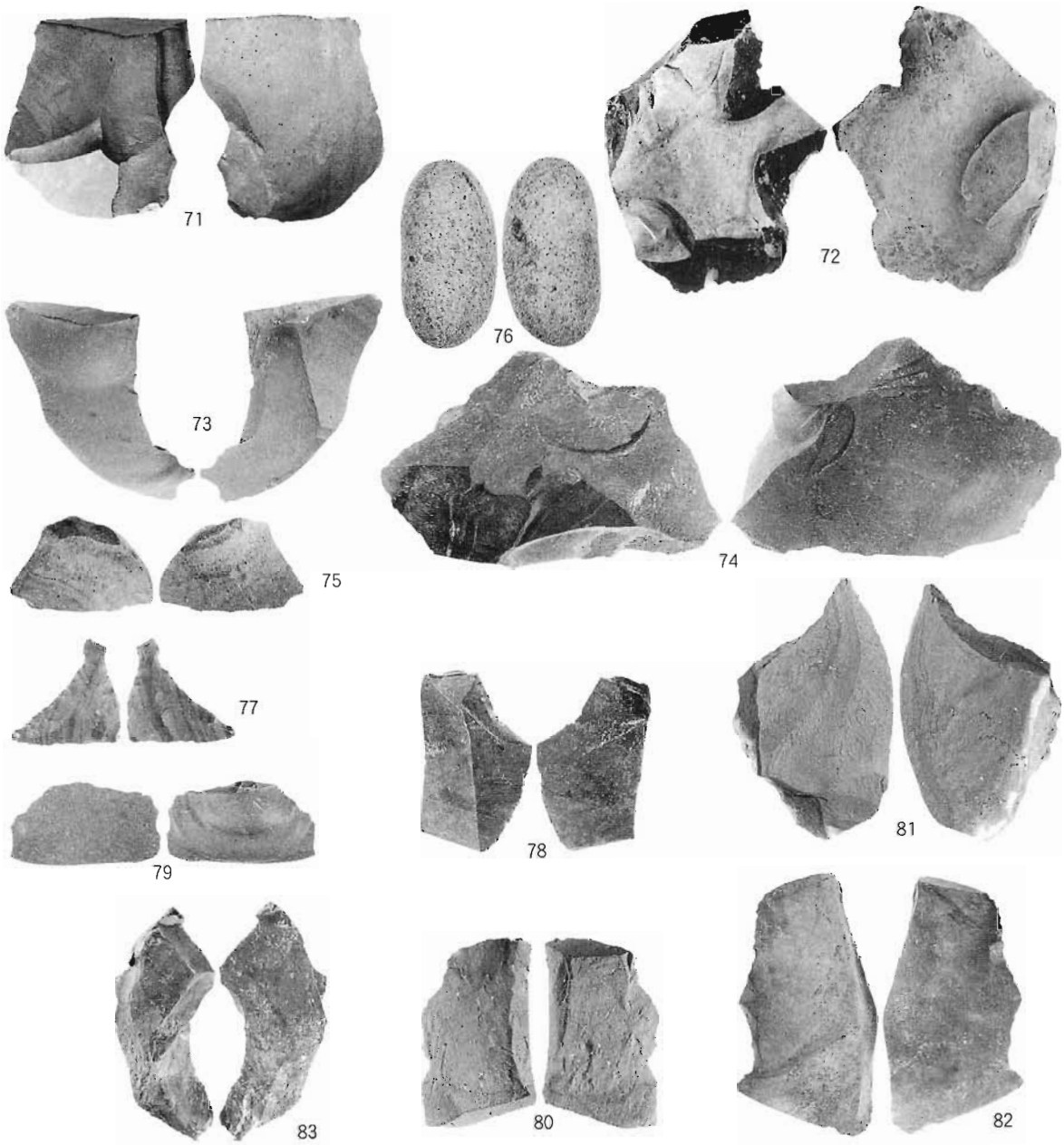
図	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
45	第34号土坑・16層	スクレイパーA類	5.40	4.80	1.00	27.26	頁岩（北上？）	欠損？		117図	
46	第34号土坑・16層	剥片A類	5.20	5.25	2.10	47.61	頁岩（北上？）				
47	第36号土坑	剥片A類	4.25	6.10	0.80	19.74	赤色頁岩（北上？）				
48	第37号土坑・15層	石錐	15.80	3.45	0.50	9.07	頁岩（北上？）			117図	
49	第37号土坑・15層	凹石	9.25	5.65	4.45	295.82	砂岩（北上）		全面摩耗？	117図	
50	第37号土坑・15層	磨石？	6.70	5.70	5.20	284.57	砂岩（北上）		スス付着		
51	第37号土坑・24層	スクレイパーA類	4.85	3.65	0.80	16.26	頁岩（北上？）			117図	
52	第38号土坑③	剥片A類	4.10	3.30	0.80	7.61	頁岩（北上？）				
53	第38号土坑④	Rフレイク	5.30	6.35	1.00	23.85	頁岩（北上？）		右面下三つの弧刃部		
54	第38号土坑・1層	剥片A類	3.55	3.75	1.10	13.32	頁岩（北上？）				
55	第38号土坑・1層	石錐（凹基）	2.15	0.95	0.30	0.44	頁岩（北上？）	1/3欠損		117図	
56	第38号土坑・1層	剥片A類	3.20	3.55	0.85	8.21	頁岩（北上？）				

写真図版85　石器（4）（49、50はS＝$\frac{1}{3}$　他はS＝$\frac{2}{3}$）



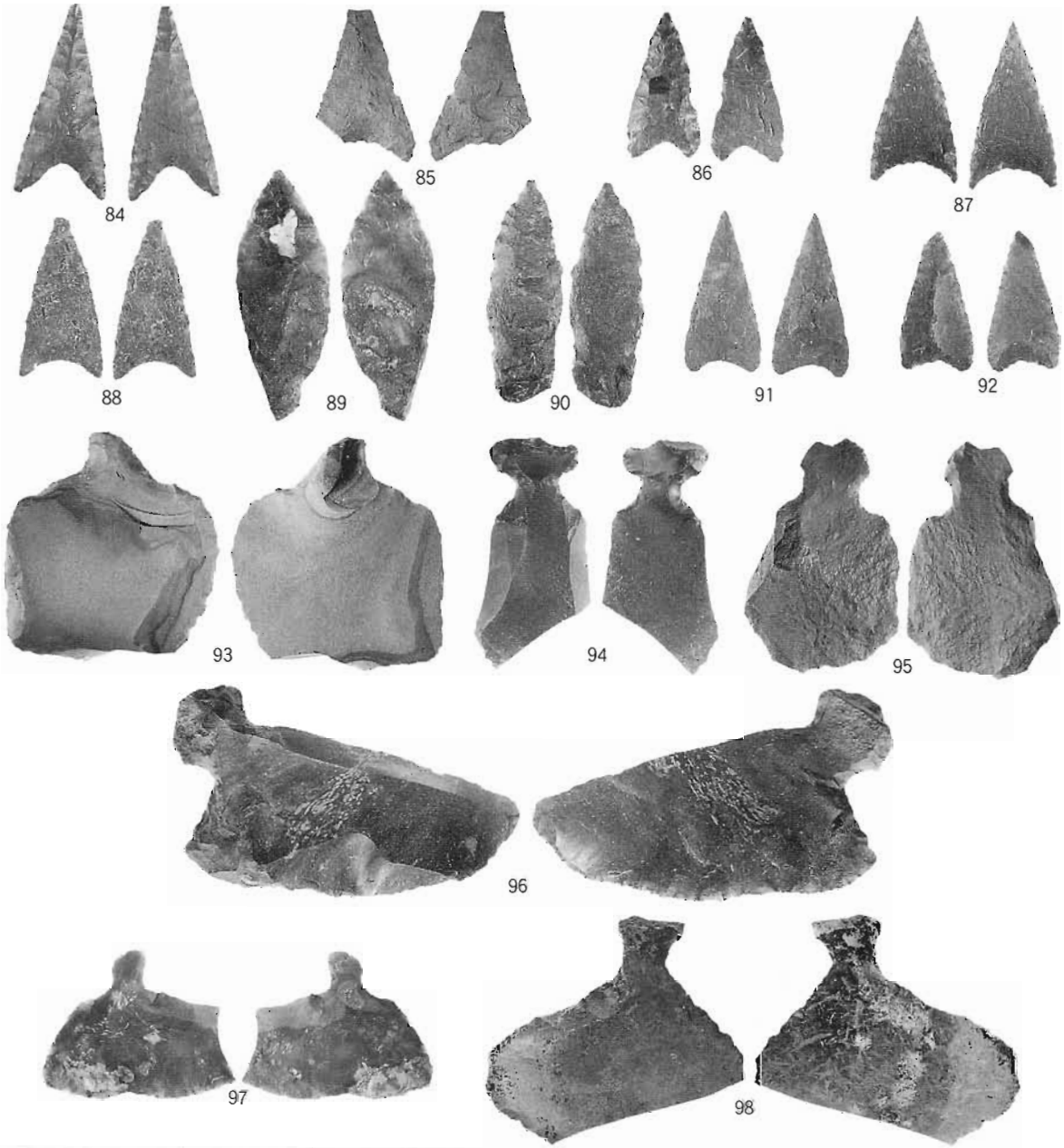
No	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
57	第38号土坑・1層	剥片A類	3.05	3.80	0.60	4.38	凝灰岩(奥羽)				
58	第38号土坑・1層	剥片A類	3.65	1.80	0.50	1.56	頁岩(北上?)				
59	第38号土坑・1層	剥片A類	3.25	4.00	1.00	11.01	頁岩(北上?)				
60	第38号土坑・4層	Uフレイク?	3.10	2.30	0.90	3.35	頁岩(北上?)		左縁左辺刃部		
61	第38号土坑・6層	敲石?	12.70	9.25	4.35	398.82	花崗閃緑岩(北上)	全面ボロボロ			
62	第38号土坑・6層	敲石?	11.70	8.35	6.10	823.97	花崗閃緑岩(北上)		L面主要敲打部?		
63	第38号土坑・7層	剥片A類	1.80	2.70	0.35	1.75	頁岩(北上?)				
64	第40号土坑・4層	石鏃(凹基変形)	3.45	2.15	0.25	1.81	頁岩(北上?)			117図	
65	第41号土坑・1層	剥片A類	4.50	3.05	0.60	6.77	頁岩(北上?)				
66	第41号土坑・6層	剥片A類	3.10	3.35	0.85	7.10	頁岩(北上?)				
67	第41号土坑	剥片A類	2.80	3.85	0.60	5.39	頁岩(北上?)				
68	第42号土坑②	剥片A類	3.50	5.85	1.15	10.64	頁岩(北上?)				
69	第42号土坑④(第34号土坑含む)	スクレイパーA類	3.70	3.60	0.85	6.87	頁岩(北上?)		下辺刃部		
70	第42号土坑④(第34号土坑含む)	剥片A類	6.10	4.90	1.10	29.42	頁岩(北上?)				

写真図版86　石器(5)(61、62は S＝$\frac{1}{3}$　他は S＝$\frac{2}{3}$)



No.	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
71	第42号土坑④(第34号土坑含む)	剥片A類	4.25	4.55	1.15	22.50	頁岩(北上?)				
72	第42号～44号土坑	剥片A類	5.00	5.85	1.00	13.59	凝灰岩(奥羽)				
73	第43号土坑・1層	剥片A類	3.30	5.75	1.15	9.42	頁岩(奥羽?)				
74	第43号土坑・3a層	Uフレイク?	4.85	7.45	1.65	44.23	頁岩(北上?)		左面左二辺刃部		
75	第43号土坑・6層	剥片A類	2.60	3.00	0.80	4.04	頁岩(北上?)				
76	第43号土坑・7b層	礫石?	8.35	4.15	2.80	132.42	石英安山岩(奥羽)		敲打痕はっきりしない		
77	第44号土坑・1層上部にぶい黄褐色土層	石鏃(小型)	2.40	2.55	0.60	2.56	赤色頁岩(北上?)	左面右欠損		117図	
78	第46号土坑	Uフレイク	4.10	2.70	1.10	10.26	頁岩(北上?)		左面右下辺刃部		
79	第9号～11号土坑	剥片A類	1.90	4.40	0.60	3.13	頁岩(北上?)			117図	
80	第9号～11号土坑	剥片A類	4.10	2.90	0.90	8.73	頁岩(北上?)			117図	
81	第9号～11号土坑	剥片A類	5.40	3.75	0.80	18.71	頁岩(北上?)			117図	
82	第9号～13号土坑(第12号～13号中心)	剥片A類?	5.40	3.95	1.10	14.84	頁岩(北上?)				
83	第9号～13号土坑(第12号～13号中心)	剥片A類	5.25	2.35	1.50	13.26	赤色頁岩(北上?)				

写真図版87　石器(6)(76は S＝$\frac{1}{3}$　他は S＝$\frac{2}{3}$)



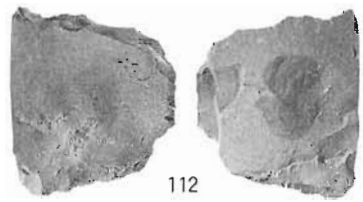
No.	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	石質	現存状況	備考	図の有無	本文記載
84	21B ②・Ⅰ層	石鏃（凹基）	4.25	2.10	0.50	3.32	赤色頁岩（北上？）			117図	
85	21B 4b・表土（黒色土）	石鏃（凹基）	3.45	2.25	0.60	2.69	頁岩（北上？）	先端、基部欠損		117図	
86	21B 4b・表土（黒土）	石鏃（凹基）	3.30	1.70	0.35	1.64	頁岩（奥羽？）	表面一部欠損		117図	
87	21C ①・Ⅲ層（Ⅲb）	石鏃（凹基）	3.80	2.00	0.40	2.35	頁岩（北上？）				
88	21C 4b・10～20cm（茶褐色土）	石鏃（凹基）	3.50	1.85	0.50	2.76	頁岩（北上？）				
89	21C ②・Ⅱ層	石鏃（凸基）	5.55	2.10	0.70	8.19	赤色頁岩（北上？）				
90	22B ②・Ⅰ～Ⅱ層	石鏃（凸基）	4.90	1.65	0.90	7.77	赤色頁岩（北上？）		厚い		
91	22B ③・Ⅰ～Ⅲ層	石鏃（凹基）	3.65	1.70	0.55	2.27	頁岩（北上？）				
92	25C ③・検出面（Ⅵ層）	石鏃（凹基）	3.20	1.65	0.50	2.06	頁岩（北上？）	先端部欠損			
93	排土	石匙	5.15	4.70	0.75	20.35	頁岩（奥羽？）	先端部欠損		118図	
94	東部包含層ベルト・Ⅲb層	石匙	5.15	2.70	0.60	6.95	頁岩（北上？）	先端部欠損		118図	
95	21B ④・Ⅱ層（Ⅲa）	石匙	5.35	3.45	1.10	18.03	赤色頁岩（北上？）	刃部摩滅		118図	
96	21B 4c・表土（黒土）	石匙	4.35	7.95	1.20	30.79	頁岩（北上？）	左面右端欠損			
97	21B 4c・表土（黒土）	石匙	3.40	4.35	0.50	5.41	頁岩（北上？）				
98	21C 4a・重機から10cm（茶褐色土）	石匙	5.35	5.90	1.05	16.30	頁岩（北上？）	先端部欠損	摘部中心にタール状付着物		

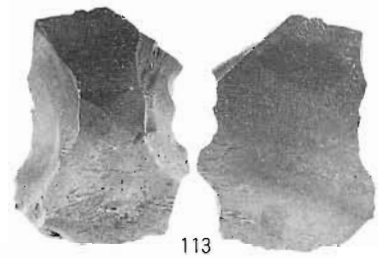
写真図版88　石器（7）（S＝$\frac{2}{3}$）

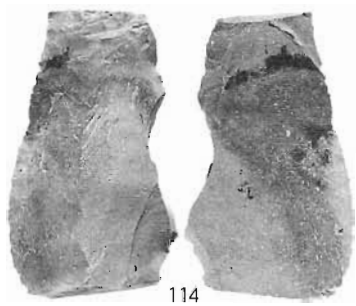
No.	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
99	21C 4b・20～30cm (赤褐色土)	石匙	7.20	4.15	1.10	26.76	頁岩 (北上?)	先端部欠損			
100	22B ④・Ⅰ～Ⅱ層	石匙	3.00	3.75	0.80	4.75	頁岩 (北上?)	左面右端欠損			
101	22B ④・Ⅰ～Ⅱ層	石匙	6.40	2.15	0.85	7.35	頁岩 (北上?)				
102	22C ①・Ⅰ～Ⅲ層	石匙	3.40	1.85	1.00	4.98	赤色頁岩 (北上?)				
103	崖際25B ③～25C ①・Ⅰ層	石匙	6.00	5.70	1.30	32.97	頁岩 (北上?)				
104	25B ④・Ⅲa層	石匙	6.50	4.45	1.05	25.19	頁岩 (北上?)				
105	25C ②・Ⅲa層	石匙	8.10	1.90	0.80	11.37	頁岩 (奥羽?)				
106	26C ①・Ⅲa層	石匙	5.00	2.35	0.55	6.81	頁岩 (北上?)		左右下部刃部だが顕著でない		
107	26C ①・Ⅳ層	石匙	3.70	3.00	1.05	7.77	頁岩 (北上?)	基部破片			
108	26C ①・Ⅳ層	石匙	3.30	3.80	0.60	4.54	頁岩 (北上?)				
109	26C ②・Ⅲ層	石匙	11.20	2.05	1.15	24.00	頁岩 (奥羽?)	先端部欠損			
110	26C ②～④・Ⅰ層	石匙	9.30	1.95	1.00	18.34	頁岩 (奥羽?)				

写真図版89　石器(8)(S=$\frac{2}{3}$)

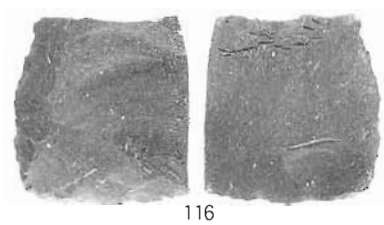
111

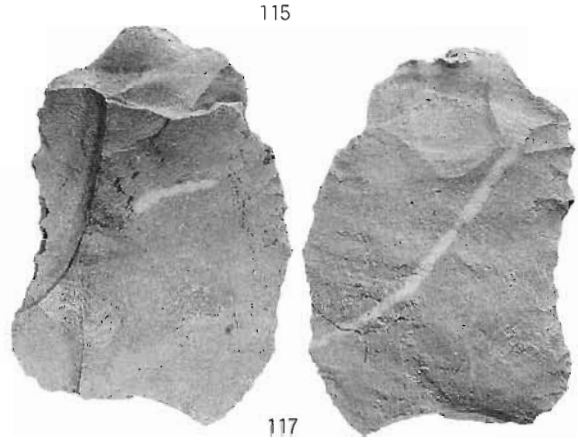

112


113

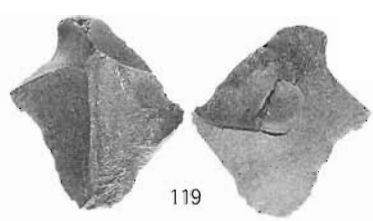

114

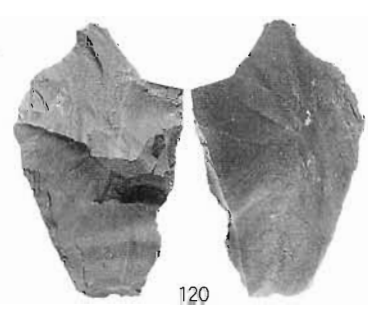
115

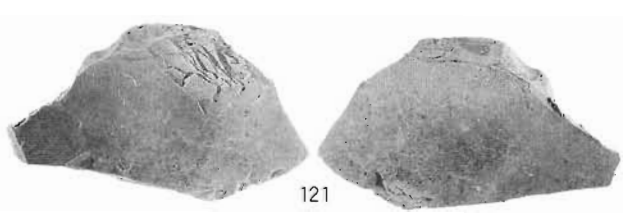

116


117

118

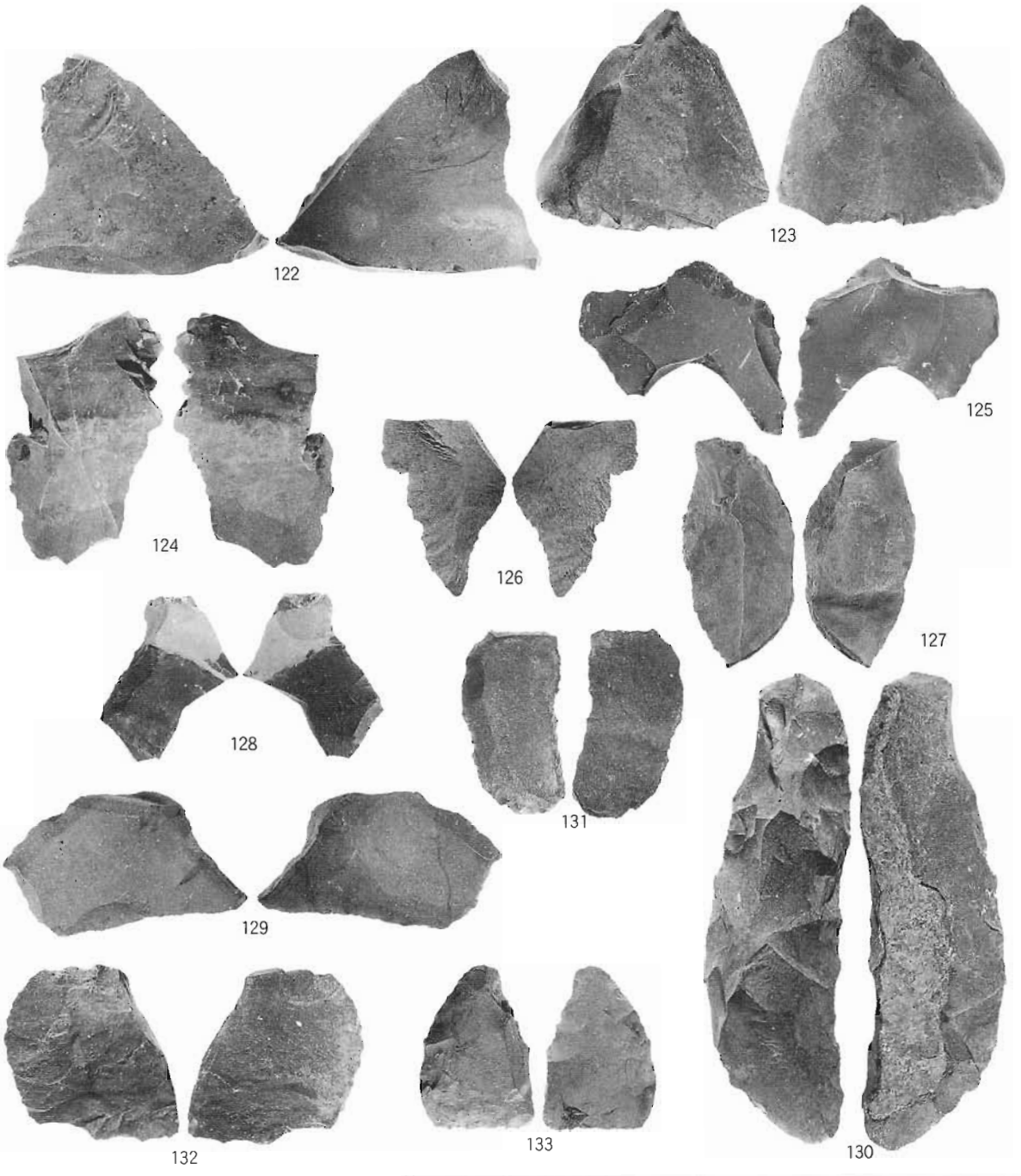

119


120


121

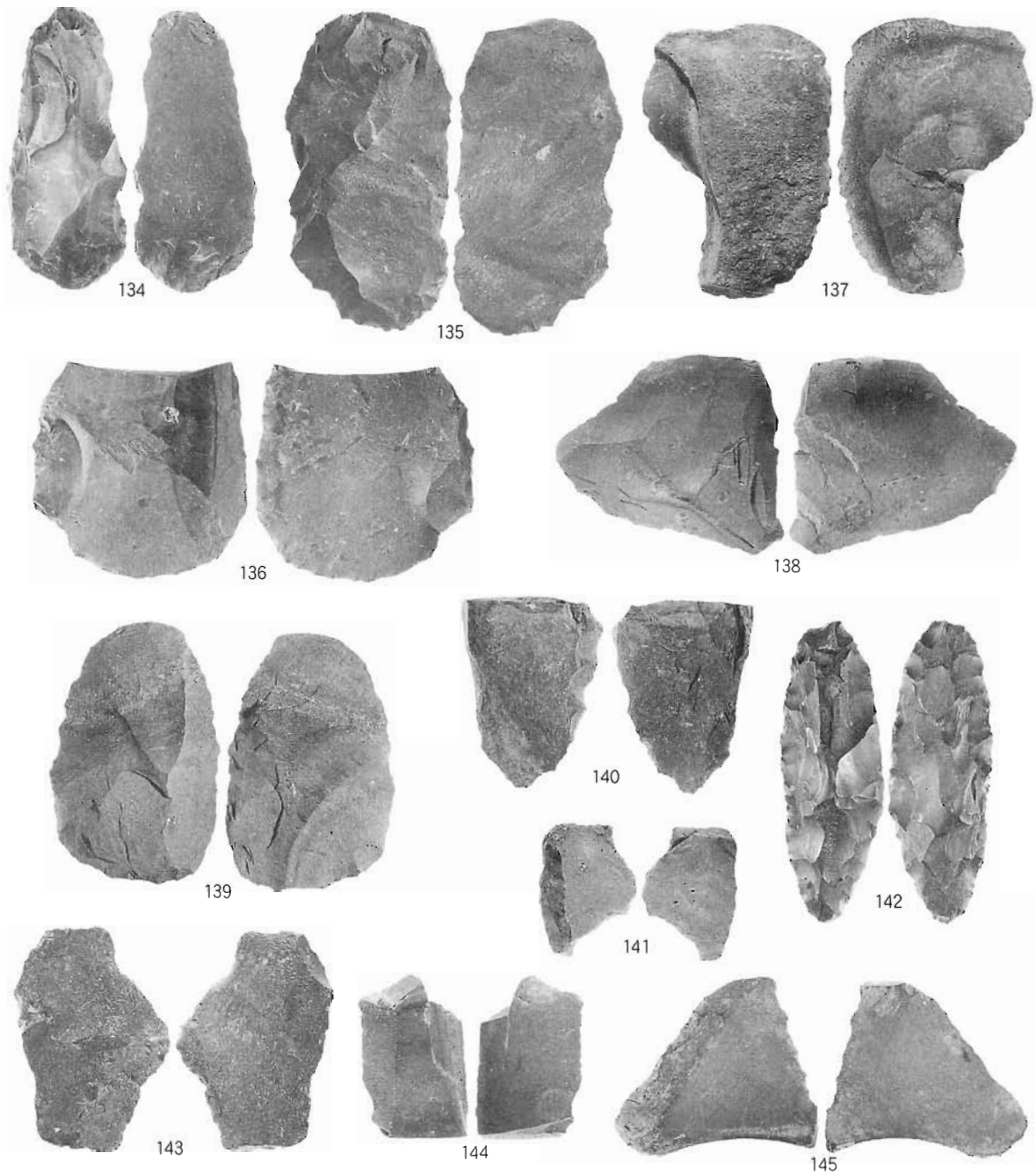
No	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm)			重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
			長さ	幅	厚さ						
111	排土	スクレイパーA類	3.05	3.35	0.85	9.84	頁岩（北上？）			118図	
112	排土	スクレイパーA類	3.95	3.70	0.86	11.93	頁岩（北上？）			118図	
113	東部包含層ベルト・Ⅲb層	スクレイパーA類	4.90	3.65	1.70	23.46	頁岩（奥羽？）			118図	
114	東部包含層ベルト・Ⅲa層	スクレイパーA類	5.70	3.45	1.00	18.34	頁岩（北上？）		左面左辺刃部		
115	東部包含層ベルト・Ⅲa層	スクレイパーA類	3.30	6.30	1.45	22.55	頁岩（北上？）		下辺刃部		
116	東部包含層南風倒木	スクレイパーA類	4.70	4.65	0.95	16.14	頁岩（北上？）		左面左～下辺刃部		
117	崖下パイプ中央	スクレイパーA類	7.90	5.50	1.45	54.39	頁岩（北上？）		上辺以外刃部		
118	21B②・Ⅰ層	スクレイパーA類	4.00	3.20	0.60	7.23	頁岩（北上？）	上部欠損	全辺刃部		
119	21B②・Ⅰ層	スクレイパーA類	4.10	3.60	1.00	8.71	頁岩（北上？）		左面左下辺刃部		
120	21B②・Ⅰ層	スクレイパーA類	5.60	3.40	1.30	18.13	頁岩（北上？）		左面左下辺刃部		
121	21B③・Ⅱ層（Ⅲb）	スクレイパーA類	3.50	6.10	1.30	24.40	頁岩（奥羽？）		左面右下辺刃部		

写真図版90　石器（9）（S＝$\frac{2}{3}$）



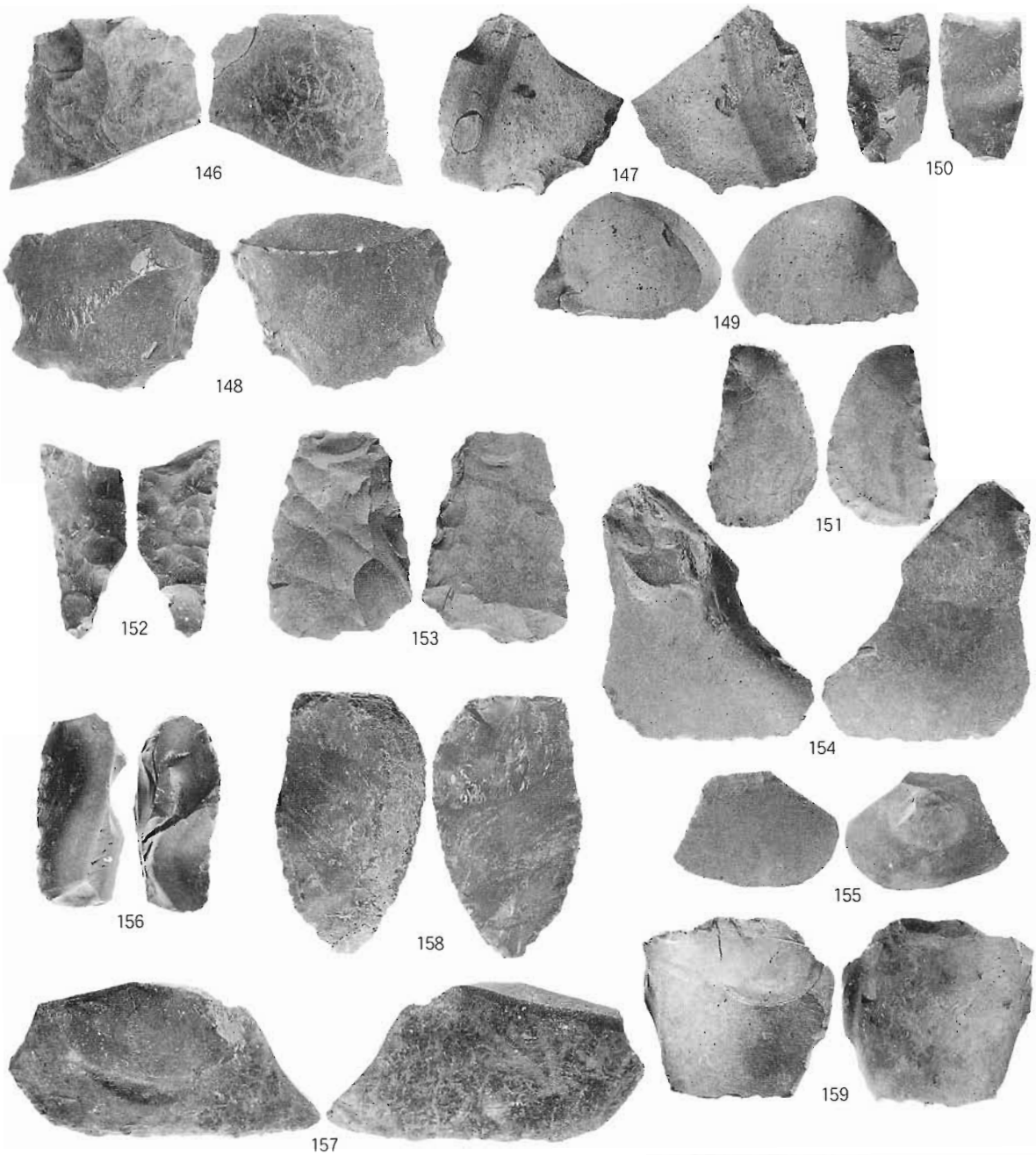
No.	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
122	21B③・Ⅲ層（Ⅱc）	スクレイパーA類	5.25	6.15	1.55	39.52	頁岩（北上？）		左面左辺弧部刃部		
123	21B③・Ⅲ層（Ⅱc）	スクレイパーA類	5.30	5.25	1.30	34.81	頁岩（北上？）		下辺刃部		
124	21B④・Ⅲ層（倒木痕）	スクレイパーA類	5.55	4.30	1.60	22.87	頁岩（北上？）	下先端部欠損	上辺以外刃部		
125	21B④・Ⅲ層（Ⅲb）	スクレイパーA類	5.35	4.15	1.15	16.88	頁岩（北上？）		上辺、下辺弧部以外刃部		
126	21B4b・表土	スクレイパーA類	4.20	2.95	0.40	3.39	頁岩（北上？）		左面右下辺刃部		
127	21B4b・表土（黒土）	スクレイパーA類	5.40	2.70	1.05	14.00	頁岩（北上？）		左面左辺刃部		
128	21B4b・表土（黒土）	スクレイパーA類	4.25	2.65	0.80	7.09	頁岩（北上？）		左面左上辺刃部		
129	21B4b・表土（黒土）	スクレイパーA類	5.30	3.70	1.40	15.40	頁岩（北上？）		左面右辺以外刃部		
130	21B4b・表土（黒土）	スクレイパーA類	11.85	3.80	1.85	55.58	頁岩（北上？）				
131	21B4b・表土下～10cm（黄茶褐色土）	スクレイパーA類	4.50	2.40	1.00	9.10	頁岩（北上？）		全周刃部		
132	21B4b・表土下～10cm（黄茶褐色土）	スクレイパーA類	4.10	4.40	1.10	14.35	頁岩（北上？）		左面左辺刃部		
133	21B4b・表土下～10cm（黄茶褐色土）	スクレイパーA類	3.05	4.00	0.65	8.00	頁岩（北上？）		左面左辺下以外刃部		

写真図版91　石器(10)（S＝$\frac{2}{3}$）



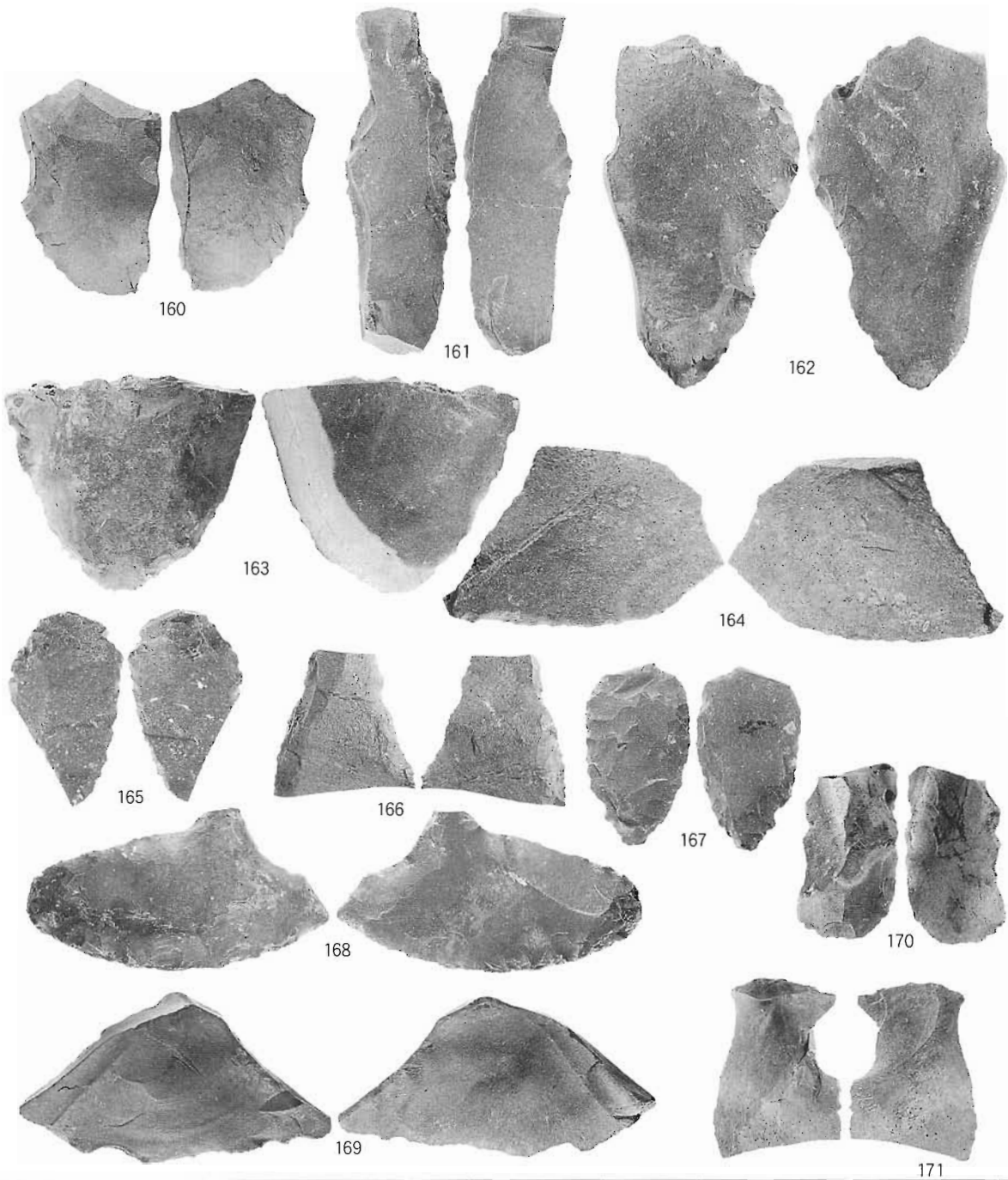
No	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
134	21B4c・表土	スクレイパーA類	6.45	2.75	1.50	26.48	頁岩（奥羽？）		上端以外刃部		
135	21B4c・表土	スクレイパーA類	7.45	3.90	1.15	30.82	頁岩（北上？）		上端以外刃部？		
136	21B4c・表土（黒土）	スクレイパーA類	5.05	4.95	1.40	29.61	頁岩（北上？）		左面右～下辺刃部		
137	21B4c・表土（黒土）	スクレイパーA類	6.45	4.40	0.95	20.81	頁岩（北上？）		左面右辺刃部		
138	21B4c・表土（黒土）	スクレイパーA類	4.35	5.60	1.35	28.72	頁岩（北上？）		左面左下～下辺刃部		
139	21B4c・表土下10cm（茶褐色土）	スクレイパーA類	6.10	3.90	1.25	26.30	頁岩（北上？）		上端以外刃部		
140	21B4e・10～20cm	スクレイパーA類	4.45	3.30	1.20	14.76	頁岩（北上？）		左面右辺刃部		
141	21B4e・10～20cm	スクレイパーA類	3.15	2.15	0.75	5.51	頁岩（北上？）		左右両辺刃部		
142	21C②・Ⅱ層	スクレイパーA類	7.00	2.40	1.45	22.96	頁岩（奥羽？）		全面剥離		
143	21C②・Ⅱ層（Ⅲa）	スクレイパーA類	5.05	3.80	0.90	16.09	頁岩（北上？）	左面左上、下辺欠損？	全周刃部？		
144	21C③・Ⅲ層（倒木痕）	スクレイパーA類	3.75	2.55	0.90	9.96	頁岩（北上？）		U字状ブレイク・左面左辺刃部		
145	21C4a・10～20cm（茶褐色土）	スクレイパーA類	4.05	4.70	1.20	17.00	頁岩（北上？）		左右両辺刃部		

写真図版92　石器(11)（S＝$\frac{2}{3}$）



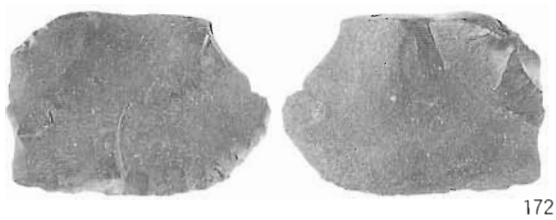
No.	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
146	21C 4a・20～30cm(茶褐色土下部)	スクレイパーA類	3.45	5.25	1.35	17.78	頁岩(北上?)		左面左辺刃部		
147	21C 4a・20～30cm(茶褐色土下部)	スクレイパーA類	4.15	4.10	0.95	16.27	頁岩(北上?)		左面下～左辺刃部?		
148	21C 4a・30～40cm(茶褐～こげ茶色土)	スクレイパーA類	4.05	5.05	1.50	27.08	頁岩(北上?)		左右両辺刃部		
149	21C 4b・10～20cm	スクレイパーA類	3.00	4.30	0.90	7.62	頁岩(北上?)		Uフレイク?・下辺刃部		
150	21C 4b・20～30cm(赤褐色土)	スクレイパーA類	3.40	2.10	0.55	4.13	頁岩(北上?)	先端部欠損?	全周刃部?		
151	21C 4b・20～30cm(赤褐色土)	スクレイパーA類	4.30	2.55	0.60	6.73	頁岩(北上?)		全周刃部		
152	22B①・Ⅰ～Ⅲ層	スクレイパーA類	4.60	2.10	0.60	5.18	頁岩(北上?)	上下端欠損	全面剥離		
153	22B②・Ⅰ～Ⅱ層	スクレイパーA類	4.90	3.35	1.25	20.67	頁岩(北上?)		上端以外刃部?		
154	22B②・Ⅰ～Ⅱ層	スクレイパーA類	5.90	4.90	1.45	32.64	頁岩(北上?)		Rフレイク?・左面左下～下辺刃部		
155	22B②・Ⅰ～Ⅱ層柱穴状疑似現象	スクレイパーA類	2.80	3.80	0.75	5.41	頁岩(北上?)		左面右上辺以外刃部?		
156	22B②・Ⅰ～Ⅱ層柱穴状疑似現象	スクレイパーA類	4.60	2.05	1.40	11.31	頁岩(北上?)		左面左～下辺刃部		
157	22B③・Ⅰ～Ⅱ層	スクレイパーA類	3.60	7.25	1.15	21.79	頁岩(北上?)		左面左下～下辺刃部		
158	22B③・Ⅰ～Ⅱ層	スクレイパーA類	6.05	3.45	1.10	18.89	頁岩(北上?)		上下辺以外刃部		
159	22B③・Ⅰ～Ⅲ層	スクレイパーA類	4.55	4.25	1.30	19.38	頁岩(北上?)		下辺刃部		

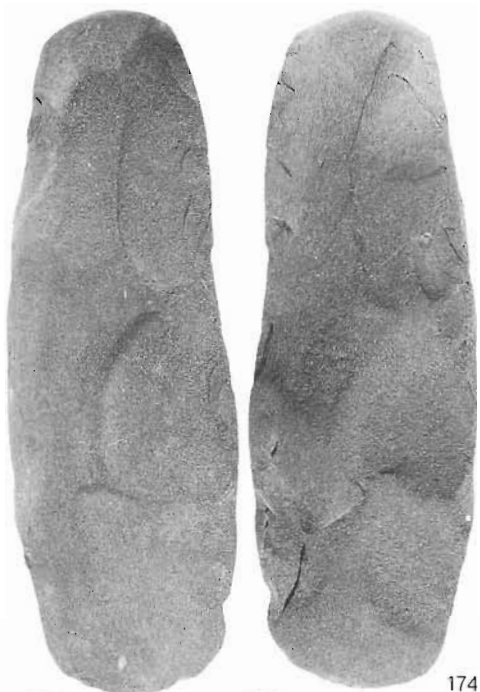
写真図版93　石器(12)(S＝$\frac{2}{3}$)

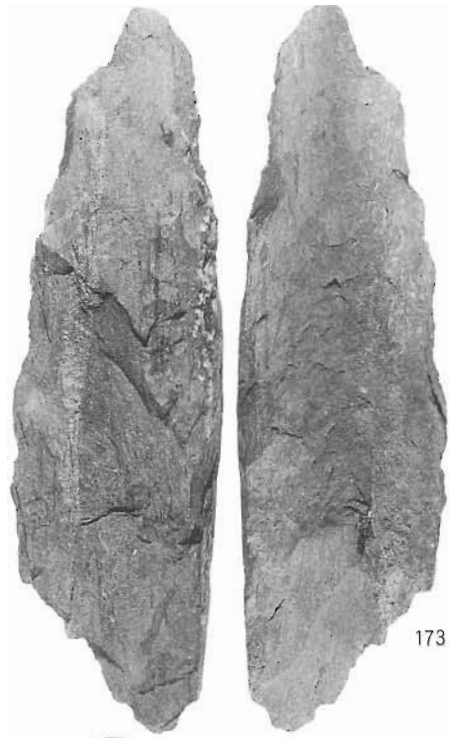


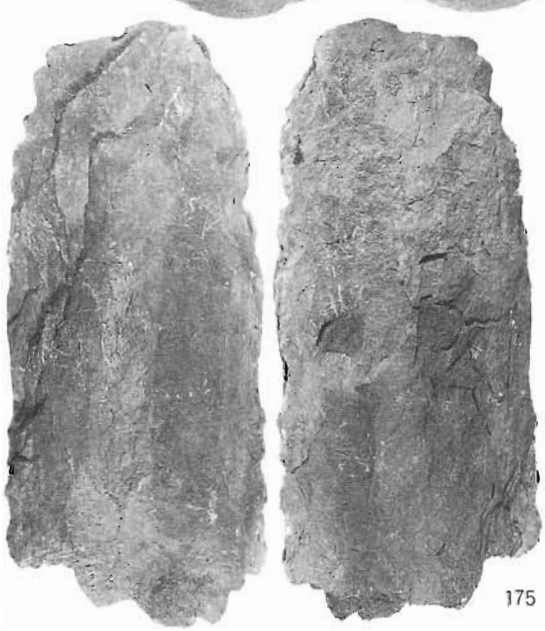
No	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
160	22B ④・Ⅰ～Ⅱ層	スクレイパーA類	4.95	3.60	1.00	15.60	頁岩（北上？）		左面左下辺刃部、その上自然面		
161	22B ④・Ⅰ～Ⅱ層	スクレイパーA類	8.20	2.65	1.20	23.66	頁岩（奥羽？）	下先端部欠損	左面右辺、左下辺刃部		
162	22B ④・Ⅰ～Ⅱ層	スクレイパーA類	8.30	4.60	1.20	42.21	頁岩（北上？）		左面右辺刃部		
163	22B ④・Ⅰ～Ⅱ層	スクレイパーA類	5.10	5.90	1.45	43.94	頁岩（北上？）		上端以外刃部？		
164	22C ①・Ⅰ～Ⅲ層	スクレイパーA類	4.40	6.66	1.35	23.33	頁岩（北上？）	左面右上縁部欠損？	全周刃部？		
165	25C ②・Ⅲa層	スクレイパーA類	4.65	2.70	0.75	7.28	頁岩（北上？）	左面左下欠損	上端以外刃部？		
166	25C ②・Ⅲ層	スクレイパーA類	3.50	3.45	0.85	9.59	頁岩（北上？）	下端欠損？	両辺刃部		
167	25C ②・Ⅲa層	スクレイパーA類	4.35	2.50	0.90	10.48	頁岩（北上？）		上辺以外刃部		
168	25C ②・Ⅲa層	スクレイパーA類	3.75	7.15	1.30	30.56	頁岩（北上？）	上端欠損	石匙？・欠損部位外刃部		
169	26D ①～③　試掘トレンチ	スクレイパーA類	4.00	7.35	1.75	29.88	頁岩（北上？）	下辺刃部			
170	27D ①・Ⅰ～Ⅲ層	スクレイパーA類	4.05	2.90	1.10	9.42	頁岩（北上？）		タール状付着物？・上端以外刃部？		
171	排土	スクレイパーA類	4.30	3.10	0.90	8.82	頁岩（奥羽？）		左右両辺刃部	118図	

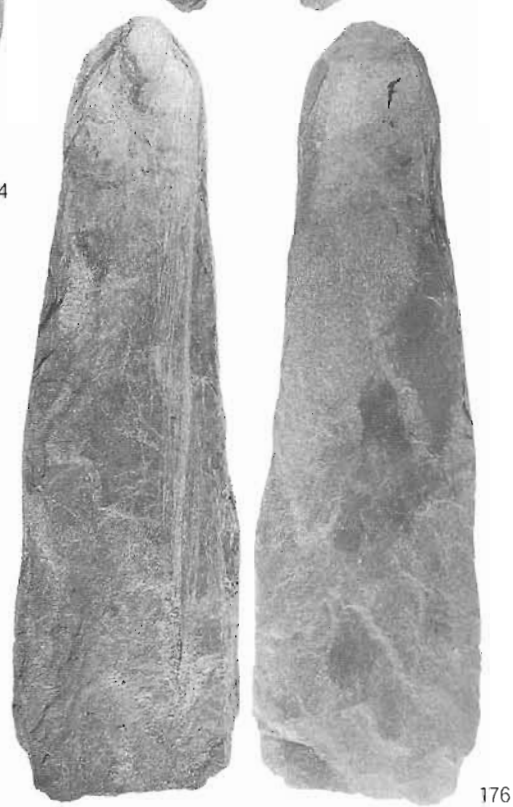
写真図版94　石器(13)（S＝$\frac{2}{3}$）


172


174

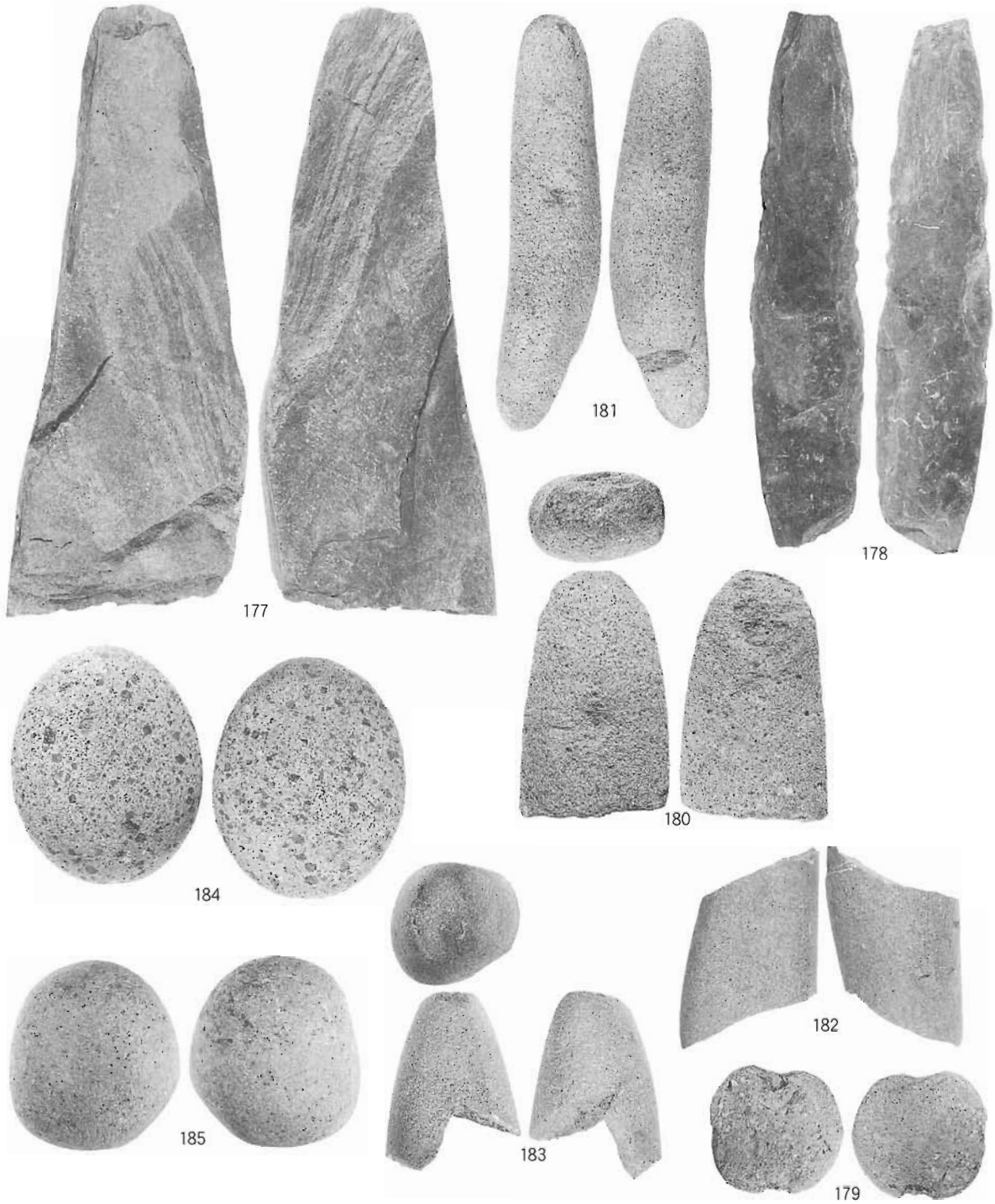

173


175


176

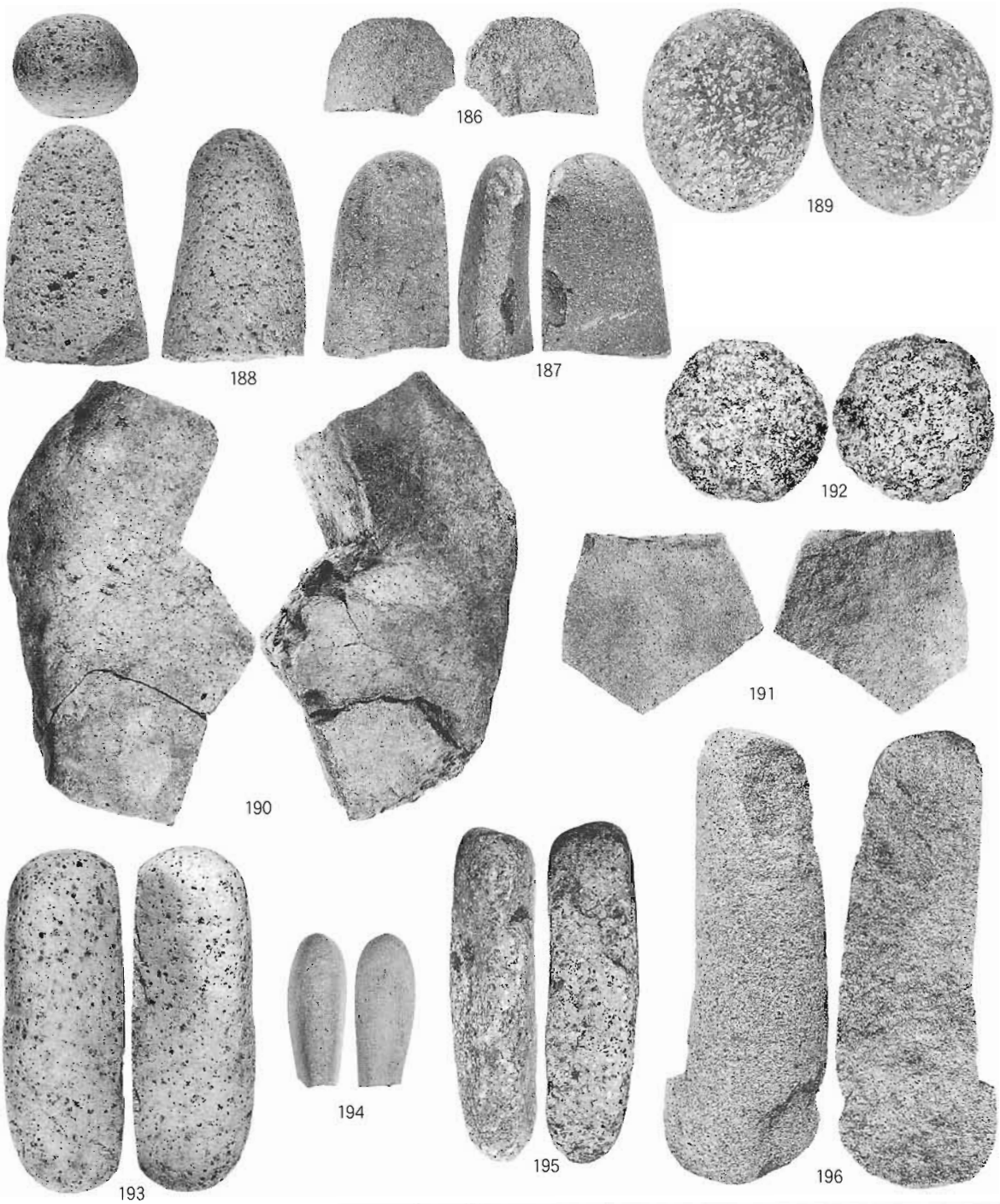
No.	出土地点・層位	器種	最大計測値 (cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
172	21C ② ・ Ⅱ層	スクレイパー A類	3.75	5.45	0.90	18.35	粘板岩（北上）		下辺刃部	118図	
173	排土	打製石斧 A類	24.65	4.30	0.90	84.38	粘板岩（北上）		左面右辺破打痕？	118図	
174	22B ③ ・ 1～Ⅲ層	打製石斧 A類	13.50	4.60	2.25	186.60	ホルンフェルス（北上）		右面先端面摩滅？	118図	
175	撹乱25B ⑤～25C ② ・ Ⅰ層	打製石斧 A類	12.00	5.30	1.70	130.00	粘板岩（北上）	下端欠損		119図	
176	21B ④ ・ Ⅱ層	打製石斧 B類	15.80	4.70	0.75	80.42	粘板岩（北上）		左面擦り切り痕？	119図	

写真図版95　石器(14)（S＝$\frac{2}{3}$）



No.	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
177	21C 4 a・10～20cm（茶褐色土）	打製石斧 B 類	14.55	5.75	1.70	139.00	粘板岩（北上）			119図	
178	25B ④・Ⅲ a 層	打製石斧 B 類	13.09	2.80	0.55	34.22	粘板岩（北上）			119図	
179	22C・Ⅱ層	礫石錘	6.05	6.35	1.40	77.59	砂岩（北上）			119図	
180	21B ③・Ⅱ層（Ⅲ b）	凹石	12.20	7.50	4.90	630.45	砂岩（北上）	下端欠損？	側面磨面	119図	
181	21C 4 a・30～40cm（茶褐～こげ茶色土）	凹石	19.75	5.00	3.25	376.15	砂岩（北上）		凹部は直径約 2 mm円の集合体	119図	
182	20B ②・Ⅲ層（Ⅲ c）	磨石	10.25	6.80	4.60	449.77	砂岩（北上）		片側磨面	119図	
183	21B ③・Ⅰ層	磨石＋敲石	9.30	5.50	5.50	301.9i	砂岩（北上）	下端欠損？	先端敲打痕	119図	
184	21B ⑤・Ⅲ層（Ⅲ b）	磨石	11.70	9.30	4.10	734.69	玢岩（北上）			119図	
185	21B ④・Ⅱ層	磨石	9.30	8.10	6.00	701.43	玢岩（北上）		左面磨面・右面にスス？		

写真図版96　石器(15)（177、178は S＝$\frac{2}{3}$　179～185は S＝$\frac{1}{3}$）

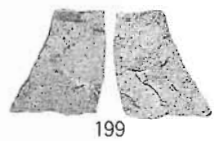


No.	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
186	21B・Ⅲ層（Ⅱc）	磨石	4.50	5.95	0.90	24.59	砂岩（北上）	破片			
187	21C①・Ⅱ層（Ⅲa）	磨石	9.85	6.05	3.60	305.18	玢岩（北上）	欠損	側面磨面		
188	22B①・表土～Ⅱ，Ⅲ層	磨石	11.80	7.00	5.50	653.54	玢岩（北上）	欠損	左面磨面		
189	22B③ 抜根	磨石	9.90	8.30	3.90	516.57	玢岩（北上）				
190	21B④・Ⅱ層	石皿	21.20	11.80	7.60	2415.42	アプライト+ペグマタイト(北上)	破片	左面磨面？	120図	
191	21C①・Ⅲ層（Ⅱc）	石皿	9.30	9.15	4.30	514.02	砂岩（北上）	破片	磨っている？	120図	
192	21B③ 抜根	敲石	8.00	7.70	4.30	375.09	花崗閃緑岩（北上）		全面敲打痕	120図	
193	21B②・Ⅲ（Ⅱc）	敲石＋磨石	16.50	5.90	4.10	573.36	石英安山岩（奥羽）		側面磨面	120図	
194	21B・Ⅲ層（Ⅱc）	敲石	7.50	2.95	2.65	71.79	頁岩（北上？）		正面中央浅い敲打痕	120図	
195	21B・Ⅲ層（Ⅱc）	敲石	16.00	4.40	3.90	362.49	玢岩（北上）		左面中央敲打痕？		
196	21C②・Ⅱ層	敲石	21.90	7.50	2.20	423.33	砂岩（北上）	破片（剥落）	左面右上、左下敲打痕		

写真図版97　石器(16)（S＝$\frac{1}{3}$）

197

198


199

200

201

202

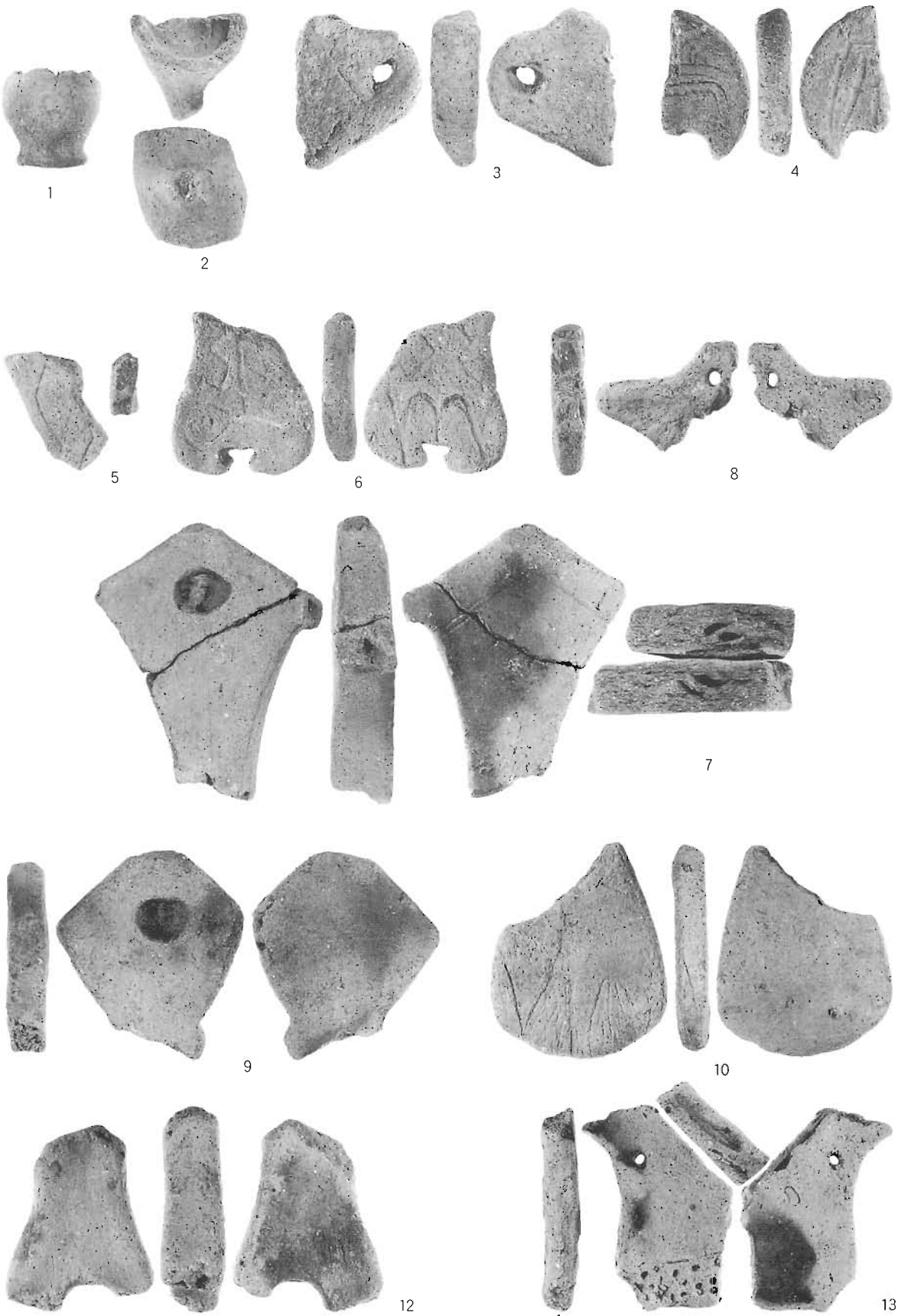
203

204

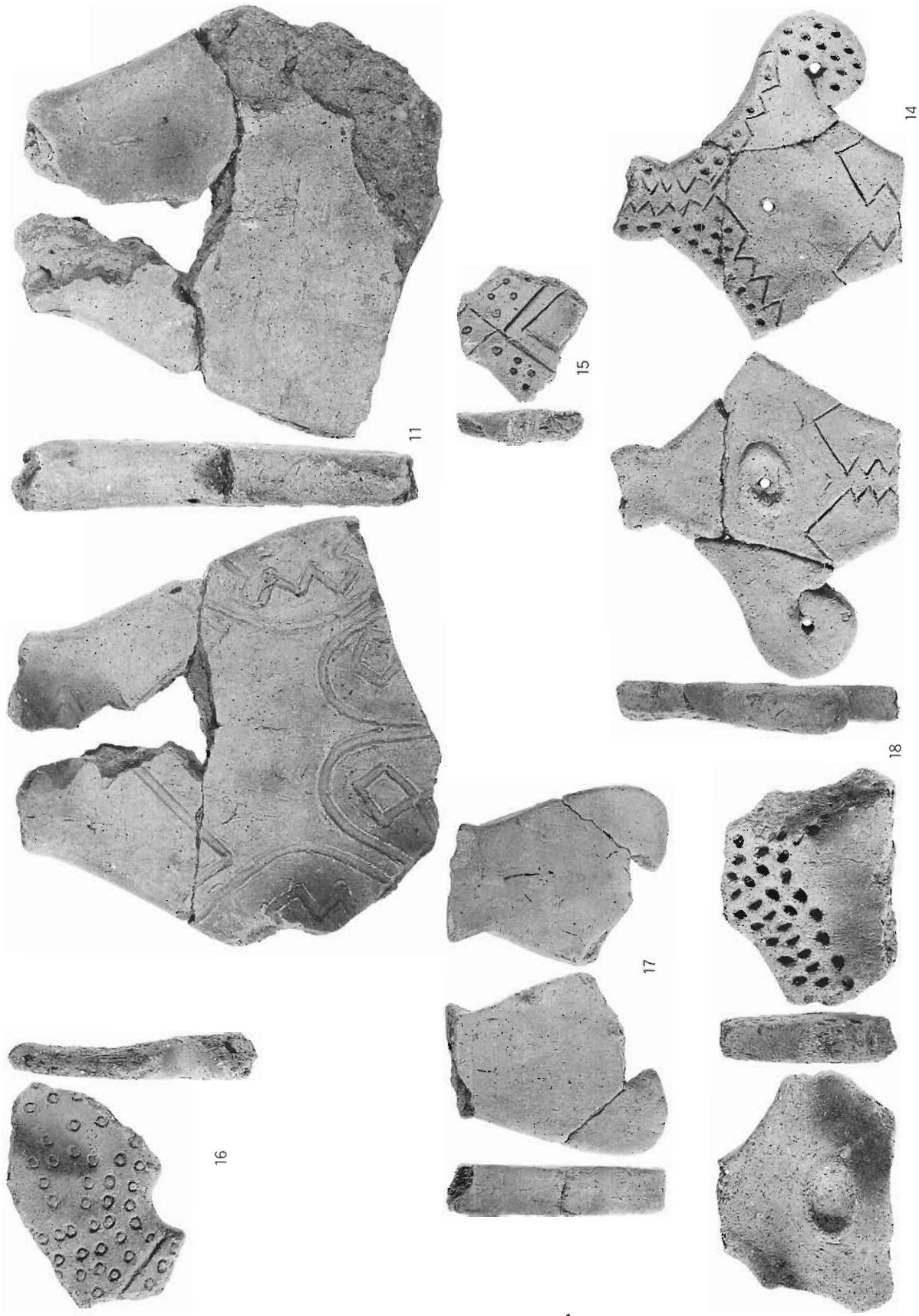
205

No.	出土地点・層位	器種	最大計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	石質	残存状況	備考	図の有無	本文記載
197	21C ②・Ⅲ層（Ⅲb）	敲石	10.70	4.30	3.30	153.74	石英安山岩（奥羽）	欠損	先端敲打痕		
198	21C ③④・Ⅲ層（Ⅲc）	敲石	9.00	6.60	5.70	411.82	玢岩（北上）		下端敲打痕		
199	26C ①・Ⅲ層	砥石	4.55	3.75	1.55	36.07	砂岩（北上）	破片		120図	
200	西端・表土	磨製石斧	10.85	4.50	2.20	162.67	粘板岩（北上）		正面左下大きい敲打痕は新しい	120図	
201	排土	磨製石斧	8.90	3.00	1.05	46.27	粘板岩（北上）	破片	割れ面磨っている？	120図	
202	21B 4b・表土（黒土）	磨製石斧	11.55	4.65	2.00	176.04	玢岩（北上）	両端欠損		120図	
203	22B ③・Ⅰ～Ⅲ層	磨製石斧	8.05	5.05	1.85	93.22	ホルンフェルス（北上）				
204	22B ③・Ⅰ～Ⅲ層	磨製石斧	9.10	4.60	2.75	195.85	粘板岩（北上）		再加工品？・ス ス付着？		
205	座際25B ③～25C ①・Ⅰ層	磨製石斧	10.55	5.15	3.25	261.62	玢岩（北上）	下端欠損	全面敲打痕		

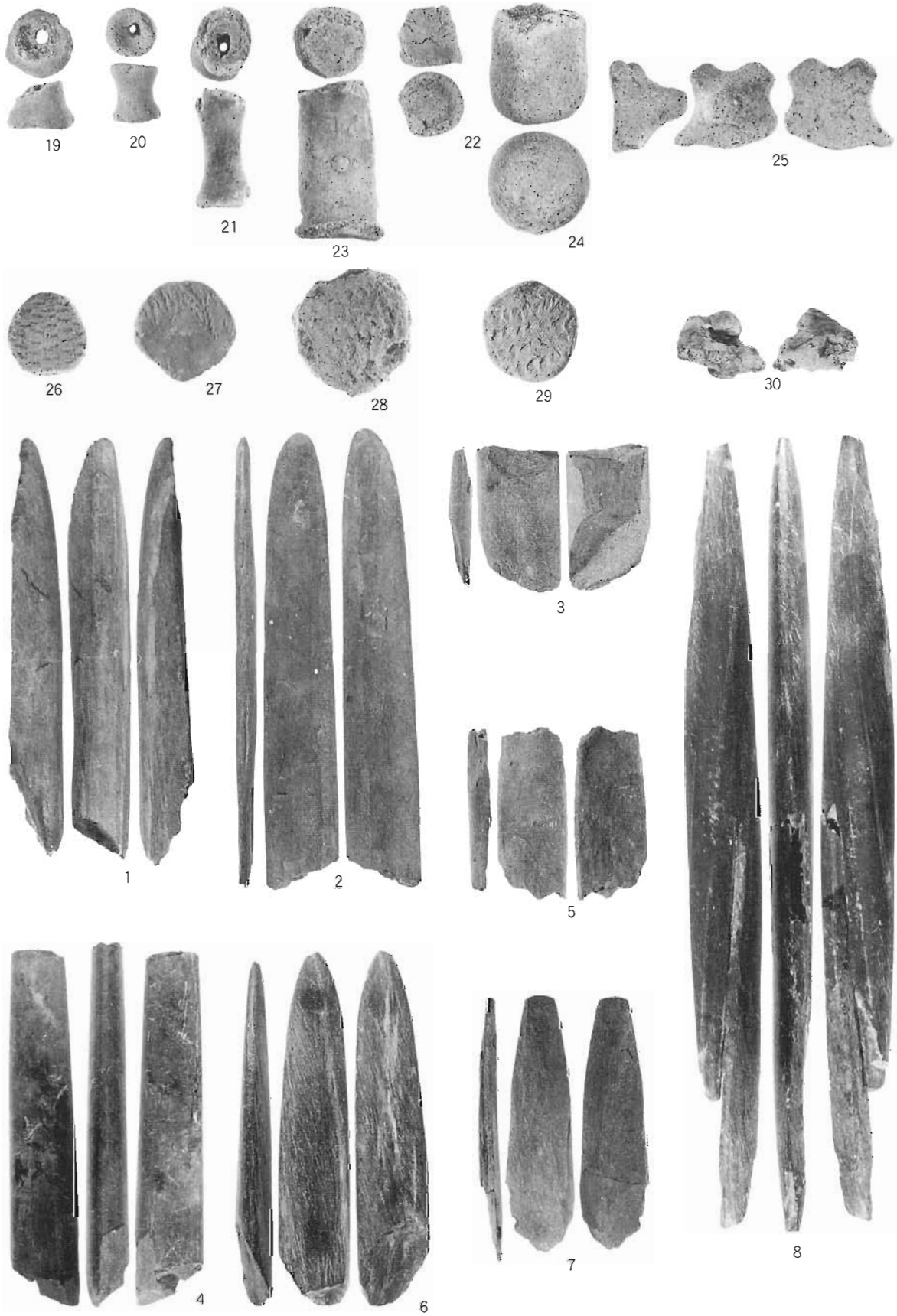
写真図版98　石器(17)（S＝$\frac{1}{3}$）



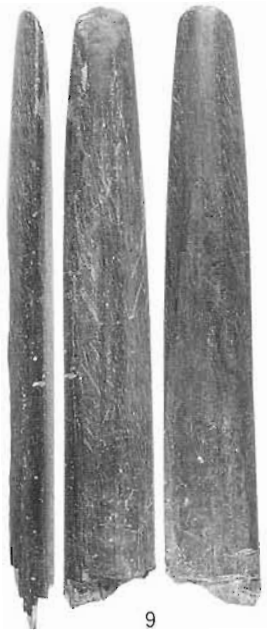
写真図版99　土製品(1)(S＝$\frac{1}{2}$)

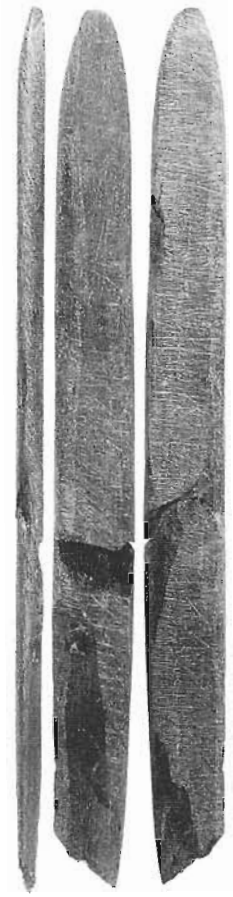


写真図版100　土製品（2）（S＝$\frac{1}{2}$）



写真図版101　土製品(3)・石製品(1)(S＝$\frac{1}{2}$)

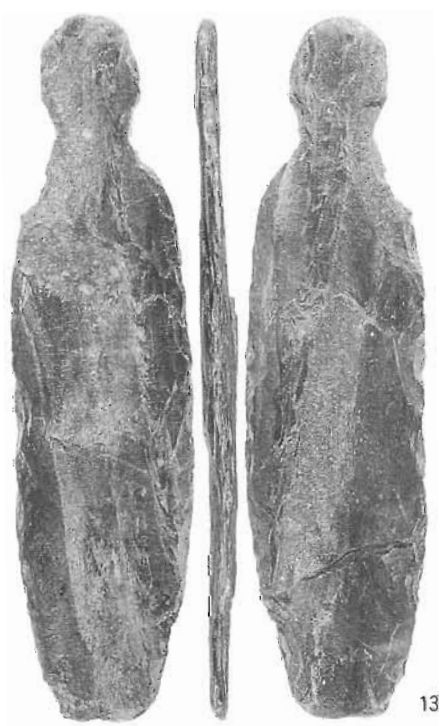

9


10

11

12

14


13

15

16

写真図版102　石製品（２）（S＝$\frac{1}{2}$）

報 告 書 抄 録

ふ り が な	しんでんいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書 名	新田遺跡発掘調査報告書
副 書 名	伊手川河川改良事業関連遺跡発掘調査
巻 次	
シ リ ー ズ 名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書
シ リ ー ズ 番 号	第405集
編 著 者 名	金子昭彦
編 集 機 関	（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
所 在 地	〒020－0853　岩手県盛岡市下飯岡11－185　　TEL　019－638－9001
発 行 年 月 日	西暦2002年11月28日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
新田遺跡	岩手県江刺市 伊手字御堂 33番地４ほか	03212	NE09－1252	39° 10′ 25″	141° 17′ 07″	20010419～ 20010903	1,660	河川改良事業に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
新田遺跡	集落跡	縄文前期後葉 （大木５a～６式期主）	住居状遺構１基 土坑・墓壙46基 （貯蔵穴様の土坑が主体だが、第21号土坑は土器の出土状態から墓壙の可能性が高い・占地が限られ重複著しい） 遺物包含層２ヶ所	縄文土器（前初△・前前△・前中○・前後◎・中前△）大コンテナ92箱 土偶16点 耳栓５点 イチジク形土製品？ 石剣類12点 石器160点のみ	列孔浅鉢？ 円筒下層ｄ２式系？ 十三菩提式系？ 土器
		平安時代		土師器坏２片	
		近世以降？	溝跡１条ほか		

㈶岩手県文化振興事業団埋蔵文化センター職員名簿

所長　木村　昇　　副所長　高橋正儀

〔管理課〕

課長　韮沢正吾　　嘱託　高橋照雄
課長補佐　山崎善光　　〃　加藤美代子
〃　山岸直美　　〃　湯沢邦子
主査　中嶋賢一　　〃　伊藤滋子

〔調査第一課〕　　〔調査第二課〕

課長　佐々木勝　　課長　高橋與右衛門
課長補佐　佐々木清文　　課長補佐　中川重紀
〃　高橋義介
文化財専門員　小山内透　　文化財専門員　金子佐知子
文化財調査員　吉田充　　文化財調査員　赤石登
〃　亀大二郎　　〃　阿部眞澄
〃　佐々木信一　　〃　飯坂一重
〃　早坂淳　　〃　鈴木裕明
〃　小松則也　　〃　久慈泰彦
〃　金野進　　〃　安藤由紀夫
〃　野中真盛　　〃　星雅之
〃　金子昭彦　　〃　佐藤淳一
〃　阿部孝明　　〃　半澤武彦
〃　阿部勝則　　〃　皆川英香
〃　羽柴直人　　〃　溜浩二郎
〃　高木晃　　〃　丸山直美
〃　長村克稔　　〃　(濱田宏)
〃　星幸文
〃　杉沢昭太郎
〃　村上拓
〃　本多準一郎
〃　青山紀和
〃　西澤正晴
〃　村木敬
〃　福島正和
〃　北村忠昭
〃　八木勝枝
〃　米田寛
〃　丸山浩治
〃　北田勲
〃　島原弘征
〃　中村絵美
期限付調査員　坂部恵造　　期限付調査員　齋藤麻紀子
〃　小林弘卓　　〃　原美津子
〃　江藤敦　　〃　吉田里和
〃　川又晋　　〃　菊池賢
〃　吉田真由美　　〃　駒木野智寛
〃　木村ひかり　　〃　立花裕
〃　玉山健一　　〃　石崎高臣
〃　太田代一彦
〃　藤原大輔
〃　畏地剛
〃　立花公志

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第405集

新田遺跡発掘調査報告書

伊手川河川改良事業関連遺跡発掘調査

印刷　平成14年11月21日
発行　平成14年11月28日

発行　財団法人　岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020－0853　盛岡市下飯岡11－185
電話　(019) 638－9001・9002
FAX　(019) 638－8563
印刷　永代印刷株式会社
〒020－0811　盛岡市川目町23－10　盛岡中央工業団地
電話　(019) 623－0111
FAX　(019) 625－5454

© (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2002